大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月二日(月)　第三一九七號

同盟通信 海外電報 (226)

編輯發行人　鈴野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人　同盟通信社

世界の焦点

英國首相チヤーチルの演説で特に目星しい點は第一に戰局樂觀論の修正である、君子能く豹變すといふが、政黨人チヤーチルは四圍の情勢に應じて適當に心境に變化を來たすのが例だ、流星彈でロンドン市民が悲鳴を上げてゐるのを見て、去る八月二日の演説では今にも歐洲戰爭が片付くかの印象を與へるに力め、今度は平氣な顏で年内に歐洲戰爭が片付くといふやうな考へにはわれは不與焉とすましてゐる、第二が米國の政界、言論界に對する應酬だ、東南アジア軍の作戰については米國内に非難少からず、副司令スチルウエルの如き公然最高司令マウントバツテンの遣り口に不滿を表明してゐる、どうもチヤーチルが今度の報告演説で太平洋戰線の司令官には何等變更なしと特に力瘤を入れてケベツク會談當時U・Pや「ヘラルド・トリビユーン」紙それに「デイリー・メール」の外交記者ウイルソン、ブロードベント等の流布した統合最高司令官任命説を否定してゐる所からみると、ルーズヴエルトがケベツク會談で無爲無能な御曹子提督の罷免を要求したのではなからうか、マウントバツテンが倉皇として再びロンドンに乘込んだ事實に徴しても、以上の推定は萬間違ひないと思はれる、印度戰線における英帝國第十四軍の損害をチヤーチルにしては珍しく或る程度まで數字を出したのも、要するに大西洋の彼岸を狙つた發言だ、第三にソヴエト政府の東南歐洲における覇權を米英兩國が事實上確認したといふことだ、一九三九年九月三日老首相チエンバレンが悲壯沈痛な語調でドイツ政府に對する宣戰を布告したのは、少くとも表面ポーランド領土保全のためではなかつたか、九泉の下に老首相を起こして感想をきき度いと思ふのは獨り焦點子だけではあるまい

【目次】

ドイツ軍新兵器の脅威……二二四二
亡命政權完全に屈伏……〃
スイス政府軍需品の輸出禁止……〃
米英重慶會談開く……〃
米大統領アルゼンチンを誹謗……二二四三
チリーの關與を要請……〃
樞軸亡命者の入國を認めず……〃
ハルを漫畫化……〃
東亞反攻作戰を協議……〃
【友樞軸陣營】
イタリア處理共同聲明……二二四四
勃とは休戰協定締結せず……〃
中立國を更に不當壓迫……〃
反樞軸海運議會……〃
ウイルソン、希軍を指揮……〃
【米國】
對日戰の困難を說く……二二四五
國民の樂觀論に警告……〃
對日戰用特別舟艇……〃
商船隊の增大を誇る……二二四五―四六
眞珠灣事件で泥試合……二二四六
【濠洲】
兵員配置を協議……〃
【ドイツ】
チヤーチル演説の批判……二二四七
根こそぎ動員着々實施……〃
【南伊】
ローマ政權笑止な言明……〃
【北歐】
ポルカラ地區を接收……〃
【軍事情報】
米國の科學新兵器……二二四七
水陸兩用車「煙鴨」……〃
【特輯】
フインランドの悲劇……二二四八―二二五一
眞珠灣敗戰の眞相と米國輿論……二二五一
米國商業會社の業績……二二五二

昭和十九年 十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ドイツ軍新兵器の脅威

V第五號近く出現か

(ストツクホルム二十九日發)ロンドン來電によればドイツ軍は二十九日拂曉ロンドン並びにイングランド南部地區にまたまた流星彈を打ち込んだと傳へられるが、英國空軍省當局では戰鬪機隊が北海の上空で流星彈を積込んだドイツ機二臺を擊墜したと稱してゐる、今までドイツ軍のいはゆる報復兵器が第何號まで發動されてゐるかは分らないが、ドーヴア海峽に臨む發射基地を喪失した結果流星彈が「母機」から發射されてゐるといふのが一般の觀測で、米第三軍に從軍してゐるAPの前線特派員オースチン・ビールメアは次の通り報道してゐる

米第三軍の入手した情報によればドイツ軍は第三號として全長約六十呎、直徑五呎五吋、發射時の重量約十四トンの飛道具(プクシエクタイル)を用意してゐる、V第三號は液體空氣とアルコールの混合物で推進されて垂直に空中に發射され爾後無電操縱に移るが爆破半徑は三粁である、いはゆる米第三軍の入手した情報がどの程度まで信用出來るかは疑問だが同特派員は以上の情報に基きドイツ軍從來の報復兵器を次の通り列擧してゐる

一、V第一號 基地から發射される流星彈
一、V第二號 「母機」から發射される長距離ロケツト彈
一、V第三號 但しイングランドに對しても戰線にも發動されてゐない

更にロイター通信社の從軍記者エリツク・ダウントンは次の通り報道してゐる

ドイツ軍俘虜の語るところによれば、ドイツ國內軍司令ハインリヒ・ヒムラー氏はメツツ市の守備軍に對し、九月二十九日まで頑張つて呉れればV第五號が愈々發動し戰局は一變するだらうと語つたといはれる

亡命政權完全に屈伏

(ストツクホルム二十九日發)英國首相チヤーチルは昔下院における演說で舊ポーランド領域をソヴエト政府の勢力範圍と公言したが、ロンドンからのUP電報によれば亡命ポーランド政權部內においても屈伏派が結局大勢を支配し強硬派參謀次長ソスンコフスキーはいよいよ辭職し後任にはワルソー蜂起軍司令ボア將軍が就任するに決定したといはれる、恐らく以上の重大讓歩を決定した後亡命政權の首班がモスクワに赴き再びソヴエト政府との間にヘウム政權との合流案を協議する段取と解される、一方英國下院における討議で保守黨のサー・エドワード・グリツグは極力ソヴエト政府との和協を說き次の通り主張した

近い將來外相イーデンがモスクワに赴き、ソヴエト政府との間にポーランド問題について協議を遂げることが必要である、かくして初めて歐洲當面の最も重要な問題を解決出來るかも知れない、赤軍が一九三九年九月ポーランド領土に進駐したのに對して英國內ではかなり批判をきくが同じ立場に立てば英國政府も同樣の措置に出たのではないかと思ふ、現在ポーランド國境線について論議を重ねることが出來るのは偏にロシア人の犧牲と尨大な戰力と戰意とに基く、ソヴエト政府が世界の右部分について特別の勢力範圍を持つのは當然である

スイス政府軍需品の輸出禁止

(チユーリツヒ二十九日發)スイス政府は二十九日次の通り發表した

スイス政府は二十九日、武器彈藥、導火線、航空機部品、その他軍需器材の製造に使用される製品を含み、正當に軍需品と稱される物資の輸出を禁止するに決定した、右禁止令は十月一日實施、一九〇七年十月十八日の陸戰における中立國並びに中立人の權利義務に關するヘーグ條約に準據し一切の交戰國に適用される

米英重慶會談開く

(リスボン二十九日發)ワシントン來電=國際安全保障機構協議の米英ソ三國會談流產のあとを承けて米英重慶三國會談は二十九日午後三時から會場も同じダンバートン・オークスで開催された、開會に當り米國務長官ハル及び重慶財政部長孔祥熙が演說したが會議には出席せず、會議における三國首席代表は米國務次官ステチニアス、英外務次官カドガン、駐英重慶大使顧維鈞である、會談は大體十日で終了する豫定である

昭和十九年十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

米大統領、アルゼンチンを誹謗

(リスボン二十九日發)ワシントン來電＝米國大統領ルーズヴエルトは二十九日の新聞記者團との會見で米亞兩國關係に言及、稀にみる激しい言葉をもつてアルゼンチン政府の態度を攻撃次の通り述べた

アルゼンチンは米洲防衛體制を危殆に瀕せしめ米洲國としての義務履行を拒否した、アルゼンチン國内には今や急速にナチス的勢力が擡頭してをり、猛烈な宣傳活動によつて米洲の團結を破壞せんとしてゐる、壓倒的に民主主義的なこの西半球においてかかるファシスト的手法が未だに用ひられてゐることは矛盾も甚しい、英國首相チヤーチルも指摘した如く戰後各國の地位は各國が今次大戰において演じた役割を考慮して決定されるだらうことを、余は改めてアルゼンチンに對して警告する

チリーの關與を要請

(リスボン二十九日發)サンチヤゴ來電によればチリー駐劄アルゼンチン大使ギラルデスは二十九日チリー外相フエルナンデスを訪問、最近米國政府が實施した米國船のアルゼンチン諸港寄港禁止措置につき、米國政府の説明を要求するやう依頼したと傳へられる、これに對しチリー外相は大統領と協議の上その依頼を受諾するか否か決定する旨答へたといはれる

樞軸亡命者の入國を認めず

(リスボン二十九日發)ブエノスアイレス來電＝アルゼンチン外務省は二十九日次の通り發表したアルゼンチン政府は樞軸政治亡命者が國内に入り込み、乃至預金を行ひ或ひは物資を購入することを禁止する、最近英國その他各國で傳へられてゐるアルゼンチンが樞軸亡命者の入國を許可したとの報道は全く事實無根であり、ロンドン駐劄アルゼンチン大使カルカーノは既に去る二十六日英國政府に對しこの問題に對するアルゼンチン政府の態度を通告してゐる

なほ樞軸亡命者の入國問題につき、アルゼンチンに對して專ら壓迫を加へてゐたのは米國政府だが、アルゼンチン政府が米國政府を無視して英國政府とのみ交渉してゐる事實は注目される

ハルを漫畫化

(リスボン二十八日發)九月二十一日の「デイリー・テレグラフ」紙ブエノスアイレス特電は米亞兩國關係緊迫の一挿話として要旨次の報道を掲げてゐる

最近ブエノスアイレス市内の映畫館では米國務長官ハルを漫畫化した映畫がしきりに封切りされてゐるがこれは米亞關係の惡化を示す一つのよい例といへよう、これらの映畫ではハルは騷騒しい老紳士として登場し米國の漫畫映畫で有名なあのドナルド・ダックとぎやあぎやあ奇聲を發しながら議論する、漫畫の説明にいはく、「ハルとアンクル・サムとは全く異なつた人物だからこれを混同してはならない」この映畫は勿論フアレル政府の檢閲を通つて公開されたのだが、映畫製作の材料たる生フイルムは米國から輸入されたものであることを見逃してはならない

東亞反攻作戰を協議

(ストツクホルム二十九日發)ロンドン來電によれば東南アジア軍司令マウントバツテンは目下ロンドンに在り、英國首相チヤーチルその他と「戰略計畫並びに東亞における英軍の統帥についての特殊問題」について協議を重ねてゐると傳へられる、チヤーチルの下院における演説に徴してもケベツク會談においてルーズヴエルトその他米軍代表の間から東南アジア軍の作戰遂行について可成り不滿が出たことは明瞭だが、東亞反攻作戰についてマウントバツテンと副司令スチルウエルとの意見が對立してゐることは周知の事實だ、マウントバツテンが過般ロンドンにおける協議の結果を齎らしセーロン島司令部に歸つたばかりなのに、今回マウントバツテンが再びロンドンに呼び出されたところからみて東南アジア軍を繞る米英兩國の對立は相當深刻とみられる

昭和十九年十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

イタリア處理共同聲明

(リスボン二十八日發)ワシントン來電＝白亜館當局は二十六日次の通り發表した

ルーズヴエルト、チヤーチル兩名は十八、十九兩日に亘つてニユーヨーク州のハイド・パークにおいて歐洲の戰後政策に關する諸問題につき更に協議を重ねたが、その結果は目下作戰的、軍事的理由並びに他の反樞軸諸國がそれを研究中であるため公表できない、イタリア問題も協議されたがこれに關しルーズヴエルトとチヤーチルは次の通り共同聲明を發表した

われわれは共同の敵を打倒する戰ひにイタリア人が協力する機會を與へたい、米英兩國民は最近ローマにおける暴動事件に憤然としたが、イタリア人並びにその政府に一層の責任を與へればかかる暴動事件の再發は容易に阻止されると思はれる、イタリア行政機關には一層の支配權が漸次引渡されよう、但し以上は同政權が安寧秩序を維持し、正道を行き得るといふ條件附においてである、これがために反樞軸イタリア監理委員會は反樞軸委員會に改名され、イタリア駐劄英國高等辨務官には大使の資格が與へられた、なほローマ駐劄米國代表もすでに大使の資格を有してをり、イタリア政府はワシントン及びロンドンに直接代表を派遣するやう要請されてゐる

イタリアにおいて先づ第一に考慮すべき問題は饑餓と疾病と恐怖の救濟である、同時にイタリア經濟再建の第一歩をも踏み出さなければならない、そのため採用すべき諸措置は主として動力組織、鐵道、自動車輸送機關、道路並びに他の交通機關全部を動員するほか技師、技術家及び產業專門家をイタリアに派遣すべきである

勃とは休戰協定締結せず

(ブダペスト二十八日發)米英ソ三國がいまだブルガリアとの間に正式休戰協定を締結してゐないが右に關しブダペストの國際消息筋は次の見解をとつてゐる

米英ソ三國政府はブルガリア政府との間には當分正式な休戰協定を締結しないことに意見が一致した模樣だ、卽ちブルガリア領內にはすでに赤軍が進駐してをり、戰爭が終結するまでこの狀態のままでおかうといふのだが、これは結局ソ聯へのブルガリア提供を意味し、米英兩國の新たなる對ソ讓歩である

中立國を更に不當壓迫

(リスボン二十八日發)米國政府の中立諸國に對する不當壓迫は依然としてあとを絶たず次々に新しい無理難題をふつかけてゐるが、ワシントン來電によれば米國務長官ハルは二十八日ドイツの政治的亡命者問題につき次の通り發表したといはれる

國務省は中立諸國に對してドイツの政治的亡命者の入國を禁止するやう要求、この要求を容れない國に對しては戰爭終了後と雖も米國の好意を期待できないだらうとの警告を發する、中立國のうちスイス、スペイン、トルコ等は既に米國の要求を容れる旨の意志表示を行つてゐるがポルトガル、アルゼンチン諸國からはまだ回答に接してゐない、右に關しては米國政府は既に英ソ兩國政府の承認、支持を得てゐる

反樞軸海運評議會

(リスボン二十八日發)ワシントン來電＝米國務省は二十八日次の通り發表した

反樞軸諸國中の主要海運國は今回「反樞軸海運評議會」を設置し、反樞軸船舶運營の統合機關たらしめることに意見の一致を見た、新機關は歐洲戰終了後設置され日本擊破後も六ケ月間存續することとならう、新機關主要任務は次の二點である

一、東亞における戰爭を完遂するに必要な作戰その他の事業のための商船の運營

一、反樞軸占領地域に對する物資輸送

なほ評議會加入國は米、英、白、加、希、蘭、波、諾の八ケ國である

ウイルソン希軍を指揮

(リスボン二十八日發)ローマ來電＝地中海方面反樞軸軍司令部は二十八日メートランド・ウイルソンがギリシヤ軍並びに二つの主要遊擊軍の指揮をとつてゐる旨發表した、但しアルバニア及びアドリア海諸島に對する空軍並びに空挺作戰の經過については一切沈默を守つてゐる

昭和十九年十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米國】

對日戰の困難を說く

(リスボン二十八日發)ワシントン來電=海軍次官バードは二十八日次の如く演說した

歐洲戰が終了すれば反樞軸各國の多くの軍隊が動員解除となるべく、米國軍隊の一部も當然動員解除とならう、しかし太平洋戰爭は依然續行するしかもこの戰ひで主役を演じなければならぬのは米國軍である、重慶軍は今まで勇敢に戰つてきたとはいふものの、今や急速にその戰力を消耗しつつあり來るべき戰ひで重慶軍の援助をあまり期待するわけにはゆかぬ、太平洋戰爭における最大の難點は尨大な兵力を展開し得る地域のないことであり例へば米國は夥しい飛行機と飛行士とは持つが、これを戰鬪に參加させるための基地を持つてゐない、かくて太平洋戰は專ら海軍力による戰ひとなるべく、今次大戰における最も困難な戰ひは今後にあることを覺悟しなければならぬ

國民の樂觀論に警告

(リスボン二十八日發)南西太平洋戰線からのUP電報によれば米第六軍司令官中將ウオルター・クリューガーはUP特派員と特別會見を行ひ、國內に漸く瀰漫しかけた戰局樂觀論に警告を與へ、對日戰の困難さを指摘して銃後國民の行き過ぎに憤懣の意をもらしたといはれる、米第六軍はマッカーサー麾下の一翼として比島作戰その他將來の大規模攻勢作戰に重要な役割を演ずるものとみられてゐるが、クリューガーの言明要旨は次の通りである

現在日本は頽勢にあるが、しかし米國民が戰爭終結の時期についての希望的觀測や臆測をふり廻すことは止めてもらひたい、われわれが戰つてゐるのは「時」に對してであるが、戰爭終結までの日數を勘定するなどといふことは不可能だ、もつとも日本が敗戰を喫しつつあると思ふことは間違つたことではないかも知れないが、われわれが何處で如何にして日本を打破ることが出來るかを豫言することは全く困難だ、何故なれば豫測し難き要素が非常に多く存在するからである、日本を破ることは困難な事業であり從つてわれわれは一瞬たりとも氣を弛めるやうなことがあつてはならない、今こそわれわれは全力を揮つて日本を叩かねばならぬ時であると確信する、戰況は日本にとつて非常に不利で日本人以外の「利口な」國民だつたら降伏したに相違ない、しかるに日本人は恐らく戰爭について「われわれと違つた考へを持つてをり、最後にはわれわれを疲勞困憊に陷れることが出來ると思つてゐる樣子だ

若しわれわれが日本軍全部を一ケ所に集めることが出來ればわれわれは同等の兵力を集中して攻擊を加へることが出來よう、しかしわれわれはかかる性質の戰爭をやつてゐるのではなくて廣大な戰線にひろがつて多數の堅固な防塁に據る日本軍に對して、兵力を多數の小數部隊に分散して攻めなければならないのだ

對日戰用特別舟艇

(リスボン二十七日發)ワシントン來電=海軍長官フオレスタルは二十七日新聞記者團との會見で次の通り言明した

海軍は對日戰用のため特別「攻擊輸送艦」「攻擊貨物船」の大規模建造を進めてゐる、この特別舟艇は直ちに戰鬪を開始し得る兵團をその裝備とともに直接米本土から太平洋前線の攻擊地點に輸送し得るやうな特別な構造を持つが、これこそ對日戰における反樞軸軍の最大の弱點たる兵力の集結、展開をなし得る適當な地點を缺くといふ惱みを解消するために建造されることとなつたものである

かかる特別舟艇なくしては米國は今後の太平洋作戰が殆んど實行出來ないといふやうな事態に直面すべく、從つてこれ等舟艇の建造には今後最大の優先權が與へられることとならう、現在の計畫では二日間にこの種舟艇平均五隻宛を進水せしめたいと思つてゐる

商船隊の增大を誇る

(リスボン二十八日發)ワシントン來電=前アジア艦隊司令長官ヤーネルは、二十七日「海の記念日」祝賀會席上、商船の重要性を强調次の通り述べた

昭和十九年十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

米軍海上兵力は單に戰鬪用艦艇だけの問題でなく、貨物船、輸送船の動きもまた極めて重大である、米國は世界戰爭を戰ひ續けるため海軍艦艇を多數建造すると共に、海上兵力を全世界にわたり最高度に發揮するに必要な商船をも建造した、商船を建造し、その乘組員を養成することは海、空軍力の建設にも比すべき重要性がある

米軍は非常な距離を置いて敵と戰つてきた、否むしろ距離それ自體と戰つてきたといつていい、敵は最も有力な防禦力の一つたる距離を利用して戰つてゐる

米國商船隊は眞珠灣攻擊以來一千三百四十隻、總トン數千百八十五萬重量トンから三千四百隻以上總トン數三千五百萬トン以上の遠洋航路船を保有するに至つた、米國は今や機動部隊による侵攻作戰を行つてゐる、從つて資材の消耗は甚だしく尨大な資材が單に蓄積されるだけでは意味なく、これが全線に支障なく補給されて米軍の行動に蹉跌を來さないやうにしなければならぬ、現在六百萬の米國兵が海外に派遣されてゐるが、更にこれら將兵を絕えず活動せしめる各種車輛、燃料保給設備及びその他の補給物資を輸送せねばならず、特に歐洲においては多數の貨物自動車、橋梁建設機械、送油管、水陸兩用の攻擊用舟艇の輸送及び機關車車輛をも含む機械の組み立て等が行はれねばならない

一方歐洲、太平洋いづれにおいても、港灣設備飛行機、その他施設の設立乃至修復に必要な諸物資に對する需要は極めて大きかつた、加ふるに反樞軸諸國に對する援助を維持するため、武器貸與法に基く物資の輸送任務もあつた、一九四三年末現在において戰時海運局の管理下にある商船の二十九パーセントがこれに當つた、なほ海軍戰鬪用艦艇一千二百隻以上、その他艦艇多數及び數千隻の小型舟艇、攻擊用舟艇などが建造されたが海軍艦艇にも商船隊にもよく訓練された屈強な乘組員を何百萬となく配乘することが出來た

眞珠灣事件で泥試合

(リスボン二十八日發)ワシントン來電=眞珠灣事件は今や米國の純然たる政治問題と化し、大統領選擧戰に對する政爭の具に供せられて民主、共和兩黨の間にこの問題をめぐつて泥試合が展開されてゐるが、共和黨下院議員チヤーチは二十八日の議會に眞珠灣事件に絡る一文書を發表、各方面に多大の反響を與へた

卽ちチヤーチはさきにワシントン駐劄濠洲公使オーウエン・デイクソンの言明として「濠洲政府は日本軍が眞珠灣に攻擊を加へる直前に日本艦隊の行動を探知し、これを米國政府に通牒した」と發表、政府當局の責任を追及したが、狼狽したデイクソンは最近かかる言明を行つた覺えなしと聲明した、チヤーチが發表した文書はデイクソンの右否定聲明が眞赤な嘘であることを立證したもので、曾てデイクソンの言明を聽いた一米國人の宣誓口述書であり、その要旨次の通り

一九四三年の冬の一夜、余はデイクソンを主賓としワシントンで催されたある晩餐會に出席したが、デイクソンはその席で次の通り言明した「今次大戰の初期余は海運及び海軍諜報機關と關係ある部署についてゐたが、眞珠灣事件の起る數日前濠洲の諜報機關は日本艦隊が濠洲方面に向つて進航中だとの情報を余に報告した、然るに一日後に至つて右日本艦隊の目的地は濠洲ではなく、米國領の島嶼であるらしいとの新情報が齎らされた」この言明に對して晩餐會出席者の一名は「濠洲政府はこの情報を米國政府に提供したか」と質問したが、デイクソンは「余は知らないが、濠洲政府は當然かかる措置は講じたと思ふ」と答へた

【濠洲】

兵員配置を協議

(リスボン二十六日發)キヤンベラ來電=首相ジョン・カーチンは二十六日下院において左の通り言明した

今後八週間以內に開かれる祕密會において、人的資源並びに陸軍兵員の配置問題が討論される豫定である、しかし濠洲政廳は民兵を南半球における勤務のみに制限する法令を變更する意圖はない、兵員に關しては濠洲軍總司令官の自由裁量に從つて既に完全な配置が行はれてをり、今回新たに編成された濠洲軍はすべて北半球に派遣される

食糧事情に關しては

本年度の濠洲食肉生產豫定量は百萬トンで、軍の需要が增加してゐるため、民需用は戰前の七十二萬二千トンに對し五十五萬トンに減少してゐる

【ドイツ】

チヤーチル演説の批判

(ベルリン二十八日發)外務省當局は二十八日正午英國首相チヤーチルの演説について次の見解を表明した

一、チヤーチルは前回の演説で世界戰爭の見透しについて極端な樂觀意見を吐いたが、今回の演説では卵が孵へる前に雛を數へる過ちを避けた歐洲戰爭が簡單に片付かぬといふチヤーチルの言明は英國人を失望させたに違ひないが、同時にドイツ軍の反擊が有效適切なことを認めたに等しい

一、米英ソ三國の關係が從來みなかつた位緊密だとチヤーチルは述べてゐるが、米英兩國がモスクワに白紙委任狀を與へた結果にほかならない舊ポーランド領土については明かにソヴエト政府の勢力圈として認め、一九三九年四月の保障條約を事實上破棄したが、バルカン地方についてもチヤーチルはソヴエト聯邦の支配的地歩を認めてゐる

一、ダンバートン・オークス會議で何等の成果をあげ得ないことは豫め判つてゐたが、年末までにスターリン議長を加へて三國會談を開催出來ても、同じく複雜多岐な迷路を彷徨するばかりだらう

一、太平洋領域における英國の權益を强調したのは、ルーズヴエルトが最初の選擧演説で米國の太平洋支配を主張したのに應酬したつもりだらう

根こそぎ動員着々實施

(ベルリン二十八日發)總力動員統監ゲツベルス博士は二十八日更に次の布告を發表した

一、官吏養成のための訓練並びに授業は差當り停止する

一、最高財政裁判所の機構を簡素化する

一、銀行並びに保險業界は現在の人員のうち相當比率を軍並びに軍需工業に提供する

一、展覽會並びに見本市は戰爭期間中開催を許さず

一、旅館並びに料理店については勤勞階級層を相手とする旅館並びに料理店以外一切を閉鎖、人員を軍並びに軍需工業に提供する

一、バーデンバーデン、ツオポツト並びにウイーン附近の三ケ所に殘存する賭博場を閉鎖する

【南伊】

ローマ政權笑止な言明

(リスボン二十七日發)ローマ來電=傀儡政權外務次官ヴエノスタは二十七日次の通り言明した

ボノミ政權は現在自國が日本政府と戰爭狀態にあると考へてゐる、從つて歐洲における戰爭が終熄すれば直ちに反樞軸諸國とともに對日戰に參加する用意がある

【北歐】

ポルカラ地區を接收

(ストツクホルム二十八日發)ヘルシンキ來電=ソヴエト海軍將校並びに陸戰隊員は二十六日ヘルシンキに到着したが、一行は休戰協定に基き二十九日午前フインランド灣のポルカラ地區を正式に接收する豫定である、接收と同時に赤軍は艦隊の根據地に使用するものと見られる

【軍事情報】

米國の科學新兵器

(リスボン二十五日發)ワシントン來電=米國陸軍科學戰部隊は米軍の新科學兵器に關し次の通り發表した

△密林用火焰砲

從來の火焰放射器の有效距離は六十碼だが、新型はこれよりも遙か遠方まで油の焰を浴びせることが出來、糊狀の油が飛散して目標にへばり着く

△火焰放射戰車

「裝甲噴出炬戰車」と呼ばれ、他の戰車武器をもつてしては到底寄りつけないやうなもので、步兵部隊を殲滅し乃至はその士氣を沮喪せしめることを目的とする

水陸兩用車「煙鴨」

(リスボン二十四日發)ワシントン來電=米國陸軍省は十九日次の通り發表した

現在反樞軸軍の使用してゐる水陸兩用車「鴨」には煙幕發射器が裝備されてゐるが、これは現在各國で使用されてゐる煙幕發射器のうちでは最も大きく、十分間に一哩四方に煙幕を張りめぐらす、この水陸兩用車は「煙鴨」と呼ばれ、陸上から水上へ移るのに餘り時間を要しないのが特長である

昭和十九年十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

特報

フインランドの悲劇

ソ芬兩國間の休戰協定は十九日夜成立し、一九四一年以來三ケ年に亘るフインランドの樞軸陣營内における英雄的抗戰はここに終焉を告げた、休戰協定發表の當日、いかにフインランド國土が憂愁に閉され國民が悲歎にくれたかについては、各報道機關が一樣に傳へてゐる、ルーマニアの例に徴しても、ソ聯の提示する協定が苛酷なものに相違ないとは豫め國民も覺悟してゐたやうだが協定内容は想像を遙かに越えてゐた

ルーマニア、ブルガリア兩國が戰線を離脫した當時、愛國の士が蹶然起つて國民政府を樹立し政府と抗爭した事實が傳へられるが、フインランドの場合はかかる事態の發生はなかつた、しかし從來の經緯からドイツとの斷交に反對した者は相當あつたとみられ、「ダーゲンス・ニヘター」紙の報道によれば十九日フインランド國會が休戰協定案を可決した際、十五名の議員は反對投票を行ひまた和平案に反對の一議員は議事堂の廊下で拳を握り悲憤慷慨してゐたといはれる、一方國内の動搖を恐れた内相カルロ・ヒリレエは二十日夜ラジオを通じ國民に呼びかけ「今やなん等の批判、國内相剋も許されず、國民は感情を爆發させてはならない、國民各自は整然と秩序を維持し政府を全幅的に支持すべきである」と國民の自重を要請した

ポルカラ半島の重要性

今回の休戰協定内容は政治的、軍事的、經濟的いづれの面からみるも全くフインランドの手足をもぎとるに等しいといふことを英國はさておき世界各國が齊しく認め、流石の米國も輿論はフインランドに同情してゐるほどだと傳へられる、國民を最も失望させたのはポルカラ半島の事實上の讓渡であつた、蓋しポルカラの喪失はフインランド全土に對するソ聯の不斷の脅威を意味し且つ同半島がフインランドにおける最も豐饒な地方の一つを喪ふことを意味するからだ、二十日のフインランド各紙もこれをもつて最大の痛恨事となし、フインランド國民は今後最も困難な狀態の下に新生面を開拓して行かなければならぬと悲痛な叫びを擧げてゐる、各紙の論調を紹介すれば次の通り

ヘルシンキ・スモナツト紙＝カレリア地區はフインランドにとり確かに重要には相違ないが、フインランドの獨立維持といふ決定的重要性においてポルカラ地區に到底及ばない

スオーメン・ソシアルデモクラーテイ紙＝フインランドの地理的事情が齎らす犧牲がいかに大きいかを今日ほど痛感したことはなかつた

ウーシ・スオミ紙＝ポルカラ地方の讓渡に對し幾千の家族が血涙を絞つたことだらう、國民はこの際最大の勇氣を奮ひ起さねばならぬ

一方ドイツ外務當局はポルカラ問題に關し二十一日次の如き見解を表明した

ソ聯のポルカラ租借は事實上ヘルシンキの占領と同じだ、ポルカラに至る鐵道並びに諸道路はすべてヘルシンキを通つてをり、恐らく赤軍はいづれかの部隊を絶えずヘルシンキを通過する狀態に置くやう留意するものとみられる

ポルカラ地方からの疎開は二十九日までの期限附きで二十日から開始されたが、フインランドは目下深刻な食糧難に惱んでをり疎開に當つては家畜穀物等をも根こそぎ持つて行かなければならず、非常な困難に逢着してゐるといはれる

國土戰場と化さん

安易な平和を求めて戰線離脫を計つたフインランドは却つて自國を戰場と化し、昨日までの盟邦と干戈を交へるに至つた、ドイツ軍のフインランド撤收は戰略的にも地理的にも最初から無理が伴つた、スエーデン軍事消息通もこれをもつて技術的に不可能だと指摘したが、ドイツ軍は特に北部において却つて撤收を停止し、むしろ陣地强化の態勢を採つた、その結果フインランドの戰場化は必至となり、フインランド政府の憂慮は濃くなつたが、果せるかな數日を出でずして同方面に戰火は及んだ

當初ソ聯はフインランドに對し對獨參戰を強要したに拘らずフインランド軍の中には從來の關係からドイツ軍と戰ふことを好まず、寧ろドイツ軍の撤收に當りこれを援助しソ聯紙の猛烈な攻撃に遭つたほどだが、結局ソ聯の要求に屈し十九日のAP報道によればドイツ軍と赤軍とはフインランド北部で戰鬪を開始、フインランド軍二ケ旅團が赤軍に參加してゐると傳へられた、またドイツ軍のホグランド島上陸に際してもフインランド軍との間に衝突があつたと報ぜられてゐる

スエーデンとの關係

ソ芬休戰協定により最も動向が注目されるのはスエーデンである、反樞軸諸國の壓迫下に中立政策の維持を危ぶまれたこともあつたが、今回のソ芬協定に關しては比較的冷靜であつた、しかしスエーデンは今や直接赤軍の脅威下に曝されるに至り、かつドイツ軍のフインランド北部戰略陣地の强化と相俟ち戰禍に捲き込まれる可能性が增大したことには無關心であり得ない「ストツクホルムス・チドニンゲン」紙はソ聯の軍事的進出を重視し二十一日次のごとく論じてゐる

休戰協定は正式にはフインランドの降伏を規定せず、またソ聯による同國の軍事的占領を意味してゐないが、休戰協定の存續する限り、フインランドは被占領國の立場に置かれる、事實ソ聯の軍事力は支配的でソ聯は十分の兵力を使用することが出來、協定內容が曖昧な點に鑑みても殆んど如何なる要求をも主張出來る、今後ソ聯は更に多くの條件を提示するかも知れず、その軍事的勢力はフインランドから事實上行動の自由を剝奪するがごとき形式において存續しよう、ソヴエト政府がこの勢力を如何に發展させようと企圖してゐるかは揣摩臆測すべき筋合でないが、事實は自から明らかであり、フインランドはこれを正視しなければならない、フインランドは今や軍事的にも經濟的にもまた政治的にもソ聯勢力圈內の一部分となつたのだ

一方政府當局は曩にフインランドの疎開民をうけ容れる用意ある旨言明した以外、この問題には見解を發表してゐない、しかしスエーデンの新聞論調に徵すれば國民は同國がたとへ失ふところが多くとも生命の通つた國家として存續するやう米英兩國が斡旋し、スカンヂナヴイア半島とソ聯との緩衝國として殘ることを希望したのは明らかだがかかる希望は無慘にも裏切られた、二十二日のスエーデン各紙は一樣に「フインランドをソ聯の植民地化したことに對し、米英兩國は共同責任を負ふべきだ」と非難してゐる、「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙二十四日の報道によれば目下フインランド國內で正式に外交機關を設置してゐるのは僅かにスエーデン、スイス、ルーマニア及び亡命デンマーク政權の四ケ國といはれる

米英兩國の態度

ソ芬休戰協定に關し、英國政府は不自然な沈默を守つてゐる、英國政府はソ芬休戰交涉にも參加し監察委員團にも代表を送つてをり、今迂濶に失言でもすれば獅子の分け前に與り損ねることを懸念してゐるとも見られるが、ソ聯の大きな進出を內心不滿に思つてゐるためと考へる方が正しいやうだ、英國政府のかかる態度を反映してか英國各紙いづれも控え目で、二十日の「タイムズ」紙が「困難な狀況下におけるフインランドの再興を望むと簡單に觸れ、同日の「デイリー・テレグラフ」紙が「休戰條件は寬容かつ穩健である」と述べてゐるに過ぎない、「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙ロンドン特派員は二十一日「英國はいひ度いことをいつてゐない」と指摘してゐるが、勞働黨の週刊誌「トリビユーン」が比較的率直に次の通り不滿を洩らしてゐる

賠償金問題は複雜だ、フインランドの輸出物資の大部分が賠償金の一部に當てられるだらうといふ際、フインランドが戰後果していくらかでも正常な貿易を營むことが出來るかどうかは大いに疑問だ、歐洲の半分が他の半分とは全然別個に締結された條約で結ばれ、兩半分が相互に孤立するならば、歐洲の經濟復興は一層困難とならう、すべての休戰條約は戰爭終了と同時に一まとめにして討議することを反樞軸諸國の間で申し合せたらよいと思考するが、右討議に際しては各國は平等の立場に立つことが必要だ

卽ちソ聯の獨往自主の行き方を心配した揚句の言葉だ

一方ロンドン子の見解として「アフトン・ブラデット」紙が二十三日傳へるところは極めて甘い、「休戰協定は驚くほど寛大だ、ソ聯當局はフインランドに對し報復の感情は全然持ち合せてゐないソ聯が領土的要求を行つたのは全くレニングラード、ムルマンスク鐵道の安全のためだ」とソ聯を辯護してゐる

米國はフインランドと國交斷絶の關係にあるためか、協定の內容に關し事前に通告を受けず休戰交涉にも與らず休戰監察委員團にも參加してゐない有樣で內心大いに不滿なことは想像に難くない政府當局は多くを語らず、國務長官ハルが十九日と二十一日の兩日記者團會見において種々質問が出た際「いづれ協定內容を十分檢討してからでないと」と逃げを打つてゐるのも、ソ聯の手前思ひ切つたことをいへないからであらう、一方新聞界は最初この問題にあまり觸れず「ニューヨーク・タイムズ」紙なども論評を避けてゐたが、二十三日に至り俄然次の如き論說を揭げた

ソ芬休戰協定の內容に徵すれば、ソ聯は戰後の世界機構に參加する意志が全くないやうだ、ソ聯としては小國を將棋の步のやうに取り扱ひ度いのだらう、かかる事情の下においてなほダンバートン・オークスで米英ソ三國會談が續行されてゐるとは考へにくいほどだ

引續き二、三の新聞が相當激烈な論調でソ聯攻擊を始めたことは興味がある、「ニューヨーク・ワールドテレグラム」紙も「ソ芬休戰協定は、和平など締結すべきものでないといふ適例だ、これでは大西洋憲章もモスクワの協定も乃至反樞軸國が公正且つ民主主義的平和のために行つた公約も一體どうなるのだ、フインランドをソ聯の傀儡とするなら結構な出發だが、自由且つ平和な歐洲を建設するには失敗だ」と述べてゐる

英國紙がソ聯の鼻息を窺つて休戰協定を穩健と評してゐるのに米國紙がズバズバソ聯をこき下ろしてゐるのはそのまま兩國のフインランドに對する行き方を示すともみられ、英國がどうにか甘い汁を吸はうとするに反し米國はむしろ半分あきらめたやうな態度を示してゐる

フインランドの將來

今やフインランドがソ聯の屬國的地位に墮し去つたことは樞軸、反樞軸陣營を通じ全く意見一致してゐるが、ソ聯とフインランドとの關係は休戰協定成立をもつて一應落着をみたと解するのは大きな誤りで、兩國關係、殊にフインランドの立場は今後益々困難となることは明らかだ、去る二十一日、最高行政裁判長ウルホ・ヨーナス・カストレルを首班として成立した新內閣をソ聯は「反動的」と看做しあまり歡迎してゐないが、殊にフオン・ボルンが十九日夜首相代理として休戰協定を發表した際の放送演說が大分ソ聯の御機嫌を損じた樣子だ、既にソ聯各紙はフインランドが休戰協定を無視してドイツ軍の撤收を援助したと盛んに攻擊してゐたが、二十四日の「プラウダ」紙はフオン・ボルンの演說をとり上げ次の通り攻擊してゐる

フオン・ボルンは休戰協定を放送した際全く事實を歪曲した、彼はソ聯が殆んどフインランドの復活に努力する意志がないと述べ、從つてフインランド國民は不吉な前兆に滿ちた現狀に直面する覺悟が必要だといつてゐるが、かかる言はまことに穩當を缺くといはねばならない、ソ聯においては、フインランド政府の休戰協定を無視するが如き如何なる企圖に對しても斷乎容赦はじない

以上の如くフインランドに對するソ聯の態度は極めて強硬で一部では新內閣も長續きはしまいとの觀測さへしてゐる、英國の共產黨紙「デイリー・ワーカ」が「新政府にはフインランド再建の能力はない」と評し、スエーデンの共產黨紙「ニ・タイク」も「眞に民主々義的政府だけがソ聯の信賴を得、國交を確立することが出來るのだ」と述べてゐるのもモスクワの空氣を反映してゐるといへよう

昭和十九年十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

休戰監察委員團のヘルシンキ乘り込みは二十日を皮切りにその後逐次行はれ二十五日到着した二十名を入れると現在すでに約百名に達する、大部分赤軍の軍人といふことだが中に極く少數の英國人も含まれてゐるといはれる、この監察團員がフインランド全土にばら撒かれて監督に當るといふのだからフインランドは事實上獨立國としての存在價値がないわけだ、急行列車から飛び下りた報ひは一九一七年獲得した獨立の喪失である

眞珠灣敗戰の眞相と米國輿論

米國政府は日本航空部隊の眞珠灣奇襲に關していはゆるロバーツ報告書を公にし、眞珠灣敗戰の責任が當時の太平洋艦隊司令官キンメル並びにハワイ陸軍司令官ショートにある旨を明らかにし、兩者を軍法會議に移したのであるが、その後兩者の取調べは何らの進捗をみず、これにより一般米國民の間には眞珠灣敗戰の「眞相」に關する種々の臆測乃至流說が行はれ、軍法會議の延期はルーズヴエルトの四選問題に關係あるとの說まで流布されるに至つてゐるが、ニユーデイール派下院議員ワーレン・マグヌソンが最近「眞珠灣敗戰の責任は米國政府當局の怠慢と無準備にあり、キンメル及びショートは罪なし」と公言したことは、米國の輿論を動搖せしめた、右に關し九月四日發行の週刊誌「タイム」は次のやうに述べてゐる

事件の眞相は箱の中

眞珠灣事件勃發このかた多數の米國人は何故に眞珠灣に碇泊してゐた米國艦隊があの十二月七日に日本航空部隊の爆撃に曝されねばならなかつたかを疑問としてゐる、先週ニユーデイール派下院議員ワーレン・マグヌソンはこの問題に對する回答は怪奇小說の內容以上に奇々怪々で結局米國國務省は日本に完全に愚弄されたといふことに間違はないと述べた、開戰前日本の來栖大使は國務長官ハルに對して米國海軍の活潑な行動を指摘し、かかる行動が繼續されれば、日本側の平和維持に關する努力は水泡に歸する旨を國務省に警告した

マグヌソン議員の言明によれば、國務省はこの警告を鵜呑みにして眞珠灣に米國艦隊を碇泊せしめ飛行機による偵察もこれを制限し、日本に對して「米國に日本攻撃の計畫なき」實證を與へたといふのである、マグヌソンは以上の噂はワシントン並びに太平洋沿岸諸州の人々の口に常に上つてをり、政府はこれに對して適當の言明を行ふべきであると述べた、これに對し國務省は否定の聲明を發したのであつた、しかしマグヌソンの言明は眞珠灣問題に關する米國民の深刻な疑惑を物語る單一の實例に過ぎず、一般では事件の眞相は政府の祕密書類の箱奥深く藏されてゐると思つてゐる樣子だ

軍法會議を卽時要求

米國民一般の本事件に對する疑惑は上院議員ハリー・トルーマンが最近週刊誌「コリアース」に揭載した一文に對しキンメルが反駁文を出した事によつて一段と深刻化したのである、卽ちトルーマンが同論文において「眞珠灣敗戰の原因は陸海軍司令官の不協力にある」旨を指摘したのに對しキンメルは「ロバーツ報告は基本的眞相に觸れてゐない」と述べ、更に「陸軍司令官ウオルター・ショートと余が協力を缺いたとの批判は事實無根である」と語り、最後に意味深長に「事件の眞相が公表されれば、米國民の驚愕はけだし想像以上であらう」と結んでゐる

一方「アーミー・アンド・ネイヴイー・ジヤーナル」誌も本問題をとり上げて、キンメル並びにショートの軍法會議の卽時開催を要求し、「眞珠灣事件はルーズヴエルトの四選問題に重大影響を及ぼすものだ、何故なら、ルーズヴエルトは大統領としてまた陸海軍最高指揮官として四選を狙つてゐるからだ、キンメル並びにショートの軍法會議が延期に延期を重ねたため、一般國民は眞珠灣事件は政府の怠慢によつて惹起したものであり、キンメル、ショート兩司令官は政府の犧牲になつたとの確信を持つに至つてゐる」と論じてゐる

昭和十九年十月二日(月)
第三一九七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

資料

米國商業會社の業績

「ウオールストリート・ジヤーナル」紙
六月二十二日號

米國商業會社は全世界に活動し日獨兩國に對し假借なき經濟戰爭を行つてゐる、一九四二年初頭復興金融會社の子會社として設立されて以來、米國商業會社は次第に米國の對外貿易上の重要機關となり、現在では米國政府の海外における買付けの大部分を一手に引受けてゐる、この世界的な輸入會社の社長はコーウエレーで、彼は約一年前米國のあらゆる經濟戰爭機構が外國經濟院の監督下に統合された際米國商業會社の社長に就任した、この會社の主要な任務は現在では廢止された經濟戰爭局の指導下に妨害的買付けを行ふにあつた、從つて米國の需要を充たすためばかりでなく、敵の手に物資の渡るのを防止するために多種多樣の原料及び製品を中立國から買つたのである

當局では樞軸國の軍需生産における隘路のうち多くのものは米國商業會社の妨害的買付けに起因する旨をほのめかしてゐる、過去における同社の他の一つの仕事は南洋諸島の住民に對する「奬勵物資」の供給であつた、これらの島嶼の住民は元來餘り勞働を好まぬので、彼等を說得して米軍の海空基地建設を援助させるのは容易の業ではなかつた、米國陸海軍はただ紙幣しか持つてゐなかつたが、住民の大多數に取つては紙の金などはほとんど何の意味もなかつた、米國商業會社はこれに對し派手な柄の布、簡單な家庭用品、ピカピカする安手の裝身具などを山と送つた、これらは住民によく價値の判る貨幣として役立ち、その結果住民はやつと働くやうになつた

ルーズヴエルトは一九四三年下半期に海外で經濟活動に從事してゐる政府機關を外國經濟院の下に統合し、米國商業會社もこの餘波を蒙つたが會社としての實體は失はなかつた、外國經濟院に統合されたその他の機關には經濟戰爭局、武器貸與局並びに金屬保存會社、國防資材會社、商品信用會社等の海外買付け部門等がある、以上の統合の結果新外國經濟院は買付けの仕事を澤山抱へ込んだにも拘らず、實際に買付けの仕事をなし得る機關はただ一つ米國商業會社しか有しないといふ狀態であつた、次いで本年一月一日米國商業會社は改組され、海外における買付けの仕事は全部同社の權限に屬することになつた、同社の繼承した仕事のうちには、ボリヴイア及びベルギー領ゴンゴにおける錫の增產、外國における銅の增產奬勵による米國內の供給不足の補塡、永く停止されてゐた中南米のキニーネ工業の復興、繩及び荒莚用の纖維の增產、モスキート爆擊機及び救命筏製作のため緊急に必要な熱帶樹就中バルサム木からの木材の生產、現在使用されてゐるよりも良質の石英水晶及び雲母塊發見のための研究援助等がある、軍需物資の輸入額は戰時には秘密に付されてゐるから米國商業會社の業績を正確に述べるのは難しい、しかし一九四三年の米國輸入總額約三十七億弗の中約十億弗は同社の統合された諸機關によつて輸入されてゐる、海外から軍需物資を輸入する必要が減少せぬ限り、海運事情の好轉に伴ひ本年は同社の事業の規模が更に擴大されるであらう、しかも今のところ重要物資の需要が減少する樣子は殆どみられないのである

地下工場で新兵器生産

V二號に關する推測は從來全く無根據のものばかりだつたが、「アフトン・ブラデツト」紙のパリ特電は次のやうな記事をのせてゐる

アラー(パ・ド・カレー地區首府)附近の農民は猛烈な爆擊の中で數ケ月に亘り五千人の勞働者を使ひ仕事をしてゐるワツトンの巨大な秘密工場について、あれは秘密兵器の工場だとドイツ人からきかされてゐた、この兵器の秘密はまだ明らかにされてゐないが、とにかくロンドンを完全に破壞し去るためのものだといふ、それにこの兵器は反樞軸空軍の跳梁を妨げることも出來るといはれる

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月三日(火)　第三一九八號

同盟通信

海外電報

(227)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

太平洋の敵は比島に對する侵攻意圖をいよいよ露骨に示し、ペリリユー、アンガウル、モロタイの各島嶼に上陸した、一方比島方面各地の日本航空基地を狙ひ、連日甚大な損害を無視して爆撃を繰込してゐる、だが比島は太平洋上に孤立する小島ではない、地上には脾肉の嘆をかこつ日本將兵の大軍が手に唾して敵の上陸を待ちうけ、附近に無數にある航空基地には隱忍待機せる荒鷲陣が敵の舟艇群を水邊に葬り去るべき時機を今や遲しと待ち構へてゐるのだ、洵に比島侵攻作戰こそは敵にとつて歐洲侵攻作戰に劣らぬ大冒險でありわれわれにとつては敵戰力を一擧に覆滅し去る絶好の機會といふべきだらう、歐洲における敵の成功は、侵攻開始前二年間の戰略爆撃の賜であり、殊に最後半ケ年は米英兩軍の戰略爆撃機隊が晝夜の別なくドイツの工業地帶や産油地、精油施設、合成油工場等に絨毯爆撃を加へたのだ、しかるに日本の現在はどうか、敵の新聞雜誌が悉く危惧を抱いてゐるごとく日本の軍需工業は殆んど敵の直接攻撃を蒙らず、航空部隊の消耗率は極めて低い、決戰に際して日本がいかなる戰力を發揮するかは正に世界の謎とされてゐる、今や彼らが連日爆撃を試みるとはいへ、その規模は甚だ小、戰略爆撃に非ず、戰術爆撃に非ず、海上の艦船に對する攻撃のごときは一時的效果を期待しうるにすぎまい、二年前戰塵から姿を晦まして比島を逃れさつたマツカーサーとしては比島奪還こそ白晝にも見果てぬ夢であつたらう、彼はいま漸くにして比島を直接窺ふべき地點に達した、彼の得意や思ふべきだ、双眼鏡を手に南十字星を仰ぐ彼に曹操の感慨ありや、警むらくは後人をして再び赤壁の賦を作らしめないことだ

世界の焦点

【目　次】

ナチ農業政策の勝利……二二五三
ニムウエーゲン地區で獨、猛反撃……〃
西部戰線における獨軍の戰果……〃
ドイツ海軍部隊の戰果……〃
勃、樞軸三國と斷交……〃

【米　國】
戰時生産局長官辭職……二二五四
ルーズヴエルトの獨處分案……〃
對日作戰は補給が最大問題……〃
軍需增産を誇示……〃
黑人政策を攻撃……二二五五
ルーズヴエルト優勢……〃
勞働龍業の近況……〃
九月三十日現在の海軍損害……〃

【重慶政權】
チヤーチル演說に憤慨……〃

【濠　洲】
空軍全員太平洋戰へ……〃

【英　國】
イーデン樂觀論を戒む……二二五六
下院議員重慶政權を非難……〃

【友邦軸陣營】
米、重慶交涉の內容……二二五七
フイリツプス印度特使辭任せず……〃
三國會談尻ぬぐひ聲明……〃
ド・ゴール政權諸施設を接收……〃
頻りに協力派を逮捕……〃

【イベリア】
衛本國艦隊司令更迭……〃

【亡命政權】
ソスンコウスキー龍兒の描く波紋……二二五八

【北　歐】
芬解放委員會結成か……〃
ボルカラ明渡し完了……〃
英瑞兩國間の空路再開……〃
瑞典內閣一部改造……〃

【西　亞】
パレスチナを解放せよ……二二五九

【東南歐】
勃牙利政等をソ聯に引渡し……〃
米英新聞記者の退去も要求……〃
ソ聯、チトーを正式承認か……〃

【ソ　聯】
日本の決戰準備を指摘……〃
ス議長ヘウム政權代表と會見……〃

【特　輯】
食糧戰線に不安なし……二二六〇—二二六一

【資　料】
米國職業委託制度の成績……二二六一—二二六二

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ナチ農業政策の勝利

=バツケ農相のラジオ放送=

(ベルリン一日發)ドイツ農相ヘルベルト・バツケ氏は一日收穫感謝祭に當りラジオを通じドイツ農民に對し次の通り訴へた

× × ×

ドイツ農民は開戰の當初より根こそぎ全力を傾倒して重大な任務を果した、しかし今ドイツ農民の當面する任務はさらに大きく、さらに一段と熱狂的に勤勞しなければならない、今年度の收穫は平年作と豐作との中間にあり戰爭六年目に入つても食糧に不安はない、ドイツ農業界が以上の戰果をあげてゐるのは專らナチ農業施策に基き、搾取を基調とするボルシエヴイーキ農業政策と民主主義の微溫的な農業政策とに對比すれば思ひ半ばに過ぎるものがあらう、ナチ食糧政策はドイツ國内においてだけでなく占領地帶の復興に貢獻した、しかるに民主主義とボルシエヴィズムとは自國内においてすら農業政策を確立出來ぬではないか

印度並びにソヴエト聯邦における飢饉、米英兩國における食糧不足に徵しても以上は極めて明瞭だ、況んや反樞軸軍が占領地區において秩序整然たる農業を建設することなどは思ひも及ばない、反樞軸陣營の宣傳にも拘らずドイツ軍が歐洲各國を占領してもそこに飢餓混沌を誘致しなかつた、しかるに近東とエヂプトとアフリカ北部とイタリア南部とは反樞軸軍による占領の現實を端的に示してゐるではないか、フランス、ベルギー、フインランド、ルーマニア並びにブルガリア各國も遠からず同樣の運命を辿るであらう、何人が歐洲のために戰ひ何人が歐洲人とに對し敵對行動に出てゐるかはこの現實によつて證明されよう

以上各國の農業に對するドイツ國民の寄與を見れば各國民もまた現在の闘爭が如何なる意義を包藏するかに目を開きドイツ國民の戰ひは卽ち歐洲のための戰ひなることを確認するに違ひない

ニムウエーゲン地區で獨猛反撃

(リスボン二日發)ロイター前線報道によればニムウエーゲン西北方でドイツ軍は猛烈な反撃に出てゐるといはれるが、ドイツ軍は戰車及び歩兵部隊をもつてニムウエーゲン北方約七哩の距離にあるパネルデンシユ運河上のフユイセン橋梁を渡り南下中といはれ、アイゼンハウアー司令部でも一日ドイツ軍がアルンヘム地區で反撃に出てゐる旨發表したといはれる

西部戰線における獨軍の戰果

(ベルリン一日發)ドイツ軍の奮戰により西部戰線は漸く安定するに至つたが、ドイツ軍當局は九月中同戰線における戰果について一日次の通り發表した

反樞軸軍の俘虜一〇、六五〇人
戰車、裝甲偵察車輛破摧または鹵獲一三九二輛
但し反樞軸軍が滑空機で持込んだ六トン戰車を含まず
火砲破摧乃至鹵獲二六八門
自動車輛破摧三六〇輛
滑空機並びに滑空輸送機破摧一千機以上

ドイツ海軍部隊の戰果

(ベルリン一日發)ドイツ軍當局は九月中海軍部隊の戰果につき一日次の通り言明した

撃沈
運送船十七隻八萬四千トン、うち十五隻六萬九千トンは潜水艦、殘りは新兵器による戰果
驅逐艦一隻、フリゲート艦三隻、快速艇四隻、掃海艇一隻

撃破
運送船六隻、驅逐艦一隻

勃、樞軸三國と斷交

(ブダペスト三十日發)ソフイヤ來電=アンカラ無電の放送によればブルガリヤ政府は三十日イタリヤフアシスト共和國、スロヴアキヤ及びクロアチア三國と國交を斷絶したといはれる

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米　國】

戰時生産局長官辭職

(リスボン三十日發)ワシントン來電＝白堊館當局は三十日次の通り發表した

戰時生産局長官ドナルド・ネルソンは大統領ルーズヴエルトに對し辭表を提出、大統領は三十日辭表を受理した、大統領はネルソンの後任に現生産局次長ジユリアス・クルーグを任命した白堊館は右發表と同時にルーズヴエルトとネルソンとの間に交換された書翰をも發表した

△ネルソン書翰

余は米國の戰時生産がその成果を發揮し反樞軸軍の歐洲侵攻作戰が成功した直後から辭意を抱いてゐたが產業再轉換問題のために現在まで留任した、しかるに既に戰時生産の方針、計畫或ひはその實行方法も確立され、一方余の重慶訪問の使命も大體終つたのでここに辭職することとなつた

△ルーズヴエルト書翰

歐洲戰爭は未だ終了せず、また米國は重大な戰後問題にも直面してをり、かかる際に貴下の如き人物が完全にワシントンを去ることは許されない、余は貴下が最も重要なる新地位に就任することを希望する

ネルソンに與へらるべき新地位がいかなるものであるかは不明だが、ワシントン政界消息筋の間ではネルソンは「無任所產業大使」ともいふべき地位につき國內的には主として產業再轉換問題の指導者となり、一方國外各地にも旅行して戰時及び戰後にわたる世界經濟の調整に當ることとならうとの觀測が行はれてゐる

ルーズヴエルトの獨處分案

(リスボン二十九日發)ワシントン來電＝ルーズヴエルトは二十九日の新聞記者談會見で外國經濟院長クローリーに送つた書翰を發表したが同書翰の要旨次の通り

外國經濟院は國務省指導下に經濟的見地から將來長期にわたりドイツが世界の脅威とならぬやうな方法を研究すべきで、ドイツが將來戰爭をなし得る能力を抑壓する方向に向けられなければならぬ、これがためには次の八分野にわたる研究が必要であらう

一、輸出統制、二、軍需及び重要原料資源問題三、獨占的購入問題、四、經濟戰爭、五、武器貸與問題、六、過剩資材問題、七、ドイツ戰爭能力の抑制、八、戰後再建及び將來の外國貿易

ルーズヴエルトは更に書翰の內容を敷衍して次の通り述べた

ドイツ處分問題はケベツク會談でも協議されたが、今回の書翰に盛られた內容は同會談で決定したものではない、書翰の內容は國務、陸軍、財務三省の承認を得てゐる

對日作戰は補給が最大問題

(リスボン三十日發)サンフランシスコ來電＝海軍長官フオレスタルは三十日、太平洋作戰の前途につき次の通り言明した

ハルゼー及びマツカーサー軍は過去二ケ月にわたり日本軍に攻擊を加へて來たが、特に最近ハルゼー艦隊によるフイリピン攻擊はこの方面における米國海軍の威力を遺憾なく示し、米國海軍は今や何時如何なる水域でも日本軍と戰闘を交へ得るに十分なる勢力を擁するに至つた、しかしながら現在までに米國軍が如何に大きな戰果をあげたとはいへ、これは決して米國が日本に對して早期の勝利を收めることを示唆するものでない、日本の主力艦隊は依然として健在であり、また陸軍も大きな兵力を有してゐる、しかも太平洋戰における最大の困難は補給にあり歐洲戰におけるより三倍の補給力を必要としよう、この補給の困難は米國軍が前進すればするほど大となるのであり、しかも困難の增大率は距離の增大と正比例せず補給線の延長の二乘の率をもつて增大してゆく關係におかれてゐる

軍需品增產を誇示

(リスボン三十日發)ワシントン來電＝戰時生產局長官代理J・E・クルーグは二十九日の新聞會見で今年こそ軍需品の驚異的增產の年なりとし、次の通り豫想を述べた

一九四四年度の軍需生產は豫定額八百七十三億弗の九十七乃至九十八パーセントにまで達するであらう、これは一九四二年及び一九四三年に比し遙かに優秀な記錄である

昭和十九年十月三日（火）
第三一九八號
同盟通信 海外電報（第三種郵便物認可）

黒人政策を攻撃

（リスボン二十七日發）ニューヨーク來電＝米國共和黨領袖ウエンデル・ウイルキーは二十七日發行の「コリアーズ」誌上において黒人に對する差別待遇を攻撃し、次の通り述べてゐる

米國内の少數民族に對し平等の待遇を與へることは公正且つ永續的平和の基礎をなすものだ、蓋し世界の現狀においては國内の出來事がすべて外交政策に影響し、また國外における米國の行動も直ちに國内に響いてくる

共和、民主兩政黨の綱領は對黒人政策を現實にとり上げてゐないが、對黒人政策が南北戰爭の直後以來、今日程に重要となつたことはない、一九四四年度の兩黨綱領は黒人に對する條項において悲劇的といつていい程に不十分だ、戰爭によつてわれわれは黒人に對する取扱ひ方と、われわれが戰つてゐる理想との間に存在する矛盾を教へられた、自由擁護のため黒人が白人の同胞と共に生命を投げ出す權利があるならば、同時に彼らは白人と共に生きて自由を享有する權利がある筈だ、黒人はかく感じ、また何人もこれを否定することは出來ない

ルーズヴエルト優勢

（リスボン二十八日發）ニューヨーク來電＝ギヤラツプ輿論調査所は最近民主、共和兩黨候補の人氣調べを行つたが、その結果によればルーズヴエルトが依然としてデユウイを凌いでゐる、即ちルーズヴエルトの勢力は二十八州において壓倒的で、選擧人投票二百八十四票を得たに對し、デユウイは十七州において二百八票を得たに過ぎなかつた、殘りの三州における兩者の勢力はほぼ伯仲の間にあつたが、なほ大統領に當選し得る選擧人の票數は二百六十六票である

勞働罷業の近況

（リスボン二十九日發）ワシントン來電＝勞働省は二十九日次の通り發表した

八月中米國で發生した勞働罷業は四百八十五件で前月より十五件增加し、罷業參加勞働者數は十九萬名、これによる喪失勞働日數は九十三萬五千日に達した

九月卅日現在の海軍損害

（リスボン三十日發）ワシントン來電＝米國海軍省は開戰以來の海軍、海兵隊並びに沿岸警備隊の損害が六萬五千四十一名に達した旨三十日發表した

内譯次の通り

合計	六五、〇四一名
戰死	二五、七二一名
戰傷	二五、一五四名
行方不明	九、六八六名
俘虜	四、四八〇名

【重慶政權】

チヤーチル演說に憤慨

（リスボン三十日發）英國首相チヤーチルは二十八日の下院演說で「米國の對蔣援助は非常に潤澤であるにも拘らず重慶軍は敗北を續けてゐる」と述べたが、これは重慶に大きな反響を與へた模樣で三十日の中央電訊社は重慶政界筋の觀測として、次の通り駁論を報道した

チヤーチルが如何なる意味で米國の對蔣援助が「非常に豐富」だと述べたか諒解に苦しむ、何故なら米國の對蔣援助物資の量は英國及びソヴエトに對する援助に比較すれば全くとるに足らないほどの少額であるからだ、重慶が米國の援助を多としてゐることは敢て斷るまでもないがその援助の量が「非常に豐富」とは考へられずまた米國民自身もこの援助額が豐富だとは思つてゐないだらう、重慶軍が最近湖南省及び廣西省で軍事的敗北を喫したことは事實だが、この敗戰は重慶の對日抗戰續行の戰意にはいささかの影響も與へないだらう

【濠洲】

空軍全員太平洋戰へ

（リスボン三十日發）メルボルン來電＝濠洲空相ジョン・ドレークフオードは三十日次の通り發表した

濠洲空軍飛行士は今後歐洲戰域に一名も派遣されず、全員西南太平洋戰域の作戰に參加することにならう

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【英　國】

イーデン樂觀論を戒む

ロンドン來電によれば英國下院は二十九日チヤーチルの演說に對する討論を開催したが、イーデンはチヤーチルの驥尾に附して歐洲戰局に對する樂觀的氣分の擡頭を戒めて次の通り述べたといはれる

西部、東部兩戰線の戰鬪がいつ終るか誰も豫言することは出來ない、余が奇怪至極と考へることは下院の一部が反樞軸軍の勝利はほとんど確實だといふ浮はついた樂觀論を公然と表明してゐることだ、それどころか主力戰で勝利を得たといふことすら出來ないし、かかる樂觀論に基いて政策を樹てるほど危險なことはない

對日戰に關する問題について觸イーデンはマウントバッテンがロンドンに歸還してゐる事實を初めて發表

東南アジア軍司令マウントバッテンはカンデイからロンドンに到着して目下東南アジア戰域における將來の作戰計畫を協議してゐる、チヤーチル首相はビルマにおける英十四軍について言及したが、マウントバッテンは英十四軍の「特別の問題」に檢討を加へてゐる、いづれにしてもマウントバッテンの歸國理由は歐洲戰終了後開始さるべき對日總反攻につき打ち合せを遂げるためで他に理由はないと述べたと傳へられる

下院議員重慶政權を非難

(ストツクホルム二十九日發)ロンドン來電＝下院議員切つての帝國主義者として知られるL・Dガマンズは、最近彼の選擧區の各紙に「刻下の問題」と題する一文を寄稿、現大戰に占める重慶政權の立場を猛烈に攻擊し次の通り述べてゐる、ガマンズは嘗てマライ政廳の民政官であり、東京の英國大使館員をも勤めた男である

× × ×

現在支那ではみるべき戰鬪は殆んど行はれてゐない、重慶軍は事實日本の大駐屯部隊を釘付けにしてゐない、恐らく日本軍は欲すれば何時でも重慶を占領することができるだらう、重慶政權の檢閲が嚴重なため重慶部內で何事が起つてゐるのか判斷に苦しむが、特に重要問題は重慶軍の武器不足と國共相剋との二つだ、抗戰六ケ年において重慶民衆が經驗した苦しみは當然なことだ、但しこの間重慶の大軍が日本軍を打倒し得た時期もあつた筈だが、今となつては覺束ない、しかし反樞軸軍の對日戰は目下順調に進捗してをり、支那沿岸を占領しなくても海、空軍力を使用して日本軍に致命的打擊を與へることが出來よう

厄介な國共の相剋

國共間の政治的確執は大なき障害をなしてゐるが中國共產黨を一般の經濟的乃至思想的意味における共產黨と考へることは愚かなことだ、むしろ彼等は蔣介石と意見を異にする一黨派であり、やがては蔣政權を乘つ取らうとしてゐる、彼等は非常に強力かつよく組織され、重慶軍の最良武器のいくつかは共產軍が提供したものだ、共產軍と蔣介石とが和合するにしても、最もひいき目に考へても危い不安定なもので、ただ重慶政權が日本軍の脅威下に陷つたため實現するに過ぎず、日本軍の脅威が取除かれた際なほ兩者が結合してゐるとしたらそれは奇蹟であらう

以上に基き戰後次の三問題が豫想される

一、國內は統一され、全般的に蔣政權を支持するが蔣政權は漸次眞の民主々義政體に轉じて行く

二、重慶政權は過去五十年乃至それ以前からの歷史を辿り一層群雄割據の狀態となる

三、重慶政權は全體主義國家となる

英國として望ましいのは第一の場合だが、かかる可能性は全くない、第二の場合は重慶政權を世界四大强國の一として信賴することは出來なくなる第三の場合については今日重慶政權內の一部ではたしかにかかる政體を望むものがあり、現に余もこれを主張するもの若干と會談したことがある、彼等はビルマ、マライ、印度支那、タイの諸國が曾て支那領であつたこと乃至支那移民を受け入れる大きさを持つてゐるとの理由からこれら諸國は當然支那に併合されるべきだと語つた、時の經過と共に以上三者のうち何れが實現するかが明らかとならう

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

米、重慶交渉の内容

(リスボン三十日發)ニューヨーク來電=二十九日發行の米國週刊經濟雜誌「ビジネス・ウイーク」は大統領特使ネルソン及びハーレーの重慶乘込みによる米重慶交渉の内容につき次の通り報じてゐる

最近太平洋地區で發生したいくつかの新事態が持つ重大性を見逃してはならない、米國政府は重慶政權に對して「政治的大掃除」を要求してゐる、重慶軍の防衛戰力がない爲に最近在支米空軍が日本に爆撃を加へ得る最後の基地をさへ放棄せざるを得なくなつた事態に鑑み、米國政府は蔣介石に對して國共間の鬪爭を停止し重慶の最も優秀な軍隊を日本軍に差向けるやう要求してゐるのだ、ネルソンは一日ワシントンに歸つてきたが、ハーレーは依然重慶にとどまつて米國政府の以上の要求が實行に移されるかどうかを監視してゐる、ネルソンは以上の要求に對して米國が重慶のインフレを抑制する見地から消費物資を供給することを蔣介石に約束した、しかし米國の對蔣援助は決して一時的な救濟事業のみに限られてゐない

最近のうちに重慶政權は米國の直接援助による重慶工業化の長期計畫を發表するだらう、この長期計畫の根本をなすものは今から二十年も前に孫逸仙によつて立案されたものだが、最も重要な部分は支那大陸の交通開發であつて延長十萬哩の鐵道、百萬哩の道路建設計畫もこのうちに含まれてゐる

フイリツプス印度特使辭任せず

(リスボン三十日發)ワシントン來電=米國大統領の印度特別使節フイリツプスは三十日大統領ルーズヴエルトと會談したが會談後「余は依然として大統領の印度特使の地位に留まるであらう」と發表した、フイリツプスは印度特使としてさきにルーズヴエルトに英國の印度政策を徹底的に攻撃した報告を送り、これに憤慨した英印當局はフイリツプスに「不同意人物」の焙印を押して米英兩國間の泥試合を招來したがフイリツプス今回の留任聲明は米英間の葛藤にさらに油を注ぐのではないかとみられる

三國會談尻ぬぐひ聲明

(リスボン二十九日發)ワシントン來電=ワシントンのダンバートン・オークスで開催されてゐた米英ソ三國會談は二十八日遂に流産に終つたが、三國代表は二十九日左の共同聲明を發表した

世界安全保障體制樹立に關する米英ソ三國代表者間の會談は終了した、この會談は國際機構の全般的基礎組織案就中平和及び安全維持に必要な機構につき多くの點で意見の一致を見た、三國代表はそれぞれの政府に對し會談の成果に關し報告すべく、三國政府はこの報告を檢討した後適當な時期に三國同時に右に關し聲明を發表することとならう

ド・ゴール政權諸施設を接收

(リスボン二十九日發)パリ來電=ド・ゴール政權は今回フランス北部の全炭坑ならびに產炭全部及びルノー自動車工場その他大工場を接收、ドイツ軍の占領下にあつた當時の利益金までも沒收した

頻りに協力派を逮捕

(チユーリツヒ二十八日發)ド・ゴール政權はドイツ軍に協力したフランス人多數を逮捕してゐるが、スイスの「クーリエ・ド・ジユネーヴ」紙のパリ特派員は次のやうに報じてゐるド・ゴール政權の軍法會議は二十七日フランス民軍兵一名に死刑、一名に懲役十五年、女子民兵に懲役八年の判決を下した、一方においては前フランス下院議員ヘンリー・クラーク、前フランス石油協會長、ルノー自動車會社長ルイ・ルノー氏等を逮捕し、フランス鐵道從業員組合書記長を罷免した、またド・ゴール政權は協力派の所有する工場、炭坑を接收するため委員會を組織したが、その手始めにルノー氏を逮捕するとともにその自動車工場を接收するに至つた

【イベリア】

葡本國艦隊司令更迭

(リスボン三十日發)ポルトガル政府は本國艦隊司令長官オリヴエラ・ペント大佐を更迭、後任に前海相アヌエル・ベテンクールを任命した旨三十日發表した

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【亡命政權】

ソスンコウスキー罷免の描く波紋

(ストツクホルム三十日發)ロンドン來電によれば、亡命ポーランド政權大統領ラチキエヴイツチは三十日朝ソスンコウスキーを官邸に招致、ポーランド軍總司令官の地位から解放する旨いひ渡したといはれる、同時にラチキエヴイツチは大統領令をもつてポーランド軍總司令官の後任にワルソー蜂起軍司令官「ボール」こと中將タデウス・コモロウスキーを任命する旨發表した

ラチキエヴイツチは終始一貫ソスンコウスキーの支持者としてミコライチク派の對ソ讓歩方針と戰つてきたが、今回ソスンコウスキーを罷免してミコライチク派の要求に屈したことは亡命政權の政策の最後的轉換を物語るものとしてみるべく、早くもラチキエヴイツチの辭職說すら傳へられるに至つてゐる、新ポーランド軍司令官コモロウスキーがワルソーを脫出してロンドンに到着するまではポーランド軍の最高指揮は一時大統領及び亡命政權陸相兼ポーランド軍參謀總長スタニスラウ・コパンスキー少將の合議によつて代行される筈だが、作戰方面は專らコパンスキーが擔當することとならう、ロイター外交記者のランダルニールは次の通り報じてゐる

ソ波兩國の解決未だし

反ソ派の巨頭ソスンコウスキーの退陣はミコライチク政權とクレムリンとの間に橫たはる障碍の一つを除去したことにはなるが、これをもつてソ波兩國間の紛爭が圓滿に解決するといふことにはならない、コモロウスキーもコパンスキーもポーランド人の間ではいはゆる政治色のない將軍と見做されてゐるが、コモロウスキーはポーランドに踏みとどまる反ソ派の亡命政權副首相ヤン・カピンスキーと緊密な連絡をとつてをり、ミコライチク一派の宥和主義者達との關係は必ずしも友好的とはいへない、他方モスクワからのロイター電報によれば、モスクワ外交界はルブリンのポーランド國民解放委員會代表モラウスキー一行が二十八日以來モスクワを訪問してゐる事實を目してミコライチク政權との交涉再開の前兆とみてゐるといはれるが、ミコライチクがモスクワに乘り込む徵候は今の所全然みられない

【歐北】

芬解放委員會結成か

(ベルリン三十日發)ドイツ外務當局は三十日の記者團會見で次の通り言明したフインランド放送によれば現在のウルホ・カストレド政府に對抗して「フインランド解放委員會」が創設されたといふことだが、同委員會の顏觸れもソ芬休戰協定に對する鬪爭の組織その他も一切判明しない

ボルカラ明渡し完了

(ストツクホルム二十九日發)「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙のヘルシンキ電報によればフインランド政府はソ芬休戰協定に基き、二十九日午前十一時ボルカラ地區をソヴエト政府に正式に明け渡したといはれる、同地區の境界線は判然としないが恐らくヘルシンキを去る十七粁の線とみられ、從つてヘルシンキはボルカラからの砲擊圈內に入るわけである、ボルカラ半島の喪失によりヘルシンキの食糧情勢は重大危機に陷ることとなるが「ストツクホルム・チドニンゲン」紙ヘルシンキ特派員は二十九日次の通り報道してゐる

從來野菜類の大部分がボルカラ地區で栽培されてゐた結果ヘルシンキに對する野菜の補給は相當減少するものとみられ、また魚類の補給は恐らく全然停止するに至らう

英瑞兩國間の空路再開

(リスボン二十九日發)「ストツクホルム・チドニンゲン」紙の報道によれば現在休航となつてゐる英瑞兩國間の空路は十月には再開される豫定で、再開に際してはスウエーデン航空會社は自國に不時着陸した米國の「空の要塞」を旅客機に改造して使用するだらうといはれる

瑞典內閣一部改造

(ストツクホルム三十日發)スウエーデン政府は三十日內閣の一部改造を發表した

交通相 元無任所相J・E・ドメー
商相 ペルテイフ・オーリン博士
無任所相 エルランダー
同 ダニエルソン

昭和十九年十月三日（火）
第三一九八號
同盟通信
海外電報
（第三種郵便物認可）

【西　亞】

パレスチナを解放せよ

（ストツクホルム三十日發）アレクサンドリア來電＝現在アレクサンドリアに開催中のアラブ聯盟會議の内容並びにアラブ聯盟の將來に關しエジプト政府當局筋は次の通り見解を述べた

アレクサンドリア會談の結果、アラブ聯盟はたとへ大規模ではなくともある程度の規模をもつて誕生しよう、その第一階梯は各國の法典を統一し、教育の確立と商業の連繫とを促進し、相互間の金融關係を圓滑ならしめて一般的に連帶による向上を圖り、アラブ諸國の地位を保つにある、アラブ諸國の社會生活を統一するといふ點では司法、立法、財政、商業、新聞、教育など諸問題を研究すべき各種委員會の設置が豫想され、このアラブ聯盟は戰爭の武器たるべきものではない、第一の目的はこれを平和の媒體とし同時に平和招來の手段とすることである、エジプト首相ナハス・パシヤも指摘せるごとく、アラブ諸民族は世界の他の民族も文明人の統治に參加すべきことを希望してゐる、アラブ聯盟は何よりも東洋人と西洋人の間に横はる忌むべき誤解を一掃することを目標とするパレスチナ問題は依然難題だが、アラブ聯盟はパレスチナの民のために英國との親交に叛かさる範圍でその解放並びに獨立を齎すべく努力するだらう、アラブ消息筋はパレスチナのユダヤ人問題を社會問題とはみてゐない、回教徒もキリスト教徒もユダヤ教徒も一個のパレスチナ社會の構成分子となるべきであり、既に國内にあるユダヤ人を排撃すべき理由は全然存在しない但しアラブ聯盟は以後ユダヤ人移住の停止を提唱することにならう、聯盟としてはパレスチナも他のアラブ諸國と同樣西亞において同國に應はしき地位を得ることを望んでゐる

【東南歐】

勃牙政等をソ聯に引渡

（リスボン二十九日發）ソフイア放送によればブルガリア政府は前攝政キリル殿下及びフイロフ、前首相ボジロフ並びに元内相ガブロフスキーの四名をソヴエト政府に引渡したといはれるが、右四名は恐らく死刑の宣告を受けるものとみられる

米英新聞記者の退去も要求

（リスボン三十日發）ブルガリア駐屯赤軍當局は米英兩國將校團に對しブルガリアからの退去を要求したが、カイロからのUP電報が三十日傳へるところによれば米英兩國新聞記者に對しても退去を命じたといはれる

ソ聯、チトーを正式承認か

（ベルリン二十九日發）タス通信社は二十八日チトーが赤軍のユーゴースラヴイア進駐を許可されたいとの赤軍司令部の要請を容れた旨發表したといはれるが、右についてドイツ當局筋では二十九日次の見解を披瀝した

赤軍今回の態度はユーゴースラヴイア亡命政權がロンドンにあるにも拘らずチトーをユーゴースラヴイアの主權者として承認したことを示すもので、チトーが赤軍に與へた許可は政治的に極めて深い意味を持つてゐる

【ソ　聯】

日本の決戰準備を指摘

（モスクワ三十日發）ソ聯共産黨機關紙プラウダは三十日の紙上に久方振りでエヴゲニー・ジューコフ氏の長文の太平洋戰局論を掲載、日本軍の重大事態を強調した後、日本が前線銃後一丸となつて決戰の準備を進めてゐる事實を指摘太平洋戰局の轉換點は目捷の間に迫つてゐると結んでゐるが、同紙の論説は「戰爭と勞働階級」誌九月十五日號に掲載されたエルマショフ氏の論説及び九月二十三日の「赤色艦隊」紙上に掲載されたリヤブチユーク海軍少佐の太平洋戰局論と共にソ聯が最近太平洋戰に對する關心を急激に深めた事實を物語るものとして、モスクワ外交界の注目を集めてゐる

ス議長ヘウム政權代表と會見

（ストツクホルム二十九日發）モスクワ來電＝ポーランド國民解放委員會代表は二十九日モスクワに到着、直ちにクレムリン宮にスターリン議長を訪問して要談を遂げた、會談にはモロトフ外務人民委員も參加した

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

食糧戰線不安なし

ベルリン檜井特派員九月廿七日

ドイツは過ぐる一年間の戰局の推移によつて自國の食糧源として重要な役割を擔つてきたルーマニア、ブルガリア、バルトの三國、西ウクライナ西部、ポーランド東部、フランス等を失ひ、遂に一九四〇年五月西部攻勢開始當時とほぼ等しい中歐洲の地域に立籠つて最後の決戰を戰ふこととなつた、前大戰におけるドイツの重大敗因として食糧の缺乏が擧げられるが、今回の戰爭ではドイツ食糧團體の綿密周到な增産計畫によつて戰爭第六年の食糧を確保し、斷じてあの悲慘な「秣だけの冬」を繰返へすことはないと責任あるドイツ政府當局は說明してゐる、しからばかかる食糧自給に對する確信を裏付けるドイツのいはゆる「增産闘爭」は如何なる狀態にあるか、また現に配給されてゐる食糧は、しかして戰爭第六年への見透しはどうか、以下諸種の資料をつき合はせて決戰下ドイツの食糧狀況を打診しよう

食糧自給は確保

先づドイツの勢力下にある中歐洲諸國における今年度作柄について、ドイツ食糧團體機關誌「ランドポスト」の報道するところによれば、大ドイツ國今年度の收穫豫想は全般的にいつて平年作といつたところ、穀類については去年の超豐作には及ばぬにしても刈入期が特に天候に惠まれ品質は良好といはれる、馬鈴薯は七、八月の旱天にも拘らず七千萬トン程度の平年作が豫想されてゐる、デンマーク黒土地域の麥類は良好、砂土地帶の作柄も八月中の降雨で勢ひをとり戻し特に纖維原料としての麥稈の收穫が期待されてゐる、かつての農產物輸入國としてのノールエーはドイツの指導下に穀類、馬鈴薯の增產に懸命だが、今年度の收穫はすべて豐作、ハンガリーの玉蜀黍、砂糖大根飼料用秣類は八月中の降雨で熱帶植物の如く繁茂し、記錄破りの收穫が豫想され、イタリヤ北部を入れなくても十分食糧自給が確保されよう

以上は中歐洲における今年度作柄の概要だが、これだけからみてもドイツの立籠る防衞地域内の食糧は既に確保されてゐるとみて差支へあるまいこの一年間にドイツが失つた農產地域はドナウ下流、東歐洲及びフランス等だが、他方食糧不足國たるベルギー、フインランド、ギリシヤ各國等が脫落してゐる、もつとも以上の情勢に基く增減は互に相殺するといふことは出來ぬが中歐洲に對する決定的な食糧資源の喪失ともならない、殊に歐洲の穀倉として期待されるウクライナ地方は交通網の不備と小農的經營のために生產は減退してゐるといはれる、一方ドイツ占領下に一躍生產力を增大したフランスの喪失は可成り大きな打擊であることはドイツ政府當局も認めてゐるところだ

最大の隘路、油脂部門

ドイツの食糧經濟にとつて最大の隘路は油脂部門だが、ドイツ食糧團體の過去十年に亘る努力がこの部門に集中され來たつたことはいふまでもない、油脂自給を目指して農民にあたへられた精勵標語は大豆、菜種、向日葵等の栽培と家畜の飼料としての油粕に代る根菜類の作付け奬勵であつた卽ち一方に五倍の耕地面積を要する動物性油脂を安價な植物性油脂によつて置代へ、合せて家畜から從來の穀類馬鈴薯等の濃厚飼料を奪つて人間に與へるといふ方法なのである、右政策の結果殆んどゼロに等しかつた油脂植物の作付面積が最大限の六十萬ヘクタールに增大したこと、飼料の增產によつてバター年產七十萬トンに達したこと等である、これは米國の七十五萬トンに次ぐ數字だ、食糧團體最近の報告によつて見ても以上の年產額は維持出來るといふ、ドイツ人の食糧に最も重要なものは豚肉だが豚は人間との共通食物たる馬鈴薯を消費するために、開戰以來、屠殺によつて頭數が昨年秋までに戰前の六三%に減退したが、飼料に綠草を加へることによつてこの一年間に二百萬頭を增加することに成功した、かくてドイツにおける油脂食糧の不足は種々の對策により、一應補充されてはゐるものの如何なる料理も油なしでは濟まぬドイツの臺所の困難さは否定出來ない

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ドイツは油脂食糧の不足を油脂植物栽培奬勵と嚴密な市場統制とによつて補ふと共に消費面においても種々對策を講じてをり、家畜の臟物の一片をも無駄にしないやうな調理法を奬勵し或ひは腸詰めに澱粉、麥等の混用を許して油脂食糧の不足を補つてゐる、前年度において試驗的に肝付腸詰製造に際して一部に二割方澱粉或ひは野菜類を混合し、百グラムの肉片に對して百二十グラムの配給を行ひ意外に歡迎されたので、今度は更に血液腸詰、テーヴルスト、イエーガーヴルストの軟質腸詰にも、大麥または裸麥二〇%の混溶が許されるやうになつた、もつとも混溶腸詰は專ら大量生産の裝置を有する一部大工場だけに許可され、一定の標識をつけて賣り出されるわけだが、滿腹感を二割だけ滿足させることは疑ひない、次にドイツ人の常食として馬鈴薯は戰前の消費の千三百萬トンから戰時下に入つて一躍二千三百萬トンに增加したが、この急激な需要增加は耕地擴大と品種制限とによつて克服され、今年度の豫想收穫は約七千五百萬トンといはれるが工業用乃至は家畜用飼料を差引いても食用馬鈴薯には事缺かぬであらう、去年の芋不足で豚飼料としては禁止されてゐた馬鈴薯がこの秋から地方別に一定量が解禁されることからもこの事實を察知出來よう。

來年度作付の展望

かくて戰爭第六年のドイツ食糧狀態は一應確保された格好だが、ドイツ食糧團體の九月一日附で全國の農民に通達した奬勵表によつて來年度の作付を展望してみよう、重點作物としては矢張り前年通り主食物が第一にあげられてゐる、作付反別は六〇萬ヘクタール程度を保つが、穀類は裸麥、小麥の何れでも收穫量の割のよい品種、しかも秋播を奬勵してゐる、前大戰では榮養不足のため七十五萬の死者を出したが今度の戰爭では生產配給機構が樫の實の如く固く、切符の上で約束された數量だけは絕對に保障されてゐる、かかる相違は二度の戰爭を體驗したドイツ人の誰でもが肯定してゐるところだ、しかし戰爭の第五年において食糧源として重要な占領地區を失ひ、輸送路が反樞軸軍の空爆下にさらされてゐる上、尨大な軍隊と千萬以上の外人勞働者、捕虜等を擁するドイツ食糧狀況は決して容易でないことはいふまでもあるまい、ドイツ政府當局は以上の情勢に對處する爲根菜類は昨年同樣の面積にとどめ出來る限り豆類の併播を奬勵してゐる、油脂增產と窒素肥料の自然補給を狙ふ一石二鳥策と解してよからう

變化ない食料割當

最後に食糧割當についてみると來たる十六日から第六十七回の配給期一週間の割り當てで戰局の推移を反映するのはパンが二百瓦、卽ち一週間に四斤食べられることになつてゐる、この外煙草が每日一本づつ減つて一箇月二十四本だが、ブルガリア、ギリシヤ等からの輸入が絕えた今日當然のこととといへよう、每週パンは白パン、黑パン合はせて二千二百二十五瓦、肉が二百五十瓦、脂肪は代用バタ、油等を含めて三百瓦、その他プデング用粉末百五十瓦、砂糖三百十五瓦といつた量目であるが、この分量はこの冬中さしたる變化はあるまいと當局は言明してゐる、但し仔豚及び昨年度から浮かした二百萬頭の豚は同期間に屠殺され、來週には牛の大量屠殺が豫想されてゐることからして占領地區放棄による影響が讀みとられ、馬鈴薯野菜等もこの夏、平時にも例をみぬほど潤澤な配給で殆んど切符を必要としなかつた位である

資料

米國職業委託制度の成績

「ウオール・ストリート・ジヤーナル」紙 七月八日號

求職者の激增

米國政府が職業委託制度を全國的に實施してから一週間經つたが、その間二つの大都市で小規模の反對運動があつただけで新制度は徐々ながら順調に發足したやうだ、戰時人的資源委員會及び聯邦雇傭局が七月七日東部及び中西部の八大工業中心地について行つた調査によれば、これらの機關を通ずる先週の雇傭數が先々週の倍に達したところが大部分であつた、職業委託制度の實施に直接携つてゐる人的資源委員會の役人も、勞働者を同委員會の希望する職業に就かせるのが前より容易になつたといつてゐる

昭和十九年十月三日(火)
第三一九八號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

例へばデトロイトの人的資源委員會代表は新制度實施以來求職者の五割乃至六割を優先事業に就職させられるやうになつたと語つた、彼等のいふところによると、新制度實施以前には求職者のうち優先事業への就職を承諾するのは僅か三割程度だつたさうである、しかし一方トレドでは戰時人的資源委員會諮問委員會の委員七名が新制度があまり嚴格過ぎるといつて七月七日辭職した、新制度實施以來恐らく最大の反對運動は雇傭者側ではなく、フイラデルフイアの勞働組合によつて行はれた、卽ち國際洗濯染物勞働組合第八十五支部はブロノツト洗濯染物會社に對し職業紹介所を通ぜずに勞力を供給すると宣言したのである、しかし戰時人的資源委員會當局では職業委託制度の違反によつて罰せられるのは雇傭者側で被傭者側ではないから、右の反對運動は單なるジエスチユアに過ぎないと解してゐる、但し右の會社に對しいかなる制裁が加へられるかについては戰時人的資源委員會當局も明白にしなかつた、フイラデルフイアにある六箇の職業紹介所では、七月一日から六日までの間に八、八五三人の求職者を就職させたこの數字はこれに先立つ六日間に比し殆んど十割の增加である、しかも七月一日から六日の間には休日が一日入つてゐた、戰時人的資源委員會のフイラデルフイア地區長官代理は、新制度によつてフイラデルフイアの勞働事情は明らかに改善されたと語つた、ワシントンの職業紹介所も求職者數の激增を認めた、一例を擧げると五月中における水曜日の求職者數は平均六九七名であつたが先週の水曜には一、三四一名の求職者があつた、ワシントン地區長官によれば新制度實施の結果、電話申込が激增したので六箇の電話を追加架設中といはれる、今までのところワシントンの職業紹介所では求職數が求人數を超えてゐる狀態である

新制度反對者早くも出現

しかし新制度の或る部面については發足が遲れたといへる、例へばシカゴでは戰時人的資源委員から自己の雇傭限度の通知を受けたのは全市の會社二、八〇〇中七〇〇に止る、更にシカゴの人的資源委員會事務所では雇傭限度が低過ぎるといふ陳情が相當多くの會社からくるだらうといつてゐる、また同市のカーネギー・イリノイ製鋼所では自分等の欲しいのは主として一般勞働者であるから、新制度によつて問題は解決されまいとの見解を表明した、もつとも同製鋼所でも技術的にいつて新制度が本當に實施されたのは七月五日で、もう二週間も經つてみねば實際のところは判らぬことを認めてゐる

職業委託制度が十分軌道に乘るまでは、軍需工業の雇傭主は求職者との直接の取引を續けすべての雇傭を職業紹介所を通じて行ふまでには到らぬかも知れぬ、もつとも雇傭者ばかりで構成されるフイラデルフイア・カムデン人的資源會議にどの工場が求人を行ふべきかを決定する權限を與へようといふフイラデルフイアの雇傭者連の運動は失敗に歸したやうである、大多數の會社は今のところ新制度について靜觀主義を持してゐるが、中には早くも斷然反對の態度を表明したものも二、三はある

最初の反響

セントルイスの工場支配人連は七月七日新委託制度によつて勞働事情が目にみえて改善されるかどうか疑はしいと語つた、中には却つて勞働者雇傭に手間が掛るやうになるといふ者すらあつた、セントルイスの某化學工場長は新制度が齎した最初の反響は數人の勞働者の辭職であり、彼等は新制度實施によつて轉職ができなくならないうちに辭めたのだといつた、ピツツバークの製鋼會社では現在のところ勞働事情になん等の變化も認められないと稱してゐる

或る大會社では六月中に二千人の勞働者が軍隊及び他の仕事に入るため退社したので、爾來女子及び少年の雇傭數を增してゐるが會社當局の言によると「少年も立派な仕事をしてゐる」さうである、コロンビア地區では戰時人的資源委員會當局が新制度はなん等の滯りなく實施されたといつてゐるが、ここではまづ勞働組合に職業紹介所の仕事を代行させて取極めが出來たのである、つまり勞働總同盟の建築勞働組合會議と契約を結び、同組合から求職者をワシントン建築業者聯合會に送るやうにしたのであつた、ワシントン建築業者聯合會は政府關係の建築の殆んど全部並びに市內の民間建築の大部分を引受けてゐるが、勞働組合員でなければ雇はぬことになつてゐる

大正十五年十月廿五日第三種郵便物認可　昭和十九年十月四日(水)　第三一九九號

同盟通信 海外電報 (228)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人　同盟通信社

世界の焦点

ダンバートン・オークスにおける米英ソ會談は豫想通りお流れになつてしまつた、敢て豫想通りといふのは、今度の會談も開戰以來數次にわたつて開催された三國會談と殆んど同じ經過を辿つて閉幕したからである、即ち先づ最初に米英側の大宣傳をもつて發表された今度の會談は、會談開始前に早くも重慶代表との同席を拒否したソ聯の要求によつて問着を起し、この結果會談は米英ソ、米英重慶の兩會談に分けられるといふ畸型的形式をとらざるを得なかつた、會談はすべり出しは意外に好調子だつたが肝心の具體的問題の協議に入るや果然難關に逢着して、議事は全くの停頓狀態に陷り、遂に「完全な意見一致」の代りに「多くの點において意見一致した」との尻ぬぐひ聲明を發して結末をつけなければならぬ醜態を演じた

何如なる點をめぐつて三國の意見が合はなかつたかは各種の臆測以外知ることは困難だしかし意見の對立が米英對ソヴエト代表の間にあつたこと並びにこの對立が具體的問題をめぐつて發生したことは明らかであり、われわれとしてはこれを知るだけで十分であらう原則的問題での意見一致は比較的容易だが、利害の對立は具體的問題では意見の一致を許さない

ダンバートン・オークス會談は今や第二段階に入つて、米英重慶三國會談が開かれてゐる、この會談は必ず見事な成功に終るだらう何故ならば米英兩國間で意見が一致してゐる限り、米英と重慶との間には意見の不一致の如きはあり得ないからだ、換言すれば重慶代表を交へての會談の如きは米英ソ會談が不成功に終つてゐる以上、全く意味なきものである

【目　次】

ジークフリード總攻撃開始……二二六三
鐵門兩側への壓力增大……〃
カレー攻防戰大詰……〃
重慶、米英の援助不足を攻撃……〃
ポルトガル政府重大閣議……〃
トルコ政府二紙を發禁……〃
寄港禁止でも米英不一致……二二六四
米、對ソ注意喚起……〃
英國社會保險案の全貌……〃

【米　國】
戰後貿易增進政策……二二六五
ルーズヴエルトの秘密政策を攻撃……〃
對日戰驅立に大童……〃
ソ聯の戰後對獨政策……二二六六

【西　亞】
エルサレム不穩……〃

【ドイツ】
ロシア義勇軍司令、內相と會談……二二六七
ナチ黨領袖ビュルケル氏逝く……〃

【亡命政權】
新波司令官にも難色……〃

【トルコ】
對英通商使節派遣か……〃

【英　國】
明年度ロンドン市長選出……〃

【豪　洲】
在外公使館を增設……〃

【米　國】
ニクワラガ軍コスタリカに侵入……〃
アルゼンチン油槽船爆破……〃
メキシコ國內にインフレーション……〃

【軍事情報】
米英四發重爆の人員配置……二二六八

【特　輯】
リスボンだより……二二六九—二二七三

【資　料】
米國のゴム新規格……二二七三

昭和十九年十月四日（水）
第三一九九號
同盟通信 海外電報（第三種郵便物認可）

ジークフリード總攻撃開始

（リスボン二日發）ロイター前線報道＝米第一軍司令部は二日アーヘン地區においてジークフリード線に對し陸空一體の大攻勢を開始した旨發表した

鐵門兩側への壓力增大

（ベルリン二日發）總統大本營は二日の公報をもつて東部戰線の戰況を次のやうに發表した

一、ドナウ河彎曲部鐵門兩側地區における赤軍の壓迫は更に增大した、セゲドとオラデアの中間では獨、洪兩軍部隊は直協機隊の掩護の下に反擊を續けてゐる

一、セクレルの北隅地區においてはドイツ軍擲彈兵及び山岳部隊は、戰車を伴ふ數回に亘る赤軍の攻擊を擊退した

一、ベスキーズ峠東部においては激戰が續いてをり、ドイツ軍は再三に亘る赤軍の攻擊を擊退乃至阻止し、二日間に戰車四十六輛を破壞した

一、その他赤軍がドヴイナ河とリガ灣の中間における攻擊に失敗したほかは大規模な戰鬪は行はれなかつた

カレー攻防戰大詰

（ベルリン二日發）D・N・B前線報道＝英軍は一日ドーヴア岸のドイツ軍基地カレーに對する總攻擊を開始、激戰の後遂に市內に突入、目下ドイツ軍守備隊との間に凄慘な市街戰を展開してゐるドイツ軍は孤軍よく力戰に努めてゐるが衆寡敵せず、據點を次々に奪取されて非常な苦戰に陷つてをり、カレー攻防戰は終に最後の土壇場に踏み入つてゐる、他方反樞軸軍はドーヴア海峽及び大西洋岸のドイツ軍各基地に對する突破攻勢を續行、一日海岸線まで深く突入するに成功した

重慶、米英の援助不足を攻擊

（リスボン三日發）重慶來電＝最近在支米空軍が南支の重要基地桂林を破壞撤收した原因が重慶軍の無力にあるとの非難が米國側から起り、またチヤーチルは下院において「重慶は米國から物惜しみのない援助を受けながら、軍事的敗戰を重ねてゐる」と攻擊したが、これに對し重慶の國防最高會議當局は二日の記者團會見で重慶軍の敗戰原因が名のみの武器貸與にある點を强調してこれに反駁を加へ補給の增强を要求して次の通り言明した

眞珠灣事件當時から現在に至るまで米國が重慶に與へた補給は米軍や英軍のたつた一個師團が僅か一週間の戰鬪を維持するにも不十分な數量であつた、東部支那で重慶軍に與へられた唯一つの眞實の援助は第十四航空部隊の英雄的な大いに效果ある空からの掩護だけであつた、しかしながら東部支那に維持された空軍の總勢力は極めて弱少で、若しその勢力の實體が明かにされたら、殆んど信じ得ない程であらうヒマラヤ越えの補給トン數は一切の豫期した量を凌駕はしたが、在支米空軍の最少限度の要求數量に應じた後、重慶軍に與へる殘りの數量は極度に限られたものであり、しかもこれらは事實上怒江戰線で戰つてゐる重慶軍に供給されてゐるのである

第十四航空部隊は廣西省東南部の基地丹竹を爆碎した後これを放棄した旨發表したが、日本軍はこの飛行場を占領した、この方面の戰鬪では極めて貧弱な裝備の重慶軍に對し日本軍は大兵力を繰出してをり、このため重慶軍は「千鳥足の敗退」を甘受し火力の代りに氣力だけで戰つてゐるのである

ポルトガル政府重大閣議

（リスボン二日發）ポルトガル政府は二日午後三時から大統領カルモラ將軍司會のもとに首相サラザール博士等全閣僚出席のもとに國務會議を開催した、審議の內容は極秘に付されてゐるが、きたる二十一日緊急國會が開會されるので、國會を前に極めて重要な國策について檢討を加へたと解される

トルコ政府二紙を發禁

（ブダペスト二日發）アンカラ來電＝トルコ政府は「ヴアダン」「タスヴイリ・エフキアル」の二紙に對しブルガリア問題についての記事取扱ひを不當と認め、無期停刊處分に附した

昭和十九年十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

寄港禁止でも米英不一致

(リスボン二日發)ワシントン來電によれば米國務長官ハルは米國船のアルゼンチン寄港禁止問題と米英兩國關係につき次の通り言明したといはれる

米國政府は獨自の立場から米國船のアルゼンチン寄港を禁止したのであつて、この問題につき英國政府とは何等協議しなかつた、かかる性質の外交問題は英國政府の意見を徵する必要なしと考へたからである

米英兩國のアルゼンチンに對する態度については米國が頻りに對亞壓迫を焦るに對し、英國は終始極めて煮え切らぬ態度をとり、兩國の足並みはとかく亂れ勝ちだつたが、今回の米國船寄港禁止問題でも英國政府が米國に追隨して同樣の措置にでなかつたところから各種の憶測を生み、一部では米國政府が英國の共同動作を要求したのに對し、英國政府はこれを態よく拒絕したとの噂さへ飛んでゐた、ハルの言明もかかる噂に對する回答と見られるが、以上の噂が事實でないとしても、英國が米國の尻馬に乘つて英國船のアルゼンチン寄港禁止の如きを殆んど考慮してゐないことは確實と見てよく、マンチエスター來電によれば英國の有力新聞「マンチエスター・ガーデイアン」紙は二日の紙上に次の社說を掲げたといはれる

英國は米國の豚肉よりアルゼンチンの牛肉の方を必要とする、ルーズヴエルトの主張する如く現在のフアレル政府は或ひはアルゼンチン國民の輿論を代表してゐないかも知れないが、米國政府が最近アルゼンチンに對してとつた思ひ切つた壓迫措置は若干行き過ぎの憾がある

米、對ソ注意喚起

(リスボン二日發)ワシントン來電=ブルガリアに進駐した赤軍がソフイアにあつた米英兩國軍將校をブルガリア國外に追放した事件は、さなきだに微妙な狀態におかれてゐた米英對ソ聯關係に一大波紋を描き出したが、米國務長官ハルは二日の新聞記者團會見で次の通り言明した

米國政府はこの問題につきソヴエト政府の注意を喚起し、追放された米國軍將校は近く再びブルガリア國内に復歸することと思ふ、但し米國政府がソ聯に對して正式抗議を行つたことはない

英國社會保險法案の全貌

(ストツクホルム二日發)英國政府が發表した社會保險法案の全貌次の通り

一、二番目の子どもから週五志の家族手當を支給する、但し例外的に扶養義務者が失業してゐる場合には、最初の子どもについても五志の手當を支給する、子どもに對する無料醫療

一、失業手當　夫婦者には週五十志、獨身者には二十四志、疾病手當も同樣

一、年金　六十五歲以上の男子、六十歲以上の女子に支給、夫婦者に週三十五志、獨身者に二十志

一、寡婦年金　十三週間週三十六志、ただし子ども一人毎に五志追加、十三週間以後は週二十志

一、產兒手當　特別扶助料として週四磅三十六志

一、葬儀手當　死亡年齡によつて違ふが最高額二十一磅

一、孤兒扶助料　週十二志

勿論以上の社會保險法案は、疲弊した英國人に元氣づけ且つ歡心を買はうといふチヤーチルの內政謀略に過ぎず、英國政界財界の雲行きからみても容易に成立しさうにも見えないが、最大の難關は現在——既に三十億磅の外債を背負込んでゐる英國政府が何處に財源を求めるかだ、但しロイテル電報は社會保險法案が成立すれば年額六億五千萬磅の國庫支出を必要とし、一九七五年度には支出總額八億三千百萬磅に達すると夢物語に耽つてゐる、勿論經營主が經費の一班を負擔することはいふまでもない

週五志の子供に對する手當は十六歲まで續く、變つてゐるのは失業者に對する錬成手當で、普通の失業手當よりは多い見込みだ、疾病手當は三年間で、爾後は特別病人手當に變る、葬儀手當は十八歲以上は二十磅、八歲以上十八歲までには十五磅だ

昭和十九年十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米　國】

戰後貿易增進政策

（リスボン三十日發）ワシントン來電＝外國經濟院次長ラフリング・カリーは三十日下院戰後計畫委員會に臨み、戰後貿易增進政策につき次の通り演說した

本年の輸出貿易は百五十億弗に達するだらうが內百十五億弗は武器貸與額である、この額は戰前輸出額の約四倍に當り、米國が平時において國內の完全雇傭を維持するためには、この尨大な輸出額を是非とも維持しなければなるまい、しかるに世界の諸國は軍需生產の再轉換、戰後再建工作などに忙殺される關係上、米國からの物資輸入の必要に迫られようが、輸入資金を缺くため米國としてはその輸出を續けるためにはこれら諸國に對し借款を與へる必要があらう、米國のみならず諸國においても完全雇傭を實現し、國民の福祉を增進するためには國際貿易の促進が絕對に必要であるが、余は戰後貿易增進策として次の諸政策を提唱する

一、國際替爲率の安定
一、戰時輸出入貿易統制の撤廢及び凍結資金の解放
一、關稅障壁の引き下げその他通商を阻害する諸制度の撤廢並びに互惠通商政策の擴張
一、餘剩軍需資產の秩序ある處理、特に餘剩資材を國外において處分する場合には米國で新たに生產される物資の輸出に支障を來さないやう注意する必要がある

ルーズヴエルトの祕密政策を攻擊

（リスボン三十日發）フイラデルフイア來電＝共和黨の女議員クレア・ルースはデユウイのための選擧演說においてルーズヴエルトの祕密政策を攻擊、次の通り論じた

まづわれわれとして銘記しなければならないことは一個人が平和を齎らすといふやうな神祕な力を信じてはならぬといふことだ、第二次大戰が始つたのは當時の大統領ウイルソンが自分の個人的な夢をもつてドイツ人の信賴を獲得する國際聯盟を作らうとした邊りにも責任がある

ダンバートン會議の重要問題も社會の討議にかけるのが當然で、ルーズヴエルトが二、三の世界戰爭指導者と祕密の會談をしたり、自分が署名した反樞軸軍最高司令部の文書位で永遠の平和を保障したりしようとするのはもつての外だ

この演說後ルースは新聞記者團と會見し、ルーズヴエルトの罪惡を次の通り暴露してゐる

國民は僞瞞によつてでなく指導によつて戰爭に參加すべきだつた、眞珠灣の悲劇を齎らすまでの諸事實や、殆んど不可避的だつた參戰といふ事實は全然議會にも國民にも示されることがなかつた、多くの人が同じやうに感じてゐるだらうが、今日まで祕密主義を固執するのは何か行政上の缺陷を隱さうとする努力であるやうに思はれてならない、ルーズヴエルトは何故彼がキンメルの責任を追及せずいつまでも放置しておくのか、一度はつきりと釋明しなければならない

對日戰意驅立てに大童

（リスボン一日發）ワシントン來電＝政府は一般國民の對日戰意を驅りたてるため、報道機關を總動員して大規模な國內宣傳運動に乘り出す準備を開始したと傳へられる、この計畫の內容は歐洲戰が終了するまでは發表しない方針といはれるが、政府當局を最も惱ましてゐることは、歐洲戰の終了とともに軍需勞働者が續々職場を棄てて平和產業に鞍替へするのではないかといふ點で、右に關し戰時情報局は次の見解を發表した

一般國民のうちには米國は「片手で日本をやつつけられる」と考へてゐるものが多い、國民の大部分は歐洲戰は勿論對日戰も今後一年以上は繼續しないと考へてゐる、また歐洲戰の終了後同方面に使用した武器が太平洋方面へ廻送されるから米國はもう新しく武器を製造する必要はないと考へてゐるやうだが、實際は太平洋作戰ではその戰域の特殊性のため特別な武器を必要とするのであつて歐洲戰で使用された武器は太平洋ではあまり役に立たない

昭和十九年 十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ソ聯の戰後對獨政策

(ストツクホルム一日發)九月二十三日附「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙のニューヨーク特電は次の通り報じてゐる

大規模な處罰を全獨人に適用

ソヴエトはドイツ西部の相當大きな部分を占領ソヴエト政府にだけ責任を持つ長官を置くこととならうが、同地域を果して如何に處理していくか米國で多大の關心をひいてゐる、米國政府は一般にソヴエト人が割當てられた占領地域のありとあらゆる貴重な工業施設を沒收するだらうと考へてゐるが、更に突つこんだ觀察を下してゐる者もある、例へば歷史家としてまた經濟學者として著名なデイヴイド・ダリンは「アメリカン・マーキユリー」誌十月號にドイツに對するソヴエト政府の計畫に關する記事を寄稿、ダリンが「根本的に重要な」と呼んでゐる事實卽ちソヴエト人の輿論では處刑といふことが中心的重要性を有してゐるといふ事實を强調して「共產黨員にとつては大規模の處罰が社會鬪爭の武器である」と述べてゐる

更にダリンはソヴエト政府が今までに發した正式聲明に基づいて、次の通り所感を述べた

ソヴエト政府がドイツ人に對し目論んでゐる處罰は、階級の如何を問はずドイツ人全部に適用されよう、蓋しドイツ資本主義から一切の政治力、經濟力を剝奪するためで、ソヴエト政府はドイツにおいては地主、鑛山主、工業界の大立物、銀行家その他勢力ある卸賣商及び小賣商がヒトラー政權並びにナチ政策を支持してゐるのだと考へてゐるからである

ソ聯を主班に東歐洲同盟を結成

次いでダリンはソヴエト政府がポーランド及びバルト三國を占領、適當な處置を講じた後如何なる事態が發生するかについて結論を述べ、大規模な社會的變革を固く信じてゐるが、この變革はソ聯の國際的地位があるからこそ可能なのだといつてゐる

賠償金の要求に關しては、ドイツ政府にソヴエト政府が要求するほど多額の支拂ひをする能力のないことはソヴエト政府自身十分承知してゐるだらうが、ソヴエト政府は出來得る範圍において最大の額を要求してゐることは明らかで、ドイツ軍の占領下にあつたソヴエト國內の生活水準がもとドイツ軍の占領下にあつたソヴエト領內の各地の生活水準より高くなることを許すまいとしてゐる生活費の剩餘は賠償金としてソヴエト政府に支拂はれねばならないといふのだ

ソヴエト政府の計畫の內には國境線の變化及び大規模な住民移動に關する問題も全部包含されてゐると信ずる、ソヴエト政府がチエツコスロヴアキア政府との間に締結した協定には、將來オーストリア及びポーランドもこの協定に參加することといふ附加的條項があり、ソヴエト政府を主班とする東歐洲同盟の最初の萠芽だとみられ、ソヴエト政府はドイツ政府をも漸次右同盟に參加させようとしてゐると推定される、しかしドイツの政治的經濟的潛在力の支配を狙ふ眞の競爭が今後にあることは明らかで、ソヴエト政府はこの競爭に勝利を得ようとして準備を進めてゐるが、單にソヴエト政府だけではなく、歐洲諸國はいづれも戰後有利な地步を獲得しようと旣に計畫を始めてゐる英國人は一般にドイツの分割には反對で、ドイツ國內から侵略的分子を取り除いてドイツ政府との貿易關係を確立しようとしてゐるやうだ、一方ソヴエト政府はドイツ國內に新らしい社會體制を作り上げドイツ政府にソヴエト政府との同盟を成立させることを要望してゐる

【西 亞】

エルサレム不穩 (リスボン三十日發)エルサレムからのロイター電報によれば、英國人警視ウイルキンは三十日午前街頭で狙擊され卽死した、犯人は逃亡したがユダヤ人テロ團の犯行とみられ、直ちに全市のユダヤ人に對して外出禁止の措置がとられたといはれる

昭和十九年十月四日（水）
第三一九九號
同盟通信 海外電報（第三種郵便物認可）

【ドイツ】

ロシア義勇軍司令
内相と會談

（ベルリン三十日發）反共産主義ロシア義勇軍司令アンドレ・ヴラーソフ大將は三十日後方戰線にヒムラー内相を訪問、長時間に亘り談合を遂げたが、全ロシア義勇軍のドイツ軍に對する協力方法につき兩者の意見は完全に一致したと傳へられる

ナチ黨領袖ビュルケル氏逝く

（ベルリン二十九日發）政府はロートリンゲン民政長官ヨーゼフ・ビュルケルは二十九日ノイシュタットで肺炎のため死去した、享年四十九

【亡命政權】

新波司令官にも難色

（ストツクホルム一日發）亡命ポーランド政權はソ聯の御機嫌取りのため反ソ派と目されるポーランド軍總司令官ソスンコウスキーを罷免して、ワルソー蜂起軍のヨモロウスキーを最高司令官に任命したが、モスクワ來電によればポーランド開放委員會代表モラウスキーは新司令官に難色を示して次の通り言明した

コモロウスキーは、ポーランド國民に對して犯罪行爲を犯した人物である、ワルソーは勿論ポーランド全部に亘りコモロウスキーに對する反感は前司令官ソスンコウスキーに對するより遙かに强い、かかる人物を司令官に任命した亡命政權の行動は正に狂氣の沙汰といふべきだ

【トルコ】

對英通商使節派遣か

（ブダペスト三十日發）獨土斷交の結果トルコは多數の重要物資入手難に苦しんでゐるが、アンカラ來電によれば政府は今回通商代表團をロンドンに派遣、從來ドイツに依存してゐた重工業製品の購入に關し英國政府と交涉せしめることとなつたと傳へられる、交涉は昨年二月以降停止されてゐた英國の對トルコ武器供給とトルコ國内の工業發達援助を目的とする英人技師及び專門家のトルコ派遣を中心として進められるであらう

【英國】

明年度ロンドン市長選出

（ストツクホルム二十九日發）ロンドン來電＝バルチツク取引所理事長サー・フランク・アレクサンダーは一九四五年のロンドン市長に選出された

濠洲在外公使館を增設

（リスボン二十八日發）キヤンベラ來電＝政府は今回ニユーヨーク及びサンフランシスコに領事館を開設すると共に在ワシントン並びに重慶公使館の情報官を增員するに決定した

【米洲】

ニクワラガ軍コスタリカに侵入

（リスボン三十日發）サン・ホセからのUP電報によればニクワラガ軍は二十九日數個部隊をもつて突如國境線數ケ所からコスタリカに侵入を企てたが、コスタリカ軍は直ちに邀撃して擊退、多數の捕虜を得たと傳へられる、右侵入企圖の原因その他は未だ判らない

アルゼンチン油槽船爆破

（リスボン三十日發）ブエノスアイレス來電＝アルゼンチン最大の油槽船「サンブラス」號は二十七日、石油一萬トンを積載エンセナダ港へ入つた直後、大爆發を起し乘員七十名のうち大半は卽死、今まで判明した生存者は十一名に過ぎない

メキシコ國内にインフレーション

（リスボン三十日發）メキシコ市來電＝メキシコ全國は經濟的危機に瀕し九月現在の生計費指數は前年同期の一七五に對し、七五上昇し二五一を示してゐる、殊に先般の大豪雨と颱風のため作物は不作で食物及び衣類の値段は急速に昂騰する情勢である

昭和十九年十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信
海外電報(第三種郵便物認可)

【軍事情報】

米英四發重爆の人員配置

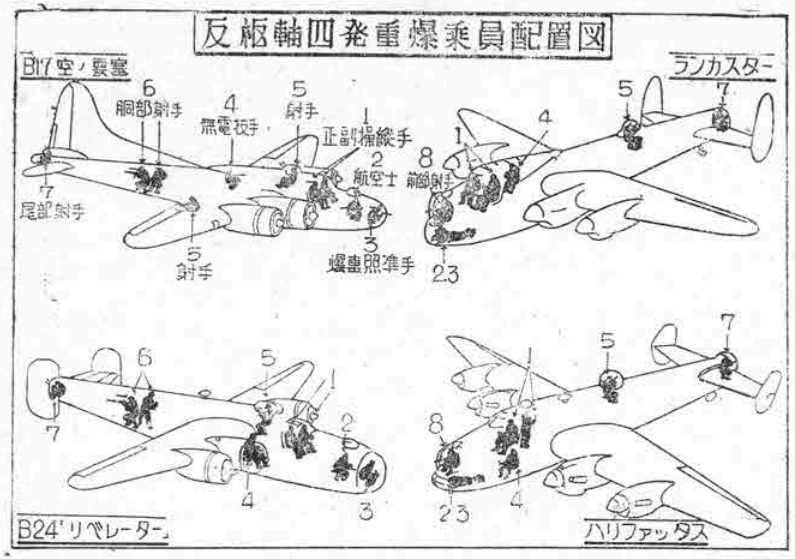
歐洲における戰略爆撃に反樞軸軍戰略爆撃隊は晝間米軍、夜間英軍と分擔を異にして日夜間斷なく出撃、ドイツ本土の工業中心地帶に無差別絨毯爆撃を強行した、左に掲げるのはかれらの使用する重爆撃機の乘員配置圖で米軍のボーイングB17「空の要塞」コンソリデーテッドB24「リベレーター」英空軍のアヴロ「ランカスター」、ハンドレー・ページ「ハリファックス」の四種である、乘員の數を見ると米軍機の方が多くの銃手を持つてゐるが、これは米軍航空隊が晝間出動してドイツ軍戰鬪機隊の邀撃を受ける危險も比較的多いためで、乘員の任務は圖示された通りであるからこの圖を見て讀者自身想像して戴きたい

この四種の重爆撃機の性能については詳細に述べるだけの紙面もないし、殊に米軍機二種は既にわが國でも繰り返し紹介されてゐるので今更喋々する必要もあるまい、しかも米國は對日戰略爆撃用としてB17の代りにボーイングB29「超要塞」コンソリデーテッドB32「空の覇者」の大量生産を開始してゐるといはれる位だから、ここには日本人に餘り親しみのなかつたランカスター及びハリファックスの性能その他を簡單に述べることにしよう

ランカスターは「ロールスロイスマーリン20型」液冷十二氣筒V型發動機四基を備へ、その出力は各々一二八〇馬力である、最近使用されてゐる新型は一六〇〇馬力ブリストル・ハーキユリーズ十四氣筒空冷二列星型發動機四基を備へてゐるといはれる、プロペラは三翅で、翼の內部には燃料油槽六個を有する、翼巾は三一・一米、全長二一・一米、高さ六・一米、翼面積は一二・〇五平方米である、爆彈の最大搭載量は七一七〇瓩といはれ全備重量は通常二七二四〇瓩、無理をすれば二八六〇〇瓩まで行く、最高時速は四四〇粁時、航續距離は四八〇〇粁と稱されてゐる、武裝はブローニング三〇三機關銃十挺、爆彈倉は八トン近い爆彈を收容し得るだけに極めて大きなものだ

ハリファックスの方も發動機は同じロールスロイス・マーリンを使用してゐる、燃料油槽は十二個あつて、主翼に各四個づつ、外翼の內端に二個づつ備へられ、燃料は翼後緣の大きなパイプから放出することが出來る、翼巾は三〇・二米、全長二三・五米、高さ六・三米、翼面積は一一六平方米に達する、全備重量はランカスターと殆んど變らない、最高時速は四三二粁時、航續距離は四八〇〇粁といはれてゐる、武裝はブローニング三〇三機關銃八挺、銃座は機首と胴體と尾部の三個所にある、すべて機銃はランカスターの場合もハリファックスの場合も油壓作動式になつてゐる、最大爆彈搭載量は五瓲半といはれ、胴體下部に六・七米の長さの彈倉があり、彈扉は油壓により開閉される、また彈倉は胴體の側面にも三個づつ六個設けられてゐる

英空軍は東亞の戰場にもこの二種の重爆を使用する積りで現在某所にその基地を建設中であるといはれるがその性能から見て本土のわれわれが彼等の夜間爆撃の手並を拜見することは難しからう



昭和十九年十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

リスボンだより

戸惑ひする英國民

佐藤、本田特派員十月一日發

英國では九月十七日所謂二重夏季時間を止めて普通の夏季時間に入るとともに、燈火管制が恐く東京における警戒管制程度に緩和された筈だが、もう終つたと思つたドイツ軍の流星彈攻撃が多少散發的ながら再開されたので英國内務省は慌てて英國人に疎開先から歸らぬやう警告してゐる樣子だ、九月十九日の「デーリー・メール」紙は「踏み止まれ(Stay put)といふ新な警告」と題して次のやうに報道してゐる

モリソン内相は流星彈通廊(Bomb alley)地區視察の途次、十八日サセックス縣のバトルで演説し、情勢が許せば政府は直に危險解除の通告を出すのだから、再三の警告を無視して疎開先から歸つて來るのは愚の骨頂だ、歸れといはれるまで立ち退いてゐよ、いま歸つて來れば諸君乃至お子さん達にどんなことが起らうとも、責任は全く諸君にあり、ドイツ軍從來の攻撃方式がもうすつかり終つたとか、乃至新兵器を繰り出すまいなどと考へたら間違ひだ、何れの祕密兵器もまだ終つたといふ確な證據はないと述べてゐる

一面緩和、一面警告といふ遣り口が英國の現狀を非常によく示してゐると思ふ、前の大戰當時は勿論今度の戰爭でも、最初は「萬事平常通り」(Business as usual)といふ標語が英國の店に掲げられ、次いでダンケルクの敗退後には、モリソン内相の警告「踏み止まれ」が英國人の標語になつたが、ロイター電報によれば最近では「通常時間に復歸」(Back to normal hours)といふ貼り出しがロンドンの酒場に出始めたと傳へられる、ロイター電報は更にいはく

ロンドンに關する限りビールの配給は過去三ケ月間よりはよくなつた、もつとも地方ではどこでもまだまだビール不足は深刻で、殊に女子が野良に出てゐるため纏詰めが出來ず、纏詰めビールは依然として少い、ドーヴー地區における海岸地帶立入り禁止は解除となり、住民達は海邊を散歩出來るようになつた

打算に耽る保險業界

現在英國人の頭を支配してゐるただ一つそして最大の問題は、歐洲戰爭が何時になつたら片付くかといふことだ、首相チヤーチルの演説をきいてゐたのではさつぱり見當がつかない、八月二日の下院における演説では、勿論百戰錬磨の政黨人だから用語は尻尾を摑へられぬやう注意してゐるに違ひないが戰爭は今にも片付きさうだ、ところが今度の報告では頻りに樂觀を戒めてゐる、そこで目下シテイ(ロンドンの財界筋)でやかましい問題になつてゐるのが戰爭の終結を條件とした保險を保險會社が受付けるかどうかだ、再びロイター電報を引用しよう

今シテイで熱心に討議されてゐるのは、戰爭の終結に對する保險を許すかどうかだ、例へば專ら政府相手に仕事し組織されてゐる會社は、率然として戰爭が濟めば非常に損をするから、多數の會社や個人が戰爭の繼續に純粹に利害關係を持つてゐるわけだ、普通にはかういふ會社は一定期間に戰爭が終了する危險に對して保險をつける、つまり右期間内に戰爭が終了する場合保險額を「全損」するといふ偶發事件保險だ、ロイヅ保險會社は「天の下」なる如何なる危險に對しても保險を引受けるので有名だが、一九三七年ロイヅ會社その他の各保險會社が、戰爭開始の危險に對する保險は賭博にほかならないからとの理由で、開戰の危險に對する保險を一切禁止したことがあるので、ロイヅ委員會は今度も戰爭の終了に關する保險に絕對反對してゐる、ところが保險業界ではかかる道義的禁令は不當に純粹な取引を拘束するといふので、ロイヅ委員會の遣り口に反對だ、約一ケ月前に十月末までに戰爭が終了する危險に對する保險契約が成立したが、當時被保險者は二ケ月半以内に戰爭が終了する場合百磅受取るため現金で六十三磅を支拂つてゐる、しかし爾來こんな取引は一つもない

昭和十九年十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

保險の序でに流星彈に對する傷害保險について八月十六日の「タイムズ」紙の報道を次に揭げよう

流星彈による被害で個人的な對空襲保險がまた盛になつたが、ロイヅ社では特に短期傷害保險申込みの殺到だ、一九四〇年九月のドイツ空軍の大爆撃當時からの保險制度だが、第一がいはゆる「千一つ」保險だ、卽ち每月一志拂へば空襲で眼がつぶれ手脚を失つた場合五十磅の保險金が貰へるといふ保險だが、流星彈では保險金が百磅に殖えてゐる、だから率は實際には「二千對一つ」といふ譯だ、第二が三ケ月保險で三ケ月に五志歩合の保險金で爆死、失明とか手脚を失つた場合、上述の保險金のほかに傷害に對して每週慰藉料を貰へる仕組だ、双方の保險とも戰爭の危險による死乃至傷害その他一切の事故に適用されるが、一九四〇年九月當時から流星彈攻撃が始まるまでの小康期間每日の保險金支拂ひ高は平均約十六萬磅であつた、ところが最近數週間每日の支拂ひ高は双方で約二百萬磅に達してゐる、この保險制度が實施された當時經營主が社員に對し無料で保險をつけてやつてゐたが、政府が空襲犠牲保險に對する補償については一定の公式尺度を採擇したので、保險料は經營主の助成によらず個人の負擔にした方がいいといふことになり、財務省令で一九四〇年十二月以前に、集團保險制度のもとに社員に保險をつけてゐない經營主は、今後社員のために個人空襲保險について直接間接補助してはならないといふことに極つた

英國の戰時保險局の發表では、九月二十五日から戰時貨物保險率が一五%乃至五〇%方引下げになつてゐるが極めて實際的な英國人は漠然と戰爭の終結を希望してゐるといふよりも、それぞれの利害打算の上に立つて歐洲戰爭一段落後の對策に腐心してゐると見るのが至當だ、最近の實例を擧げれば先づ小賣商全國評議會の運動だ、ロイター電報によれば、議會では「戰後」における權益擁護のため上下兩院議員說得に着手したといふ

政府は出征したため商賣を止めた小商人に對し戰後の復業を約束してゐるが、協議會としては先づこの公約の履行を迫る方針だ、去る七月ウインスター卿が、出征した小商人は復員後從前と同じ條件で店を取り戻し、五年間の期限で安全に店を借りられるようとの法案を上院に提出小商人——主として一人だけで商賣してゐる人達だが——五十萬人以上が法案の適用を受けようと說明したが、協議會はこの法案の成立に力めることとならう

大工業の部門では貿易復興の場合を夢みて、青年層が殆んど全部前線に出てゐるので、熟練要員が不足しはしないかと心配してゐるといふし、出征軍人扶助協會長サー・ウオールター・ブレースワイトはまた次の通り述べてゐる

前大戰の後歸還兵士は何ら訓練も受けずに小商賣、養鷄所のやうな仕事を始めたが、至るところ個人的な經濟悲劇が演ぜられた、今度は軍人扶助協會がいろいろ歸還兵士のために機關を設置、材料を集めてゐるので、同じ悲劇は起さない決心だ

氣懸りな米國の商權擴張

英國人が所謂「ハイエナの皮算用」に耽る際、もう一つ夢魔のやうに頭にこびりついて離れないのが、米國と競爭しながら商權の回復が出來るかどうかといふ不安だ、「デーリー・メール」紙は曰く

空軍省次官バルフオア大尉は戰後空路の競爭で英國は到底他の國々と太刀打ちは出來まいとの各方面の批判に對して、英國は戰爭のため民間航空計畫を悉く延期するの已むなきに至つたが今後數週間に素晴らしい躍進振りをお目にかけようと豪語した、しかし當局のおつしやることは何時も同じだ、バルフオア大尉が英國の航空機工業の能率について確信を披瀝するのは結構だが、近い將來に米國の優位に追ひ付けるなどと放言するのは無用なことだ、英國では新しい大型輸送機が出來上るのは一九四九年までかかるのに、米國では來年早くも同じ型の輸送機が出來上り、他の型が一九四五年三月、一九四六年四月とどしどし出來上つて行く、英國ではこの型にはまだ手も付けてゐない

昭和十九年 十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

一、歐洲戰爭が一段落して兵員の復員が實施されるとともに、卽ち陸海空三軍にわたり全般的に給與を增額する、その上東亞戰線に派遣される兵員には特別手當を追加する

二、ロンドン及びイングランド東南部を除き、十月十五日から一切の民防衞を大幅に削減する、かかり切りの防護團員はほとんど全部解放し、時間極めの團員も相當削減する、まづ六十歲以上の男子、四十五歲以上の女子を免除す

三、十四歲以上の男子はすべて陸海空三軍の何れか一つで訓練を受ける、十八歲に達すれば一年間强制的に陸海空三軍の正規兵役に服する、例外は健康上の不適格に限る

給與增額は歐洲戰爭の終了とともに卽時實施されるが、增額の條件として「服役年限」が陸海空三軍についてそれぞれ考慮される、しかし東亞戰線に出動する兵員については當然特別手當が支給されるわけだ、一般の場合「服務年限」は三ケ年で、增額は大隊長卽ち中佐級まで適用されることとならう、海軍の場合では服務三年間以上の兵士に對し、一日一志三片卽ち約五割の增給となり、大佐まで增給が適用されよう

鳴物入りの社會保險法案

次ぎが「搖籃から墓場に至るまでの人生の危險に對する安全保障」といふ看板の「國內社會保險計畫」(Internal Social Security Programme)だ、內容は九月二十五日白書で發表されたが、社會保險機構の元締オツクスフォード大學のサー・ウイリアム・ビーヴアリツヂは、まだ白書をよく研究してゐないから批判は出來ぬといつてゐるしロイター電報によれば「社會保險機構は尨大且つ複雜だから、各方面ともまづ充分研究した上でないと、贊否の意見を差控へるといつてゐる」さうだし、更に復興相ウールトン卿とともに起案に當つた閣僚のサー・ウイリアム・ショウイツトが、いよいよ法案を提出して議會で審議を了するのは太平洋戰爭が濟んだ後だらうと洩らしてゐる位だから、一寸簡單に全部を傳へることは困難だ、しかしビーヴアリツヂ教授の社會保險法案(乙)は既に全文が本社に屆いてゐると思ふから、今度の案(甲)との比較を次に傳へよう

一、乙案では被傭人の保險料が週四志三片となつてゐるが、甲案では三志十片に減額

一、乙案では妻帶者に對し年金週二十五志で、爾後二十年で週四十志まで增額されることになつてゐるが、甲案では妻帶者に對し初めから週三十五志支給

一、乙案では子供一人につき家族手當週八志を支給することになつてゐるが、甲案では二人目の子供から週五志、但し他に食事と牛乳を支給

一、乙案では結婚手當十磅を支給、甲案には結婚手當がない

一、甲案では產兒扶助料として四磅支給、乙案にはなし

一、女子勞働者は失業する場合、乙案よりも週四志だけ多く甲案は支給

一、子供のない五十歲以上の寡婦は、甲案では週二十志の年金を受けるが、乙案にはなし

一、孤兒は甲案では週十二志の年金、乙案にはなし

一、疾病並びに失業手當について、乙案には年限がないが、甲案ではそれぞれ三年と三十週間の給與年がついてゐる

進取と企畫の精神に害あり

同案が發表された當日のロイテル電報によれば英國內は同案の話で持ち切りで「ロンドン兒は地下鐵やバスや電車の內でも膝の緖を切つて日頃の憤みを忘れ、見ず知らずの他人同志頻りに批評を交はしてゐる」といふことだ、復興相ウールトン卿は記者團を集めて

一國民の偉大さは生活水準の如何で極まる、社會保險制度は英國では別段新しいことではなくこの方面の法制では世界の先覺といつてよからう

と大見得を切つたといふが、如何に立派な卓上計畫を樹てても、資金がなければ「地に畫いて餠を作るが如し、啖ふべからざるなり」だ、「フアイナンシヤル・タイムズ」紙は「果して英國民はかかる保險計畫を負擔出來るだらうか?」と反問し「デーリー・テレグラフ」紙は「社會保險計畫の實現は將來における產業の大膨脹を主要前提とする」と早くも疑問符を提示してゐる

昭和十九年十月四日(水)
第三一九九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

勞働黨その他左翼分子はサー・ウイリアム・ビーヴァリツヂの提案以來既に滿二年今更政府が讓歩して社會保險法案を持ち出したとて愈々實施されるのは百年河清を待つに等しい、殊にサー・ウイリアムが支給額の決定に當つて特定生活費指數を基礎としたと述べてゐるのに、政府案は物價の騰貴を全然考慮に容れず、金額で仕切つてゐるのは非科學的だと初めから白眼視してゐる樣子だ、ところが右翼分子は完全な生活は進取と企畫の精神に害ありと稱して難色を示し、殊に保險業界は當局に「搖籃から墓場まで」の危險を保障されては商賣が上つたりといふので、民間企業壓迫だと敦圍いてゐる、細目についても「タイムズ」紙など

學校における無料給食案も結構だが、現實には兒童榮養計畫が十分發達するまでには何年もかかるだらう

と駄目を押してゐる、いづれにせよ社會保險計畫が、英國における國內戰線の最大懸案として上下兩院での論爭の焦點となることは間違ひなく、サー・ウイリアム・ビーヴァリツヂも補缺選擧に打つてでるさうだからウエストミンスターは戰局をよそに暫らく社會保險案の討議で賑ふことだらう

戰局の現實に夢薄れる

英國政府は續いて勞務補償計畫を發表してゐるが、年額六億五千萬磅の支出を果して捻出できるかが問題だ、畫餅はいくつ並べても腹の足しにはなるまい、議會は再開で英國も政治季節に入り、勞働黨の全國執行委員會は、歐洲侵寇作戰のため延期された年次大會を十二月十一日開催するに決定、政治休戰の存續その他が早くも問題化してゐるやうだが、戰局の前途について樂觀論ばかりが英國內に橫行してゐるわけでもなささうだ、ゲツベルス[illegible]こそぎ動員に乘りだした當時「フアイナンシャル・ニユーズ」紙は

ドイツ政府の根こそぎ動員案をなん等意味がない一片づけるのは、全くの自己陶醉だ、ドイツ國內の現狀は「英本國の戰」當時の英國に似てをり、今後數ケ月以內に最大限の生產力を確保しようと警告したが「デーリー・エキプレス」紙も九月二十八日の紙上で

ドイツの戰力は依然として偉大だ、しかも祖國防衞の戰ひだといふので戰力には一段拍車がかけられよう、ドイツ國民は絕對持ち耐へ得ると確信してゐるのだから、今年中に歐洲戰爭が片づくなどといふ安易な樂觀は禁物だ、反樞軸軍は冬越しの戰爭を覺悟せねばならない、ドイツ軍は比較的狹い地域に空軍と高射砲とを集結できる有利な立場に在り、全國民は一時の土地を讓るよりも寧ろ敢鬪玉碎を選ぶに違ひない

と述べてゐる、英國人が漠然たる期待と戰局の現實との間に、否社會保險案に盛られた理想、卽ち內治外交上における自國の立場との間に戶惑ひする所以であらう

資料

米國のゴム新規格

「フアイナンシヤル・タイムズ」紙
九月五日

戰時生產局ゴム部長ブラツドレー・デユーイは自分の仕事が終り「お役が濟んだから」といふわけで引退することになつた、彼の豫想によれば現在の合成ゴム工場のうち半數は戰後も存在を續けるであらうし、また現在一番よくタイヤに使はれてゐるブナ・ゴムは戰後一ポンド約十五仙位の値段で賣られるだらうといはれる、一方戰時生產局ゴム部ではゴムの品質、種類についてこれまで公布された基本的な規格及び改正規格を更改する旨發表したが、新規格の內容は多くの點で天然ゴムから合生ゴムに乘り換へる過程の進步を反映してゐる、例へば新規格は今まで中型トラツクのタイヤの合成ゴム割合が七十パーセントだつたのを九十パーセントに改正し、特別用ゴムの中の天然ゴムの割合を百パーセントから三十パーセントに引下げるほか、あらゆるトラツク用タイヤ及び大部分の航空機用タイヤのチユーブを合成ゴムのみで製造するやう規定してゐる

大正十五年十月廿八日第三種郵便物認可　昭和十九年十月五日(木)　第二〇〇號

同盟通信 海外電報 (229)

發行所　東京市麹町區日比谷公園二番　株式會社同盟通信社　編輯兼發行人　鈴木勇伊八

【目　次】

對日攻勢作戰會議……二二七四
ワルソー蜂起軍遂に降伏……〃
一部は脫出……〃
降伏の影響甚大……〃
獨空軍の新銳機出動……〃
バツキンガム宮に流星彈命中……〃
重慶、チヤーチルの演說に激昂……二二七五
フイリツプス問題蒸し返し……〃
【米　國】
日本本土の空襲可能……二二七六
海軍兵力四百萬に近づく……〃
【ソ　聯】
再びトルコを攻撃……〃
浦鹽、レ市間の電話連絡……〃
【南　伊】
ソ聯勞働組合對伊工作……〃
【亡命政權】
依然解決の道塞がる……二二七七
ソ聯またも難癖……〃
【東南歐】
羅裏切政權再組織か……〃
【反樞軸陣營】
米英ソのドイツ占領案……二二七八
米、蔣間の意見相違……〃
【英　國】
世界鐵鋼生產高……〃
【特　輯】
デュウイの外交政策……二二七九—二二八三
【資　料】
日本軍新作戰の意義……二二八三

フランス美術品無事

（リスボン二日發）ロンドン來電＝反樞軸軍最高司令部附中佐ウエツグの言明によればフランスの國寶的美術品は有名なバイユーの綴織、モナ・リザの肖像、ミロのヴイーナスを初め殆んど全部無事で、數多い歷史的建築物記念碑も破壞を免かれたといはれる、但し個人の蒐集、特にユダヤ人所有の藝術品には多少の被害があつた模樣である

世界の眼

英國では戰爭目的といひ米國では戰後經營案と呼んでゐるが、要するに無名の師をどうこじつけようかといふ言葉の遊戲だ、ところが「エコノミスト」誌は九月二日の誌上でローマにおけるチヤーチルの演說を引用し「英國人が過去五ケ年間戰つてきた理念を全世界に闡明した」七ケ條として提灯を持つてゐるお笑草にチヤーチルの七ケ條なるものを紹介すれば一、自由に意志を表明し時の政府に反對し批判する權利を認めてゐるか一、國民が反對な場合に內閣を更迭出來るか、國民が以上の意志を發動する憲法上の制度が整つてゐるか一、執行部の壓迫を蒙らず群衆の暴力をうけず、特定政黨となんら關係のない獨立の法廷が存在してゐるか一、これら法廷が正義と品位（デシンシー）の一般原則に基く公布された確固たる法律を執行するか一、公私の別なく官民の隔てなくフエア・プレーが行はれてゐるか一、國家に對する義務は別だが、個人の權利が維持され主張され高揚されてゐるか一、家族を養ふため額に汗して働く農民と勞働者とが單一政黨の支配下にある警察組織のため公判を經ずに桎梏のもとに拉致される懸念を抱いてゐないか、以上は「エコノミスト」誌によれば「抽象的ではなく具體的で、理論的でなく實際的な」英國の戰爭理念だといふ

以上の定義が果して妥當なりや否やは暫く措かう、しかし假りに一步を讓つてチヤーチル首相の七ケ條を鵜呑みにすれば、英國は今回の戰爭において明に以上の戰爭理念を拋棄したといはねばならない、チヤーチルはナチ政治理念と人身保護律以來の英國の法制を對比するつもりで以上の七ケ條を揭げたのであらうが、クレムリン宮裏の獨裁執政は民主主義の讚言をなんとみるだらうか

昭和十九年 十月 五日(木)
第 三 二 〇 〇 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

對日攻勢作戰會議

(リスボン三日發)サンフランシスコ來電=米海軍當局は海軍の最高首腦部が最近サンフランシスコで日本に對する新攻勢作戰協議のため重要會談を開催したと言明した、この會談には海軍長官フオレスタル、海軍作戰部長兼聯合艦隊司令長官キング、太平洋艦隊司令長官ニミツツ、太平洋第五艦隊司令長官スプルーアンスをはじめ太平洋水域にある主要司令官が參加したが、會談の開催された日時及び協議の具體的內容は不明である

ワルソー蜂起軍遂に降伏

(ストツクホルム三日發)ロンドン來電=ポーランド祖國軍總司令官コモロフスキー中將はワルソーにおけるポーランド軍は優勢なドイツ軍に對し六十三日間に亘つて英雄的鬪爭を續け食糧彈藥を悉く費ひ果した後遂に抵抗を中止した旨三日公報をもつて正式に發表した

一部は脫出

(ストツクホルム三日發)ロンドンにある亡命ポーランド政權側の放送局はワルソー蜂起軍の降伏に關し三日次の通り發表した

モンテル大佐の指揮するワルソーのポーランド祖國軍は降伏を決議した後、ドイツ軍に一切の武器を明け渡した、但しポーランド祖國軍の一部は激戰の後血路を拓き、既にヴイスツラ河東岸に到達した

降伏の影響甚大

(ストツクホルム三日發)ロンドン來電によればワルソー蜂起軍司令部は刀折れ矢盡きて、二日午後八時抗戰停止を發令、つひにドイツ軍の軍門に降つたといはれるが、八月一日の蜂起開始以來ワルソー關門にせまつた赤軍からは見殺しにされ、米英兩軍飛行機が空中から補給する僅かの軍需品を賴りに、六十三日間にわたつて續けられた英雄的鬪爭は無慘にも失敗に歸したわけである、ロイターのロンドン電報は三日朝

ワルソーから市民を避難させるため、ワルソー市のポーランド赤十字社とドイツ軍との間に一時休戰が成立したと報じ、ワルソーからのD・N・B電報は赤軍將校の率ゐる蜂起軍の一部は降伏を阻止しようと圖つたが、短時間の交戰の後武裝を解除されたと報じたが、三日午後ロンドンに達したボール將軍の報告により、以上は全て誤報で、休戰でなく全面的降伏であることと、ワルソー蜂起軍のなかには赤軍將校は一名も存在せず、終始一貫、孤立無援で戰はれたことが明かにされた、ワルソー蜂起軍の降伏が反樞軸陣營、特に今後のソ波關係に如何なる影響を及ぼすかについては豫斷を許さないが

一、ソスンコフスキーを罷免して、ソ聯との和協への道を拓いたと信ずるミコライチク政權はワルソー蜂起軍の降伏によつて、ソ聯と話し合をつける道が閉がれたことを知るであらうし

一、歐洲小國は大國が利益の前には如何なる行動をも敢へてすることを知らされるであららうし

一、更に今回の事件を契機として米英ソ三國の關係は一段と緊張するであらうことは容易に想像されるところだ

獨空軍の新銳機出動

(ベルリン三日發)ドイツ軍當局は三日次の通り言明した

西部戰線におけるドイツ軍の抗戰は時々刻々强化され、より多數の兵力、兵器が續々注ぎ込まれてゐる、アーヘン周邊における最近の空中戰に徵しても、ドイツ空軍の戰力强化が目立つてゐるが、右空中戰でドイツ空軍の特殊編隊が異常の戰鬪力を發揮し、反樞軸軍としても手剛い相手にぶつつかつたことがわかつたらう、特殊編隊は絕えず兵力が增大してゐる

バツキンガム宮に流星彈命中

(リスボン三日發)ロンドン並びにイングランド南部一帶に對するドイツ軍の流星彈攻撃は依然繼續してゐるが、ロンドン來電によればバツキンガム宮殿に再び流星彈が命中、庭園とあづまやとが破壞されたといはれる

昭和十九年十月五日(木)
第二〇〇〇號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

重慶、チヤーチルの演說に激昂

(リスボン四日發)英國首相チヤーチルが二十八日の下院演說で重慶の敗戰を公然としかも强烈に難詰したことは俄然重慶を極度に憤激させ十月二日、軍事委員會代言人の聲明をもつて强硬な反駁を發表、日頃の忿懣が爆發して「共同の戰爭」の裏面にわだかまる內訌が表面化するに至つた、重慶の反駁聲明につきUP特派員は三日次の通り報道してゐる

先週チヤーチルが下院で「重慶は米國から湯水のやうに援助を受けてゐる」と聲明したのに對し重慶軍事委員會は痛烈な竹篦返しを加へて米國の援助不足を攻擊し、重慶軍にたいする援助補給は哀れなほどに不足してゐることを指摘し米軍第十四航空部隊の勢力を表現して「餘りに弱少で、若しその實勢力が明かにされたら殆んど信ぜられないほどだ」と述べ、更に重慶に與へられた援助補給の數量を「反樞軸軍の一個師團が一週間の戰鬪に使用する量にも足りない」と强調した

この聲明はチヤーチルが下院で「米國の援助に鑑み重慶の打ち續く敗戰は最も遺憾なことである」と言明して以來、重慶の心中に積り積つてゐた鬱憤を初めて公式にぶちまけたものである一方、重慶來電によれば機關紙の大公報も三日の紙上でチヤーチルの重慶敗戰論に批評を加へ、英國こそ大部分の援助を米國から仰いでゐるにも拘らず敗戰續きではないかと次の如く痛論してゐる

英國の注意を先づ喚起したいことは、重慶が英國よりも長期にわたつて戰爭を續けてきたといふこと及び英國こそ米國の援助の大半を享受してゐるといふ事實にも拘らず、英軍は極東で依然として軍事的蹉跌を喫してゐるといふ實狀だチヤーチル首相は戰況報告でインパール戰鬪における英印軍の活躍を稱揚したが、重慶は大部隊を怒江戰線に移して龍陵、騰越の攻擊に向け敢へて湘桂鐵道の防衛を弱體化させた、重慶がこのやうな措置をとることがインパールの英印軍に對する日本軍の攻勢を阻止しようとする英國の御意に召さなかつたのであらう、しかし、今や日本軍は印緬戰線からその部隊を撤收し、他方では怒江戰線の龍陵守備部隊を增援してゐるのである、この時に當り怒江の重慶軍は西方のインパールから英軍がこれに呼應する行動に出ることを極度に必要としてゐるにも拘らず英軍は消極的態勢をとつてゐるに過ぎない

フイリツプス問題蒸し返し

(ストツクホルム三日發)ロンドン來電=米國大統領の印度特使フイリツプスをめぐる米英兩國の確執は英國側のフイリツプス彈劾にも拘らず、當人がルーズヴエルトの承認を得て印度特使居坐りを聲明したため、俄然蒸し返しの狀態となつたが、最近米國を訪問して反英派の上院議員ジョンソン、チヤンドラーなどとフイリツプス問題で泥試合を演じた英國保守黨下院議員レジノールド・パーブリツクは三日、英國はこの問題で飽くまでその主張を貫徹すべきだと次の通り言明した

余は最近のうちに下院で外相イーデンに對し、いはゆるフイリツプス事件の直後英國政府は何故米國政府に對し同人の本國召還を要求しなかつたかその說明を求める意向である、余はまたイーデンに對して今後米英兩國關係を害するやうな同種事件の發生を防止するために、政府が直ちに適當な措置を講ずること、及びフイリツプスが今後、いやしくも英帝國と關係ある地位につく時は、英國政府としては彼を「不同意人物」と見做さざるを得ないことを米國政府に通達するよう要求するだらう、余が米國を離れる時はジョンソン及びチヤンドラーもフイリツプス問題に關する彼らの動議を引込めるやうだつたし、米國政府もまた米英兩國の親善關係を害するやうな事件の再發防止のため、何らかの措置を講じようとしてゐるかに思はれた、しかるに余はフイリツプスが依然として米國大統領の信任の下に印度特使にとどまることになつたとの報道をみて驚かざるを得なかつた、余はこれを默視することは出來ない、この問題はこのまま放置することを許さず、余は最近の機會にこれを政府當局の前に提起するであらう

昭和十九年 十月 五日(木)
第 三二〇〇 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米 國】

日本本土の空襲可能

(リスボン三日發)ワシントン來電=日本本土に對する大規模な空襲は地理的事情によつて差當つては殆んど不可能だとの意見が通説となつてゐるが、ワシントン軍事專門家間では最近米國空軍がたとへ大陸に大きな航空基地を獲得しなくても空母を基地とする海軍機によつて日本々土に對し十分本格的な爆撃を加へ得るとの意見が有力となつてきた

卽ち彼らの意見によれば日本々土の島はたしかに航空基地として素晴らしい地位を占め、日本軍は戰局の變化に應じ、その空軍勢力を一點に集中することも或ひは分散することも意のままになし得ることは事實だが、これと略々同樣の事情下におかれてゐるフイリピン諸島に對して最近ハルゼー麾下の機動艦隊が大規模爆撃を行つたことは日本々土に對する空爆不可能說を事實をもつて覆へしたものであり、日米空軍力の相違が現在の如く著しい時はたとへ日本が如何に有利な戰略態勢下にあらうとも空母による本土空襲は可能であると主張してゐる

海軍兵力四百萬に近づく

(ストツクホルム二日發)チドニンガルナス通信社は米國の海軍力を次のやうに報じてゐる

過去五年間に海軍航空隊の兵力は二十倍に達し海軍の人員は二十四倍となり、現在殆んど四百萬人に達しようとしてゐる、また、艦艇の建造計畫も依然として增大してをり、本年下半期においても依然增大し續けるであらう、しかして本年上半期に比し後半期は約十パーセントの建艦率の增大を示すだらう

【ソ 聯】

再びトルコを攻撃

(モスクワ二日發)ソ聯共產黨機關誌「ボリシエヴイーク」は十六號の「讀者の質問と回答」欄においてドイツとの斷交後のトルコの態度をとり上げ、次の通り非難してゐる

トルコ政府は實際にドイツと斷交したやうな印象を强めようと努めてゐるが、斷交を具體化する措置は一向にとられてゐない、トルコ新聞界もまたドイツとの斷交が反樞軸にとり極めて有利である所以を强調、バルカンにおけるドイツの衞星諸國に戰線から離脫せよと呼び掛けた、特にヤルチンの如きはブルガリアに呼び掛け、トルコは道義的支持を與へるに吝かでないと稱してゐたが、赤軍がブルガリア領內に進駐するやヤルチン一味は周章狼狽忽ち態度を豹變してブルガリア國民政府の尻押しをやり出す始末だ事實から判斷すれば、トルコの對獨斷交は單に言葉の上だけのことで、實際には獨土兩國間の關係は今日に至るも維持されてをり、ドイツの出先機關はトルコにおける活動を一段と强化してさへゐる、外人記者の報道によれば、トルコは戰爭が終るまで一九四一年六月十八日の獨土友好條約の維持を前トルコ駐在ドイツ大使パーパン氏に公約したと傳へられるのも以上の事態を完全に裏書してゐる

浦鹽、レ市間の電話連絡

(モスクワ二日坂田特派員發)「イズヴエスチヤ」紙ウラジオストツク特派員の報道によれば一萬粁を距たるウラジオストツク、レニングラード兩市間に最近直通無線電話連絡が完成し一日二回定期的に通信を交すこととなつたといはれる、またソ聯極東地方と黑海沿岸、オデツサ間にも直通電話線連絡を樹立するため既に着工してゐると傳へられる

【南 伊】

ソ聯勞働組合對伊工作

(モスクワ三十日坂田特派員發)ローマからのタス電報によればソ聯勞働組合代表團は去る二十八日イタリア勞働組合員と會見、イタリア勞働者の狀態並びに勞働組合運動の組織と運營につき協議を行つたほか、イタリア政權首相ボノミ、農相グロ、商相兼勞働相グロンキとも會見したといはれる

昭和十九年 十月 五日(木)
第 三 二 〇 〇 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【亡命政權】

依然解決の途塞がる

=波政權に難路續く=

(ストツクホルム二日發)モスクワ來電によればルブリンのポーランド國民解放委員會側のポーランド「解放」軍司令官ローリヤ・ジミエルスキーが、一日ワルソー蜂起戰場から遠く難を避けてゐたと稱して新ポーランド軍司令官ボールことタデウス・コモロフスキー中將に難癖をつけたのに引き續き、ポーランド國民解放委員會議長オソブカモラフスキーも二日の記者團會見でボール將軍は「裏切者」だ、彼は早まつて蜂起の火蓋を切り、ポーランド人二十五萬以上を犬死させた廉で軍法會議にかけて死刑に處すべきだとコモロフスキーを叛逆者呼ばはりしたといはれるが、かねてソ聯側から罷免を要求されてゐたソスンコウスキーを處分してクレムリンとの交渉への道を切り拓かうと圖つたロンドンの亡命ポーランド政權は思はぬ難關に逢着するに至つた

ソ波關係に變りなし

ロンドン來電によればミコライチク政權當局は二日モラフスキーと正面衝突を避ける爲ボールが蜂起中ワルソーを留守にしてゐた事實を認めたがボールが赤軍第一白露戰線軍司令官ロコソフスキー元帥と連絡を採つた事實を强調してボールのポーランド軍司令官就任は不當ではないと抗辯したと傳へられる、以上に關しロイターの外交記者ランダル・ニールは亡命政權の立場を辯護してルブリンの解放委員會がボールを攻擊したからといつてミコライチク政權がボール支持方針を放棄するやうなことはあり得ない、亡命政權がソスンコフスキーを罷免したのは彼の政策や行動が亡命政權の政策と背馳したためだが、ボールは亡命政權との協力關係を不斷に維持してゐた、從つてソ波關係に關する限りミコライチク政權閣僚達の立場に變りはないとみてよからう亡命政權は八月末にスターリン議長の手許へ屆けた覺書の立場を固守してをりクレムリンから覺書に對する解答がない限り事態は何らの變化もないと論じてをり、更にロンドンからのUP電報も次の通り報じてゐる

ミコライチクは八月末のソ波和協方式に關する覺書の回答を待ち佗びてをり、それまではチヤーチルが示唆したミコライチクのモスクワ再訪問も恐らく實現されまい

ソ聯また も難癖

(ストツクホルム一日發)ロンドンの亡命ポーランド政權はソヴエトとの間に衝突を起したソスンコフスキーを罷免し、新たにポーランド蜂起軍司令官コモロフスキーを亡命ポーランド軍の總司令官に任命したが、ソヴエト側では新人事に對しても依然難色をみせてゐるといはれる、モスクワ來電によればモスクワにあるポーランド國民解放委員會の國防代表ロラ・ジミエルスキーは一日記者團會見において、ワルソー蜂起軍司令官コモロフスキーが事實上蜂起軍の指揮に當つてゐなかつた旨次の通り述べたといはれる

コモロフスキーは叛亂軍が蜂起して以來ワルソー市内にはゐなかつたし、現在も彼は約二十哩も離れた郊外にをり、ワルソー市内で指揮を採る位置にはゐない

右のジミエルスキーの言明は恐らくソヴエト當局の意向を代辯したものとみられ、亡命ポーランド政權が以上に對してどういふ反應を示すか注目される

【東南歐】

羅 裏切政權再組織か

(モスクワ二日發)ブカレストからのタス電報によれば、ルーマニア政權再組織の噂が流布されてゐるといはれる、理由は國王ミハイが聯立内閣の組織を提案したに對し、最高會議員のマニユーが拒絶したためと傳へられるが、新政府の首相はスチルベイで三名の共產黨員が閣僚の椅子を占めるものとみられてゐる

昭和十九年十月五日(木)
第三二〇〇號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

米英ソのドイツ占領案

(ストツクホルム二日發)「スヴエンスカ・ダーグブラデツト」紙の九月二十二日のニユーヨーク特電は反樞軸軍がドイツを擊破した場合の米英ソ三軍によるドイツ占領案につき次の通り報道してゐる

ケベツク會談では、米英軍が占領すべきドイツ西部と赤軍が占領すべき東部との境界線が決定された、この線はバルト海のリユーベツク灣から南に下つてエルベ河に至り、この河に沿つてボヘミアに至るが、ベルリンを含むその東方地域を赤軍が占領し、西方地域を米英軍が占領することになつてゐる

米、蔣間の意見相違

(ストツクホルム三日發)アフトンチドニンゲン紙のワシントン特派員は次の通り報道してゐる

在支米空軍は既に衡陽、零陵を喪失し、麗水と玉山は切離された、しかしてこの戰局に當り米國の軍首腦部と蔣介石との間には意見の相違があり米國側は重要な各航空基地を防衛する必要から重慶軍の訓練を希望したが、蔣介石は米國軍隊を基地防衛に使用すべきことを望んだ、しかし蔣の最精銳部隊は共產軍に對抗して北方邊區に配置されてゐるので、米國軍部では重慶軍が數百萬もゐるこの際米軍部隊を支那に持込む必要はないと考へた、蔣介石はまたビルマの戰鬪に參加すべき尨大な重慶軍を訓練しようといふスチルウエルの提案に反對し、彼に對して數個師の重慶軍を訓練することを許容したに過ぎなかつた、米國は蔣介石に對し、重慶軍を再編成すること、重慶の嚴重な檢閲を緩和すること、延安との交涉及び對ソ關係の解決に努めることなどを督促した、かくして外人記者團は北支及び延安への訪問を許可されソヴエトとの交涉も開始され、また蔣介石はインフレーションを抑制するための經濟的再編成に關するネルソンの提議に同意したといはれる、これに對し重慶は現在失陷した空軍諸基地を重慶治下の地域に更に建設するための提案を米國に提出し、また重慶は米貨一弗に對し法幣二十弗を正式の爲替率として採用すべきことを主張したといはれる

【英國】

世界鐵鋼生産高

(リスボン一日發)英國經濟誌「メタル・ビユレテイン」は世界主要國の銑鐵及び鋼鐵生産高として次の數字を揭げてゐる(單位千トン)

	銑鐵		鋼鐵	
	一九四二年	一九四三年	一九四二年	一九四三年
濠洲	一、五〇〇	一、六〇〇	三五〇	三六〇
ベルギー	二〇〇	—	一、七六〇	一一、七六〇
ブラジル	一、四〇〇	一、六〇〇	一八、〇〇〇	一六、〇〇〇
カナダ	七、五〇〇	七、二五〇	五〇	—
フランス	二、三〇〇	二、五〇〇	八〇〇	四〇〇
ドイツ	一、二〇〇	一、三〇〇	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇
英國	五二八	五三三	七〇四	八〇〇
印度	五三、六〇〇	五四、五五〇	三六〇	三二四
イタリヤ	南阿聯邦		一九四二年	一九四三年
ルクセンブルグ	濠洲		一、五〇〇	一、五五〇
ソヴエト聯邦	ベルギー		三五〇	三六〇
スペイン	ブラジル		一六〇	一六〇
スエーデン	カナダ		二、八〇九	二、六七八
米國	フランス		二、〇〇〇	二、二五〇
	ドイツ		二二、〇〇〇	二〇、〇〇〇
	英國		一三、〇〇〇	一三、〇〇〇
	印度		一、五〇〇	一、六〇〇
	イタリヤ		二、五〇〇	一、〇〇〇
	ルクセンブルグ		一、五〇〇	一、六〇〇
	ソヴエト聯邦		一一、〇〇〇	一二、〇〇〇
	南阿聯邦		四五〇	四六〇
	スペイン		六三七	六四七
	スエーデン		一、一三九	一、〇〇〇
	米國		七六、八六九	七九、三五〇

昭和十九年十月五日(木)
第三二〇〇號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

デユウイの外交政策

木下秀夫

米國の大統領選擧戰は今や正に酣である、共和黨大統領候補トーマス・デユウイは目下全米を遊説中であり、去る九月七日フイラデルフイアにおける演説を振出しとして、ケンタツキー州ルイスヴイル、ワシントン州シヤトル、オレゴン州ポートランド、カリフオルニア州ではサンフランシスコとロサンジエルスの二ケ所ですでに數回にわたり重要な演説を行つてゐる、これに對し民主黨候補のルーズヴエルトも九月二十三日に彼のいはゆる第一回選擧演説を行つてをり、次いできたる五日にも演説する筈である

左に紹介するのはデユウイが去る八日ルイスヴイルで行つた演説の大要である、彼は現在までの選擧演説でそれぞれ演題の中心點を變へてゐる、たとへばフイラデルフイアでは彼の抱懷する內政政策を披露し、シヤトルにおける演説では勞働政策を闡明した、これに對し彼が外交政策に對する見解を發表したのがこのルイスヴイル演説である

孤立主義を清算

デユウイは從來から孤立主義的政治家と目されてきた、彼の政治的活動の經歷を辿るならば、彼はたしかに極く最近に至るまでは孤立主義陣營に屬すべき人物であつた、對內問題ではニューデイール政策を非難すると共に、對外問題でもしきりにルーズヴエルト政權の干涉外交政策を攻擊してきたのである、しかるにこの彼が最近に至つては全くその態度を豹變して、最も積極的な干涉主義者になりきつてゐる

彼が孤立主義を清算して干涉主義外交政策支持の態度を明らかにしたのは勿論このルイスヴイル演説が最初のことではない、共和黨大統領候補に指名される以前においても、彼の外交問題に對する態度が漸次孤立主義から干涉主義に變りつつあつたことは、彼の言動からほぼ明らかとなつてゐたが、共和黨候補として大統領選擧戰に乘出すに及んでその干涉主義的態度はいまや疑問の餘地なきまでに明瞭なものとなつた、デユウイの共和黨全國大會における候補指名受諾演説を初め、その他の機會における言動がはつきりこれを物語つてゐる、しかしながら彼がその外交政策に對して有する抱負、經綸を最も具體的、積極的に且つ最もまとまつた形において發表したのがこのルイスヴイル演説である、デユウイが內政政策については經濟問題にせよ、勞働問題にせよ、ニューデイール政策に眞向から反對しルーズヴエルト政權を手きびしく糾彈するであらうことは、初めからわかりきつてゐたことである、しかるに彼が外交問題ではずぶの素人政治家と呼ばれるだけに、外交政策、國際問題について果して如何なる識見を持つかは不明とされてゐた、これは彼が干涉主義への轉向を明瞭にした後も依然として疑問のままに殘されてゐた、何故ならばそれまでに彼が演説なり或ひは新聞記者會見の席上なりで發表した外交政策は極めて抽象的に終るか乃至は斷片的にとどまつたからである、さればその殆んど全部を外交問題のみに限定したルイスヴイル演説はデユウイにとつては處女外交演説ともいふべく、內政問題、勞働政策等について彼の主張を發表したその他の選擧演説より遙かに注目すべき演説であらう、彼はルイスヴイル演説の冒頭において孤立主義の清算を最も明らかなる言葉をもつて主張してゐる、曰く

過去二十五ケ年間に、米國民は既に二回にもわたり米國に加へられた攻擊を防ぐために戰爭に赴いた、しかもこの攻擊のそもそもの端緒は米國を距る數千哩の彼方において起つたのである この結果われわれ米國人は次の一つの主張において完全に意見が一致した、卽ち、第三次世界大戰は斷じて起してはならぬといふ主張これである、今度の戰爭こそ最後の戰爭としなければならぬ

昭和十九年十月五日(木)
第三二〇〇號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

しかるに米國民が他の世界から孤立し、隱退することによつてこの固き決意を生かしてゆくことは出來ない、米國に與へられた問題は、將來の戰爭に引きこまれず超然としてゐることではない、或ひは戰爭が現實に起つてからこれに參戰することでもない、さに非ずして將來戰爭が發生する前にこれを防止するにある、勿論これはいふに易くして行ふに難い、過去の歷史を案ずるに、あらゆる世紀を通じて戰爭は殆んど規則的に發生して來た、そして戰爭が米國を訪れた時には、米國は擧國一致この戰爭に當るのを常とした、戰爭は黨派を超越した事件であるからである

平和問題は政爭の圈外

デユウイが孤立主義を淸算してしまつた以上、外交問題については民主、共和兩黨間には相爭ふべきものが殆んど存在しない、しかして米國現在の外交問題の殆んど全部は戰爭處理、戰後國際機構問題である、かくて今年の大統領選擧戰では外交問題就中戰爭處理問題は全く政爭の圈外におかれることとなつた、既にデユウイは國務長官ハルの要請に應じ、その外交顧問デユルズをしてハルと數次にわたり會談せしめたが、本會談の終了後デユウイ、ハルの兩名は書翰を交換して、戰後處理問題については擧國一致態勢をとり、いやしくも政爭のために國內的團結が攪亂されるごときことがあつてはならないことを强調した、ルイスヴイル演說においてもデユウイはこの點を次のごとく明らかにしてゐる

和平問題も戰爭と同樣黨派を超越した問題であり、われわれは戰爭におけるがごとく擧國一致の努力をもつて平和樹立に進まなければならぬ米國が超黨派的態度をもつて平和機構樹立問題に臨んでこそ、はじめてこの問題に對する國論の一致が達成されるのである、しかして國論の一致があつてこそ、米國は初めてその眞の力を世界に向つて發揮することが出來るであらう、余は米國が平和達成のために黨派を超越した努力を傾注し得ると固く信じ、またさうでなければならぬと確信する

この思想は既に具體化しつつある、余は最近國務長官ハルと共に國際平和安全機構樹立のための共和、民主兩黨協力の端緖を開いた、既に兩黨はこの大事業において現實に協力し合つてゐるのであり、これは兩黨のいづれが政權を握らうともそれとは全く無關係に今後永く繼續されるであらう、ただ余はこの問題について明らかにしておきたい一事がある、卽ち、余は平和機構問題は眞面目に廣く公然と論議されなければならぬ事柄であると信じてゐることである、われわれは祕密の基礎に立つて平和の問題に臨むことは出來ない、この大目標達成のためにとらるべき措置は祕密なものであつてはならない、まはりくどく曖昧なものであつてはならない、反對に米國民の信條とするところと合致しなければならない、米國民が今日支持するばかりでなく、今日も明日も更に五十年後にも欣然としてこれを支持するごとき方法でなければならぬ何故ならば、われわれが今次大戰終了の際に調印すべき文書はそれ自體だけでは平和を維持する力をもたぬからである、平和は世界各國民の長期にわたる熟心な努力と諒解と積極的意志によつて、初めて維持し得られるものであるからである、平和を維持するためには犧牲と絕えざる努力とが必要である、平和は當然來るべきものだなどといふ安易な考へ方は棄て去らなければならぬ、われわれは擧國一致をもつて戰爭を戰つてゐるごとく、國論の統一をもつて平和を戰ひとらねばならない、余が前例なき行動に出て、戰爭處理問題のために黨派を超越した會議の開催を提唱したのもこれがためである、現在共和、民主兩黨の專門家並びに上院議員はこの問題について協議を行つてゐるが、かかる協議は政爭とは關係なく今後も續けられるであらう要するに余の主張することは次の二點にある、第一に平和を達成しこれを維持するために米國がとる行動は逐一米國民に知らしておくべきこと、第二に平和處理と關係ある事項は黨派を超越した問題であり、いづれの政黨、如何なる個人が政權を握らうともこれを黨派的政治目的のために利用してはならないことこれである

昭和十九年十月五日(木)
第三二〇〇號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

日獨處分案

最近米國では日獨兩國に對する戰後の處分案なるものが頻りに發表されてゐる、戰爭の現段階において、戰爭に勝つのが反樞軸側であることを前提としたかかる案が笑止千萬なものであることは斷るまでもないが、この點に關してわれわれが最も明確な認識を持つてゐなければならぬことは、これらの處分案を通じて示されてゐる彼らの日獨兩國に對する態度が恐るべく苛酷であり、しかもこの苛酷な點においては正にデュウイの主張する如く、黨派によつてその態度に殆んど相違がなく少くとも米國の指導者階級の間にあつてはその主張が完全に一致してゐることである、日獨兩國を徹底的に擊破し、近代國家としての機能を完全に奪ひ去り、日獨兩國民が將來永久に起上ることの出來ぬやうな狀態に追ひこんでしまはうとする點において、民主黨と共和黨との主張の間にはいささかの相違もない、極めて些細なことをめぐつても眼の色を變へて相爭ふ米國でも日獨兩國の息の根をとめんとする點においては不思議な位歩調を揃へてゐる、嘗ては孤立主義者と呼ばれ、對外不干涉を唱導したデュウイもこの點にかけてはルーズヴェルトと何らの相違もない、否むしろデュウイの提唱する處分案の方が遙かに積極的、苛酷であるとさへいひ得る、卽ち曰く

しからば戰爭處理、平和樹立のために如何なる措置が講ぜらるべきであらうか、この場合われわれの前に提起された問題に全く性質を異にした二つの事柄のあるのを見逃してはならない、その一つは勝利のすぐあとに續く問題の處理であり、他は長期にわたる世界平和確保の問題である、この兩問題に對してわれわれは直ちに活動を開始しなければならないが、しかしこの二問題は全く違つたものであることを銘記する必要があらう

先づ第一に勝利のあとに續く問題の處理について考察を加へよう、余は久しい以前から繰返し現實の戰鬪行爲が終つた後と雖も、米、英、ソ重慶四大國は依然として緊密な協力關係を續けるべきだと主張してきた、日獨兩國の武裝解除——兩國が再び新しい侵略行動を起し得ないやう、これを完全に無力化することは勝利を得た反樞軸國の責任である、この責任を果すためには如何なることをなすべきであるか、先づ第一に日獨兩國を軍事的に完全、徹底的に粉碎しなければならぬ、ドイツに對してはドイツは戰爭に勝てた筈だといふ如き幻想を二度と描かせてはならぬ、一方日本も完全に擊破されなければならぬ、日獨兩國の指導者のみならず兩國民全部に對して、戰爭は割の合はぬことだといふことを骨の髓まで叩きこんでやらねばならぬ、彼らが肝に銘じて忘れることの出來ぬやうな苦い教訓を與へてやらねばならぬ、日獨兩國の戰爭犯罪者達に對しては、地位の高きと低きとを問はず、直ちに容赦なき嚴罰を加へなければならぬ、日獨兩國は完全に武裝解除すべきである、兩國からは戰爭の武器を悉く取上げてこれを全部ぶち壞すべきだ、しかしこれだけでは十分でない、われわれは更に進んで彼らから大砲や軍用機や軍艦をつくる機會をも奪ひ去らなければならぬ、忘れてはならぬことはわれわれが再び新しい世界大戰の勃發を心配しなくてもすむやうにすることである、その他の世界列强もまた今度の戰爭に全力を傾注する結果、またと大戰爭を起すやうな餘力を殘さないであらう、われわれの事業であり、またわれわれの希望は好戰國から戰爭をなし得る能力を奪ひ去ることによつて、二度と再び戰爭がわれわれに襲ひかかつて來ないやうにするにある

ドイツの場合には一つの委員會を組織する必要があらう、この委員會は戰爭終了後數年にわたり存續し、ドイツの武裝解除を監理すると共に再軍備を防止するに必要な措置を講ずる、ドイツの再軍備を防止するためには、容易に軍需工業に轉換し得るドイツ國內の工業を根絕してしまふか、乃至はこれを嚴重な監理下におくことが必要であらう、更に一定期間ドイツが航空機工業を持つことをも禁止する必要があらう、余はすでにドイツ重工業の心臟部たるルール地方全域の國際化を提唱してきた

昭和十九年十月五日(木)
第三二〇〇號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

かかる措置はただにドイツが新たに軍需生産を開始するに必要な産業設備及び原料資材を奪ひ去るに都合がよいばかりでなく、一方では同地方を歐洲全域の經濟再建事業にも利用することが出來よう

日本にたいしても同樣の措置が講ぜらるべきである、ただこの島國の場合には同國の特殊事情を考慮してドイツとはまた異なつた處分方法が講ぜられなければならぬ、いづれにせよ日獨兩國の武裝解除、戰爭犯罪者の處罰、戰爭直後の兩國產業の監理等は勝利國が義務として實行すべき事柄である、しかしてその他の諸國もこの仕事に協力を希望するものはこれに參加せしむべきであらう

國際安全保障機構

日獨兩國の國家的抹殺にも等しい處分を主張したデユウイは、さらに進んで戰後の世界組織に對する見解を發表してゐる、この國際組織の點においてもデユウイの意見が米國現政府の意見とほぼ同一であることは彼がこの演說において發表した國際機構案と、最近の米英ソ三國會談で發表された機構案とが全く同一と思はれるほど酷似してゐることによつても明らかであらう

デユウイは戰後の國際機構を論ずるに當つて小國の權利尊重を大いに强調してゐる、しかしながらこれは國內的には小國出身の選擧民に對する御機嫌とりであり、對外的には反樞軸陣營內及び中立の諸小國に對する宣傳以外の何物でもない、何故ならばデユウイの提唱するがごとき國際機構はそれ自體小國の權利を無視してこそ初めてその機能を發揮しうるからである

第二の事業は日獨兩國の處分より遙かに廣汎なものである、卽ちこれは平和維持の世界機構を樹立する事業であり、この事業には世界のあらゆる國家が平等な獨立主權國として參加すべく且つ恒久的な基礎に立つて推進されなければならぬ、もしわれわれのなすべき仕事が日獨兩國を永久におさへつけておくことのみであるとするならば、これはまことに單純なことである、この場合にはわれわれは單にこの兩國を武裝解除し、そして永久に武裝解除の狀態にとどめておきさへすればそれでよい、しかしながら日獨兩國を武裝解除さへすれば、世界平和に對する將來の脅威は悉く地球の表面から抹殺されるだらうなどと考へるならば、非常な認識の錯誤を犯すこととならう、將來を眺める時には最も明確な認識が必要であり、われわれが世界の平和確保を求める時は、單に今後十年間といふやうな短見は棄てて人類の思想が及びうる限りの遙かな將來のことを考へなければならぬ

かくてわれわれは今後五年、十年或ひは五十年後に發生するかも知れないし、今日では到底豫見することも出來ないやうな事態にも充分對處し得る如き國際機構を樹立する必要に迫られてゐる、この國際機構樹立の大事業には多くの人人の識見を必要とするだらう、一人や二人或ひは數人のよくなし得る如き容易な事業では決してない、全世界六十ケ國に上る大小の國家が相協力し、これに信賴をよせ、これに參加し、且つこれがその機能を發揮するやう努力しなければならぬ、余の意見ではこの國際機構の組織についてはわれわれは意見が一致してゐるやうだ卽ちこの機構內には世界のあらゆる平和愛好國による總會とも稱すべき組織が設置され、これには大小を問はず全部の國家がその代表を送ることとならう、更にこれとは別に少數の代表から成る理事會の如き組織を設置することについても意見が一致してゐるやうだ、この理事會はほとんど常設的とし、如何なる突發事件にも直ちに行動をとり得るやうな組織とすべく、これが構成は大國の代表から成り、一方小國も選擧によつてその代表を送り得ることとならう、かかる組織をもつ國際機構は軍事的侵略を防ぐための有效な協力措置を案出すべく、この侵略防止措置のうちには武力の行使は勿論國際輿論の喚起、道義的壓迫或ひは經濟制裁の如きも當然含まるべきであらう、一方國際紛爭を處理するための世界裁判所の設置も必要である

しかしながらなほこれだけでは不十分である、われわれは國際紛爭、衝突の抑壓だけで滿足すべきでない、武力が法と正義の忠實な奴僕でなくなつた場合には必ず反逆を起すであらう、われわれは平和が强制されたものでなく心から希望されるやうな狀態をつくり出すべく努力しなければならない、この理想を達成するためにはわれわれは小國に對して公平かつ正しい態度をとる必要があらう

× × ×

米國の大統領選擧は今や一ケ月のあとに迫つたルーズヴエルト、デユウイ兩者の勢力ほぼ伯仲し選擧の結果については全く豫斷を許さない、ただわれわれとして最も明確に認識しておかなければならぬことは兩者のうちいづれが大統領に當選しようとも、米國の戰爭方針には殆んど何等の變化もないといふ一事である、ルーズヴエルト政權が日本に對して如何なる態度をもつて臨まんとしてゐるかは既に餘りにも明らかだ、そして今またわれわれはこの次の米國大統領になるかも知れないデユウイの口から米國の戰爭目的は日獨兩國の息の根をとめるにあるとの言葉を聞かされたのである、かくて米國の政權が如何に變らうとも米國が飽くまで日本の無條件降伏を呼號して遮二無二われに迫つて來ることだけはたしかである、かかる敵に與へるわれわれの回答はただ一つ、飽くまでも實力をもつてこの戰爭を戰ひ抜き敵の非望を粉碎し、もつてデユウイの所謂「平和が强制されたものでなく心から希望されるやうな狀態」は日本の勝利によつてのみ初めて可能であることを尊大倨傲なる米國に教へ知らしめてやるにある

資料

日本軍新作戰の意義

「タイム」誌九月一日號

アジアにおける本年最大の作戰が折柄豐作の稻の收穫を終へた南支の沃野に先週から展開されてゐる、衡陽での勝利によつて湖南を制壓した日本軍は部隊の再編と休養を終り、兵站線を固めた後再び行動を開始した、最近一ケ月の間に二回も日本軍は先づ眞直ぐ廣東へ向つて南下する恰好をしたかと思ふと、直ぐまた米第十四航空隊の主要基地桂林に向ふやうな姿勢をした、そして二回とも日本軍は自己の兵力が作戰目標の達成に十分だとの確信が持てなかつたため前進を停止した、だが逡巡は最早去つた

日本軍は既に長沙、衡陽間の道路を完成し、着粵漢線復舊の工事を進め湘江の啓開を終つた、在支米空軍の飛行士は爆撃や銃撃で日本軍の心膽を寒からしめたが、それも結局大して役には立たなかつた、日本軍はこの方面の戰線に裝備と給與の優秀な軍隊を少くとも七ケ師持つてゐる、重慶軍は長沙で大砲を大半喪つた、今でも歩兵は大軍を擁してゐるが、或る米軍將校が評したやうに、「敵を踏殺せといふのは無理」である、アジア或ひは太平洋のどの戰線を見ても日本軍がこれ程多數の兵力を集結してゐるところはない、しかも日本軍は包圍殲滅戰といふ確實で試驗濟みの戰術を用ゐてゐるのだ

衡陽の眞西では日本軍の一部隊が快速の進撃によつて寶慶に到達した、他の一隊は衡陽東南の耒陽から進撃を開始して常寧に殺到した、その作戰企圖は明瞭で恐るべきものがある、常寧方面の日本軍は西方祁陽を攻略し、日本軍の進撃を阻止するため集結した重慶軍の背後を衝いた、自動車部隊の殆んどない重慶軍には日本軍のやうな機動力がない

日本軍は廣西省の首都桂林に向ひ、更にそこから佛印國境の鎭南關にでようとしてゐる、もしこの作戰目的が達成されれば、在支米空軍が上海、臺灣、海南島間の輸送路を妨害するため使用してゐた支那東岸の基地は悉く奪はれたことにならう太平洋におけるかくの如き大敗戰によつてマツカーサーやニミツツの司令部も重慶軍と同じ位の打撃を受けるであらう

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月六日(金)　第三二〇一號

同盟通信 海外電報 (230)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人　同盟通信社

世界の焦点

サンフランシスコの米國海軍首腦部會議の結果は日本に對する「新しい打撃」の方策を決定したといふ、三人よれば文珠の智慧さへ出る世の中であれば、米海軍の智嚢をすぐつたこの會議で、船が山にあがらなかつたとすれば何事か決定したことは事實であらう、そして、米海軍の敵が日本のみである現在、その決定したことが日本を叩きつける方法であることも不思議でなく、新らしい會議で新らしい決定があつたことも少しも妙ではない、眼を尖らして神經質になる必要などないので日本はきたるべきものを、そのきたるがままに迎へようとしてゐる、キングが新らたにエドワーゾと呼ぶ松葉杖を製造したからといつて、まさか一夜にして頭の改造が出來たわけでもあるまいし、羽が生えて飛ぶことにもなるまい、腰を拔かさぬ程度に泰然自若としてわれわれはわれわれのことにいそしみ決戰の日を待つのみだ、太平洋の戰局は依然苛烈である、フイリピンを叩いた敵は今度はボルネオ方面に矛を轉じた、ペリリユー以後の敵作戰のあとを辿れば、これ悉く屁ぴり腰で、石橋を叩いてゐるところ從前となんら變つたこともない、正攻法といふのださうであるけれど、袴つけて左樣然らばの殿樣劍術で、水野が長兵衞をいたぶつてゐるやうなもので、居直られた日の彼等の顏をいまから樂しみにしておかうではないか、こちらが決戰だといへば、向ふさまは長期戰だといひ、當方が長期戰だといへば、相手は短期決戰だといふ、長期戰といひ、短期戰といひ、相手のある戰爭はさうさう思ひ通りには動いてくれぬ、今日にも決戰はあらうし、明後日にもあらう、備へて憂ひなき日を樂しまうではないか

【目　次】

フランス國民委員會を結成……二二八四
更生フランス政府活動を開始……〃
獨兩使臣歸任するか……〃
獨軍の戰略戰術の「作戰重點」…二二八四―二二八五
對蔣援助の增强を要求か……二二八五
英尨大な戰債の負擔……〃
【反樞軸陣營】
重慶聲明に對する米英兩國の反響……二二八六
ルーズヴェルト重慶の非難を反駁……〃
歐洲諮問委員會の決定……二二八七
佛通信社買收に米英張合ふ……〃
【亡命政權】
波二政權互に應酬……〃
【米　國】
桑港會議を發表……二二八八
聯合艦隊副司令を任命……〃
動員解除再轉換局設置案に署名……〃
ルーズヴェルト家の舊惡を發く……〃
陸空軍損害四萬二千機……〃
九月中飛行機生產高……〃
【トルコ】
新駐ソ大使任命……〃
【西　亞】
アラブ會議の經過……二二八九
英國の分割政策を指摘……〃
【印　度】
ボンベイ會談決裂の主因……〃
【カナダ】
勞力不足に惱む……〃
【米　洲】
對佛通商協定破棄……〃
【特　輯】
マツカーサーの夢、比島侵攻作戰(上)……二二九〇―九四
【資　料】
反樞軸惡罵の應酬……二二九四

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

フランス國民委員會を結成
—ペタン元帥健在—

(ベルリン四日發)フランス國主席ペタン元帥は反樞軸軍のパリ入城に先立ちベルフオールに移つたが、その後さらにドイツ南部に移り、フランス國民委員會を結成、その首班として活躍を續けてゐる、元帥はすでに九十歳に近い老齡にも拘らず夫人、メネトレル侍醫並びに官房長ドブネー將軍とともに無事政務をみてゐる、D・N・B通信社は元帥の消息について四日「フランス政府の所在地」から次の通り報道してゐる

ペタン元帥は戰況の推移に鑑みて、九月上旬フランス政府とともにベルフオールを立ち去り、ドイツ南部に移つた、勿論ヴイシー當時に比べれば政務は少くなつてゐるが、毎日訪客を引見各種の話題について所見を開陳してゐる、毎朝十一時頃になると乘用車が官邸前に到着、元帥は近くの森に赴いて散歩するが、あまり天氣が惡い時には町のはづれの公園まで出かけて散歩する、日曜日には官邸向ひの教會に赴きミサに與る、料理人はドイツ人だが、まだ公式に客を午餐乃至晩餐に招いたことはない

更生フランス政府活動を開始

(ベルリン四日發)ペタン元帥を首班とするフランス政府は九月上旬ベルフオールからドイツ南部に移つて以來雌伏して一切の準備を進めてゐたが四日に至りD・N・B通信社は初めてペタン元帥がドイツ南部に健在な旨を報道し、OFI(ハヴアス)社もまたフランス政府の所在地における旗行列に關する第一報で通信社としての更生振りを示してゐる、勿論更生フランス政府には本國において直接支配下に入る領土なく、この意味では亡命政權の範疇に入るが、現在ドイツ國内におけるフランス人は勞務動員、亡命者、俘虜等を合せ二百萬乃至四百萬といはれ、これらフランス人の利益を代表する意味で特異の存在理由を持つてゐるといへよう

しかし更生フランス政府最大の使命は、現在國内に殘留し祖國が内亂と共産主義とへの過程を辿るに深刻な苦惱を嘗めてゐる同胞の指導誘掖にあり、新聞通信社を基調として活潑な宣傳啓蒙戰を開始する段取である、OFI社は從來通り當年四十二歳の少壯社長シヤン・フオントノア氏を首班として早くも通信發行を開始したが、近く「ラ・フランス」紙並びに他の一紙が新たに發刊される豫定である、「ラ・フランス」紙編輯長には元プチ・パリジヤン紙の主筆クロード・ジヤンテ氏が就任、他の一紙はまだ名前が極つてゐないが「ジユ・スウイ・パルトー」誌の主筆ギ・クローゼ氏が健筆を揮ふ豫定である

兩紙とも第一にはドイツ國内のフランス人を目標としてゐるが、本國における讀者をも考慮、相當部數を印刷する豫定である

獨兩使臣は歸任するか

(ベルリン四日發)マドリード駐劄ドイツ大使デーコフ博士並びにリスボン駐劄公使フオン・ホイニンゲン男は過般ベルリンに歸還、任地の情勢について本省に報告打合せを遂げてゐるが、ドイツ外務省當局は四日正午記者團との會見で、兩使臣の動靜について次の通り言明した

兩使臣が再び歸任するかどうかについては何もきいてゐないが、本省に報告するのは使臣の正常的活動で、ベルリン滯在が長引いてゐるのは戰時の異常狀態に基くに他ならない、フオン・パーペン大使がリスボンへ行くとかマドリードへ赴くだらうとか、色々噂が流布されてゐるさうだが、そんなことは問題になつてゐない

獨軍の戰略戰術「作戰重點」

(ベルリン四日發)ドイツ著名軍事評論家クルト・デイトマール中將は、四日「戰略戰術の焦點=決定的戰鬪地點」と題する論説をドイツ各紙に發表して次の通り論じてゐる

× × ×

軍指揮官にとつて最も重要なことは如何なる事態にも卽座に對應して、決定的瞬間に決定的地點において敵に優位を占めることである

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

そのためには愼重な偵察活動を展開して、地形敵の連絡線と士氣を調べ、必要な措置を講じなければならない、偵察手段は幾多の變遷を遂げた、高地からの肉眼偵察は戰場全體を把握することが出來ない、偵察機と氣球揭揚に加へるに地圖の研究、第一線からの報告、信號情報を綜合して判斷しなければならない、しかしながらナポレオンの「まづみて、しかる後攻めよ」といふ有名な言葉は今日においても眞理だ、地形を調査して、敵陣地の脆弱點を發見したならば、直ちに容赦なく執拗に攻擊すべきである、防禦軍の方も同樣だ、まづ戰線のどの地點を死守し、どの地點から反擊を展開すべきかを決定し、その地點に防禦手段の一切を集結すべきである、或る意味で防禦軍の側は主動性を握つてゐるといふことが出來るが、しかしながら戰鬪の重點を選ぶ點では制限を受けてゐるから、敵がどこに重點をおくかを待機して後行動に移るべきだ

戰鬪開始に先立ち、どこが重點を形成するかを豫知することは困難だ、ある場合指揮官は敵の陣地を模索し、豫備軍を後方に配置して、決定的地點へ直ちに投じ得るやうにしておくことも必要である

戰鬪の重點に對する對應措置としては重點地區の狹隘な戰場における兵力に攻擊乃至反擊を展開すべき時機を指令し、隣接地區から能ふ限りの兵力、器材をひき寄せることだ、また戰鬪の重點において最も重要な契機は機動性である、指揮官は決定的瞬間に備へて機甲兵力乃至戰車兵力を切札として持つてゐなければならず、航空兵力も同樣である、敵に對して兵力器材上の優位を確保してゐるだけでは不充分だ、上は指揮官から下は一兵卒に至るまで勝利の確信を抱いてゐなければならない、卽ち「精神的重點」をつくることだ、かくすることによつてのみ成功を贏ち得ることが出來る

對蔣援助の增强を要求か
ルーズヴエルト孔祥熙會談

(リスボン四日發)ワシントン來電によればルーズヴエルトは四日重慶行政院副院長兼財政部長孔祥熙と會見したが、會談後孔祥熙はドイツを擊破した後の對日決戰は一ケ年で終るものと思はれるが、重慶軍への補給をもつと增强することが必要缺くべからざることだ、日本軍の支那大陸作戰は米軍の航空基地を除去するだけでなく、反樞軸軍が重慶軍に補給をつけるため支那沿岸の港灣にとりつくことを防止するものである、支那にはかなりの數量の補給品が送り込まれてゐるが、その大部分は在支米軍の手に渡つてゐる實情だ

と言明してゐるが、これによつても米國の對蔣援助補給の增强方を正式に申入れたものと解される

英、尨大な戰債の負擔

(ストツクホルム四日發)歐洲戰爭が決戰段階に入り、英國內に戰爭の前途に關する樂觀氣構えが擡頭するとともに、既に三十億磅に達してゐる外債の負擔が英國民頭痛の種となつてゐるが、イングランド銀行總裁カトー卿は四日マンション・ハウスにおけるロンドン市長の午餐會で次の通り述べた

英國が貿易並びに工業上の指導的地位を回復出來るだらうかといふ質問を屢々受けるが、余は冷然たる確信に充ちてゐる、勿論英國の外債は前大戰當時の三倍に達してゐるので經濟的回復は容易でないと思ふ、今回の戰爭でも武器貸與法に基く金融上の不思議が實施されずカナダ政廳からの極度に大らかな財政援助がなかつたら一體どんな事態に陷つてゐたか殆ど想像も出來ない、實際には英國民は戰後の輸出に基く收入の大半を豫め使ひ果してゐるので、原料品、食糧その他給付に必要な物資を輸入するための財源を得るには、飽くまで輸出の增大を圖らねばならない、他の諸國も戰爭で高度の外債を背負込んでゐるが、英國のやうに尨大な「恒久的な財政問題」を背負込んだ交戰國はあるまい、しかし余は敢ていふが、シティ・オヴ・ロンドンの世界貿易界における地位は全く特異(ユニーク)である、特異であつたといはずに、特異であると言切つたところに注意してほしい

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

重慶聲明に對する米英兩國の反響

(リスボン四日發)去る二日重慶軍事委員會がチヤーチルの演說を駁論した聲明は米英兩國に多大の反響を與へたがその反響は次の通り

英國

ロンドン來電=聲明文はロンドンの一部左翼系各紙に大きく揭載されたが最近の各紙社說ではチヤーチルに反對し、重慶の續く敗戰は主として補給上の困難によるものだと論じてゐる、例へば三日の「タイムズ」紙は社說で、日本軍現在の廣西作戰の重要性を强調し

重慶軍は貧弱な裝備のままで戰つてゐるので米國の輿論は危惧の念を抱いて實力の相違する攻防戰を注視してゐる

と結んでゐるが、同紙は東南アジア軍司令部附特派員の報道として次の通り傳へてゐる

重慶に駐在する英國上級將校の言によると彼が桂林附近で視察した重慶軍の部隊は十分の食糧と裝備を與へられてをり、また桂林保衞部隊に對する第十四航空部隊の掩護に讃辭を送つてゐたといはれる

また「デイリー・ヘラルド」紙の特派員は日本軍の支那大陸における南北陸上ルートの打通作戰の意義を述べた後日本の船舶輸送に對するシエンノートの妨害作戰の效果を稱揚し、衡陽の失陷については「重慶軍は力戰はしたが、死守し得なかつた」と述べてゐる、これらの論評及びその他各紙の報道からみて、重慶はチヤーチルが米國の「湯水の如き」援助とか重慶の敗戰は「遺憾」であつたなどの語勢を用ひたことに驚いたに相違ない、重慶軍事委員會の聲明はこれを理解してゐる者には一般に是認され、特にこの聲明中でこれまで情報の乏しかつた北ビルマ及び怒江戰線の價値が明確にされたことを歡迎してゐる、また重慶が眞珠灣以來現在まで米國から與へられた對蔣援助が米英軍一ケ師團の一週間の戰鬪に必要な量にも足らなかつたとの表現は深い印象を與へはしたが、一般には紙上に餘り揭載されなかつたため局部的に知られるに止まつた

米國

ワシントン來電=政府當局は米國の對蔣援助が不十分であることを確認したが、空輸による補給が困難であることを指摘すると共に第十四航空部隊と超空の要塞機隊の活動を重慶に對する誠意の證據だとしてゐる、武器貸與當局は八月末までに支那に送られた一億五千三百萬弗に値する援助を「相對的に見て雀の涙ほど」に過ぎないと表現したが、ビルマ及び太平洋の反樞軸軍作戰はすべて「結局は重慶地區」を目指すものだと言明、更に重慶が二日在支第十四航空部隊を指して小勢力と述べたのに對し「第十四航空部隊は日本の船舶輸送を效果的に爆擊し重慶の地上部隊を掩護してゐる」と反駁してゐる、一方「ヘラルド・トリビューン」紙は重慶の主張を認め次の通り論評してゐる

どう言ひ拔けようとも重慶當局が米英の援助は哀れなほどに貧弱だと强調したのは充分の論據がある、重慶への空輸を增加するにはまづ一層大型の飛行機を使ひ、これでカルカツタからアツサムの諸基地までの輸送を多くし、重慶への輸送を護衞する戰鬪機を多くすれば輸送は改善されよう、レド公路が啓開された場合には情勢は改善されようが新公路をもつてしても解決には程遠い、重慶はこれを自覺し、また米軍の支那沿岸上陸が實現するまでは重慶運動が苦難の一語に盡きることも知つてゐる、しかし重慶の軍事情勢に關する基礎的諸問題を解決しようとする努力は重慶の抗戰決意を明示するにあり、それ故にこそ重慶軍には刻下の必要に對する反軸樞國の最大援助を受ける理由がある

ルーズヴエルト 重慶の非難を反駁

(リスボン四日發)ワシントン來電=米國の對蔣援助不足を非難した重慶政權當局の聲明に關し、ルーズヴエルトは三日の記者團會見の質問に答へ次の通り言明した

米國は北ビルマから重慶に至る困難な空路を越えて毎月二萬トン以上の軍需物資を送つてゐる大、中、小をどう定義するかにすべてがかかることはいふまでもないが、重慶への軍需補給の空輸がいかに着實に增加したかの實狀が明かにされた場合には、これが英雄的な努力として認められるだらう

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

歐洲諮問委員會の決定

(ストツクホルム三日發)モスクワ各紙は歐洲諮問委員會のドイツ處分夢物語に關するロンドンからのタス電報を掲載してゐるが要旨次の通り

一、委員會はドイツ政府の無條件降伏に關する重要文書の作成を了し且つ確定した、右文書によれば歐洲戰爭はドイツ政府の無條件降伏をもつて結末を告げ、且つドイツ政府並びにドイツ軍最高司令部が軍事的な完全敗北を認めることを前提としてゐる、第一次大戰後のやうにドイツ政府が軍事的でなく政治的原因で敗北したとの宣傳を防止するためといはれる

一、委員會は軍事行動停止の技術的手續及び條件ドイツ軍用財産引渡手續及び陸海空三軍の武裝解除手續だけでなく平和保障の爲のドイツ武裝解除實施についても意見一致した、文書の主要內容はドイツ軍の降伏に關する少數の基本的軍事條項だが、これら條項のうちで調印後反樞軸各國がドイツ政府に對し軍事、經濟及び政治につき任意補足的要求を提出できる權利を留保してゐる

一、右文書のほかに委員會がドイツ本國の占領手續に關する重要な文書をも作成確定したとの情報が傳へられてゐるが、以上の情報によれば米英ソ三國がドイツ本國を占領し、要求條項の履行を監視する、ドイツ本國は三分され、西南部は米軍、西北部は英軍、東プロイセンを含む東部は赤軍の占領地帶內に入るが恐らく三分の上、三國軍が占領することとならう

一、委員會は目下反樞軸のドイツ國內監督機關に關する文書を作成してゐる、降伏後ドイツにおける最高權力の行使は監督會議を構成する米英ソ三國軍司令官に屬し、監督會議の決議實施機關が會議に附屬設置されるが、實際には各占領軍の最高司令官に屬す豫定である、ただベルリンの行政については例外として反樞軸協同司令部の設置が豫想されるが確定してはゐない

一、ドイツ本國を分割して小獨立國にするといふ案は屢々米英兩國の新聞紙上で論議されてゐるが委員會ではまだかかる案を審議したことはない、英國外務省及び米國國務省內には同案に對し贊否兩立してゐると傳へられる

一、オーストリアについては委員會はいまだ決定を採擇してゐない

佛通信社買收に 米英張合ふ

(ストツクホルム三日發)戰局の展開とともに米英兩國の葛藤はあらゆる分野にわたつて再現し吳越同舟ぶりを遺憾なく發揮してゐるが「アフトン・ブラデツト」紙のロンドン特電はフランス通信社の乘取りをめぐる米英兩國の激しいせり合ひを次の通り報じてゐる

英國のロイター、米國のAP及びUP三通信社はアヴアス通信社を買收すべく猛烈な競爭を行つてゐる、今のところロイターが一番優勢だが兩社の運動も輕視出來ない、一方では今後アヴアスの名前を繼承するのはアフイ(フランス通信社)だとの觀測も行はれてゐる

【七命政權】

波二政權 互に應酬

(ストツクホルム三日發)ポーランド國民解放委員會議長モラフスキーは二日ワルソー蜂起軍司令官ボールをワルソー蜂起の失敗の責任者として糾彈してゐるが、ロンドン來電によれば亡命ポーランド政權機關紙「ドゼニツク・ポルスキ」は三日の社說においてモラフスキー聲明を次のごとく反駁してゐる

ワルソー蜂起が失敗に終つた責任はルブリンの國民解放委員會にあり同委員會は蜂起を援助するどころかむしろこれを妨害した、モスクワのポーランド愛國者達は七月二十九日布告をもつてワルソー市民に對し、武器を執つて蹶起するやう要請したが、解放委員會議長モラフスキー並びに解放軍司令官ジミエルスキーは當然右布告の發表に責任を有してゐるはずである、それにも拘らず、ジミエルスキーは援助を拒絕したため蜂起は遂に失敗に終つた、ジミエルスキー麾下のポーランド空軍も積極的に動かなかつたが、ジミエルスキーは更にワルソー乘り込みを企圖したポーランド地下軍部隊に對し武裝解除を命じ、地下軍指揮官若干名は捕縛されたほどであつた

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米　國】

桑港會議を發表　(リスボン三日發)ワシントン來電＝海軍省は三日次の通り發表した

海軍長官フオレスタル、聯合艦隊司令長官兼作戰部長キングは最近サンフランシスコで日本に加へられるべき新攻勢の作戰を協議した、この會談には太平洋艦隊司令長官ニミツツ、第五艦隊司令長官スブルアンスその他の司令官が參加した

聯合艦隊副司令を任命　(リスボン三日發)聯合艦隊司令長官キングは太平洋戰域の司令をサンフランシスコに集め日本軍に對する反攻作戰について協議したがワシントン來電によれば右會議に關する公報後數時間の後海軍ではさらに次の通り發表したと傳へられる

海軍活動の擴張に伴ひ聯合艦隊司令長官キングは戰責の一部を副司令長官に移讓する必要に迫られ、一九四二年初め以來キングの幕僚たるRF・エドワーヅが以上の新任務に選任された、同中將は同時に軍令部次長の任に當る

右發表に關聯しUP電報はキングが今後太平洋作戰に重點を置き、軍司令部を眞珠灣またはより前線に近い島嶼基地に移すのではないかと報道してゐる

動員解除再轉換局設置案に署名　(リスボン三日發)ワシントン來電＝大統領ルーズヴエルトは三日最近議會を通過した動員解除再轉換局設置法案並びに餘剩軍需資産處分局設置法案に署名した、署名にあたりルーズヴエルトは聲明を發し「兩法案共に不適切と認めるがやむを得ずこれに署名する」と述べた

ルーズヴエルト家の舊惡を發く　(チューリツヒ三日發)ニューヨーク來電によると著名の評論家ウエストブルツク・ペグラーは去る九月十八日發行の「タイム」誌にルーズヴエルト家の舊惡を發いた一文を發表したが大統領選擧が間近に迫つた折柄各方面に相當の反響をよんでゐるといはれる、暴露文の要旨次の通り

ルーズヴエルトの祖父にあたるウアレン・デラーノは曾ての阿片密輸業者だつた、卽ち彼は「ラツセル商會」といふ會社を組織して、專ら印度から當時の淸國に阿片を密輸してゐたが、これがため同樣の惡業を營んでゐた多くの英國人とともに淸國當局に逮捕されて、廣東の近傍に監禁され、これがかの阿片戰爭の原因となつた、その後もラツセル商會の船舶は阿片密輸に從事し、米國船では阿片の輸送に從事したのは彼の船舶だけだつたので、ひろく「阿片船」として知られるやうになつた、ウアレン・デラーノは一八九八年に死亡したが、その惡業で蓄積した富百三十三萬八千弗を遺産として殘した、デラーノの娘卽ちルーズヴエルトの母親もまた百二十萬弗以上の遺産を殘して死んだ、ルーズヴエルト家の資産はかかる性質のものである

陸空軍損害四萬二千機　(リスボン二日發)ワシントン來電＝陸軍航空本部長アーノルドは二日次の通り發表した

開戰以來陸軍航空部隊の損害は四萬二千機に達したが、その內譯は戰鬪による喪失機數一萬四千六百機、戰鬪以外の事故による喪失は國內において一萬七千五百機、海外諸地域において九千九百機である、一方兵員の損害は戰死、行方不明、俘虜、負傷を合せ戰鬪行爲による損害七萬二千、戰鬪行爲によらない損害五千三百である

九月中飛行機生産高　(リスボン三日發)ワシントン來電＝戰時生産局は九月中航空機生産高は總數七千五百九十八機、生産計畫高の九十八パーセントにあたる旨三日發表した

【トルコ】

新駐ソ大使任命　(ブダペスト三十日發)アンカラ放送によれば現新聞長官セリム・サーフアー氏はモスクワ駐劄トルコ大使に任命されたといはれる

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【西亞】

アラブ會議の經過

(リスボン三日發)カイロ來電=エジプト首相ナハス・パシヤを議長に、西亞各國代表出席のもとアラブ聯盟會議は去る二十五日以來アレキサンドリアで開催されてゐるが、來る十三日終了、その内容について公報が發表されることになつた、レバノン首相リアド・エス・サルは現在までの會議の結果について

會談は至極圓滿に運びレバノン國にとつても效果的な成果を齎らすに至つた

と述べた

英國の分割政策を指摘

(ベルリン三日發)回教の前エルサレム大司教エル・フセイン師はアラビア語放送で次の通り述べた

英國政府がパレスチナ地方のユダヤ人軍隊結成に同意したことは英國人がアラビア人に對し惡辣な意圖を持つてゐることを示す最も好い證據である、この動きは同時にアレキサンドリアのアラブ聯盟會議に新たな困難を捲き起すことをも狙つてゐる、アラビア人はユダヤ人軍隊の結成がこれまでと同樣パレスチナ地方のアラビア人にとつて最も大きな危險であることを考へ、斷乎として抗爭しなければならない

【印度】

ボンベイ會談決裂の主因

(リスボン三日發)ボンベイ會談決裂の主要原因が回教徒獨立國建設に際し國民投票を行ふか否かといふ點にあつたことはすでに明らかだが、ボンベイ來電によればガンジー翁は三日英紙「ニューズ・クロニクル」の記者に對して次の通り言明したと傳へられる

會談が決裂したのは自分が二國說に贊成しなかつたからである、回教徒聯盟總裁ジンナーは西北國境諸州、シンド、全パンジヤブ、ベンゴール、アツサムの各州を完全に獨立した回教徒國として即時承認するやう希望した、更にジンナーは以上のことを國民投票によつて當該諸州民の希望をきくことなく認めて貰ひたい旨の希望を表明した、しかし自分は個人としても乃至は他の資格においても數百萬に上る州民の將來を彼らに自己の運命について何らの發言もさせずに決定することには同意出來なかつた

他の意見の相違は會談の間に明かになつたのであるが、自分が印度の地圖を描き變へる前に英國の支配からの自由を欲したのに對して、ジンナーはパキスタンの即時承認を固執した、更に意見を異にした他の點は回教徒國印度教徒國との關係如何であつて、自分は以上二つの國が共通の政策を有し、行政、外交、國防、交通の各分野において兩國が互に調和して行くことを希望した、何故ならばこのやうな調和は兩國福祉にとつて缺くべからざるものであると同時に兩國の主權に牴觸するものではないからである、しかしながらわれわれは互に友人として會談したのであり、會談に要した時日を無駄に費したわけではない、自分はわれわれが再び會談出來ることを希望する

【カナダ】

勞力不足に惱む

(リスボン三日發)オツタワ來電=產業界は最近頓に勞力不足に惱んでゐるが、勞働相エドガー・ミツチエルは軍需品生產を含む產業部門の勞力不足の切り拔け策について二日次の通り言明した

農作收穫が濟んでから十萬人の農夫並びに農場勞働者を直ちに產業部門へ切りかへるが、內六萬人は製材部門、殘り四萬人は冶金、炭坑、彈藥、鐵道の各方面へ割當てる豫定である

【米洲】

對佛通商協定破棄

(リスボン二日發)サンチヤゴ來電によればチリー政府は今回フランスとの通商協定を破棄し、新に假協定の締結を申入れたといはれる

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

特輯

マッカーサーの夢

比島侵攻作戰(上)

武井 武夫

戰爭に休みはない、太平洋には日夜激戰が續けられてゐる、敵は日本攻撃を歐洲戰終了まで待つわけではない、さうした言葉はすべて眞實だ、しかし同時に、近代戰には一つのリズムがあることも見逃し得ない事實である、特に補給基地を遠く離れた太平洋上の戰ひに敵が繰り出した大機動部隊は一作戰を終るごとに莫大な人的物的補充を必要とする、その間にも絶えず續く空襲や小戰鬪は或ひは打診であり、或ひは作戰の仕上げである

サイパン戰より大宮島、テニヤン島と上陸を續けマリアナ要塞構築の目的をほぼ達した敵の動きはやや緩慢になつた、ニミツツの中部太平洋艦隊は硫黄島、父島等に執拗な攻撃を反覆してゐるがその主力は恐らくマーシヤル邊りの基地で整備に努め、その一方マリアナ基地の完成を急いでゐると思はれる、これに對しマッカーサー麾下の西南太平洋軍は九月十五日以來ペリリユー島、モロタイ島、アンガウル島と上陸作戰を開始、二十日よりはマニラ地區に對する大空襲を敢へてして、比島に對する露骨な侵略企圖を着々進めつつある、この比島作戰(と恐らく呼んで差支へあるまい)の開始されたのがルーズヴエルトとチヤーチルの各軍首腦を隨へてのケベツク會談が終了する直前であつたことは注目される

ケベツクの決定

戰爭の目的が敵國に自國の政策を强制するにありとすれば、その軍事的目標は敵をして戰爭繼續意志を失はしめるにある、日本の戰意固きを悟つた敵は日本民族抹殺をその目標とせざるを得なくなつた、日本本土直接攻撃といひ、比島侵攻と叫び、或ひはビルマ奪還、支那大陸侵攻等を呼號するとも、結局は日本民族の住む本土を完全に蹂躙しなければ彼らの目標は達せられない、日本は最後の一瞬まで敵攻撃兵力撃滅の機會を持ちつづけてゐるのである

九月十二日に開始せられ十六日に終了せるケベツク會談の決定內容について詳細は知るべくもないが、ルーズヴエルト並びにチヤーチルの共同聲明によれば「日獨兩國に對する作戰をあらゆる角度から檢討」し、「歐洲戰爭の完結並びに日本撃破についてあらゆる點で決定に達した」といふ、また新聞會見においてルーズヴエルトは「歐洲戰爭が終了し次第反樞軸軍はその全力を擧げて日本撃破の大作戰に乘り出す」と述べ、チヤーチルも「歐洲戰爭終了と同時に英帝國の擁する陸海空三軍の兵力は太平洋における攻撃作戰に參加するであらう」と言明してゐる、だが、このことは決して太平洋の決戰が歐洲戰爭の續く限り行はれないといふ意味ではない、よし敵が言明通り太平洋の終局的作戰を歐洲戰爭終了後に計畫してゐるとしても、そのため準備的な作戰として比島侵攻乃至臺灣上陸、もしくはビルマ奪還等の企圖は當然抱いてゐるのであつて、日本が手を束ねてそれを見てゐる必要は毫もないのである

最初ケベツク會談の重要議題の一つとして太平洋戰域反樞軸軍最高司令部の設置問題が噂に上つてゐたが、會談後ルーズヴエルトはこれを打ち消し、東南アジアのマウントバツテン軍、南太平洋のマッカーサー軍、中部太平洋のニミツツ艦隊の三者分擔を適當なりと信ずる旨確言した、また共同聲明の中に會談の最も重大な難關たりしは「太平洋戰爭に關係ある國家のすべてが對日戰に動員すべき尨大な兵力の集結地點及び時期を如何にして發見するか」にあつたといはれてゐるが、この問題は實際に彼らとしては早くも眞面目に論ぜられてゐるらしくチユーリツヒ情報によれば

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

歐洲から極東へ急速に兵力を輸送するための計畫は會談前から決定してをり、米國は陸軍と空軍の輸送を引受け、英國が海軍としての仕事を分擔する筈になつてゐる、反樞軸軍司令部は太平洋長期戰の準備を進めてゐるのだ、世間にはドイツが敗ければ日本は忽ち戰爭を諦めて、ソ聯が平和の仲介に立つと觀測してゐるものもゐるが、米國は日本と和協的平和を締結する意志をもつてはゐない、太平洋戰爭こそ米國にとつて眞の戰爭だと信ずる向さへあるといはれるくらゐで、彼らは日本を倒すためには動員し得る全兵力を集結しなければならないと本氣に考へてゐるのである、彼らの日本に對する見方の一斑を紹介するために、左に九月十三日附「マンチエスター・ガーデイアン」紙の記事を譯出して揭げよう

謎に包まれる日本の戰力

現在西南太平洋の戰局は歐洲の成行きを睨合して一休みの形だから、その最大の謎を檢討し、一體日本の航空機がどうなつたかを考へてみるのは甚だ時宜に卽したことだらう、南太平洋で反樞軸軍に對する空中攻勢の最後の報告は一年前のオロ灣空襲だ、當時反樞軸側では誰もそんなことは思はなかつたが、ニューギニア上空に有力な日本機編隊をみるのはそれが最後になつたのだつた、有力な日本軍地上部隊の包圍を目標とした四月のホランデイア强行上陸に際してすら日本航空隊を僅かな散發的報復攻擊以上に引き出すことは出來なかつた、これを航空機不足のためだとは到底考へられない、西南太平洋における過去二年半の日本空軍の損失は少くないとはいへ、その生產能力と均衡しないほど甚くはなかつたからだ、また飛行場がないからでもない、日本が攻勢の頂點にあつた當時、ニューギニアは飛行場だらけだつたではないか、更に日本がまた東印度の油田を確保し、東印度と本土との間の航運を維持してゐる以上、燃料が足りないといふこともあり得ない、恐らく日本は昨年末フインシハーフエンでニューギニアのヒユオン灣附近一角を失つた時から戰略を變じたのであらう

それと同時に一方われわれが日本軍の重要基地ラバウルに迫つた結果、この戰域の制空權も米國の手に移つて了つた、かくて航空戰力を撤收したニューギニア守備隊は殆んど孤立狀態に陷り、ウエワク並びにホランデイア飛行場に對する米軍の空襲以後は、日本の防衞線はフイリピン諸島まで萎縮するに至つた、この「島嶼一千の國」には占領や新設の飛行場が多數あり、日本軍は太平洋における決戰の序幕をなす不可避的な海戰に反樞軸軍が當然繰り出す艦載空軍艦隊に對し恐らくこれら基地をもつて猛反擊に轉じようとしてゐるのだらう、時は沈滯の意外に甚だしかつたことを明かに示してくれるかもしれない、また長い間ニューギニアの戰鬪に示されてゐた事實は、決戰を交へる時でも變らないかもしれない、だがそんな希望に安住したり、日本の術策や實力を過少評價したりすることは決して賢明な態度ではあるまい、その時期がきたと思へば恐らく日本は海空軍の全能力を擧げて怖るべき一打を加へんとするにちがひない、決定的な一擊(one knockout Blow)に一切を賭するだらう

米軍が太平洋を蛙飛びに前進する後に、飛越された日本軍據點は反樞軸軍の艦艇及び飛行機による交通遮斷を喰つて呆然としてゐる、ラバウルの周圍からニューブリテン島北端にかけて、或ひはブーゲンヴイル島やカヴイエンその他ソロモン水域各地には日本軍占領地區が相當殘つてゐるのだこれらの軍隊は相當多數に上り一般住民の生活を回復するためにはその兵力を一掃しなければならない、更にニューギニア島ウエワク附近の濠洲軍とアイタペ東北方の米軍との間には相當大兵力と推定される部隊が頑張つてゐる筈だ、多分この半分は戰死か病死他はジヤングルの踏分け徑で疫病に倒れてゐよう、マリエンベルクからの報告によると、日本軍は近頃戰爭が終るまで何とか自給するつもりらしく菜園を作つてゐる、だが反樞軸軍司令部は彼らをいつまでも溫かい隱れ家に生かしておくことは滅多に許さないだらう

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信 海外電報 第三類郵便物認可

日本の經濟力

このやうに彼らは日本の戰鬪力について懷疑的であり、優勢を信じつつも一沫の不安を抱いてゐるのだが、それでは日本の戰力の物質的基礎についてはどう見てゐるか、九月十六日附「フアイナンシヤル・ニユーズ」紙は次の通り論じてゐる

「日本の資源」　太平洋戰局の前途については理由のない樂觀論を示す傾向が各方面にみられる、勿論日本の占領せる各地を奪還する戰ひは、米國と英國がその有する海空兵力の殆んどすべてを太平洋に集中しうることになればよほど促進されるだらう、だが、どうせ日本海軍が負けてしまへば日本列島の强行上陸もわけはないと信ずる者は、作戰の規模を小さく見すぎてゐるのだ、日本は必らず頑强に戰ふ、しかも日本を圍繞する一面の大洋はジーグフリード線なんかより遙かに大きな防禦的價値を有する、事實まづ經濟封鎖、工業目標物の爆撃などによつて日本の防禦力を「鞣し」ておかない限り、侵攻作戰の實行が可能かどうかさへ疑問なのだ、ここにおいて經濟的考察は正に重大事となつてくる

日本を破るには主として經濟的兵器を使用しなければならない、だがこの見解にも今日は極めて希望的觀測の要素が多く、世間には、日本が飢餓のために屈服するだらうとか、工業力並びに原料資源の不足から日本は間もなく絶望的な狀態に陷るだらうとか信じてゐる者が少くない、戰爭が始まる前に蔓つて禍根をなしたこの種樂觀論は過去三ケ年の苦い體驗にも拘らず再び擡頭して來たやうだ、今や日本問題の經濟面を現實的に觀察すべき時である

戰前の日本は舊獲得地たる朝鮮及び臺灣の助けによりその食糧需要を充して來た、戰爭の始まつてからは、船腹節約のために食糧增産の努力をしてゐると見るべきであらう、同時に國內工業化の促進と人的資源の武裝兵力への轉換とは、食糧生産の困難を增したともみられる、日本政府が早くから戰局の變化に氣づいてゐたとすれば、防禦戰の準備に腐心してゐたであらうことも疑へない、十二ケ月前のイタリアの崩潰のごとき變化に遭遇しては、日本は長期包圍戰を恐れぬ準備に入らなければならなかつた、この一事を目標として、日本は恐らくその農業生産を整備したと思はれるのである、重要輸入物資については相當の豫備貯藏があつたかもしれないが、これが眞に大規模な貯藏だつたとは考へられない

とにかく反樞軸軍が日本を海外資源から切り離すためには優に數ケ月を要するであらうし、日本がその食糧供給量を增すためにはあらゆる努力を惜しまないにちがひない、少なからぬ米穀收穫を有する日本としては、現在の貯藏のみをもつて相當長期間食糧不足を補ひ得るであらう、日本を飢餓により屈服せしめるといふことは氣の長い話であり、特に日本國民はいかなる困苦にも耐へる覺悟があると思はれるだけに容易なことではあるまい、だがこと一たび戰略的原料といふことになれば、前途には遙かに大きな希望をつなぐことが出來る

石炭と鐵鑛における日本の自給量が不足なことは食糧どころではない、問題は日本が果して戰爭中に必要なだけの石炭、鐵鑛、銑鐵、鋼鐵などの豫備を貯藏し得たかといふことだ、滿洲と北支は日本の必要物資を多量に埋藏し、その距離も餘り遠くないため、日本は眞珠灣以來大洋航路の商船隊に對する過剩要求を緩和するため建造してゐる多數木造帆船を十分に利用することが出來る、從つて反樞軸軍が封鎖を完了する頃までに、日本が相當の石炭及び鋼鐵の豫備を蓄へるといふことは考へられないことではないのである、ゴム及び石油となると、克服すべき距離が遙かに長いため、解決はかなり困難であらう、しかもこの二物資のいづれかが直ちに不足すると考へるのは餘りにも樂觀的だといはなければならない

封鎖のみをもつて所望の效果を齎らし得ないことは明らかだ、日本は完全に隔離されても數年間は十分に保つ、殊に合理的な工業及び交通によつて原料豫備を使ひ果さないでも濟むとすれば、日本の經濟は少しも動搖することはあるまい

ドイツの敗戰後に太平洋に集中さるべき反樞軸空軍の攻撃力は恐るべきものがあらうが、それにしても日本の抵抗力にある程度の相違を生ぜしめる組織立つた爆撃を工業目標物や補給要點に加へるまでには數ケ月を要するにちがひない

ドイツにおける經驗によつて知られるやうに、爆撃を蒙つた工場はかなり修復が早い、日本においてもこれは大して變らないと考へなければなるまい、たとへ封鎖と空爆の綜合的效果をもつてしても、それだけで日本に降伏を強要し或ひは軍事的抵抗を打ち破るわけには行くまい、即ち經濟兵器は缺くべからざるものであるとはいへ、それだけで反樞軸軍に勝利を約束することは出來ない、なし得るところは日本の抵抗力を弱め、反樞軸軍に上陸敢行の機會を增すといふことだ、だが、すべてかうした仕事は時間がかかる、第一に被占領地を悉く解放することが必要であり、それと同時に日本を效果的に封鎖し爆撃するための基地を獲得しなければならない、その段階に達するまでは日本は食糧並びに原料の豫備蓄積に努めるだらう

これを妨害するためには日本の船腹を減ずることが大切だ、事實、日本の占領地を少し位奪還するよりは日本の船を出來るだけ多く沈める方が緊急事であるかもしれない、この點からみて最近の報道は大分好いやうだが、日本の現在の造船能力については何ら信賴すべき情報がないから、實際の船姿能力については明確な判定は下し得ない、戰爭の第一段階が終つてから戰鬪部隊の補給に影響する程度の封鎖爆撃戰が始まるまでには數ケ月が必要だ、經濟戰と軍事作戰の綜合效果は遲かれ早かれ日本の抵抗を破摧する筈である、だがこの仕事は決して安易な道ではないであらう

戰略爆撃における問題

以上のやうに敵國人は日本の經濟的戰力をも決して輕んじてはゐないやうだ、從つて彼らはなし得べくんばまづ封鎖と爆撃の效果が上るまで待ちたいのであらうが、政治情勢はさうした遲延を許さない、現在比島作戰の準備に當つて彼らが繰返してゐるテロ爆撃は、本格的な戰略爆撃ではなく戰略爆撃と戰術爆撃の中間を行く攪亂的な爆撃であり、結局は一時的な效果しかもたないとみられる、對日爆撃について彼らがどう考へてゐるかは「エクスチエンジ・テレグラフ」社の次のケベツク電に窺ふことができる

ケベツク會談は對日立體經濟戰に關して諒解に達した、B29を使用する空襲は第一に日本の工業中心地特に造船所に對して、第二には日本の輸出入港に對して、第三には日本の國內交通線に對して開始される、對日空軍戰略は經濟的な根據に基く、對日空軍作戰の目的は九月末までこの三點に集中されよう、現在ベルリン爆撃に使用されてゐる爆撃機も間もなく東亞に廻送されるだらうといふので現在東亞の某地には既に英空軍重爆撃機隊の飛行場を建設中である

かくのごとく反樞軸軍は對日戰略爆撃を欲してはゐるが、現實の問題としてはB29をもつてしてもあまり大きな戰果を擧げ得ず、却つて多大の損失を出してゐる、まして英空軍の「ランカスター」や「ハリフアツクス」をもつてする空襲は殆んど問題ではない、ノルマンデイの侵攻作戰がとにかく成功し、その後フランス戰線にあれほどの大機動作戰が遂行されたのは、過去二年間における戰略爆撃の力が大いに物をいつてをり、殊に侵攻開始前半ケ年の晝夜間斷なき絨氈爆撃の效果を高く評價しなければならない、しかるに今マツカーサーが上陸を企圖する比島には、日本軍の大兵力が手に唾して驕敵の侵攻を待つてゐるのだ、日本の戰力は殆んど害はれてゐない、否、補給線の短縮は當然戰力を高めてさへゐる、これに對して彼らは現在の海路遮斷或ひは比島要地爆撃が果して所期の效果を收めてゐると見てゐるのだらうか、彼らも認めてゐる如く、戰略爆撃は一定の規模をもつて一定の期間連續的に行はなければ效果がないそれを單に比島の港灣を爆撃したり、無辜の住民の居住地を破壞したりするのみでは、船のある限り、海のある限り日本の輸送は續けられ、比島の作戰は無疵の日本軍の猛攻撃を覺悟してかからなければならなくなる、それにしてもマツカーサーはフイリピンの奪還を豪語していかなる成算を胸に祕め、いかなる魔劍を背後に隱してゐるのかそれは彼の胸を斷ち割り、彼の兵器庫を蟲干しなければ知り得ないが、從來の米軍の戰法よりみれば、彼らは必らず常識的戰法をもつて平押しに攻め寄せて來る

昭和十九年十月六日(金)
第三二〇一號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

彼らの作戰はいかにして人的物的に壓倒的な兵力を送り込むかといふことだ、壓倒的なりと信ずる兵力が事實日本軍を壓倒し得る限り、彼らは成功して來た、しかして常識的な戰法とは——卽ちいはゆる軍事評論家の輩が新聞雜誌の類に得々と發表してゐる範圍の作戰論だ、われわれは以下にそれを拉し來つて詳細に檢討してみよう　(終)

資料

反樞軸惡罵の應酬

「タイム」誌九月十八日號

米國の新聞は何でも勝手にいつてよい建前なので、ソ聯政府に向つても時々眞向から攻撃の矢を放つ、ところが統制されてゐるソ聯の新聞が米國政府に對してきつい言葉を用ゐた例は殆んどない英國の保守的政府についてもソ聯の新聞は同じやうに禮儀正しい態度を持してきた、しかし個人となると問題は別だ、個人ならばどんな大國の市民にでもソ聯の新聞は遠慮會釋もなく惡口雜言を浴せる

昨冬「プラウダ」紙はウエンデル・ウイルキーを口ぎたなく叱り飛ばし、「人のいひなり放題になるラツパのやうな男」だといつた、ウイルキーが極く遠慮勝ちにではあるが、ポーランド問題に觸れたためだ、「プラウダ」紙は次に「ニューヨーク・タイムズ」紙軍事記者ハンソン・ボールドウインを槍玉にあげ「インクの池の海軍大將」と罵つた、ボールドウインが赤軍の進撃は部分的には獨軍の計畫的後退によつて可能になつたと述べたのが氣に觸つたのだ

さて今度はウイリアム・C・ブリツトにお鉢が廻つて來た、原因は彼の書いた「ローマからみた世界」といふ論文だ、この論文はローマ人の觀點に立つと稱して、戰後の世界の新しい見方を示したものだ、ブリツトは明かに「ローマに入つてはローマ人に從へ」といふ有名な格言を守つたのだが、彼の報告によるとローマ人はこの戰爭の結果ドイツに代つてロシアが歐洲を支配することになるのではないかと心配してゐるといふのである

早速「プラウダ」紙がデミドフ署名の社說を掲げ、前駐ソ駐佛大使たるブリツトを「嘘つきのスパイ」とこき下した、デミドフは「ライフ」誌に發表されたブリツトの論文の中に歷然たる嘘が三十數へられると主張した、その中三つを擧げると次のやうになる

(第一の嘘)ブリツトはポーランド解放委員會は十九人から成り、そのうち委員長オスプカ・モラウスキー他八名は共產主義者だと書いてゐるが周知の通り同委員會には共產主義者は三名しかをらず、モラウスキーはポーランド社會勞働黨員である

(第二の嘘)ブリツトは「ソ聯はエストニア、ラトヴイア、リトアニアを支配するに到らう」と述べてゐるが、ソ聯がソヴエト共和國を支配することがあり得ようか

(第三の嘘)ブリツトはチトー軍が米國から供給された武器で反共產主義的傾向あるセルビア農民を殺戮してゐると稱するが、これによつてブリツトはドイツの宣傳の影響を受けたスパイの本性を現した

一日置いてニューヨークの新聞「PM」は社會主義者マツクス・レルナー署名入りの三頁にわたる長大論文を掲げ、「プラウダ」紙の所說に共鳴した、レルナーは「ブリツト式平和といふ腐つた屍體の解剖は胸がむかつきさうだから御免蒙り度かつた」と前置きを述べた後「それを敢へて筆をとつたのは、うはべだけでも紳士を裝つてゐる人間が、信用ある雜誌で公然と英米對ソ聯の戰爭を要求したのはこれが最初だからだ」といつてゐるしかし前大使で現在はフランス軍少佐のブリツトはそんなことを要求したのではない、正氣な人間ならたれしも英米對ソ聯の戰爭を欲しはしないし大體これ以上どんな戰爭をも望まないのが當然だだが心ある者は憂ふる、絨氈を日なたで叩くやうに、うたがひの塵を叩き出し、國と國との間のやり取りに外交用語よりは溫味があり、惡罵よりは冷靜な言葉が用ゐられぬ限り世界の何處の隅にも永續きのする平和は產れないであらうと

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月七日(土)　第三二〇二號

同盟通信 海外電報 (231)

編輯發行人　森岡伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

英首相チヤーチルが二十八日の下院演説で重慶の敗戰を難詰したのを契機として、米英と重慶の間に支那大陸の戰局を繞つて泥試合が表面化し、反樞軸陣營が日本の大陸作戰に如何に苦慮してゐるかを暴露した

チヤーチルはその演説中で、重慶は米國から「湯水の如く」援助補給を受けてゐるにも拘らず敗戰を續けてゐるのは甚だ遺憾だ、と公然としかも强硬に非難を浴びせたため、米英の楯となつて苦戰を續けてきた重慶は積りつた忿懣が爆發し、軍事委員會は二日チヤーチルに應へて、米國の重慶援助は「湯水の如く」どころか「哀れなまでに不如意」で、その補給量は米英の一個師團が一週間の戰鬪に使用するにも足りない、重慶軍を援助してゐるものは第十四航空部隊だけだ、と聲明し政府機關紙の大公報も「英國こそ米國の援助の大半を享受してゐながら、東亞で未だに蹉跌してゐるのだ」と痛烈な竹篦返しを喰はし、重慶敗戰の原因は全く米國の補給不足にあると米國にも喰つてかかつた、これに對しルーズヴェルトは、支那大陸包圍鐵環の唯一の漏洩穴をなす印支空輸が、現在月二萬トンを超えるまでに漕ぎつけた非常な努力を强調し、重慶が突然不平をぶちまけたのは「もつと補給が欲しいからで、今更こと新しいことではない」と記者團會見で反駁してゐる

反樞軸側では日本軍の大陸作戰が戰局に及ぼす影響を表面ことさらに過少評價し、これには戰略的重要性はなく單に戰術的意義しかないと宣傳してゐるが、それなら米英蔣が大陸の敗戰責任をこれほど自國の面子にかけて互ひになすり合ひ、騷ぎ立てるには當るまい今後作戰の進展につれて內訂は更に一段と亢進しよう

世界の焦点

【目　次】

ボール將軍捕虜となる……二二九五
亡命政權側も確認……〃
波軍の武裝解除……〃
根こそぎ動員を着々遂行……〃
西部戰線に異常なし……〃
米國の重慶非難激化……二二九六

【英　國】
全國民に自發的犧牲を要求……二二九七
倫本位に復歸せず……〃
ソ聯に阿諛を逃ぶ……〃
民間航空省設置……〃

【ソ　聯】
英の新舊生産相に勳章授與……〃

【米　國】
聯合艦隊副司令長官を創設……二二九八
西海岸の防備强化……〃
白堊館で軍事會談……〃
デトロイトに大罷業……〃
アルフレッド・スミス逝く……〃

【西　亞】
米と借款協定……〃

【イベリア】
葡國會は十月二十三日……〃

【反樞軸陣營】
米英、ソ波紛爭を見限る……二二九九
皮算用の對洪休戰條件……〃
獨で軍票を發行……〃
飛行機六千臺を使用……〃

【北　歐】
さらに對瑞壓迫か……〃

【ドイツ】
焦土抗戰の決意固し……二三〇〇

【重慶政權】
在支米空軍との反目昂まる……〃

【新西蘭】
戰鬪員の損害三萬一千名……〃

【資　料】
B—29が出來上るまで……二三〇一—二三〇四

昭和十九年十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ボール將軍捕虜となる

(ベルリン五日發)ドイツ軍當局は五日次の通り發表した

最近ポーランド軍總司令官に任命されたワルソー蜂起の指導者ボール(コモロフスキー)將軍は蜂起軍降伏後ドイツ軍の捕虜となつた、ボール將軍とその幕僚全員のほか、ポーランド軍將官數名も同時にドイツ軍の捕虜となつた

亡命政權側も確認

(ストツクホルム五日發)ロンドン來電=亡命ポーランド政權大統領ラチキエヴイツチは五日布告をもつて、新ポーランド軍總司令官ボールことタデウス・コモロフスキー中將がドイツ軍の捕虜となつた旨發表した

波軍の武裝解除

(ベルリン五日發)ドイツ軍當局は五日次の通り發表した

ボール將軍麾下ポーランド軍部隊の武裝解除と捕虜收容所への移送は十月五日滯りなく實施された、捕虜並びに鹵獲品の正確な數字はまだわからないが、現在まで判明したところでも豫想以上に多いことは明瞭である、ワルソー蜂起軍の降伏は十月二日、ワルソー地區ドイツ軍司令官兼警察總監フオン・デン・バツハ將軍とコモロフスキー(ボール)將軍の軍使との間に成立し、同日午後八時を期して戰鬪行爲を停止することに定められた、ボール將軍麾下の兵力はすべてポーランド兵と見做され、ワルソー蜂起軍は所定の時間に所定の場所へ武器をおくべく命ぜられた、但し將校は短劍を佩用することを許された、ポーランド軍捕虜はジユネーヴ協約の捕虜に關する規定に基き一切の權利を享受、武器の引渡しは何等の澁滯もなく行はれた、以上のほか數個中隊がワルソー市の秩序を維持するため市內に止まることとなる、ポーランド軍の手中にあるドイツ軍捕虜及びドイツ抑留民は十月二日眞夜中までにドイツ軍に引渡されたワルソー蜂起軍の降伏に先立ち、ボール將軍はドイツ軍司令部の許可を得て代表團をブルスコフの捕虜收容所に派遣、ポーランド軍捕虜に對するドイツ軍の待遇狀態を調査せしめ、同代表團が待遇狀況につき好印象を受けて歸るや、ボール將軍は初めて降伏を申し出たものといはれる

根こそぎ動員を着々遂行

(ベルリン五日發)總力動員統監ゲベツルス博士は五日根こそぎ動員に關し次の新施策を發表した

一、民間醫師の不足と反樞軸空軍の恐怖爆撃とにより一般國民に對する醫療は益々困難となつてゐるが、今回全國民の醫療を保障するため、ドイツ國內で勤務するドイツ軍軍醫は今後軍付屬病院で一般市民の診療に當る

一、戰爭の遂行に重要でない一切の會議、會合を禁止する

一、民間人に對する叙勳表彰を制限する

一、統計並びに調査機構を簡素化する

同時にナチ黨の幹事長マーテン・ボルマン博士は黨機構の簡素化につき次の通り發表した

一、ナチ黨地方支部の活動は黨の戰爭努力に關係ある部面以外一切停止す

一、新任命並びに昇進は行はない、黨關係の叙勳表彰も差控へる

一、ドイツ「勞働戰線」の機構を簡素化し、KDF(歡喜力行團)を解體する

一、黨の刊行物の大半を停止する

一、黨の街上資金募集は一九四四年から四五年に亙る冬期六ケ月間に三回に限定する

一、全國並びに各地區及びヒトラー青少年團の演技並びに文化的催しを一切取止める

一、ヒトラー青少年團の運動學校並びに課程、家事、勤勞學校を閉鎖す

西部戰線に異常なし

(ベルリン五日發)ドイツ軍當局は五日正午次の通り言明した

過去二十四時間來西部戰線の情勢に變化はない全戰線は全般的に平靜を持してをり、ただ米軍がアーヘン並びにメツツ地區で攻擊に出てゐるだけである、但しこれは決して攻勢と呼ぶに値するものではなく、右兩地區においては單に戰鬪活動が激化してゐるに過ぎない

昭和十九年十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

米國の重慶非難激化

(リスボン五日發)重慶中央社のワシントン特派員は五日次の通り報道してゐる

抗戰努力の改革

重慶の軍事情勢が一層危機を孕み、廣西戰線が次第に絶望的となつてゐる折柄、重慶の内政問題に對して米國の言論界は再び重大な非難を浴せ重慶軍も攻撃の槍玉に上げられてゐる

重慶軍が補給輸送離に陷つてをり、重慶に對して即時大がかりな援助が必要なことについては一般に認められてゐるが、いはゆる重慶軍の腐敗、不統一及び無力を論難し、以上の論據から重慶軍に一流の評價を下してゐる、殊に最近國民參政會も軍制の改革を要求した結果、非難は愈々表面化し、今年の初めの重慶攻撃よりも更に激しい非難の渦巻が捲き起るに至つた、勿論非難が敵意に由來するとは思へないが、早く日本軍を撃破するため、重慶の戰爭努力を強化したいとの强い要望の現はれだ

しかし何分にも非難が極度に激しく、米國民の間における重慶軍の「面子」が或る程度傷けられたことは疑ひない、ワシントンは湖南、廣西における最近の敗戰と米軍航空隊の基地の失陷についても、援助補給が全然缺けてゐたといふことよりも重慶軍の無力が原因だとの印象が强く、ために太平洋の戰爭が不必要に遷延されてゐるとの不滿と化するわけだ、重慶軍の軍事的蹉跌に直面して反樞軸軍の戰略を思ひ切つて修正しなくてはなるまいとの報道がワシントン政界で專らなのは、以上の事實に基く、これに關聯して、日本々土を直接攻撃するため、支那を迂回通過するといふ意見も出てゐるが、軍機の祕密に屬するためここに書くことが出來ない

國民參政會が軍制の改革を要求した結果は、ワシントンで「有力な權威筋」及び「當局筋」と稱するところから出たいはゆる樂屋裏の情報が頻りに流布されるに至つた、ワシントンで發行され全國的に讀者層を持つてゐる有力な某週刊誌は「最近重慶軍の敗戰で米國政府は蔣政權との關係について分岐點に立つに至つた」と强調し、さらに情報の出所を明かにせずに「米國は蔣介石に對し重慶の戰爭努力を强化する政策の採用方を督促してゐる、蔣介石が同意せず、または實行出來ない場合には、米國は支那東岸諸基地の外邊を除いて、支那から外へ出るほかなくなるかも知れないと仄かしてをり、米國政府當局は重慶の進まうとする方向が四大國の一つにあるのか或ひは無政府と大混亂狀態に沒落するにあるかを問ふてゐる」と述べてゐる、同誌は次いで廣西の敗戰は何等米軍の體面を汚さず、また米國の努力が缺けてゐた結果でもないと論じ、更に「蔣介石は、支那における反樞軸軍司令の監督のもとに一層大きな軍隊を訓練することを拒否し、中國共產黨を封鎖するために二十萬の最精銳部隊を釘付けにし、一部の軍閥將領は麾下の兵力を日本軍との戰ひに使ふことを拒絕してゐる、更に消息筋では、蔣介石がスチルウエルのもとで訓練された重慶軍が何時かは蔣の指導權に挑戰するに違ひないと懸念してゐると見てゐる」と述べ、蔣介石を攻撃した、また「バルチモア・サン」紙は最近の社說で「重慶の軍事的敗退は非常に深刻なため、支那における重慶の軍事的努力が全面的に崩壞する惧れあり」と述べ、重慶の軍事的努力はその政治のため阻害されてゐると攻撃してゐる

米に總指揮權を與へよ

一方「ワシントン・ポスト」紙は重慶軍の實質的訓練が非常に困難な點を認めると共に、重慶政權の機構を全的に檢討する必要があると述べ、檢閲の緩和と中共問題の新たな解決努力とは政治的改善を示唆してはゐるが、それだけでは十分でなく、盟邦が重慶政權に安心出來るまでには、一層多くのことが實現されねばならないと述べてゐるワシントンのAP電は重慶政權が數年間保守的に成長したため、主要な關心事は政權自身を維持することであつたと攻撃して、當局筋の情報として「蔣介石は總計六十萬の共產軍に對抗する消極的な戰線を維持するために重慶の人的資源と補給の一部を徒費した」と述べ、更に「ワシントンの一部では蔣介石が結局は中共の代表を含む聯合政權に贊成して、讓歩せざるを得ないかも知れないと考へてゐる、米國は重慶の戰爭努力の徹底的改革を企圖し、流線型に近代化された重慶の軍制に對して、スチルウエルが反樞軸軍の最高指揮權を與へられることを希望してゐる」と報道してゐる

昭和十九年十月七日（土）
第三二〇二號
同盟通信 海外電報（第三種郵便物認可）

【英　國】

全國民に自發的犧牲を要求
＝更に對日戰に備ふ＝

（リスボン五日發）ロイター通信は四日次の通り報道してゐる

信ずべき情報によれば、英國政府が持つ軍需工業關係及び軍隊に對する强制指揮の權能はドイツを擊破した後も、日本に勝つまでは保留されその權能は男子のみならず女子に對しても同樣維持される筈といはれる

この報道は歐洲において勝利を收めた場合には將兵が續々歸還して、女子を徵集する必要がなくなるものと豫期してゐた一部の者を驚ろかしてゐるが、先週公表された將兵にたいする政府の計畫は「復員」に言及してをらず、對日戰の要請に應ずる「移駐」について述べてゐる

ロンドンでは女子の徵用について政府の措置は對日戰爭の效果的な遂行と矛盾しない最大限度の寬大さをもつて處理されるものと解してゐる、事實その主要な效果は家庭の責任を持たない若年の女子が徵用適齡の十八歲に達した際軍需勞務のため政府が徵用し得る狀態に留まることを確保するにあり、最後の勝利までは完全な平時の狀態に戻らないとの政府の決意を適切に表明したものと認められる

歐洲戰爭で英國の人的資源の不足が最も逼迫した期間中に强制勞務に從事した家庭に責任を持つ人妻その他の女子は、破壞された家庭制度と家庭生活の復興といふ仕事のために徵用を解除されることはほとんど確實であらう、それにも拘らず政府がかかる行動に出ることはチャーチルが演說した通り、英國が東亞の戰爭で全面的な役割を果たさうといふ決意を强く實證するものと見做されようし、また英國はドイツを擊破した後も對日戰に參加してゐる如何なる國よりもその全國民に對して最大の自發的犧牲を依然として要求してゐることを物語るものである

金本位に復歸せず

（リスボン四日發）ロンドン來電＝藏相アンダーソンは四日ロンドンのマンション・ハウスで開かれたロンドン市長午餐會の席上で次の通り演說した

英國は將來金本位には復歸しないだらう、しかしながら國際通商上のあらゆる差別待遇の除去には米國その他との協力を惜しむものでない、英國にとつて戰爭第五年目は最も多くの戰費を要した年だつたが、しかも過去四年に比較し最も多くの割合を稅收で賄ふことが出來た、戰爭のため英國の外債が增加したことは事實だがしかし余はこのことについて餘り心配してゐない英國政府はブレトン・ウツヅの反樞軸通貨會議で決定された國際通貨案を承認する義務は負つてゐない、ただ米國その他の主要國がこれを受諾するならば英國としてもこれを簡單に拒否すべきでない

ソ聯に阿諛を述ぶ

（ストツクホルム四日發＝ロンドン來電）によれば英國の著名歷史家ジョン・マリオツトは「フオートナイトリー・レヴユー」誌の最近號にトルコの二海峽の將來に關する論文を發表し、ソ聯がボスフオラス、ダーダネルス兩海峽を要求した場合反樞軸諸國はこれに反對しないであらうと述べたといはれるが、右論文はソ聯の對土政策を暗示するものであると共に反樞軸國特に英國政府の對ソ叩頭政策を反映するものであると各方面から注目せられてゐる

民間航空省設置

（リスボン四日發）ロンドン來電＝政府は將來における民間空路の重要性に鑑み新たに民間航空省を設置、近く上院議員の間から新民間航空相を選定する豫定と傳へられる、新空相は十一月ワシントンで開催される國際民間航空會談に英國代表として參加しよう

【ソ　聯】

英の新舊生產相に勳章授與

（モスクワ四日發）聯邦最高會議幹部會は英國前戰時生產相で現國爾尙書のビーヴアブルツク及び現戰時生產相リツトルトンの兩名にスヴオロフ功一級勳章を授與する旨四日發表した、ソ聯が外國の文官にスヴオロフ功一級勳章を授與したのは今回が初めてである

昭和十九年十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【米國】

聯合艦隊副司令長官を創設

(リスボン四日發)ニューヨーク來電=海軍省は三日海軍の最高部が最近サンフランシスコで會談し、對日新攻勢作戰を協議したと發表したが、右に關しAP通信は四日、大要次の如く報道してゐる

今度の會談で日本に對する次の作戰計畫が最終的に決定されたことは明らかだ、會談のいま一つの結果は聯合艦隊副司令長官といふ新地位を創設したことだが、これは作戰部次長をも兼任することとなつてをり從つてキングは今後は專ら太平洋地域に常駐することが可能で、ニミツツと會談するために兩者のいづれかが數千哩を旅行しなければならぬ不便は取り除かれたなほ聯合艦隊參謀長R・エドワードの副司令長官就任に伴ふ新參謀長には現參謀次長C・クツクが昇格した

西海岸の防備強化

(リスボン四日發)サンディエゴ(カリフオルニア州)來電=上院海軍委員長ウオルシユは四日サンデイエゴ海軍基地で次の通り述べた太平洋岸に建設された主要海軍施設は全部戰爭終了後もそのまま維持されよう、目下西海岸各地で進められてゐる海軍施設强化工事費は二千萬弗に上るが、今後九ケ月間に同樣の工事のため一億五千萬弗が費消される筈である、米國はその安全擁護に必要と認める太平洋上の全島嶼を米國領に編入すべく、しかもこれを悉く要塞化すべきである

白堊館で軍事會談

(リスボン四日發)ワシントン來電=ルーズヴエルトは四日白堊館に陸軍參謀總長マーシヤル、海軍作戰部長キング、陸軍航空本部長アーノルド、大統領附總參謀長リーイを招致し軍事會談を開催した

デトロイトに大罷業

(リスボン四日發)ニューヨーク來電=デトロイト地區の產業別組織會議系米國自動車工組合所屬工場維持工は賃金引上げ問題で資本家側と折衝中だつたが、四日に至り遂に罷業を開始した、罷業參加勞働者はまだ一千五百名程度に過ぎないが、工場の作業繼續には最も重要な職工であるため罷業開始と共にブリツグス製作會社六工場、クライスラー自動車會社二工場を初め十工場が操業を停止し就業不能に陷つた勞働者は早くも三萬五千と推定される、この他にも操業に影響を受けた工場は三百以上に達すると推定され一方罷業は自動車工組合員全體にも波及せんとする形勢を示してゐる、勞働罷業はデトロイトだけに止まらずカンサスシテイのホウイツトニー發動機工場でも約八千名の勞働者が三日から罷業を開始した

アルフレツド・スミス逝く

(リスボン四日發)ニューヨーク來電=米國政界の耆宿アルフレツド・スミスは過般來腸疾患の爲ニューヨーク市の病院で療養中だつたが四日死去した、享年七十一、スミスはニューヨーク州知事を勤めること四回、一九二八年には民主黨候補として共和黨のフーヴアと大統領の椅子を爭つて敗れた、それ以來は政界の第一線から退いたが依然として民主黨の大御所として米國政界に重きをなしてゐた

【西亞】

米と借款協定

(リスボン四日發)米國政府はベイルート駐劄公使ワツウオースを通じてシリア、レバノン兩國と交涉を續けてゐたが、ベイルート來電によれば米國政府は今回兩國政府に對して五百萬弗の信用を提供するに決定したといはれる、西亞に對する米國の信用提供は今回が初めてだが目下カイロでも米國、エジプト兩國代表が經濟會談を重ねてをり更に多額の信用をエジプト政府に提供するだらうと傳へられる

【イベリア】

葡國會は十月廿三日

(リスボン三日發)ポルトガル政府は二日午後三時よりサラザール首相の司會で國防會議ならびに航空會議を開催したが、會議後發表された公報によれば十月二十三日緊急會を招集するに決定したと傳へられる

昭和十九年十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

米英、ソ波紛爭を見限る

(ストツクホルム四日發)ワルソー蜂起軍の降伏を契機としてソ波紛爭は新たな段階に押しやられたが、米英新聞界はミコライチク政權の和協努力にも拘らずソ波關係調整の途は閉鎖されたとみてソヴエト政府の一方的態度を非難してゐるやうだ、例へば「ニユーヨーク・タイムズ」紙は四日の社說でポーランド問題をとり上げ次の通り論じてゐる

ルブリンのポーランド國民解放委員會とロンドンの亡命政權の間にはもはや諒解の途は絶えはてた、ミコライチク政權は紛爭の根を絶つためにソスンコフスキーを罷免したが、ルブリン政權は新ポーランド軍司令官のコモロフスキーに對しても「蜂起の時機を謬つた」廉で軍法會議をもつて威嚇してゐる、他方「プラウダ」紙はミコライチク政權を相手にせずと聲明してゐるまた英國の「ニユーズ・クロニクル」紙も「ワルソー蜂起の失敗ほど大きな悲劇はない、ミコライチク政權は蜂起の時機を謬つたが、それだからといつて英國は亡命政權を非難することは出來ない、しかしながら關門まで迫つた赤軍がワルソーを奪取出來ないで愚圖ついてゐるのは大いに失望させられる」と論じ、更に米國評論家ウオルター・リツプマンも「ルーズヴエルトが當時可能であつたにも拘らずシコルスキー將軍に慫慂してソヴエト政府と和解させず、ソ波問題の解決を最後まで延期させたのは彼の最大の失敗だ、この結果ソ波兩國は解決不能の紛爭に憂身を窶し初めたのだ」と述べてゐる

皮算用の對洪休戰條件

(チユーリツヒ四日發)「チユーリツヒアー・ツアイツング」紙のロンドン電報によれば、米英ソ三國は早手廻しに一方的なハンガリアに對する休戰條件を草案、アンカラ及びヴアチカンの外交代表を通じてハンガリア政府に傳達したといはれる、條件の内容はルーマニア、ブルガリアに對する休戰條件と似たり寄つたりのもので、ベルリン來電によればドイツ外務當局は四日の記者團會見で

ハンガリアに對する反樞軸の休戰條件がハンガリア政府の手に渡つたかどうかは知らないが、ハンガリアの態度は今更云々する必要があるまい

と言明、反樞軸の甘い考へ方を一笑に附したといはれる

獨で軍票を發行

(リスボン四日發)ワシントン來電=陸軍省並びに財務省は四日次の共同發表を行つた

米國政府はドイツ侵入の反樞軸軍將兵に對し米貨一弗に對しドイツ貨十マルクの暫定相場で軍票を支給してゐる、從來ドイツの爲替相場はたなかつたが、軍票は暫定相場通りで流通してゐる

飛行機六千臺を使用

(リスボン四日發)ロンドン來電=英本土駐屯米軍輸送司令部は四日次の通り發表したオランダに對する空挺作戰には米軍の飛行機並びに滑空機約六千臺が參加し、また米英軍空挺部隊に對して彈藥、自動自轉車、ジープなどを含む裝備資材約六百萬封度を輸送した、これを一人當りにすれば百六十封度となる

以上の發表を基礎にして算定すればオランダの各地に着陸した空挺隊員は約三萬七千五百名となりこのうち約八千はアルンヘム西方で殲滅された譯である

【北歐】

更に對瑞壓迫か

(ストツクホルム三日發)ストツクホルム・チドニンゲン紙三日のニユーヨーク特電は次の通り報じてゐる

スエーデン政府は最近米國の壓迫に屈してバルト海諸港への外國船の入港を禁止したが、米國政府はこれだけでは滿足せず、更に同國西部海岸の諸港をも閉鎖するやう要求することとなるやうだこれは結局スエーデンに對するドイツとの貿易の全面的停止要求にほかならず、同國の中立放棄要求と異ならない

昭和十九年十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【ドイツ】

焦土抗戰の決意固し

(ベルリン四日發)米英軍百萬を西部要塞の前面に邀へ今やドイツ國民は文字通り總蹶起の態勢をとつてゐるが、ゲツベルス博士は四日ドイツ西部の一都市において、多數の勞働者を前にして航空機增産の急務である所以を强調すると共に現在國民擲彈兵師團を組織しつつある事實を明らかにしたが、さらに同博士は四日ドイツは遊擊戰の用意をも整へてゐる旨言明し徹底抗戰の決意を披瀝した、かくてドイツが全力をあげて反樞軸軍を西部要塞に釘付にして敵を冬季戰に誘導し、勝利獲得のための貴重な時間を獲得しようとしてゐることはいささかの疑問の餘地もない、さらにドイツ親衛隊の機關紙「シユヴアルツ・コルプ」は四日の紙上においてすでに遊擊戰準備が進捗してゐる旨次の通り報じてゐる

ドイツの遊擊戰準備は既にアーヘン地區において具體化され始めてをり反樞軸軍の後方におけるドイツ人はやがてロシア人やユーゴースラヴイア人の遊擊隊が嘗て戰つたよりも遙かに勇戰敢闘するであらう、ロシア、バルカン、ベルギー、フランス或ひはイタリアにおける經驗に徵し占領された地域の住民は滿足してゐる譯ではなく、占領軍の支配下にある地域は僅かに武器の優越によつて抑へられてゐる地域に過ぎないことは明らかである、しかるに反樞軸軍の後方にゐるドイツ人は多量の武器、裝備品を有してをり、ロシア人遊擊隊やチトー匪團とは全く違つた强力な敵對者となるであらう

【重慶政權】

在支米空軍との反目昂まる

(リスボン五日發)重慶からの報道は日本軍の作戰進展につれて米空軍と重慶軍の態勢がますます不安定なものとなり、これが兩者間の協力に大きな龜裂を起し、反目が昂進してきたことを暴露してゐる、AP特派員が米空軍の前進基地より昆明を經て打電した四日附の報道は第十四航空部隊が現在意のままに使ひ得る主要な飛行場はただ一ケ所で、ここに駐屯する米空軍の將兵は東北及び東南の兩正面からする日本軍の進擊を阻止するのに必死の努力を傾けてゐると傳へてゐる、この基地とは柳州を指すものとみられるが右報道は更に

この日本軍を阻止する行動は第十四航空部隊が支那でこれまでに直面した最も困難な業であると强調した後、基地後退の原因が重慶軍地上部隊の敗退にあると次の通り難詰してゐる

米空軍は日本軍の作戰開始當初からその進擊を妨害して終始重慶軍に完全な援助を與へたにも拘らず、重慶軍が敗退するにつれて、次から次へと航空基地を放棄せざるを得なかつた、かくて米空軍は一聯の基地群を擁するどころか、現在、完全に活用出來るのは記者のゐる基地だけとなつて了つた、しかもこの基地はほとんど毎夜爆擊されてをり或る夜の如きは十二回も連續爆擊を受けてゐる、航空隊長のヴインセント少將は「われわれは完全な制空權を握り頽勢を挽回してはゐるが、日本軍は航空隊の掩護をうけて進擊を續けてゐる」と語つた、米空軍の指揮官や操縱士の苦しむ原因は色々あるが兎に角この基地は一連の基地網の最末端をなし、しかもその施設の大半は時代遲れとなり使ひ古されてゐる、その上米空軍の將兵は重慶軍の後退にかなり驚愕してをり、その退却を愚劣だと考へてゐる

【新西蘭】

戰鬪員の損害三萬一千名

(リスボン二日發)「タイムズ」紙の報道によれば世界戰爭開戰以來七月三十一日現在に至るニュージーランド軍戰鬪員の損害は總計三萬一千六百七名で內譯は次の通りといはれる

戰死	八千六十五名
行方不明	九百六十三名
負傷	一萬五千三百三十名
俘虜	七千二百四十九名

昭和十九年十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

資料

B—29が出來上るまで

「フライト」誌八月十日號所載

ボーイングB—29卽ち「超空の要塞」發達の物語りは一九三八年の冬に遡るが、米國陸軍航空隊の參謀が「空の要塞」の大修正案提出をボーイング社に要請し、ボーイング社では「空の要塞」の設計改善に從事したが當時同社はボーイング成層圈機の製作に從事し陸軍航空隊のために大型超爆撃機B—15の製作を終つたところであつた、同社はすでに一九三六年、一九三七年及び一九三八年の初めにかの大型爆撃機三種の暫定的な設計案を陸軍省に提出してゐる、B—15はたつた一臺試作されただけで航續距離並びに積載量について新記錄を作つたが、何分にも速度が小さく高度性能も豫期通りではなかつたので、陸軍省では同機に對して餘り熱意を示さなかつた

當時飛行機の型が大きくなつたのに足並を揃へることの出來るやうな馬力の強い發動機は出來てゐなかつた、設計の出來た他の三機については軍用機買ひ入れの豫算が極度に限定されてゐたので陸軍省は殆んど何等の反應をも示さなかつた、ボーイング社の技師連は陸軍省の要求せる「空の要塞」の乘員室の改良案が實際的ではないと報告してゐる、しかしその他の性能に關する注文について研究を加へた結果、愈々ボーイング社と陸軍省との間に速度も高度も航續距離も一層優れ、特に軍用積載量がずつと大きい爆撃機について正式討議が始められた

設計第三百四十五號

一九三八年の後半に至つて討議が具體化し、一九四〇年一月二十九日ボーイング社では全般的な明細指定書と、ボーイング社が四發重爆の試作機について入札に應ずるやうとの要求を掲げた回狀を受取つた、これこそボーイング社が前後四箇年にわたり、待ちに待つた機會であつた、ボーイング社の技師連は相當前から陸軍省が要求したやうな重爆の設計について研究してゐたので、設計三四一號を陸軍省に提出したが、右設計によると當該爆撃機の全備重量は七萬三千封度、設計の最小全備重量さへ「空の要塞」を遙かに凌駕する、この設計を故エドモンド・T・アレンが「從來何れの設計に比べても空氣力學的にすつきりした飛行機で、非常に航續力の大きいにも拘らず比較的小型だ」と批評したが發動機は四基備へ、三車輪降着裝置を有する、シコルスキー、マーチン、ダグラス、コンソリデーテッド並びにロッキード各社も夫々設計を提出した、しかし當時は英佛兩國がドイツと開戰してから約二箇月を經過してゐたため、航空機に關する米國陸軍航空隊の考へは急速に變化を遂げ設計第三百四十一號その他提出された設計案ではまだまだ不十分だと考へるに至つた

陸軍省では一層進んだ設計を希望し、愈々大量生産に入る場合には世界で一番優秀な爆撃機でなければならないといふ意氣込みであつた、一九四〇年二月ドイツ軍が低地國に進撃を開始する六十日前に、陸軍省ではさきの明細指定書に追加して要求項目を增加し、各製作會社に對して新らしい案を出すやう要請した、他の各社の中一社は脫落してしまつたが、ボーイング社では三日に至つて設計三百四十一號を擴大し、設計三百四十五號に着手した、これも同樣四發爆撃機だが、その全備重量はさらに增大してゐる、各社の競爭は中々激しいので、ボーイング社は新設計に航續距離と速度には一哩でも、積載量では一封度でも上昇力では一呎でも出來るだけ增加しようと努めた

陸軍省ではこの設計をみて早速贊成し、六月一日卽ちドイツ軍が低地國に侵入した二ケ月後、ボーイング社に風洞模型並びに多少の修正を經た原型作製の權限を與へたが、この原型はXB—29と呼ばれる(Xは試驗機の符號)XB—29は全備重量を若干增したといふだけで、設計三百四十五號と全然同一であつた、XB—29の風洞試驗はカリフオルニヤ州ワシントン大學工學部で施行されたが、航空隊はひどく感心し、一九四〇年八月二十四日ボーイング社に對し設計大のXB—29原型三機を製作する權限を與へた

昭和十九年十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

最初の實驗機がシヤトルで完成するに先立ち、一九四一年五月十七日陸軍省では米軍の空の攻勢戰略においてボーイング社の設計が極めて重要な役割を果すだらうことを確信するに至り、ボーイング社のウイチタ工場でB—29の大量生産に着手するやう要請した、最初の試驗飛行は九月二十一日施行され、試作機は一時間十五分滯空した、かくて一九四二年から四三年を經て四四年までは試驗飛行時代が續いた

設計基礎データ

ボーイング社がB—29の風洞用模型の製作に關する「出發」の號令を陸軍からうけたとき第一の問題は要求される性能を發揮するやう翼を作り出す事だつた、ボーイング社の空氣力學部は數ケ月間翼の研究を續け、既に前途に光明を見出してゐた、しかしながら陸軍は更に高い速度と長い航續距離とあらゆる性能の向上を要求して來たので、更に新らしい翼について計畫が立てられた、その結果ボーイング一一七型翼が生れた、この翼は從來の如何なる設計をも凌駕するやうな性質を具備してゐる

一一七型は抗力係數の關係から航續距離を可成り增した、だが陸軍はその高荷重を理由としてこの翼に自信が持てなかつた、そのために上昇限度が落ちたり、離着陸に際しても操縱に惡影響があるのではないかと恐れたのである、ボーイング社はこれと論爭し、所望の上昇限度が得られるといふこと、及び離着陸の性能もボーイング式フラップの使用により、翼荷重を修正すれば決して落ちないといふことを立證した、風洞試驗は陸軍代表の滿足をかち得、三臺の實驗機製作が命ぜられた

翼構造

ボーイング式の翼は管狀桁構造といふよりも寧ろ側板構造式に近い、側板桁にはヂユラルミン製の重い凸緣が選ばれた、この凸緣は機械にかけられるとき二百五十五封度の重量を有し、從來航空機生産に使用された引拔き製品としては最大である、改良としては封度當り抗力が減少され內桁の厚味を增して主構造の强度を增大し、燃料の搭載量を增し、失速性能が良くなつて徐々に速度が落せるやうになつてゐる、結局作り上げられた翼は百四十一・二呎の翼巾を有し、十一・五の縱橫比になつてゐる、縱橫比が高いために翼效率は極めて向上した、卽ち、翼端における空氣喪失率が抗力の上ることを防いでゐるからである

後緣は胴體とナセルの中間部分を除けば殆んど直線である、フラップの後緣は下に折れる部分が空氣力學的に翼と胴體の干涉を減じ、上昇に際しての尾翼の妨害も減ぜられてゐる、四・五度の上反角及び七度の後退角、更に巨大な垂直尾翼は機體を進行方向にも側面にも極めて安定ならしめ、橫滑りの類は一切起らない、疾走に際して一方の翼に傾くといふ傾向はすべて直ちに修正され、次いで所望の方向に眞直ぐ滑走することが出來る、翼荷重が高い結果、着陸速度と離陸距離を減じるためにはフラップの面積を大きくしなければならない、ボーイング式フラップはB—29の着陸速度をボーイングB—17のそれと同一ならしめた、離陸の距離を減じるためには離陸に際してフラップを二十五度に下す、フラップは後方下方に滑動して翼面積を增し、翼を離れた空氣の角度を下方に向はせるのである、フラップが伸びた時の翼總面積は十九パーセント增す

操縱性

前述の如く空氣力學的な線の美しさ（流線型）に對する要求はボーイングB—29の發達において極めて高かつたが、操縱性と安定性に拂はれた考慮も決してそれに劣つてゐない、必要なる場合には安定性を增すために性能さへ犧牲にして、航空機の飛翔を容易ならしめた、しかも飛行における諸特性には何等好ましからざる影響を與へなかつた、操縱力はB—17の場合よりも輕いが操縱面積を適當な操縱性と最大限の安定性を與へるやうなものとするまでには種々の問題があつた

最初のうち飛行操縱に油壓ブーストは必要だと思はれてゐたが、研究が進み、風洞試驗を行ひ、ボーイング式操縱索を使用するに及び、操縱面積は遙かに小さな航空機の場合に較べても、殆んど餘計な操縱力を必要としないやうになつた

結局油壓式ブースト方式では到底望み得ない程費用も少く維持が容易で、傷み方も少いものが生れ同時に操縱士にとつて大切な「操縱感」をも失はないですんだ、事實方向舵の操作の如きは「空の要塞」の操作より力が要らない、新工夫の補助翼は空氣力學的、靜力學的に平衡がとれてゐる許りか、操縱力を最少限に引下げるやうな補助索や釣合索を組合せてある、これは從來の大型機に比して遙かにローリングに對する反應が强い、尾翼と昇降舵は外面や構造こそ異れ、形式及び大きさにおいては現在のB—17に使用されてゐるのと變らない、飛行中の危機において安定裝置の效力低下を防ぐため、尾翼の斷面は若干の修正が加へられてゐる

設計の苦心

B—29のナセルの設計には空氣力學における長い間の研究成果が含まれてゐる、卽ちその大きさのためにB—29のナセルには從來の如何なる飛行機の場合よりも多くの空氣が吸ひ込まれるが翼における空氣の入口の數を多くしないためにナセルの突端に大きな吸込口が開けられることになつたそのためナセルの前部は卵型を呈してゐる、空氣力學的にいへばナセルは效力を最少限に止めるために出來るだけ小さくなければならない、結局採用されたナセルの設計はあらゆる目的に適ふ實用的なものであつた、複式タービン過給器及び冷却器も十分入れ得るやうに作られた、のみならず降着裝置を引込むだけの餘地も設けられ、同時にナセルに適當な接近性を與へるやうにも努めてあるナセルの粘土型は設計が決定する一年以上も前から作られた、これは設計部門の空氣力學部、構造部、機械部等の要求に一致點を見出すためには必要なことだつたのである

XB—29の設計が大體終り陸軍の企畫部が大體の構想を承認してから、今度は進步的な軍部の技術者達が新しい彈倉の着想を持出し始めた、「突出式彈倉」は原案の彈倉と同じ程度の爆彈を搭載するが、ただ爆彈の型が大きくなる、彈倉を伸すといふことは飛行機が長くなるといふ意味になるが、その場合小型爆彈の方が餘計に積み込めるといふことにはならないだらうか、ボーイング社の技師達は彈倉の再設計に着手し、もし胴體の長さを三十七呎伸ばすことが出來れば小型爆彈と同量の大型爆彈が積込めると報告した、B—29は三車輪降着裝置を有するが設計も相當な仕事だつた

前輪操作の問題は主輪と尖端にある前輪の關係を適當ならしめ、操縱及び取扱ひに不自由を來さないといふ幾何學的な問題である、B—29の重量からいへば前輪を複式にすることは絶對必要であつた、だが航空機の複式前輪を設計した人間は一人もゐない、この車は直徑が三呎ある、設計は見事に完成し後方引込みの設備も出來た、殘る問題は主輪をナセルに引込むといふ問題である、從來の航空機のやうに若干突出させたままにすることをやめて、力は空氣力學的な方面に注がれた、直徑四呎八吋あり複式タイヤを有する主輪をどうしてナセルに押込むかといふことは決して容易な問題ではない、更に車の引込んだ後は完全に流線型の扉で塞がなければならなかつた

前輪の設計における自分達の理論を說明するために、ボーイング社の技師達はまづ小型の模型を作りそれをダグラスA—20に取付け、ライト飛行場で試驗した、一つのタイヤはパンクしたが兎に角試驗の結果は車輪の操作は滿足すべきものだつた、ボーイングB—29「超空の要塞」は從來作られた航空機の中で最も多く試驗された飛行機であるとよくいはれる、これはXB—29の製作が細かい設計の出來上る前から始められ、XB—29第一號が澤山作られたといふ事實に基く

操縱裝置の多くの部分は尾翼面積まで含めて殆んどすべて、いまだ爆擊機そのものが飛ばないうちから飛行試驗に付せられた、一九四〇年の秋にはB—29の各種操縱面積をB—17の規模に縮め、特に試驗飛行用と定められた「空の要塞」B—17Cによつて試驗した、翌春には同じく小型に作られたB—29の補助翼がB—17によつて試驗されたこの試驗の目的はB—17の補助翼より操縱力が輕く、少くとも五十パーセントは效率の高い補助翼を作り出すためであつた、その後陸軍はB—17E一機を貸與して、これによつてB—29の尾翼面積の小型模型試驗を行つた、以上の試驗飛行は設計の正しさを立證したのである

昭和十九年 十月七日(土)
第三二〇二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

強度試驗

構造強度試驗は最初のXB—29が完成されつつある時期に開始された、設計通りの大きさ、形の完全なB—29の主要構造部を作つた上で設計に基く計算通りの強度があるかどうかを正確に疑問の餘地を殘さずに確めるためには破壞試驗が行はれた、この破壞試驗は、三段階に分れてゐる、第一段は各構造部を特別試驗臺に乘せて試驗すること次に各構造部を組立てた上で他の部分との關係において試驗すること、第三に飛行機全體を試驗することだ、試驗した時の完全體の飛行機は實驗用の模型ではなくて、機關やその他同樣の裝備を除いた完全な機體である

ボーイング社では大急ぎで特別な建物を建築したがB—29の構造試驗用なので非常に大きく、かつ恰好も變つてをり「カセデラル」（大會堂）と呼ばれるに至つた、先づ尾部の表面試驗が行はれ續いて他の構造の試驗が行はれた、胴體に翼をつけたかたちで翼試驗を行つたが、翼の表面に對しては三十萬封度以上の壓力を加へることが必要であつた、非常に複雜な油壓扛起器で多大の勞力を節約し、しかも荷重狀態を正確に試驗することが出來た

完全な機體の一番重要な試驗は落下試驗である陸軍省はB—29が二十七吋のフリードロップに耐えなければならぬといふ條件をつけてゐる、そこで爆彈、燃料、その他B29の一切の裝備に匹敵するやうな重量を內部に入れた大きな爆擊機を床から二十七吋引上げて落下させた、超空の要塞は傾斜位置も落下試驗と、水平位置の落下試驗と兩方を見事通過した

別な試驗ではB—29の各部分に對して二十粍の加農砲並びに機銃で射擊を加へ、砲火に對する抵抗力を試驗した、最初のB—29は九月二十日處女飛行に飛び出し、ボーイング社の航空部長兼空氣力學部長故エドモンド・T・アレンが操縱席についた、機械部門を受持つてゐる副社長のウエルウツド・E・ビールは簡單ながら非常に喜んでその晚次のやうに電報した

エデイ・アレンからの報告では、素晴しい飛行機が出來たといふことだ、これこそ長期に亘り且つむづかしい試驗飛行日程の始まりで今度この日程はB—29の生產が擴大されると共に長くなつて行くであらう

B—29を實戰に參加せしめどんな戰績を擧げるかまつてゐることは出來ない、試驗飛行ではB—29が前線に出る前に凡ゆる缺陷を叩き直さうといふのだ、試驗飛行の他に設計者が持出した色々の新問題に對する最終的な回答を與へることはできない、その上B—29には今まで使つたこともない施設がいくらでもあるから實際試驗飛行で試すほかはない、アレンは裸の機體並びに完全に裝備したB—29の試驗計畫を立てた、試驗すべき項目試驗の方法等を書き並べたわけだが、この試驗計畫はその後追加もあり、今なほボーイング社で續行中である

試驗飛行の場合には各種計器が大きな役割を演ずる、計壓器は吸氣管內並びに翼上面の壓力を記錄する、熱電對は發動機內の無數の位置における溫度を記錄する、計流器は燃料の流れる量を表示する、寫眞記錄器は計器類の指針を記錄して行くしかし計器試驗が重要かつ缺くことが出來ないとしても、對人的諸要素の試驗に較べると第二次的だ、試驗飛行士、航空機關士、基地飛行に參加する技術者達はお互ひに依存し合つてをり、双方の關係を適當に調整することが絕對に必要なのだB—29の試驗飛行は日程がアレンの監督で開始された當時からボーイング社には高度に發達した試驗飛行部、空氣力學部があつた、試驗は出來るだけ早くといふので、ずんずん進められたが、急ぐからといつて徹底的に且つ正確にしらべるといふ一番大事なことを閑却したわけでは絕對にない、アレンは試驗飛行に際して航空士と航空機關士とに對して「忍耐は優秀な試驗飛行士乃行機關士にとつて一番大事な條件だ」と述べたが、試驗飛行に經驗の少い連中はなぜこんなに苦勞するのか理解に苦しむ、そんなに苦勞せずとも十分資料を集めることができると思ふだらうが、B—29の試驗飛行におけるボーイング社のこの忍耐強さは終始一貫し、今日でも依然アレンの教を標語として試驗計畫は續けられてゐるのである

大正十五年十月廿八日第三種郵便物認可　昭和十九年十月九日(月)　第三二〇四號

同盟通信

海外電報

(232)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麴町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

世界の焦点

UPといへば米國通信社でも品の悪い方だが、このUPが毎週木曜のモールス通信に、「サインポスト」欄といふものを設け、西部東部、イタリア三戰線からベルリンに至る距離數を掲げてゐる、たとへば去る五日の「サインポスト」によると「西部戰線ではニムウエーゲン附近からベルリンまで二百九十六哩過去一週間を通じて一哩の前進、東部戰線からは三百十五哩、變らず、イタリア戰線ではボローニヤ南方から五百四十四哩、一週間に六哩の進出」とあるが、なんのことはない、歐洲戰を競馬扱ひにしてゐるやうなものだ、西部戰線では去る二日から米第一軍がアーヘン北方でジークフリード線に對する正面攻勢を開始したが、われわれの豫期したやうにドイツ軍の猛反撃に遭遇やりかけた攻撃を中止するわけにも行かず、四苦八苦の窮境に陷つてゐる、しかも國力動員總監ゲツベルス博士の言明によれば、ドイツは最も近代的な形の大遊撃戰の準備を進めてゐるといはれるから、もはや競馬でもみてゐるやうな薄つぺらな氣持は許されまい、極く最近まで米英兩國内では歐洲戰が冬まで片付くといふ安つぽい樂觀論が横行してゐたがソ聯が再び冬季戰の準備を進めてゐることが明かにされて以來、米英兩國の大衆も多少認識をあらためたやうだ、又ソ聯が冬季戰の準備を進めてゐるといふ事實にはいろんな含みがあるが、赤軍がポーランドからの獨本土攻撃はそつち除けでバルカン攻勢を擴大、既にトルブーヒン軍の先鋒はブルガリアからサロニカへ進んでゐる、狼狽した英國はペロポネソス半島に上陸してソ聯のギリシヤ進出を牽制しようと圖つてゐるが、そんな姑息な手段ではどうにもならぬ時が來るのではなからうか

【目　次】

反樞軸三巨頭會談か……二三〇五
流血を覺悟せよ……〃
重慶第二戰線を要求……〃
米參謀總長訪佛……〃
印度とソ聯との使臣交換說……〃
テンプルウッド民空相就任か……〃
戰局の前途は多難……二三〇六
アーヘン北方獨軍猛然と反攻……〃
敵秋季總攻勢の態勢……〃
【反樞軸陣營】
米英外交政策の混亂を非難……二三〇七
チヤーチル鰐の涙……〃
米英將校軍紀紊亂問題……二三〇八
九月中の歐洲米軍機の損害……〃
【英　國】
伊帝國の再建認めず……〃
ロンドン、デーリー間無線直通……〃
駐西大使歸國の途につく……〃
【カナダ】
空軍總兵力二十萬……〃
【重慶政權】
航空基地の失陷は償ひ得ず……〃
【米　國】
對支援助の不足を認む……二三〇九
援將物資月二萬トン……〃
ルーズヴエルト對支空輸に滿足……〃
海軍生産の重點……〃
兵員損害四十一萬七千……〃
デユウイ稅制改革案發表……二三一〇
【米　洲】
伯、米亞調停乘出しか……〃
亞國に大空港……〃
【イベリア】
葡政府獨立と主權の擁護强調……〃
【イタリア】
九月中の空襲被害……〃
【ドイツ】
國民擲彈兵團の構成を發表……二三一一
三ケ月間に一萬機撃墜……〃
【東南歐】
勃政權の過渡的性格……〃
【樞軸國】
スロヴアキア政府方針を闡明……〃
【特　輯】
ソ波紛爭のその後（上）……二三一二―二三一五
【資　料】
支那の統一は大統領選擧より重大……二三一五

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

反樞軸三頭會談か

(リスボン六日發)ワシントン來電＝米國政府筋の言明によれば米國大統領ルーズヴエルト、英國首相チヤーチル及びスターリン議長の三頭會談の準備が整ひ、三者は近く會談することとなつたといはれる

流血覺悟せよ

(ストツクホルム六日發)過般の下院における首相チヤーチルの警告にも拘らず、英國内には依然として戰局樂觀氣分が横溢してゐるが、ロンドン來電によればチヤーチルは六日下院において再び次の通り述べたと傳へられる

歐洲戰爭の見透しが好轉したからといつて情勢が重大でないなどと想像してはならない、今後數ケ月間甚大な流血を覺悟する必要あり、自由黨保守黨勞働黨も皆流血の慘事を分擔せねばならぬのだから、差し當り國内の抗爭は差控へて鬪爭は出來る限り輸出用に振向けるやう要請する

重慶第二戰線を要求

(リスボン六日發)英國首相チヤーチルが下院における演説で公然重慶軍の無力を非難した結果、大陸作戰論は今や反樞軸陣營の重大問題化するに至つたが、重慶來電によれば大公報は六日の紙上において東亞第二戰線の結成を要求、次の通り述べてゐると傳へられる

重慶政權の見解によれば、重慶は米英兩國に對し廣東、福建、浙江、或ひは上海北邊の海岸地帶に陸軍を揚陸することを要求する十分の權利を持つてゐると思はれる、理由は簡單である、中國においても二正面戰線を展開し、日本陸軍との戰ひにおいて米英兩國が重慶政權と責任を分擔することが必要だからである、第二戰線は重慶政權に對する援助ではない、統合戰略の要求するところである、今日まで重慶政權が以上の要求を提示しなかつたのは、反樞軸軍の歐洲第一主義に暫く敬意を表してゐたからに他ならない、最も以上の要求を提出したからといつて米軍が比島並びに小笠原諸島に反攻を企圖し、英軍がラングーン、スマトラ、マライ半島に反攻作戰を開始するのに反對するわけではない、特に日本本土に對する直接攻撃は、中國に對する日本軍の壓迫を緩和する意味で歡迎するところである、しかし單なる海上作戰の他に反樞軸軍が日本軍に對し大規模な攻勢に出ることを要望する、右攻勢こそは重慶政權が現狀において最も必要とするところであり、刻下の情勢も右戰略の實現に寔に好都合である、アジア大陸に第二戰線を結成することは戰略的に見て歐洲の第二戰線と同樣重要である

米參謀總長訪佛

(リスボン六日發)パリ來電＝歐洲反攻反樞軸軍司令部は米國陸軍參謀總長マーシヤルが前線視察のため最近空路フランスに到着した旨發表した、マーシヤルと共に戰時動員局長官バーンズ、陸軍作戰部長ハンデイ、陸軍航空參謀副長クレーグ等も同行してゐるが、マーシヤルは直ちに反樞軸軍總司令官アイゼンハウアーと會見した

印度とソ聯との使臣交換說

(ストツクホルム六日發)最近ソヴエト政府が、印度との間に使臣を交換する準備を進めてゐるとの噂が頻りに流布されてゐるが、ロンドン來電によれば英國の印度省は六日

かかる途方もない報道については印度省は何もきいてゐない

と頭から否定したといはれる、未だ自治領の地位を享受してゐない印度が英帝國以外と外交使臣を交換することは到底考へられないが、かかる噂が流布されるところにバルカン、西亞、印度を繞る英ソ兩國の微妙な關係を窺知出來やう

テンプルウツド民空相に就任か

(ストツクホルム六日發)ロンドン來電＝マドリード駐剳英國大使テンプルウツドは五日夜マドリードから空路ロンドンに到着した、大使が近く民空相に任命されるといふ噂に關しては當人は言及を避けてゐるが、大使を免ぜられることは確實である

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

戰局の前途は多難

米大統領演説

(リスボン六日發)ワシントン來電＝米國大統領ルーズヴエルトは五日夜ワシントンで第二回の選擧演説を行ひ次の通り述べた

反樞軸軍は今度の戰爭にまだ勝利を收めてゐない、日・獨兩國は依然として最後まで戰ひ拔かんとする決意を示してをり、ライン河を越えてベルリンまでの道は遠く、しかも反樞軸軍は一時の土地を敵から奪取するためにも烈しい戰をしなければなるまい、米國民は反樞軸國民と共にわれわれの最後目標に到達するまで戰爭努力を緩めるやうなことがあつてはならぬ、更に米國は戰爭終了後も反樞軸各國との協力關係を益益固くし、强力な國際平和機構を樹立し、世界の安全を保障するため、必要とあれば武力を使用する用意を整へておかねばならぬ

共和黨は民主黨が今度の選擧で共産主義者の支持を受けてゐると誹謗してゐるが、全くの事實無根である、共産主義にせよ、ファシズムにせよ、或ひはその他如何なる思想と雖も、米國の政體を脅やかし自由競爭と私有財産制度とに基礎を置く米國の社會組織を破壞せんとする主義主張には余は頭から反對である、しかしながら余のかかる主張は米・ソ兩國の親善關係をいささかも傷けるものでなく、ソ聯がその國情に適するものとして採用した經濟組織はソ聯の內政問題として余は毛頭これに干涉するやうな意志は持つてゐない、しかしながら米國內におけるあらゆる進步的思想或ひは自分の氣に食はない外國からの移住者を悉く共産主義乃至は共産主義者として片附け去る一部の人々の態度も到底容認出來ない、これら反動主義者こそ米國內において階級鬪爭を激發し、却つて米國の民主主義自體を破壞するであらう、共和黨の一部にかかる反動分子があつて全米に不穩當な文書を撒き散らしてゐるのは遺憾千萬である

共和黨は更に政府が動員解除の準備を怠つてゐると非難してゐるが、選擧戰のためには手段を選ばない彼らの態度こそ非難に値すべく、かかる言動が前線將兵及び銃後國民の戰意に如何なる影響を與へるかを三思すべきである、政府は國家の安全を脅やかさない限り、出來るだけ早く動員解除を實施すべくその用意を進めてをり一方戰局の推移に照らし、戰時諸統制措置の緩和乃至撤廢も考慮してゐる

アーヘン北方獨軍猛然と反攻

(リスボン六日發)ドイツ軍はアーヘン北方において痛烈極まる大規模反攻を展開した模樣で、AP前線報道は六日次の通り報じてゐる

アーヘン北方のドイツ軍は六日ユバツハ地區の米第一軍突破口に痛烈極まる大反攻を展開、五日ベゲンドルフまで進出した米第一軍はドイツ軍の强壓を眞向から受けて六日後退を餘儀なくされた、同地區の戰鬪は歐洲侵攻作戰開始以來比をみぬほど激烈なもので、戰鬪に參加した米軍一將校は「アンチオ橋頭堡における戰鬪を思はせる酷いものだ」と述懷してゐる、ドイツ軍は今に至るもユバツハ地區に豫備兵力を次から次と投じ、ひた押しの壓迫を加へてをり、ユバツハ西方では取つ組み合の白兵戰を展開してゐる、他方ドイツ軍はオランダ戰線でも全線に亘る反攻の火蓋を切り、前後五回英第二軍の陣地を强襲、火花を散らす激鬪が繰り返されてゐる

敵秋季總攻勢の態勢

(ベルリン六日發)ドイツ軍當局は西部戰線の戰局に關し六日次の通り言明した

反樞軸軍は秋季大攻勢の準備を進めてゐることは今や全く疑問の餘地がない、反樞軸第十二集團軍司令官ブラツドレーはニムウエーゲン、エル・ラ・シヤペル地區の戰線を第二十一集團軍司令官モントゴメリーから引き繼いだ、以上米軍が西部戰線の北翼にも進出したことはアイゼンハウアーが一切の作戰重點を米軍の手中に歸せしめたことを意味するものであり、近くオランダ、ルクセンブルグ戰線でも大規模の作戰が展開されることを明瞭に示唆するものだ

昭和十九年十月九日（月）
第三二〇四號
同盟通信
海外電報
（第三種郵便物認可）

【反樞軸陣營】

米英外交政策の混亂を非難

＝戰後無方策は恥辱＝

（ストツクホルム四日發）米英言論界は歐洲情勢に收拾し難い混亂を齎す反樞軸外交政策の混亂を最近深刻に憂慮してゐたが、ポーランド問題の爆發、ドイツ處理案の分裂、對佛伊政策の立遲れ、ダンバートン・オークス會議の失敗等問題が山積するに至つて憂慮は忿懣にかはり、反樞軸外交政策を痛烈に非難するに至つてゐる、たとへば米紙「ワシントン・ポスト」は去る二日の社說において對獨休戰條件が未だに決定をみず、フランス、イタリアに對しても全く無爲無策である事實をつかまへて

歐洲戰の最終段階において反樞軸政策の根本基礎さへ出來上つてゐないことは恥だ

と口を極めて攻擊、英紙「デイリー・メール」の記者アラステア・フオーブスもポーランド問題を採り上げて次の通り論じてゐる

反樞軸陣營における最大の矛盾は歐洲戰開始以來の盟邦ポーランドが昨日の敵たるイタリアよりも遙かに悪い運命を擔はされてゐることだ、イタリアは目下嘗めてゐる苦難を將來多少とも輕減されることを約束されてゐるが、ポーランドの將來は常に暗澹たるものがある、以上のことは英國政府がソ聯との友好關係を維持しようと焦るあまり、反つて逆效果を生ぜしめてゐることを完全に裏書するものだ、もしもソヴエト政府が昨日の敵フインランドやルーマニアを遇するにポーランドを遇する如きをもつてすれば英國の同情を全く失ふことにならう、それと同樣に、英國政府が現在の對ソ屈服政策を維持して行くならば、歐洲諸少國の同情を失ふことになる、われわれはソ聯がワルソーを占領した場合、勇敢な蜂起軍をシリベアに移送する意圖を藏してゐることを無視出來ない、もしもアイゼンハウアーがパリのマキ匪團をサンカンタンかシシシンの牢獄に投ずるとすれば、ソ聯は何といふであらうか

他方米國の評論家ドロシー・トンプソンは、ダンバートン・オークス會談の失敗に絡んで米英兩國の政策を非難し次の通り述べてゐる

米英ソ三國の計畫を阻害する最大の原因はソ聯の態度だ、ソ聯は米英兩國が共同でソ聯に當り新たに誕生する國際聯盟がソ聯に對する國際ブロツクを形成することを危惧してゐる、將來の國際組織が實力政策乃至利益圈といふ見地から問題とされる限りソ聯の危惧は決して消滅しないだらう

チヤーチル鰐の涙

（ストツクホルム五日發）ロンドン來電によれば亡命ポーランド政權側のポーランド人はワルソー蜂起軍の降伏後ボール將軍が脫出して新たに遊擊隊を組織してゐると考へてゐただけにボール將軍捕虜の報に愕然とした模樣で、蜂起を見殺しにした米英ソ三國の冷淡な態度を囂々と非難してゐるといはれるが、チヤーチルは工合の悪い立場を糊塗するため五日下院で殊更にワルソー蜂起軍を稱揚、次の通り述べたと傳へられる

ワルソー蜂起軍の六十三日間に亘る力戰苦鬪はポーランドのみならず反樞軸各國の記憶に不朽の痕を留めるであらう、廢墟と化したワルソー市內で戰ひ且つ生活した人々は今次大戰の齎した悲慘を遙かに超ゆる苦難を嘗めた、米英ソ波四國空軍の飛行士はワルソーのポーランド人を援助する爲に全力を盡し、それがポーランド軍の抵抗を所期した以上に持ちこたへさせたが如何せん狂瀾を既倒に廻らすことは不可能であつた、恰かも反樞軸軍が到るところの戰場で戰果を收め、歐洲戰の終了が目睫の間に迫つてゐる時に當つて、ワルソー蜂起が瓦壞したことは全ポーランド人にとつて非常な打擊であらう

他方ソ聯は依然蜂起失敗は赤軍の責任にあらずと強辯、政府機關紙「イズヴエスチヤ」は五日の紙上で次の通り逆捻ぢを喰はせてゐる

ワルソー蜂起は犯罪に類する冒險であり、ラチキエヴイツチ、ソスンコフスキーの一派は以上の山勘仕事の責任を負ふべきだ、ラチキエヴイツチ等の反動分子は泣き言を並べてゐるが、ワルソー市に住む多くの子女の生命を損つたこの悲劇の責は當然彼らに歸すべきだ

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

米英將校軍紀紊亂問題

(ストツクホルム五日發)ロンドン來電=反樞軸軍がフランス侵入以來米英兩國の實業家のうちには軍隊の制服を着用してフランス領内に入りこみ商權獲得に狂奔、これに米英兩軍の將校まで參加して軍紀紊亂問題を惹き起してゐるといはれるが、英國外相イーデンは五日の下院において次の通り言明した

反樞軸軍總司令官アイゼンハウアーからの報告によれば、米英軍將校がその地位を利用して私的な利權獲得に參畫してゐるやうな事實はない一方正規の將校以外で反樞軸軍司令部に勤務してゐる者も、嚴重な軍規によつて軍務以外の私的な事業には全く從事し得ないこととなつてゐる

九月中の歐洲米軍機の損害

(リスボン四日發)ロンドン來電=反樞軸軍當局は三日次の通り言明した

歐洲方面米軍第八航空隊は九月中に約六萬トンの爆彈を投下したが、そのうち三萬五千トンはドイツ領内に對して投下されたものである、同期間内の米軍機喪失數は爆撃機三四〇機、戰鬪機二四三機、合計五八三機であつた

【英國】

伊帝國の再建認めず

(リスボン四日發)ロンドン來電=イーデンは四日下院で次の通り言明した

英國政府はイタリアに對し舊伊領植民地を返還することに反對である、政府はアフリカのイタリア帝國が永久に消滅したと宣言した當時の聲明を飽くまで固執する

駐西大使歸國の途につく

(マドリード五日發)マドリード駐劄大使サー・サミユエル・ホアは今回男爵を授けられテンプルウツド卿と改名したが、五日午後空路歸國の途についた、歸國の目的についてホアは來週上院に出席するためで再びマドリードに歸任する積りだと語つたが、結局歸任しないだらうとの觀測が有力だ

ロンドン、デリー間無線直通

(チユーリツヒ五日發)從來ロンドンとニユー・デリー間の電報はすべてボンベイを經由してゐたが、八月中旬直通無線電信が完成したが、現在のところ官用及び新聞通信に限られてゐるが、ボンベイ、ニユーヨーク間の直通連絡も目下米英兩國で計畫中といはれる

【カナダ】

空軍總兵力カ二十萬

(リスボン五日發)オツタワ來電=政府は五日空軍總兵力は二十萬四千と發表し、同時にカナダ空軍はこれを最大空軍力として今後は新規召集は行はない旨發表した

【重慶政權】

航空基地の失陷は償ひ得ず

(リスボン六日發)ワシントン來電=米軍當局筋は次の通り言明した

在支第十四航空部隊は、丹竹、桂林、衡陽、零陵等の諸基地を喪失したが、爆彈の搭載量を減らして日本の船舶輸送と軍事施設の爆撃を繼續するつもりである

日本軍が東部支那を完全に切りはなすのは目睫にあるやうだが、たとへその場合でも日本軍の占領地區を越えて米空軍に補給をつけるであらう、新鋭のB32リベレーター爆撃機は既に生産中だが各航空基地の失陷を相殺することは期待出來ない

聯立政府案に反對

(リスボン五日發)延安政權は去月十五日の國民參政會議における國共問題の公開討議に際し、代表林祖涵より重慶と延安の聯立政府樹立の爆彈提議を出したが、重慶來電によれば、重慶政權代言人張平群は四日の記者團會見で重慶側に延安の提議を受諾する意志なき旨左の通り述べたといはれる

かかる問題を討議する必要はない、重慶と延安との交涉には格別の發表もなかつた、國民參政會の調査團が延安に赴くはつきりした期日も決つてゐない

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

【米國】

對支援助の不足を認む

（リスボン五日發）ニューヨーク放送は四日次の通り報道した

支那大陸戰線における反樞軸國の作戰は豫期した通りに進展してゐない、かかる好ましからざる發展は武器その他の軍需物資の補給が不十分なところに基因するとの意見が有力となつてゐる、米國が重慶に湯水のごとき援助を與へなかつたことは事實だ、重慶は七年の抗戰を續けながら完全に無視されてゐたのである、重慶の情勢は外部よりの助力によつてのみ改善が可能である

援蔣物資月二萬トン

（リスボン五日發）ワシントン來電＝ルーズヴェルトは四日の記者團會見で現在ヒマラヤ越えの空路によつて重慶地區に送り込まれてゐる軍需資材量は月二萬トンだと言明した

ルーズヴェルト對支空輸に滿足

（リスボン五日發）ワシントン來電＝ルーズヴェルトは三日の記者團會見で、重慶軍代言人の援蔣物資に關する反駁につき質問を受け、次の通り言明した

援助が大きいとか中位とか少いといふことをどう定義づけるかにある、米國は船舶での輸送は出來なかつたが米國は戰爭開始以來支那へ物資を持込むのに二つのルートを使用した、その一つはカスピ海を出發して砂漠を横斷する陸上ルートで、これは困難極まる旅であつたが能ふ限り利用しまた現在なほ使用してゐる、第二はビルマ公路である、しかしこれは米國が戰爭に入つた頃は日本軍によつて事實上破壞されてゐた當時米國は山岳を越える空路を開設し、當初は輸送トン數は極めて少なかつたが米國はこれを絶えず增加して行つた、一年半前には米國はこの空路によつて一ケ月二千乃至三千トンを輸送してゐた、當時重慶との會談で英雄的な努力によりこのトン數を增加することに決定した、米國はこの決定を守り、一年前までに一ケ月一萬トンまで引上げたがこれは素晴らしい成績であつた、輸送機はシエンノート空軍への航空燃料及び武器彈藥並びに醫療品を輸送した、しかし更に增量に努め現在は山嶽を超えて東南支那へ月二萬トン以上を運ぶに至つた、われわれはこれに大いに滿足してをり、話の全貌が書かれたら英雄的な事績を讃える一つの詩になるだらう

以上の言明に對し、二萬トンのうちどの位の部分が重慶軍に與へられてゐるかとの質問があり、ルーズヴェルトはこれに應へて「このトン數の大部分はシエンノート空軍及びB二九超空の要塞機隊に必要な航空燃料であるが、それ以外の大部分は重慶軍へ渡つてゐる」と說明した

次いで記者團より重慶軍代言人が「第十四航空部隊の勢力は餘りに弱小で、もしその實體が明らかにされれば殆んど信ぜられないほどだ」と言明したのに對する批評を問はれ、「航空燃料が第十四航空部隊に流れ込まねばならなかつた事實と、同部隊のなし遂げた破壞と沈めた艦船と爆碎した日本軍の密集部隊とを考へれば英雄的事績を讃える一つの詩である」と答へ、重慶の不平は今更こと新しいことではないと言明してゐる

海軍生産の重點

（リスボン五日發）ワシントン來電＝海軍長官フオレスタルは五日新聞記者團會見で次の通り言明した

海軍の本年度生產計畫を達成するためには第四四半期において艦艇及び飛行機の生產を第三四半期より八パーセントだけ增產しなければならぬ、計畫の重點は攻擊用舟艇と飛行機とにおかれてゐるが、艦艇建造計畫のうち最大の優先權は特別攻擊用兵員輸送船と特別攻擊用貨物輸送船の建造に與へられ現在の生產目標を達成するためにはこれらの船舶を一日二隻の割合で建造しなければならない、九月の建造實績は豫定に達しなかつたが、その主要原因は勞働力不足にあつた

飛行機の生產については一九四〇年七月一日以來海軍が製作した飛行機の總馬力數は殆んど二億馬力に達した、再軍備計畫が始まつた當時の飛行機發動機の出力は大體六百馬力から九百馬力だつたが、現在では平均一千五百馬力に達してゐる、また再軍備開始以來二年間に製作した發動機を現在は半年で製作してゐる

デユウイ

稅制改革案發表

（リスボン四日發）アルバニー（ニューヨーク州）來電＝共和黨大統領候補デユウイは四日の選擧演說でルーズヴエルト政權の財政々策を痛烈に攻擊これに代るものとして六ケ條からなる稅制改革案を發表した、演說の要旨次の通り

現在の稅制體制は複雜、混亂を極め戰後の繁榮に一大障碍を與へんとしてゐる、共和黨が政權を獲得するならばこの混亂した稅制を簡易化すると共に個人及び法人の課稅を輕減して秩序ある平和時の稅制體制を確立するであらう、戰後には米國の國債總額は三千億弗といふ驚くべき巨額に達すべく一方相當尨大な兵力も維持しなければなるまいから政府の支出を戰前の水準に引下げることは先づ不可能だ、しかし戰爭終了と共に國民所得が漸減歩調を辿りはじめることはたしかであり、戰後の國民所得を大體一千五百萬弗と押へれば、思ひ切つた重稅を課するやうなことは到底不可能である、よつて余は戰爭終了後政府が直ちに實施すべき稅制改革案として次の六項目をあげる

一、個人所得稅免稅點の引上げ　現在の稅制によれば僅か週十一弗の零細所得者も所得稅を收めてゐるがかかる重稅は廢止されねばならぬ

一、個人所得稅率の低減　現稅制の下では扶養者に對する控除額を差引いた後一弗につき最低二十三仙の課稅が行はれてゐる

一、法人所得稅の輕減　戰時特別稅を含めれば法人所得稅の課稅額は所得額の九十五パーセントにも達する場合あり、かかる重稅は生產を阻害し繁榮の支障とならう

一、現稅制のうち最も複雜を極めてゐるのは消費稅である、共和黨は酒類、煙草、ガソリンを除きその他の消費稅をできるだけ廢止しよう

一、稅制の全面的改革

一、產業の繁榮を期すると共に一方では政府の稅收を確保し終局的には國債の低減を實現する二つの目的に合致した財政々策の樹立

【米　洲】

伯、米　亞
調停乘出しか

（リスボン五日發）リオデジヤネイロ來電＝アルゼンチン大統領フアレルは近くアルゼンチン、ブラジル兩國を繫ぐ國際橋架橋工事視察のため、國境都市パソ・デ・ロス・リブレスを訪問することとなつたが、外交消息筋の漏らすところによるとフアレルはその際ブラジル都市ウルグヤナをも訪問するはずといはれる、これと關聯してブラジルが米亞兩國關係の調停に乘出すだらうとの說が傳へられ、フアレルはウルグヤナ訪問の際ブラジル政府の高官と會談することとならうといはれる、この觀測と共に最近ワシントンから歸國した駐米ブラジル大使マルチンも米亞兩國調停案を携行して來たとの說もある

亞　國　に
大　空　港

（リスボン五日發）ブエノスアイレス來電＝アルゼンチン政府は五日エステバン・イチエヴエリアに一大空港を建設する旨發表した、同計畫によれば飛行場面積は六千ヘクタール、豫算は三千萬ペソである

【イベリア】

葡政府獨立と
主權の擁護强調

（マドリード五日發）ポルトガル政府が來る二十二日緊急國會を召集するとの報道についてはスペイン各紙はまだ論評を加へずリスボン特電を掲載してゐるに過ぎないが、リスボンの英國系新聞「ジヨルナル・ド・コメルシオ」紙はサラザール首相並びに陸相フエルナンド・サントス・コス大佐が自國の主權並びに領土擁護について述べた演說を引用し、社說において

ポルトガル政府は國軍の奉仕と犧牲により獨立國としての權利を他國に尊重させる決意あり、國軍は深く任務を自覺し國民總意の要求あれば何時でも任務に殉ずる覺悟だ

と書いてゐる

【イタリア】

九月中の
空襲被害

（リスボン三日發）ミラノ來電＝イタリア政府の發表によれば、九月中の反樞軸軍爆擊によるイタリアファシスト共和國內の損害は次の通り

死者一、五八七名、負傷者二、四八四名、完全崩壞家屋二、〇〇〇餘戶

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

【ドイツ】

國民擲彈兵團の構成を發表

(ベルリン五日發)宣傳相ゲツベルス博士は五日ライン地區における演説でドイツ軍の新編「國民擲彈兵團」が續々ラインの護りについてゐる旨初めて發表したが、ドイツ軍當局は五日正午記者團との會見で更に次の通り言明した

國民擲彈兵團は根こそぎ動員令に基く新壯丁をもつて組織され異常な火力を誇る全く斬新な兵器を裝備してゐる、細目は言明の限りではないが新兵團の主要裝備が特に强力な自働火器だといふことだけはいつておかう

三ケ月間に一萬機撃墜

(ベルリン五日發)ドイツ空軍は數的に劣勢且つ廣汎な領域の防衛に當らなければならなかつたにも拘らず過去三ケ月間に各戰線において少くとも一萬機以上の損害を反樞軸空軍に與へたと推定される、七月、八月、九月三ケ月間に西部戰線でドイツ防衛空軍が撃墜した反樞軸軍飛行機は合計五千百四十五機、うち大半は四發重爆で一日平均六十機の割合である、東部戰線では同期間にソヴエト飛行機四千百八十機を撃墜した

【東南歐】

勃政權の磐的性格

(ストツクホルム四日發)英誌「エコノミスト」九月十六日號はブルガリア政權の奇妙な中間的性格を指摘し次の通り述べてゐる

ソ聯の對勃宣戰布告に引續いて、九月九日にはブルガリア新內閣が登場したが、中心人物は同國內政上波瀾に富む歷史を持つ「軍事聯盟」の指導者キモン・ゲオルギエフとヴエルシエフ大佐だ、「軍事聯盟」は一九二二年クーデターを組織、軍事的獨裁への途を切り拓いたが一九三四年再びクーデターに成功、軍部獨裁政府が樹立されたが一年後にはボリス國王によつて政界から退場を餘儀なくせしめられたゲオルギエフとヴエルシエフとは「ブルガリア左派大佐」と稱されてゐるが、彼らの政策は獨裁的方向を辿りながらサクスコブルグ王朝に反抗するといふ獨裁主義と共和主義の奇妙な混血兒であつた、「軍事聯盟」の首腦は最近數年間發言權を奪はれてゐたが、外交政策の面では樞軸派と對立してをり、僅かに議會に席を有する新外相のペトコ・スタチョフだけが細心の注意を拂ひながら樞軸派に對して異議を唱へるといつた程度であつた、新政府の第一措置はブルガリア外交政策の代表者たる三攝政の更迭であつたが、新攝政の一人、パヴロフが共產主義者であるとの情報も正確なものではなくブルガリア左翼團體が新政府に參加してゐるかどうかも明らかにされてゐない、もし右翼團體が參加を拒否した場合內閣の改造は必然となるであらう、バルカンにおいても、他の歐洲諸國と同樣ドイツ敗北の曉には人民戰線派が表面に押し出されてくることは明らかであり、ブルガリア新政府の性格を見ればサクスコブルグ王家を放逐し、共和政體の確立が可能なやうに思はれる

【樞軸國】

スロヴアキア政府方針を闡明

(ベルリン四日發)プラティスラヴア來電=スロヴアキア首相兼外相ステフアン・テイソー博士は四日の議會で現下の重大な戰局に鑑み內治外交政策の綱領を次の通り闡明したスロヴアキア人の運命及び獨立を決定する眞の戰爭は愈々間近かに迫つてきた、過去において蒙つたスロヴアキアの破壞を修復するには國內愛國者の確固たる協力に俟つ他はない、またその目的實現のためには嚴格な紀律、絕對の服從及び義務の良心的履行が必要である、政府はスロヴアキア、ドイツ兩國の友好關係並びに同盟の趣旨を堅持、ユダヤ人及びチエツコ人の問題については斷乎たる解決方法をとるであらう、裏切者に對してはスロヴアキア人たるとチエツコ、ユダヤ人たるを問はず嚴重に責任を問ふ方針である

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

ソ波紛爭のその後 (上)

原子林二郎

新人物の登場

ソヴエト政府とロンドンの亡命ポーランド政權との紛爭は、もはや人々の記憶から薄れ去つたカトウイン森の慘劇に端を發する國交斷絶以來、一年半以上の間燃え上つては燻るといふ後味の惡い狀態を續け、依然米英新聞界をして「反樞軸陣營の最大の癌」と長嘆せしめる事態から一歩も改善されてゐない、しかしながら現在ではソヴエト政府對亡命ポーランド政權の對立に、ポーランド國民解放委員會といふ役者が一枚加はつた結果、兩者の喧嘩は三者三つ巴の複雜極まる關係に發展し問題の重點が一體奈邊にあるのか、とかく見失はれ勝ちになつてゐる、從つてソ波紛爭の現實を理解するためには、まづもつてポーランド國民解放委員會の實體をつかんでかからねばならぬわけだ

ポーランド國民解放委員會の首班モラフスキーが戰爭と勞働階級誌の本年六月十五日號に寄稿した一文によると、同委員會の主體たるポーランド國民評議會(Kraeva-Rada-Narodova)が出來上つた經緯は次の通りだ——本年一月一日夜、ワルソーにおいて極祕裡にポーランドの民主々義諸政黨の代表三十名が一堂に會した、參會した政黨はストロニーツトヴオ・クエドーヴオ農民黨の反對派ポーランド勞働黨、ポーランド社會主義勞働黨の他、地下勞働組合組織の代表、民主々義インテリゲンチヤ組織の代表、青年鬪爭同盟(ヴアールカ・ムローデイフ)などで、さらに國民親衛隊、國民々兵隊、農民大隊などの地下軍事組織の代表も會議に參加した、會議は夜の六時から翌朝の五時まで續き、「ポーランド國民評議會」の綱領を採擇し、ポーランド國民軍の全武裝兵力を單一の組織に統合し、總司令官にローリヤ將軍を任命することに決定した——といふことである、このポーランド國民評議會は行政體としてポーランド國民解放委員會を創設、初め假首都を赤軍占領の地ヘウムに置いたが(これが通稱ヘウム政權とよばれた所以だ)、後にルブリンに移し、いづれはワルソーに移る豫定といはれる、國民評議會の議長はボレスラフ・ベルート(Bolesrav Berut)ポーランド國民解放委員會の議長はモラフスキー(E. Osubka-Moravsky)、議長代理はヴイトス(A. Viios)とポーランド閨秀作家で前ウクライナ共和國外務人民委員アレクサンドル・コルネイチュークの妻ヴアンダ・ヴアシレフスカヤ(Vanda L. Vassilevskaya)、ポーランド國民軍總司令官は覆面の人物ローリヤ・ジミエルスキー大將(M. Lolya-Zimiersky)だ

傀儡か否か

このポーランド國民解放委員會の性格だが、亡命ポーランド政權の機關誌「ボブードカ」(覺醒)がソ聯の傀儡政權(Moscows puppet government)とよび、愼重なロイター通信でさへクレムリン製政權(Kremlin-made government)といつてゐるやうに、如何にもスターリンお手盛りの傀儡政權の觀を呈してをり、芝居氣たつぷりな成立事情にも拘らず「ニューヨーク・タイムズ」紙のごときはヴアンダ・ヴアシレフスカヤの主宰するモスクワのポーランド愛國者聯盟(Soyuz Polskye Patriotov)の發展的解消したものとみてゐる位だ、ソヴエト政府はポーランド國民解放委員會をポーランドの臨時政府として承認し、外交代表をルブリンに派遣、さらにソ聯と亡命チエツコ政權との間に成立した赤軍占領地域軍政協定と類似した協定をさる七月に締結してゐる、亡命ポーランド政權や米英新聞界がポーランド國民解放委員會にクレムリン製のボリシエヴイーキ政權の烙印を押してゐるのに對して「プラウダ」紙は共產黨員は國民解放委員會の國民委員(大臣のことだ)十五名中三名だけだと抗辯してゐるが、それだからといつてクレムリンの息が掛つてゐないことにはならない、七月二十六日附の「タイムズ」紙外交記者はポーランド國民解放委員會に對するクレムリンの態度を忖度して次の通り述べてゐるが大體正鵠を射てゐるものといへよう

ポーランド國民解放委員會は既にカーゾン線西方の解放地域で活動してゐるが、ソヴエト政府はこの委員會を正統のポーランド政府が樹立されるまでの假政府機關として待遇してゐる、ポーランド領における赤軍の迅速な進出に伴ひ、ソ聯はかうした假政府機關を必要とするに至つたが、いろんな理由からソヴエト政府は信賴のおけるポーランド人の手に行政權を握らせることを希望してゐた、しかるにロンドンの亡命ポーランド政權は多くの點でソヴエト政府を滿足させる資格も意志もないので、スターリンは元のポーランド愛國者聯盟の成員によつて大部分占められてゐるポーランド國民解放委員會を利用することになつたわけだ、但しソヴエト政府は國民解放委員會が現在ポーランドで享けてゐる政治的支持の度合を過大に評價してゐない

以上の「タイムズ」紙の所論は一つの極めて重要なことを示唆してゐる、卽ちソ聯は傀儡政權としてポーランド國民解放委員會を作り上げたのではないといふことだ、ポーランド國民解放委員會は既に述べたやうにポーランドにおけるあらゆる政黨政派の代表によつて構成されたものとなつてをり、ポーランドの民主々義諸勢力の統一機關と銘打たれてゐるが、ソ聯の新聞雜誌が屢々それとなく仄めかしてきたやうに、ロンドンのミコライチク政權がラチキエヴイツチやソスンコフスキー流のフアシスト分子を淸算する限り、同委員會に合流する餘地があるわけだ、スエーデンの「ダーゲンス・ニヘター」紙がポーランド國民解放委員會はソ聯の「傀儡」政權ではなくて、「卽」政權だといつてゐるのもその間の微妙な關係を見拔いたものであらう、またポーランド國民評議會とポーランド國民解放委員會との關係はソ聯の最高會議と人民委員會議との關係に類似するもので、行政の實權は後者が握り、前者はあれども無きが如き存在だが、國民評議會がお膳立をすれば、國民解放委員會はいかなる變貌も轉身も許される、これが卽の卽たる所以だといへぬこともない

一つの國に二つの軍隊

これまで述べたことで、ソヴエト政府、ロンドンの亡命ポーランド政權、ルブリンのポーランド國民解放委員會の三者三つ巴の對立も、畢竟ソヴエト政府と亡命政權の對立に還元され、一見複雜な關係も至極簡單な關係であることが明らかにされたと思はれるが、一つの國に二つの政權が存在することもさることながら、一つの國に二つの軍隊が存在し、いづれも正統性を主張してゐるといふ奇怪な現象が派生してゐる、一はミコライチク政權のポーランド「祖國」軍で、現在イタリア戰線や西部戰線の反樞軸軍作戰に參加するものと、ポーランドの遊擊活動に參加するものに分れ、總司令官は問題のソスンコフスキー (Kazimierz Sosnkovsky) 大將、後者のポーラン地下軍總司令官はワルソー蜂起以來有名な、ボール將軍ことタデウス・モロコフスキー中將で、他はルブリン政權に屬するポーランド「解放」軍で、赤軍と共に作戰するジグムンド・ベルリング少將のタデウス・コスチユーシコ師團もこのポーランド「解放」軍に屬する、「ニユーズ・クロニクル」紙のモスクワ記者によればポーランド「解放」軍の總兵力は二十萬といはれるから、ソスンコフスキーのポーランド軍十個師とほぼ同程度のわけだ

一九三九年九月のポーランド作戰で明らかにされたが、ポーランド軍上層部の頑迷愚鈍さと兵卒の剛毅稀な戰鬪精神とは鋭い對照をなしてゐるが「ニユーヨーク・ヘラルド・トリビユーン」紙の七月二十五日附紙上に揭載されたモーリス・ヒンダスの論說によれば、ポーランド「解放」軍は勇猛をもつて鳴る農民兵を根幹とするもので、ソ聯によつて近代的な兵器裝備を豐富に供給されてゐるといはれるから、その戰力は侮り難いものがある、例へばモーリス・ヒンダスは本年七月二十五日の「ニユーヨーク・ヘラルド・トリビユーン」紙に「ソ聯のポーランド軍」と題する一文を寄稿して次の通り述べてゐる

全世界のポーランド人の視線はワルソーにそそがれてゐる、筆者がこの報道を書いてゐる瞬間

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

には、赤軍はポーランド首都の東方五十哩の地點に迫つてゐるが、特に注目に値するのは赤軍と協同作戰を遂行してゐるポーランド軍の存在だ、ポーランド軍は日毎に威力と規模を增大してゐるが、この軍隊の歩兵師團は舊ポーランド軍の三倍乃至四倍の火力を有し、戰車や飛行機も赤軍のそれに劣らない、ポーランド軍がワルソーに到達した頃には、解放地域のポーランド人や遊擊隊を吸收して兵力は百萬を突破することとならう、兵士の大部分は農民だが、その勇猛果敢なことはすでに一九三九年のポーランド作戰で試驗濟みだ

モーリス・ヒンダスの報道は多少誇張があるやうだが、旅團程度から出發した赤軍内のポーランド軍が舊ポーランド國境を越えるに伴ひ師團となりヴイスツラ河を狹んでワルソー舊市内と對峙する今日すでに軍團にまで發展してゐることは事實だ「プラウダ」紙の報道をみてもこのポーランド軍が解放地域の農民や遊擊隊を吸收して强化されて行くさまを傳へてゐるが、このポーランド軍團はローリヤ・ジミエルスキー大將のポーランド解放軍に形の上では屬してゐるが、實際は赤軍特に第一白露戰線軍に配屬されて、ロコソフスキー元帥の直接指揮下にある

頭でつかちのポーランド「祖國」軍

このポーランド解放軍と對照的地位にあるのが問題のソスンコフスキーのポーランド「祖國」軍(クラヨーヴアヤ・アルミヤ)だ、英國の軍事專門家ストラテジクスがポーランド作戰に觸れ「ポーランドが十八日間で亡びたのはポーランド軍上層部が箸にも棒にもかからぬ莫迦で頑迷なせいでポーランドが十八日間ももつたのはポーランド兵士の稀にみる勇敢さと剛毅な精神のせいだ」といふ有名な言葉を吐いてゐるが、この箸にも棒にもかからぬ連中から出來上つてゐるのがポーランド祖國軍だ、英誌「ニユー・ステーツメン・アンド・ネーション」の報道によればポーランド軍の一技術兵小隊の構成は大尉二名、中尉三名、少尉三十名以上、軍曹十一名、伍長二十名、兵卒十名といはれるところからみてもおして知ることが出來るが、ポーランド祖國軍の基幹は反動的なポーランド貴族(シユリヤフタ)だ、この貴族軍は極く一部が西部戰線やイタリア戰線の戰鬪に參加したり、ポーランド國内で極く稀にドイツ軍に對する遊擊活動を展開してゐるだけで、あとは徒らに日を送つてピウスズキー的な大ポーランド王國の再建を夢み、專ら内亂の準備を進めてゐる、ソスンコフスキー軍が内亂の準備にのみ沒頭してゐることは目に餘るものがあるやうで、英紙オブザーヴアも「ソスンコフスキー軍の敵はドイツ軍ではなくて、ポーランド民衆からなる解放軍だ」と述べて、ポーランド「祖國」「解放」兩軍の同志討を一一例を擧げて指摘してゐるが、更にポーランド祖國軍のグラベツ少佐も英國勞働黨週刊誌「トリビユーン」に一文を寄稿して、ソスンコフスキー軍の假面を容赦なく剝ぎとつてゐる

戰前のポーランド軍は士官が市民に「軍服の尊嚴」を汚された場合射殺する權利を有する歐洲唯一の國だ、以上の事態は亡命しても一向に變りなく、ポーランド軍の士官共はポーランドにおける内亂の準備を進めてゐる有樣だ、英國のポーランド軍は兵卒が少くて、士官が矢鱈に多いといふ妙な軍隊だが、將官、佐官、尉官の嫌ひなく仕事もせずに俸給だけは貰つてゐる、こんなに多勢の士官を一體どうする氣だらう、軍需工場で働いた方が遙かに戰爭のためになると怪訝に思ふ者もあるだらうが、かうした連中の仕事はほかにあるのだ、信じられぬことかも知れないが、この士官の氾濫は最近ソスンコフスキーが新たに一千名を士官に昇進させたので一層酷くなつた、この無爲徒食の士官團の存在理由を說明する唯一のものは、軍事的なものではなくて政治的なものだ、彼等の役割はポーランドの内亂にある、ポーランド軍の極く一部は現在の作戰に從事してゐるが、大部分は「將來の秩序確立」のために大事にしまつておかれてゐるのだ、ポーランド祖國軍の價値はドイツ軍と戰ふにあるのではなく、國内の反對派と戰ふにある、ソスンコフスキーが一千名を士官に昇進させたのも十分の理由があつてのことだ、彼は自分のために新たな御用軍隊をでつち上げてゐるのだ

昭和十九年十月九日(月)
第三二〇四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

一つの國に二つの政權と二つの軍隊が存在するといふ複雜な事態が具體的に舞臺の前面に躍り出したのが、周知の如くワルソー蜂起事件である、ワルソーにおける蜂起は去る八月一日に勃發したが、いはゆるワルソー蜂起軍の司令官が覆面將軍ボール（最近ボールの覆面がとられて、一九三九年九月、ヴイスツラ河戰線防衛の際騎兵軍團の指揮に當つたポーランド軍部の「木偶の棒」の一人タデウス・コモロフスキーであることが判明した）で、蜂起軍の主體がポーランド「祖國」軍であることだけが判明してゐるが、兵力その他は一切判明しない、毎日ロンドンのポーランド放送局からボール將軍の戰況公報と稱すべきものが發表されてゐるが、蜂起以來二ヶ月以上を經過する現在、果して現實に戰鬪が行はれてゐるのかどうかもはつきりしない實狀だ、そのため悪く氣を廻せばワルソーの蜂起そのものが、既に亡命ポーランド政權の仕組んだ影繪芝居ではないかといふ見方もなり立つ、いづれにしてもワルソーの蜂起は、第二次世界大戰の七不思議の一つとして、事件そのものはさして重大なものではないが、後々まで大きな影響を及ぼすことにならう

資料

支那の統一は
大統領選擧より重大

「タイム」誌九月二十五日號は次の通り報道してゐる

「政府の財政を完全に公表することは民主々義政府の重要缺くべからざる特質だ」この忠言は三年前に米國の友人等と米國の關稅辨務官マヌエル・フオツクスが重慶に與へたものである、重慶政府は先週、國民參政會の要請に應へて、今後國家の豫算は公表される筈だと公表した、重慶に乘込んだ米國特使ネルソンとハーレー少將は滯留第一日目に蔣介石と會見し、翌日には經濟部長、交通部長及び財政部次長その他と會談した、ネルソンは記者團會見で記事に書けない事項を率直に語つたが、報道し得る要點としては、特使の主要目的は日本を擊破するに必要な手段を確立するにあつたが、同時に現在並びに戰後の諸問題に對する双方の角度から經濟情勢を檢討するにあつた

一方、消息筋では、特使の使命は副大統領ウオーレスの去る五月の重慶訪問の結實したものであつたと臆測し、適當な時期内には、米國の補給品がビルマ公路か太平洋のいづれかの地點より重慶に流れ込むであらうとみてゐる、他國政府に對する米國政府の公約の基礎的原則は、今具現して將來のあり得べき誤解を避けねばならない、米特使の滯留中に重慶では國民參政會の最も公開的な會議が進行中であつた、一つの議題は重慶と中共代表の間で四ヶ月以上も延引した統一の交涉であつた、實際に語られた發言は、支那の統一といふことで、この問題の最終結果は米國にとつて大統領選擧よりも重大である

この會議で中共代表の林祖涵は「われわれは今直ちに召集した國民議會を開催したい」と言明したが、これに對し重慶代表の王世杰は「滿洲その他各省が重慶治下より切離されてゐる際、全國的な總選擧を施行することは不可能である、重慶政府は中共を含む一切の政黨に對して戰後一年以内に對等の地位を與へることを約束してゐるのである」と答へた、共産軍については攻擊と反駁とが行はれてゐるが、林祖涵は重慶が共産軍の現有兵力四十七萬を十五萬に縮小しろと要求したことを攻擊した

これに對し王世杰は、「林祖涵は共産軍の兵力として十二個師を要求し、後に至つて十六個師を要求した」と反駁し、更に林は「中共は王世杰及び彼の腹心が延安を訪問して意見を交換するやう招請した」と挑戰したのに對し、王は「重慶はそれを受諾する用意がある」と答へた、かくして後國民參政會は會てみなかつた措置をとるに至つた卽ち同會議は中國々民黨に所屬しない五名の代表を延安に派遣して調査せしめることに票決したのである

ZN-33

昭和十九年十月十日(火)
第二〇五號
同盟通信
海外電報
(233)

昭和五年十月廿七日第三種郵便物認可　印刷發行人　秦豊助　東京都麹町區日比谷公園二番　印刷所人　同盟通信社

知彼知己百戰不危　不知彼而知己一勝一負　不知彼不知己每戰必殆（孫子　謀攻第三）

世界戰局の現狀においてルーズヴエルトの頭痛の種は何だらうか？　彼は恐らくジーグフリード線に據るドイツ軍よりも太平洋の彼岸における勁敵よりも、米國内に瀰漫する樂觀氣分だといふに違ひない、まことに山中の賊は破り得ても心中の敵を抑へることは難づかしい、米國戰時情報局が過般帝國の戰力と優位とに關する十三ケ條を發表し、米國民に嚴重警告した所以だ、しかし徒らに日本軍の強みを說くだけでは逆效果を生ずる惧があるといふのであらう、同時に反樞軸軍の長所十ケ條を發表してゐる

第一に反樞軸各國の尨大な生産力、米國だけで航空機月産八千臺に對し、日本國内の生産は月產千四百臺乃至千五百臺

第二に日本軍は陸上基地の行動半徑以外では戰略的な攻擊力を喪失したといふ

第三に海上輸送力の減退、日本造船界はいまだ一ケ年百萬トンの造船が出來ないと稱してゐる

第四にB29による日本工業爆擊は太平洋反攻作戰の一躍進と主張する

第五に米軍の飛び石作戰により帝國の外郭防衛線における約百五十の島嶼は無力化した、大宮島、サイパン島、テニアン島を占領した結果日本本土を去る一千哩の内郭防衛線に對し米軍は「攻擊可能距離」に到達したと呼號してゐる

第六に反樞軸軍が更に一步西方に巨步を進めれば海軍力と陸上基地の航空隊とによつて日本本土を封鎖出來よう、西方への巨步の一つは比島攻略である

第七にビルマ作戰の結果、レド・ビルマ公路を啓開して重慶への補給を强化出來ようと豪語してゐる

第八に日本軍は歐洲戰線で見られるやうな大な非代戰の經驗がないと嘯いてゐる、アングロ陸の戰ひにおいては双方とも比較的少數の戰車で戰つてゐるに過ぎない、マツカーサー將軍も日本軍の素質を論じて、一般兵士の軍事的素質は依然として最高度を維持してゐるが、上級に進むに從つて素質が低下する、日本軍は根本的には尨大な封建制度を基調とし嚴格な職業軍人ではない資源と總力戰のために組織化する能力も先見の明もないと述べてゐるが、反樞軸軍が世界戰爭の體驗豐かな指導層を持つてゐるのに比べてこの點日本軍の弱點だと御託を並べてゐる

第九に太平洋作戰で明らかな通り、海上戰で米軍が作戰的にも實戰においても日本軍を壓倒し、空中戰でも米軍は日本軍に比較的に大きい損害を與へてゐる、日本軍の士氣旺盛なことは周知の事實だが、米軍が攻勢に出るとともに至る所日本軍を抑へてゐるではないかと取りとめもない空威張りだ

第十に眞珠灣以來、日本軍は占領地域を十分「資本化」してゐない、依然として日本國内の軍需生產は眞珠灣以前の水準を低徊し、占領地帶の資源を活用するに至つてゐないとの獨斷だ

最後に歐洲戰爭が片づいた場合心理的には反樞軸軍にとつて惡材料だと述べてゐる、米國人にとつては世界戰爭の半ばに達したことになり戰時經濟が大規模な變革を受け、戰爭努力も戰意も衰へるだらうが、日本國民は却つて最後の肚を極めて戰意が昂揚するだらうと懸念してゐるわけだ

以上米國戰時情報局の十ケ條が、帝國戰力の測定として孫子の揭げた如何なる範疇に入るかは賢明な諸君の判斷に委ねよう、第一過般の十三ケ條で米國與論易しと誤解するならば、戰時情報局の謀略にひつかかるにひとしい、玆に反樞軸軍のいはゆる强み十ケ條を紹介するゆえんである

昭和十九年 十月 十日(火)
第 三二〇五 號

同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【目 次】

突如ナハス・パシヤを罷免……二三一六
奇怪な政變の背後關係……〃
國王の首相宛書簡……二三一六—二三一七
アラブ聯盟會議の公報……二三一七
赤軍捕虜一萬一千名……〃
瑞芬國境都市疎開措置……〃
【友邦軸陣營】
援蔣紛爭の米英紙論調……二三一八
米英重慶會談終る……〃
航空會議シカゴで開催……〃
ド・ゴール諮問會議召集……二三一九
ベタン主席を軍法會議に……〃
ベルギー新內閣の閣僚……〃
【東 南 歐】
赤軍ベルグラード攻勢の狙ひ……〃
亡命ユーゴー元陸相逃避……〃
チトー、スターリンと會見……〃
【米 國】
ハル辭職せん……二三二〇
對日戰の前途を警告……〃
ケーンズまたも訪米……〃
兵員損害四十一萬七千……〃
海軍の損害……〃
イタリア戰線の損害……〃
抑留邦人死亡者數……〃
ウイルキー死去……二三二一
【米 洲】
亞國米の招請を拒絕……〃
チリ新內閣成立……〃
【佛 國】
海軍印度洋に集結か……〃
ロンドン人口の半分は家なし……〃
イーデン積極的外交を强調……〃
空爆損害發表……二三二二
ロンドン、パリ間定期空路復活……〃
ロンドン、マドリード間空路……〃
【北 歐】
芬內に中立地帶設定……〃
ジユダノフ大將芬乘込み……〃
デンマーク王弟急逝……〃
【印 度】
國防會議開催……〃
【ド イ ツ】
必勝の信念を說く……二三二三
國民擲彈兵早くも活躍……〃
【イタリア】
國家警察隊長更迭……〃
【ス イ ス】
外人資產統制を强化……〃
【西 亞】
アラブ聯盟會議の取極め……〃
米英ソ、イランで角逐……〃
【トルコ】
新任英大使着任……〃
【軍事情報】
米國の大型航空機……二三二六
【特輯】
ソ波紛爭の其の後(下)……二三二四—二三二六

突如ナハスパシヤを罷免

(リスボン八日發)エヂプト國王一世は八日突如ムスタファ・ナハス・パシヤを首班とするワフド黨內閣を罷免、サーデスト黨の首領アーメド・マヘール・パシヤ博士に後繼內閣の組織を委囑した

奇怪な政變の背後關係

(リスボン八日發)エヂプト首相ナハス・パシヤの司令するアラブ聯盟會議が八日圓滿終了し公報を發表した直後にカイロ放送局が突如、アラビア語、英語、フランス語でエヂプト國王ファルーク一世がナハス・パシヤを首班とする內閣を罷免した旨を放送した事はエヂプト政界は勿論回教各國間に異常な衝撃を與へてゐる、エヂプト國王の奇矯な措置がアラブ聯盟の結成を阻害しようとする英國政府一流の宮廷壓迫策に基くかどうかは斷定出來ないがカイロからのロイター電報は頻りに國王と首相との對立關係を强調し、特に次の通り報道してゐる

內閣更迭の報道は、カイロで第一級の衝動を捲き起してゐる、九日回教徒の齋月ラマダンに當り國王ファルーク一世がカイロの回教寺院にお祈りに赴いたところ、寺院の壁に「ナハス・パシヤ萬歲」といふ揭示が出てゐた、國王は警保局長に對し右揭示の撤回を指令、局長は國王の指示通り揭示を撤回したところ、間もなく警保局長は首相ナハス・パシヤのために罷免された

國王の首相宛書簡

(リスボン八日發)カイロ來電=エヂプト國王ファルーク一世が內閣罷免に當りナハス・パシヤに與へた書簡次の通り

憲法の條章並びに精神に基き憲政を運營し、權利と義務とについてすべてのエヂプト人を平等に遇し、且つ全國民に十分な食糧、衣服とを提供して祖國に奉仕する民主主義政權によつて、余の國家が統治されることが余の念願である、よつて余はここに貴下の內閣を罷免するに決定した、貴下の內閣の在任期間貴下等の國務に對する奉仕について貴下と閣僚とに感謝する

昭和十九年十月十日（火）
第三二〇五號

同盟通信

海外電報（第三種郵便物認可）

同時に國王はアーメド・マヘール・パシヤに對しては
部下の危局に鑑み、且つ余は國務を遂行する貴下の材幹と誠意とに信賴して新内閣の組織を委囑すると述べた

アラブ聯盟會議の公報

（リスボン八日發）アラブ聯盟會議はイラク首相ハムデ・パジヤジ、シリア首相サイド・アラー・アルビジヤリ、レバノン首相リアド・エス・サルトランスジョルダン首相アブドル・フダ・パシヤなど回教各國代表出席のもとに去る九月二十五日以來アレクサンドリアで開會、爾來二週間餘に亘つて審議を重ねた結果、七日の會議において公報を可決、八日午後三時に亘る會議をもつて一旦終了した、但し今回の會議は大體豫備會談の範圍を出でず、本會議は更に二ケ月後開催される豫定といはれる、カイロからのロイター電報によればエヂプト首相ナハス・パシヤは七日の會議で議長の資格で會議の公報を讀み上げ、各國代表の確認を求めたと傳へられるが、公報全文次の通り

各國王と協議の後初めて調印するエーメン、サウデ・アラビヤ兩國を除き、決議案に調印したすべてのアラブ各國は次の諸決定に同意する、アラブ聯盟は一切のアラブ獨立國をもつてこれを結成する、聯盟の最高機關として理事會を設置する、アラブ各國は同數の代表を理事會に出席させる、理事會の任務はアラブ各國に關聯する諸懸案をアラブ各國が定期の會議において討議決定した各決議を具現し實施するにあり、アラブ聯盟の主要任務はアラブ諸民族間の同胞關係を强化し、何れより來るとを問はず外敵の攻撃に對しアラブ諸國を防衛するにあり、アラブ各國は理事會において採擇された決議を遵守する義務を負ふ

アラブ各國間に紛爭が起る場合には平和的解決を期して實力に訴へない、理事會に參加してゐる各國は他のアラブ國の利益に反する如き條約を他國と締結しない義務あり、一方理事會はアラブ民族と他の諸國との紛爭に際しては、紛爭解決のため介入する義務を負ふ、次の諸項について相互援助委員會を設置する

A　財政、經濟、交易、關稅
B　陸上、海上の交通、空路
C　郵便、電信
D　國籍、旅券査證、他の政治上の諸問題
E　社會上に重要な事項
F　保健衞生

他にアラブ各國の將來に關する施策準備委員會登錄並びに事務局に關する委員會をも設置する以上の委員會が任務を完了するとともに、アラブ民族全體會議を開催する、アラブ各國はレバノン國の現實の國境線内において同國の獨立と自由とを承認する

パレスチナ地方はアラブ各國の不可分の一部分と認め、同地方におけるアラブ人の權利を維持し、保全する英國政府がユダヤ人移民を一掃しアラブ人の領土的權利を尊重する旨公約したのは平和への第一歩であるシリア、トランスジョルダン、イラク、シバノン、エヂプト各國代表調印

赤軍の捕虜一萬一千名

（ベルリン七日發）DNBは七日次の通り報じてゐる

ハインリツヒ上級大將麾下のドイツ軍は東バスキーゾにおいて優勢な赤軍部隊を擊退し赤軍のスロヴアキアに對する突破はまたしても破摧された、九月八日以來ドイツ軍は同方面で赤軍戰車四百四十二臺、火砲二百十門を破壞し、捕虜三千二百を得た、同方面における七月十三日以來の戰果は戰車二千六百七十臺、火砲二千四百三十二門を破壞、飛行機百二十六機を擊墜破し捕虜は一萬一千名以上に上る、更にドイツ空軍だけで同期間右地區において敵戰車三百八十一臺、火砲三百四十九門、飛行機九百四十四機を破壞または擊墜破した

瑞芬國境都市疎開措置

（ストツクホルム七日發）新聞報道によればスエーデン政府當局はスエーデン、フインランド國境近くのハバランダ市民の疎開につき一切の必要な準備を完了したといはれる、スエーデン政府が何故同市の疎開を考慮してゐるのかその理由は明らかでない

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

重慶は大國に非ず

＝援蔣紛爭の米英紙論調＝

(リスボン六日發)英首相チヤーチルの重慶敗戰難詰を契機として重慶と米英の間に敗戰責任と對蔣補給問題を繞る內訌が暴露されたが、これに關聯して英國保守黨系のイースターン・デーリー・プレス紙ロンドン特派員は次の通り報道してゐるチヤーチルが重慶は米國から湯水の如く補給を受けながら敗戰を重ねてゐるのは、「腹立たしい」と述べたのは米國々務省の非難態度を反映したものとみられる、英國には、重慶が現在ワシントンで人氣が惡いといふ考へがあり、ダンバートン・オークスの處置は重慶が大國として取扱ひ得るといふ考へに終止符を打つたものとみられる、世界にはもはや四大國はないこれに對し、中央社のワシントン特派員は次の通り報道してゐる

米國各紙の反響から判斷して、米國一般人は重慶に對する武器貸與援助が湯水の如く與へられてはゐなかつたといふ重慶當局の主張を認めてゐる、この問題に對する米國各紙の論調のうち目立つてゐる點は、第一に米國が重慶に十分の援助を送れなかつたのは重慶を援助する意志がなかつたことによるものではないこと、第二は過去の對蔣補給の失敗が如何に正當化されようとも、重慶軍に對する補給を增加するためには人間業で可能なことはすべて實行しなくてはならないこと、第三は重慶地區には國內的改革が行はれねばならないことなどである

更に重慶の將來の問題についてワシントン・ポスト紙は

蔣介石が戰時重慶のみならず、戰後重慶の中心人物として支持されねばならないことは世界各國が認めてゐる、それでもなほ蔣介石は援助の不足だけに意氣沮喪してゐるのではない理由を持つてゐる、蔣は彼自身でなくスチルウエルが米國の援助補給の分配者であることに不滿を感じてゐるかも知れない、しかし、これは重慶政府の自由主義化の基礎を擴大する大掃除が完成するまでは避けられぬ過程と考へられると觀測してをり、一方、重慶を終始一貫ときおろしてきた極左系週刊誌ニユー・リパブリツクは、チヤーチルの聲明が重慶に不公平だとして强硬に非難し、チヤーチルが英第十四軍の戰鬪はこれまで日本に對して行はれたうちで最も大規模かつ重要な地上戰鬪であると述べた信ずべからざる强調に對し、マツカーサーは質問を浴びせるに違ひないと指摘し、蔣介石とその軍隊は英國が歐洲の獨伊樞軸に對抗して持ち耐えた以上に日本に對して絕望的な數年を耐えて來たと述べてゐる、更に同誌によれば

チヤーチルが日本に對する共同目的における重慶の役割を無視し、または見くびるのは過然ではなく、その理由は、依然として英國の戰時機關を支配してゐるチヤーチルと彼を取卷く愚かな帝國主義一派にとつては重慶の抗戰を援助したいといふ米國の熱情的な希望の如きは、重慶の抗戰が例へば日本から香港を奪回するといふやうな素晴らしい形をとるに違ひないほど十分な援助でない限り全く興味のない話に相違ないからだとし、しかもこの帝國主義者達は「英帝國陸軍」の名譽を保持したいと望んでゐるのだと論じてゐる

米英重慶會談終る

(リスボン七日發)ワシントン來電＝米英重慶會談は七日終了したが、終了にあたり三國首席代表米國務次官ステチニアス、駐米英國大使ハリフアツクス、駐英重慶大使顧維鈞は共同聲明を發表し

世界安全機構樹立に關する三國の協議は滿足な結論に到達した

と述べた、しかして消息筋の言によれば右會談の決定事項に關し九日共同聲明が發表されることとならうといはれる

航空會議シカゴで開催

(リスボン七日發)ワシントン來電＝米國務省は七日反樞軸國際民間航空會議が來る十一月一日からシカゴで開催されることとなつたと發表した

同盟通信　海外電報　(第三種郵便物認可)

ド・ゴール諮問會議召集

(リスボン七日發)パリー來電＝ド・ゴール政權は十一月七日諮問會議を召集するに決定した旨六日發表した

ペタン主席を軍法會議に

(リスボン五日發)パリー來電＝パリー軍政長官ケーニツヒは今回ペタン將軍を中心とする要人五十名を軍法會議に附する事に決定、陸軍大將マテール、同シヤルル・マステ等パリーの軍部高官六名に對し軍法會議開廷を命じた

ベルギー新内閣の閣僚

(リスボン五日發)デイリー・テレグラフ紙のブラツセル電報はコーベール・ピエルローを首班とするベルギー新政權の主なる顏觸れを次の通り報じてゐる

首　相　ピエルロー(ローマ・カソリツク黨)
外　相　スパーク(社會黨)
内　相　ロンセー(ローマ・カソリソク黨)
藏　相　カミール・グツト(共産黨)
國防相　デメス(自由黨)
農　相　デラバレ・デルケリンネス(ローマ・カソリツク黨)
無任所相　ド・シエリヴエル(副首相)

【東南歐】

赤軍ベルグラード攻勢の狙ひ

(ブダペスト六日小田特派員發)信ずべき筋の情報によればマリノフスキー軍はルーマニア西南隅からドイツ軍守備隊を破つてバナート平原南半に進出、主力機甲三ケ師團の先鋒はすでにベルグラード東北方十粁の地點に迫り鐵門の南方からドナウの南側を西進しベルグラード西方數十粁の地點にある二ケ師團及びベルグラードの西北方、南方及び西南方數十粁の地點に蠢動するチトー部隊と連絡をとりベルグラードの包圍攻略を企圖してゐると傳へられる

同方面のマリノフスキー軍は約二十ケ師といはれテミソアラ南方に機甲部隊を集結しハ、ンガリー方面に北上するとみせてバナート平原へ急進撃したもので第一目標はベルグラードの攻略にあるとみられるが同方面の戰況からその意圖を測れば一、現在バルカンの軍事的政治的中心たるベルグラードの占領

二、バルカンにあるドイツ軍のブダペスト、ウイーンへの北上遮斷

三、嚴寒期前にバナートからサヴア、ドラヴア兩河間のクロアチア領に進出しザグレブ地方及びハンガリア平原の機動力を展開し得る平原地方への攻撃體制の整備

四、ソフイア、ニーシユ、ベルグラード間の鐵道占據

等が數へられる

ブルガリア軍及びトルブーヒン軍の一部がニーシユ方面に進撃しつつあり、チトー軍が各所でドイツ軍北上作戰の妨害に力めてゐるのも以上赤軍の意圖を裏書してゐる、舊ユーゴー領の山地は既に寒氣嚴しく惡天候續きで赤軍は山地をチトー軍のゲリラ行動に任せ平原進出を急いでゐるが、ドイツ軍が同方面にどれだけの兵力を割き得るかが東南歐洲戰線の山であらう、ギリシヤ方面に對する英軍の軍事行動は反樞軸筋の情報によればほとんどドイツ軍の撤兵後を狙つただけで東南歐洲の全般的軍事情勢から見てほとんど問題でない、その點むしろイタリア戰線における反樞軸軍今後の進度が警戒されてゐる

亡命ユーゴー元陸相逃避

(リスボン七日發)ベルグラード放送によれば目下セルヴイアに逃避中の亡命ユーゴースラヴイア政權元陸相ミハイロヴイツチは赤軍並びにチトー軍のセルビア侵入に伴ひ、七日幕僚數名を伴ひボスニア地方に逃げ出したと傳へられるかくてミハイロヴイツチは今やチトーの軍門に降るか、ドイツ軍陣營に投ずるか、乃至はボスニアの山獄地帶に據つて飽くまで孤城を守るかそのいづれかを選ばねばならなくなつた

チトー、スターリンと會見

(ストツクホルム六日發)「デーリー・テレグラフ」紙外交記者の報道によればユーゴー遊擊軍司令チトーは最近モスクワを訪問、スターリン議長と會見を遂げたといはれる

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米國】

ハル辭職せん

(リスボン六日發)ニユーヨーク來電=國務長官ハルと近しい關係にあるといはたてゐるニユーヨーク・タイムズ紙のアーサー・クロツクは五日の紙上で次の通り報道した

ハルは既に七十三歳の高齡であり、十一月の選擧でたとへルーズヴエルトが當選しても結局國務長官の地位を去ることとならう、一方ルーズヴエルトもまたハルが辭職を申出た場合に強いてその留任を要請しないだらう、ハルとルーズヴエルトとの關係は最近とかく圓滿を缺き、最近ルーズヴエルトは數回もハルの立場を無視した行動に出てをり、例へばケベツク會談の際にも戰後案で專門外の財務長官モーゲンソーを協議に參加させたに拘らず、ハルは會議に呼ばれなかつた、また國際經濟問題でもルーズヴエルトはハルを差しおいて最近は專ら外國經濟院長クローリーと相談してゐる

對日戰の前途を警告

(リスボン七日發)ワシントン來電=財務長官モーゲンソーは七日次の通り演說した

政府はきたる十一月二十日を期して第六次戰時公債を發行するが、歐洲戰爭がたとへ急速に終了してもこれが戰時公債の最後ではなく、第七次公債の發行は不可避であらう、何故なら東亞において勝利を得ることは依然として困難な事業でありまた尨大な費用を要するだらうからである、日本を擊破するためには米國軍は太平洋といふ自然の防塞を突破しなければならぬのであり、歐洲以上に費用を要する戰爭とならう、陸海軍當局は歐洲戰終了後も日本を擊破するためには少くとも一年半はかかるだらうと推定してゐる、戰爭努力を緩め戰勝氣分に耽る如き時ではない

ケーンズまたも訪米

(リスボン六日發)ニユーヨーク來電によれば英經濟學者ケーンズは戰後における武器貸與繼續問題その他につき米政府當局と協議のため五日米國に到着したといはれるが、更にケーンズの使命についてロンドン電報はワシントンにおいて「經濟國際聯盟」及び「國際經濟參謀本部」創設の可能性についても協議されようと報じてゐる

兵員損害四十一萬七千

(リスボン五日發)ワシントン來電=陸軍長官スチムソンは五日開戰以來の陸海軍兵員損害が四十一萬七千八十五人に達した旨發表した

海軍の損害

(リスボン七日發)ワシントン來電=海軍省は開戰以來の海軍海兵隊並びに沿岸警備隊の損害が六萬六千百八十六名に達した旨七日發表した、內譯次の通り

合計	六六、一八六名
戰死	二六、一三一名
戰傷	二五、八一七名
行方不明	九、七五八名
俘虜	四、四八〇名

イタリア戰線の損害

(リスボン六日發)ワシントン來電=陸軍長官スチムソンは五日午後の記者團會見で反樞軸軍がイタリア本土に上陸して以來九月三十日現在までの米軍の損害について次の通り發表した

合計 八一、〇〇〇名

內譯

戰死	一五、〇〇〇名
負傷	五六、〇〇〇名
行方不明	一〇、〇〇〇名

但し陸軍航空隊の損害は含まれてゐない

抑留邦人死亡者數

(リスボン七日發)ワシントン來電=戰時强制移住局は抑留邦人の死亡數に關して七日次の通り發表した

米國各地の强制收容所に收容されてゐる日本人のうち本年一月から十月一日までに四百三十一名が死亡した

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

ウイルキー死去

(リスボン八日發)ニユーヨーク來電=共和黨の領袖ウエンデル・ウイルキーは過般來肺及び咽喉部の疾患のため加療中であつたが、八日午前二時二十分遂に死去した、享年五十二、ウイルキーは七日深更に至り病狀惡化のため補助的治療措置として酸素室に入れられたが、連鎖狀球菌の傳染が心臟筋肉を侵したため急激に危篤狀態に陷り、冠狀動脈の血塞によつて八日午前二時二十分、夫人に見守られながら死去したものである

ウイルキーは一八九二年二月インディアナ州エルウツドの生れ、新聞界に重きをなし、一九四〇年大統領選擧戰に共和黨候補として出馬、ルーズヴエルトと戰つたが落選した、一九四二年モスクワ及び重慶に旅行、「一つの世界」を著はした

【米　洲】

亞國米の招請を拒絕

(リスボン六日發)ブエノスアイレス來電=米國商業會議所は反樞軸及び中立各國の實業家代表を招請して來る十一月一日からニユーヨークに國際商業會議を開催することとなりアルゼンチン財界に對しても代表を派遣するやう招請狀を發したが、ブエノスアイレス財界筋の漏らすところによれば、アルゼンチン商工會議所會頭ルイス・ヲロンボ及び產業聯盟會長アレハンドロ・シヨーの兩名は斷乎米國の招請を拒絕するに決定したといはれる

チリ新內閣成立

(リスボン七日發)サンチヤゴ來電=チリ內閣が五日總辭職した結果、大統領アントニオ・リオスは七日新內閣を組織したがその顏觸れは次の通り

內　相　アルフオンゾ・キンタナ(前農相)
外　相　ホアキン・フエルナンデス(留任)
經濟相　アレフアレド・テイレスレイ
藏　相　サンチヤゴ・ラバルカ
文　相　エンリケ・マルシエル
法　相　ユヘニオ・プガ
國防相　アルナルド・カラスコ將軍
公共事業相兼交通相　グスタヴオ・リラ
農相兼拓務相　マヌエル・カサネヴア
勞働相　マリアノ・プストス(留任)
保健相　ソテロ・デル・リオ(留任)

【英　國】

海軍印度洋に集結か

(リスボン七日發)ロンドン來電=海相アレクサンダーは六日次の通り言明した

英國海軍は既に印度洋に有力な艦隊を集結してをり、これが太平洋に出動することが希望される、だが印度洋から太平洋への出擊は英國海軍史上前例なき艦隊行動並びに補給の大作戰である、一方ドイツ海軍がもはや重視さるべき要素でなくなつたと考へるのは間違ひだ、わが本國艦隊はドイツ艦隊の出擊をみるや直ちにこれを擊碎すべき態勢を常に整へておかなければならない、開戰以來英本國諸港を出入した護送船團は九千以上に上るが、英國海軍はこれら護送船團の船舶總數の九九・六パーセント以上を安全に目的地に送り屆けた、每日英國並びに反樞軸國の商船は二千隻乃至三千隻が海上に出動してゐる

ロンドン人口の半分は家なし

(リスボン六日發)米國の評論家ロバート・セントジョンはニユーヨーク向け放送でV一號によるロンドンの被害に關し次の通り述べてゐる

私は諸君に自分の目擊した通りをみせたかつた空中を滑走して來る惡魔のやうな無人機のために目の前で大小の建物が崩れて行つた、まるで巨人の振り下す大きな手に卵の殼が潰されるのをみるやうだ、骨組だけの家はおろか瓦礫の山と化した家もある、被害に關する統計は混亂してゐるが、一つだけ米國人に知つて貰ひたい數字がある、現在ロンドンにおいてV一號のために居住不能となつた家は九十萬軒に上るが、破壞しただけの家を加へると殆んど百萬軒にも及ぶだらう、つまり一軒の家に四名住むものとすると三百六十萬人の家庭が破壞されたことになる、これはロンドン人口の半數に當る數字だ

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

イーデン積極外交を強調

(ストツクホルム七日發)ロンドン來電=外相イーデンは七日ブリストル市で演説を行ひ次の通り述べた

今日われわれの學び得た最大の教訓は諸國家の相互依存性である、いかなる國と雖も隣國から孤立して獨自の運命を決定することはできない更に中立維持などといふことは今では幻想と化し國境は防衛線でなくなつた、世界の秩序を維持するためには十分な武力を持つた國際機構が必要である

空爆損害發表

(ストツクホルム七日發)ロンドン來電=政府は一九四〇—四一年のドイツ空軍の英本土爆撃に際し、英國各地方都市の蒙つた損害につき七日次の通り發表した、この爆撃で最も甚しい損害をうけたのがドイツ領に近い英佛海峽近傍の諸都市だつたことが明らかにされてゐる

△ノーウイツチ
死者 三千三百以上
負傷者 一千百
完全破壞乃至修理不能家屋 二千戸以上
修理可能破壞家屋 三萬戸

△ヤーマス
死者 二百十六
負傷者 五百五十五

△ローウエストフト
死者 二百六十六
負傷者 六百九十

△ブライトン
死者 百九十八
負傷者 七百九十
完全破壞家屋 二百戸
破損家屋 一萬四百九十七戸

△リーズ
死者 七十七
負傷者 三千百二十一

ロンドン、パリ間定期空路復活

(リスボン五日發)ロンドン來電=現在英本國とフランス間の軍事空輸には英空軍輸送司令部、米空軍輸送司令部が連絡に當り差し當り先づ前者を定期化ずる計畫だが、この定期空路の內民間關係の部分をブリテイツシユ・オヴアスイス社に移讓する段取といはれる、サンデー・タイムズ紙の報道によればこの冬にはロンドン、パリ間に定期旅客空路が復活するだらうと傳へられる

ロンドン、マドリード間空路

(マドリード五日發)スペイン政府は五日、つぎの通り發表した

今回英西兩國間の旅客空路設定に關する協定が成立し、近くロンドン、マドリード間に一週一回旅客輸送が開始される豫定である

【北歐】

芬內に中立地帶設定

(ストツクホルム六日發)ヘルシンキ來電によればカレリア地方のソ芬新國境に沿ふフインランド領內に幅一粁の中立地帶が設定され、この地帶には一般人でさへ立入を禁止してゐるといはれる

ジユダノフ大將芬乘込み

(ストツクホルム五日發)ソ芬休戰條約に基くフインランド監視委員會の會長は結局ジユダノフ大將に落着いた模樣で、ヘルシンキ來電によれば同大將は五日空路ヘルシンキに到着したといはれる

デンマーク王弟急逝

(ベルリン六日發)コペンハーゲン來電=デンマーク國王の末弟グスタフ公は五日夜心臟病で急逝した、享年四十七

【印度】

國防會議開催

(リスボン五日發)ニューデリー來電=印度國防會議は來る九日から三日間ニューデリーで開催されるに決定した

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

【ドイツ】

必勝の信念を說く

(ベルリン六日發)ドイツ夕刊紙ナハト・アウスガーベは六日の紙上で次の通り述べてゐるいまや歐洲全戰域においてドイツ軍の抵抗は急角度に激化、米英ソ三軍は無數の困難に直面するに至つてゐる、冬も間近かに迫つたが、ドイツ軍にとつてこの冬は凌ぎ易いものとならう、ドイツ軍は敵の希望するやうにこの冬に疲勞困憊の極に達し、敗戰の苦杯を嘗めるやうなことは絶對にない、それどころかドイツ軍は兵力充實し、戰力を一段と强化、現在の防禦態勢から攻擊態勢に移り、今次大戰の勝敗を一擧に決するであらう

國民擲彈兵 早くも活躍

(ベルリン七日發)前線報道によればウバツハ、バレンベルグ地區の戰鬪において新たに編成された獨軍の國民擲彈兵隊は目覺しい活躍をなし最新鋭の火器をもつて米軍の突破企圖を破碎したといはれる

【イタリア】

國家警察隊長更迭

(リスボン七日發)ミラノ來電=ファシストイタリア政府は七日次の通り發表した
國家警察隊長チエテイ氏は今回個人的な理由により辭職し、後任としてピエモント軍政地區警察長官レンゾ・モンターナ大將が就任した、大將は最も古いファシスト鬪士の一人で元ファシスト義勇軍司令の職にあつた

【スイス】

外人資産統制を强化

(チューリツヒ七日發)スイス銀行業者協會は今回左記內容の決議を行つた
一、加盟各銀行は外國人に對する新規當座預金勘定の創設を拒否する、スイス在住の外國人に對しても同樣である
一、既存の勘定については一九四三年中における最高現在高を超ゆる預金の受入れを行はない
銀行業者協會は去る九月弗及び磅貨銀行券の取引を禁止したが、この措置は今回フランス・フランにも擴張適用されることとなつた、この弗、磅、法銀行券の取引停止は明らかに米英側の壓迫によるものであるが、米英國籍人はこれによつて所有する磅及び弗貨の兩替を米英領事館により行ふこととなつた

【西亞】

アラブ聯盟會議の取極め

(ストツクホルム六日發)アラブ聯盟會議は九月二十五日以來アレクサンドリアで開催されてゐるが、カイロ來電によれば法制、交通、パレスチナ問題並びに文化經濟上の諸懸案について協定成立し七日會議の終了と共に協定內容が發表される段取といはれる、但しタイムス紙のアレクサンドリア特電によれば今回の會議は豫備會談に過ぎず會議の公報と同時に本會議の日取も發表されるだらうと傳へられる

米英ソ、イランで角逐

(リスボン六日發)ソヴエト政府は過般ソヴエト通商代表がテヘランに乘込んで、石油利權獲得交涉をはじめソヴエト、イラン兩國通商關係の緊密化につき折衝してゐると發表したが、五日テヘラン來電によればソ聯以外に米英兩國も既に數ケ月前からイラン政府との間に同國の油田開發問題につき交涉を續けてゐるといはれる、米英ソ三國はイランを舞臺として三つ巴の激しい利權獲得戰を演じてゐる模樣である

【トルコ】

新任英大使着任

(ブダペスト七日發)アンカラ來電=ヒユー・ヒユーゲツセン前大使の後任として今回赴任したアンカラ駐劄英國大使サー・モリス・ピーターソンは七日イノニユー大統領に信任狀を捧呈した

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

ソ波紛爭のその後 (下)

原子林二郎

ワルシヤワ蜂起軍の謎

このワルシヤワ蜂起といふ一エピソードが再びソ波紛爭に重大波紋を捲き起し、亡命ポーランド政權を新たに窮地に追ひやり、ポーランド「祖國」軍總司令官ソスンコフスキーの罷免にまで發展し、紛糾は更に紛糾を生むといふまるでデユーマ張りの傳奇小説の筋のやうな事態を生ずるのだが簡單に述べると大體次の通りである

ワルシヤワ蜂起が勃發した當時、ロコソフスキー元帥麾下の第一白露戰線軍はワルシヤワの關門まで迫つてゐたが、ボール將軍麾下のワルシヤワ蜂起軍やロンドンの亡命ポーランド政權が再三再四ソ聯に救援を要請したにも拘らず、赤軍は拱手傍觀したばかりでなく、イタリア戰線から長驅ワルシヤワに飛んで救援軍需品を投下した反樞軸軍飛行機に對しても、飛行場設備のないことを理由に着陸を許さなかつた、以上の事態に直面したロンドンの亡命ポーランド人は、ソ聯はワルシヤワ蜂起を見殺しにすると稱して蜂の巢を突いたやうに騒ぎ立て、遂に亡命政權は八月二十三日に特別に聲明を發表して

赤軍は過去三週間ワルシヤワの關門に佇んだまま一寸も前進を敢へてしようとしない、英國の援助はとるに足らず、全世界は勇敢なワルシヤワ蜂起軍の闘爭を見殺しにしてゐる

と悲痛な叫びをあげた、これに對してソ聯の「プラウダ」紙や「イズヴエスチヤ」紙あるひは「赤い星」紙は一齊に筆陣を張り

一、ワルシヤワの蜂起は事前にソ聯に對して通告されなかつたばかりでなく、蜂起中も赤軍と連絡をとらうとする努力が一切拂はれてゐない

一、ワルシヤワ蜂起は時機を誤つて、早まつて決行されたため既に當初から失敗の運命にある

一、救援の米英機に着陸を許さぬのは、ワルシヤワ附近に飛行場がないためである

との三事實を楯に亡命ポーランド政權に逆捻を喰はせ、更にポーランド國民解放委員會側のポーランド「解放」軍司令官ミハイル・ローリヤ・ジミエルスキー大將は八月二十九日ルブリンにおいてUP記者アーサー・インクピンを通じて同趣旨の聲明を發表して次の通り述べた

ボール將軍のワルシヤワ蜂起はポーランド人二十萬を殲滅の危險に追ひやる「無責任な所業」だ、ボール將軍は早まつて八月一日に蜂起を決行、その結果進擊する赤軍及びポーランド解放軍と協力することに失敗した、ボール麾下の蜂起軍は僅かに個々の建物に據つて脆弱な戰闘行爲を行つてゐるのみで、反樞軸機によつて空から投下される軍需品は悉くドイツ軍の手中に落ちてゐる

バートレツトの所論

以上はワルシヤワ蜂起を繞るソ波双方のいひ分だが、英國外交評論家ヴアーノン・バートレツトは八月二十九日附の「ニユース・クロニクル」紙上でワルシヤワ蜂起が事前にソ聯に通告されてゐた事實を素破抜いてセンセーションを捲き起したバートレツトの記事は長文のものだが、要旨を述べると次の通りである

亡命ポーランド政權は七月末にワルシヤワ蜂起計畫の細目をソ聯に通告したばかりでなく、ミコライチクはモスクワを訪問した際モロトフ外務人民委員に近い將來に作戰が開始されることになつてゐると言明してゐる、スターリン議長は八月五日にミコライチクに對して「赤軍は八月二日にワルシヤワを占領する豫定であつたがドイツ軍の反擊によつて計畫を挫折せしめられたため、赤軍はワルシヤワ蜂起を救援する計畫を放棄しなければならなかつた」と告げ、ミコライチクも事態を諒とし、スターリン議長は全力を盡して救援物資を送る旨公約した、これがミコライチクがモスクワから歸る當時の事態であつたのだ

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

ワルシヤワ蜂起の失敗は數千名のポーランド愛國者が生命を殞した以上にポーランドにとつて悪い結果を齎した、最近米英兩國はワルシヤワに救援物資を供給するためイタリアとソ聯との間の追羽根飛行を提案したが、ソヴエト政府は拒否した、ソ聯自身はラジオを通じてワルシヤワ蜂起軍に救援を約束したが、以上の約束はワルシヤワ蜂起の首謀者達を軍法會議にかけるといふ威嚇と同時になされたのである、ロンドンの亡命ポーランド政權は蜂起開始の時機をボール將軍の意に任せた點で責任を負ふべきは言ふまでもない、蜂起は事前に米英ソ三國政府に相談なくして決行された、かかる一方的な措置は最大の愚行といふ以外に形容の途がない、亡命政權の一部は眞實蜂起軍がワルシヤワを解放出來ると考へてゐたし、ワルシヤワ蜂起はミコライチク政權の立場を強化するであらうと皮算用してゐたものもあつたやうだ、それにソ聯は從來ポーランド民衆に對して繰り返し蜂起せよと呼び掛けたことをすつかり忘れてゐる、以上の事態は急速に解決されぬ限り次の三つの點で反樞軸陣營にとつて不利となる

一、蜂起の失敗によつて數千のポーランド人が生命を喪ふ

一、ソ聯に對するポーランド側の猜疑心が一段と深まる

一、ポーランド問題は米英ソ三國間の協力が常にも增して必要とされるときに、三國關係を異常に緊迫させることにならう

以上バートレツトの所論を要約すると、ワルシヤワ蜂起の時戰を謬つたといふ點ではソ聯の言ひ分が正しいが、事前に通告してゐなかつたといふソ聯側の主張は怪しいことになるわけだ

泣いて馬稷を斬る

ワルシヤワ蜂起を繞る紛爭はポーランド「祖國」軍司令官ソスンコフスキーの聲明によつて一段と惡化するに至つた、卽ちソスンコフスキーは九月四日ポーランド「祖國」軍に對する軍布告の形式で、ワルシヤワ蜂起軍に對する米英兩國の援助は極めて御座なりだと非難したが、以上の爆彈聲明は亡命ポーランド政權に對する米英兩國の舞臺裏からの同情をすら失はせるといふ逆效果を生じ、遂にソスンコフスキーの罷免となつて鳥がついたが、ロイターの報道によればソ聯もまたワルシヤワ蜂起軍に對して空中からの軍需品補給を開始、ボール將軍の公報によれば、ワルシヤワ蜂起軍はワルシヤワ郊外のプラーガに突入してヴイスツラ東岸に達した赤軍との間に連絡樹立に成功したといふことだ、ただしソ聯は軍需品補給の事實を公式には認めてゐないばかりでなく、蜂起軍との連絡を樹立したとも何ともいつてゐない、さらに奇怪なことは「イズヴエスチヤ」紙のごときは赤軍がプラーガに突入した際、ワルシヤワ蜂起軍の姿は一兵も見掛けなかつたと報道してゐることだ

ソスンコフスキーの爆彈聲明によつて窮地に陷つたミコライチク政權は、喪はれた米英兩國の同情を回復する傍ら、從來ソ聯が繰り返し要求してゐたポーランド政權內の國家主義分子の驅除を實現するため、九月二十三日ソスンコフスキーの罷免を決議、大統領ラチキエヴイツチに批准を迫つてゐたが、ラチキエヴイツチもついに形勢の否なるを知り、九月三十日ソスンコフスキーの罷免を決意し、ポーランド「祖國」軍司令官の後任にボールを任命したことは新聞で報ぜられてゐる通りだ、周知の如くラチキエヴイツは反ソ派の一人で終始一貫ソスンコフスキーを支持してきたのであるが、今回のソスンコフスキー退陣はロンドンの亡命政權における反ソ國家主義勢力の全面的退却を意味するばかりでなく、ラチキエヴイツチ自身の立場を危くするもので、早くも大統領の辭職說すら傳へられてゐるが、九月三十日のロイター・ロンドン電報は以上の經緯に關して次の通り報じてゐる

ラチキエヴイツチが泣いて馬稷を斬つた結果、久しくポーランド政權に危機を齎してゐた溫床の一部が片付けられた譯だが、このことはまたラチキエヴイツチ大統領が自らの反ソ的傾向にも拘らず、ミコライチクを首班とする亡命政權の意思に屈服したことを意味する點で極めて重大である

昭和十九年十月十日(火)
第三二〇五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ソスンコフスキーの失脚はポーランド人の左翼やソヴエト政府を喜ばせるばかりでなく、ソ聯との協調を圖るミコライチク政權の政策を支持する米英兩國政府のお氣に召したに違ひない、以上の事態に對しルブリンのポーランド解放委員會が如何なる態度を示すかは今後の問題として殘されるが、ミコライチクの穩健策の勝利を意味する以上の一挿話は、亡命政權の威信を强化しロンドンの極右派とソ聯の極左派との間の軋轢を緩和する點で大いに力があらう、噂によればラチキエヴイツチはソスンコフスキー罷免の代償として亡命政權を改造して右翼分子を入閣せしめることを要求したといふことだが、ロンドンの消息筋の見解ではミコライチクは如何なる改造をもソ聯との和協といふ根本方針に從つて行はれるべきだといふ本來の主張を貫徹したといはれてゐる、以上の事態に伴ひミコライチクがソヴエト政府及びルブリンの解放委員會との協調に成功するかどうかは將來の問題だが金箔付の反ソ分子を驅逐したことは、あらゆる意味で重要な第一歩といふべきだ

結末の割れてゐる芝居

前揭のロイター電報は希望的見解から出發してソ波關係を色眼鏡でみてゐるやうだが、果してミコライチク政權の宥和政策が效を奏するかどうかは大いに疑問とされるところだ、亡命政權は膽立を整へて八月末にモスクワに送つたソ波和協方式に關する覺書に對するスターリン議長の回答を待つばかりだが、ソヴエト政府としては覺書にあるポーランドの民主主義政黨代表よりなる新政權の樹立に贊成しようとも、ミコライチク政權がピウスズキー憲法を固守する限り滿足すべき回答は望んでも得られまい、また一九三五年の憲法を放棄する限り、ポーランド小貴族を背景とするミコライチク政權の最後の據りどころは失はれるわけで彼等の希望するポーランドの獨立と主權の確保は不可能となる、ポンランドの運命が旣にテヘラン會談で決定をみてゐることは屢々いはれてゐるところであり、また事實さうであらうが、ソ聯が亡命政權に對して要求するものはソ聯の傾使の下に自由に動き、いづれはソ聯邦構成共和國の一員となるべき「强力なポーランド共和國の存在」(スターリン)であり、ポンランド「祖國」軍とポーランド「解放」軍を打つて一丸とした赤色ポーランド軍の結成だ

反樞軸陣營の一員であるにも拘らずドイツに對する闘爭に身を入れて參加せず、專ら戰後問題と政爭に憂身を窶してゐる亡命ポーランド政權の存在も奇怪至極だが、たとへ雁首をすげ替へてもポーランド「祖國」軍が內亂のためにのみ存在する限り、ソ波紛爭は永遠に跡を絶つまい、またルブリンのポーランド解放委員會にしても、第二インターナショナルの殘黨によつて組織されてゐる小市民的な民主々義政權である限り、ソ聯の尻押しも一定の限度までだ、要するにソ波紛爭は最後の結末が觀客に判つてゐる芝居をもつともらしく演じ續けてゐるやうなもので、個々のエピソードは興味はあるが觀客は最後の幕が下りぬ前に席を立つであらうし、舞臺の役者達の見得も所作も空しい努力にほかならない

米國の大型航空機

(リスボン六日發)「エアロプレーン」誌八月十八日號は次の通り報道してゐる

四發重爆擊機コンソリデーテツドB32はボーイングB29「超空の要塞」と同時に且つ同樣の設計の下に生產されつつあるが、發動機四基によつて動かされるといふ以外殆んど知られてゐない、しかしてこの發動機は二千二百馬力、十八氣筒空冷二列星型ライト・サイクロンR三三五〇型である、四發輸送機ダグラスDC6はDC4もより若干大きく、ダグラス航空會社はこれを戰後に生產すべく考慮中といはれる、DC6はDC5を改良したもので胴體は七呎長く、扉の設備過壓室等も優れ、二千馬力の「プラット・アンド・ホイツトニー」ダグラス・ウオスプR二八〇〇、十八氣筒空冷式二列星形發動機四基を備へてゐる、またホワード・ヒユーズHKL四十萬封度八發飛行艇が目下急速に生產されつつあり、來年早々實際に使用されるものとみられる大きさは翼幅三百二十呎、全長二百十八呎である

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月十一日(水)　第三二〇六號

同盟通信

海外電報

(234)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人　同盟通信社

世界の焦点

米英ソ重慶四國は九日同時にダンバートン・オークス會談で決定された國際安全保障機構たる「反樞軸聯盟案」なるものを發表したその機構の内容は聯盟總會、理事會、國際司法裁判所、書記局の主要四組織から成る點と四組織の活動機能といひ、舊國際聯盟を大同小異といふよりは寧ろその燒き直しだとの感を深くする

ただ異なる點は新機構にはルーズヴエルトのいはゆる「齒」即ち武力行使權が與へられてゐるところにある、舊國際聯盟が實行力なく徒らに議論倒れに終つたことがその失敗の最大原因をなした前例に鑑み、彼等は新機構に武力的背景を與へて前車の轍を避けんと企圖してゐるのであらう、しかるにこの最も重大な點をめぐつて反樞軸陣營内にはやくも深刻な意見の對立が報ぜられ新機構が失敗に終る可能性がこの點にこそ胚胎してゐるかにみえるのは極めて皮肉である、即ち米英對ソ聯は武力行使に關する投票權問題をめぐつて意見遂に合はず米英ソ三國會談がお流れに終つたのもこれがためであることが今度の發表で明らかとなつた、更に武力行使の絕對的決定權を握るのは大國代表によつて組織される理事會であることが明らかにされてゐるが、このことは米英が頻りに提唱する主權平等の原則とは完全に相背馳するものであり、反樞軸陣營内の諸小國の間からは早くも新機構が大國の獨占的機關と化することに對して囂々たる非難の起つたことが傳へられる、かくの如く新機構はいまだその產聲をあげないのに先立つてその前途多難を思はせるに十分なものがあるが、たとへ各國政府の承認を得て曲りなりにも成立するにせよ、この問題をめぐつてはこれからも相當面白い芝居がみられよう

【目　次】

チャーチル、モスクワ到着……二三二七
英國下院でも發表……〃
モスクワ到着の光景……〃
ルーズヴエルトとは參加せず……〃
エヂプト新内閣成立……〃
新首相ナハス・パシヤを鳥る……二三二八
反樞軸聯盟案發表……二三二八
戰鬪重大段階へ……〃
【米　國】
印支空路の輸送量詳細發表……二三二九
陸軍航空隊の損耗内譯……〃
政府の冗員官吏……〃
紐育・パリ間の軍事空路開設……〃
ド・ゴール代表パリと連絡不能……〃
宋美齡の病狀……二三三〇
【米　洲】
カロル二世いよ〳〵歸國……〃
【南　伊】
降伏イタリアの慘狀……〃
【印　度】
マハサバ黨も和協案に反對……〃
【ドイツ】
活躍する國民擲彈兵……二三三一
蜂起軍一萬二千を捕虜……〃
シユムント大將逝去……〃
【樞軸國】
スロヴアキア護國軍誕生……〃
【反樞軸陣營】
復興救濟局に極東部新設……〃
アルジエー市内に腺ペスト……〃
【ソ　聯】
レ大學極東科新設……〃
【西　亞】
ソ聯代表イランの石油利權協議……〃
【英　國】
英ソ友の會、大會開催……〃
【濠　洲】
新聞爭議勃發……二三三二
【軍事情報】
米陸軍現用機……〃
【特　輯】
歐洲戰と東亞反攻作戰（上）……二三三三―二三三七

昭和十九年十月十一日(水)
第三二〇六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

チヤーチル、モスクワ到着

(モスクワ九日發)英國首相チヤーチルは外相イーデン、參謀總長サー・アラン・ブルツク元帥、幕僚長サー・ヘスチングス・イスメー將軍等を帶同九日モスクワに到着した

英國下院でも發表

(ストツクホルム九日發)ロンドン來電=副首相アトリーは九日英國下院で次の通り言明した

首相並びに外相がスターリン元帥並びにモロトフ外務人民委員と討議のため、無事モスクワに到着したことを玆に下院に報告する、英帝は軍參謀總長、國防相附幕僚長その他の軍事顧問も同行した、今回の討議はケベツクにおける首相と大統領ルーズヴエルトとの會見の續きであるケベツクにきるようとの招請を受諾出來なかつたスターリン元帥はケベツク會談後速かに首相外相と會見する機會を歡迎した、右會談に際しては米國大使アヴソル・ハリマンが米國政府を代表するであらう

モスクワ到着の光景

(モスクワ九日發)タス通信社は九日次の通り報道してゐる

英國首相チヤーチル、外相イーデンは英帝國軍參謀總長サー・アラン・ブルツク元帥、國防相幕僚長サー・ヘスチングス・イスメー大將等を帶同、スターリン元帥、モロトフ外務人民委員と會談するため九日モスクワに到着した、モスクワ空港には人民委員會議副議長兼外務人民委員モロトフ氏、ヴイシンスキー外務人民次長、參謀次長アントノフ軍大將、國防人民委員部對外局長クワゾフ少將を始め米英加濠各國大公使米英兩國軍事使節等が出迎へた、空港には英ソ兩國の國旗が揭揚され、到着とともに兩國の國歌が吹奏された

ルーズヴエルトは參加せず

(リスボン九日發)ワシントン來電=米國國務省當局は九日次の通り言明した

米國政府はただ今のところモスクワにおける英國首相チヤーチルとスターリン元帥との會談に參加しない、但し必要に應じ大使ハリマンが何時でも會談に參加出來よう

エヂプト新內閣成立

(リスボン九日發)カイロ來電=エヂプト國王フアルーク一世がナハス・パシヤを首班とするワフド黨內閣を罷免し、七日出獄したばかりのサーデスト黨首領アーメド・マヘール・パシヤに後繼內閣の組織を委囑したことはエヂプト政界に時ならぬ旋風を捲き起し、各政派は事實上の戒嚴狀態下に寄り寄り協議を進めてゐるが、新首相は政治旋風の間に閣僚の銓衡を了し九日國王に拜謁、閣員表を捧呈した、國王は右閣員表を受理したが新內閣の顏觸れ次の通り

首相兼內相　アーメド・マヘール・パシヤ
藏相　マクラム・オベイド・パシヤ
外相　マフムド・ファクリ・エレ・ナクラシ・パシヤ
公共事業相　マフムド・ガリス・パシヤ
法相　モハメド・ラフイブ・パシヤ
文相　モハメド・フセイン・ハイカル・パシヤ
保健相　イブラヒム・アブデウル・ハデイ
農相　アフメド・アブデウル・ガフエル
運通相　イブラヒム・アババフ
補給相　タハ・モハメド・アブデウルワハブ・エス・スイバイ・ベイ
國防相　セリム

新首相ナハス・パシヤを罵る

(リスボン九日發)カイロ來電によれば、新エジプト首相アーメド・マヘール・パシヤは九日記者團に對して次の聲明を發表し、國王の非常措置と自己の立場を極力合理化しやうと努めたといはれる

ナハス・パシヤは最惡の獨裁者である、彼はエヂプトに憲法の假面をかぶつた獨裁を實施してゐた、他國の獨裁者は自己の行動に對して完全に責任を負ふが、ナハス・パシヤは民主々義の外被の下に强制收容所と獨裁政治を維持し、軍法會議と嚴重な檢閱制度の下にいかがはしい選擧を行つてゐたのである、以上の理由に基き反對派は今回政府に參加するに至つたわけだ、ナハス・パシヤは人道主義や民主主義の何たるかを知らない、國王の機宜を得た干涉によつてエヂプトは腐敗から救はれた

昭和十九年十月十一日(水)
第三二〇六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

マヘール・パシヤは首相就任と同時にエヂプトの軍政長官として軍布告を發する權利を國王から付與されたが、ワフド黨の反撃を阻止するため、直ちに示威運動並びに集會を禁止したと傳へられ、エヂプト全土は事實上戒嚴令狀態にあるやうだ

反樞軸聯盟案發表

(リスボン九日發)ワシントン來電＝米國政府は九日戰後國際安全保障機構案たる「反樞軸聯盟」案の全文を發表した、この反樞軸聯盟案は過去七週間餘にわたりワシントンのダンバートン・オークスで開かれてゐた米英ソ及び米英重慶三國會談で決定したものだが、この發表はロンドン、モスクワ、重慶の各首都でも九日同時に發表された、聯盟案の要點次の通り

一、新國際安全保障機構は「反樞軸聯盟」と稱し次の主要五組織より成る

△聯盟總會＝聯盟加盟國全部がこれに參加し各種の勸告を行ふ

△安全保障理事會＝十一ヶ國代表から成り、英、米、ソ、重慶四國が差當り常任理事國となりフランスも後にこれに加はるであらう、殘りの六代表はその他諸國のうちから選擧により決定す理事會は國際平和が脅かされた場合に武力の使用その他具體的行動を決定す

△經濟、社會理事會＝十八ヶ國代表より成り安全保障理事會と協力して國際經濟、福祉、文化問題につき勸告を行ふ

△國際司法裁判所

△常設書記局

一、聯盟は世界各地に地域組織を置く

一、加盟各國は安全保障理事會の使用し得べき武力提案のため特別の條約を締結す

一、この機構案は暫定的のもので各國政府の承認を必要とし、また具體的細目につき意見不一致の箇所は將來の協議に委ねる

戰鬪重大段階へ

＝DNB軍事記者談＝

(ベルリン九日發)DNB軍事記者マルチン・ハレンスレーベン氏は九日、ドイツに對する豫期された秋季攻勢は全戰線で開始されるに至り、戰爭は再び決定的に重要な段階に突入した旨次の通り論じてゐる

決着を求めやうとする戰鬪は再び全戰線で開始されるに至つた、各戰區からの報道に徴すれば反樞軸軍側において「數の戰略」が最高首腦部の考へを支配してゐることが明らかであり、反樞軸軍ならびに赤軍は新たに兵員、器材を集結して東、西、南の三方向からドイツに對する攻勢を開始した、歐洲要塞の中核に對する秋の嵐は始まつた、一切はドイツが集結しなければならない內的外的抵抗力に依存してゐる、敵がドイツ國境へ到達する前にドイツ軍が再び相互に連絡のあるしかも强化された戰線を設定し、敵の夏季大攻勢を膠着せしめるに成功した事實により今や新しい戰鬪の態勢か整へられるに至つたが、この事實は最終的決定がどうなるかを判斷する上において或る程度の重要性を有するものである、夏季戰の末期以來ドイツ軍は旣に著しく積極的になつてゐるが、これは陣地の構築人的並びに物的動員についてもいひ得るのである、しかもこれらの準備は勝利の希望を抱いて戰鬪を繼續するに十分なほど廣汎な範圍に亘つてゐることが實證され、これによつて戰爭繼續への新しい刺戟が與へられたのである

來るべき一聯の戰鬪はドイツが新しい事態の發展に對處するに十分な軍事力を保有してゐることを示すであらう、一方攻防兩軍の目的は根本的に衝突してをり、反樞軸軍首腦部が秋季攻勢においてこれまでに獲得出來なかつた成果を收穫しようとしてゐるのに反し、ドイツ軍司令部は防禦の原則を守り、抵抗によつて敵の攻撃戰力を最大限度に脆弱化しようとしてゐるのである、戰略的にみるならばドイツは確かに樂な情勢にはおかれてゐない、しかし今やドイツは一切を集結して內線において戰つてゐるのである

西部戰線における反軸樞軍攻勢の焦點はアーヘン附近、メツツ南方、レミルロン兩側にありイタリア戰線では、敵の主要な努力はフイレンツエ、ボローニア道路の上におかれ東部戰線では南北兩翼で目下赤軍は全力をあげて攻勢を展開してゐる、リトアニア及びハンガリア南部は激戰場と化し同方面における戰鬪は再び機動戰の性格を帶びるに至つてゐるが、ドイツ軍にとつて情勢は何れの地點でも重大化してはゐないといふことが出來る

昭和十九年十月十一日(水)
第三二〇六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米國】

印支空路の輸送量詳細發表

(リスボン八日發)ワシントン來電＝陸軍省はヒマラヤの嶮を越える印支空輸の近況につき六日次の通り發表した

米國國軍航空隊空輸司令部印支管區による印度よりヒマラヤを越えて支那に輸送する援助軍需物資は、一ケ月四千六百萬封度(約二萬三千短噸)に達した、これらの貨物は航空機用燃料、武器彈藥、自動貨車、ジープなど在支米軍航空隊及び重慶軍と米軍の地上部隊に必要缺くべからざる重要物資を含んでゐる、本月に入つて最も多い日は一日二百五十萬封度(約一千二百五十短噸)の重要貨物を輸送したが、この數量は同管區が運行を開始した一九四二年十二月の一ケ月分よりも多い、この日、輸送機の參加延回數は五百六十五回におよび、平均して二分三十秒毎に一機づつヒマラヤを飛び越えたことになる、一九四四年におけるこの空輸の飛躍的增加は輸送機の數を倍加したこと、修理及び貨物の積降しに要する時間の縮減、飛行場の增設などによつて可能となつたものである、一ケ月間の輸送でガソリン、爆彈、武器彈藥のほかに五トン自動貨車百臺以上、小型自動貨車二百臺以上掻土器十一臺(一臺の重量二萬五千封度)及びジープ五十臺を輸送した、この他、本年四月にはスチルウエルのビルマ攻勢を掩護するため重慶軍の部隊を印度へ空輸した、第二十航空隊の在支那基地駐屯部隊に對する大部分の補給はヒマラヤ越えによるものであり、支那から米國の軍需工場に送られる戰略的諸物資もこの空路によつて輸送されてゐる

陸軍航空隊の損耗内譯

(リスボン七日發)ワシントン來電＝陸軍省は最近開戰以來の陸軍航空部隊所屬飛行機の損耗を發表、うち米國内で喪失した機數は一萬七千五百機と發表した、内譯は次の通り

△事故による喪失一一、〇〇〇機
△飛翔には不適當だが地上訓練用には採用されたもの 二、五〇〇機
△訓練及び輸送のため廢機となつたもの 四、〇〇〇機

政府の冗員官吏

(リスボン七日發)ニユーヨーク來電＝共和黨副大統領候補ブリツカーは七日ミネソタ州セント・クラウドにおける選擧演説でルーズヴエルト政權の放漫政策を攻擊、次の通り述べた

ルーズヴエルトが大統領に就任して以來、聯邦政府の官吏數は五十七萬二千から實に三百萬に激增した、ルーズヴエルトは戰爭が終つたら官吏の整理を行ふといつてゐるが、これは選擧民のご機嫌をとるための空手形に過ぎない、民主黨側でさへ政府の機能に何等の支障も與へず三十萬乃至四十萬の官吏を整理出來るといつてゐるほどだが、ルーズヴエルトに一片の誠意があるならば彼は戰後を待たず何故今直ちに官吏の淘汰を斷行しないのであるか

紐育・パリ間の軍事空路開設

(リスボン八日發)ワシントン來電＝米國陸軍省はニユーヨーク・パリ間の軍事空路開設に關し八日次の通り發表した

既に去る六日參謀總長陸軍大將ジョージ・マーシヤル及び戰時動員局長ジエームス・バーンズの搭乘機と郵便物を搭載した輸送機とがフランスに安着した、米軍は愈々ニユーヨーク・パリ間の無着定期空輸を開始するが、新空路は米軍空輸司令部史上畫期的なことである

ド・ゴール代表パリと連絡不能

(リスボン六日發)ワシントン來電＝今般陸軍省は米國在留フランス人に對し暗號電報の發信を禁止したがその結果、ド・ゴールのワシントン駐劄代表は同政權と連絡出來ねこととなつた、但し陸軍省當局では五日夜

外交上の暗號電報に優先權を與へるため、一般の暗號電報を禁止したが、米國政府がド・ゴール政權を正式承認してゐないため偶々ド・ゴール政權代表が迷惑を蒙るに至つたと言明した

昭和十九年十月十一日（水）
第三二〇六號
同盟通信
海外電報
（第三種郵便物認可）

宋美齡の病狀

（リスボン九日發）ニューヨーク來電＝南米からニューヨークに赴き九月十一日來同地のコロンビア長老病院で入院加療中の宋美齡の病狀につき主治醫は七日「蔣夫人は完全に治療する途上にあるが、全く健康體となるには長い期間が必要だ」と發表、病名については明かにしなかつたが、次の通り說明した

恢復が遲いのは病氣が長びいてゐる上に肉體的な苦痛を押して絕え間なく重要な用務に忙殺されたためである、結局治癒することは保障できるが、そのためには長期にわたつて嚴格に規整された養生が必要不可缺である

【米洲】

カロル二世いよいよ歸國

（リスボン六日發）ブエノスアイレス來電＝メキシコに亡命四年間を過したルーマニア前國王カロル二世は五日夜メキシコ大統領アゲイラ・カマチョを訪問歸國の挨拶を逃べた、カロル二世は來週ニューオルリーンズへ向け出發十一月上旬リオ・デ・ジヤネイロからリスボン經由本國に歸還する豫定である、一行はルペスコ夫人、侍從官エルンスト・ウルダレアヌ等でアルゼンチン船「リオ・トウナヤナ」號には特等室を豫約濟である

【南伊】

降伏イタリアの慘狀

（リスボン七日發）ニューヨーク來電＝米國針工組合副組長ルイギ・オルランデイニは最近反樞軸軍占領下のイタリアを視察して歸米したが七日ニユージヤーシー州のアトランチツク・シテイで講演し慘憺たる狀態を次の通り發表した

反樞軸軍占領下のイタリアは大量失業、饑饉、淫賣、犯罪の四つで代表されてゐるといつてよい、赤ん坊の實に九十五パーセントまでが榮養不足で死んでゐる、イタリアの婦人達は續々淫賣婦になつてゐるが、これが彼女等に殘された唯一の生活手段なのだ、一方男子人口の殆んど全部は失業者である、漸く仕事を見つけた場合でも一日働いて得る金は僅かに三十リラに過ぎず、これでは紙卷煙草一本も買へない、飯一食の値段は三百五十リラから五百リラ、靴一足買ふにも二千五百リラから五千リラ拂はなければならぬ、戰火を免れた工場も若干あるが、これ等は皆軍事的理由によるとの建前で閉鎖されてゐる、遺憾ながらイタリアの狀態は反樞軸軍の占領後よりドイツ軍が占領してゐた時代の方が遙かによかつたと認めなければならぬ、イタリアでは英國の方が米國より强い發言權を持つてゐるが、英國政府の意向はイタリアをその植民地化しようとしてゐるやうだ、一方ソ聯は反樞軸軍がイタリアに入りこんでからその窮狀が益益甚しくなつて來たのを見てひそかに北叟笑んでをり、イタリアにあるソヴエト各機關はイタリア赤化の最終目標に向つて猛烈な活動を行つてゐる

【印度】

マハサバ黨も和協案に反對

（リスボン六日發）ニューデリー來電＝ヒンズー・マハサバ黨は六日ヴドウサルヴアカル司會の下にニューデリーで運用委員會を開催、ガンジー翁が提出した回印兩教徒和協案について審議を加へた結果次の決議案を採擇した

一、ガンジー翁の提案は印度の完整を損ひ、印度教徒ひいては全印度の利益を根柢から覆へす故に反對である

一、各派間の取極めについてはヒンズー・マハサバの同意を要し、同意を俟つため取極めはヒンズー・マハサバに對し拘束力がない

一、英國政府が印度における宗教その他の相違を口實に印度の桎梏撤去をさらに遲延させるのを看過しないやう反樞軸各國政府に要請する

委員會は右決議の趣旨をチヤーチル、ルーズヴエルト、スターリンに打電した

【ドイツ】

活躍する國民擲彈兵

(ベルリン八日發)新たに編成された國民擲彈兵師團の一部はすでにアーヘン地區の戰鬪に參加してゐるが八日更に前線報道によつてモーゼル戰線にも國民擲彈兵部隊が出動し最新鋭の火器をもつて過去十日間來六、七回に及ぶ米軍の攻撃を擊退した事實が明かとなつた、モーゼル戰線で戰鬪中の右新編師團の兵士は大半十八歳から二十歳までの青年で彼らはいづれも所定の訓練を經た精鋭でありしかも「戰車脅威」その他の新鋭火器を有してゐるといはれる

蜂起軍一萬二千を捕虜

(ベルリン七日發)ドイツ軍當局は七日次の通り言明したワルソー蜂起軍降伏後現在までにポーランド軍士官九百四十二名、兵士一萬一千名、官吏多數が捕虜となつた、ワルソー市民の引揚げは目下軌道に乘つてをり、疎開民はポーランド西部の各都市村落に收容されてゐる同市民に對する救濟措置は着々强化され國民厚生團救護部隊も參加してゐる

シユムント大將逝去

(ベルリン七日發)總統附國防軍副官ルドルフ・シユムント大將は七月二十日總統暗殺事件の際重傷を負ひ加療中だつたが十月一日遂に逝去した、享年四十八、同大將は同事件における第三番目の犧牲者である

【樞軸國】

スロヴアキア護國軍誕生

(ベルリン八日發)ブラチスアヴア來電=スロヴアキア護國軍第一步兵聯隊の結成式は七日國家主席ジョセフ・チソー博士臨席の下にブラチスアヴアの陸軍士官學校で擧行された、右結成式にはスロヴアキアの閣僚、ドイツ駐屯軍司令官その他の外交團代表等も列席した

【反樞軸陣營】

復興救濟局に極東部新設

(リスボン六日發)ワシントン來電=反樞軸復興救濟局長官ハーバート・レーマンは同局極東部長にエドウイン・G・アーノルドを任命した旨五日發表した

アルジエー內に腺ペスト

(リスボン八日發)アルジエー來電=最近アルジエー市內に腺ペストが發生したため反樞軸軍は同市を軍事輸送基地として使用することを禁止するに至つた、同市の西方十五哩のメゾンブランシユ飛行場には現在反樞軸空軍が着陸してゐるが、搭乘員はアルジエー市內立入りを禁止されてゐる

【ソ聯】

レ大學極東科新設

(モスクワ五日發)(延着)三日のイズヴエスチヤ紙によればレニングラード大學は新學期から極東科を新設したといはれる

【西亞】

ソ聯代表イランの石油利權協議

(リスボン五日發)テヘラン來電=イラン政府は五日次のやうに發表したソヴエト、イラン兩國の經濟關係、特にソヴエト政府に對する國內石油利權について協議するため、ソヴエト代表が目下テヘランに滯在してゐる

【英國】

英ソ友の會大會開催

(ストツクホルム九日發)ロンドン來電=ロンドンの英ソ友の會はロイド・ヂヨージおよび作家エツチ・ジーウエルズの發議に基ききたる十一月四、五兩日に大會を開催するに決定した英ソ兩國政界の名士その他多數の代表が參加する豫定である

昭和十九年 十月十一日(水)
第三二〇六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【濠洲】

新聞爭議勃發

(リスボン八日發)シドニー來電=シドニー市の夕刊「シドニー・サン」紙の工務局員が七日突如として現在の週四十四時間一ケ年三週間休暇制度を改め週四十時間、四週間休暇制を要求したことから端を發し濠洲新聞界に罷業騒ぎが始るに至つた、サン紙の首腦部は勞働條件の改正は勞働組合幹部と新聞業組合代表の協議によつて決定するほかはない旨回答、一旦會談が開始されたが埒開かず合意の上で會談は九日まで持越されたが愈々七日シドニー・サン紙の第一版が下版しようとした所勞働組合からの指令で印刷は取止めとなつて了つた、組合としては要求貫徹までシドニー・サン紙の社員に一切操業を停止させる戰術に出たがサン紙の幹部は讓歩せず結局デーリー・ミラー紙その他の夕刊各紙と綜合版を出すこととなつた、ところが罷業はデーリー・ミラー紙にも飛び火し各紙の記者達も同情罷業を開始し綜合版に執筆を拒否したためシドニー市並びに附近一帶は七日の夕刊もなく八日の日曜新聞三紙も停刊の止むなきに至つた、九日に至りシドニー市内の朝刊四紙が勞働組合以外の記者を動員して漸く四頁の綜合版を出して局面を糊塗してゐるが、爭議が簡單に片付くかどうか分らない

【軍事情報】

米陸軍現用機

(リスボン三日發)米國の週刊誌「タイム」九月二十五日號は「想像を絶する〝空〟」と題して米陸軍航空隊の現用機に關し次の通り報道してゐる

× × ×

米陸軍航空隊は第二次世界大戰の最終段階に備へて日本に打撃を與へるべく目下兵力を集結中である、陸軍航空隊參謀長中將バーネイ・ジヤイルスは米陸軍航空隊の兵力に關して先週次の通り言明した

航空機の生産は歐洲戰終了以後は四十%の削減を見るであらうが、構造重量の增加によつて生産そのものは最高水準から大して低下しないはずだ、生産機種が多いときには各種の困難、特に人的資源の維持といふ困難を生ずるので機種は制限されるであらう、重爆撃機ではB29「超空の要塞」機とその相棒機B32の二種であるが後者はここ數週間以内に戰場に現はれるやうになるかも知れない、殆んど同性能の二機種を生産することについて陸軍航空隊はコンソリデーテツドB32がボーイングB29と好い組合せになるだらうといつてゐる、ボーイングB17「空の要塞」及びコンソリデーテツドB24(リベレーター)は新爆撃機に比較すると既に中型爆撃機になつてしまつた、同樣に今までの中型爆撃機は小型爆撃機となつた、ノースアメリカンB25(ミツチエル)は明らかにマーチンB26(マローダー)を一歩進めたものであり、ダグラスA26(インウエーター)は同社の傑作A20(ハヴオツク)の改良型である、戰闘機では次の三種が擧げられる、ノースアメリカンP51(ムスタング)は恐らく今まで公表された米陸軍戰闘機のうち作戰航續距離は最大であり約六百哩といはれる、五吋機關銃八挺を裝備し少くとも一千封度爆彈一個を搭載し得る、リパブリカンP47(サンダーボルト)は〇・五吋機關銃八挺を有し最少限度一千封度爆彈一個を搭載し得る、P38(ライトニング)はロツキード會社が製作を繼續するであらうが、新しい秘密のロツキード戰闘機の製作に移るためその生産計畫は減少されるであらう、以上のほかにカーチスP40(ウオーホーク)があるがこれは開戰當時米國が使用したP40舊型の改良で舊型P40は年末までに製作を停止する筈である、更にP61(ブラツクライドー)は夜間戰闘機として製作を繼續、三七ミリ加農砲を裝備するベルP63(キングコブラ)は對ソ供給機として作られる、われわれの計畫の細目について發表することは出來ないがとにかく米軍は日本が今まで想像したこともないやうな大空軍力をもつて一氣に日本に攻撃を加へるべく愼重な計畫を立ててゐる、しかしここに一つ問題となるのは米軍が大量の飛行機を使用しうる基地が果して太平洋上にえられるかといふことである

昭和十九年十月十一日(水)
第三二〇六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

歐洲戰爭と東亞反攻作戰 (上)

—チヤーチル演說を解剖す—

長谷川才次

中立國筋の觀測

英國首相チヤーチルの演說は殆んど例外なく何等かの意味で反樞軸陣營の內情を傳へるが、九月二十七日の下院における戰況報告は歐洲戰爭の短期終結說を修正した意味で英國內で物議を釀し、重慶軍の無力を攻擊した點で重慶政權を憤慨させてゐる、先づ中立國筋の觀測を揭げよう

「ナツイオナール・ツアイツング」紙ストツクホルム特電、九月廿九日 チヤーチル首相が歐洲戰爭の終結に關する見透しを述べた結果外交界筋では卽時反樞軸軍に有利な要因が現れて來ない限り冬の役は避け難いとの觀測を下すに至つた、獨り米英兩國だけではない、スエーデン國內ですら今まではドイツ軍の抗戰力を過少評價する意見が強く、十月か十一月には歐洲戰爭は片付くと考へてゐた、チヤーチル首相がドイツ軍の遊擊戰法に言及したところからみれば、反樞軸軍としては假りにドイツ國內の一部を占據しても依然戰爭は片付かぬことを悟るに至つたのであらう、ロンドンの「イーヴニング・ニユース」紙の軍事評論家は今後二週間で歐洲戰爭が一九四五年に持ち越すかどうかが極るといふ考へだ、デンプシー將軍麾下の戰車隊がレクの先まで進擊してオランダ港灣の一つが今後二週間內に反樞軸軍の掌中に歸すれば反樞軸軍が十二月三十一日前にベルリンに入ることが出來るかも知れない

同紙ロンドン特電、九月廿九日 チヤーチルの演說に對する英國新聞界の論評は歐洲戰爭が年內に片付くといふ盲目的信仰に對する警告だ、首相は歐洲侵攻作戰が豫定よりも捗取つてゐるかどうか言明しなかつたが、チヤーチルの擧げた戰死傷數は當初の豫定よりは少いといふのが專門筋の見解だ、大東亞戰については英軍は陸軍よりも主として艦隊と空軍とを振り向けるだらうとみられるが、首相が仔細に大東亞戰に言及したのは米國の輿論に對する啓蒙のつもりだらう、またチヤーチルが公然スターリンとの會見を希望する旨を述べた樣子からみればすでにスターリンが招請を受諾する見透しがついてゐるに違ひない、だがバドリオを褒め上げたのに對しては英國下院は可成り不滿だしイタリア統監ウンベルト殿下にお世辭を使つたことに對しても議員の間から抗議が出てゐる

同紙ロンドン特電、九月卅日 一九四四年間に歐洲戰爭が片付くかどうか分らないといふチヤーチルの演說に對する英國人一般の反響は失望だ、「デイリー・エキプレス」紙「デイリー・メール」紙等が今まで頻りに樂觀論を流布してゐたのに、卒然として首相の幻想打破に共鳴してゐるのをみて英國人は呆氣にとられた有樣だ、歐洲戰爭の決定的要素ともいふべきドイツ國民の士氣については、チヤーチルは全然言及してゐないし、アイゼンハウアー將軍が空からドイツ國民に對し數百萬の小冊子をばら撒いた效果如何についても、首相は何ら言及してゐない「デイリー・エキプレス」紙は二百ケ師三百萬の反樞軸軍が數的に劣勢なドイツ軍を打破出來ぬといふのは矛盾だと認めながら、反樞軸軍のうち半分は非戰鬪員だのにドイツ軍三十個師は悉く戰鬪員だと說明してゐる、それよりも港灣施設に不十分な上に天候が不良なので輸送が思ふに任せず、大擧總攻擊に出られぬのだとの見方が有力だ

以上中立國特派員の報道に徵すれば、チヤーチル今回の演說が最も重要な個所について極めて不人氣なことは明らかだが、更に痛烈なのは勞働黨の鬪士アヌーリン・ベヴアンの批評だ

「首相の演說は大半無駄であり、指導者としての賢慮と資性とを示すやうな言葉も使つてゐない、殊に一貫した主義を缺いてゐることは、ローマを訪問した際には民主主義體制を褒め上げながら、數週間後にはスペイン統領フランコ將軍とウンベルト殿下とを賞揚してゐる、外交に關するかかる態度は全く兒戲に類するといふ他はない」

昭和十九年 十月十一日(水)
第 三 二 〇 六 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

佛戰線に全力を傾倒

チヤーチルの演説の正文をリスボン支局から入手したので次にその全貌を傳へよう、まづフランス戰線に關する手前味噌だ

「過去四ケ年間佛白蘭三國を支配してゐたドイツ軍は死傷恐らく四十萬、俘虜約五十萬を反樞軸軍の掌中に殘してこれらの國々から撤收した、他にオランダ海岸の要塞線におよそ二十萬のドイツ軍が殘つてゐるが、右兵力を打倒し乃至俘虜にすることが今では非常に公算が多い、ノルマンデイの戰は、今回の戰爭全體を通じて單一の戰鬪としては最大且つ最も決定的であつたといつて差支へあるまい、反樞軸空軍が戰線の背後に加へた破壞と混亂とに比べれば、一九四〇年當時英軍がドイツ空軍から受けた損害並びに規模は極めて小さかつたといつて差支へない、スペイン國境からフツク・フアン・ホランドに至る大西洋並びにイギリス海峽の諸港灣は悉く間もなく反樞軸軍の掌中に歸し、良港と多數の俘虜とを手に入れることができよう、フランス戰線の偉大な英軍並びに米軍が構成された早さは殆んど信じ難い位だ、現在フランス戰線には反樞軸軍二百萬乃至三百萬が駐屯してゐる、大分前に米國の上院議員は、歐洲大陸に侵寇する反樞軸軍の八〇%までを米國が賄はねばならぬと知つたら米國人は衝撃を受けるだらうと述べた、當時余はフランス侵寇作戰の當初には英軍と米軍とは略々同數だが、爾後米軍が增强されるので逐次英軍を凌ぐこととならうと說明した、ところが百二十日に亘る戰鬪の後英國が依然海峽の彼方に兵員に於て二對三、戰鬪師團數に於て四對五半の比率を維持してゐることは欣快に堪へない死傷數も兩軍兵員の比率は非常に近接してゐる英軍の死傷は九萬以上、米軍はパツチ將軍の麾下を加算して死傷十四萬五千以上である、以上は英語民主主義國がフランス國土の現實の解放に鮮血をもつて拂つた代償である、更に戰局の展望を歐洲全域に擴大し佛伊兩國の戰線を包括させれば英國が五ケ年餘に亘る戰鬪の後ドイツ軍に對し兩戰線を合せ、戰場に米國が一切の船腹源を傾倒して歐洲に派遣できたと同じ師團數を依然維持してゐることを知ることは、下院の滿足とするところだと思ふ、英帝國を通じ英國人の全人口が僅か七千萬人に過ぎぬこと、並びに開戰當初の數年間に幾多の戰死傷を蒙つたことを考慮すれば實際素晴らしい努力だと思ふ、但し赤軍が西部において反樞軸軍と對陣してゐるよりも大きいドイツ軍と對峙し尨大な損害を蒙りながら何年も陸上抗爭の衝に當つたことは特に指摘せねばなるまい」

ビルマ戰に關する米國輿論に不滿

歐洲戰線における英軍の負擔を强調して大西洋の彼岸における論難に應酬したチヤーチルは、次いで印度戰線における英軍の作戰を擁護、鋒鋩を露はしていはく

「前回下院に對する聲明でも言及したが、ここに再びビルマ作戰について言及しなければならない大西洋の彼岸に滯在してゐる間に米國の新聞を耽讀したが、ビルマ戰線における英軍の戰鬪振り並びに現在までのマウントバツテン提督の戰果について、米國輿論の間に誤つた考へが廣く行き渡つてゐるのを讀みとつて幾分懸念を禁じ得なかつた米國の重要な言論機關の一部が一九四四年ビルマ戰線における英軍の作戰は失敗であるとか、乃至少くとも膠着狀態に陷つてゐるとか、或ひはまた英軍は何もしてをらず、僅かにスチルウエル麾下の非常に高度の奇襲隊をもつて組織した聯隊が、重慶軍の援助のもとにミイトキーナを奪回したので僅かに敗退を免れたとかいふ印象を與へてゐるらしい、これが米國內で描かれてゐるビルマ作戰の畫圖である、かかるが故に玆に實狀を正しい光のもとにおく必要があると思ふ

米國が重慶に對する補給の衝に當り得る空路の建設に著々努力し、驚倒すべき努力と莫大な失費とにより恐ろしいヒマラヤ山系一帶でいはゆるハムと稱してゐる難關を越えて、ここにはつきり數字を上げるのは差控へるがビルマ公路が嘗つて輸送し、乃至今後數年の間に輸送するところの何倍もの補給を續けてゐる、機關に故障が起れば操縱士は間違ひなく死ぬといふ地上二萬呎乃至二萬二千呎を飛んでの輸送といふ、殆んど信じ難い仕業を、米國は重慶政權の抗戰を援助したいといふ一念から偉大な努力を傾けて實現した、かかる事業でこれよりも巨大な力と科學と組織の實例はいまだ嘗つてみられ否夢みられなかつたところであることは確かだ

昭和十九年十月十一日(水)
第三二〇六號

同盟通信

海外電報(第三種郵便物認可)

平和の安息所印度

印度の東部國境線には英帝國第十四軍が控へてゐる、中東戰線から最も有名な印度軍數個師を初め印度の主要な戰爭努力、英本國軍の少からぬ割合並びにアフリカ大陸からの優秀な原住民—主として西アフリカからの原住民數個師から成つてゐるが—マウントバツテン總督のもとにおけるこの第十四軍はおよそ二十五萬から三十萬の兵力を擁してゐる、他に印度戰線の異常に且つ實體的に危險な兵站線の關係上後方勤務の人員を必要とするところが大きいが、この第十四軍が積極的作戰によつて重慶への米軍空路の基地を守り、日本軍の侵入に對し印度を保護した、印度とその尨大な人口とが再び世界の動搖と嵐との間に英帝國の楯の蔭に安泰を保つた(拍手)過去八十年間英國の統治のもとに印度で鋼鐵乃至火器によつて死滅した人數は地球全體を通じて如何なる同樣な地域乃至集團に比べても少い、(獨立勞働黨のマクガヴアンから、しかし多數の印度人が餓死してるぞとの野次が飛ぶ)印度の人口は過去十年間に六千萬增加した、軍事上の諸條件で輸送機關が影響されたために起つた飢饉は他地域における人口增加の速度をも凌駕する、廣大な印度半島において印度政廳が人口增加に對處した行政の運營を代表してはゐない(拍手)印度が英國の軍隊と權威との保護のもとに以上の庇護を受け、尨大な平和の安息所となるに至つたことは寔に素晴らしいことと思ふビルマ戰線における戰鬪が一ケ年を通じ極めて激甚且つ繼續的で屢々特定諸地區における戰況の結果が怪しく見えたことがあつたのは寔に遺憾である

日本軍及び疾病に對する戰ひ

しかし印度に侵入し空路を遮斷しようとの目的のもとに英軍に對し投入された日本軍は雨季にも拘らず依然繼續されてゐる血醒い高價な作戰の結果擊退されるに至つた、右作戰が特に戰病兵に關して如何に高價であつたかは、英帝國第十四軍が今年の前半六ケ月間に驚く勿れ二十三萬七千人の戰病兵を出し、遠い且つ困難な聯絡線を辿つて後送し入院させねばならなかつた事實からも推定出來よう、內九〇%以上が六ケ月以內に前線に復歸したが軍に對する不斷の重壓並びに二十五萬近くの戰鬪兵力に對するこの重壓にも拘らず、この兵力を維持して行くために必要なさらに多數の人員に對する重壓は諸君も想像が出來ると思ふ、かかる損害と重壓とを受けながら戰力を維持して行くには、さらにすつと多くの人員を必要とする、加ふるに第十四軍は今年の前半六ケ月間に戰死傷四萬以上を出した、前半といふのは六月末までだ、爾來この數が更に增大してゐることはいふまでもない、マウントバツテン提督がビルマ國境線で遂行してゐる作戰は寔に驚くべきことだが今まで日本軍に對して決行された最大且つ最も重要な作戰だからここに余が以上の通り述べた以上、これらの事實が一層よく知れ渡り廣く發表されるに至ると思ふ(拍手)意味のないとか乃至失望すべき膠着狀態なりといふのは飛んでもない誤りで、日本軍との間に今まで起つた陸上戰鬪としては依然として最大の衝突なのである、日本軍は戰況不利な地點においては各自相次いで玉碎し、指揮の將校は最後に自らの頭腦を爆碎したが、英軍が密林の間にこれら日本軍の屍體をみつけたことも屢々である、出來る限り大きな規模で日本軍と交戰することは、日本軍との戰ひの現段階を畫する消耗戰過程の必須な一部面である、第十四軍は甚大な疾病による損害にも拘らず、あくまで忠實に以上の戰鬪任務を果した、さらに疾病による損耗が今後の作戰では著しく減少することを期待する、「必要は發明の母」だといはれてゐるが、英軍は熱帶病並びに虱から蚊に至るまであらゆる種類の昆蟲の襲擊に對し、幾多の豫防方法を發見した、素晴しいDDT粉を實驗してみたところ驚くべき結果を示したので、ビルマ戰線の英軍は勿論太平洋印度その他あらゆる戰線の米軍濠洲軍が今後大規模にDDT粉を使用する豫定だが、他の治療法も絕えず改善され併用されてゐるので、效果は愈々顯著になると思ふ、以上の對症法は反樞軸軍全體に非常な助けとなつてゐるが、例へばナポリで嚴重な衞生施策を講じて虱を根絕したので、反樞軸軍が同市を占領して間もなく市內に疫病が發生するのを避け得たといつてよからう日本軍及び密林におけるその他の疾病に對する戰ひ(war against Japanese and other diseases in the jungle)(哄笑)は、今後も最大の精力を傾けて推進されるであらうことを下院に對し保障出來る」

昭和十九年十月十一日(水)
第三二〇六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

歐洲戰の見透し

皇軍將兵の壯烈な玉碎振りは獨り太平洋戰線に限られてゐるのではない、生きて囚虜の辱めを受けるよりは敢然自決して永生不死の門に入る大和魂の眞髓は、端なくもチヤーチルの戰況報告によつて全世界に傳へられ、特に英國人の間に內心少からず畏怖の念を起こさせたに違ひない、英國首相は以上印度戰線について堅白同異の詭辯と輕薄な駄洒落とを弄した後、支那戰線に言及し口を滑べらして了つた、重慶政權を切齒扼腕させた文句が次に續く

「重慶政權に提供された米國からの湯水のやうな援助にも拘らず、この偉大な國はシエンノート將軍麾下の米軍航空隊が當てにしてゐた貴重な空軍基地の喪失、その他重大な軍事上の諸挫折を喫するに至つたことを、ここに深刻な遺憾の念をもつて指摘せねばならない、これは極めて殘念なことであり困つたことである」

ここでチヤーチルはナポレオン一世とヒトラー總統とを比較して毒舌を弄してゐるが、大衆を喜ばせようとした饒舌に過ぎないから省略しよう、進んで歐洲戰局に對する見透しと太平洋戰線だ

「何時歐洲戰爭の終局が到達するかについては、今は斷じて憶測——憶測以上ではあり得ない——を敢てしまい、最高の技術的造詣と知識と責任とを持つてゐる幾多の要人が、一九四四年末までに歐洲戰爭が悉く片付くことを好望と看做してゐるしかし反對に何人も——余は勿論だが——一九四五年の數ケ月が歐洲戰爭の終末に必要でないと斷定はしない、ドイツ國並びにドイツ軍の組織的決戰が完全に打破された後にも幾多棄て鉢のドイツ人が森林や山間において戰鬪を繼續するかも知れない、しかし或る時期に到達すればドイツ國に對する實際の戰爭が終了し、匪團並びに戰爭犯罪人の掃蕩工作期間に入ることを宣言する必要があるかも知れない、しかし何よりも大切なことは、日本軍に對する戰ひを强化するため何時歐洲戰線から相當な兵力を撤收するか、その時期を選定することである、カイロに向ふロメル將軍の進擊を、新たに任命されたアレクサンダー並びにモントゴメリーがエル・アラメインの決定的勝利にさき立つ一ケ月前に食ひ止めてから今日で殆んど丸る二ケ年である、爾來全世界を通じ反樞軸軍の戰況並びに强大な盟邦ロシヤの戰局がエーゲ海におけるレロス、コス兩島の喪失を唯一の例としてただの一回も如何なる種類の敗退をも喫せずに進捗してゐる、かかる長い且つ上る一方の勝利の潮は戰史に類例をみないところである、反樞軸主要十五ケ國は各國から要求される新たな努力と構想されとぎ澄まされ且つ實戰において展示される今後の企圖について當然信任を要求していいと思ふ

ぎりぎりまで對日戰を繼續

統合參謀本部はケベツクにおいてあらゆる點について意見一致した、戰爭の遂行を託した軍司令官についてはルーズヴエルト大統領と協議の結果例へばバウンド提督の悲しむべき逝去の場合のやうに、死亡のため止むを得ない場合を除いて全然變更を加へないといふ政策をとつてゐる、前大戰當時の大きな特徵といつていい軍事專門家と政治的分子の間における意見の相違は今度の戰爭では全然ない、お互完全に偕調を保つて働いてゐる、統帥部に對するわはわれの信賴、卽ち英國全體としてまた戰時內閣の信賴は益々增大してゐる、ケベツク會談における協議が出來るだけ早くドイツ軍を無條件降伏させて歐洲戰爭を成功の裡に切り上げることと、歐洲戰爭が片付く時間からすべての人々の頭を支配し、一切の資源を要求する日本軍との戰の新樣相に關聯してゐたことはいふまでもない、余は約二年前英國政府を代表してルーズヴエルト大統領に對し、英國が戰力と資源とを傾けてぎりぎりの最後まで日本軍に對する戰ひを遂行することを確言し(拍手)更に前回米國議會で演說した際には、英國は日本軍のために米國が蒙つたよりも一層大きいとはいはぬが少くとも同等の損害と傷害とをうけてゐるので、彼の損害を修復しこの傷害を拂ひ戻してやらねばならぬ旨說明した、更に濠洲並びにニユージーランドに對しても(拍手)日本軍のあらゆる脅威を取除き、これ等の國々がドイツ軍との戰ひにおいて、否すべての戰線において英國を助けてくれたのと同樣、これらの國々に對し效果的支援を與へるのに遲れをとつてはならない、この抗爭において英國人が飽くまで頑張ることを疑つてはならない

昭和十九年十月十一日(水)
第三二〇六號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

大分前に余はルーズヴェルト大統領に對し以上の公約を判つきりした條約に纏め上げてはどうかと提案したが、大統領は英國人の口約束だけで十分だと鄭重な返事を述べた、この口約束をわれわれは間違ひなく履行する決心である、以上の趣旨に基き英國政府は立派な新規の英國艦隊を提供し日本軍との主要作戰に使用して貰ひたいと申出でた、この申出は直に欣然受容れられたのである、右艦隊の大部分は既に印度洋に在り、過去一ケ年間英國の新鋭主力艦數隻は更に戰時における技術的裝備の急激な進歩に應ずるため近代化と「兵團化」(Tropiealisation)とを進めてゐる、更に九ケ月前から人員器材のための修理船、休養船、兵站船その他近代戰に必要な各種船舶としてとくに適當な大小多數の艦船をもつて「艦隊列車」(Fleet train)を建設することに着手した、艦隊が數ケ月間の海岸の基地から獨立して、高度の機動性を發揮するためである、既存の艦船を改裝する過程も可成り進んでゐたが、建造中の新しい商船を以上の目的にしつかり合ふやうに模様替へする方が一層好都合でもあり經濟的でもあるのでこのために使用する艦船の少からぬ部分を現在カナダ國で建造してゐる、かくして日本艦隊との全般的戰闘を獨力で戰へる艦隊を太平洋に廻航する方針だが、更に優勢な米國艦隊と合體すれば、彼の廣大な大洋のあらゆる空間と海面とにおいて最も完全且つ決定的性格の制海權を確保出來よう、更に日本軍との戰ひにおける一樣相として、日本本土の施設と軍需工業の中心とに、猛烈且つ熾烈に、長期に亘り益々增大して行く爆撃を加へることを豫想せねばならない、この樣相についても基地の許す最高限度まで英國はその役割を果たす決心である

戰爭努力を制約するものは船腹の限度

英帝國が遂行する陸上戰闘乃至水陸兩用作戰については玆に發表の限りでない、唯英國の戰爭努力の規模を制約するのは入手出來る船腹の限度だけだといへば足りよう、しかしこの點についても英國は近く素晴らしい追加を受取る豫定である、潜水艦戰が終りを告げれば、英國は西半球における商船の護送を止め、商船隊の輸送隊力については恐く少くとも二五%、油槽船の場合には一層多くの輸送力增大を見ることとならう、さりながら兵力の一大轉用について、速度に關し餘りに樂觀的見解を抱くことには一言警告しておかねばならない、反樞軸軍の船腹は大きく、かつ開戰當時に比べて著しく增大してゐるが、また依然として兵力の異動を制約するが、他に各基地の增强、貯藏と補給との集積、飛行場の建設防衛などはすべて恰もスープ皿からスープをのむやうに簡單に地球の上を艦隊や軍隊を動かす不羈な想像力を逞しくするいはゆる戰略家に拘束を加へるであらう、日本軍必死の抗戰に加ふるに巨大な距離と熱帶の諸條件、その他の物理的條件のために、日本軍に對する戰ひは第一位の規模に立つ事業となり、反樞軸軍が一番いい條件のもとに人命を損すること最も少くしてその任務を遂行出來るやうにするには一切の資源と機構と科學とを活用することが必要である、以上すべての樣相を考慮するならば、下院は意を安んじて米英兩國の頭腦と技術力とが悉く不斷に活用されることを期待してよく、各戰線ですでに確保した戰果に徹しても、これ等の戰力が必ず所期の戰果を收めることを先づ確保して差支へないと思ふ」

以上が太平洋戰略に關するチヤーチル首相の豪語だ、歐洲戰爭がチヤーチル首相の皮算用通りに運んでゐないことはアーヘン周邊におけるドイツ軍の反撃態勢に徵しても明らかだが、東亞の寶庫に對する帝國主義戰爭において米軍の反攻作戰に立ち遲れてバスに乘り損ねないやうスプルーアンス麾下の米軍第五十七機動部隊の擧に倣ひ、工場艦隊と病院艦隊とを用意し、英國艦隊の主力と空軍力を傾けて、懸軍萬里遠征の師を起こすのが亂世の梟雄が抱く夢であらう、勿論陸上兵力については主として印度軍、アフリカ軍とを使ふ方針で英本國軍については早くも復員計畫を發表してゐる位だが、艦隊についてもストツクホルム電報は戰爭が假りに片づいても歐洲に卽時平和が立ちかへるとは考へられないから、英本國艦隊は依然として歐洲水域に踏み止まるだらうと報道してゐる、戰後の發言權を確保する見地からも本國艦隊(Home Fleet)をいはゆる「保全艦隊」「(Fleef in being)として控へにとつておく公算が多いと思ふが「來らざるを恃む」のは危險だ

大正十五年十月廿五日第三種郵便物認可　昭和十九年十月十二日(木)　第三二〇七號

同盟通信 海外電報 (235)

昭和十九年十月十二日發行人　秦野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

【目　次】

重慶政權、自主の機運……二三三八
重慶の現狀は憂愁憤懣……二三三八—二三三九
モスクワ會談始る……〃
會談の議題をソ聯紙報道……〃
訪ソの目的は對ソ讓歩……〃
【反樞軸陣營】
四國會談實現か……二三四〇
聯盟案につきル大統領聲明……〃
小國早くも不滿……〃
潛水艦戰に關しル、チ共同聲明……〃
ヴイシー政府要人を收監……〃
マルセーユから送油管……〃
【英　國】
民間航空、社會保險兩相決定……〃
【米　國】
戰後の失業を警告……二三四一
樞軸海運剝奪案……〃
英國からのゴム供給額……〃
デユウイ重慶援助を聲明……〃
勞働總同盟勢力……〃
【北　歐】
獨、芬北部に軍政……〃
【北　阿】
ワフド黨と正面衝突か……二三四二
埃及言論界沸騰……〃
埃及新內閣々員顏觸追加訂正……〃
【特　輯】
歐洲戰と東亞反攻作戰（下）……二三四三—二三四七
【週間特輯】
フランス「空位時代」……二三四八—二三五五

世界の焦点

チヤーチル、イーデン兩者のモスクワ訪問の目的についてはいろんなことが考へられるが、一番大きな問題はソ聯が相變らず自分だけの戰爭をしてゐることであらう、反樞軸軍は今年中に歐洲戰爭を片付けるつもりで西部戰線に全力を傾注し、屍の山をきづいてジークフリード線の正面突破を焦つてゐるが、ソ聯はドイツ領內への侵攻はそつち除けでバルト三國の失地回復に道草を喰ひ、「バーズラー・ナハリヒテン」紙のイスタンブール電によれば七十個師の大軍を投じてバルカン全土制壓の野望を着々實現してゐる、英軍がアルバニア、ギリシヤに上陸したのは、ソ聯のバルカン進出に對する儚ない牽制企圖だが、さらに重大なのはソ聯が英國の寢込みを襲ふ形でイラン油田開發計畫を發表したことだ、周知のやうに英國は過去一世紀間イランの油田支配を樂しんでゐたのだが、ソ聯が英國に相談を持ち掛けずに獨りぎめでイラン北部の油田開發を計畫したばかりか、早くも技師や工作團を續々繰り出すに至つては英國も慌てざるを得まい、またダンバートン・オークス會談もソ聯の反對でお流れになつた形だが、ワルシヤワ蜂起も全員降伏で幕を閉ぢ、ソ波紛爭はもはや調停の道を閉されてゐるのが實狀だ、チヤーチルのモスクワ訪問は以上の重大問題についてスターリン議長の肚を探るためらしいが、木乃伊取りがわざわざ木乃伊になりに行つたやうなもので、逆に肚を探られて一切合財捲き上げられる位が落であらう、チヤーチルに比べるとルーズヴエルトは狡い、このやうな損な話には乘らないで、專ら嫌なことはチヤーチルに押しつけ、大統領選擧戰の投票稼ぎに寧日なしだ

スターリン議長の長男前線へ

（ストツクホルム九日發）モスクワ來電によれば、リトワニアで新攻勢を開始したバグラミヤン軍大將麾下の第一バルト戰線軍にはスターリン議長の長男が大佐として作戰に參加してゐるといはれる

昭和十九年 十月十二日(木)
第三二〇七號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

重慶政權自主の機運

(リスボン十日發)重慶來電によれば蔣介石は双十節に當り、東亞戰線につき約二十分間にわたり演說し次の通り述べたと傳へられる

戰局はまことに重大であり、海岸線と鐵路沿線において戰ひは更に困難を加へよう、しかし重慶政權としてはすでに今日の事態を豫想し、一切の用意を整へてゐるから日本軍の進擊に遭つても敢へて驚かない、現在五百萬の重慶軍が前線において奮鬪してをり、中國領土の六割は依然重慶政權の支配下に在り黎明に至るまでの暗夜は決して長くはないから、全國民は緊褌一番今暫く隱忍されたい

以上蔣介石の演說に關聯し重慶のロイター支局長趙敏恒は

蔣介石が今度の演說で、全然反樞軸軍に言及しなかつたのは意義寔に深長である、從來蔣介石は演說毎に歐洲並びに太平洋戰線における反樞軸軍の戰果に言及し、米英兩國からの重慶への援助に謝意を表明する例であつたが、今回は全く反樞軸軍に言及せず、援助も要請しなかつた反樞軸各國に對して、何となく幻滅を感じたといふ氣持ちが重慶人士の間に逐次強まりつつあり、外國からの援助などにあまり賴らず、獨力で抗戰を遂行せねばならないと肚を極めるに至つた、同時に外國筋で重慶を批判したり、內政に干渉しようとするのに對し、或る程度憎惡の念が昂まつてゐる

と重慶政權現在の心境について極めて深刻な註釋をつけてゐる、同時に「デーリー・テレグラフ」紙の重慶特電によれば趙支局長は最近の著書において

重慶の外人特派員は低級、不正直、無教育な飮んだくれで、バクチに耽る冒險屋ばかりだ、重慶の內情についても眞相を歪曲し、僅か半面の眞理を大袈裟に傳へ、デマをバラ撒いてゐる、かかる特派員を通じて重慶の眞相を摑まうとするのは難い哉

と手荒く外人特派員を扱き下ろしたので、いはゆる「冒險」屋仲間で重大問題化し、同人は十日外人記者クラブ全會一致の表決で「永久に」除名されたといはれる

重慶の現狀は憂愁憤懣

(リスボン九日發)「ニューヨーク・タイムズ」紙の重慶特派員アドキンソンは九日重慶政權の憂鬱な空氣につき次の通り報じてゐる

△各國の援助に反問

九月十七日余は重慶政權部內に一沫の淸風が漂ふに至つたと報道したが爾後の情勢に鑑みこの淸風がパタリと止んでしまつたことを報ぜざるを得ない、三週間のうちに重慶の雰圍氣は樂觀的寬容な氣持から沈痛な憎惡と沈默とに變つた重慶軍が增援を得て廣西省の保衞に必死となつてゐようとも、米軍の第十四航空隊が阿修羅のやうに戰はうとも米國からの補給が前線に注ぎ込まれようとも、日本軍は着々として柳州に向つて鐵路沿ひに進擊を續け更に福州を占據して海岸線の防衞を强化した、重慶政權は今や中國の東半を悉く喪失するばかりでなく、封鎖された重慶地區にとつては缺くことが出來ぬ食糧、鑛物資源、稅金、密輸入品等々を喪失するといふ慘憺たる局面に當面するに至つた、軍制の改革、政治的統合に關し、各國から壓迫をうけて重慶政權は正に四面楚歌の感を深くしてゐる、英首相チヤーチルが「湯水のやうな」米國からの援助といつた事に感情を害した重慶人士は今や一體各國からの援助によつてどれだけ得をしたかと反問するに至つた、重慶政權が獨力で抗戰してゐた當時は現在程危い立場ではなかつたことを想起し、今後も獨力で戰つた方が旨く行くだらうとさへ考へるに至つた

△重慶を救ふもの卽重慶

今まで我慢して外國の批判を差控へてゐた人士も今や眞向から援助物資の增加を要求してゐる、從來機關紙は米英兩國からの援助に對し感謝と寬容と理解ある態度を示してゐたが、今や重慶が危機に陷つたのをみて米英兩國の責任を採上げるに至り、殊に大公報のごとき卽時東亞第二戰線の展開を要求し「重慶政權は米英兩國に對し中國の海岸線に陸軍兵力を揚陸せしめる十分の權利を持つてゐる」と主張してゐる

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

勿論中國の東半を失ふも貴州、雲南、四川、西康、綏遠、甘肅、寧夏、新疆の八省を保持してゐるといふので僅かに慰めてはゐるが日本軍が貴陽に進撃し昆明を奪取するかも知れぬと懸念する向きも少くない、結局重慶を救ふものは重慶だとの決心のもとに延安政權に對する重慶政權の態度は一段と硬化し再び數年前の政策に立ちかへつた

一ケ月乃至六週間以前には論議を許された重慶延安合作政權案についても現在では重慶政權顚覆の企圖として論議を許されず重慶の共産系新聞新華日報の如き合作政權を提唱した廉で先週發行停止を食つた、米國の軍人外人記者團は延安地區の訪問を許されてゐたが「論爭的主題」に關する論策は檢閲を通らない、去る五月上旬開始された交渉によつても國共の對立が解決される見込みは殆んどない、重慶現在の心境は受動的否定的のいまいましいといふ氣持だ、外國の批評に對しては一歩も讓歩しないといふ決心らしい

モスクワ會談始る

(モスクワ十一日發)タス通信社は十日次の通り報道してゐる

英國外相イーデンは十日午後大使クラーク・カーとともにモロトフ外務人民委員、ヴイシンスキー次長を訪問三時間にわたり會談を遂げた、終つて英國首相チヤーチルはイーデン、クラーク・カーを帶同してクレムリン宮にスターリン議長を訪問、モロトフ外務人民委員を交へ、十一日午前一時まで三時間に亘り協議した

右會談でチヤーチルはケベツクでルーズヴエルトと協議した内容を報告したと解されるが、會談後チヤーチルは英國大使館において英軍の代表らと更に打合せ會を遂げた

會談の議題をソ聯紙報道

(ストツクホルム十日發)モスクワ來電によれば十日のソ聯紙はいづれも一頁を割いてダーバートン・オークス會談の決定全文を掲げてゐるが、反樞軸聯盟案とチヤーチルのモスクワ訪問とがなんらかの關聯を有するかどうかの點については完全に沈默を守り、單に國際安全保障會議における米英ソ重慶四國の全員一致票決方法に對する强硬な反對を表明してゐるといはれる、また今回のモスクワ會談に關聯するものとみられるのはイラン油田問題で、ソ聯紙はいづれも北部イラン油田開發に關するソ聯の計畫を詳細に報道してゐるが、これまた今回チヤーチル訪ソと關聯を有するかどうかについては一切言及を避けてゐる、直接モスクワ會談の議題をとり上げてゐるのは、ソ聯夕刊紙「ヴエチエルナヤ・モスクワ」一紙だけで、同紙は十日以上の問題に關し次の通り報じてゐる

チヤーチルとスターリン議長は過般のケベツク會談で解決をみるに至らなかつた諸問題を主として協議することにならうが、主要議案はポーランド問題とみられ、ミコライチク一派のポーランド解放委員會加盟問題、乃至は同委員會とロンドンの亡命政權との協力方式が檢討されよう、も一つの問題はフランス問題で、同國將來の運命及び地位が討議される筈だ

訪ソの目的は對ソ讓歩

＝獨外務當局非公式發表＝

(ベルリン十日發)スターリン・チヤーチル兩者のモスクワ會談に關してはドイツ外務當局はいまだ正式に批評を加へてゐないが、ドイツ外務省筋は十日非公式に次の見解を表明した

チヤーチル・イーデンのモスクワ訪問は懸案の諸問題がソヴエト政府の希望通りに解決されるといふ結果を招來しよう、換言すればチヤーチルは讓歩するためのみに老軀をひつさげて遙々モスクワを訪問したわけだ、モスクワ會談の議題は明瞭だ、近東及び東南歐問題、特にポーランド、ギリシヤ問題が主として俎上に載せられようが、チヤーチルがスターリン議長の要求に對して飽くまで自己を主張するやうなことは絶對にあり得ない、最近英國新聞界は如何なる犧牲を拂つてもソ聯との協調關係を維持せよと叫んでゐるが、チヤーチルの訪ソは以上の輿論の要求に完全に應へることとならう、ルーズヴエルトがモスクワ會談に參加しないことは意味深重だが、恐らく大統領選擧を前にしてスターリン議長の要求に膝を屈するやうな醜體を演じたくないためだらう

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

四國會談實現か

(リスボン九日發)米英ソ重慶四國は九日反樞軸聯盟案を發表したが、この案では肝心の武力行使の投票權問題をはじめその具體的方法につき米英兩國とソ聯との間に意見一致せず、四國の共同聲明も「意見不一致の點については更に今後協議が行はれよう」と述べてゐる、右に關しては米國政府官邊も「意見不一致の點はダンバートン・オークスに會合した四國の代表より一層上の位にある人々の協議によつて解決が期せられるべきだ」と言明してをり、この結果ルーズヴエルト、チヤーチル、スターリン、蔣介石による反樞軸會談說が再び有力となつて來た、右につき九日のニューヨーク・タイムズ紙は次の通り報道したといはれる反樞軸聯盟案發表の形式からひき出される必然的な結論は蔣介石、チヤーチル、スターリン及びルーズヴエルト會談である、この四國首腦の間に具體的な意見一致なくしては折角の國際安全保障機構を有效に機能を發揮出來ないことは一般に認められてゐる、卽ち聯盟案はその基礎組織を決定したに過ぎず、これに活力を與へるのは四國政府間の密接な接觸である

聯盟案につき ルーズヴエルト大統領聲明

(リスボン九日發)ワシントン來電=米國大統領ルーズヴエルトは九日發表された反樞軸聯盟案につき要旨左の聲明を發表した

新國際機構案は今次大戰の主要戰爭目的の具體化である、極めて困難な問題につきかくも短期間にかくの如き成功が收められたことは欣快に堪へない、關係各國は今後も相互信賴と建設との精神をもつて國際機構の完成に邁進することを希望する

小國早く も不滿

(リスボン九日發)九日發表された國際安全保障機構案は豫期の如く大國の發言權のみが極めて強く認められ、群小諸國の立場を殆んど無視した形をとつてゐるが、これに對しては小國の不滿强く、早くも新機構案に對する小國の囂々たる非難の聲が各地から傳へられてゐる

諸小國のうちでも自分だけは大國と思つてゐる諸國の如きは特に不滿强く、ブラジル、濠洲、カナダ、ノルウエー、オランダの諸國は、彼らが新機構における理事會の常任國から除外されたことを遺憾とし、米英兩國政府に對し抗議すると共に米英ソ重慶四國と並んで常任理事國の一員に加へることを要求するだらうと報道されてゐる

潛水艦戰に關し ルーズヴエルト、チヤーチル共同聲明

(リスボン九日發)ロンドン來電=ルーズヴエルト、チヤーチルは九日對潛水艦戰の近況につき次の共同聲明を發表した

九月中の反軸樞軍艦船の潛水艦による喪失數は過去において最低記錄を示した本年五月と殆んど同程度に低下してをり、ドイツ軍潛水艦擊沈數と反樞軸軍艦船喪失數との比率も滿足す可き狀態にあるが、しかしドイツ軍も來るべき秋に備へ、新型潛水艦による再攻勢を計畫してゐるから、われわれは依然ドイツ潛水艦隊に對する監視を怠つてはならない

ヴイシー政府要人を收監

(ストツクホルム九日發)ロンドン・ラジオによれば「ヴイシー政府」元外相フランダン、元內相ペイルートン、元空相ベルジユレー將軍等の佛要人はド・ゴール政權官憲により八日アルジエーより空路パリに護送され、直ちに收監され、同時に元チユニジア總督エステヴア將軍も投獄されたと傳へられる

マルセーユから送油管

(チユーリツヒ五日發)「ラ・スイス」紙のセント・ジンゴルフ電によれば米軍はマルセイユ・ヴアランス間にガソリン送油管敷設を計畫し目下工事を進めてゐるが、十粁毎に自動注油設備を施してゐるといはれる

【英 國】

民間航空、社會保險兩相決定

(ストツクホルム九日發)ロンドン來電=政府は新設民間航空相に子爵スウインイントンが任命された旨九日朝發表した、スウインイントンは一九三五年から三八年まで空相の地位にあり、その後西亞常駐相に就任したこともある、また英國政府は新設社會保險相にはウイリアム・ジヨウイツトを任命した、ジヨウイツトは勞働黨員で一九四三年以來無任所相の職にあつた

昭和十九年 十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米 國】

戰後の失業を警告

(リスボン九日發)ワシントン來電=勞働總同盟副會長マシユー・ウオルは米國の戰後失業につき最近次の通り警告を發した

歐洲戰の終結と同時に少くとも四百萬人の米國人が失業することとならうが、平和産業への轉換が上手に運營されない場合には失業者の數は恐らく八百萬人となるだらう、戰爭終了並びに動員解除に伴ひ軍需産業は停止されるが同時に國民の購買力は最少限三十五億磅の減少をみるであらう

一方戰時人的資源委員長マクナットもドイツの降伏と同時に米國の軍需生産計畫は四十%減少、その結果四百萬名の勞働者が軍需産業から解放されることとなるべく從つて勞働力統制は不必要となるであらうと述べてゐる

樞軸海運剝奪案

(リスボン九日發)ニユーヨーク來電=戰時海運局長官エモリー・ランドは戰後の樞軸國海運處理に關し九日次のやうに言明した

戰後米國並びに反樞軸側海運諸國は貿易の進展をはかりその船舶を增强するために樞軸國の船舶を取りあげて樞軸諸國の外國貿易を分割支配すべきである、しかして反樞軸國が樞軸國から剝奪すべき船舶の三分の一は米國が取り三分の二は反樞軸歐洲海運諸國が受取ることとならう

英國からのゴム供給額

(リスボン九日發)ワシントン來電=外國經濟院は八日次の通り發表した

米國は英聯邦からの逆貸與として今年中に生ゴム七萬八千トンをうけることになつた、これは英聯邦における一年間の全生産量の半分以上に當り各地域別供給トン數は次の通り

セイロン	七〇、〇〇〇トン
英本國	四、五〇〇トン
印度	三、一〇〇トン
西半球の英領土	四〇〇トン

デユウイ重慶援助を聲明

(リスボン九日發)重慶當局は最近米國の武器貸與援助の貧弱さに不滿を聲明、米國の一部でもこれを認めてゐるが、アルバニー(ニユーヨーク州)來電によれば大統領候補トーマス・デユウイは九日

重慶に對し出來るだけ速かに大量の援助を送るのがわれわれの義務であると聲明したといはれる

勞働總同盟勢力

(リスボン九日發)ワシントン來電=勞働總同盟書記長ジヨージ・ミーニーは八日次の通り發表した

勞働總同盟の會員數は本年八月三十一日現在で六百八十萬六千九百三名に達し一年前より二十四萬二千七百七十二名の增加となつた

【北 歐】

獨、芬北部に軍政

(ベルリン九日發)ドイツ軍當局は九日つぎの樣に言明した

フインランド軍は多年に亘るドイツ軍との戰友關係を斷絶し、フインランド北部においてドイツ軍に對し敵對行動を開始したため、ドイツ軍司令部は適當な對抗措置を採るに至つた、北部フインランド軍司令官レンドリオ上級大將は四日以降北部フインランドの最高行政權を施行する、フインランドの行政機關に對しては所管事務の繼續を許すが、ドイツ軍當局の發する命令に服從しなければならない、ドイツ軍は軍の規律に從ふ一般フインランド國民及び財産に對しては今後も保護を加へフインランド通貨はフインランド人とドイツ軍との間の一切の取引に從來同樣の價値を持つであらう、ドイツ軍は戰線後方のフインランド軍將兵の武裝を解除し抑留するが、敵對しない者は捕虜として取扱はない、フインランド政府及び軍に對するドイツ軍の報復によつて責任のないフインランド國民に累を及ぼさないため、すべてドイツ軍は寬大な措置をとるであらう

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【北阿】

ワフド黨と正面衝突か

(リスボン九日發)エヂプト新首相アーメド・マヘール・パシヤは組閣完了と同時に各政黨の領袖と交渉を開始したが、今週中に議會に臨んで信任投票を求める段取と解される、新内閣はサーデスト黨員四名、無所屬四名、自由黨四名、國民黨一名から成つてゐるが、下院の過半數を占めるワフデスト黨は全然參加してをらず殊に新藏相ナクラム・エベード・パシヤは元ワフド黨内閣の藏相でナハス・パシヤと抗爭投獄されてゐたのをナハスパシヤの挂冠とともに出獄入閣した位だから、信任投票に際しては新内閣と議會との正面衝突は殆んど必至とみられる

結局議會の解散により、國王とワフド黨との抗爭が全國民の審判を受けることとならう、フアルーク一世と前首相との對立には種々の經緯が傳へられてゐるが、ロイター電報によれば最後に國王が首相罷免の强硬手段に出たのはアラブ會議の公報をナハス・パシヤが國王に相談せずに公表したためといはれる、新内閣と英國政府との關係については何ら確實な情報がないが、ロンドン來電によれば「ヨークシヤー・ポスト」紙は九日の紙上で

英國政府が國王とナハス・パシヤとの關係について居中調停を企圖したが、水泡に歸したのは遺憾である、ナハス・パシヤは英國の知己たることを再三實證してゐるが、新首相アーメド・マヘール・パシヤが同じ政策をとるかどうかは疑問だ

と述べてゐる、特に興味が深いのは傲岸と辣腕とをもつて知られる英國大使キラーン、曾つてのサイ・マイルズ・ランプソンが政變當時カイロを留守にして遠く上部エヂプト地方に旅行してゐたことで、急報に接しカイロに歸還、國王フアルーク一世に謁見を申入れてゐるといはれる

埃及言論界沸騰

(リスボン九日發)カイロ來電=ナハス・パシヤ内閣の更迭はエヂプト言論界を俄然沸騰せしめ、各紙は一齊に筆陣を張つて夫々の立場から以上の異變に論評を加へてゐる、例へばワフド黨機關紙「エル・ミスリ」は

ワフド黨は議會に多數を占めてゐるから、ナハス・パシヤ内閣の更迭は憲法違犯だ

と敦圍くのに對し、中立紙の「エル・アーラム」は

ナハス・パシヤ内閣はワフド黨の地歩を强化するため派閥政策に專念してゐたから、同内閣の更迭は憲法の違犯とはならぬ

とフアルークの非常措置に贊意を表すれば同じ中立紙の「エル・モカタム」は

アヘール・パシヤの新内閣は議會に多數を占めてゐないから、議會の解散を斷行して輿論の信任を問ふであらう

と述べて成行を重視してゐる、現在までのところエヂプトの治安は維持されてゐるが、ワフド黨支持の青年達は八日カイロで示威運動を行ひ、エヂプト軍の巡羅隊と小競合を演じた

追加訂正

昨十一日附二三二七頁「エヂプト新内閣成立」記事中閣員顏觸れを左記の通り追加訂正致します

首相兼内相　アーメド・マヘール・パシヤ(サーデイスト黨)
外相　マフムド・フアグリ・エル・ナクラム・パシヤ(サーデイスト黨)
藏相　マクラム・オベイド・パシヤ(獨立黨)
商工相　ラグヘブ・ハナ・ベイ(獨立黨)
運通相　イブラヒム・デソウキ・アバサ・ベイ(自由立憲黨)
保健相　イブラヒム・アブデル・ハデイ(サーデイスト黨)
厚生相　シエイク・ムスタハ・アブデル・ラツエツク・パシヤ(自由黨)
農相　アフメド・アブデル・ガフエル・パシヤ(自由黨)
補給相　タハ・エル・シバリ・ベイ(獨立黨)
國防相　マイトレ・サイエド・スリム(獨立黨)
公共事業相　マフムド・ガレブ・パシヤ(サーデイスト黨)
法相　ハフエツ・ラマダン・パシヤ(國民黨)
文相兼社會事業相　モハメド・フセイン・ヘイカル・パシヤ(自由立憲黨)

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

歐洲戰と東亞反攻作戰(下)

―チヤーチル演說を解剖す―

長谷川才次

ブルガリアの戰線離脫

以上で戰況報告を終り次いで國際政局に言及してゐるが、先づ歐洲小國の戰線離脫について次の通り述べてゐる

「國際情勢も戰況に呼應してゐる、ドイツ國に對する三大國の同盟が今ほど緊密且つ效果的なことは未だ曾つてなかつた、勿論意見と利害の對立とは避け難いが如何なる場合でもかかる對立のためにテヘランにおける諸協定並びに諸決定に基く事態の偉大な進軍が何らかの方法で影響されることは許されなかつた、一國一國相次いで速に衞星各國はナチズムから離脫したが、かかる場合何時もの例だが樞軸から中立へではなく、ドイツ國との同盟からドイツ國に對する宣戰に轉じた、ルーマニア、ブルガリア兩國に起つた事態はこれであるすでにドイツ軍とフインランド軍とが交戰してゐる、フインランド、ルーマニア兩國との休戰協定がソヴエト政府の意志を强く反映してゐるのは當然だが、兩國がヒトラー總統の麾下にロシヤ破壞の戰ひに盲目的に進軍し、ロシヤ人がよく耐へ忍びよく生き拔き、且つ勝利の裡に克服した尨大な苦難量にこれら兩國が一班の割當てを分擔した事實に徵すれば、ソヴエト政府の條件が特に控へ目である點につき下院の注意を喚起せねばならないブルガリア政府との休戰協定はまだ調印されるに至つてゐない、この場面に對するソヴエト政府の干涉はまことに瞠目に値すると同時に效果的でもあつた

ロシヤが突然宣戰を布告するとともに、ブルガリア軍は忽ちにして戈を轉じてドイツ軍に立ち向つた、米英兩國は久しい以前からブルガリア政府と交戰狀態にあり、ソヴエト政府と共に適當な休戰條件の起案に當つてゐる、ブルガリア人は過去三十五ケ年に亘り三度戰爭に從事してゐるが、今度の戰爭ではギリシヤ、ユーゴースラヴイヤ兩國に對するブルガリア軍の殘忍惡質な所業を忘れることは出來ない、しかもブルガリア國民自身は今度の戰爭でなんらの苦難も蒙らず、國土には何人も足を踏み入れてゐない、多少爆擊を受けただけでブルガリア人は全然苦難を受けてゐないのである、一番惡質の戰爭犯罪人の一部はブルガリア人である、彼らは共同交戰國としての扱ひを希望してゐるかも知れないが、英國政府の關する限りにおいてはブルガリア國民が今後久しい間いささかも疑問の餘地がないやうに自らの道程を切り拓いた上でなければ、彼らに特殊の地步を與へることは出來ない

ソ波問題を英ソ親密に協議

英國政府―米國政府も同樣と信ずるが―波蘭に對する態度がソヴエト聯邦のそれと同一だと主張するのは强辯に過ぎない、一方において西歐洲の民主主義各國、他方においてソヴエト政府とポーランド國民との關係を支配する歷史的地理的諸條件が全然違つてゐることを十分斟酌せねばならない、スターリン議長は再三有力且つ友好的な獨立主權國としてのポーランドを希望する旨を述べてゐる、この點で東方における偉大な盟邦は英國政府と全く意見が一致してをり、米國における公式聲明から判斷すれば米國政府とも同意見である、殊にこの島にをるわれわれ並びに英帝國は、ポーランド領土に對するドイツ軍の侵略の故にドイツ政府に宣戰を布告したのだから、ポーランド國民に對し深い感情と義務とを持つてゐる、ポーランドに對する三大國のすでに宣言された目的と字句においても精神においても實現するために出來る限りのことを從來同樣今後も果たす方針である、もつともポーランド國境線の境土變更は避け難いポーランドを救濟出來るのは赤軍だけであり、前にも述べた通りロシヤ人がドイツ軍のために苦しんだのだから、西方の側面に安全な國境線と友好的な隣邦を持つ權利あり、この點についてロシヤは英國の支持を受ける權利があると思ふ

昭和十九年 十月十二日(木)
第 三 二 〇 七 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

殊にソヴエト政府がこのポーランド問題の解決に當り、英國が同政府と一致の行動がとれるやう配慮し、一方はソヴエト聯邦の承認を受け、他方は西歐洲民主主義各國が飽くまで支持する双方の對立する政權がポーランド國内に出來るといふ不幸な事態を見ずに濟むことを信じて疑はない、ミコライチク首相はシコルスキー將軍の後繼者たるに恥ぢず、ロシアとの間に友好的諒解と解決とをつけようと衷心から希望してゐると解して差支ないと思ふ、同首相並びに同僚が、數ケ月前に中斷されたモスクワでの重要會談を近く再開することを希望する、特に下院今回の討議に當つても、ソ波兩國の關係について不穩當な用語で英國政府を困らせ、ポーランド政權に災を及ぼさぬやう要請するのが余の義務と信ずる、結局良好な取極めが出來て一方には關係三大國の信賴を博し、他方三大國のすべてがその目的とし決意として闡明してゐる國力と主權と獨立との各條件をポーランドのために確保する統合政權が出來ることを、衷心から希望しかつ確信する、亂暴な言葉を使つて現在眼前に開けてゐるところよりも遙に芳しくないやうな見透しを誘致する位容易なことはない、議員諸君がソ波兩國の紛爭に性急に入り込み、現在期待される名譽ありかつ滿足な解決の見込みを阻害するならば、自ら極めて重大な責任を負ふこととならう、英國政府はポーランドに對し特殊の責任を負ふてをり、下院が政府の任務を更に困難にするやうな言辭の使用をいいことと考へないと信じてゐる

われ等の第一のかつ壓倒的な任務はナチ政權を出來るだけ早く打倒することだが、われわれは決してこの任務を閑却しない、この瞬間においても戰ひかつ血を流がし、以上の目的のために身命を捧げる前線の兵士に對して、われ等が負つてゐる義務である、彼等は歐洲におけるこの恐ろしい鬪爭を終結させるために生命を捧げてゐるのだが、鬪爭の終結がわれ等の至上の任務でなければならず、如何なる問題も——問題は多い、否問題は無數にあり、猛烈な陣形を整へて次ぎから次ぎへと起つて來る

今世界各國が當面してゐる如何なる問題も、一度歐洲の天地に砲聲が熄み、勝利を收めた反樞軸軍が休戰乃至媾和の圓卓の周邊に集ふ場合には遙に容易なより調整し易い形で現れよう、各大國の間に信賴と友誼の裡に階調的處置が達成され歐洲否世界平和の恒久的機構を据ゑる基礎を提供するに至るであらうことを待望し確信してゐる次第である

余はポーランド問題について以上の言葉を述べたが、双方の側の友人諸君が如何に久しきに亘りかつ苦心慘憺、内閣がこの問題について檢討を加へたか、如何にひつきりなしにポーランド代表と會見したか、この問題についてロシアと交換した公文が如何に頻繁かつ親密であるかを諒解するやう希望する、ロシアが西方國境線において當然確保する權利あり、かつ英國政府もまた全力を擧げて支援するに決定した彼の安全保障を確立しながら同時にポーランド國民が數世紀に亘る彈壓と鬪爭とを通じて、未だ曾つて實現への努力を止めなかつた國家主權と獨立とを回復するやうな名解決が出來ぬとは考へられない

イタリアにおける反樞軸の負擔

ソ波兩國間の紛爭は理論的にも實際的にも反樞軸陣營の内情を端的に提示する縮圖である、全く相對立する双方の主張と見解とを苦しい詭辯によつて何とか彌縫しようとチヤーチルが力めてゐるところに、事件の深刻な含蓄を汲み取らねばならない、問題は亡命ポーランド政權の存廢に關するだけではない、實に英國の戰爭理念と歐洲に對する發言權との係るところに他ならない、執拗に議員諸公に辯口令を布いてゐる點から見ても、英國政界の内面に舊ポーランド領土の分割案に對する不滿が鬱積してゐると推定して差支へあるまい」

次いで首相は、ローマ訪問について報告してゐる

「余はローマを訪問してボノミ首相と會談し、更にボノミ首相とバドリオ元帥と一緒に話しあつた彼等は友人である、バドリオ元帥は一ケ年前課せられた休戰條件を忠實に履行してゐる

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

彼はすべてのイタリヤ軍兵力殊に海軍力を、ドイツ軍との抗爭のため出動させるやう最善を盡くし英伊兩國並びに他の反樞軸各國との關係を着々改善するために奮闘した、挂冠した後も後任に懇篤な支持を與へてゐるのは寔に天晴れな遣り方だと思ふ、余はまたイタリア國統監とも會見したが、反樞軸の主張に對する誠意と熱心、イタリア國民の眼からみて統監の地位が逐次昂まつてゐることは明らかだ、しかしイタリア北部が解放され現政權の據つて立つ基礎が擴充强化されない限り、イタリア國民との最終的決濟が出來ぬことはいふまでもない、以上の實現が好望だとは思ふが特に余はローマを立ち去るに當つて、英國人が鼻孔を通じて呼吸し、如何なる印半纏を纏ひ如何なる標語を口にしようとも、あらゆる形式の專制に對し、個人の生命と自由とを保持する安全保障の一班をイタリア人に紹介しようと試みた、われわれは一週間ばかり前にローマの街上における恐ろしい私刑事件に慄然とした、群衆の暴力による報復が起るのを阻止するためあらゆる警戒手段を講ずるだらうが、この責任は獨りボノミ政權だけでなく究極において反樞軸軍の負擔するところである、ドイツ軍の指令のもとに行動した犯罪人に對しては當然處罰が加へられよう、しかし處罰は飽くまで法廷において司法の形式と原則とに嚴重に遵據した處罰でなければならない、今回の恥づべき事件はイタリア政局における難關である」

新フランス誕生の一大機會

さらにチヤーチルはフランスとの關係について論旨を進めていはく

「英軍並びに米軍が四年間にわたる苦難からフランス國民を救ひ出したこと位、英國民並びに全世界に亙る國王の各自治領に眞の喜びを與へたことはない、余が英佛兩國は互に絡み合ひ同盟と作戰協定とによつて兩國軍が協力せねばならぬとの確信を初めて抱くに至つたのは殆んど四十年以前のことに屬する、兩大戰の間における英國の過誤を念頭に置き、主として米國の不參加によりさらに他の國々の弱さのために、國際聯盟が世界に全面的安全保障を與へえなかつたことを考慮し、フランス政府がウイルソン大統領の約束を賴みにしてライン國境線に關する主張を拋棄したに拘らず、米國政府がウイルソン大統領の約束を無視してドイツ軍の侵略に對する英佛兩國の保障體制から脫退したことを顧み、否さらにフランス國民が少い且つ減退して行く人口の內から前大戰で二百萬人の壯丁を失つたことを考へれば、一九四〇年フランス政府が恐しい事情のもとにドイツ政府と單獨講和したことを責めることは出來ない、今やフランス國民が誠意と勇氣とをもつて一致團結するならば、統一した新たなフランスを建設して世界の指導國の班に列する一大機會に惠まれてゐるといへよう、フランス國民解放委員會が臨時政府として承認され、反樞軸國の協議に參加するにいたることを希望するが、現にフランス代表並びに反樞軸各國政府と協議をすすめてをり、近い將來關係各方面に滿足な多幸な取極めが出來るのを期待してゐる」

歐洲の將來は英・米・ソ三國の締結にあり

最後に首相はダンバートン・オークスの會議と世界の安全保障體制に言及し、つぎの通り述べてゐる

「ダンバートン・オークスにおいては戰爭を阻止するための將來の世界組織の全場面を探索し、幾多の難關を見出したばかりでなく調整した、しかし依然として重要な懸案が殘されてをり關係各國政府の一致した意見が出揃はず熟さないうちに急いで決定をくだしてはならない、將來の世界全般を支配する重要決定について、性急にことを推し進めようとするのは賢明な遣り方ではない、もう一つ敢て下院に警告したいと思ふことがあるが、大西洋の彼岸から出てくる煽情的な報道や物語に驚いたり誤られてしまはぬやうといふことである米國では大統領選擧がある、(失笑)そこで祕密會議でどんなことが行はれてゐるか到底窺知出來さうもない人々が、あらゆる種類の事柄について極めて生き生きした叙述を傳へるわけだ、萬事は歐洲並びに世界三大國間の合意によつて決定される、三國政府の首班が必要に應じ各外相を帶同してさらに會談を遂げない以上滿足な合意は出來ないと思ふし、合意が纏らなければ滿足なことはありえない

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

僅か部分的で不完全な結果については判斷を差控え意見を極めず乃至發表しないのが至當と思ふ年末までに三國首班の會談を出現することが出來る望みあり非常な難關が横つてゐるが、この難關が克服されるやう切望して止まない、ルーズヴエルト大統領と余とが、ケベツク會談で非常に親しく幾多戰爭の針路、歐洲の將來その他の廣汎な諸懸案について檢討を加へたのだから、第三の仲間たるスターリン議長が—勿論會談の經緯については逐一通告してはゐるが、戰局が許す限り出來るだけ早く三頭會談に參加することが愈々必要である、數時代に亘り歐洲の將來は英帝國と合衆國とソヴエト・ロシヤとが衷心から信賴し理解し合ひ互に提携するかどうかによつて極まるのだから、以上至上の望みを結實させるためには如何なる勞苦をも忍び、如何なる忍耐をも惜んではならない

しかし現在ドイツ軍並びにナチ政權との死活の抗爭に從事しながらかつ日本軍に對する戰ひの針路と推移とが、米英兩國政府の腦裏に第一の地歩を占めねばならない際に、直接將來に關する一切の問題が解決出來るといふ考へには余は絕對に與しない、出來れば戰爭の終局を一ケ年早めることがそれだけで幾多重要な立法施策よりも一層偉大な恩惠である、戰爭を短縮し戰爭を終らせ、兵士を家庭に歸して彼等の頭上に屋根を葺へてやり、事態を自由な生活に引き戻し、商業を樹て直ほして再び廻轉させ、各國民を恐ろしい熱狂的な憎惡の念から救ひ出し、人間の世界、人情的な世界に多少とも近いものを打ち建てるためには、僅か一日でもこの恐ろしい戰爭の針路を短縮することが必要である、見透しを下したり調査したりするのは結構だが、過渡期間についてすらも大きな決定を下すことは出來ず、況んや將來の大計についてはもつとずつと周到冷靜かつ透徹した論議が必要である、唯今は頸骨を折るやうな速度で重大な動きのとれぬ決定を下すべき時ではないと思ふ」

演說のその後

チヤーチルの演說全般を通じて重點はビルマ作戰に關する陳述にあり、ロイター電報によれば英國新聞界は見出しに「ビルマ戰線で戰病二十三萬七千」と報道し、特に「ヨークシヤー・ポスト」紙は

下院は首相がビルマ作戰について、日本軍との最大の陸戰なることを明らかにしたことを多としてゐる

と述べてゐるといふ、演說に續いての二日間の討議でも、特に勞働黨のアヌリン・ベヴアンなぞは印度戰線を看却する結果、前線の將兵が不滿を抱くに至る惧あることを指摘し下院の視察團を派遣することを提唱してゐる、ただ不思議なのはビルマ作戰に關するイーデンの答辯で、ロイター電報によれば

首相は第十四軍について詳細報告したから、同軍隊が他の何れの軍隊よりも、不便かつ困難な事情のもとに戰つてゐることは既に各國の諒とするところであらう、政府は第十四軍の特殊な事情をよく承知してゐる、最高司令マウントバツテン卿は單に將來の作戰計畫についてだけでなく第十四軍の特殊問題を檢討し打合せるため現在ロンドンに歸還してゐる

と述べたことになつてゐる、マウントバツテンは最近打合せを遂げてセーロン島の基地に歸任したばかりなので、以上イーデンの言明は英國政界筋にも衝撃を與へ、ロンドン各紙も翌日大々的に報道したが、議事錄をよく調べた結果、外相は前回マウントバツテンが打合せのためロンドンに歸つてゐたことを、繰り返へし述べたまでだと判明した

ソ波兩國間の紛爭については首相の答辯で目立つた主張もなく、保守黨のサー・エドワード・グリツグが解決の急務を說いてイーデンが至急モスクワに赴くやう提言した程度だ、相變らず痛快なのは勞働黨のベヴアンで答辯に反撥して次の通りチヤーチルを扱き下ろしてゐる

ドイツ國民に無條件降伏を要求するのは、心理戰爭の方途としては全く拙劣だ、況んやドイツ本國を分割するなどといふのは呆れ返へつた議論である、流星彈の世の中にロシヤが國境線に賴つて安全保障を圖るとは考へられない、下院における發言について非常に注意しなければならぬとの首相の警告にも同意しかねる

昭和十九年 十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

米國の友人達は英國人が充分判つきり意見を吐かないと慨歎してゐるし、英國人が卒直に所見を開陳しなければソヴエト聯邦が英國人の心理を理解できぬではないか

フランス戰線における英軍と米軍との比較についても可成り議論がでたらしい、APのロンドン電報は次の通り報道してゐる

ジョン・ロヴアースードはフランス戰線で米軍が一番目立つた任務の大半を與へられてプデングの旨いところを獨占してゐるのに、英軍は困難なしかもパツとしない任務ばかり當てがはれてゐるではないか、殊に米兵は最高司令部の許可を得て制服のままでパリを訪問してゐると不滿を洩らした、カニンガム・レードは實情調査のためパリ行きの許可を求めたが許可は下らないと述べたところ、保守黨のアスター夫人が下院議員といふ以外いかなる資格でかかる複雜な問題を調査しようといふのかと反問した、自由黨のラツセル・トーマス博士はかかる質問は徒らに事端を釀すに過ぎない、米國の實業家がパリに行かうが行くまいが英國政府の關知するところではないではないかとたしなめた

西歐洲聯合の結合に着手

英國下院における戰況討議の一挿話に過ぎないが范鑫の警句を借りれば「與に艱難を共にすべく與に安樂を共にすべからず」「デーリー・メール」紙が取上げた米國實業界のパリ進出が豫想以上に英國内に反響を捲き起こしてゐるのではあるまいか

最後に西歐洲聯合案に關する英國政府の動きだチヤーチルは安全保障體制について頻りに愼重論を唱へてゐるのに、英國政府は曾つてスマツツが提案したところに基づき、蘭白兩國並びにノルウエーを加へた西歐洲聯合の結成に乘出した樣子だ、イーデンは九月二十八日の討議で

英國と一定の亡命各政權との間に非公式豫備交涉が英國政府の發意で開始されたと言明したが、「ダーゲンス・ニヘター」紙のロンドン特派員は九月三十日次の觀測を傳へてゐるロンドンの政界、外交界ではイーデン外相今回の聲明は、開戰以來最も說明的だとみてをり、言明の背後に英國の外交政策が久しい間の受け太刀から轉じて、愈々將來の對策に移つた正式の信號をみてとることができる、フランス政府との新たな同盟、西歐洲の民主主義諸國との共同防衛案が英國外交の今後の目標だ、ベルギーオランダ兩國との豫備會談はノルウエー政府との交涉よりも一段と進んでゐるらしい、ロンドンのノルウエー公館筋では右交涉を「意見の相互交換」と呼んでゐるが、白蘭兩國の亡命政權は「非公式措置」といふ表現を用ひてゐる、もつとも共同の外交政策までは進んでをらず、英國政府としても局地的作戰協定を要望してゐるらしい、勿論英國政府は米ソ兩國との連帶を世界政策の基調としてゐるが併行的に西歐洲との連衡を策するわけだ「マンチエスター・ガーデアン」紙も三十日の紙上で、東歐洲においてはソヴエト政府は詳細な休戰協定によつて自國の政策を推進し、大西洋の彼岸においては米國政府はアルゼンチンに對し思ひ切つた壓迫策にでてゐると述べてゐるが同紙のいはうとするところは米ソ兩國と同樣英國政府も必ずしも三國間の一致を待たずに西歐洲における權益擁護のためには獨自の政策を推進せねばならぬといふ點であらう

ルーズヴエルトの胸像を贈呈

(モスクワ五日發)モスクワ駐劄米國大使ハリマンは五日、米ソ武器貸與協定調印記念日に當りスターリン議長を訪問、大統領ルーズヴエルトの胸像を贈呈した

六萬部の英獨辭典紙屑

(リスボン六日發)ロンドン來電=米第一軍附ロイター特派員の報道によれば米軍は歐洲侵攻軍米軍兵士のために六萬部の英獨辭典を用意してゐたが、收錄されてゐる對話の調子があまりに親し過ぎるといふので今回配布を取り止めたといはれる

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

週間特輯

フランス「空位時代」

井上勇

パリは何日に再陷落したか、甚だ明瞭を缺くが反樞軸軍の入城式は八月二十五日に行はれた、その日シヤンゼリゼだつたともいふし、ノツトルダム寺院前だつたともいはれ、あるひはその双方だつたかも知れぬ場所で、ド・ゴールが狙撃されたといふ話が傳へられてゐるわけだが、ドイツ側のパリ撤收發表は二十八日だつた、市中には獨軍撤收後も多少のゲリラ戰があつたらしいので正確に陷落の時間を定めることは至難といふほかはない

反樞軸軍はドイツの撤收振りのあざやかさに釣り込まれてゆるゆるパリ見物をする間もなく、モゼルの線へ、アルベール運河の線へ進擊して行つたので、案外に早くフランスの大部分は、第一線の戰場圈外に立つことになつた、そこで、その後のフランスはどうかといふ話になるが、まづ緒口として九月九日附ロンドン「エコノミスト」所載の「フランスの岐路」といふ記事を取出してみる曰く

共産勢力の滲透

臨時政府(自稱で、當時は英米ともに認めてゐなかつた、ソ聯は彼らが既にフランス國民解放委員會當時から大使を送つてゐたので認めてゐたともいひ得よう—註)はアルジエからパリに移轉した、ド・ゴールはフランス本國で活躍中だつた諸抗戰運動指導者と接觸を開始し、政府を多少改造したが、新らしい顏觸れの政黨代表、乃至はフランス國内における抗戰團體の代表は誰一人、この新内閣には持込まれなかつた、今後再び、一層根本的な改造が行はれるかも知れないが、とまれ、フランス解放の業は、國際情勢の狂瀾怒濤と相俟つて、かのヴイシー政府によりて喧傳された苦心經營の結實たる「國家革命」を、ただの一夜に洗ひ流してしまつた、いはゆるフランス國内軍の仕事は、單に外國侵入軍の掃蕩に向けられたばかりでなく、ペタン、ラヴアルによりて提唱された怪奇な權威制度への打倒にも向けられ、異常な政治的昂奮をもつて、時としては、前もつて外國で準備されてゐた計畫乃至は特定の政治的機能の埒内に押し籠めて置かうとするあらゆる企圖を無視して飛躍した

パリにおける民衆の蜂起は、地下運動の指導者にとつてさへも、意外であつた、パリ民衆の蜂起がなほ續々行はれてゐるころ、すでにこの首都には十四の新聞があらはれ始めた、事件の進行は豫てアルジエで愼重に用意された新聞紙關係法規を凡て蹴飛ばしてしまつた、言論界は、彼らが愼重審議して作製した法規に何らの注意も拂はず、抗戰フランス國民にとつては、何らの命令、妨碍なく直ちに曠里に飛出して、己れの確信するところを披瀝し、己れの計畫案を祖述することは當然であり、これ以上自然なことはないと解された、政黨もまた舞臺に歸つた、パリの新聞界は左翼から右翼までフランス輿論のあらゆる陰翳を反映して遺憾なかつた、政黨と共に勞働諸組合も地下から浮び上つた、しかし政黨の合從連衡の線が戰前と同樣だと推斷するのは間違ひだ、人的構成に重大な變化が齎らされたからである、新らしい指導者が現れ、概して年齡が若く、抗戰の苦難にきたへられはしたが、先輩ほどの政治的經驗には缺けてゐるといふところだ

若い政治家といへば、彼らはまた驚くべきほどその社會觀において急進的である、一寸みには、あらゆる政治運動部面で、社會主義的理想がこの日を待つて一時に唉狂ひでたともみえる、鍵鑰產業の國有化は共產主義者、社會主義者、ド・ゴール派、急進派を問はず、一樣に同じ熱情をもつて提唱された、しかしこの事態の發展を餘りに單純化してみることは誤りである

現在よりも、より屢々これらの要求は、社會主義の實踐としてよりも寧ろ、愛國運動として提唱され來つたものである、產業の所有權剝奪は主義としてよりもむしろ、對獨協調論者所罰の方法として唱導されてゐた、勞働總同盟は早速ドイツへ逃亡した工場主、所有工場をすべて沒收することを提案した

パリ市民の急進傾向は新聞紙の發行部數にも反映して共産堂の「ユマニテ」が先登を切り、發行部數二十萬を誇つてゐる、社會黨の「ポピユレール」は十六萬部を以つてこれに雁行した、他の十二紙を併せた發行部數が十二萬といふ所である

フランス國内軍の徴募に當つても同じ現象が現れた、當初は各政黨を始め、雜多な團體が各々獨立的に募兵してゐたが、共産黨系將校が最も多くの義勇兵をＦＦＩのために糾合し得た、しかしその内政治團體による徴募は禁止されてしまつた

パリにおける政治諸勢力の關係を、そのまま移して地方における政治氣運の指標とすることは確かに間違つてゐるには違ひないが、それにしても積極的對獨抗戰の陣營にあつて左翼が壓倒的だつたことは疑問の餘地がない、しかしこれを以つて革命の夢魔が、解放されたフランスを低迷してゐると結論するのは全然間違つてゐる、ドイツ占領下にあつた時代のフランスの共産黨は、社會革命の黨としてではなく、愛國抗戰運動中、もつとも精力的且つ強靱な分子として行動した、それが共産黨の聲譽をたかめ、フランスの國家利益の熱烈な主張者としての影響力を伸長せしめる結果となつたのである

以上を以つてフランス共産黨が舊來の革命的政策に復歸することはないだらうと考へるのは甚しく當を失してゐる、それと同時に一八七一年のパリ・コムミユーンの經驗を繰返さうとしてゐると考へるのもまた當らない、敢へてフランスといはず歐洲何處においても共産黨は、今度はブルジョア政府に對して、和解不可能な反對黨としてよりも寧ろ、從來社會民主々義聯合によりて演じられた役割に極めて近似した役割を確に演ずるだらうこのことはフランスにおける共産黨勢力の偉大な成長が、フランスの政治生活を内部震蕩の危險に曝らすまでには至らないだらうといふ意味ではない、共産黨はフランス中産階級、農民層に革命の恐怖を掻立てないとは限らない

ゴーリズム

解放されたフランスにおけるゴーリズムの役割は、このより廣き背景に立つて觀察されねばならぬ、フランスの大衆にとつてはゴーリズムは侵略者に對する反抗を單に統合し、表象するものにすぎず、何等明確なる政綱を有しないところに立脚點を持つてゐる、一般がゴーリストを受入れてゐることは、フランス國民が權威的政綱を進んで受入れようとしてゐるといふことを何も意味してゐるわけではない

純粹且つ單純な抗戰運動としてのゴーリズムは既にその光榮あり、記念すべき役割を殆んど終つたといつてよい、問題は今後、ゴーリズムが政黨として轉身し得るだらうか否かにある、ド・ゴールが今、回答を見出さんとしてゐるのはこの設問である、ゴーリズムが政權を保持し得るには他の政治運動とより廣汎な連繫を試みるより他に方法はない、しかしかかる連繫を形成するためには、少くともその權威的理想の一部を放棄するのほかはない、ド・ゴールがアルジエからパリに持歸つた計畫は、現在までのところ大部分は消極的——即ち主として舊い法律の廢棄が主體をなしてゐる

一八七五年の憲法は廢止された、上下院および大統領はあつさりと側路に押除けられた、ド・ゴールは今、國家の元首と政府の首班といふ二役でその間のけじめ甚だ曖昧である、彼はまた元來兩院に屬すべき立法權をも事實上握つてゐる、アルジエに設けられた諮問議會は、それ自體、單なる諮詢機關にすぎないからだ、諸々の政黨がかくのごとくただ一人の人間の手中に異常な權力集中をなすことに同意するか否かはまた甚だ疑問である ド・ゴールは、その行政力を純粹にゴーリストの抗戰にのみ基礎づけ、諸政黨のごときは概ねこれを無視しようと試みるかも知れぬ、ド・ゴールが若しこれを爲さんとすれば、彼は不可避的にゴーリズムの政治運動としての弱點を發見しなくてはならないだらう、臨時政府は小數派政府となり、そのことは直ちに民衆の内に獨裁政治の危惧をば惹き起すであらう

解放されたフランスからの最初の諸報道がフランスの直面するものは單に革命の恐怖か、獨裁政治の恐怖か、二者の内一の選擇以外にないがごとくフランスを描いてゐることは憂鬱であり、且つ人を誤るものに違ひない

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

ド・ゴールはパリ市民によりて、最も親愛なる歡迎を與へられたばかりのところである、彼が享受してゐる人氣、信賴は全く比類を絶するものである、彼が不健全な、且つ危險多き政治の道を辿ることによりて、これまでに苦心獲得した資産をば空に歸せしめるだらうと想像することは、理由なきことであり、また先走つたことであらう

超政黨愛國運動

「エコノミスト」誌は人を脅しておいた後、一寸頭を撫でてよそ事とばかりそつぽを向いてゐるがこの報道の中には多くの示唆を含んでゐることには變りはない、この記事によつてわれわれは「解放」後のフランスに少くとも三つの勢力が、そのヘゲモニーを爭つてゐることを想像できる、その一は共産黨であり、その二は第三共和制の遺産である共産黨を除く舊政黨によりて代表さるる現狀維持派であり、その三は、これ等の勢力の上に、またはその間隙を横斷して、新勢力たらんとするド・ゴールを代表とする超政黨愛國運動である

ではド・ゴールは如何なる政策を提げて「第四共和制フランス」に臨まうとしてゐるか、APパリ電は有力なるフランス抗戰團體聯合は、ド・ゴールが「フランスのジョージ・ワシントン」として第四共和制初代の大統領たるべきことを主張してゐると報じ、この聯合は戰爭の終結し次第、ドイツから政治、戰爭捕虜の歸國を待つて、第四共和制を宣言するだらうといひ、この聯合は「國家解放運動」と呼稱され、何れもパリで刊行された六つのフランスで最も有力な地下新聞を支配する團體を統一したものであると附註してゐる、しかし、その具體的政策が何であるか、ド・ゴールが大統領になり、ペタンの「フランス國家」が四ケ年の短命で中絶して「第四共和制」が生れることを決定したのは政綱以上の大政綱であるかは知らないがそれだけでは少々心細い、「エコノミスト」誌ならずとも消極的であるといはざるを得ない、しかしその消極的な今までの遣り方をみるとなかなかどうして積極的なので驚くが、ド・ゴールの消極的積極施策の二、三を拾つて見ると——

第一にフランス國内軍の、あらゆる中心組織および參謀部の解散と解散を欲しないものはこれをことごとく、野戰正規軍の内に分散包攝せしめることを命じたことである、その意圖は、國内に彼が把握する軍隊に對立する惧れのある、私設軍隊の存在を許すまいとするにあることは勿論だが、これには、早速、國民軍事委員會が强硬に反對した、UPによればこのコミテ・ナショナール・ミリテールは最も有力な抗戰團體であるといふことだ、反對の理由は、「政府の決定は共和國の諸施設の民主的更新の期待を裏切る」ものであり「フランスおよびその聯合國から戰爭の最後の段階において、多數の兵士を剝奪する」ことであり「一度動員を解除し、また再び動員するなどは戰爭繼續のためにフランスが大々的に參加することを不可能にするものだ」といふにある、以後、政府の命令が如何に實行されたか、反對が如何に效果があつたかは殘念ながらわかつてゐない

マドリードの「ヤ」紙アルジエ電は「ド・ゴールが口を酸くしてフランス國民は彼の命令に從ふべきであることを口說いてゐるのは、明らかに今日のフランスに不安と不和とが存在する證據であり、現在フランスの統一を脅かしてゐる諸問題の内、最大の難問はFFIを正規軍の内に包含せしめることである、ド・ゴールにして、短時日の内にフランスの秩序を回復し得ない場合は、激烈な衝突を豫期せねばなるまい、ド・ゴールはフランスがドイツ占領下にあつた日は、國民に對して抵抗を要請し、マキの希望をたきつけてきたが、彼等の使員が終つた今日、それを直ちに捨て去らうとするもまた難い哉」と同情してゐる

ロンドンの「オブザーヴアー」紙パリ特派員はド・ゴールとFFI指導者のこの喧嘩に註解して「臨時政府が今回の措置を取つたのは明らかに、FFIの募兵がつづけば、危險な政治的紛糾を招來すると惧れたためである、第一、フランス國軍の再組織といふことは容易な仕事ではない、今のところド・ゴール軍とFFIとが唯一の、新國軍の母胎たり得るものである、國軍再建は、舊フランス國軍の正規將校の援助なくしては完成されない

しかも、これ等將校の態度はド・ゴールにとつては、少くとも留保的といひ得る、ド・ゴールは今ではジローの或る程度の協力を獲得しようとさへ努めてゐるらしい、舊將校團は、ジローの方へより多くの信頼を持つてゐるからだ」といつてゐる

してみると、ド・ゴールのFFI解散命令にはフランス國軍の再建といふ眞に積極的な大目的も含まれてゐたらしい、それをするにはアルジエでの喧嘩相手で、一度仲間に入れてやがて追出したジロー將軍の協力が必要となつたといふのでは姑息の下がる話であるが、後から說く左翼の攻勢の前には右翼の大同團結の力が必要だとの「大所高所」的いひ譯はある

第二のド・ゴール積極政策は、その撤底果敢な肅清工作である、本家のソ聯から共産黨顧問がはいつてゐるのでなかなか手嚴しい

恐怖時代を髣髴

十月四日パリAP電によればフランス臨時政府陸軍省は、何等の理由を明示せずして五名の陸軍將官を誅首した、元國防省官房主事ウーゼーヌ・ブリドウ、元共和防衞隊長ジヤン・ポール・ペルヌ、元憲兵隊司令官ジヤン・マルタン、元リオン憲兵隊檢察官シヤルル・ピカール、元賞勳局長ジヨルジユ・ブレガールがこれである、ド・ゴールが曾つて「自由のための鬪爭」に不熱心だつた者は陸軍から肅清すると聲明したところを實行したものであらう

十月一日「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙ロンドン電は、有名なルノー工場主ルイ・ルノーの起訴斷罪が決定され、「最も煽情的、最も重大な政治裝判」とならうと報じてゐる、同電によれば

ルノー工場はドイツの利益のために作業した、臨時政府の緊急令によればドイツと協力した諸工場の罪に對して最も嚴重な所斷が行はれることになつてをり、一九三九年九月一日から一九四四年十二月三十一日の間に不法利得した財産はこれを沒收し、沒收された財産の三倍の額の罰金を支拂ふことになつてゐる、ルノー一家にはかかる多額の罰金を支拂ふことは生産繼續と同樣不可能である、その結果はルノー工場は國有化されることになるだらう、現在までのところ、新フランスの社會化政策は北フランスの炭坑國有化に止つてゐるが、炭坑國有は一般から熱狂的に支持され、增炭に拍車をかけるものと期待されてゐる

といふことである、「トリビユーン・ド・ジユネーヴ」紙によれば、FFIのヴイシー占領と同時に、ヴイシー政府の下で働いた數千人の官公史は罷免の上、追つて處罰の決定までヴイシーのホテルに監禁されたといふことであり、軍法會議は連日連夜の開廷で、さながら、フランス大革命恐怖時代の闇黑政治を髣髴させるものがあり、法廷は傍聽人が大入り滿員で、てんで勝手に野次、放言怒號し、被告は發言の機會すら與へられず、數分間の裁判で罪は確定、直ちに刑は執行され、特に死刑の宣告は民衆の歡呼の聲をもつて迎へられると報じてゐる、同じ頃ロイター電はマルセイユで米英軍侵入前、治安維持委員會を組織した民間自警團代表二十名がド・ゴールの軍法會議で一率に死刑を宣告されたと報じてゐる、ルノーの財産沒收などはまだ輕い

デーリー・メールが九月十六日報道するところによれば、臨時政府は休戰條約成立後、直ちにラヴアル前首相、ペタン主席の身柄引渡しを要求するだらうといひ、同じ日、法相エドマントンはヴイシー政府首腦部の裁判のために特別法廷を設置することを提議したと傳へてゐる、エドマントンの言明によれば既に元內相マルセル・ペイルートン、元外相ピエール・エチエンヌ・フランダン、元空相ベルジユレ提督、元宣傳部長テイクシエ・ヴイニヤンクール等ヴイシー政府と一應協力し、ダルランと共にペタン元帥を裏切つてアルジエに逃れた顯官連は、折角の轉向の甲斐もなく、ド・ゴールのひと睨みで一網打盡され、ダルランだけは繰繩の恥を、わずかに「暗殺」によりて逃れたが、餘は悉くアルジエから今やフランス本國に送還され、斷罪の日を待つてゐるといふ

昭和十九年十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

臨時政府により睨まれてゐるのは軍人、政客に止まらない、DNBマドリード電は、ド・ゴールがバチカンに對してパリの大僧正シュアールの罷免を要求したと報じてゐる、シュアールがドイツ軍のパリ占領當時、ドイツと協力したといふのである

以上ド・ゴールのフランス解放後とりつつある積極政策の消極面のみをみてきたが、積極面も少くとも理念の上だけでは存在してゐるやうだ、彼は十月一日、生れ故郷の北佛リールに錦を飾つて鄉黨を前に臨時政府の政策を披露してゐる

「トラスト」の名で呼ばれる産業組合は早や繼續は許されない、フランスは戰前の社會條件に復歸しようとしてゐないことは明白である、國家がフランス帝領の資源を支配しなくてはならない、政府は廣汎な範圍に渉る社會政策を實施するであらう、その最も主要な要點は産業、特に國防産業の大部分の國有化である、國家の資源開發には個人よりも國家の方が一層適任してゐる

戰後は計畫經濟によりて本國及び植民地屬領の資源を最大限に利用し、フランスの全面的再建にとりかかるであらう、フランス共和國は戰前の政治、社會、道德的狀態の再來を許してはならぬ、それらのものがフランス國民を深淵の突端にまで押しやつたのだ、われわれの經濟的義務は、われわれの土地、地下、その植民地屬領にわれわれが有してゐるものを全面的に利用しうるやうにすることである、それをなすには計畫經濟と呼ぶもの以外には方法はない

ド・ゴール政府はユダヤ政權なり

彼の揭げるこれらの政綱が多分に、共産主義的色彩を含みつつ、しかもその政府の構成は次第に右翼化してゐるなど、足取りは必ずしも直線でないところを注目すべきだ、臨時政府が成立直後發表した、ヴイシー政府の猶太排斥諸法令の廢棄なども、一應彼としてはもつともな措置だつたが、「デーリー・ヘラルド」紙パリ特派員の報道によれば、必ずしも國民の人氣に投ぜず、ド・ゴール政府を以つて「猶太人政府」なりとの地下の聲が次第に昂まりつつあり、パリの壁にはドレーフュスの肖像が貼りまはされて「この人を見よ」がしに、凱旋將軍の面をくもらしてゐるといふ、ド・ゴール自身は猶太人ではなかつたと思はれるが、彼の猶太宥和政策はフランスが負けたのはジユウのお蔭だと信じてゐるフランス民衆の大部分には決して人氣はよくない、左翼政府のために右翼と苟合し、自由の理想のために國民感情を無視しなくてはならないなど、若い政治家の苦難の路はなほつづく、政治運動でないゴーリズムが、自ら欲したか、欲しなかつたかは知らず、政治に足を踏み入れて漸く弱點が曝露しはじめたわけだ

ド・ゴール政權が次第に右に押し流されてゐるのは、ただ一に共産黨の積極的攻勢の風に吹きまくられてゐるが故である、一時、アルジエ苦難時代、ソ聯に倚存することによつて、その生命を保ちえたド・ゴールは、そのつつかい棒と同時に共産黨を輸入し、母屋をおびやかされるに至つたわけだ、自らに確乎たる政治理念を有しない、單なるゴーリズム——抗戰意識のみを以つてしては、海千山千の共産黨にかなひつこない、それならば進んで自ら共産黨の中に溶け込むことは、フランス國軍の傳統的保守主義に育てられたド・ゴールの感情が承知しない、共産黨とは益々仲が惡くなるばかりだ、フランス共産黨は一九三六年四月二十六日第三共和制最後の總選擧では百四十九萬二十票をえ、代議士七二、上院議員二を獲得、正黨員三十四萬一千を公稱してゐた大政黨である、下院勢力社會黨の百四十八、急進黨の一〇九に續いて議會に第三黨の地位を占めてゐた

臨時政府に共産黨が勢力を持ちはじめたのは、アルジエのド・ゴール放浪時代、米英への牽制政策として、ソ聯への接近を計り、當時、ヴイシー政府によりて北阿に放遂されてゐた六十數名にのぼる共産黨代議士連をば、諮問會議に參加せしめ解放委員會に共産黨代表を加へたのに起因するがパリに臨時政府開設後の、共産黨の進出は、FFI内の共産黨の實力を背景として、事毎にド・ゴールの出鼻を叩く傾向にあり、FFIの解散令はド・ゴールが共産黨に對する最初の挑戰だつたともいへる

共産黨攻勢喰止めに必死

共産黨は元來が、現在の臨時政府の構成に不滿である、全閣僚二十二といふ總花式尨大な内閣の中に共産黨は僅か二つの席のみしか占めず、諮問會議々員で共産黨政治局員のワルデツク・ロシエの如きは、少くとも更に三名、合計五名の共産黨員を入閣せしむべしと主張してゐる、スペイン戰爭時代バルセロナの立役者だつたアンドレ・マルチーは「臨時政府の主なる椅子は全部、共産黨に引渡すべきであり、少くとも閣員の割當は共産黨に最大多數を與ふべきである、フランス解放の戰ひにおいて、共産黨が最も多く祖國のために戰つたに拘らず、臨時政府に最小數の代表しか參加せしめないのは不當である」と論じてゐる、ド・ゴールはこれら共産黨の攻勢喰止めに必死であるがその戰術として右翼の政客に依存しようとする傾向は、必ずしも、ド・ゴールの政治的基盤の强化にはならない、これ等右翼の政客は悉く「過去」を有し、その過去はフランスの敗戰につながると國民は信じてゐるが故である

ド・ゴールは、新政府の改造に當つて、前上院議長ジヤンヌネー及びヂロー派のジヤキノ、メイエの徒を入閣せしめたが、「バズラー・ナハリヒテン」紙九月十九日の報道によると、右翼も札付きの共和聯盟の首領ルイ・マランもやがて入閣するだらうと報じてゐる、マランの入閣はいまだに實現しないが、もつて臨時政府の傾向だけは察することが出來よう、同じ日の同じ新聞紙は、米英軍占領後のフランスを視察した特派員の報告をのせてゐるが、右によると

フランス國内で共産黨が强力であることは衆知の通りであるが、問題の重大性はそこにはなく他の大部分の抗戰要素が進んで共産黨と協力しようとしてゐる事實にある、舊來、共産黨的色彩濃厚として知られてゐた多くの縣の解放委員會では、共産黨員が絶對多數を占めてゐる例が十中十である、しかし多くの地方では、共産黨員は沈默の協力者として働き、公けの職につくことを回避しようとしてゐるが、フランス人の多くはかかる共産黨の遠慮をば悪い前兆だと解してゐる

九月二十二日の「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙ロンドン電は次の如く報じてゐる

抗戰運動は先づ第一に解放運動であり、政治運動ではなかつた、今後も、政治團體に變貌する徴候はみえない、しかし共産黨は一つの力の要素であり、しかも日に日に伸長してゐる、その有するマキはFFIとは獨立した別箇のものでさへある、現在少くとも二つ——マルセイユとリモージュの放送局は共産黨の手にあり、再刊された「ユマニテ」紙は更に一層共産色を濃厚にしてゐる、ド・ゴール及びその支持者たちは元のままの共和制度、乃至は政黨政治に復歸することは欲せず、共産黨も、その點では彼らと一致してゐるわけだ、フランス國民にとつて、ド・ゴールの名は偉大な表象的價値を有し、特に中産階級に支持者が多く、彼はこれを背景にして强力政府の樹立を目論んでゐる

共産黨とド・ゴール派との軋轢は日に昂つてをり、ド・ゴールは新政府から共産黨員に非らずして、共産黨へ同情的であるとみられる人物を二人まで放逐した、その一人は内相ダスチエであるが、彼はワシントン大使の椅子を蹴つて野に下りること一層いさぎよしとしたやうである、社會黨及び農民層の態度はなほ判然しないものがある

モーリス・トレーズの歸國

ド・ゴールの共産黨への對立意識はFFI解散問題の後は、フランス共黨書記長モーリス・トレーズの歸國問題でさらに尖鋭を加へるにいたつた、トレーズは今次大戰の初期、ダラデイエ内閣の共産黨員狩りの手を逃れてモスクワに亡命し、フランス軍法會議で缺席のまま、敵前脫走罪により死刑を宣告されてゐたが、フランスの解放と共に歸國をド・ゴール政府に申込み、再度まで謝絶された、そして三度目の請願にはモスクワ政府の懇篤な斡旋があり、遂にド・ゴールも斷り切れずトレーズは大手を振つて歸國するに至つた

昭和十九年 十月十二日(木)
第三二〇七號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

「クーリエ・ド・ジュネーヴ」によれば、このことはド・ゴールにとつては「重大なる個人的敗北」だつた、トレーズの歸國と前後してソ聯の軍事使節團がパリに到着した、「ユマニテ」紙はトレーズの歸國に當り、「彼はクレムリンに使ひすることによりて、フランスの抗戰運動の最有力な指導者となつた、彼こそフランスの最善の幹の一人である、彼がモスクワ巡禮の旅を終り、歸國しなくてはならぬことは事情止むを得ないことであるが、また殘念でないこともない」といひ譯してゐるが、少々苦しいいひ譯のやうである、しかしトレーズの歸國が、クレムリンの指示によることは明白であり、彼のフランス本國への出現が、ド・ゴール政府の歩む路——否フランスの、歐洲の歩む路を一層複雜困難にするであらうことは豫見しておいてよいであらう

今日すでに臨時政府の政治の貧困と戰爭のどさくさまぎれに乘じた共産黨は、各工場等の實力占領等によりて着々地盤を固めてをり、いはゆる「パリの帶」地帶の諸工場で共産黨に浚牧され、運營されてゐるものは二、三にして止まらぬと傳へられてゐる、ルノーの工場なども臨時政府によりて「國有化」されると同時に、共産化される危險が多分にあることは、戰前同工場のみで七千五百名の共産黨員を數へてゐたことからも推定される

ゴーリズム對共産黨の爭覇戰はいまだその一歩を踏出したばかりであり、現はれた事實よりも感じられる氣運といつた方が正しいかに思はれる程度のことしか判つてゐない、この二つの大きな動きに挾まれて、昔を今になすよしもがな運動を展開しようとしてゐるのが第三共和制時代の舊政黨であるが、その獨立した行動面のことはなほ判然とせず、僅かにゴーリズムとの關連において動向が示唆されてゐるのみである、ここに再び九月十六日附「エコノミスト」誌所載の「フランスの空位時代」といふ記事を引用しよう

再度の政府改造

ここ一週間内外のうちにド・ゴールは再度その政府を改造した、第一回の改造では多少變更はあつたが、アルジエの解放委員會の構成員が、そのまま大臣となつただけで、政治的に樞要部門はすべてアルジエ・チームの支配下に止めおかれた、この際ド・ゴールは新狀勢に應じて生れた二つの要素を考慮に入れることを忘れてゐた、その第一はフランス國内抗戰運動の指導者たちが持つてゐた、彼らもまた當然、國家の事務處理に決定的發言權を持ちたいといふ無理からぬ欲望であり、その第二は諸政黨の强烈な自己主張である、國民抗戰會議の抗議は再生フランス言論界の大部分からの熱心なる支持を得、ド・ゴールは遂にさる九月九日土曜日、再度その政府を改造するに至つた、彼が中途にして進んで世間の批判をうけ入れ、それを早速に實行したについては二つの結論を引出すことが出來る、卽ちその一はアルジエ解放委員會の顔觸れをそのまま政府としたことに對する一般の失望が强大であり、誤解の餘地のなかつたこと、第二はド・ゴールが案外現實的であり、彼の批判家たちが想像したよりも遙かに老獪な術策家だつたことだ

ド・ゴールは現在の不可避的な混亂狀態の中でフランスを導いて行くためには、廣汎な聯合に基礎をおく政府以外には手がないこと、かかる聯合を實現することによつてのみ、ゴーリズムはその念願する主導的役割を演じ得ることを正解したのだ

新政府の成立は二つの政治行動を隨伴した、第一に論議の的になつてゐたアルジエ時代に構想された新聞紙法はひとまづ撤回された、再び獨立生活に眼醒めた國民が、新聞に對するお役所の指導を甘受するなどは期待し得ぬことだからだ、今一つの政治行動はペタンの「フランス國家」は廢棄され「法律的に共和制は未だ嘗つて存在を停止したことはない」といふド・ゴールの嚴かな宣言である

第三共和制の正統派信奉者たちはこの宣言を一つの勝利と解したかも知れない、しかし勝利と解することは決して眞實には觸れてゐない、法律的に第三共和制が決して存在を停止したことがないとすれば、何故その最後の大統領ルブランはエリゼ宮にかへらないのかといふ問題が起る

フランスの政治の實體は新政府の構成に最も明確に反映してゐる、一見新政府は典型的な第三共和制下の內閣のやうに見える、その基礎は政黨聯合の上に立つてをり「カルテル・ド・ゴーシユ」「人民戰線」の政府と容易に混同しうる、その構成はフランスの政治諸勢力の平均を表示してゐるかにも解される、新內閣の國務大臣としては舊上院の議長ジヤン・ヌネーが入閣してゐる、ジヤンヌネーが上院議長として行動した最後の機會は一九四二年の末、下院議長エリオと連名でその職權によりペタンに勇敢な書簡を送り、ペタンがその憲法上の權力を亂用したことを批難した時であつた、ジヤンヌネーは新政府に國務大臣として入閣を受諾することにより、自働的に上院議長の肩書を放棄してしまつたのだ、彼は新政府にあつて第三共和制と新らしいレジームとの間の橋の役目をしてゐるわけであるが、同時に第三共和制の自己解消を表象してゐるといつてよい、第三共和制の正統性は死滅したが第四共和制の正統性はいまだ生誕してゐない、消え去つたアルジエ大臣の中には內相のダスチエがゐる、その後繼者は社會黨のテイミールである、ここにもド・ゴールの解放フランス國內に漲る急進、左翼氣運に對する現實主義的讓歩がみられる、ダスチエと共に、不運だつた新聞紙法の作者乃至は協同作者だつたボネ、アルジエではド・ゴールの片腕だつたフイリツプも政府を去つた、これらの人物の罷免によりモネ、マシグリ、グルニエ、ル・トロケらその政治的色彩がゴーリストと稱しえぬ人物の閣外放逐に釣合ひが保てたわけである

國民抗戰會議々長であり、新外相であるビドオは基督教民主黨である、メトン、プレヴアン、ピエール・アンリ・テイエトジヤン（情報相）も悉く基督教民主黨員であり、この黨の新政府における勢力は相當なものだ、基督教民主黨員が司法省を支配してゐることは、目下考慮中のフランス政治における決定的審判——肅清を指揮乃至は指導する地位に立つことを意味する、かれらはまた輿論の形成に計り知るをえざる價値ある機關、情報省を支配してゐる

新政府內での嚴密な意味でのゴーリスト派はデ

イエテルムを陸相にすることによつて陸軍を支配してゐる、ド・ゴールがその著「將來の陸軍」の中で表明してゐる見解をもつて時代おくれと解さない限り、彼は陸軍をもつて政治的クーの決定的な用具と解してゐるとしてよい、文部、戰爭捕虜の兩省も純粹ゴーリストの手中にある、歸國する捕虜の感情が來るべき第一回選擧の結果に決定的影響力を持つだらう點からみて、この兩省もまた特に鍵鑰的地位にある

社會黨は內務を押へて行政の混沌と戰ひ、農務省を引受けて農產物の値上りを策せんとしてゐる、大陸の社會黨が聯立內閣で傳統的に掌握する省——郵便電信省はド・ゴール政府においても例に洩れず社會黨の占めるところである、共產黨は航空相、保健相といふ非政治的省をば擔任してゐるが、政府の彼らに對する椅子の割當の過少に不滿を表明してゐる、急進黨はジアコツビによりて食糧省と、マンデス・フランスによりて國家經濟省を受持つてゐる、國家經濟省は新設の省であり各種經濟關係政府機關の活動を調整する役目を持つてゐる、マンデス・フランスは法產業の國有化の澎湃たる要望を前にして愼重にフランスの經濟進路の舵を取るであらう、彼の下には生產相として、勞働組合出のラコストがゐる、藏相の椅子には產業資本家のラペルコが就任した、彼の任命は大產業資本家と對獨協力派とを同一視する見方を排除する計畫的意圖が含まれてゐるやうだ

ド・ゴール派の將來

○新內閣が左翼聯合に近接した構成を持つことは「エコノミスト」誌の解說でもほぼ想像がつくがこれに現れた舊政黨の擡頭が今後どのやうな動向をとるかは材料不足で豫斷が出來ない、いひ得るところは內政の面においてフランスは四分五裂であること、共產黨の進出に對してド・ゴール派がどの程度に戰ひ、且つ勝ち得るかは疑問であること、恐らくは政治理論を有せぬ純粹の愛國抗戰運動に出發したゴーリズムが各政黨分野の內に分散吸收され解消してしまふ公算が日に日に大となりつつあること、しかして今は諸々の勢力、傾向が混沌として渦卷き、歸趨も明白ならず所謂「空位時代」を現出してゐるのであらうこと位である

（本社情報部長）

大正十五年十月廿五日第三種郵便物認可　昭和十九年十月十三日(金)　第三二〇八號

同盟通信 海外電報 (236)

同盟發行人　荻野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

君子は和して同ぜず小人は同して和せずといふが、同せず和せざるものは反樞軸陣營の現狀である、ケベツクにおいてチヤーチルはルーズヴエルトとの間に孵らぬ雛を數へるの愚を敢てし、いはゆるドイツ處分案を審議し今モスクワで更にクレムリンの執權と協議を重ねてゐるらしいが、ドイツ農業國化案を繞つてホワイト・ハウスのお膝下が內訌を始め國務長官ハルの辭職說まで流布されるに至つては、群盜が餌物を前にして喧嘩を始めるのと何等異るところがない、しかし、小人の抗爭のうちに露骨に表明されてゐるのは、「禍根」を一擧に絕つて千載のもとアングロサクソンの世界支配を確立しようとする意圖である、ルーマニア、フインランド兩國と反樞軸陣營との休戰條約を見よ、各々全文二十ケ條大西洋憲章四つの自由との金看板は無條件降伏の方式にすつかり塗りかへられてゐるではないか、抗戰の中途から腰碎けた弱小諸國に對する休戰條件ですら、僅かに獨立の空名を存して現實には隣接する大國の付庸國と化するのが休戰條件の骨子である、今回ブルガリア政府と米英ソ三國間に成立したといふ「豫備的休戰」條件の內容は悉くは詳にしないが米國下院におけるチヤーチルの言明に徵しても、以上の兩國の場合に比して一段と酷烈であらうことはいふまでもない、更に宿敵ドイツ民族に對して反樞軸陣營の企圖するところは領土の分割である、軍事機構の全廢である重工業の抹殺である、農地の細分割である、教育の管理である、勞力の徵用である、果してドイツ國の名目だけでも殘すかどうかさへ疑問だ、ドイツ國民が總力を根こそぎ動員して祖國の護りについてゐる所以である、興亡の岐路に立つて死力を致さねばならぬのは洋の東西に變りはない



【目　次】

勃政府、休戰協定に調印……二三五六
勃軍の全面撤收を要求……〃
波首相モスクワ會談に參加……〃
ス議長、チヤーチル一行を招待……〃
聯盟案に英政府見解を發表……〃
アーヘンを繞る彼我の態勢……二三五七
赤軍クルイ、セゲド占領……〃
洪第一軍の戰果……〃
オランダ沖海戰の獨軍戰果……〃
【反樞軸陣營】
聯盟案影薄し……二三五八
聯盟案要旨……二三五九
【米　國】
支那を工業國に……二三六〇
特使更に重慶へ派遣……〃
對伊融資決定……〃
【ド イ ツ】
モスクワ會談に關し見解表明……〃
【北　阿】
埃新首相對英協調を聲明……〃
【ソ　聯】
國際安全保障は空文……二三六一
ブレトン・ウツヅ會談は失敗……〃
再び法王を攻擊……〃
【ト ル コ】
ソ聯の脅威加重……〃
【特　輯】
フランスを繞る射狼……二三六二—二三六六

ストラスブール聖母寺院大破

（ベルリン十一日發）歐洲最古のカトリツク寺院の一として、その壯麗を誇つてゐたストラスブールのサン・ステフアン寺院及びサンジョン寺院は八月中反樞軸軍のテロ爆擊の犧牲となり大損害をうけたが、最近再び爆擊をうけて殆んど修理不可能なまでに痛めつけられたことが判明した、同時にカルルスルーエの古城、市立劇場も破損したといはれる

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

勃政府休戰協定に調印

(ベルリン十一日發)ベルグラード來電=ブルガリア政府は十一日米蘇ソ三國の休戰條件を受諾、卽日協定に調印した

勃軍の全面撤收を要求

(モスクワ十一日發)タス通信社は十一日夜次の通り報道した

ブルガリア政府は米英ソ三國の豫備的休戰條項を受諾した、豫備條件の要點は次の通り

一、ギリシヤ、ユーゴースラヴイア兩國駐屯のブリガリア軍は今後二週間以內に全面撤收すること

一、撤收を管理するため米英兩國政府が代表をブルガリア國に派遣、兩國代表はソヴエト代表を委員長として統合軍事使節を構成する

波首相モスクワ會談に參加

(ストツクホルム十一日發)スターリン議長とチヤーチルは亡命ポーランド政權首相ミコライチクをモスクワ會談に參加させることに決定した模樣でロンドンからのロイター電報によれば、チヤーチルがモスクワに到着してから四十八時間後の十一日に招請電を受け取つたミコライチクは、ポーランド國民會議議長スタニスラフ・グラブスター外相タデウス・ロメルを帶同モスクワに出發する準備を急遽進めてゐると傳へられる、ミコライチクが去る八月末にスターリン議長の手許に送達したソ波和協方式に關する覺書に對する回答にはまだ接してゐないが、ソヴエト政府はこの提案に悉く反對してゐる譯ではなく、結局ソ波兩國の紛爭は亡命政權が一九二一年の憲法を認めるか否かに懸つてゐるとみられてゐる、亡命政權は十一日夜緊急閣議を開催、モスクワでどんな協定に到達しようともミコライチクの方針に全的支持を與へる旨決議したといはれるが、亡命政權自身が以上の措置で認めてゐるやうにミコライチクは今回のモスクワ訪問でスターリン議長の要求に最後の讓歩を行ふ以外方途はないとみられてゐる、但しミコライチクはワルシワ蜂起でドイツ軍の捕虜となつたポーランド祖國軍司令官ボールの幕僚長タボール將軍をも連れて行く模樣だから、ワルシヤワ蜂起問題を繞つて一揉めは免れまい

ス議長、チヤーチル一行を招待

(ストツクホルム十一日發)モスクワ來電によれば、スターリン議長は十一日チヤーチル並びにイーデンの一行を午餐會に招待し席上「米英ソ三國は戰後も同樣緊密に協力しなければならない、また反樞軸諸國は平和と平和の維持のため備へるところがなければならぬ、ダンバートン・オークス會議の業績と米英兩國の力强い戰爭努力は賞讃に値する」と述べたのに對しチヤーチルは長々と今次戰爭におけるソ聯の寄與を賞讃したといはれる

聯盟案に英政府、見解を發表

(ストツクホルム十一日發)ロンドン來電=英國自治領相クランボーンは十一日の上院でダンバートン・オークス會談の結論たる反樞軸聯盟案に對する英國政府の見解を次の通り發表した

新聯盟案は國際安全保障の責任を能力ある國家の双肩に委ねたものである、これは如何なる平和維持機構にも不可缺な事項であつて、戰爭を防止するには急速にして有效な行動が必要だからである、新聯盟案によれば國際安全機構には有效な「齒」が與へられてゐるが、この「齒」のなかつたことが舊國際聯盟失敗のそもそもの原因であつた、ある侵略國が暴力政策に乘り出さんとする時、國際的な武力によつてかかる企圖は必ず粉碎されることを事前に認識する程度に强力な實力を與へてこそ世界の平和は初めて維持出來るのであつて、われわれはこの事實を過去の苦い經驗によつて漸く知ることが出來た新聯盟案に對するクランボーンの見解に對しては上院議員の間にも相當の反對論があり、勞働黨のウインターはこれを代表して次の通り述べた

新聯盟案によると發言權を持つのは大國のみである、大國は國際機構の運用に關して自己の判斷を下し得るが、小國は許されずしかも弱小國は大國の判斷によつて下された決定をそのまま受取らなければならぬ地位におかれる、小國がこれに對して不滿を持つのは當然ではないか

昭和十九年 十月十三日(金)
第三二〇八號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

アーヘンを繞る彼我の態勢

米軍、アーヘン包圍

＝獨軍當局十一日言明＝

アーヘンの戰鬪は依然些かも熾烈さを減ずることなく繼續されてゐる、數週間にわたる高價な戰鬪において米軍は一寸刻みにアーヘン市に接近し今や殆んど完全に同市を包圍するに至つた、アーヘンのドイツ軍司令官は敵の降伏勸告を拒絶し、現在米軍はアーヘン地區の北翼に攻撃を加へ同方面では激戰が展開されてゐる、アーヘンにおけるドイツ軍の頑强な抵抗のため、米軍の極めて有力な部隊がアーヘン戰線に引きつけられてをり、これがため他の戰線におけるドイツ軍の戰鬪は容易となつてゐる、しかしアーヘン市そのものは最早廢墟に過ぎず、軍事的重要性はない

現在戰鬪はアーヘン東北方五粁のヴエルラウラン、ハイデ附近で熾烈に展開され、ストルベルグではドイツ軍は白兵戰の後ジークフリート線の特火點多數を奪回した、更にアーヘン北方八粁のバルデンベルグでもドイツ軍は米軍を撃退した

攻防戰正に最高潮

(リスボン十一日發)要衝アーヘンを繞る攻防戰はドイツ軍の降伏勸告拒否によつて愈々最後の段階に突入、目下同市の內外で寡勢のドイツ軍と米軍との間に凄絶極まりなき死鬪が展開されてゐるといはれる、十日米軍はアーヘン包圍態勢を整へた上で同市のドイツ軍司令官に最後通牒を突きつけ降伏を要求したが、ドイツ軍はこれに應ぜず、十日午前十時五十分最後通牒の期限が切れると同時に米軍は市周邊に砲列を布いた巨砲陣と急降下爆撃機隊とをもつて猛攻を開始しいはれる、アーヘン市內のドイツ軍は極めて少數の親衛隊から成つてゐる樣子だが、陸、空からする米軍の攻勢に對して一步も退かず必死の防戰を續け、米軍の有力部隊を同市周邊に引きつけてゐるといはれ、戰前十六萬五千といはれたアーヘン市民も、これまでに避難したもの之除き、大半戰ふドイツ軍將兵と共に市內に踏み止まり、米軍砲兵隊の百五粍臼砲をはじめ八吋の巨砲等によつて文字通り廢墟と化したアーヘン市を守り拔かうとしてゐるといはれる

獨軍援隊到着

(リスボン十一日發)前線報道によれば目下米軍の集中砲爆撃を浴びて勇戰中のドイツ軍アーヘン守備隊は十一日更に東方から增援隊を得たといはれる

赤軍クルイ、セゲド占領

(モスクワ十一日發)赤軍最高司令官スターリン元帥は十一日夜の軍布告をもつてマリノフスキー元帥麾下の第二ウクライナ戰線軍が同日ハンガリア領のクルイ、セゲド兩市を占領した旨發表した

洪第一軍の戰果

(ベルリン十一日發)DNB前線報道＝カルパチヤ山脈前面の森林地帶における過去二ケ月間の戰鬪でハンガリア第一軍は赤軍に次の損害を與へた

△戰死五千以上、捕虜數百

△迫撃砲二十九門、車輛百二十

オランダ沖海戰の獨軍戰果

(ベルリン十日發)DNBの軍事記者エリツヒ・ハンセン大佐はオランダ沖の海戰について十日次の通り報道してゐる

ドイツ哨戒艇隊は八日夜オランダ沖で英快速艇隊に攻撃を加へ、激戰の後英快速艇五隻を撃沈二隻を撃破した、ドイツ哨戒艇一隻は魚雷を受けて沈沒したが、乘組員大部分は救助された、更にドイツ哨戒艇隊は九日午前二時から一時間に亘りヘルダー港沖合で英快速艇七隻に攻撃を加へ、うち二隻を撃沈、二隻を撃破した、ドイツ軍には損害がなかつた

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

聯盟案影薄し

(リスボン十日發)反樞軸聯盟案に對する反響を綜合するに先づ中立國及び反樞軸陣營内諸小國の反對が最も目立ち、これに續いては當事國たる米英兩國においてさへ議會、言論界その他一般が意外に冷淡な態度を示してゐることが注目される

小國の反對

新聯盟案の最大の特徴は實力的背景を缺いた舊國際聯盟失敗の經驗に鑑みてこれに武力使用の後楯を與へた點にあり、しかも世界各國の合議制による議論倒れの弊に陷ることを避けるため大國によつて組織される安全保障理事會に絕對的な權力を與へたところにある、卽ち聯盟内には理事會の他に總會、國際司法裁判所、書記局等の機關が設置されることになつてゐるが、これ等には殆んど實行力なく單なる勸告機關に過ぎず、あらゆる具體的權力は理事會のみに集中されてゐる、結局新聯盟は常任理事國たる大國の完全な獨占機關と化することがあまりにも明らかであり、聯盟案は總會制度を設置することによつて「主權平等」を標榜してゐるが、これは全くの名目に過ぎない、小國の不滿はこの點に集中されてゐる、聯盟案は米英ソ重慶四國内で最後の仕上げを了した上反樞軸全體會議に付議されることとなつてゐるが、小國の不滿はこれを機會として爆發すべくソ聯、重慶はいざ知らず、表面的には少く共小國の利益を尊重するかの態度を示してゐる米英兩國はここに進退兩難の窮地に陷るだらう

米英對ソ聯の對立

聯盟案を發表した四國の共同聲明は重大な箇所について四國間にいまだ意見不一致の點あることを明確に述べてゐる、而して米英兩國の傀儡的存在たる重慶政權に獨自の主張がある筈なく、この場合に意見對立あるのは米英對ソ聯だが、しかもその對立點は新聯盟案の核心ともいふべき理事會の投票方式にあり、米英側は四常任理事國のいづれかが紛爭當事國となつた場合にはその國は投票權なきことを主張するに對してソ聯は斷乎として投票權の行使を主張して讓歩してゐない、この投票權の行使問題はこれが武力の發動を前提とする以上、新聯盟機構上極めて重大且つ機微を要する點であり、ルーズヴエルトは米英ソ三國會談がお流れに終つたことをごまかすため「會談の九割までは成功したがあと一割が未解決として殘つた」と言明してゐるが、この點に關する米英ソの意見が一致しない限り九割の成功も無意味で新聯盟案の全部がお流れとなつてしまふ可能性なしとしない、米英兩國の當事者もこの點の重大性は十分に認めてをり、聯盟案に最終的仕上を加へるためにルーズヴエルト、チヤーチル、スターリン、蔣介石の會談說が傳へられるのもこれを物語るものであつて、更にチヤーチル今回のモスクワ訪問の一使命もこの點についてスターリン議長との間に話をまとめんとするにあると報道されてゐる

米英の消極的態度

新聯盟案の發起人は米英兩國であり、從つて兩國共に大勢的には聯盟案を支持してゐるが、なほ且つこの間にあつて極めて消極的な態度を示してゐる勢力も意外に強いのは注目すべく、たとへば九日夜のロンドンからのラジオ放送も新聯盟案に對して次の如き見解を放送してゐる

われわれが忘れてはならぬことは新聯盟案が全く單なる提案に過ぎないといふ點である、現在までのところ如何なる國も未だこの提案を承認してゐない、提案は先づ關係各國政府に移牒され修正が加へられ各國共に異議なしといふことになつて、それから更に反樞軸諸國の全體會議に附議されなければならぬ新聯盟案が舊聯盟體制と最も異なる點は武力行使を背景としてゐるところにあるが、武力行使の實行機關たる安全保障理事會がその機能を發揮する手續については未だ何らの決定も行はれてゐない、米國の動向は更に具體的であり、卽ちこの場合には議會の承認を得なければならぬといふ難問題が控へてゐる、議會内には米國が他國の國際紛爭にその武力を使用することに對しては絕對反對を唱へる有力な勢力のあることは周知の事實であり舊聯盟にさへ米國の參加することを反對した米國議會が、それにより更に積極的な新聯盟への參加を斷乎拒否することは十分あり得ることとみてよからう、

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

聯盟案要旨

(リスボン九日發)ワシントン來電＝九日發表された反樞軸聯盟案の大要次の通り

名稱

新國際安全保障機構は「反樞軸聯盟」と稱す

組織及び機能

聯盟は次の主要組織より成る

一、聯盟總會＝總會は聯盟加盟國全部の代表より成る軍縮及び軍備統制問題を含み、平和を維持するための各國協力の一般的原則を審議する權限がある、各國代表は、あらゆる平和愛好國の主權平等の原則に從つて行動す、如何なる問題にせよ實力を伴ふ行動を必要とする問題は總て安全保障理事會に附託する、總會は理事會の非常任理事國代表六名を選出すべく、第一回の選擧において選出される代表の任期は、三國代表が一年、他の三國の代表は二年とす、總會における重要な決定は、三分の二以上の多數を必要とし、その他の問題は單に過半數をもつて決定す、總會は一年に一回定期的に召集される

一、安全保障理事會＝理事會の員數は十一ケ國とし、うち五ケ國は常任理事國、六ケ國は非常任理事國とする、常任理事國は米國、英國、ソヴエト聯邦、重慶、これに適當な時期にフランスが加はるであらう、非常任理事國は二年の任期をもつて總會により選出される、理事會は、侵略防止に關する全權をもち、聯盟加盟國全員の意向を確かめる必要なく、陸海空兵力の使用を含む行動に出ることを得る、理事會は常設とし、理事國は常にその代表を聯盟本部に駐劄せしめる

一、經濟社會理事會＝總會により選出される十八ケ國代表より成る本理事會の主要任務は、國際經濟、福祉、文化各機關の活動を統合調整するにあり、安全保障理事會と協力して各種の勸告を行ふ

一、國際司法裁判所＝ヘーグ所在の國際司法裁判所を再建するか或ひは全く新らしい機構を創設するか今後の協議に委ねる

一、書記局＝事務總長は聯盟の最高事務官とし、彼は如何なる問題にせよ國際平和を脅かす恐れありと認めたときは、これを安全保障理事會に提起する權限を有す

紛爭處理方法

紛爭當事國は先づ交涉、調停その他のあらゆる平和的方法をもつて自ら紛爭の解決に努力す、當事國の努力にも拘らず紛爭が解決しない場合には安全保障理事會が始めてこの解決に乘り出すが、紛爭調停に乘出すか否かを決定するものは理事會自身とする、理事會は紛爭が正當な論據に立つと認めた場合は、これを國際司法裁判所に移牒し、しからざる場合には武力を伴はない如何なる方法が紛爭を解決し得るやを決定する、しかしてその武力を伴はない解決方法のうちには外交的、經濟的壓迫、陸運、海運、航空郵便、電信、無電、その他一切の運輸通信の完全なる停止及び外交經濟關係の斷絕等を含む、聯盟加盟國は右に關し、理事會により勸告された解決方法を實行に移す義務あり

以上の方法をもつてもなほかつ紛爭の解決が不可能な場合は、理事會は最後の手段として聯盟加盟國の武力を行使する手段を考究すべく陸海空軍兵力を、理事會が必要と見做す方法により動員する權限を有す、理事會をして斯る武力行使を可能ならしめるため全聯盟加盟國は理事會の要求に應じ平和維持に必要な武力を直に提供し得るやう相互に特別協定を締結する、この協定は動員さるべき兵力の量及び種類並びに軍事施設の種類を規定するものとす、武力行使を實際に指導する機關としては軍事委員會を設置し、この機關は米國、英國、ソヴエト聯邦、重慶の各參謀部の代表より成る、安全保障理事會が成立するまでの暫定的處置として米、英、ソ、重慶四國は平和維持のための共同動作につき協議を行ふであらう

伊裏切艦隊太平洋作戰に參加

(チユーリツヒ十日發)スイス電報通信社のキヤツツー電報によれば裏切イタリア政權は所屬艦艇が現在太平洋作戰に參加してゐる旨九日發表したと傳へらる

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米國】

支那を工業國に

(リスボン十日發)シカゴ來電=大統領特使ドナルド・ネルソンおよび重慶軍事使節團長商震は十日の双十節に當りシカゴで開催された重慶救濟委員會大會席上次の通り演說した

ネルソン=支那大陸の戰況は重慶にとつて極めて重大ではあるが絶望的ではない、支那の戰況如何は重慶國民ばかりの關心事でなく米國民の頭上にも至大な影響を及ぼすことを米國民は知らなければならない、余は重慶に赴いた際に如何にして一層多くの軍需資材を重慶に送り込むべきかを具體的に研究した、今後たとへ少量でも米國の工業施設が重慶に到達すれば重慶軍の戰力は著しく增大しよう、米國の對蔣援助工作は日本といふ共同の敵擊破だけを唯一の目的としてゐるのでない、米國は重慶が戰後日本に代つて東亞の工業國として生れ出るやう援助しなければならぬ、重慶の工業化こそ東亞平和の礎石たるのみでなく世界の經濟的繁榮に多大の寄與をなすであらう

商震=重慶が對日抗戰を開始して以來既に七年だが重慶は最後まで戰ひ拔くだらう、今次大戰で最も戰爭の慘禍を受けたのは重慶であり、從つてその再建も困難なるべく米國からも大きな援助を受けなければなるまい、一方日本も最後まで戰ふ決意を固めてゐる、反樞軸軍がたとへ日本々土を占領したとて日本の抗戰を停止させることは出來まい、何故なら日本はその工業施設を滿洲や北支に移し飽くまで戰を繼續するだらうからである

特使更に重慶へ派遣

(リスボン十日發)ワシントン來電=民主黨下院議員マイク・マンスフイールドは十日次の通り發表した

余は大統領の特使として近く重慶を訪問することとなつた、重慶に對する米國の武器貸與方法について具體的報告を大統領に齎らすことが出來よう、重慶を援助することは米國自身のためだ、重慶が强くなれば支那大陸における反樞軸軍の戰爭參加はそれだけ少くてすみ、したがつて米國將兵の命もそれだけ助かることになるからだ

對伊融資決定

(リスボン十日發)ワシントン來電=大統領ルーズヴエルトは十日次の通り發表した

米國政府はイタリアのボノミ政權に對し外國爲替を購入する資金として一定額の米弗を融資することとなつた、この額はイタリアにある米國軍が發行したリラ貨と同額たるべくボノミ政權が緊急民需物資を米國で購入する費用に充當されよう

【ドイツ】

モスクワ會談に關し見解表明

(ベルリン十日發)外務當局は十日正午の記者團會見席上モスクワ會談に關し次のごとき見解を表明した

チヤーチル今回の訪ソ目的は英ソ提携を飽くまでも維持せんとするにあり、彼はスターリン議長と一戰を交へる用意は全くなく唯々諾々と各種の讓歩をするとみられる、かかる役廻りは殊に選擧を前にしたルーズヴエルトの好むところでなく、彼の不參加の理由もここにある、チヤーチルが讓歩する限り歐洲諸問題に關し意見一致するのは當然で、チヤーチルは羅、勃兩國を完全にソ聯に委ねることに同意するだらう、また亡命ポーランド政權を見捨てたごとくサロニカを含むギリシヤ北部をもスターリンの意志に委すこととならう、次にダーダネルス海峽問題が如何に取扱はれるかだが、スターリン議長は今日ではも早以前のやうに寬容ではなからう

【北阿】

埃新首相對英協調を聲明

(リスボン十日發)カイロ來電=エジプト新首相アーメツド・マヘール・パシヤは九日夜國王ファルーク一世に書簡を送り次の通り述べた

エジプトの政策は英國との協調と民主主義の遵守にある、政府はまたアラブ諸國との提携を强化する從來の政策を踏襲する

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【ソ　聯】

國際安全保障は空文

（ストツクホルム十日發）政府機關紙イズヴエスチヤは十日ダンバートン・オークス會談を論評して次の通り述べてゐる

國際安全を維持するための強力かつ有效な機關の創設問題はダンバートン・オークス會談では遂に解決をみることができなかつた、從つて同會談の一切の提案は一片の空文と化し、以上の根本前提が解決されぬ限りいかなる計畫も無益である、但しこの前提條件の達成も主要國間に眞の協調が行はれぬならば不可能だ

ブレトン・ウツヅ會談は失敗

（モスクワ十日發）「戰爭と勞働階級」誌は十月一日號に經濟學博士リユビモフ氏の「ブレトン・ウツヅ會議の後」と題する論說を揭載してゐるが、同氏はブレトン・ウツヅ會談は失敗だと結論、次の通り論じてゐる

× × ×

米國財界は米紙上でダンバートン・オークス會談を盛んに批評し、戰後の金融活動に制限を加へようとする意圖に反對を唱へ、上院議員タフトの如きは米國議會は國際通貨基金案を否決するであらうと稱してゐる、タフトによれば戰後の諸困難は通貨基金では解決出來ないといふことだが米英兩國自身の貿易のため戰後海外市場が必要なことはいふまでもない、何故なれば米英兩國の生產力は國內の需要よりも遙かに大であり、從つて平時よりも遙かに大規模な海外輸出を必要とするからである、米國は戰後の失業問題、不況、恐慌の脅威等を解決する必要上購買國に信用を供與するため速かに有效適切な手段を採らなければならない

また英國は米國以上にあらゆる輸入國に信用を保證してやる必要に迫られてゐる、しかるにブレトン・ウツヅ會談では國際基金加盟國の通貨政策に關する諸問題は遂に解決をみなかつた、米國は一般に安定した金本位制を維持することを希望してゐるが、米國の金準備高は二億弗を超えるから通貨流通には十分過ぎる程十分である、英國はあらゆる國の通貨は金本位制に基かねばならぬと主張してゐるが、英國の支拂勘定にとつて戰後の輸出は絕對に必要だ、その結果英國は通貨を凍結して競爭力を强化しようと圖つてゐる、英紙及びロンドン放送はブレトン・ウツヅの決定が通貨及び金融政策を取扱ふ適當な機關の設置を保證するだけだから各國は通貨基金及び國際銀行組織以外に通商條約を締結する權利を有してゐなければならぬと主張してゐる、爲替相場の安定、國際信用組織の發展、一部銀行及び實業家による一方的影響の阻止、米英ソ三國の財政協力等は戰後經濟の改善にとつて不可缺の要因だが、ブレトン・ウツヅの決議は事態を極めて紛糾化することも考慮されねばならない

再び法王を攻撃

（ストツクホルム九日發）暫くヴアチカン攻撃の鋒を收めてゐたソ聯誌「戰爭と勞働階級」は十月一日號で再び法王廳の「親獨外交政策」なるものの攻撃を開始して次の通り論じてゐる

羅馬法王はヒトラー總統の政權掌握の尻押しをしたが、ヴアチカンの外交政策が第二次世界大戰の原因史に不吉な陰影を投じてゐることはあまりにも明瞭だ、一九三九年五月に行はれた法王の演說は英佛獨伊波五ケ國の軍事同盟を提唱したものであつたが、それはドイツに對抗する國際協定の成立を危惧したからにほかならない最近ではドイツの地步が危險になるにつれて法王廳の「和平奔走」が愈々活潑化してゐるがこれではカトリツク教會の主要關心事が「外交政策」にあるといふ印象を受けぬわけにはゆかない

【トルコ】

ソ聯の脅威加重

（マドリード十日發）赤軍のバルカン方面進出に伴ひトルコ政府は重大脅威を受けるに至つたが、「アリバ」紙アンカラ特電は十日次の通り報道してゐる

赤軍は今やトルコの歐洲國境に迫るに伴ひソヴエト政府はソ土國境方面にも重大關心を示すに至つた、ソヴエト政府が最近アルメニア共和國に特に外務人民委員部を創設したことは以上のことを示唆してゐるが、更にトルコ政府當局はソヴエト政府の領土的野心がトルコ東部のトラブゾン地方にまで及んでゐる旨公然と言明してゐる

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

フランスを繞る豺狼

—フランス空位時代(續)—

井上勇

臨時政府の存在

九月二十四日のリスボン電の傳へるところによれば、フランス臨時政府は英・米兩國に對して、臨時政府をフランスの正統政府として承認することを「強硬」に要求する通牒を發出したといはれ外相ビドオもその事實を間接的に認めたといはれる、元來臨時政府はアルジエーの國民解放委員會がパリに移轉して改名したにすぎず、英米側からいへば法律的に解放委員會と臨時政府の區別はないのであつて、委員會を正式政府として全面的に承認してゐるのはソ聯のみである、英米の臨時政府に對する立場は、アルジエー委員會を一時的の便法として解放されたフランス領土の主權代表者として認めたに過ぎず、フランス本國が解放された場合の委員會の地位については何らの約束もしてゐない

アルジエー時代、ド・ゴールとダルラン、ダルランの不可解な暗殺後はド・ゴールとジローの對立確執、この後のジローの放逐、ド・ゴールの獨裁確立に至るまでの波瀾多き解放委員會の歴史は一面英米の確執であり、政策の對立であつたが、双方ともフランスの將來に關しては、フランス本國の解放後別箇に考慮する暗默の諒解のもとに、外面的には英國の勝利、内面實質的にはソ聯の意に油揚げをさらはれた形において、表面を糊塗して妥協が成立し今日に至つたわけだ、英國と米國がフランスの將來のために何ものを用意してゐるかは明らかでないが、飽に大半のフランス本國が解放された今日、ド・ゴール政權が本問題の根本的解決を要求しようとすることには無理ならぬ點がある

國は破れてもなほ歐洲の中原に廣大な山河を擁してゐるフランスは、已れを除けものにして米・英・ソ三國が、戰後歐洲の處理案の審議をすすめつつあることにも不安を禁じ得ない、理論好きで饒舌なフランス言論界が、政府の尻押しのもとにこの問題に囂々の叫びをあげるのも當り前であらう

ありていにいへば英米と雖も、ド・ゴール政府を「事實上」の政府としては承認してゐないわけではない、三國軍票協定などもそのいい例であるが、それだけではド・ゴールは不服なのである、十月四日、國民抗戰會議(コンセイユ・ナショナル・ド・ラ・レジスタンス)は聲明を發し「ド・ゴール政府がいまだ聯合國諸政府によつて承認されてゐないといふことは不愉快なる驚きである」とのべたが、これは彼等の眞情を吐露したものであらう、國民抗戰會議は同日、聯合國による卽時臨時政府正式承認の要求決議をしたが、承認する意志があれば卽日にでも承認し得る立場と行掛りにある英米が、おいそれと承認をしさうにもないのにはそれ相當の理由がある、第一、彼等はド・ゴールの政治力を未知數としてゐる、この若い軍人でフランスが果して治まるかといふ疑問がある第二に過去の不愉快なるド・ゴールの策謀に臍を噛んだ苦い經驗がある、第三に、そして最も重大な理由としてフランスの植民地の處理について、「承認」をバーゲンしようとする畫策を持つてゐる

聯合國ならぬフランス

英米軍がフランスに上陸以來のフランスの地位といふものは、聯合國にとつては極めて「曖昧」なものであり、これを判然させることは上記の理由から一寸困るのである、フランスは反樞軸國にとつては決して「聯合國」ではない、その證據にあらゆる重大會議はフランスの參加なくして行はれてゐる、聯合國側からいへば、フランスには第一、共に戰つてゐるフランス軍なるものが「法律的」には存在しないのである、それはフランス人の兵隊はゐる、しかし彼等は小部隊として、英米軍將校の指揮下に戰つてゐるのであつて、實質は傭兵と異らないと少くも英米側は主張する

フランス人が最も侮辱を感じてゐる問題の一つはフランスには聯合國最高指揮官の許可なくしては外國人記者の入國が許されず、必然的に英米人の記者のみがフランスを世界に告げる任務を專斷しかも彼らが書く記事は嚴重なアイゼンハウアーの檢閲を經ずしては國外に輸出は出來ない、フランス國內は國內で、政府は國際政治に口出しすることは嚴重に差止められてゐる、英米側からいへばフランスもまた單なる占領地であるからにはそれが當り前だといふのであらう、フランス國民からいへばそれでは三ケ月前ラヴアルの政府があつた頃と何ら變らない、ドイツに代るに英米が、ラヴアルに代るにド・ゴールがきたといふこと以外得るところは何ものもないではないかと考へるのである

焦慮の中に運ばれる獨處理案

臨時政府がいら立つのは特に戰後のドイツ處理案である、フランス本國の內政も大切であるが、ドイツの處理如何はフランスの生命的問題でありドイツの處理なくしては、フランスの內政はないとまで彼らは考へる、それをロンドンの歐洲諮問委員會邊りで、英・米・ソ三國のみで審議し決定するのは怪しからぬといふのである、外相ビドオは二十三日、ロンドンの「サンデー・タイムズ」記者との會見で

フランスはドイツの占領に全面的に參加することを要求する、勿論聯合國がドイツに設立するといふ軍事占領行政機關にも、三大國と同樣の資格で參加を求めるつもりだ

と述べてゐる、ドイツの占領といふ假定の上に立つたドイツ處理案——しかも實施權のない、ロンドン歐洲諮問會の案がどれだけの價値があるかは暫らく問はないとして、英・米側ではフランスをして、オランダ、ベルギー、チエツコスロヴアキヤ、ポーランドなみには、ドイツ處理問題に干與(イタリア處理についても同樣ギリシヤ、ユーゴースラヴイアなみに)させてもよいが、最高決定權は英米ソ三國で握つておくといふ肚であるらしい、それではフランスは不服なのである

西歐洲に高遠な外交政策を企圖

フランスとしてはドイツ處理については、三大國なみ、否それ以上に有力な發言權を地理的に、歷史的に有するとの主張であり、單にドイツの問題のみならず、西歐洲の處理について高遠なる理想を抱いてゐる、それについて十月一日の「スヴエンスカ・ダグブラデツト」のロンドン電の傳へるところは次の通りだ

目下パリではフランスの將來とるべき外交政策について政界、經濟界の有力者間に興味ある討議がつづけられてゐる、その結果、フランスの新しい外交政策が生れてくるものと期待してよいと思ふが、フランスは今後、從來のフランス外交政策の基調をなしてゐた中歐の群小諸國の保護者をもつて任ずる役割をやめようとするのではないかと解される、一部保守主義者の間には異論があるが、大體バルト諸國、バルカン諸國に對してはソ聯の支配的勢力を進んで承認しようといふに傾いてゐる、勿論フランスは小國の保護者、友人の地位を全く捨て去らうといふのではなくその方向を大西洋に向けようといふのだ、つまりベルギー、オランダ、デンマークノールウエー、殊に英國との間に强靱な紐帶を作り、ゆくゆくはこれにポルトガル、スペインを參加させようといふのである、その場合ルール、ラインランドの地域は少くとも經濟的には西歐洲國家群に連絡せしめねばならぬと主張する、しかしてポーランドとフランスは英米勢力とソ聯勢力との間の紐帶の役割をつとめねばならない

この話は極めて結構であるが、「スヴエンスカ・ダグブラデツト」の記者が指摘してゐるやうに、フランスは、かかる高遠な外交政策の樹立の前に「先づその內政問題を解決し、國內の安定を確保」しなくてはならず、それは「極めて困難な事業」なのだ、他人の世話を燒く前に手前のことを考へろといふのが英米の肚である

英米はフランスをもつて己の勢力範圍と考へてゐる、ソ聯はフランスが共產化して、ソ聯の陣營にころがり込むことは、自分の知つたことではないといふ肚であらう

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

國内の紛糾は三大國の思ふ壺

チャーチルがフランス敗戰の直後、英佛合邦案を提出して英國のために戰ふフランス人は自動的に英國人にしたらよからうといつたことがあるが當時、フランス人は、これをもつてフランス國民を英國の屬領視するものだと憤慨した、由來フランス人は米國人に對しては「田舍者」と輕蔑しつつも多少の好感を有するに反し、英國人の紳士顏を鼻持ちならぬものと考へてゐる傾向がある、幸か不幸かフランス人は英國人とならないですんだが、知らぬ間に英國から屬領視される立場のみは頂戴することになつた

共産黨はフランス人の對英反感を利用して、その反感をソ聯への友情に變化させようと懸命である、それに第三共和制以來の問題である政教分離政策は、いまや偉大なる教訓をソ聯に得てヴアチカンの教權をばクレムリンの殿堂にすりかへやうとする機運が相當に地下にはびこり始めてゐる、赤い花の咲く溫床は、戰後の疲弊といふ肥料を得て用意萬端ととのつてゐるわけだ

ド・ゴールは「切つても切れぬ」英國との惡緣と多少色目を使つた覺えのないこともないソ聯の深情の間に挾まれて右顧左眄してゐるかたちである、もがけばもがく程、彼の立場の石は崩れてしまふ、元來彼が踏まへてゐる土臺石が多すぎるのである、ひとつの石の踏み方が强ければ他の石がばらばらに離れて落ちる、十指に餘るどころでなく數十を越す政黨、抗戰團體がおのおの自己を主張して、一體どこからどこまでが境界なのかも分明でない、互ひが互ひと嫉視反目して、解放三ケ月、何ひとつ具體的な成果を擧げてゐないド・ゴール政府が、もつて、英米の好餌と解されるのも無理はなく、反樞軸三大國にとつてはフランス國内が紛糾すればするだけ思ふ壺であるといつてもよからう

フラン貨のインフレと商賣軍人

米國がド・ゴールとの協定を無視して、弗・フランの換貨率を現行の五十法から七十五法に引下げやうとしてゐるとの噂も、アメリカ側にいはせれば、フラン貨のインフレーションで、公定二百法の磅が闇値段で四百法も五百法もしてゐる今日弗換貨率の引下げは當然だといふのであらうが、フランスの混亂を更に永引かすための一工作といへなくもない、フラン貨のインフレは元をただせば英米にも大いに責任があるのだ

インフレで想起するのは、占領直後からフランスにはいる米國商人の激增ぶりで、英國ではアメリカばかりが甘い汁を吸ふのは怪しからぬと憤慨してゐる向きもあるやうだが、軍人の制服を着てアイゼンハウアーの許可證を振りかざし大手を振つてフランスに入國し、さつさと軍服を脫いで商人にはやがはりする米國商人の早業は、査證權をアイゼンハヴアーに押へられてゐる限り、そしてアイゼンハヴアーが「かかる事實はない」と頑張るかぎり英國としては如何ともなし難い、その上事實は英國軍人も、米國軍人と同樣、戰爭の合間には(または商賣の合間の戰爭かも知れぬが)しきりに稼いでゐるといはれ、十月六日の英國下院で外相イーデンは「そんな噂は事實の裏付けがない」と苦しい辯解をしてゐる位だ

かかる商賣軍人の出現に驚いたのは、米英軍當局よりもフランス財務當局で、早速九月十六日「今後、外國との取引は政府の獨占とする、アメリカがその差押へてゐるフランス資金十五億金フランの凍結を解除しない限り、フランスは爲替決濟が不可能だ」からだと米國政府に通告した、在米フランス商業會議所會頭ギドは、米國に遠慮しながら「その通告は知つてゐるが、外國貿易はフランスの利益である、一體フランス政府の何處のたれが自由な外國貿易の復活に反對してゐるのかわけがわからない」と聲明したが、ことのありやうはここにも英米の侵略に對するフランスの反撥が見られるのである

佛の共産化とブリット事件

英米の占領地フランスの將來について、特にその共産化の惧れについて、英米が重大な關心を持つてゐることはいはゆるブリット事件でも明らかに看取される、ことの起りは前駐ソ、駐佛大使ウイリアム・ブリットが九月上旬の「タイム」誌に發表した「ローマからみた世界」といふ記事であるが、その大要を紹介すると次の通りだ

英國はその百四十億弗の借金と、空に歸せんとしてゐる世界各地への投資とをもつてしては到底ソ聯に對抗することも、歐洲の再建に經濟的

援助をすることも出來ない、米國がソ聯に對して、歐洲の諸國家の獨立承認の確約をとりつけずして、武器貸與法の利益を均霑せしめたのは重大な過失だつた、英米軍が歐洲から撤退した即日歐洲はボルシエヴイズムの餌食になるだらう、ソ聯は民主主義政府に對する友人の假面の下にエストニア、リスアニア、ポーランドに共産主義テラーを實施し、ルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、チエツコスロヴアキアを同じ悲運に導かうとしてゐる、もし、ソ聯が、ハプスブルグ王朝を復興せしめようといふ英國の企圖を挫折せしめるに成功すれば、オーストリヤイタリアもまた同樣の憂目に會ふであらう、最後の希望は英國案の歐洲聯盟であり「私用財産と神なき共産主義の危險」を確信するローマ法王のもつ影響力のみである、西歐民主々義諸國は西部ドイツと協力し、對ソ戰爭を出來るだけ早く開始する必要がある

鬱勃と昂まるソ聯への危惧

かかるブリツトの見解がどの程度にワシントン官邊の意見を代表するかは明らかでないが、英米兩國が、保守主義の樞軸としてカトリツク教會を利用し、共産主義の西歐進出を喰止めるため、凡ゆる手段を講じてゐることは、反樞軸軍のローマ入城に相前後して、ヴアチカンにスペルマン、テーラーの輩を派遣したことによつても明らかである、反樞軸國軍がベルリンに設置しようとしてゐると傳へられる中央軍政機關の顧問として英のマーフイー、米のカークパトリツクの呼び聲が高いのも萬更無意味でない、二人とも熱心なカトリツク信者であると稱する者すらある、そのカークパトリツクは九月、マドリードで英國大使ホアと會見してゐるらしいが、そのホアもまた、カトリツク信者ではないかと臆説は盡きない

ブリツトの記事は、その內容よりもこれに對して反撃したソ聯紙「プラヴダ」の武者振りのすさまじさによつて一層値打ちを昂めた嫌ひがあるが「プラヴダ」紙はブリツトを評して「腐つたスパイ」と酷評した、米國紙のこれに對する意見は概してブリツトの出過ぎをたしなめるに一致し、ソ聯の憤激をなだめるに急であつたが、大部分の米國人がソ聯の現在のごとき歐亞に跨がる支配的勢力の前途に不安を抱いてゐることは事實であり、ブリツトの正直な發言が米國人の內心の聲の一部を代表してゐないとはいひ切れない

ブリツトはフランス叛軍の指揮官タツシニーに傭はれてフランス陸軍少佐となり、米第七軍との連絡事務に當つてゐる筈であるが、彼がフランス國內に見る共產禍の危惧は、タツシニーの軍と共產系抗戰軍の關係の尖銳化の實情により、一層現實味を帶びて、この正直者をおびやかしてゐることであらう、ヴイシー攻略の共產抗戰軍と始めて衝突を演じたのはタツシニーの軍だつた

「承認」をバーゲンする英米の肚

英米がド・ゴール政府の政治力の薄弱を種にして、その承認をバーゲンしようと試みてゐることは前述の通りであるが、ド・ゴールの方はまた不承認を理由にして、英米のフランス植民地支配の慾望をば蹴ることも出來る立場にゐることは事實である

九月六日の「ガゼツト・ローザンヌ」は米佛關係を論じて次の如くいつてゐる

フランス人はアメリカが北アフリカ、特にモロツコ、佛領西アフリカを領有乃至は少くとも經濟的に支配しようとの慾望を抱いてゐるとの報道に關心を持ち不安を感じてゐる、弗と機關銃とによつて武裝されたかかる米國の帝國主義的傾向は、現在カサブランカ、ダカール、デイエゴ・シュアレス等の純然たるフランス領土においてフランスの政治的特權が米國のために制約されてゐる事實によつても確認し得る、戰爭となれば眞の愛國者と卑怯者との區別は瞭然であるが、戰爭によらずして金でもつて腐敗させ忍び込まうといふ假面を着た征服の方をフランス人は一層怖れてゐる、アメリカが經濟的獨裁權を振つてフランス領植民地を獲得し、または租借しやうと計畫してゐるとの噂はしきりにフランス國內に傳へられ、深い不安を植付けてゐるが、これを肯定することも否定することも彼らには出來ない、今の交通狀態では現地について調査することが不可能だからだ

昭和十九年十月十三日(金)
第三二〇八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

米國のかかる術策が眞實に行はれてゐるとすれば、それが戰爭完遂のため、作戰に必要なためとフランス人にどうして考へ得よう、フランス人が戰爭が濟んだ曉、再び享受しようとしてゐるフランスの基本的權益を米國が尊重してゐるとどうして考へ得よう、この點に關しては責任ある地位からは何の解明も與へられず、依然たる沈默が守られ、それがまたフランス人の猜疑心を深め米佛關係を毒してゐる

「ガゼツト・ド・ロンザンヌ」のいふ通り、米國の佛領北アフリカ植民地獲得工作は眞疑のほども判然せぬ單なる噂であらうか、この點についてロンドンの「ニュース・ウイーク」誌は九月「アフリカのフランス基地を戰後も引續き米國が使用することに關する米佛伊間の交涉はいまだ何等の進展も示してゐない」と示唆に富んだ報道をしてゐるが、ある意味ではフランス人以上に英國の方がこの問題には關心を有してゐるのである

結　論

以上僅かな材料を羅列して、フランスを繞る國際葛藤の斷面を覗いてみたが、要約すれば、次のやうな結論がつく

第一　ド・ゴールの臨時政府は紛糾する國內の諸條件を打開して秩序を確立するに今まで殆んど無力に近く、徒らに破壞に急にして建設面においては何等の成果をも擧げ得てゐない、その原因の主なるものは諸政黨と諸抗戰團體の對立抗爭にあり、特に共產分子の反ド・ゴール傾向が一層事態の收拾を困難にしてゐる、ド・ゴール派の立場からいへば臨時政權の基礎の脆弱は、聯合諸國がその正統政府であることを承認してくれないところに重大な原因があると解してゐる、特に歐洲の戰後處理の問題について英・米・ソ三國間には、着着として具體案が整備されつつあるかにみえるのに對して、フランスは何等の發言權を有してをらず、それはフランス國民をして一層不安ならしめド・ゴール政府の無力を證明する證據となりつつある、ここにおいて、ド・ゴール政府は國內にその生命を保つためにも、國際的に生命を確保する必要にせまられてゐる

第二　ソ聯のフランスに對する立場はアルジエー時代から截然として決定してゐる、ド・ゴール政權を正統なフランス政府として承認する、爾餘のことは、問題の生ずる毎に交涉によつて解決しやうといふのである、フランス共產黨はフランスの國內政黨であり、その活動についてはソ聯は何ら責任を持つべき筋合ひではない、フランスが赤化すると否とはフランス國民の意志に基くものであり、ソ聯のあづかり知らぬところであるといふにつきよう

第三　アメリカの立場は複雜である、アメリカはフランスに左翼政權が生れることは、イギリスと共に好まない、出來ることならば、ド・ゴールよりも、より健實な實力のある政權をフランスに樹立しておき度い、北阿においてはイギリスのねばりとド・ゴールの術策にかかつて折角繰出したジローをば曝しものにしたが、今度は愼重に米國の恩を賣り得る、出來れば一層保守的な政府をフランスに持ち度い、急ぐには及ばぬ、それが出來ねばド・ゴールを能ふ限り焦れさせて、北阿でも何でも米國の希望するものを手に入れた上で、それと交換的にド・ゴールを承認してもよい、そのためには一方ド・ゴールに代るべき人物の發見につとめると共に、出來るだけ承認をおくらせてフランスの事態の發展を見てゐようといふのである

第四　英國に至つては、フランスに共產政權が成立することは歐洲の「赤色防疫線」が一擧にドイツを飛越してドーヴアー海峽に移ることで、それは我慢がならないことアメリカ以上である、同時に北阿のフランス植民地がそのままアメリカのみの專有物となることは座視出來ない、そこでドゴールを出來るだけ曳きづつてこれを「英國流」に仕立て直さうとする、アメリカとド・ゴール政權との間にいざこざが起る度に、斡旋役を引受けてきたのもそのためである

第五　かかる「友邦」の矛盾する意圖を十分に知つてド・ゴールは、その手綱を適當にさばくことによつてフランスの立場とともに、自己の立場をば有利に展開しようと試みてゐる、この綱渡りを美事に成功したならば、ド・ゴールは正に國際政治舞臺上の一級の人物として及第するわけであるが、果してどんなものか

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月十四日(土)　第三二〇九號

同盟通信

海外電報

(237)

發行人　萩野伊八　東京都麴町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

「歐洲の大半と幾多古い歴史ある國々が倒れようとも、われらはたじろかず屈せず最後まで戰はう、フランスにおいて戰はう、海上において戰はう、いよいよ確信を固め益々空軍兵力を增強して戰はう、代償は如何にあらうともわれらはわれらの島を守らう、われらは海邊において、上陸地點において野に街に丘に戰はう、斷じて降伏せず神の御名において新世界の黎明が訪れるまで抗戰を續けよう」

ダンケルク敗退後英首相チヤーチルが下院に戰況を報告した演說の一齣だ、英軍の生きて還へるもの三十三萬五千、しかも兵員數は近代戰において必ずしも兵力を構成しない、顧みて國內に裝備兵力僅かに一個師に過ぎぬ慘狀にも拘らず、傲岸不屈の老首相は烈々たる鬪志を愛國の熱辯に盛つて國民を蹶起させた、敵ながら天晴れではないか

世界の焦点

米軍が大擧して臺灣琉球に來寇す、恐らくスプルーアンス少將の第五十七機動部隊を根幹とする太平洋艦隊の主力であらう、再びチヤーチルの表現を藉りれば、工場船隊と病院休養船隊とを含む「兵團化」(troopicalisation)した浮べる要塞群に違ひない、しかし「凡そ先づ戰地に處し敵を待つ者は佚、後れて戰地に處し敵に趨く者は勞す」物量の及ばざるを憂ふる勿れ、米軍は孫子が不磨の鐵案を無視し、好んで「死地」に入らうとしてゐるのではないか、ダンケルク敗戰の當時、英軍の兵力は裝備師團一個師、空軍兵力において獨軍に對し四對一の劣勢にあり、僅かに「保全艦隊」(Fleet in being)を唯一の楯と賴んでゐたに拘らず、チヤーチルはダンケルク上空の戰ひに比べ、「海外からの攻擊に對しこの島の上空を防衛するに當つて有利なことは如何ばかりであらうか」と豪語した、臺灣上空の空中戰はすでに「佚を以て勞を待つ」戰ひの片鱗を示したではないか

【目　次】

ソ波紛爭解決を樂觀……二三六七
ルーズヴエルト言明を避く……〃
重慶政權批判の雰圍氣……二三六八
尨大な救濟資金を要求……〃
ルントシテツト元帥の布告……〃
征服者として獨國民に臨まん……〃
中南米の團結を强調……〃
【米　國】
對日戰の困難增大を强調……二三六九
小麥輸出四國協定……〃
副大統領候補の野望演說……〃
陸軍の機種整理案……〃
視資會にアルゼンチンを除外……〃
黑人水兵の叛亂事件……二三七〇
機械工組合總罷業か……〃
造船工罷業……〃
將兵の五分の四は失業せん……〃
西海岸の軍需生產……〃
商船隊勢力……二三七一
造船高現況……〃
ハリマン報告に歸國か……〃
【米　洲】
キユーバ新內閣……〃
チリ大統領休養……〃
【英　國】
英ソ勞働組合會議閉會……〃
「ロツキンガム」號喪失……〃
【濠　洲】
ソ聯との科學連絡强化……〃
濠、新西蘭航空會議……〃
【東南歐】
勃休戰條件の內容……二三七二
勃、ユーゴー接近……〃
【フランス】
パリで共產黨デモ……〃
【イベリア】
佛西國境事件起る……〃
國境不穩つづく……〃
【北　歐】
芬監視委員首相と會見……〃
【ソ　聯】
チトーも會談參加……〃
波、解放委員會代表も參加……二三七三
【重　慶】
援助過少を指摘……〃
スチルウエル救援を呼號……〃
大型トラツク三百餘臺重慶へ……〃
對日作戰縱更か……〃
【印　度】
英政務次官印緬戰線視察……〃
【軍事情報】
ロケット機の支配を豫言……〃
【資　料】
英國の社會保險法案……二三七四―二三七六
マーシヤルの一般軍事訓練法……二三七六

昭和十九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

ソ波紛爭解決を樂觀

(ストツクホルム十二日發)ルブリン政權代表が十一日モスクワに乘り込んだのに踵を接してミコライチクが到着した結果、今回のモスクワ會談の主要議題がポーランド問題の解決にあることは明瞭となつたが、スターリン、チヤーチル、ミコライチク、ベルートの四者が一堂に會するのは今回が始めてであるため、米英兩國新聞界はカトウイン森の慘劇以來縺れたソ波紛爭も今回の交涉を最後としてチヤーチルが調停に成功するだらうといふ樂觀的見解に傾いてゐるやうだ、モスクワ來電によれば英ソ波三者の豫備會談にはモスクワ駐劄米國大使ハリマンも參加すると傳へられるが、亡命ポーランド政權側代表は到着の際AP記者の質問に答へて「われわれは希望を抱いてモスクワに來た」と言明したところからみても、ロンドンの亡命政權が今回の交涉を最後の機會と考へてゐることは明瞭で、ロイター政治記者も以上の樂觀的見解に立ち、二日次の通り報じてゐる

ミコライチクが豫想通り愈々モスクワ會談に直接參加することとなつた結果、英國政界はソ波紛爭も今回の會談を機會に幕切れとならういふ希望を抱かせられるに至つてゐる、確聞するにチヤーチルはスターリン議長との豫備交涉で英國はポーランドに對する一九三九年の誓約を遵守する意思を明かにしたといはれるが、ソ波紛爭を通じてソヴエト政府もルブリン政權もミコライチク個人を引き入れて、ルブリン政權の首班に据ゑるといふ提案に明確に反對してゐないことも樂觀材料の一つとみることが出來よう、もつとも最近のソスンコフスキー聲明事件とワルシヤワ蜂起軍の降伏により、ソ波紛爭は解決の途を閉されたと誤解した向もあつたが、ミコライチクはロンドンの亡命政權が反民主々義的憲法に縛られてゐる事實を率直に認め、民主々義ポーランドの確立を志向し政策としてゐた位であつたのだ、但し彼は今回のモスクワ訪問において亡命政權の盟友を見棄て、大統領ラチキエヴイツチの顏に後脚で砂を掛けてまで、惡意に滿ちたリブリン政權に自己の運命を託しようとは考へてゐまい

またチヤーチルも歐洲戰勃發以來正統のポーランド政府として存續してきたミコライチク政權を袖にして、成り上り者のルブリン政權を支持することは、戰爭目的に合致しないことをスターリン議長に率直に申し入れたと解される、ルブリン政權がロンドンの亡命政權や後任ポーランド軍司令官ボールに毒ついてゐるにも拘らずソスンコフスキーを罷免したことは、ミコライチク政權が反ソ反動分子の一掃を企圖したことを完全に裏書するものだ、問題は反ソ派を陰で尻押すラチキエヴイツチ大統領の人物と權限だが、恐らくミコライチクは大統領が一九三五年の憲法の規定する獨裁權を揮はぬことをスターリン議長に確言し、ロンドン、ルブリン兩政權を打つて一丸とする民主々義政權の樹立に贊意を表し、いづれはピウスズキー憲法を廢して、一九二一年の憲法に復歸することを公約するであらう

ルーズヴエルト言明を避く

(リスボン十二日發)ワシントンからのUP電報によれば、米國在住六百萬のポーランド人を代表する米國ポーランド人會議の代表九名は十二日白堊館にルーズヴエルトを訪問、ポーランド分割に反對してミコライチク政權を支持するやう要請したが、ルーズヴエルトは言質を採られることを惧れて次のやうな抽象的言辭を並べ、代表團を煙に捲いたと傳へられる

余は全世界の輿論がポーランドを再興させるばかりでなく、平和を代表する强力な國家として存在させようといふ目的を支持するものと確信する、但し余は平和を愛好するポーランドといふことを特に强調したい、新生ポーランドが平和の支柱となることは極めて重要である

またルーズヴエルトは、ワルシヤワ蜂起問題に關する感想を求められたが、詳しいことはまだわかつてゐないからと稱して逃げたといはれる

昭和九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

重慶政權批判の雰圍氣

(ストツクホルム十二日發)双十節の演説で蔣介石は反樞軸各國からの援助に全然言及せず重慶政權に對する米國内の批判に沈默の抗議を提出したが、「スヴエンスカ・ダグブラデツド」紙のニユーヨーク特電は重慶政權に對する米國政府筋最近の動向を傳へ十二日次の通り報道してゐる

日本軍最近の軍事行動により蔣介石の立場が著しく弱體化するに至つたといふ重慶からの情報は米國政府筋でも正鵠を得てゐるとみられてゐるが、結局延安政權が重慶政權にとつて替り、蔣介石が追ひ出されるのではないかとの懸念が濃い

双十節に當り米國大統領ルーズヴエルトは蔣介石に對し祝電を寄せたがワシントン來電によれば十二日に至りホワイト・ハウスが蔣介石からの返電を特に發表しUPのワシントン電報の如き

ルーズヴエルトは蔣介石から反樞軸軍の共同敵國の「最終的崩壞」を期し最後まで頑張る旨の新らしい保證を得たと鬼の首でもとつたやうに報道してゐる

尨大救濟資金を要求

(リスボン十二日發)ワシントン來電=重慶政權アンラ(反樞軸救濟復興會議)代表蔣廷黻は十一日アンラに對し、重慶の復興再建資金として總額九億四千五百萬弗の尨大な救濟費を要求した、アンラ當局は右要求に對して未だ回答を發してゐないが、重慶政權の要求額はアンラが現在持つ資金の半額にも達する巨額であり、到底その要求を容れることは出來ないとの見解をとつてゐる

ルントシユテツト元帥布告

(ベルリン十二日發)ドイツ西方軍司令官ルントシユテツト元帥は十二日西部戰線の全ドイツ軍將兵に次の布告を發した

諸子は反樞軸軍をドイツ本土の關門で膠着させたが、敵は間もなく大規模な新攻勢を開始するであらう、しかし諸子の不屈の抗戰によりドイツ本土内に突入しようといふ反樞軸軍の企圖は必ずや失敗するであらう

征服者として獨國民に臨まん

(リスボン十二日發)パリ來電=歐洲侵攻反樞軸軍總司令官アイゼンハウアーは十二日パリにおいて新聞記者團と會見次の聲明を發表した

反樞軸軍の前途にはまだ困難な戰鬪が控へてゐるが、終局の勝利は確實である、ドイツ人との間には親愛感の如きはあり得ない、われわれは征服者としてドイツに侵入すべく、必要な公的關係を除いてはドイツ人との接觸はあり得ないアイゼンハウアーは更に次の通り述べた

ナチ政權の下に訓練されたドイツ國民は最後まで死物狂ひの抵抗を試みるであらう、戰線の延長に伴ひ反樞軸軍の補給は次第に困難を加へつつあり、從つて反樞軸軍大攻勢には時として、中だるみの生ずることもあるかも知れない、しかし反樞軸軍各指揮官はいづれもドイツ軍に休息の暇を與へず、天候及び地勢の如何に拘らずベルリンを占領し、ドイツを徹底的に擊破するまでその進擊をやめない固い決意を持つてゐる

中南米の團結を強調
—米大統領放送—

(リスボン十二日發)ワシントン來電=米國大統領ルーズヴエルトは十二日のコロンブス日にあたり中南米諸國に對し演説を放送したが、要旨次の通り

米洲諸國の團結はただ一國の例外を除き固く維持されてゐる、米洲諸國を結ぶものは善隣の精神であり、この精神は今後も强く維持されなければならぬ、反樞軸諸國は目下世界平和維持の國際機構を計畫してゐるが、この機構内において米洲連帶組織は重大な役割を果さなければならぬ

昭和十九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米國】

對日戰の困難增大を强調

(リスボン十一日發)ワシントン來電=海軍次官バードは十一日の演說でつぎの通り述べた

歐洲戰域でいかなる事態が起らうとも、米國は太平洋において困難な戰を行はなければならずこの戰域においては米國軍は今漸く日本軍の主力と接觸し始めたに過ぎない、米國軍が日本に接近するに從ひその補給線は益々伸びるに反し日本は比較的狹少な面積にその兵力を集結し、更にその船舶、飛行機はいづれも本國の基地から活動することができる、米海軍の潛水艦が日本の輸送船隊に損害を與へたことは事實だが、日本軍が後退するに伴ひ、その補給線が短縮されるので、日本は少い艦隊をもつて十分前線の補給をなし得るやうにならう、日本とその原料補給地との間を遮斷しさへすれば日本の戰力は崩壞するだらうとの樂觀論は禁物である、何故なら日本の經濟的基礎は依然として日本本土、滿洲、北支におかれてゐるからだ

小麥輸出四國協定

(リスボン十一日發)ニューヨーク來電=農務長官ウイツカードは十日キヤンサス・シテイで次の通り發表した

米國、カナダ、濠洲、アルゼンチンの四世界主要小麥生產國は今回戰後の小麥輸出量につき協定を結んだ、右協定により米國は年生產額約四億五千萬ブツシエルの十六パーセント、卽ちほぼ七千二百萬ブツシエルを輸出することとならう、今後更に輸出價格についても協定を結ぶ筈である

副大統領候補の野望演說

(リスボン十一日發)ニューヨーク來電=共和黨副大統領候補ブリツカーは十一日ワシントン州ブレマートンにおける演說で次の通り述べた

余は米國軍が今次戰爭中に獲得した海外各地の基地を舊領有諸國に返還することには反對である、米國將兵の多くがこれ等の基地を占領するために血を流したのであり、米國が戰後にこれを領有するのは當然だ、しかもこれは決して帝國主義ではない、何故ならばこれらの軍事基地は米國防衞のため必要であるばかりか、米國が世界平和を維持する責任を果す爲にも不可缺であるからだ

陸軍の機種整理案

(リスボン十一日發)ワシントンからのAP電報は歐洲戰爭終結直後における米國陸軍の航空機生產計畫に關し次の通り報じてゐる

最終的決定ではないが陸軍の計畫によれば陸軍現用機二十種の半分は歐洲戰爭終結後も依然生產され、別に新型機三種の生產を擴張して、他の十種はそれぞれ減產することになつてゐる、新型機三種とは驚異的な性能を約束する戰鬪機二種と、軍隊輸送機として使用し得る一種だ、戰鬪機の方はまだ秘密に附せられてゐるが、特にその一種は軍部並びに產業界において大きな關心の的となつてをり、その性能は從來の如何なる航空機をも凌駕するといはれてゐる、輸送機は先月處女飛行を行つた晝期的設計の双發機ラエアチヤイルドC82だ、全備重量は五萬封度で三千五百哩の航續距離を有するといはれる、歐洲戰勝利の後も現在の生產計畫を續ける十種の中にはコンソリデーテツド・ヴアルナーB32超重爆も含まれ、この十種の先頭に擧げられてゐるのは現在四巨大工場で大量生產されてゐるボーイングB29「超空の要塞」並びにその小型の兄貴分B17「空の要塞」である

祝賀會にアルゼンチンを除外

(リスボン十日發)ワシントン來電=大統領秘書アーリーは十日次の通り發表した

十二日のコロンブス・デーに白聖館では祝賀會が催され、米國政府は米洲全國に對してその代表をこの祝賀會に列席せしめるやう招請狀を發したが、アルゼンチンのみを除外した、これは現在米亞兩國間には國交關係が存在しないからである、なほ大統領はこの際中南米諸國に向け簡單なラジオ放送を行ふことになつてゐる

昭和十九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

黒人水兵の叛亂事件

(リスボン十日發)週刊雜誌「タイム」は「メーヤ島における叛亂事件」と題し次の通り報じてゐる

米國海軍史前例なき叛亂事件が今週サンフランシスコ灣のエルバ・ブエナ島の軍法會議で審理されてゐる、被告は五十名の米海軍水兵で全部黒人だが判決は多分死刑を宣告することとならう、叛亂事件はポート・シカゴで二隻の彈藥輸送船が爆發し三百二十七名もの死者を出した事件の直後に起り、八月某日一隻の海軍輸送船がメーヤ島にある海軍彈藥貯藏所に彈藥を積載すべく到着した、海軍當局は直ちに百五名の黒人水兵を召集して彈藥積込作業に當らさようとしたが、これらの水兵は全部ポート・シカゴの爆發の際に恐しい目にあつて來た連中ばかりだつたので十一名を除いては全部がこの作業に從事することを拒否した、同地の司令官が說得したがきかず續いて軍隊附き宣教師まで出動して漸く二十一名が命令に從つただけだつた、海軍當局は別の黒人兵を召集したが、これは作業場に到着する前に全部逃亡してしまひ三度目に召集した水兵はバスで現場に到着したが、これまた八名を除いては全部作業を拒絶した、最後には遂に第十二海軍區司令官カールトン・ライトまでが現場に急行して嚴重な命令を下したが、結局五十名は最後までこの命令に從ふことを拒絶した、この五十名は直ちに逮捕され現在軍法會議で審理されてゐる

機械工組合總罷業か

(リスボン十一日發)ニューヨーク來電=クリーヴランドの黒鉛、靑銅會社の機機工は一ケ月以上にわたり罷業を續け、同社工場は既に政府によつて接收されてゐるが、米國機械工教育協議會書記マシュー・スミスは十一日デトロイトクリーヴランド、トレド三地區の同協會所屬勞働者六萬八千は十二日午前十時を期し同情罷業として總罷業を敢行するに決定したと發表した、總罷業が行はれれば右三域の六十四工場が作業停止のやむなきに至るべく、これにより就業不能となる勞働者數は二十萬に上ると推定されるが、總罷業決行の發表に陸軍次官パターソンは直ちに聲明を發し

この際における總罷業は前線にある米國將兵の背後へ匕首をもつて突き刺すに等しいと言明、罷業彈壓の强硬態度を示してゐる

造船工罷業

(リスボン十日發)クウインシー(マサチユーセツツ州)來電=ベスレヘム鐵鋼會社のクウインシー造船所勞働者七千五百名はかねて會社側と賃金問題に關し交涉を續けてゐたが會社側の提案に不服を唱へ九日午後罷業を開始した、右罷業により航空母艦並びに巡洋艦の建艦は重大支障を蒙るに至り、海軍當局は極力罷業を阻止しようと試みたが、勞働者側は斷乎これを拒絶した

將兵の五分の四は失業せん

(リスボン十一日發)ニューヨーク來電=産業別組合會議長マレーは十一日ニューヨークにおける演說で次の通り述べた

議會は歸還將兵の失業防止法を可決したが、この法律が如何に有效に運用されようとも結局五人の歸還將兵につき僅か一人の職業を保障するに過ぎない、かくて歸還將兵を始め米國の勞働階級は戰後における彼等の地位を保障するためには是が非でも勞働團體の活動に俟たなければならぬこととならう

西海岸の軍需生産

(リスボン十一日發)ワシントン來電=海軍長官フオレスタルは十一日次の通り發表したとへ歐洲戰が終了しても海軍の軍需生産計畫に關する限りカリフオルニア州では對日戰が終るまではこれに削減の加へられるやうなことはない

一方陸軍航空本部當局も同日次の通り聲明した

陸軍は歐洲戰終了後十八ケ月間の飛行機生産計畫をすでに樹ててゐる、この計畫によれば太平洋岸の航空機工業は歐洲戰終了後も繁忙を極めるべく失業者を出すやうなことはない

昭和十九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

商船隊勢力　(リスボン十日發)ニューヨーク來電＝海軍委員長ランドは九日ニューヨークで開催された全國外國貿易大會の席上で日獨兩國海運剝奪案を發表したが、更に米國船隊の勢力について次の通り述べた
米國の商船隊勢力は今や世界最大である、リバティ型船だけでも二千三百隻を突破し、その他の船舶も數百隻に達してゐる、一方熟練した海員の數は十六萬にも達し、更に數百の商船會社がある

造船高現況　(リスボン十一日發)ワシントン來電＝海事委員會は十一日米國の造船情況につき次の通り發表した
一、九月中の造船高は百二十四隻、百十八萬五千九百九十七重量トンであつた、八月の造船高に比しトン數の增加は僅少であつたが、快速船が大いに增加した、快速船六十五隻のうち、三十四隻は攻撃用特殊舟艇を含み、陸海軍に引渡された
一、本年一月以降の造船高は一千二百三十三隻一千二百二十四萬五千五百八十三トンである
一、開戰以來の造船高は三千八百八十四隻、三千九百六十六萬六千百十六トンに達した

ハリマン報告に歸國か　(リスボン十一日發)ロンドン來電によればモスクワ駐劄米國大使アヴエリル・ハリマンはモスクワ會談が終了次第報告のため歸國するだらうといはれる、ハリマンは歸途トルコに立寄り、恐らくアンカラ駐劄米國大使スタインハートと同道ワシントンへ向ふものと見られてゐる

【米　洲】

キューバ新内閣　(リスボン十一日發)ハヴアナ來電によれば新任大統領ラモン・グラウ・サンマルチンは十日組閣を完了、正式に大統領に就任したといはれる、新内閣の主なる閣僚左の通り
國務長官　フエリツクス・チフエンテス
内務長官　エトムンド・レテイノス
財務長官　マヌエル・フエルナンデス

チリ大統領休養　(リスボン十一日發)サンチヤゴ來電によれば、チリ大統領アントニオ・リオスは健康上の理由により約一ケ月間政務を離れ、内相アルフオンゾ・キンタナが同期間副大統領の資格で大統領代理をつとめることとなつたと傳へられる

【英　國】

英ソ勞働組合會議閉會　(ストツクホルム九日發)ロンドン來電＝ソ聯勞働組合中央協議會並びに英國勞働組合會議の代表をもつて構成される英ソ勞働組合委員會は二日からロンドンにおいて會議を開催、六日閉會したが、恒久的平和維持のために米英ソ三國勞働組合の團結を强化する旨の決議を採擇した

「ロツキンガム」號の喪失　(リスボン十日發)ロンドン來電＝海軍省は驅逐艦「ロツキンガム」號の喪失を發表した、同艦は一九四〇年九月英國が米國政府から讓りうけた五十隻の内の一隻で舊名スワセー號で排水量千百九十トンである

【濠　洲】

ソ聯との科學連絡强化　(リスボン十日發)シドニイ來電＝濠洲外相ハーバート・エヴアツト博士は濠ソ兩國科學者並びに科學團體の關係を緊密化するためシドニイ大學植物學教授エリツク・アシユビイ博士をモスクワ駐劄公使館附科學顧問に任命、參事官の資格で一年間同地滯在を命ずることに決した旨十日發表した

濠新西蘭航空會議　(リスボン九日發)ウエリントン來電、濠洲、ニユージーランド兩國合同の民間航空會議は十日ウエリントンで開かれるが、同會議はニユージーランド首相フレーザーが司會し、濠洲代表として空相ドレークフオードが出席する

昭和十九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【東南歐】

勃休戰條件の內容

(ベルリン十一日發)ソフイア放送によればブルガリア政府は米英ソ三國政府に對し赤軍並びにチトー軍と協力する部隊を除き、全ブルガリア軍はギリシア及びセルビアの諸占領地域から撤收する旨十一日通告したといはれる、以上の撤收は赤軍將官一名を首班とし英國三十二名、米國十六名からなる反樞軸軍事委員團の監察下に十一日以降二週間以內に完了する規定だが、反樞軸監察委員長たる赤軍將官は既に數日前ソフイアに到着したと傳へられる

勃、ユーゴー接近

(リスボン十日發)ソフイア來電によればブルガリア外相スタイノフは十日次のやうに言明したといはれる

今回ブルガリア政府は從來の反ユーゴースラヴイア政策を放棄することとなつた、右措置は今後ブルガリア、ユーゴー兩國間における種々の條約締結並びに兩國民の協力關係促進の出發點となるであらう

【フランス】

パリで共産黨デモ

(ベルリン十日發)現在パリは全く共産黨の天下と稱してよいほど日一日と赤化勢力が滲透してゐるが、去る日曜日は共産黨員の街頭デモがあり、共産黨出身空相デイロンのほかマルチーデュクロ等の黨首腦の演說があり參加した市民數は十五萬と稱せられる、これは人民戰線當時左翼各派の聯合デモを遙かに越す人數である

【イベリア】

佛西國境事件起る

(ベルリン九日發)フランス國內軍のうちにスペイン內亂當時フランスに亡命した左翼分子が多數あり、獨立部隊を編成、南佛各地のスペイン領事館を占領、私設ラジオを通じてスペインの內部攪亂を企てつつある事實はスペイン當局を著しく刺戟、ド・ゴール政權をスペインが承認しない最大理由の一つに擧げられてゐるが、九日UP電によれば、これらフランス在住スペイン左翼分子數百名は武器を携へてスペイン國境突破を試み、國境守備のスペイン軍正規兵、稅關吏、警官隊と交戰双方に多數の死傷者を出した、侵入亡命軍の一部はスペイン側に捕虜になつたが、大部分はスペイン領民から食糧、家畜等を徵發フランス國內に引揚げたといはれる

國境不穩つづく

(リスボン十一日發)九日佛西國境ロンセア溪谷(スペイン、ナヴアラ地方)地方で起つたフランスから侵入したスペイン叛亂軍とフランコ軍の衝突事件は叛軍の勢力約二百五十名程度で一部は捕虜となり一部はフランス國內に再び逃走事件は一應片付いた形になつてゐるが、叛軍はツールーズ、ボーなどフランス國內スペイン國境寄り都市に相當兵力を集中し、再擧をはかる形勢にありスペイン側も兵力を國境に續々集中嚴戒中といはれる

【北歐】

芬監視委員首相と會見

(ストツクホルム十一日發)ヘルシンキ來電=フインランド監視委員會委員長ジユダノフ並びに同委員ザヴオネンコ大將、オルコフ公使は十一日フインランド首相カストレンを訪問、長時間に亘つて協議した

【ソ聯】

チトーも會談參加

(ストツクホルム十一日發)英紙デーリー・ヘラルドが十一日報するところによればチトーもまたモスクワ會談參加の招請を受け、近く出發する豫定といはれるが、曩のミコライチク招請に鑑み、モスクワ會談の中心議題がポーランド及びバルカン問題であることは間違ひがない

昭和十九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

波、解放委員會代表も參加

(ストツクホルム十一日發)モスクワ來電によればルブリンのポーランド國民協議會議長ベルートはモスクワ會談に參加するため解放委員會議長モラフスキー、ポーランド解放軍司令官ローリヤ・ジミエルスキーを帶同して十一日再びモスクワを訪れたといはれる

【重慶】

援助過少を指摘

(リスボン九日發)重慶來電=重慶政權當局は對蔣援助の少い具體的實例として十一日次の數字を發表した
本年五月までに支那東部及び南部にある重慶軍の手に現實に渡つた武器貸與物資は高射砲五十門、山砲六十門、小銃及び機關銃彈藥三千萬發である

スチルウエル救援を呼號

(リスボン九日發)ニユーヨーク來電によれば在印緬支米軍總司令官兼重慶軍副司令官ジョゼフ・スチルウエルは最近在支司令部において全米國民に呼びかけ、大陸救援の意義を說いて要旨次のごとき放送を行つたといはれる
西南支、北緬、怒江地方の米英支三軍は今や新レド公路と舊ビルマ公路の結合を望み得る地點に到達した、この結果支那への補給路は改善されることにならう、余が今放送する目的は印緬支戰場における反樞軸軍最近の成功を社會に知らせるためである
諸君も御承知のやうに支那はわれわれの盟邦だ支那軍は一九三七年以來日本軍と戰つてゐる、しかも港といふ港はすべて失はれて今や最も必要とする彈藥その他の援助を受けようにもその道が全くないのだ、沿岸諸港が開かれる望みは當分ない、それまでの救援の手段としては、ビルマ公路を再開して裏木戶から通ふ以外に道はない、一九四三年のクリスマス前夜以來、反樞軸軍は北ビルマの舞臺に返り咲きして優勢な日本軍に對抗、ほとんど信じられないやうな離れ業を演じて戰鬪中にレド公路を建設し日本軍を「極めて困難な陷穽」に押込んだ

大型トラック三百餘臺重慶へ

(チユーリツヒ十一日發)「エクスチエンジ」通信社の重慶電報によれば印度駐米軍航空隊は五トンの貨物自動車百二十五臺、三トン車二百臺をヒマラヤ越えで重慶に空輸したといはれる

對日作戰の變更か

(リスボン十一日發)日本軍の支那作戰と關聯して十日のAP通信は次の通り報道してゐる
日本軍の支那大陸作戰によつて米空軍は對日爆擊の貴重な基地を喪失するに至つたが、この結果反樞軸軍は東亞戰域における全面的作戰の變更を餘儀なくされよう、新作戰ではマライ半島に對して攻擊を集中することも考へられるが、しかしこの作戰には補給の困難が指摘されてゐる、結局米國としては現在の支那及びビルマにおける戰鬪が一段落を告げてその結果がはつきりするまでは具體的な作戰の建直しは控へなければならぬだらう

【印度】

英政務次官印緬戰線視察

(リスボン十日發)BBC放送によれば印度省政務次官ミユンスターは東南アジア戰線における英軍兵士の狀況につき最新の資料を入手すべく九日カラチに到着、デリー訪問後ビルマ戰線を視察する豫定といはれる

【軍事情報】

ロケツト機の支配を豫言

(リスボン五日發)ニユーヨーク來電=ベル航空會社々長ローレンス・ベルはニユーヨーク州の工業都市バツフアローで噴射推進式飛行機の將來について五日次のやうに述べた
噴射推進式飛行機は戰後の航空工業界を完全に變革させるだらう、今後五ケ年以內にこの噴射推進式飛行機は他の型の戰鬪機を悉く驅逐してしまひ、また將來何時かは爆擊機、輸送機および垂直上昇飛行機に使用される時が來よう

昭和十九年十月十四日(土)
第三二〇九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

資料

英國の社會保險法案

「マンチエスター・ガーデアン」紙九月廿六日附

ビヴアリツヂ案に改變を加へた政府の社會保險法案は本日白書をもつて公表された、右案は新たに任命さるべき社會保險相によつて具體化、實施されることになつてをり、一般國民の支持の下に施行されるが、社會保險省新設に關する法律案並びに該案中に含まれてゐる家族保險の問題に關する決裁も速かに可決乃至實行される豫定となつてゐる、該案の起草に當り政府各省は協力的態度をもつて至大の貢獻を行つたのであるが、原案の大半は食糧省ウールトン指導の下にウイリアム・ジョウイツトが起草に當り、一般にはジョウイツトが初代社會保險相の椅子につくものと豫想されてゐる、原案は未だ決して完璧なものではなく、勞働者に對する補償金案の確定を俟たねばならぬのであるが、同案は後日白書をもつて發表される筈である、今回白書に公表された保險法案の概要は次のごときものである

社會保險案は强制的としこれが實施に當つては統一性を發揮すべく、國民の一員一員に對して適用さるべきこと、國民層を次の六階級に分類す

一、被傭者及び第一級自活者階級
二、寡婦階級
三、非生産成年者階級
四、小兒階級
五、勞働年齡を超えたる者
六、勞働年齡に達せざる者

勞働年齡に達せざる者は政府が支出すべき家族手當を給與し、勞働年齡にある者に對しては保險金を、また勞働年齡を超えたる者に對しては退職恩給を支給す、保險案は從來の案を更に擴大したもので、各種所得年額四百二十磅以下の生活者及び從來特に除外されてゐた各種職業並びに産業に從事する者に對し適用されるが、被保險者は每週一回一定の保險證に印紙を貼るといふ形式で自己に支給さるべき保險金の基金を政府に支拂ふ

△被保險者の支拂率

産業傷害保險案並びに社會保險案に基き給與を受ける者の政府に支拂ふ率は次の如きものである

△第一級被保險者

男子	十八歲以上	三志十片
男子	十六歲以上十八歲	二志五片
女子	十八歲以上	三志
女子	十六歲以上十八歲	二志

(雇傭者)

男子	十八歲以上	三志一片
男子	十六歲以上十八歲	二志一片
女子	十八歲以上	二志五片
女子	十六歲以上十八歲	一志六片

以上合計

男子	十八歲以上	六志十一片
男子	十六歲以上十八歲	四志六片
女子	十八歲以上	五志五片
女子	十六歲以上十八歲	三志六片

△第二階級被保險者

男子	十八歲以上	四志二片
男子	十六歲以上十八歲	二志九片
女子	十八歲以上	三志六片
女子	十六歲以上十八歲	二志五片

△第四階級被保險者

男子	十八歲以上	三志四片
男子	十六歲以上十八歲	二志二片
女子	十八歲以上	二志八片
女子	十六歲以上十八歲	一志十片

△家族手當

學校における食事並びに牛乳等は現物をもつて支給するほか、國家の稅收入より每週五志を支出してこれを現金支給する、家族手當を支給する兒童は學校修業年齡に達せざる者及び修業年齡に達せるも十六歲の誕生日から計算して六月三十一日まで學校に留る兒童なること、しかして修業年齡に達せざる兒童に對しては兒童の兩親が社會保險金の給與を受領してゐる場合と雖も更に每週五志を支給するものとす

△孤兒手當

兩親と死別せる兒童に對しては每週十二志を支給し、內五志は國家の稅收入より、七志は保險基金より支出するものとす

△疾患並びに失業保險金

既婚男女に對しては毎週四十志、未婚男女に對しては二十四志を、また十八歳以下の男女に對しては低率の保險金を支給す、しかして支給期間には制限あり、疾患の場合においては三ケ年を經過するも快癒せざる時は支給停止とす、失業保險金も支給は三十週間後に停止する、兩者の孰れの場合においても保險金支給停止後被保險者は將來再び政府の保險金の給與を受けるためには保險基金を支拂ふべきことが規定されてゐる

△扶養者手當

疾患者乃至失業者にして成年扶養者を擁する者に對しては疾患手當乃至失業手當と別個に追加手當を支給し、金額は毎週十六志とす

△退職恩給金

退職恩給金の標準率は既婚者に對しては三十五志、獨身者に對しては二十志とす、本恩給は退職者にのみ交附されるもので退職中週二十志以上の所得を有する者に對しては恩給率を低減す、退職最低年齡は男子においては六十五歳、女子においては六十歳とするも夫にしてその妻が六十歳に達せざるに勞働能力を喪失したとの證明を提出する場合に限り夫婦兩者に對し恩給を支給することあり、而して恩給は申請者の退職以前に支拂へる保險基金中より給與され支拂記錄不成績なる場合は恩給額は低減される、男子にして六十五歳、女子にして六十歳を超えるも退職せざる者に對しては退職に當り毎週二志の追加金を支給し、獨身者に對しては一志を支給す、なほ社會保險法案の實施以前既に恩給並びに保險金を受領してゐる者に對しては特別の措置が講ぜられることになつてゐる夫の疾患、失業乃至退職の場合における既婚婦人の救濟には次のやうな措置が採られる、即ち出産の場合にはその費用として四磅を支給し、有益な職業に從事する婦人に對しては追加金として十三週間に亘り毎週三十六志を支給する、但しこの場合同期間中は職業を停止するといふ條件を伴ふ、出産費の支給受領資格なき婦人に對しては四週間に亘り毎週一磅の附添人手當を給與する、但し以上の規定に對しては或る種の制約があることは當然である

△寡婦手當

寡婦に對する週支給の手當額は三十六志とし、寡婦となつて後十三週間中は若し第一子がある場合には支給額は更に五志を追加給與する、本規定は六十歳以下の寡婦及び恩給受領の資格なき夫を持つた六十歳以上の婦人に適用されるものであるしかして、前記寡婦にして扶養兒童を擁する場合には保護者手當として毎週二十四志の支給を受ける、現在既に寡婦恩給を受領してゐる婦人乃至本社會保險法案が實施される場合に再婚する婦人もあるが、これに關する規定も既に完成してゐる

△死亡手當

左の者に對しては死亡手當を支給する

三歳以下　六磅
三歳乃至六歳　十磅
六歳乃至十八歳　十五磅
十八歳以上　二十磅

本案の實施頭初年齡六十五歳以上にて死亡せるものに對しては保險金は支給せず、五十五歳乃至六十五歳にして死亡せる者に對しては十磅の保險金を支給す、十歳以下で死亡せる幼兒並びに本案の實施頭初に出生せる幼兒に對しては保險金を支給せず

△主要保險金支給率

獨身者（男女）

一、疾患保險金二十四志一、失業保險金二十四志
一、病弱保險金二十志　一、退職保險金二十志

既婚男子（職にある妻を擁する者）

一、疾患保險金二十四志一、失業保險金二十四志
一、病弱保險金二十志　一、退職保險金二十志

既婚婦人（有益なる職にある者）

一、疾患保險金十六志　一、失業保險金二十志
一、病弱保險金十六志　一、退職保險金二十志

既婚男子（職にあらざる妻を擁する者）

一、疾患保險金四十志　一、失業保險金四十志
一、病弱保險金三十五志一、退職保險金三十五志

扶養者を擁する者

一、疾患保險金十六志　一、失業保險金十六志
一、病弱保險金十五志

△入院保險金
入院二十八日にして退院せざる者に對しては次の保險金の内のいづれかより毎週十志を差引く
一、疾患保險金 一、寡婦保險金 一、病弱保險金 一、保護者保險金 一、出産保險金 一、寡婦恩給金 一、退職恩給金
新設さるべき社會保險省は社會保險の各分野にわたり活動を行ひ責任を負ふのは勿論であるが、現在の保健省から獨立して單獨に行政の實施に當る筈で、議會に對して十分の責任をとることになつてをり、政府は公認保險團體を財政的單位乃至新社會保險省の代行機關として存續させることには難色を示してゐる模様である
本社會保險法案の實施に伴ふ國庫收入並びに支出豫想額は次の如きものである
(便宜上一九四五年を比較單位とす、單位百萬磅)

△支出豫想額

	國家補助金	六九	七三	七〇	六七	保健費	一四八	一七〇	一七〇	一七〇
一般社會保險費										
一九四五年	三七四									
一九五五年	四二八									
一九六五年	五〇〇									
一九七五年	五四二									
家族保險金										
一九四五年	五九									
一九五五年	六〇									
一九六五年	五六									
一九七五年	五二									

支出總計

一九四五年	六五〇									
一九五五年	七三一									
一九六五年	七九六									
一九七五年	八三一									

△收入豫想額

被保險者並びに雇傭者の醵金による收入	保險基金利子	四三六	五〇六	五五七
一九四五年	二八三	一五		
一九五五年	二八〇	一五		
一九六五年	二七五	一五		
一九七五年	二五九	一五		

大藏省支出差引

一九四五年	三五二	一九五五年	六五〇	
		一九六五年	七三一	
		一九七五年	八三一	

收入總計

一九四五年	六五〇			
一九五五年	七三一			
一九六五年	七九六			
一九七五年	八三一			

マーシヤルの一般軍事訓練法

「タイム」誌九月十一日號

米國は平和を維持するために尨大な常備軍を要するであらうが、先週マーシヤル參謀長は大規模な職業的軍隊反對の態度を明確にした、彼のいふには、かかる軍隊は日獨兩國では役に立つてゐるし、將來も役に立つかも知れない、しかしこの制度は國民を肉體的に戰爭に適するやうにし得るだけで、國民全體に潛在する軍事的能力を發揮せしめることは出來ない、從つて民衆による政治といふ觀念を基礎とする現代民主主義國家機構にはかかる制度を容れる餘地はない、マーシヤルは更にいはく、米國は戰後も暫くの間占領地守備のため戰時の軍隊を保持する必要があるかも知れない、しかしその後は(一)小規模の職業的軍隊(二)あらゆる健全な米國靑年に「合理的な期間」だけ軍事的訓練を與へ、尨大な豫備軍を養成するといふ二本建の政策で行くべきである、議會は恐らく何らかの形で一般軍事訓練法を通過するであらう
マーシヤルの見解によれば大規模な豫備軍を有する小規模な軍隊の利益は左の通りである、軍事費を節約し得る、職業的軍閥の發生を防止し得る軍事政策に對する國民の關心を增大せしめる、更にこれは米國開國以來の政策であつて今後も踏襲すべきである、マーシヤルの言明に對し議會並びに國民一般は黨派の別なく早速贊意を表明した、議會が平時軍事訓練案といふ政治的に扱ひ難い問題を大統領選擧前に採上げるとは思へないが、ワシントン政界の噂では年末までには同法案が上程されるかも知れぬといふ話である

大正十五年十月廿日第三種郵便物認可　昭和十九年十月十六日(月)　第三二一一號

同盟通信 海外電報 (238)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　印刷兼發行所　同盟通信社

アーヘンに戰ふドイツ軍守備隊は敵の完全包圍に落ちながらも敵の降伏勸告を拒絶して意氣軒昂だ、メツツ要塞も包圍の危險に曝されながら頑強に地歩を守つて譲らない、これがジークフリード線に對する米軍の突入を遲らせてゐることは誰の眼にも明らかだらう、かくのごとき「ハリネズミ」戰術の最たるものはブルターニユ半島の諸要塞でロリアン、サン・ナゼール等依然孤壘を守つて奮闘を續けてゐるとの報道はいたく胸を打つものがある、彼らは祖國を遠く離れてゐるとはいへ、祖國への敵の侵入を必死に妨げてゐる、たとへそれによつて釘付けにされる敵兵力は少くとも、敵の行動に支障を來してゐることは事實である、オランダ西部、ギリシヤ方面、或ひはバルト戰線と、ドイツ軍有力部隊は各處に孤立の狀態を餘儀なくされつつあるが、しかも彼らは最後の瞬間まで戰ふだらう、かかる戰術によるドイツ軍の人的損害は勿論大きいにちがひない、それを承知してドイツ軍司令部が敢へてかかる戰法に出るのは貴重な時を稼ぐことが現在最高の戰略的要求であるからだ、先手を奪つて反撃に出るためには捨石が必要である、時には捨石を故意に大きくして敵になるべく多くの手數を費させなければならない場合もあらう敵はドイツ軍の抗戰を全く無意味なりとし、戰局既に決したかの言辭を弄してゐるが、國民擲彈兵團まで組織して焦土戰術をも辭さぬ決意を示す總統大本營には起死回生の妙手が藏されてゐると見なければなるまい

歐洲戰局の現段階はドイツ軍にとつて莫大な地域的人的犧牲の時期だ、敵の宣傳に乘つてドイツ軍豫備戰力の喪失を憂ふる必要はない、犧牲の效果は時が示してくれるであらう

世界の焦点

【目　次】

歐洲戰爭は本年中に終了するか……二三七七—二三七八
モロトフ、波首相と會見……二三七八
波亡命政權南米落ちか……〃
波亡命政權は否定……〃

【米　國】
新聯盟は「征服者聯盟」……二三七九
對西買付け停止……〃
突如兵員の損害發表を取止む……〃
戰時財政狀況……〃
戰艦テキサス修理……〃
獨全都市を廢墟と化さん……〃
婦人部隊ニューギニアへ……〃
日本人强制立退き事件裁判開始……二三八〇
國際通商會議代表決定……〃

【米　洲】
グワテマラで革命勃發……〃

【英　國】
イーデン言明練れる……〃
勃政府を難詰……二三八一
ヨーク大司教對獨政策を說く……〃

【ソ　聯】
英ソ首腦英大使館で會談……〃
波首相モスクワ到着……〃

【反樞軸陣營】
アンラ重慶支部長決定……〃
歐洲侵攻軍報道部パリに移轉……〃

【ド　イ　ツ】
侵入軍の暴狀……〃
俘虜虐殺のデマを否定……〃

【イベリア】
スペイン情勢複雜化……二三八二
西政府國境不穩につき聲明……〃

【フランス】
ド・ゴール政權佛印奪回を呼號……〃

【西　亞】
シリア內閣總辭職……〃

【特　輯】
マッカーサーの夢比島侵攻作戰（下）……二三八三—二三八七

昭和十九年 十月十六日(月)
第三二一一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

歐洲戰爭は本年中に終了するか

「リーダーズ・ダイジエスト」九月號誌上に揭載されたジョン・ガンサーの論文は「米國隨一の特派員」の豫想だとうだが、反樞軸側の獨斷的な對獨戰早期終了說の典型であると同時に巧妙な對獨宣傳とも見られる、その眼目は第三項のドイツの志氣を論じた點でドイツ人獨特の考へ方を紹介するといひながら、實は却つてドイツ人に對して、この戰爭では敗けても何十年後かに報復すればよいといふ思想を吹き込まうとするところにある、その論文の要旨は次の通りである

早期終了說の三根據

ワシントンの政治的及び軍事的首腦部の意見を非公式に叩いて廻つた結果によると、彼らはあらゆる材料を冷靜に檢討した上で、ドイツを本年末まで或ひはそれよりもつと早く敗り得るとの結論に達してゐるやうだ、この廣く行き渡つた確信は三つの包括的で一部相互に重複する要素を根據としてゐる

一、反樞軸の戰略地位が益々有利となつて行くこと

二、反樞軸の現在有する戰力總計が極めて尨大なこと

三、ドイツの志氣に關する諸條件

勿論ドイツを「敗り得る」といふことが必ずしもドイツが「敗れるだらう」といふ意味にはならない、偶發的事件によつて豫想が狂ふ可能性もある、しかし何はともあれ反樞軸側に有利な點に檢討を加へてみよう

樂觀論の根據ロシヤ軍

まづ第一にドイツの包圍は既に始まつてゐる、反樞軸側は三方面からドイツを攻擊し得る地位に在る、更に戰爭で一番貴重な戰略的戰術的主動性を掌握してゐる、獨軍は莖大な打擊を蒙つた結果現有兵力は三百萬を出でぬと信ぜられてゐる、これに反し反樞軸國は恐らくこの三倍の兵力を使用し得るであらう、赤軍が約五百萬、西部戰線が三百萬、殘餘はイタリア、バルカン、アフリカ、近東に散在する、多くの軍事專門家の見解によれば獨軍はロシアで多大の損害を出したため戰略的豫備軍の大半を使ひ果した、從つて反樞軸が一つの戰線で攻勢に出れば獨軍は他の戰線の防備を手薄にして兵力を移動しなければならない、反樞軸軍は恐らく獨軍の最も弱い點をよく探し、獨軍の防衞線の周邊全體に絕えず脅威を加へるやうにするであらう、ワシントン當局に樂觀論の主要な根據は何かと訊ねると、殆んど全部が先づロシアを擧げる、ロシア軍は非常によく戰つた、恐らくロシア人自身が豫想したよりもよく戰つた、特にロシア人は從來彼らに最も缺けてゐると思はれてゐた機械的技術的才能を十分示した、ソ聯對英米の協力と諒解の改善もまた看過し得ぬ要素である、ウクライナに設けられた米軍戰略飛行基地は單に往復爆擊に使用されるばかりではない

優勢な物量

第二に反樞軸軍の有する多大の空軍優勢もまた樂觀論の一つの要素である、現在米國は約七萬五千の飛行機を有する(海軍機三萬機は除いて)更に米國の航空機生產高は一年十萬臺に近づきつつある、對獨空戰は航空隊員にいはせると本年二月の大爆擊によつて本當に始つたばかりださうだが現在盛んに續けられてゐる、ワシントンにある飛行將校連は反樞軸空軍の假借なき照準爆擊の下でドイツはさう長くは持ち堪へられまいといつてゐる、同時に反樞軸は外交戰、經濟戰にも成功してゐる、各中立國はドイツが長期戰に要する多數の物資の供給を停止した、特に特殊鋼製造に不可缺の金屬の對獨輸出停止はドイツにとつて痛いに相違ない

現在の敗北と未來の報復

さて次にドイツの心理と志氣に考察を加へようドイツ人は現在の戰爭を初めあらゆる戰爭を「永久に續く戰爭」における戰鬪乃至作戰としか考へてゐない、從つて一旦敗北が必至と決れば戰爭中止を躊躇せぬであらう、彼等の考へは「現在完全な破壞を免れ得れば將來再び好機を捉へて版圖を擴張し得る」といふにある、かくて本年反樞軸軍の攻擊の重壓が增大するにつれて、ドイツが「降伏」する可能性も增加するであらう、假令ドイツが「無條件降伏」といふ言葉を用ゐないとしても

昭和十九年 十 月十六日(月)
第 三 二 一 一 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ドイツの本當の肚は二十年後或ひは三十年後——正確な年數はわからないが——には世界に對して報復し得るであらうといふことである

成程戰後ドイツは多分反樞軸軍の監視下に武裝解除されるであらう、だが、ドイツを非武裝の狀態に留めて置くために英米ソ三國が十年或はそれ以上も協力すると誰が保證し得ようか、ドイツは反樞軸國がどこかで一歩誤ることを期待するであらう、ドイツ國民全體の意識を代表する獨軍參謀本部は、戰爭繼續によつて得るところよりも失ふところが多いと思へば必ず戰爭をやめるに相違ない、ドイツは崩壞する時は早い、これは本年中に對獨戰が終るといふ樂觀論の今一つの根據である

モロトフ波首相と會見

(ストツクホルム十三日發)モスクワ來電によればモロトフ外務人民委員は十三日亡命ポーランド政權首相ミコライチク、外相ロメル、ポーランド國民會議々長グラブスキーと會見したといはれるが、單に挨拶を交しただけで會見は短時間で終了したといはれる、ミコライチクは今回モスクワ訪問を機會にソ波紛爭を最後的に解決する意氣込みで、米英兩國言論界も樂觀視してゐるが、ソ聯側は依然冷眼視することを止めず、赤軍機關紙「赤い星」も十三日の紙上で

亡命ポーランド政權は反動的盜賊の群に過ぎずポーランド民衆の名で語る權利はないと酷評してゐる

波亡命政權南米落ちか

(リスボン十三日發)UP通信リオデジヤネイロ電報によればロンドンのポーランド亡命政權の一部閣僚は最近ブラジル政府に對して同國入國の許可申請を行つてゐたが、ブラジル政府は今回これを承認したといはれる

就中前ポーランド軍司令官ラスンコフスキーの如きはブラジルに農園を買込み永住の準備を進めてゐるとさへ傳へられるが、これと關聯してポーランド亡命政權は對ソ問題をめぐつて遂に分裂し飽くまでもソ聯に屈服することを潔しとしない大統領ラチケヴイツチ以下の一派は南米に亡命することに決定したとの觀測が有力となつた

波亡命政權は否定

(ストツクホルム十三日發)ロンドン來電=リオデジヤネイロ報道はポーランド亡命政權の一部閣僚のブラジル亡命說を傳へたが、亡命政權當局は十三日右を否定して次の通り述べた

亡命政權當局はブラジル政府に對して同國への入國許可申請を發したこともなければ、また今後かかる申請をなす意嚮もない、更にソスンコフスキーがブラジルに農園を買つたといふ報道も事實無根である、最近政權の役人數名が普通の用件で南米に旅行することとなり、ブラジルの入國査證を要求したことがかかる報道を生む原因となつたのだらう

告

決戰下町會、隣組の指導者として日夜健闘を重ねてゐる町會長に、前線における苛烈なる戰況を傳達し陣頭指揮の一端に資すべき、東京都日映並びに本社共催の第一回「現地報告會」は左の如く開催する

第一回 現地報告會

- 日時 十月廿一日午後六時開會
- 會場 日比谷公會堂

但し警報發令され當日午後三時までに解除なき場合は中止

十月例會・順序

1 開會の辭 同盟通信社長 日本映畫社長 古野伊之助
2 挨拶 東京都長官 西尾壽造
3 現地報告 同盟特派員 報道班員 福田實
4 演奏 海洋吹奏樂團
5 現地報告 同盟特派員 萩原忠三
6 ニユース映畫 第二二六—九號 一括上映

主催 東京都・同盟通信社・日本映畫社
後援 情報局

昭和十九年 十 月十六日(月)
第三二一一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米 國】

新聯盟は「征服者聯盟」

(リスボン十二日發)ワシントン來電=米英ソ重慶四國が發表した反樞軸聯盟案に對しては國内でも反對論少からず共和黨上院議員ブリッジスは十二日新聯盟案を痛烈に攻撃して次の通り述べた

新國際安全保障機構案は「反樞軸聯盟」でなく「征服者聯盟」である、發表された案によれば平和愛好國は形式的には主權平等の原則によつて總會に顔を並べることになつてゐるが、聯盟で實權を握る唯一の組織は安全保障理事會に過ぎず、この結果新聯盟はこの理事會の常任理事國たる四國の獨占的機構と化し去るだらう

對西買付け停止

(リスボン十二日發)ワシントン來電=外國經濟院當局は十二日次の通り發表した

米國政府は從來スペイン產各種鑛物、鐵鋼、合金用金屬等の軍需資材がドイツの手に渡ることを防ぐため獨占的買付けを行つてきたが、反樞軸軍のフランス占領に伴ひその惧れがなくなつた結果、買付けを停止することとなつた、但しスペインの特產物たるコルク、オリーヴ等の買付けは今後も續行されよう

突如兵員の損害發表を取止む

(リスボン十二日發)ワシントン來電=陸軍長官スティムソンは從來毎週木曜日に兵員損害を發表して來たが、今回損害數字の「編輯制度を改正する」と稱し、十二日には發表を取止め「現在の方法では極く最近の數字を盛り籠ねるので目下改善案を工夫してゐる」と言を左右にしてゐる

戰時財政狀況

(リスボン十二日發)ニューオリーンズ來電=財務長官モーゲンソーは十二日ニューオリーンズで演說、次の通り述べた

開戰以來現在までの國費支出總額は二千二百四十億弗、うち二千八十億弗は軍事費で非軍事費は百六十億弗に過ぎない、支出總額の三十九%は純收入によつて賄はれた、一九四三—四年度支出總額は九百五十億弗、純收入は四百六十億弗に上つてゐる、これは稅收によつて戰費を賄ふ割合の增大してゐることを示してゐる

戰艦テキサス修理

(リスボン十二日發)ニューヨーク來電=反樞軸軍の歐洲侵入作戰に參加して最近歸還した海軍戰艦テキサス號は十二日修理のためブルックリンの海軍工廠に入渠した、テキサス號は反樞軸軍の北佛上陸作戰協力艦隊の旗艦としてネヴアダ、アーカンソー兩戰艦はじめその他艦艇を率ゐて戰鬪に參加したが、シエルブール港沖合でドイツ沿岸砲臺の攻撃を受け二發の直擊彈を受けてゐる

獨全都市を廢墟と化さん

(リスボン十二日發)ワシントン來電によれば陸軍長官スチムソンは十二日の記者團會見においてドイツ諸都市を例外なく破壞し去る非道の意圖を明らかにし、次の通り言明したといはれる

アーヘンのドイツ軍守備部隊は降伏勸告を一蹴したが、如何なる都市と雖も戰線を離脫しない限り破壞を免れることは出來ない、米第一軍司令官ホツヂスが述べた如く今回の戰爭には中間といふものは存在せずドイツ軍は降伏か破滅かの何れかを選ばねばならぬ、アーヘン地區に對する反樞軸軍の攻撃は次の如き目的を以て開始された、卽ち先づジークフリード線の最も强固な若干地點を瀨踏みしてみてこれを突破した後本格的に同線内に割り込まうとするものである余はドイツ軍陣地が强固でありドイツ軍將兵の訓練は優秀である旨を改めて指摘したい

婦人部隊ニユーギニアへ

(リスボン九日發)ワシントン來電=米國陸軍省は九日次の通り發表した

米國の婦人士官五十名、下士官兵千二百名は米國が從來海外に派遣した最大の婦人部隊として途中米國で訓練を受け濠洲に赴くオランダ婦人部隊と同船して九日ニューギニアの米國陸軍基地に到着した

昭和十九年十月十六日(月)
第三二一一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

日本人强制立退き事件裁判開始

(リスボン十二日發)ワシントン來電＝日米開戰と同時に米國當局は太平洋岸一帶に居住してゐた日本人全部に對して强制立退きを命じこれを大陸奥地の强制收容所に收容したがこれら日本人のうち米國市民權を有する者二名はこの强制立退きを憲法違反として大審院に提訴、これに對する裁判は十一日から開始された、法廷において原告の辯護人は米國政府のとつた措置を痛烈に攻擊して次の通り辯護した

米國ではドイツにおけるユダヤ人壓迫及びその國外追放を前例なき非人道事件として非難してゐるが、太平洋岸の日本人强制立退き事件は正にこれにも匹敵し得る程の事件である、大審院は宜しくこの立退き措置が憲法に違反するとの判決を下し特に日系米人に對してその當然享有すべき市民權を回復すべきであらう、開戰當時太平洋岸の陸軍司令官だつたデウイツトが發した立退き令には全く何等の法的根據なくまたデウイツトはこの立退き令が軍事的理由に基くと稱したが、これまた根據なき主張であつて米國に忠誠を誓つた日系米人にして日米開戰の前後を通じ諜報乃至破壞行爲の嫌疑ある行動に出た者は一人もなかつた

この辯論に對し檢事次長チヤールス・フエーは政府の立場を擁護、次の通り述べた

强制立退き令の適用を受けた日本人は全部で十一萬二千だがこのうち六萬が米國の市民權を持つてゐる、この事件は米國政府の當面した最も困難な問題の一であり、また不幸な事件でもあるが戰爭のためには米國民全體が多かれ少かれ犧牲を受けてゐることを考慮しなければならぬ辯護人は立退き令は軍事的にも不必要な措置だと主張するが、これは全くの詭辯であり、太平洋岸防衞の完璧を期するためには絕對に必要な措置であつた

國際通商會議代表決定

(リスボン十一日發)ニューヨーク來電＝來る十一月十日から十八日まで九日間にわつて開催豫定の國際通商會議は各方面から多大の興味がかけられてゐるが同會議では貿易政策、爲替レート、投資の便宜並びに保護、未開地域の開發、輸送、通信、資源並びにカルテル等の諸問題が協議されることとならう、なほ米國代表は次の通り決定した

チエーズ・ナショナル銀行理事長ウインスロツプ・アルドリツヒ
アメリカ・エンド・フオーレンパワー社長キユリツツ・カルダー
アメリカン・プレシデント・ライン社長ヘンリー・グレイデイ
ジエネラルモーター社長エドワード・リレイ
シブレー會社々長ハーパー・シブレー
U・S・スチール・エクスポート社長ジョージ・ウルフ

【米洲】

グワテマラで革命勃發

(リスボン十二日發)カラカス來電によれば中米のグワテマラにおいて現政府の顚覆を目的とする革命が十二日勃發したと傳へられる

【英國】

イーデン言明縫れる

(リスボン十二日發)外相イーデンが下院における質問時間に英國政府はイタリアに伊領植民地を返還することに反對であると言明したことはイタリア傀儡政權一派に多大の衝動を與へた模樣で、ローマ來電によれば憤慨したボノミ政權は近く英國政府に對して正式に嚴重抗議を行ふ豫定といはれる、以上の豫測せぬ事態に狼狽した英國政府はローマ駐劄英國大使サー・ノエル・チヤールスをして首相ボノミに會見せしめ「イーデンの言明はイタリアが一旦喪つて最早時效にかかつた植民地を返還しないといふ意味で、一切の植民地を返還しないといふ意味ではないと陳辯に努めたといはれる

昭和十九年十月十六日(月)
第三二一一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

勃政府を難詰

(ストツクホルム十一日發)ロンドン來電=英國無任所相リチヤード・ローは十一日下院において不在中の外相イーデンに代りブルガリアの休戰條件に關して次の通り言明したブルガリア政府はユーゴスラヴイア及びギリシアから軍隊を全面的に撤收し、地方當局に行政權を引渡すに吝かでないと聲明したが、實際には以上の撤收は一部分に過ぎず、ブルガリア軍は依然として反樞軸國の領土に踏み留まつてをり、英國政府が極めて不滿とする點もここにある、ブルガリア政府は反樞軸國から奪つた地域から撤收すべきだと再三再四聲明した英國政府の態度を知り過ぎる程知つてゐる筈だ

ヨーク大司教對獨政策を說く

(ストツクホルム十二日發)ロンドン來電=ヨーク大司教ガーベツト博士は十二日開催された司教會議の席上ドイツに對する基督教徒の態度につき次の通り言明したドイツに對する基督教徒の態度としては

一、基督教徒は再び全世界を戰火に投ぜぬやう萬策を盡して阻止するやう要求しなければならない

一、基督教徒はドイツに對して積極的で建設的な政策をとらなければならない

の二點に盡きる、われわれは八千萬のドイツ國民を永久に武力によつて抑制出來るものではない、また戰勝國がドイツ國民を改宗させるためドイツに布教師を派遣するなどと考へることは愚かしい、以上のことはドイツ國民自身によつてなさるべきである

【ソ 聯】

英ソ首腦英大使館で會談

(モスクワ十二日發)モスクワ駐劄英國大使クラーク・カーは十一日夜大使官邸で晩餐會を催し、ソ聯側からスターリン議長、モロトフ外交人民委員、英國側からチヤーチル首相、イーデン外相、更に米國大使ハリマンも出席した、晩餐終了後英ソ兩國首腦は英國大使の書齋で十二日拂曉に至るまで會談を遂げた、スターリン議長が外國公館の晩餐會に出席したのは稀有のことといはれる

波首相モスクワ到着

(モスクワ十二日發)亡命ポーランド政權首相ミコライチクは外相タデウス・ロメル及びポーランド國民會議議長グラブスキーを帶同十二日空路モスクワに到着した

【反樞軸陣營】

アンラ重慶支部長決定

(リスボン十二日發)ワシントン來電=アンラ(反樞軸救濟復興會議)は十二日ワシントン州スポーケン出身のペンジヤミン・カイザーをアンラ重慶支部長に任命した旨發表した、カイザーは十一月末重慶に赴く筈である

歐洲侵攻軍報道部パリに移轉

(ストツクホルム十日發)ロンドン來電=歐洲侵攻反樞軸軍司令部報道部は十日各社の記者四十五名と共にパリに移轉した

【ド イ ツ】

侵入軍の暴狀

(ベルリン十二日發)「フエルキツシヤー・ベオバハター」紙はドイツ西部の國境地帶の一部分に侵入した反軸樞軍の暴狀につき次のやうに報道してゐる

西部國境地帶のある村に侵入した米兵は何等抵抗しない村人の目の前で橋を燒き落し、一軒一軒丹念に荒しまはり燃え上つてゐる藁束を納屋に投げ込む有樣で、米兵に脅迫された住民達はただ燒け落ちる納屋や自分の家を見守るほか何等の術がなかつた、かうした米兵たちはタツタ二時間ほどの間に村全體を燒き拂つてしまつた

俘虜虐殺のデマを否定

(ベルリン十一日發)亡命ポーランド政權筋は過般來ドイツ軍がクラから西方のオスヴイチムほか二ケ所の俘虜收容所に收容されてゐる俘虜を大量射殺したとのデマを流布してゐるが、ドイツ宣傳省は十一日

右流說はドイツを誹謗する單なる虛構の宣傳に過ぎない

と否定した

昭和十九年 十月十六日(月)
第三二一一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【イベリア】

スペイン情勢複雜化

(ストツクホルム十二日發)反樞軸軍の歐洲大陸進出に伴ひ、スペインの國內情勢は極めて複雜化し、加ふるに最近舊赤色政府の殘黨が國內で暗躍してゐる樣子だが、十一日アフトン・ブラデツト紙のロンドン電は左の通り報じてゐる

フランス、スペインの國境からロンドンのスペイン亡命政客に達した情報によれば、フランスのマキ匪團に加はつてゐるスペイン遊擊隊員と正規軍並びに警察隊との間に先週末以來衝突が起つてゐるといはれる、衝突は主としてピレネー西部パンプロナを中心とする國境地域で起り遊擊隊員數百名は先週フランスから國境を越へてスペインに侵入したもので、現に双方とも多數の死傷者を出してゐる模樣である

一方マドリード情報によれば、スペイン當局ではフランコ軍は遊擊隊の活動を封じつつある旨言明したといはれるが、ロンドンの消息筋ではスペインの民主黨並びに共產黨の流れを汲む遊擊隊員がすでに長い間カタロ市周邊を中心に蜂起すべく準備を進めてゐたところから見て、現在遊擊隊員と正規軍との間に相當大規模の戰鬪が行はれてゐることは事實だと觀測してゐる、一方遊擊隊は同時に廣汎な政治活動も行つてをり、彼らは次の六項目を主要政綱として揚げてゐる

一、ファシスト制度の打倒
一、正規軍、警察軍並びに行政府內からファシストを一掃し、人民法廷を設置すること
一、フランコ政權の下に犧牲になつた一切のものに對する補償
一、宗教、集會、言論の自由
一、食糧と仕事の確保
一、スペインの將來を決定するため自由選擧を行ふこと

遊擊隊では以上の政綱を一九三一年の共和國憲法の範圍內で組織される臨時政府によつて實施しようと計畫してゐる樣子で、スペイン國民同盟最高會議でも既に以上の點についてカトリツク黨の亡命政權との間に意見の一致を見てゐるといはれる

西班牙國境不穩につき聲明

(マドリード十二日發)反樞軸軍の歐洲侵攻作戰開始以來舊赤色政府軍殘黨が西佛國境に蜂起し、國境守備のスペイン正規軍と衝突不穩な事態を現出してゐるが、スペイン政府は十一日朝右に關し次の通り聲明した

南佛地方には舊スペイン赤色政府軍の殘黨が蟠居してゐるが、在佛スペイン不穩分子はこれと共謀、その暴威に惧れをなして早く彼らを本國へ追ひやらうとするフランス住民の援助を得て再三西佛國境地方に侵入し來り、その都度スペイン守備隊によつて擊退されてゐる、不穩分子は主としてサン・ジヤン、ピエ・ド・ポール、ヴイレボー、ツールーズ附近に蟠居してをり、目下國境地方の治安はスペイン政府により維持されてゐるが、政府はかかる不祥事件の發生によりフランス國民を危殆に瀕せしめ、フランスの國威を傷つけないやう、ド・ゴール政權に對し右叛軍本據の掃蕩のためあらゆる便宜を與へることとした

【フランス】

ド・ゴール政權佛印奪回を呼號

(リスボン十二日發)パリ來電=ド・ゴール政權植民地委員ルネ・プルヴアンは十二日對日戰に關し次の通り言明した

フランスは佛印の奪回を決意、對日戰に參加するため佛印遠征軍を編成してゐる

【西亞】

シリア內閣總辭職

(リスボン十二日發)ダマスカス來電=サイド・アラー・ジヤブリを主班とするシリア內閣は十二日總辭職した、同內閣の立場はすでにド・ゴール政權によるシリア獨立宣言の否認によつて極めて困難となつてゐたが、更にアラブ聯盟會議に關する議會の討議においてジヤブリ首相が反對派議員に痛烈に非難されたのが辭職の理由といはれる

昭和十九年 十月十六日(月)
第三二一一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

マッカーサーの夢
比島侵攻作戰 (下)

武井武夫

「今に必らず歸つてくる」と斷言したマッカーサーの豪語は、彼が比島を逃げ出した當時には誰の耳にも負け惜しみとしか聞えなかつた、だが決して彼は自分の言葉を忘れてはゐなかつた、西南太平洋における執拗な反攻は、打たれても叩かれても挫けなかつた、ソロモン諸島を島傳ひに、ニューギニア島を海岸沿ひに、米軍はぢりぢりと北に攻め上つた、そして一方遠く日本領土にまで侵入したニミッツの中部太平洋軍と呼應して、今や彼マッカーサーは目指す比島の外郭に迫つたのである、自分を追ひだした日本軍への復讐、自分を裏切つて日本軍の指導下に新政府を樹立した比島國民に對する懲罰——それが二年半近い間彼の胸に抱かれてゐた思ひでありベッドを離れても瞼を去りやらぬ夢だつた、彼の夢は同時に「ジャップ」にたいする米國民の呪ひの夢を代表してゐる、比島に近づく彼らの戰ひを描く筆は憎しみの喜びに慄へてゐる、次に譯出するのは「タイム」誌九月十八日號に掲載された「太平洋の戰ひ」と題する一文である

序曲クレシエンド(次第に强く)

太平洋上の日本軍基地に對する空からの打撃のテンポは段々に早くなつた、打撃の重量も加つてきた、米國陸海軍航空部隊は自信滿々來るべき事件を豫告してゐる、ジャップは種々の兆候を讀みとり、明白なる眞實を叫んだ「新たなる侵寇が迫つてゐる」

陸軍中將ジョージ・C・ケネーはミンダナオ東方五百六十哩のパラオに重爆撃機隊を出撃せしめ白晝九十噸の爆彈を降らした、同時に海軍中將マーク・A・ミッチャーの太平洋空母艦隊から飛立つた大戰鬪機隊は大擧諸島嶼を襲つて彈藥庫や貯油庫を撃破した、空中に日本戰鬪機なく、地上の日本機は炎上した

同じ日、他の艦載機隊はパラオ東北方二百七十五哩のヤップ島並びに更に東北方百二十哩のウリス環礁に對し連續銃爆撃を開始した、「ヴエルサイユにおける日米論爭の的」たりしヤップの有線無線電信局は破壞された、次の日、米海軍巡洋艦ならびに驅逐艦はパラオを攻撃、日本委任統治領「ナンヨー(南洋)」の昔日の首都にして同方面水域における帝國聯合艦隊基地たるこの港の海空の防禦力を刈り取つた

更に現在ウイリアム・ハルゼー麾下第三艦隊の一部となつてゐるミッチャーの空母艦隊はミンダナオ海岸に出動、比島南部に最初の海軍攻撃を試み、五ケ所の飛行場を襲撃して多數日本機を撃破し、マングローブ立ち並ぶ六島嶼の沿岸を襲つて多數小艦艇並びにサンパンを撃沈破した、特に苛烈を極めたのはヒナツアン灣の近海で急降下爆撃機、戰鬪機、雷撃機等は大護送船團を發見、これに攻撃を加へた、飛行機の爆彈と彈丸が盡きた後は巡洋艦と驅逐艦が突入して混亂せる船團に大打撃を與へた、比島並びに西カロリン諸島の日本軍地上部隊にとつて殘された問題は「いつまで保つか」といふことだけだ

鉄撃作戰露骨化

何たる驕慢、何たる揚言、敵の誇大宣傳は笑ふべし、しかも太平洋空中攻勢の激化は儼たる事實である、敵は比島作戰開始に先き立ちいかなる準備を必要とするか、第一はこの連續爆撃による日本軍航空基地の覆滅であり、港灣施設及び船團を狙ふ補給線破壞である、そして第二は現在の島嶼上陸作戰に意圖明かなる攻撃基地の推進である、この間の事情を英紙の論說から引き出してみよう

「比島を指向して」九月十六日附「タイムズ」紙論説＝太平洋における米軍最近の成功は從來常に緊密に協同せる二進攻線の效果的交叉を示してゐる、卽ち一方にはハルゼーが赤道北方の島嶼群における戰略要點の系統的剝奪を遂行し、他方にはマツカーサーがニューギニア北岸に沿つて歩一歩進路を拓いてきたのだが、今やこの遠く離れた二攻撃兵力が比島に對し共同攻撃を開始すべき舞臺が整へられたのだ、從つて米國のこの重要な大洋前哨地を解放すべき闘爭は目前に迫つてをり、南方及び東方より同時に着手し得る形勢になつてゐる、賭けられた賞品の價値はいかに高く論ずるとも誇大なりとはいひ難い、比島の占據はアジア本土への道を拓き、重壓に喘ぐ重慶も遂に救はれることにならう、更に比島の位置は日本にとつて不可缺な石油供給源たる東印度並びに占領地マライ半島への海路の中心を占める直接の要處である日本はここで重大なヂレンマに直面する、比島で大いに戰ふとすれば海軍主力を領海外に出さないといふ賢明な決意を忘れ、全力を擧げての決戰にその存亡を賭することになる、また比島を失ふとすれば、日本が一擧に奪つた占領地の大部分との連絡を切斷され、遠く派遣せる守備隊を孤立せしめ、「大東亞共榮圈」を虚脫のために解體せしめる結果になる、ここにおいて東亞にも歐洲の場合に劣らぬ直截且つ有望な危機が生れ、米軍の司令官たちは陸海空の共同兵力を擁してこの機會を容赦なく利用する權利を與へられるわけである

マツカーサー豪語

右の見方は反樞軸陣營内の樂觀的見解を代表してゐるといへよう、卽ち戰場の前進に伴ふ補給の困難その他自己の惡條件のごときはすべて論者の默殺に遭つて無視されてゐるが、米軍當局者の警戒するところはこれであり、海軍長官フオレスタルも三十日今後における補給の困難と日本陸海軍の健在を指摘して國民の覺醒を要求してゐる、しかも彼らが日本のヂレンマと稱するものも、日本が戰闘に敗北することを前提としてのヂレンマであり、もし日本海軍が好機を捉へて敵の隙に一擊を與へたとすれば、危機は變じて天の助けとなるわけではないか、健全なる常識から判斷して、從來洋上の一孤島においてすら最後の一兵まで戰ひ拔き敵を惱ましてきた日本軍が、比島のごとく廣大且つ地形的にも惠まれたる戰場を與へられれば最惡の場合を豫想しても戰闘が極めて長期間にわたることは明かだ、その間米軍は蜿蜒たる補給線を確保しなければならない、ここには常に決戰の機會が殘されてゐる、機會の選擇は攻撃側の自由であり、長い補給線を抱へた米海軍と隱忍ひそかに好機を待つ日本海軍とは攻守の關係が全く異つてくる、比島を攻撃する敵が却つて防禦の立場に立つことになるのだ、しかして問題が比島における日本軍の準備如何にあることは明らかで、本稿前段に示したごとく、敵の恐れるところもそこにある

だがマツカーサーの自信は强い、共和黨大統領候補としての呼聲が高かつた頃にも、「わが榮冠は比島にあり」と稱して遂に出馬を肯んじなかつた彼として、その後目標に着々近づきつつある現在、その得意を隱しえないのは當然であらう、モロタイ島の上陸に成功した時、マツカーサーは

今やわれわれの戰ひは決定的段階に近づきつつある、敗北は日本の眼前に迫つてゐる、わが地歩はすでに確保され、作戰は常に順調だつた、われわれはすでにモルツカ諸島を支配せんとしてゐるのだ

と言明した、勿論司令官としての彼は前途幾多の困難があるべきを豫想してゐよう、それにも拘らずかかる言辭を吐くのは、彼には彼としての成算があるとみなければなるまい

比島作戰の意義

さてマツカーサー個人にとつて最大の夢である比島侵攻作戰は太平洋戰局においていかなる意義を有するか

現在太平洋において、敵は到るところに日本軍の頑强な抵抗に遭遇、その死すとも止まぬ戰意に並大抵なことではこの東洋の指導國を屈服せしめえないと悟つた、彼らからみる時、「太平洋の蠻人」は二度と立ち起れなくなるまで叩きつけなければいふことを聞くはずがないのだ

昭和十九年 十月十六日(月)
第三二一一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

そのためには日本の戰力を完全に奪ふ方法として、南方占領地と支那大陸と日本本土とを完全に孤立せしめ、各個撃破の作戰に出ることが賢明だしかしてこの三方面を遮斷する要點はそれが比島である

今や支那大陸における日本軍の成功に、重要な戰略爆撃基地を脅かされつつある彼らとしては、一刻も早く比島を占領し、大陸作戰への足場を固めなければならぬ、ケベツク會談で歐洲の兵力を東亞に移すための輸送問題を協議したといふが、たとへ彼らの誇る輸送力をもつて多量の資材、兵員を運び得たとしてもそれをどこに揚げるつもりか、比島である、比島がなければ一切の作戰の基礎が成立しない、重慶財政部長孔祥熙は四日ルーズヴエルトと會談後新聞記者團に對し

日本軍の支那作戰の成功は支那軍に十分な補給がないからだ、米國は確かに多量の物資を印度から支那に輸送してゐるが、その大部分はB29部隊を含む米軍航空隊の補給にあてられ、支那軍にはほとんど廻つて來ない、しかも支那軍は過去七年間小銃をもつて日本軍と戰つて來た、その小銃は悉く七年以上も前の舊式の品であり機關銃のごときは故障ばかり生じて少しも役に立たない有樣だ

と述べて米國に對する不平を示してゐるが、かかる狀態では米國は忽ちの間に大陸の足場を完全に失ふ危險がある、ここにも比島作戰を急ぐ明かな理由が存するのだ

ケベツク會談前後、敵の新聞雜誌も中立國の新聞も、太平洋戰局論を頻りに掲載してゐるが、その一致するところは歐洲からの兵力輸送の困難と英軍の太平洋作戰參加問題であり、何ら新味がない、次にその代表的なものとして米國の週刊「ニューズ・ウイーク」誌の「侵攻目標ミンダナオ」と題する論說を紹介しよう

太平洋戰略の一段階

太平洋戰爭におけるわれわれの終極目標は既に明かだ、だがそれに到達するためには、最後段階に入つて戰略が固定するまでは柔軟な戰略を採らなければならない、太平洋における日本軍兵力が散在する地域並びに水域の性質或ひは日本軍が示す抵抗力は、このことを雄辯に物語つてゐる、われわれの攻勢に對する日本軍の對策は特異の戰法と稱すべく、彼らの最大の資産たる人的資源が消耗品として反樞軸軍の前進を支へ時を稼ぐために使用されてゐる、これに對し反樞軸軍は、終極目標を目指し西方に進撃するための態勢が得られない限り地上連絡作戰に捲き込まれてはならない、これこそ歐洲戰爭が終るまで要求される條件であり、その後においてもこの原則は重要性を失ふことはあるまい、今一つの事實とは、現在戰爭の行はれてゐる全世界において艦載機と陸上基地機とがこれほど緊密な協力を必要とするところは他に全くないといふことである、われわれは多くの有力な敵地上陣地を迂回し通過して進んで來た、たとへばマーシヤルやカロリンがさうだ、かかる島嶼群を攻略するのには多くの資源を要する、われわれが一定の地點を奪取すべきか否かは、西方に動く不斷の補給線の流れが保たれるかどうかによつて決せらるべき問題である

更に銘記すべきは空母基地こそ太平洋における海上攻撃の先鋒だといふことであつて、これを地上基地航空機のなし得る防禦的目的に轉用するのは、その眞の使命を變じ、戰局を日本軍の手に引渡すこととならう、中部太平洋兵力並びにマツカーサー麾下兵力は西方進撃路をなす亙大なる兩腕のやうに南北から迫る、この約二千二百哩に及ぶ二戰線の環礁や島嶼は實に五月蠅い存在だ、トラツク島とマーシヤル諸島の中間ではその妨害的價値がかなり減じたが、トラツク島とパラオ島の中間において或る程度安全な交通線を維持するためにはまだまだ地均し工作が必要である、マツカーサーがビアク島並びにナムフオール島の飛行場を手に入れたことは爆撃範圍を擴大し得たばかりかニューギニア島ギールヴインク灣並びにその南方において大艦隊の活動に十分な水域を支配するに至つた、これら水域はマツクリユーア灣ほど艦船集結に適してゐないが、不幸にしてマツクリユーア灣はニューギニア島西北部とはいへ現在の目的にとつて反對側に位置してゐる

單なる島傳ひ作戰と異り、大艦隊集結運動のためには要求される海面條件もまた莫大だ。海軍艦艇並びにそれに隨伴する油槽船、修理船、補給船等のために尨大な海面を必要とするのである

大艦隊が集結し組織された時、次いで考へなければならないのは何が有利な打撃であり何が途上の危險かといふことだ、危險のあるものは武裝兵力が動き出す前に除去しなければならない、作戰の第一次運動を掩護するのみならず、後續部隊の安全を保障するためにもわれわれ自身の地上航空基地が建設されなければならない、斷じて比島の奪還をめざすマッカーサー現在の目標より判斷すれば、彼はパラオ方面には出でず、一路ミンダナオを目指すだらう、ビアク島より少し大きく、ビアク島とハルマヘラ島の間にあるウエイグ島は航空基地として好適の位置を占めてゐる、この島を現在直ちに奪取すべきかは、偵察の結果が決定してくれるだらう、しかしながら、ハルマヘラ島の東翼をなすモロタイ島並びにタロード諸島は、ハルマヘラと南ミンダナオの中間モルツカ海峽の東方及び北方の入口を扼するといふ點で、全く別箇の前提條件をなす、安全保障の目的からも、或ひはパラオに對する日本機の行動を制約する意味においても、タロード並びにハルマヘラに航空基地を確保することはわれわれにとつて絶對必要だといふことが出來る、即ち一度これら前提條件が充たされた曉には、ダバオよりザンボアンガ半島に至るミンダナオ南海岸一帶は米國海軍大艦隊の掩護を受ける侵攻軍に對して俄然門戸を開くことになるにちがひないのだ、この時もしジヤップがサイパン島沖で試みたやうな空襲をわが艦隊に對して繰返さうとするなら、われわれは喜んでそれを邀へ撃たうではないか

猛獸は殺到しつつある

かくて彼らは日本海空軍に挑戰しつつ侵攻作戰の第一步を踏み出した、檻の扉を開かれた猛獸のごとく、マッカーサーはモロタイに上陸し、優勢な空軍の翼を伸して比島へ比島へと攻め上る道の地均しを繼續してゐる、これに呼應するニミツツ攻勢は、ハルゼーの第三艦隊を先鋒にパラオより西進の機を窺ひつつある、だがこの猛獸の群に對し、日本軍の强弓は滿を持したままいまだに放たれない、彼らは飛びくる矢の鋭さを豫期しつつも依然攻撃の手を緩めず、着々と足場を固めて次の跳躍を準備してゐる、日本軍の戰術的要點に對する爆撃は日々强化されつつある、しかも彼らが最近において最も力を注いだのは南方石油資源に對する攻撃——即ちボルネオ島バリツクパパンの精油所の爆撃だつた、九月三十日六十機、十月三日四十機とB24重爆撃機を多數動員しての大爆撃は歐洲における絨氈爆撃には比すべくもないが、東亞の戰場としては極めて大規模なものであり、その內容においては歐洲侵攻作戰開始當時からその後における精油施設攻撃と同一だとみられる、これは本格的戰略爆撃ではない、本來ならば重工業並びに工業人口に對する爆撃、生産地帶の鐵道、港灣施設等の破壞が先であつて精油施設の攻撃は直接武裝兵力の弱化を狙ふ最後的段階に屬し、その點東亞における戰略爆撃は「間に合せ」的性格を多分にもつてゐる、しかしながら同時にこれは比島侵攻作戰が愈々近いことを示唆しモロタイ島の戰況こそは彼らの日程を決定する最大要素となつてきた、敵はモロタイに既に飛行場を設定し、ここを基地に比島周邊の水域を空より制壓せんとしてゐるが、これにより彼らが期待するところは單に比島作戰の跳躍臺のみではない、比島侵攻の戰ひが同時に日本の動脈を切斷し、日本戰力の貧血狀態を獰らす戰ひとなることこそ敵の望むところなのだ、その意圖はたとへば次のごとき新聞報道にも明かである

「蘭領東印度並びに南方の封鎖」「タイムズ」紙モロタイ島作戰從軍記者九月二十七日＝東南アジア水域には、日本が富裕な植民帝國を樹立せんとの願望の下に占有せる幾多の島嶼がある、それを日本の自由にさせないことは日本にとつて打撃ではあらうが必らずしも致命的ではあるまい、日本本土は多くの軍需工業原料を十分貯藏してゐるといはれるからだ

一九四一年以前には日本の戰爭指導者は、もしあるだけの島嶼飛行場を悉く奪ひ更に外線に飛行場を增設すれば絶對不敗の態勢になると信じてゐた、どんな島でも環礁にでも、或ひは道なきジャングルにでも乘り込んで、數日乃至數週間で立派な飛行場を作り上げる米國の巨大な工業力を彼らは知らなかつたのだ、島々のあるものは戰爭だがらこそ重要な飛行基地に變じた珊瑚の斑點に過ぎない、モロタイ島もその通りだ、土壤の不足や貧弱な人口をみても、これが他の昔から商業をもつて鳴る大島國に伍して行けるとは到底考へられない、だが島の西南端にあるコプラ農園の空地、そこにエムブリオ飛行場がある、日本軍はこの飛行場を二年前に建設しようとしたのだつた、ところが仕事にかかつてみると土地が低すぎて適當な手段がなく建設は中止されてゐた、今米軍並びに英空軍の技術部隊は基地前進のため、ここに戰鬪爆撃機飛行場を建設中である

モロタイはわれわれにとつて單なる飛行場以上のものだ、この島は米軍守備隊をして狹いモロタイ海峽の彼方のハルマヘラに孤立した日本軍守備隊を完全に抑へしめる、だが日本軍が今までにも同じやうな事情で何度も孤立に陷りながら、この作戰を豫知しなかつたとすれば全く驚くべきだ、モロタイには僅かの兵力しかをらず、この部隊は山頂に潛んでゐる、日本軍が機先を制し得なかつたのは行動の遲かつたのと同時に、散在した海上戰線のあらゆる點を守ることが不可能だと悟つたためかもしれない、のみならず彼らは海空の兵力を恐らく本土周邊での決戰に藏ひこんでゐるのであらう

この事實によつて知られることは、今こそ南方の英領、蘭領、葡領各地を奪回する好機なりといふことだ、ジヤワ、スマトラ、ボルネオ、セレベス、チモール等は防備嚴重かもしれないが、昨年三月以來マツカーサーが採用して見事な戰果を擧げてゐる「素通り戰術」の教訓によれば、强處は無視して弱處を襲ふべきだ、ただ戰爭の現段階においてこれら諸植民地を奪回することに反對が出るとすれば、それは軍隊をそんなことに使ふ位ならば他の戰線において日本軍を壓迫するために使用すべきだといふ議論だらう

とにかく包圍した敵は掃蕩しなければならない濠洲はその委任統治領に潛伏した日本軍守備隊の掃蕩を引受けた樣子だ、この原理を適用すれば、東印度やボルネオはそれぞれオランダや英國の責任になるわけだ、一言にしていへば、米國は全力を日本の完全撃破に注ぎ領土的な問題は平和に返つてから調整する考へらしい、濠洲としては當然ダーウインとシンガポールの中間にある島々を奪還後の版圖改正においてどう扱ふかに多大の興味を抱いてゐるやうだが、この問題は重大であり、賢明な觀察者は事態の發展を待たうと考へるのである

結　語

これが彼らの企圖するところであり、彼らの解釋するモロタイ作戰である、隨分勝手なことをいつてゐる、だがいはしておくほかはない、問題は今後にある、彼らの不敵な豪語が眞實となるか虛僞となるかは、懸つて戰局の推移に存する、比島侵攻作戰は敵にとつて太平洋戰局に一紀元を畫すべき重大作戰であるごとく、日本にとつても祖國の興廢、大東亞共榮圈の隆替を賭けた絶好の決戰機である、この時にあたつて徒らに大言壯語し或ひは希望的觀測に耽けるは國論を誤まるも甚だしいといはなければならない、しかして正しい言論の基礎は敵に關する正しい知識にある、以上貴重な紙面を費して筆者が紹介したところはすべて敵方よりみたる太平洋戰略論であり、敵が世界に宣傳する太平洋戰局である、しかも作戰の主導性が敵の手にある限り、敵の所論は耳に入り易く、中立國筋の論調も大體において反樞軸國の輕みに傚つてゐる

遙莫、骸子は既に投げられた、夢が遂に覺めるべきものならば、マツカーサーは決戰の朝いかなる現實に直面するであらうか、今や彼のために舞臺裝置する者は米軍にあらずして日本軍、否、全日本國民がその道具立てをすべき位置におかれてゐるのである

（了）

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月十八日(水)　第三二一三號

同盟通信 海外電報

(239)

編輯發行人　兵頭伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　株式會社　同盟通信社

ナイルの戰ひの前日である、幕僚の一人がネルソン提督に對し「若し勝つたら世界は何といふでせう」と水を向けたところネルソン提督は「この場合〝若し〟は無用だ、勝つことは必定だ」

と傲然いひ放つたといふ、ナポレオン一世の雄圖は、トラファルガーの戰ひではなく、すでにナイルの戰ひにおいて挫折したといふのが後世史家の定說だが、皇國の興廢を双肩に擔ふ聯合艦隊司令長官豐田副武大將は正に一ケ月以前決戰議會の決議に對し「決死必勝の妙策を錬り戰機に投じ驕敵を擊滅する」旨を述べて必勝の信念を吐露した、臺灣沖の戰ひを太平洋戰線におけるナイルの戰ひに止揚し、アングロサクソンの東亞反攻を粉碎し去るのは銃後國民に課せられた責務である



「事の成るは成るの日に成るに非ず」といふが、臺灣沖の戰ひにおける赫々たる戰果はガダルカナル島以來、隱忍自重「戰機に投じ驕敵を擊滅する」がため鍍骨彫心籌謀を錬り刻苦營々錬磨を重ねた結果に他ならない、逆にガダルカナル島以降一ケ年にわたる轉進作戰は眞珠灣以來シンガポール攻略に至る戰果に銃後が氣弛み心驕つた應報ではなかつたらうか、眞珠灣の慘敗に米國民は起ち直つた、いはゆるアメリカ式生活樣式を犧牲にして、空母と航空兵力の增强に躍起の努力を傾注したところに、太平洋反攻作戰の成因を見出さねばならない、禍福はあざなへる縄の如し、捷報に續いて勝機を確保することこそ前線に報じて忠なる所以の職分ではなからうか

× ×

英國の史家エドワード・ギボンは一七八七年六月ローザンヌにおいて、二十餘年に亘る力作の筆を擱くに當り、ローマ帝國衰亡の跡を尋ねて四ケ條の原因をあげたが、特に「最も有力な破壞の原因はローマ人自身の內部抗爭である」と斷定し、桂冠詩宗ペトラルカがローマの一貴族に與へた次の書簡の一節を引用してゐる「見よローマの遺跡を、曾つての偉大さの影像を、時も蠻人もこの莫大なる破壞の業績を誇るを得ず、破壞を敢てしたるはローマ自身の市民にして、卿の父祖はポエニーの英雄が劍をもつて果たし得ざりしところを破城槌をもつて成し遂げたり」、遂に六國を滅ぼすものは六國であり秦ではない、太平洋の戰局を決定するものは、米國の生產量に非ずして一億の日本國民である、孫子曰く「古の善く戰ふ者は先づ勝つ可らざるをなし、もつて敵の勝つ可きを待つ、勝つ可らざるは己にあり」既に不敗の態勢を整ふ、何ぞ米軍の物量を恐れんや

英國は開戰以來既に五ケ年、舊ポーランド領土の分割に同意して戰爭目的を喪失し、いはゆる二十世紀の怪物に歐洲大陸を濶歩する機會を提供して勢力均衡の外交政策に破綻を來たし、三十億磅の外債を背負ひ込み世界銀行の地位もまた空しい、米國は產業の再轉換と大統領選擧に寧日なく、太平洋反攻作戰は一手に引受けるといふ軍令部長アーネスト・キング大將の豪語も臺灣沖の慘敗で一頓坐を來した、巴蜀の邊疆に殘喘を保つ重慶政權は、相次ぐ敗戰と螺旋狀インフレーションに支那事變以來の重大關頭に逢着してゐる、砂上に築かれた反樞軸の樓閣は幾多の弱點を包藏してゐるではないか

再び到來した勝機を逸せず不敗の態勢を整へることが刻下の急務である、廟堂の高きに居るものは、一切の隘路を打開して決戰の施策を斷行し江湖の遠きに處るものは、職域に沈潛して生產の增强に邁進し、言論人は三寸の舌鋒と一管の筆に愛國の熱誠を盛つて決戰意識の作興に力めようではないか、全國民が勝利の美酒に醉ひしれず、先憂後樂を旨として不斷の精進を續けるならば東方共榮の樂土はここに實現しよう

昭和十九年 十月十八日(水)
第三二一三號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

【目　次】

ソ波兩國の紛爭解決に大童……二三八八
世界勞働組合聯盟案……〃
米英ソ提携を強調……二三八九
ロメル元帥戰死……〃
【友樞軸陣營】
英ソ波連日會談……〃
チトー出發……〃
チヤーチルは米國を代表せず……〃
バルト國民會議米英に泣訴……〃
ド・ゴール變貨をぶちまく……二三九〇
ド・ゴール政權とマキ團團和解……〃
ド・ゴール政權を事實上承認……〃
英國は重慶の公敵第一號……〃
【西　亞】
シリア新内閣成る……〃
【米　國】
來襲艦隊は第五十八機動艦隊……二三九一
ニミツツ司令部サイパンに移轉か……〃
海兵隊航空部隊陸戰に參加……〃
對米感情の惡化を指摘……〃
公債利子四十億弗……〃
B29の大量生産開始……〃
B29製作費三百三十萬弗……〃
十月十四日現在の海軍損害……〃
第十五航空隊副司令……〃
【ソ　聯】
波問題の記事打電を禁止……二三九二
「旅順はロシアの港」……〃
開戰以來の赤軍損害千二百萬……〃
【イタリア】
ムッソリーニ統帥ファシズム精神を强調……〃
政府閣議を開く……〃
【ドイツ】
在獨邦人獨軍に醵金……二三九三
一萬三千三百餘を擊墜……〃
西部戰線の敵損害……〃
夜間空中戰の勇士國葬……〃
【フランス】
ルブラン大統領正式辭任……〃
【トルコ】
政府閣議を開く……〃
【米　洲】
グワテマラで革命勃發……〃
【東南歐】
元首相等を逮捕……〃
【北　歐】
瑞典對獨輸出再開か……〃
【資　料】
流星彈と英國側の對策……二三九四―二三九六
第二戰線への補給……二三九六―二三九七
米英兩國の輸出貿易……二三九七

ソ波兩國の紛爭解決に大童

（ストツクホルム十五日發）「サンデー・タイムス」紙の外交記者はソ波兩國間の紛爭に關し

「歐洲の諸小國、中立國並びに米洲各國では反樞軸陣營の試金石と目されてゐる」

と述べてゐるが英國首相チヤーチルはモスクワに乘込んで以來、亡命ポーランド政權の代表を招致スターリン議長、ルブリン政權代表らと連日協議を重ね紛爭の解決に大童の有樣だ、交渉の經緯については全く何らの情報もないがモスクワ電報の傳へる各代表の動靜に徵すれば交渉が極めて複雜多難なことを推定するに難くない、既に十三日夜スターリン議長とチヤーチルは長時間にわたつて亡命ポーランド首相ミコライチクと鳩首凝議したが、翌十四日午前にはチヤーチルが外相イーデン大使サー・アーチボルド、クラーク・カーと共に亡命首相ミコライチク、外相ロメール、國會議長グラブスキーと會見、午後にはチヤーチルとイーデンが米國大使ハリマンと會談を遂げてゐる、十四日夜はミコライチクとロメールとが三時間に亘つてイーデンと會見し、一方ルブリン政權の代表ボレスラウ・ペーリ等がスターリン議長、モロトフ外務人民委員、チヤーチル、イーデンと協議を遂げた

十五日は日曜で流石に會談を取止め夜に入つてスターリン議長、チヤーチル並びに各代表相携へてモスクワ大劇場に赴きロシヤ舞踊を見物した、觀劇の幕間にルブリン政權の代表ベールが「余個人としては交渉の可能な結果について樂觀してゐる」と洩らしたといはれ、UP特派員は「ポーランド兩政權が和解する見込みが增加した」と報道してゐるが、ルブリン代表の言明は如何樣にも解釋出來るので交渉は依然難航を續けてゐると見られる

世界勞働組合聯盟案（リスボン十四日發）ニユーヨーク來電によれば米國内において最近戰後に備へ現在の國際勞働局をはじめ民族、人種、宗教の如何を問はず、あらゆる勞働團體を打つて一丸とする世界勞働組合聯盟案なるものが提案されてゐると傳へられる

昭和十九年十月十八日（水）
第三二一三號
同盟通信 海外電報（第三種郵便物認可）

米英ソ提携を強調

（リスボン十四日發）ロンドン來電＝英國の經濟學者ノーマン・エンジエルは十四日、BBC放送を通じて次の通り述べた

資本主義國家である米英兩國はソヴエト聯邦の敗北を防止した、資本主義國家と共産主義國家との間には、戰爭の原因が經濟的利害關係と階級鬪爭とに胚胎してゐるから協力などはあり得ないと常にいはれてゐたが、今度の大戰で資本主義國がソ聯を援助した事實はこれに對する最も雄辯な反證だ、英米兩國は共産主義國であるソ聯の權利を尊重し、ソ聯は非共産主義國である米英兩國の權利を尊重するといふ條件の下に協力し、相互の理解を深めて行くことは可能であると考へられる、もし再び戰後安全保障會談が開催されることがあつたらダンバートン・オークス協定により保障された平和は反樞軸國内の大國同志が戰爭をしない場合だけに可能であるといふことを銘記してかからなければならない

ロメル元帥戰死

（ベルリン十五日發）ドイツ軍當局は十五日夜次の通り發表した

ロメル元帥は西部戰線において集團軍最高司令官として前線の指揮に當つてゐる際頭部に重傷をうけた結果遂に戰死した、ヒトラー總統は元帥生前の勳功を嘉みし國葬をもつて元帥を弔ふ旨指令した、元帥は享年五十三、ウエルテンベルグ地方のハイデンハイム生れ、前大戰當時既に殊勳を樹てて一九一五年秋鐵十字章を授與されたが、特に今回の大戰では北アフリカ戰線において機動戰の妙諦を發揮し、寡兵よく優勢な英軍を惱まし一時は長驅ナイル河の三角洲に迫つて英帝國の生命線に大脅威を與へた、一九四三年三月には最高の名譽金剛石入劍付柏葉騎士鐵十字章を授與された、爾來健康勝れずヒトラー總統の嚴命で健康の回復に力め、歐洲侵寇作戰切迫とともに西部方面軍の司令に任命されたのだが不幸奇禍のため再起出來なかつたわけである

【反樞軸陣營】

英ソ波連日會談

（ストツクホルム十三日發）モスクワ來電によればスターリン議長並びにチヤーチルは亡命ポーランド政權首相ミコライチクを交へて十三日二時間に亘り第一次會談を行ひ、引續き十四日二時間半に亘つて第二次會談を遂げたといはれるが、今回の會談は豫備的なものに過ぎず、根本的な問題の討論は來る十八日の會談に繰り延べられたと傳へられる

チトー出發

（ストツクホルム十二日發）ロンドン來電によればユーゴ遊擊軍總司令チトー元帥はモスクワ會談に參加するため十二日モスクワを指して出發したと傳へられる

チヤーチルは米國を代表せず

（リスボン十三日發）ワシントン來電＝大統領ルーズヴエルトは十三日の新聞記者團會見で次の通り述べた

モスクワにおけるスターリン、チヤーチル會談の内容については逐一報告を受けてゐる、しかしチヤーチルが米國をも代表してソヴエト當局との交渉に當つてゐるといふやうなことはないダンバートン・オークス會談の結末をつけるため米英ソ三國が更に協議しなければならぬことは事實だが余とスターリン、チヤーチル三者が果して今年中に會談するかどうかはまだ決定してゐない

バルト國民會議米英に泣訴

（ストツクホルム十三日發）スカンヂナヴイスカ通信の報道によれば一九四〇年ソ聯がバルト三國を併合した當時國外に設置されたエストニア、ラトヴイア、リトワニア三國の國民會議は、チヤーチルおよびルーズヴエルトに對しバルト三國問題を處理するため三國國民會議代表からなる反樞軸委員會を創設するやう要請

赤軍のバルト三國占領は自由の回復を意味するものではなく、新たなる抑壓と住民の强制移住を招來するものだと述べたと傳へられる

昭和十九年 十月十八日(水)
第三二一三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ド・ゴール 鬱憤をぶちまく

(リスボン十四日發)パリ來電=フランス臨時政權首領ド・ゴールは十四日、フランス國民に對する放送演說を行つたが、この演說で暗に米英兩國のフランスに對する不當待遇を非難した要旨次の如し

反樞軸の諸大國が戰後の平和問題でフランスを無視した態度をとつてゐることは遺憾に堪へない、これらの諸大國が平和處理問題その他につきいかにフランスを無視した態度に出てゐるかその實狀を知つたならばフランス國民は驚愕するだらう、諸大國が今後もかかる態度を續けるならば、彼らはやがてこれが將來の平和確保の上にいかなる影響を與へるかをさとる時が必ず來るであらう、反樞軸諸國がフランス復興のために大いに協力してくれるなどと考へたらとんでもない誤りを犯すこととなる、フランス國民はフランス再建に當るものは結局フランス國民自身であることを知るべきだ

ド・ゴール政權とマキ匪團和解

(リスボン十四日發)ド・ゴール政權はパリ入城と同時にマキ匪團に武裝解除を命じたが、匪團は右要請を一蹴、逆に同政權への加入を要求したと傳へられる、しかるにパリ來電によればド・ゴール政權は十三日マキ匪團代表との間にフランス叛軍と匪團との兵力合流に關する協定を締結したといはれる、恐らく右協定成立は米英兩國政府の壓迫に基くものと解される

ド・ゴール政權を事實上承認

(リスボン十三日發)ワシントン來電=米國政府はド・ゴール政權がその本據をロンドンからパリに移してからも不承認政策を續けてゐたが、大統領ルーズヴエルトは十三日の新聞記者團會見で「米國政府はド・ゴール政權を既成の政權として認める」旨言明した

英國は重慶の公敵第一號

(ストツクホルム十三日發)英國首相チヤーチルが過般下院における戰況報告で米國から重慶への「湯水のやうな」援助に言及し、重慶軍の無力を非難したことは重慶政權に深刻な反響を捲き起したが、ロンドン來電によれば週刊「トルース」誌は重慶內における英國の不評の背後に「友邦」の策動を示唆、次の通り論じてゐると傳へられる

重慶政權は今や英國排擊宣傳の底拔け騷ぎに耽つてゐる實狀だから、チヤーチルが自ら重慶に乘込むことが刻下の急務だ、首相は速にモスクワから重慶に赴くべきである、重慶における英國排擊論の爆擊は果して自然發生的だらうか、それとも友邦の內一國の使嗾に基くのだらうか何れにせよ英國は今や日本に代り重慶政權の公敵第一號の地位に据えられるに至つたらしい、また左翼の週刊「ステーツマン・エンド・ネーション」誌は「憂鬱な双十節」と題する論文で首相に失言取消しを迫り、次の通り論じてゐる

重慶向け援助物資が米英兩國から湯水の如く流れ込んでゐるのに、重慶軍が敗退を重ねてゐるのは失望當惑に堪へないとチヤーチルが恐れ入つた暴言を吐いたのは、非常に疲れてゐたか、乃至御機嫌斜めだつたせいに違ひない、重慶の言論界が一時に爆發したのは全く當然だ、首相は重慶に對し速かに言明の趣旨を說明し、ヒマラヤ山系越えの空輸以外重慶の聯絡がつかない現狀において、寔に見すぼらしい位少量だが米英兩國が多少でも援助物資を送ることが出來たのは素晴らしいとの意味だと修正すべきだ、しかし重慶政權も愈々反動化し、彈壓政策を事としてゐるのは遺憾である、重慶政權治下の政治的社會的事情は日本軍よりも一層恐ろしい、唯一つの希望は軍事上の危險が增大するとともに重慶政權が漸次民衆の支持を重視するだらうといふ點だけだ

【西 亞】

シリア 新內閣成る

(ブダペスト十四日發)ダマスカス來電=アルジヤヒリを首班とするシリア內閣は十三日總辭職したが、その後を承けてマリス・エル・チユリが後繼內閣を組織、その顏觸れを十四日次の通り發表した

首相兼內相 マリス・エル・チユリ
外相兼國防相 アブデユラマン・エル・カヤリ
藏相兼供給相 チヤリド・エル・アツエム

昭和十九年 十月十八日(水)
第三二一三號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

【米 國】

來襲艦隊は第五十八機動艦隊

(リスボン十四日發)ワシントン來電=米海軍當局は今回わが南西諸島及び臺灣に來襲した米國艦隊は太平洋第三艦隊を根幹とした第五十八機動艦隊で航空部隊の司令官は中將マーク・ミツチエルなる旨發表した

ニミツツ司令部サイパンに移轉か

(リスボン十三日發)英國紙「ニューズ・クロニクル」五日のニューヨーク特電は次の通り報じてゐる

ワシントンの軍事專門家の間では海軍作戰部長兼聯合艦隊司令長官キングはその本部をワシントンからパール・ハーバーに移し、これに伴ひニミツツもその太平洋艦隊司令部を現在のパール・ハーバーからサイパン島に前進せしめることになるだらうとの意見が有力となつた、これは米國海軍がすでにその作戰の重點を太平洋戰域に移した結果導き出される當然の推理であるが、すでにエドワード中將が作戰次長兼聯合艦隊副司令官に就任した以上キングがワシントンに是非駐在しなければならぬ必要はなくなつた

海兵隊航空部隊陸戰に參加

(リスボン十二日發)ワシントン來電=海軍省は次の通り發表した

米海兵隊航空部隊は海兵隊の水陸兩面作戰及び地上作戰を掩護するため航空母艦を離れて行動し得るやう訓練を受けてゐる、以上は陸上を基地とする作戰に必要な海兵隊飛行士が、ガダルカナル作戰以來初めて餘裕を生じたためだ

對米感情の惡化を指摘

(リスボン十三日發)ニューヨーク來電=前國務次官ウエルズは十三日ニューヨーク市で中南米政策の失敗を指摘し次の通り演說した

中南米諸國の米國に對する親愛感が最近大いに害はれたことは否定出來ない事實である、これは米國がアルゼンチン政策で失敗し更に戰後問題でこれら諸國の意見をきかうとしなかつた結果である、米國は戰後問題その他につき米洲以外の諸外國とは熟心に協議してゐるが中南米諸國を相手にしてゐない、反感が昂まつてゐることれら諸國の米國に對する惡感情を和げ、米國の中南米政策を再び軌道に乘せるためには米洲諸國の全體會議を至急開くことが絶對に必要だ

公債利子四十億弗

(リスボン十三日發)ワシントン來電=財務省は十三日發表の國庫月報で本年八月末現在の國債總額は三千億弗を突破して三千九十七億六千四百萬弗の巨額に達し、その公債利子だけでも年四十億三千三百萬弗に上ると發表した、なほ米國公債の平均利率は一・九二三パーセントである

B29の大量生産開始

(チユーリツヒ十二日發)「エクスチエンヂ」通信ワシントン電によればボーイング會社の主要工場その他六工場でB29超空の要塞機の大量生産が開始されたといはれる

B29製作費三百三十萬弗

(リスボン十四日發)ワシントン來電=陸軍省當局の言明によれば最初のB29超空の要塞機を製作するに要した費用は實に三百三十九萬二千三百九十六弗六十仙に上つたといはれる、但し現在の製作費はこれより相當低下してゐる模樣である

十月十四日現在の海軍損害

(リスボン十四日發)ワシントン來電=海軍省は開戰以來の海軍、海兵隊及び沿岸警備隊の兵員損害が六萬七千五百三十二名に達した旨十四日發表した、その內譯は次の通り

合計	六七、五三二名
戰死	二六、四九六名
戰傷	二六、八三二名
行方不明	九、七二四名
俘虜	四、四八〇名

第十五航空隊副司令

(リスボン十三日發)ローマ來電=米軍代將チヤールス・F・パーンは十三日第十五航空部隊副司令官に任ぜられた

昭和十九年十月十八日(水)
第三二一三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【ソ　聯】

波問題の記事打電を禁止

（ストツクホルム十三日發）UPモスクワ電報によればソヴエト政府はポーランド問題が極めて微妙で誤解を生じ易いことを理由に、最後の決定に達するまで各社記者にポーランド問題に關する記事の打電を禁止したといはれる

旅順はロシアの港

（チユーリツヒ十三日發）エキスチエンヂ通信のモスクワ電報によればプラウダ紙は十二日の紙上で「旅順港」と題する七百頁の大著を論評「旅順港は極東におけるロシア最大の港灣であつた」と述べてゐるといはれるが、更に他紙の同書批評も「旅順港はロシアの領土の象徴」と稱してゐると傳へられ、以上は必ずしも偶然の言葉とは解されない

開戰以來の赤軍の損害千二百萬

（ストツクホルム十四日發）「デーリー・メール」紙のヘルシンキ特派員としてソ聯の軍事專門家に接近してゐたウオルター・フアーは十四日次のやうに報じてゐる

獨ソ開戰以來の赤軍の損害は一千二百萬と推定され、ソ聯が開戰當初動員した二千萬の五十パーセント以上に上つてゐる

【イタリア】

ムッソリーニ統帥ファシズム精神を強調

（リスボン十四日發）ミラノ來電＝ムツソリーニ統帥は十四日ファシスト黨書記長パヴオリーニ氏侍立の下に黒シヤツ旅團長コスダ將軍以下同旅團首腦を接見、ファシズム精神を強調すると共にドイツ軍の不敗の態勢を指摘、次の通り述べた

イタリア共和國はファシズムの諸原則に基きアペニン山脈以北に創設され爾來一軒一軒の家、一つ一つの村落、一つ一つの地方が固く防禦されてゐる、戰ひがイタリアのいかなる土地で戰はれてゐようとも、ファシズムの理想は到る所イタリア國民の精神と態度の中に生きてゐる、ファシズムは既に歷史上の事實であり、固い信念であり、いかなる人力をもつてしてもこれを歷史から抹殺することは出來ない、今やドイツは決戰のさ中にあり、八千萬のドイツ國民は一致團結殆んど超人的抗戰を續けてゐるが、一方反樞軸軍は恐らく永久に到達し得ない勝利を夢想してゐる

かかる時期に際しわれわれは改めてドイツ國との全面的協力を誓ふものである、反樞軸軍はドイツを國家として民族として生存を許さぬ意向を表明してゐるが、ドイツが屈伏することはありえない、ドイツは全國民の擧國一致態勢と決死態度のほかになほ多くの方途を準備してゐる反樞軸諸國は現在非常に焦つてゐる、事實われわれファシスト黨員は幾多の艱難困苦を經驗してゐるが、他面、米英ソ三國においてはすべてが、順調だとたれが考へるだらうか、すでに今日英國では相當廣範圍にわたり知識層の間に戰爭に對する疑念が生じてゐる、卽ち英國はいはゆる「ドイツ帝國主義に宣戰し、何十萬といふ兵員と東亞における大部分の重要地點を喪失したが、所詮は單にソヴエト聯邦の帝國主義を確立するに過ぎなかつたのであり、ソヴエト聯邦は既に北はバルト海からヴイスツラ河を經て南は遠く地中海に及ぶ歐洲を既にその制壓下に置くに至つてゐる、あらゆる時代を通じての最も大きな殺戮が今日民主々義の名を冠つて行はれ右旗印の背後にはユダヤ資本主義の貪慾が潛み人殺しとキリスト敎的文化の破壞とをもつて世界を全く自己利益の具に供せんとしてゐる、以上の如き現狀においてわれわれは國內の第五部隊を一掃し、ファシズム綱領に忠實なイタリア國民を中心に戰爭努力に貢獻しよう、たとへ、いかなる事態が發生しようともわれわれは寸土も讓るまい

政府閣議を開く

（ベルリン十三日發）ミラノ來電＝イタリア政府は十三日閣議を開催、ムツソリーニ統帥は現下の政情並びに戰況について、國防相グラチアーニ將軍が戰況について報告した、次いで閣議は重要法令數件を可決、アルベルト將軍をジノア最高軍事法廷の裁判長に任命する案を可決した

同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【ドイツ】

在獨邦人獨軍に醵金

(ベルリン十四日發)在獨日本人會は先般ドイツ將兵のための醵金を募集したが、その額は五萬マルクに達したので、久米會長は十四日總統大本營外務局長ビュルクネル海軍中將を訪問右金額を手交した

一萬三千三百餘を撃墜

(ベルリン十三日發)軍當局は十三日次の通り言明した

戰鬪機隊並びに高射砲隊を含むドイツ制空部隊は本年一月以降九月三十日現在の九ケ月間に反樞軸軍機一萬三千三百九機を撃墜した、また同期間内に反樞軸空軍の兵員に與へた損害は十三萬二千名である、但し右數字は中立國に不時着陸した機數および海中に墜落したと認められる機數を含んでゐないから、實際の損失は重爆機一萬機その他總計一萬六千機に上るとみられる、さらにドイツ軍は最新鋭「奇襲邀撃隊」を小編隊で使用してゐたに過ぎなかつたが、今後は大規模に活用する方針だから近く空中戰に新局面が展開され、空中戰の相貌は一變するものと期待される

西部戰線の敵損害

(ベルリン十三日發)軍當局は九月二十六日から十月五日までの十日間における西部戰線の反樞軸軍總損害を次の通り發表した

戰車四百七十五輛、裝甲車七十五輛、各口徑火砲五十一門、戰死二萬二千三百五十三、捕虜三千二百四十九

夜間空中戰の勇士國葬

(ベルリン十一日發)夜間戰鬪機乘りの第一人者、夜間戰鬪隊指揮官ヘルムート・レント中佐は最近前線へ新しい飛行機を輸送中墜落慘死を遂げ、ヒトラー總統は十一日國葬を執行したゲーリング國家元帥は式上故中佐の英雄的行爲を賞讃した、故中佐は夜間撃墜百二機の記錄保持者で、七月末百機撃墜の記錄を收めた時金剛石付柏葉勳章、劍付鐵十字騎士勳章を授與された

【フランス】

ルブラン大統領正式辭任

(ストツクホルム十三日發)パリ來電=フランス大統領ルブランはペタン元帥が政府主席に就任した後も辭任を肯んじなかつたが、今回ド・ゴールの招請に應じてパリに到着、ド・ゴールと長時間に亘つて協議を遂げた結果、正式に大統領を辭任したと傳へられる

【トルコ】

政府閣議を開く

(リスボン十三日發)政府は十二日閣議を開催、サラジョグル首相司會のもとに内治、外交策につき協議を遂げた

【米洲】

グワテマラで革命勃發

(リスボン十二日發)カラカス來電によれば中米のグワテマラにおいて現政府の顚覆を目的とする革命が十二日勃發したと傳へられる

【東南歐】

元首相等を逮捕

(リスボン十三日發)ブカレスト來電=ルーマニア政權は十三日いはゆる「戰爭犯罪人」の逮捕を開始、元首相イオン・ギグルト、元法相オルワレル・ポツプ、元外相ミハイル・マニオレスコの三名を逮捕した、ポツプとマニオレスコとはウイーン裁定に調印トランシルバニヤ地方をハンガリア政府へ讓渡した責任を問はれる譯である

【北歐】

瑞典對獨輸出再開か

(リスボン十三日發)ニューヨーク來電=スエーデン政府は數ケ月前米國政府との協定に基き、ドイツ向け特殊球軸承けの輸出を停止したが、十三日UP通信ストツクホルム電によればこの協定は十三日をもつて滿期となり、スエーデンは再び球軸承けの對獨輸出を開始する意向といはれる

昭和十九年 十月十八日(水)
第三二一三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

流星彈と英國側の對策

流星彈對策委員長 ダンカンサン・サンデイスの報告

――「タイムズ」紙九月八日附――

一九四三年四月、余はドイツ側が或る種の新型の長距離攻撃兵器を考案中であるとの四つの報告を英國參謀部からうけとつた、右報告はいづれも不正確のものではあつたが、バルト海沿岸でドイツ側が新兵器を使用することを考慮してゐるといふことは確實とみられるに至つた、よつてわが方では偵察機を派遣してバルト海沿岸のそれと思はれる地域の撮影を行つたのであるが、五月の初旬に行つた空中寫眞撮影によりピーネムンドに大試研所があることが確認されたのであつた、その後もわが方ではしばしばピーネムンドの撮影を續行した、その後の寫眞により專門家連はこの寫眞の上に小さなかすれた黒點があるのを發見し、われわれの注意を促した、これを詳細に研究した結果この黒點が小型飛行機の型をしてゐることが判明したのであるが、この小型飛行機はレールの附いてゐる傾斜した滑走臺様のものの上に置かれてあることが確認され、更に別の寫眞をみると滑走臺附近の地面が爆發で燒けたと思はれるやうに黒い線が現れてゐることがわかつたのである、この寫眞やその他の情報を基礎として、ドイツの祕密兵器なるものが、操縦士なしのロケツト式飛行機であることが推定されるに至つた

昨年十一月に至りドイツ側がカレーからシエルブールに至る全沿岸地域に多數のコンクリートの建物を設營してゐる事實を發見したが、これはバルト海沿岸ピーネムンドの試研所と共通した特徴を持つてをり、かくてドイツ側の祕密兵器に關するわれわれの疑問は氷解したのである、しかしてフランス沿岸にある祕密兵器の使用地はいづれの場合でも、その方向がロンドンであることが判明した、昨年の冬期、わが方は險悪な天候を冒して廣汎な偵察飛行を敢行したが、この結果、ドイツ側は百ケ所以上の地點に、この祕密兵器射出地を持つてゐることが發見された、よつて昨年十二月から全冬期を通じ、更に春に至るまで英米航空部隊は流星彈射出地を虱つぶしに爆撃し、悉くこれを壞滅したのであるが、敵は射出地の修理作業を始め、修理が濟めばわが方がこれを再度爆撃するといふわけであつた、冬期を通じ、わが方は執拗に大爆撃を續行した、この結果、ドイツ側では前記の流星彈射出地を全面的に放棄して、三月頃に至り新しい地點に射出所の設營事業を開始した、新地點における射出所の設營に要する時間は僅々六週間位で、迷彩が巧みに施されてゐるため、射出時以外の時にその射出所を發見することは事實上不可能であつた、最初に設營した射出所がわが方の爆撃によつて破壞したため、二回目の射出所を各地に設營するまでには長期の日時を必要としこの二回目の射出所が完全に整備されたのは夏の半ば頃であつた

流星彈防禦兵器

この頃までにはわが方の諜報機關の活躍によつてドイツの祕密兵器に關する情報は完全に集まりロンドン防衛に對する詳細な方策も樹立されるに至つた、即ちロンドンを三つの防備地帶に分ち、市外には阻塞氣球を浮揚し、その外側に高射砲を備へ、更にその外郭には戰闘機隊を配置し、防備の柔軟性を考慮に入れた、ドイツは反樞軸軍のフランス上陸作戰開始から數日を出でずして流星彈攻撃を開始した、英國の港灣地區の防備に使用されてゐた高射砲並びに阻塞氣球は直ちにロンドンの東南地域に移されてロンドンの防備地點に配置され、直ちに活動を開始、最初の二十四時間内に流星彈多數を撃碎したのである、流星彈は時速三百五十哩乃至四百哩の高速で飛翔し、しかも敵側はこれを連續的に發射したが、特に曇天を利用して集中攻撃を行ふといふ風であつた、或る曇天の日の如きは二十四時間に二百個といふ多數の流星彈を發射した、流星彈は低空を飛翔するので、高射砲はあまり效果を收めることが出來なかつた

またロンドン市外郭地區には約五百の阻塞氣球を浮揚したが、流星彈は阻塞氣球の下をくぐりぬけるので氣球を地上から約二千米までに引き降した、勿論阻塞氣球なるものは最後の防備線でありその役割は前面に配屬された戰鬪機隊と高射砲隊のとり逃した獲物を手に入れるといふことにあるのだが、氣球隊の貢獻は決して僅少なものではない、阻塞氣球地域に侵入した流星彈の内十五パーセントが撃墜されてゐる

一方高射砲隊は米英軍の歐洲侵攻作戰前には各地の港灣並びに南部及び西部の重要地域に多數配置されてゐたのだが、流星彈攻撃の開始と同時にメイドストーンからイースト・グリンステツドに至る地域に浮揚された阻塞氣球の南側の各地點に移動した、しかして、七月中旬に至り大英斷をもつて、全高射砲隊を沿岸地帶に移動させることに決定したが、これは流星彈に對する視界を一段と擴大するために採られた措置だつた、かくて、高射砲隊は全面的活動を開始するに至り、活動開始後の一週間内には高射砲隊地區に侵入した流星彈の内の十七パーセントを撃墜したが、昨週の成績は七十四パーセントといふ數字を示してゐる、高射砲陣は過去二ケ月半にわたり晝夜の別なく活動を繼續してゐる

次は戰鬪機についてであるが、流星彈の攻撃開始から二、三週間の内に戰鬪機隊は一千以上に上る流星彈を撃墜してゐるが、この戰鬪においてわが方の戰鬪機隊は種々の困難に直面した、特に速力といふ點が問題であつて、水平飛行で流星彈に追ひ付くことが出來るのは現在わが方の持つてゐる最も速い飛行機だけで、普通の飛行機では流星彈を邀撃するために數千呎の上空から急降下しなければならない、更に戰鬪機隊は四六時中海陸の上空を飛行して哨戒に當らねばならず一層困難な問題は流星彈の確認といふことだ、戰鬪機は數千呎下を高速度で飛翔する小型の物體即ち流星彈を發見するのに非常な困難を感じた、勿論陸上上空を流星彈が飛翔する場合には地上勤務員は無線電話をもつて戰鬪機操縱者に爆彈の進む方面を通告することも出來、夜間には流星彈の曳く火焰の尾によつて、その所在も判るわけだが、これを撃墜するためには戰鬪機の火砲は目標物から約三百碼のところで發射しなければ駄目だし、餘り近距離から攻撃を加へると流星彈の爆發によつて操縱者自身が一命を喪ふといふことになるわけだ、この問題は英國の科學者の關心の的となり、われわれとしては一時對策の發見に苦心し、無電を利用して各種の精密な實驗を行つたりした、この間、トーマス・マートン教授は操作が簡單で、しかも精巧な距離計を發明製作し問題を解決するに至つたこの計器は極めて簡單なもので、製作費も一シリングを出ない

流星彈攻撃は阻止し得ず

流星彈の攻撃開始以來の戰鬪機隊はすでに一千九百個以上の流星彈を撃墜してゐる、流星彈中の少數のものは夜間眞東の方向から英國本土に侵入した、この事實にわが方はやや不審を抱いた、何故なら、われわれの知れる限りではベルギー乃至オランダには流星彈の射出地が存在してゐなかつたからである、その後の情報によりこの爆彈は地上から射出されるものでなく、飛行機から射出されるものであることが判明した、即ち、ハインケル爆撃機に特殊裝置を施して北海の上空でこの爆彈を發射するといふことが立證された、これは地上から射出される流星彈より着彈が不正確であるこの種の攻撃はドイツ本土の飛行機から實施することが出來るものであり、これによつてわれわれは一般國民に對して流星彈の攻撃が完全に終熄すると斷定し得ないことになつた、しかし、將來とも流星彈攻撃が漸次小規模になるといふことだけは確言し得ると思ふ、攻撃開始以來の八十日間に敵側は八千以上の流星彈を發射してゐる、このうちの約二千三百がロンドン地區に侵入した、發射された爆彈のうちの二十五パーセントは着彈不正確であり、これ以外にも飛翔中海中に落下したものが多數あると考へられる、一部はノールフオーク或ひはノーザンプトン方面に流れ込んでゐる、他は高射砲隊、戰鬪機隊及び阻塞氣球隊の協力により撃墜され、第一週には約三十三パーセントが撃墜された

その後成績は一段と上り、射出された流星彈の七十パーセントは各種の防備施設により撃墜されロンドンに到達したものは九パーセントに過ぎぬ最高記錄を擧げたのは八月二十八日であつたが、當日英國本土に侵入せんとした流星彈百一個の内九十七個は撃墜され、ロンドンに侵入したものは僅々四個に過ぎなかつた、防備の充實に伴ひ死傷者數が減少するに至つたのは當然であつて、攻撃開始當時は流星彈一個に對し死者一名であつたのが、その後三個に對し死者一名といふことになつて來た、七月は五日間に亘りポーツマス並びにサザンプトンが連日攻撃されたが、大部分のものは海中或ひは人家の稀な地點に落下した、このことは目標に對して正確な攻撃を行ひ得ぬことを立證してゐる、攻撃の主要目標はロンドンであり、死者の中の約九十二パーセントはロンドン地區で生じたものである、また南岸地域で高射砲陣に依り撃墜されたものは數百に上るが、この中で人家の稠密な地域に落下したものは僅々十一個を出ぬ、米軍高射砲隊が南岸地區で撃墜した流星彈は全體數の八分の一といふことになつてゐる、米軍は最新式の兵器を英國軍の高射砲と併用したのである

わが方の爆撃機隊は昨年八月ピーネムンドの大爆撃を敢行し、米英兩航空部隊またドイツの祕密兵器に對し間斷なき戰鬪を續行してゐる、わが方の航空部隊が流星彈射出地點に投下した爆彈量は十萬トンに達したが、わが方の損害も皆無といふ譯ではなく、米英航空隊の喪失した飛行機は約四百五十機で、乘員の喪失は約二千九百名に上つてゐる、流星彈射出地に對する爆撃とともに祕密偵察も行はねばならぬのであるが、敵地にあるわが方の諜報機關は勿論、偵察機隊、寫眞班等は重要な役割を果した、流星彈の大ストツクがパリ近くの地下道或ひは洞窟内に隱匿されてゐるとの報告に基き、わが方の爆撃機隊はこれを襲つて破壞した、更に諜報機關はドイツ側が流星彈の隱匿場所を移動させてゐると報告して來たので、直ちにこれを叩くといふやうに間斷なく破壞の努力を續けてゐる、敵側は本年の一月にフランス沿岸に流星彈發射隊を配置して行動開始を待機してゐたのであるが、當時に攻撃が開始されてゐたなら、防禦側に立つわれわれは冬季の惡條件に禍されて、困難を極めたに相違ない、結局流星彈の活動を終止せしむるには發射地點を占領する以外に手段はないのだが、米英軍のフランス上陸に依つて、ここ二、三日間この手段が現實化されるに至つた、ロンドン南方の諸地域で流星彈の侵入に活躍した高射砲は英國側の二千八百門、これに米軍の二十個高射砲隊が加はつた、最高記錄は二十四時間に高射砲隊が六萬四千發の彈丸を發射したことだ、しかして兩高射砲隊が現在までに撃墜した流星彈は一千五百六十に上つてゐる、なほ戰鬪機で流星彈の撃墜に活動したのはテンペスト、ムスタング及び最新型スピツトファイアー戰鬪機であるとは空軍中將ロデリツク・ヒルの言明である、なほ、阻塞氣球隊司令官空軍少將ジルの言明によれば阻塞氣球に衝突してロンドン地區への侵入を阻まれた流星彈は二百七十九個であつたといはれる

第二戰線への補給

「タイム」誌九月二十五日號

上陸開始以來百日の間に百萬米トン以上の補給品並びに十萬以上の車輛がフランスに輸送されたしかもこれらの物資は飛行機、トラック、送油管鐵道等によつて快速の進撃を續ける反樞軸の機甲部隊、歩兵部隊に後から後からと送り屆けられたこの任務遂行に際し英軍は創意工夫によつて何の設備もない海濱を殆んど港灣と同じ位有用にするといふ新規軸を出した、米國海軍の技術家は無殘に破壞されたシエルブール港を修理して戰前の能力を遙かに超える設備を施した、米國陸軍工兵も海濱並びに前線の直ぐ後方で活躍した、道路建設班、修理班、鐵道班、トラック運轉班、石油班、空輸班等は戰線が推し進められるに從つて活動範圍を擴大した

先週ノルマンデイー沖に碇泊して荷物の陸揚げを待つてゐる貨物船の數は百隻を越えてゐた、そこへフランス海岸としては數年來最大の暴風雨が襲來した、素早い思ひ付によつて空船になつてゐた自由型船數十隻の船首及び船尾に錨が下され、船底の栓が拔かれた、かうして自沈した船で新しい防波堤が作られた

昭和十九年十月十八日(水)
第三二一三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

復舊後のシエルブール港の岸壁に初めて船が横付けになつてから數日を出でずして最初の列車が補給品を積んで發車した、先週にはもう毎日二十本の列車が出てゐた、埠頭、倉庫、起重機は新しく建設され、石油貯藏タンクは修理され、野天の貯藏所として數千平方碼のコンクリート敷地が作られた、かういふ藝當の行はれてゐる港灣及び海濱から、毎日百萬ガロン以上のガソリンを必要とし、しかもしよつちゆう住所を變へる慾張りなお客樣に補給品が送り届けられる、先週には既に七百哩送油管が敷設されてゐた、石油は送油管の終點から更に百哩先まで戰車かトラックで運ばれ、そこの配給所で五ガロン入りの鑵に詰め變へられ更に二トン半積のトラックで前線補給所に輸送される、だが、特別輸送も絶えず必要で、その際にはガソリンは歩兵輸送司令部のC四八型輸送機によつて直接前線に運ばれる、現在この大型飛行機は燃料その他重要補給品を積んで時としては最前線から僅か十五哩しかない狹い假發着場に十四秒に一臺の割合で着陸してゐる

遠からず輸送の負擔の大半は鐵道が引受けることとならう、だが、シエルブール港や海濱の陸揚場や送油管や輸送機があつたにしても「赤玉急行道路」がなかつたら、オマ・N・ブラツドレー中將の軍隊はあれ程早くドイツ領土に到着しなかつたであらう、この道路は片路道路で、シエルブールを起點とし、ほぼ南から東へ大きく迂回し、パリ東方數百哩の地點に出て、そこから更に往路と平行の線に沿つてシエルブールに戻る、この急行線上を約九千臺のトラツクが時速四十哩で日夜疾走してゐる、速力が重要だし獨軍飛行機は殆んど姿を現さないので夜はヘツドライトを煌々とつけてゐる、四十哩毎に修理班が駐屯し急速に修理を行ふ、數百碼毎に示標があり「赤玉輸送隊專用道路、他部隊使用禁止」と英語及び佛語で書いてある、英佛兩國の港と前線の軍隊を結び付けるかくの如き大規模な輸送組織によつて歐洲戰線の補給が行はれる、この輸送組織の采配を揮ふのはアイゼンハウアーの下の補給司令官ジョン・リフアード・ホツヂス・リーである

米英兩國の輸出貿易

「エコノミスト」誌九月九日號

ルーズヴエルトの報告中に發表された事實のうち最も意義深く、かつ英國人を最も驚かせたのは米英兩國輸出貿易の趨勢である、軍需品を除く英國の輸出は金額にして戰前の五割以上數量では七割も減少したのに、一九四四年上半期の米國輸出額は——一年にすると二十八億弗の割合だが——一九三四年から三八年に至る四年間の平均をやや上廻つてゐる、英國はそれ故輸出貿易では戰後米國に遙かに立遲れるであらう、英國の商船と對外投資が戰爭中に激減した事實を併せ考へれば、英國は重大な不利益の立場に立つわけだ、勿論ルーズヴエルトが外國貿易について事實を發表したのは戰爭終了の際における英國の經濟的地位と方針に對する一知半解の批評を抑制し武器貸與法に基く物資供給のうち或るものを削くとも對日戰終了まで繼續する必要を指摘するためであつた、ルーズヴエルトは議會に向つて米國工業はいづれにしても、極めて擴張された外國市場を有するに到ると斷言したが、同時に賢明にも「反樞軸國が購入物資の代金を支拂へるやうな」經濟政策の必要を強調した

平和物資の生産擴張についても米國の準備は英國より遙かに進捗してをり、既に實際に再轉換を開始してゐる、米國が戰時生産の餘力を全部平和産業に利用する權利を否定するわけにはゆかないしかしワシントンの共同委員會を通じ、英國が過剩戰時生産力の平和産業再轉換に或る程度參加し得るやうにするのは不可能ではあるまい、これは米英兩國戰力をどこまでも同一の割合で平和産業に再轉換すべしといふ意味ではなく、戰時生産計畫の縮少につき米英兩國間に不必要な時間の浪費や差別があるべきではないといふ意味である、英國の輸出貿易再開を不必要に遲延せしめたり、五年に亘る戰爭で物資の手持ちを次から次へと消費しかつ家屋に重大損害を蒙つた英國國民の緊急に必要とする物資の生産を理由もなく遲滯せしめたりするのは、米國大統領自身の發表した事實からいつても正當ではない

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月十九日(木)　第三二一四號

同盟通信　海外電報　(240)

昭和發行人　鈴木勇伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

【目　次】

バルカンを繞る英ソの確執……二三九八
イラン、石油交渉を拒否……〃
國際協力は痴人の夢……二三九九
洪裏切りを未然に阻止……〃
【樞軸國】
ホルティ議會に聲明……二四〇〇
ハンガリー擁政並びに內閣更迭……〃
新政府國民に布告……〃
一部裏切分子の策動……二四〇〇—二四〇一
【米國】
混亂から默認へ……二四〇一
陸軍航空隊の配置現狀……〃
「紐育タイムズ」紙ル大統領を支持……二四〇二
投票率激減せん……〃
【反樞軸陣營】
紛爭解決の基礎……〃
東南アジア反樞軸航空司令任命……〃
【ドイツ】
ゲーリング元帥新兵器工場を激勵……二四〇三
ベルリン各紙大戰果を絶讃……〃
【東南歐】
勃牙戰委員モスクワ到着……〃
羅政權の內訌深刻……〃
羅傀儡軍總司令任命……〃
【イタリア】
ファシスト黨本部をミラノへ……〃
ボノミ政權外交代表を任命……〃
【南伊】
【北歐】
英國委員もヘルシンキ到着……二四〇四
【西亞】
トランスジョルダン首相拄冠……〃
【軍事情報】
對戰車新火器……〃
【資料】
勞働の蒸發……二四〇五—二四〇八
週間特輯……二四〇九—二四一六

社告　海外電報版は創刊以來茲に一年有半を閱しました、その間戰局は愈々重大化し國際政局の正しい認識は益々必要となりました、現在同盟通信社が毎日入手する外電は英文で無慮十二萬語に達し、世界の現勢を傳へて略々餘蘊なきに庶幾いのであります以上の貴重な情報を咀嚼し編輯して公私多端な諸賢に一瞥して錯綜する戰局と複雜な政局とを洞察出來る便宜を提供することが海外電報版の自負する使命であります、當初日刊八頁をもつて發程した海外電報版は今や十頁に膨脹するに至りましたが、豐富な情報を空しく高閣に束ねるに忍びず、來る十月廿三日號から日刊十四頁に增頁し、同時に紙幅を節約するため兩面刷と致します、大體日刊新聞三頁の分量で世界の動きは大となく小となく悉く羅して洩らさぬ方針であります、同時に世界主要人名錄の增訂版は豫定の期日よりも可成り遲れましたが、米洲篇(1)合衆國約五十頁が近く完成、海外電報版の新發程と相前後して御屆け出來る豫定です

世界の焦点

スエーデンの「ダーゲンス・ニヘター」紙ロンドン電報が十六日傳へるところによればポーランド、バルカン兩問題の解決と並んでチヤーチルのモスクワ訪問の主要任務はドイツ處理問題の解決にあるといふことだ、ドイツ經濟の處理に關してはドイツ工業の撲滅を主張する突飛なモーゲンソー案が飛び出して甲論乙駁の花を咲かせてゐるが、ドイツ領土の分割案についてはロンドンの歐洲諸問會議で旣に決定濟と傳へられてゐたにも拘らず、同紙の電報から判斷すると基礎的問題の解決すらもみてゐないやうだ

モスクワ會談でチヤーチルはライン地方の米英共同占領案を放棄して、ザール、ライン、ルールからキールに至る西部ドイツを英軍が占領、米軍はバヴアリア、ヴュルテンベルグ、バーデン等を押へ、ソ聯はリュベツクからエルベ河に沿つてマグデブルグ、ミュンヘンに至る東部を支配する案を提出する豫定といはれるが以上のドイツ三分案がソ聯のお氣に召すかどうかは保證の限りでない

しかしながらドイツを二分しようと三分しようと、反樞軸がドイツの國家的存在を抹殺しようと企圖してゐることは明瞭だ、ドイツは反樞軸陣營の皮算用を一笑に付して、生かしからずんば死の標語を高らに掲げて一路抗戰に邁進してゐるが、ハンガリーもまた一部裏切分子の策謀を未然に擊ち碎いて、戰爭完遂の決意を一段と固めたことは力强い極みだ、英國の諺に「惡魔と晩餐を共にする者は長い匙を使はねばならぬ」といふが、第二次大戰では劍以外に長い匙の入り込む隙はない

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

バルカンを繞る英ソの確執

(ストツクホルム十七日齋藤特派員發)ボーランド問題と並んで英ソ兩國間の最大懸案と目されてゐるのはバルカン問題だが、チトーがモスクワ出發の準備を進めてゐると傳へられるに及びモスクワ會談でバルカン問題が俎上に載せられるのは確實とみられるに至つた、地中海を英帝國の生命線と自認する英國が、ソ聯の一方的なバルカン進出に極度の不安を感じてゐることは赤軍のバルカン作戰への牽制措置とし兵力をギリシア、アルバニアに上陸させたことでも明瞭だが、チヤーチルとイーデンがモスクワ會談においてバルカン問題に關しスターリン議長と話し合ひを付けるのに成功するか否かによつて英國の地中海制覇が成るか成らぬかが決せられる事實に鑑み、恐らく英國にとつてはバルカン問題はポーランド問題以上に重要視されて然るべきものであらう

兩國間の根本的均衡の攪亂

英國新聞界もバルカン問題に對する英國政府の不安と焦躁を反映して最近熾んにソ聯の意圖を忖度したり、獨り合點のバルカン問題解決案を提唱してゐるが「タイムズ」紙が去る十三日の社說でバルカン政策に關する米英ソ三國の共同聲明を要求する傍ら米英ソその他の諸軍を打つて一丸とした最高司令部の設置を慫慂してゐるのも以上の事實を裏書するものといへよう、テヘラン會談ではギリシヤは英國の勢力圈内に入りソ聯はルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、ユーゴースラヴイアの諸國を支配することに決定をみたと傳へられるが英國に對するギリシヤ、トルコの友好的態度を前提とする東部及び中部地中海の安全は英國にとつて最も重要な要求であり、ルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、ユーゴースラヴイアの諸國がソ聯の安全保障體制内に收められる限りソ聯西部國境の安全は一應保障されよう、しかるに最近におけるバルカン戰局の進展は以上の英ソ兩國間の根本的均衡を一氣に攪亂し、英國のバルカン野望に重大脅威を與へてゐる、卽ち

一、赤軍とチトー軍の連絡樹立によりユーゴースラヴイアのチトー政權は完全にソ聯と協調することとなつた

二、ブルガリアの降伏によつて赤軍はギリシヤ領内に進出することが出來た

三、ソ聯はトルコに對しダーダネルス、ボスフオロス兩海峽の支配を要求してゐることだ、ギリシヤとユーゴースラヴイアはドイツ軍占領下に多大の打擊を受けてゐるばかりでなく兩國亡命政權の前途は必ずしも坦々たる大道を行くとはいひ難いが、兩國とも王政を復活し得るか否かの問題が事態を一段と紛糾させてゐる

第三次世界大戰を豫測

英國はユーゴー、ギリシヤ兩國を自國の勢力圈内に收めるためロンドンのペタール國王とエリザベス皇女の政略結婚を祕かに策してゐると傳へられるが、新ユーゴー政權が十中八九、ブルガリアユーゴー聯邦案を提唱するチトーの新ソ政權によつて代表されることは間違ひない、しかも以上のバルカン、スラヴ聯邦案がドデカネーゼ諸島、南部アルバニアの領土的要求を敢てし、北部トラキアの國境線修正を要求するものとみられるからギリシヤ、トルコ延いては英國にとつて重大脅威を意味しよう、以上のほかルーマニア、ブルガリア、ハンガリーの複雜な國境再確定問題が控へてをりモスクワ會談でチヤーチルは意識的にトルコ問題を回避して妥結を焦らうともバルカン問題を繞つて一波瀾は免れず「ダゲンスポステン」紙のごときは十四日の社說で

モスクワ會談の主要議題たるバルカン問題は第三次世界大戰の直接原因とならうといふ極端論を吐いてゐる位だ

イラン、石油交涉を拒否

(モスクワ十六日發)タス通信社のテヘラン電報は十六日次の通り報道してゐる

イラン政府は戰爭終了までソヴエト政府との間に石油利權について交涉することを一切拒否した、以上イラン政府の決定に對してはイラン新聞界の大半は反對であり、有利な條件で利權をソヴエト政府に提供することを要望してゐる輿論の動向にも相容れない

昭和十九年 十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

國際協力は
痴人の夢
長ロバート・レイノルズは十七日次の通り言明したたとへ各國が戰後の平和保障機構として新國際聯盟のごときを折角つくりあげたとしてもこれが失敗に終ることは不可避であり、米國はこれに備へて着々準備を進めておかねばならない、余のかかる悲觀的豫想は戰爭終了後十五年位は間違つてゐたかに見えるかも知れないが、終局的にはこの豫想は必らず的中するであらう、即ち余は諸國家間の聯合が平和を維持する能力があると信ずることが出來ないのであつて、米國の安泰を確保する唯一の途は戰後の大國防計畫の樹立であり、カリブ海、中部大西洋、英佛蘭領ギアナ、バーミユダ、アラスカ、太平洋における島嶼等にわたり米本土を圍繞する軍事基地の防壁線を建設しなければならぬ、今度の戰爭が終つた時米國は全世界に一つとして友邦のないことを發見すべく、これに對してソ聯は現在の情勢からみると歐洲の殆んど大部分の小國をその支配下に編入してしまふだらう

米、パラグアイ
油田獲得
(リスボン十七日發)ニユーヨーク來電=財界消息筋の漏らすところによればカリフオルニア州のユニオン石油會社は最近パラグアイ政府との間に協定を締結、同國グランチヤコ地域の油田開發利權を獲得したといはれる

洪裏切りを未然に阻止

(ベルリン十七日發)ドイツ外務省のボール・シユミツト博士は十七日正午記者團との會見でハンガリー新體制の確立につき次の通り述べた

× × ×

ドイツ軍當局においてはハンガリー國境線に兵力を增强した當時からブカレスト型の裏切りによりドイツ軍の後方が脅威されることがないやう十分警戒してゐたので、ハンガリー國内の裏切り分子が代表をモスクワに派遣したとか英・ソ兩國の手先きがブダペストに乘込んだ等の情報を逐一入手してゐた、しかしドイツ政府が應援するまでもなくハンガリー國内の少壯分子が未然に危機を阻止し、國内體制の根本的刷新を斷行したことは同慶に堪えない、國内の政情が絕對的に安定したばかりでなく軍事的にも安定したのでドイツ軍、ハンガリー軍は後顧の憂なく前線に出動出來よう

ホルテイ提督の行動については言及することを好まないが、ボルシエヴイーキの壓制から祖國を救つた當時のことを忘れるに至つたのでハンガリー國民が起つて少壯氣鋭の士に後事を託したわけだ、同提督は十五日ブダペスト放送局を通じハンガリー軍に對し敗戰主義的聲明を出したことになつてゐるが、爾後右聲明の無效を宣言、首相ラカトス上級大將を罷免してザラシー氏に新體制の確立を委囑したのだから今後新内閣のもとにハンガリー國民は擧國一致總力の動員に邁進すると期待される

ヒムラー氏
洪都乘込みか
(リスボン十七日發)ブカレスト來電によればドイツ親衛隊長ヒムラー氏は十七日ブタペストに乘り込んだといはれる

ハンガリー軍
司令官更迭
(ブダペスト十七日發)ハンガリー新攝政フエレンツ・ザラシー氏は非常大權に基きハンガリー第一軍並びに第二軍司令の更迭を斷行したが、右更迭について當局は十七日次の通り發表した

新攝政は非常大權に基き第一軍司令ベラ・ミクロス上級大將並びに第二軍司令ルドウイツヒ・ヴエレス中將を罷免し第一軍司令の後任に參謀總長代理デンデ・ラスロ中將を第二軍司令にはオイゲン・マショール中將を任命した、ミクロス上級大將は參謀長ケリー大佐とともに數ケ月に亘り第一軍の公金を費消し最近參謀長、婦人祕書などと共に赤軍に投降した

矢十字黨は政黨
禁令から除外
(ブダペスト十七日發)ハンガリー内相は十七日次の法令を公布したハンガリー政府は過般國内における一切の政黨活動を禁止したが、新政府は矢十字黨を右禁令から除外するに決定し同黨の財産は返還した

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ハンガリーの事態が明瞭となつた結果われわれの豫想が適中してゐたことが完全に裏書されたハンガリーの國家主義分子は國内極少數の裏切分子の策動を當にしてゐた反樞軸の惡辣な計畫を覆へし、ハンガリー國民及びハンガリー軍は東方からの脅威に對しドイツと共に飽くまで戰ひ拔く決意を表明して、歐洲における自由なる國家としてのハンガリーの存在を斷乎確保する使命に忠誠を誓つたのである、他方ホルテイ提督が攝政の職を辭する旨聲明したことは或る種の誤解を一掃した、ホルテイ提督の聲明により提督の政策を覆へさうと圖つた裏切分子が十五日提督の布告を捏造してブダペスト放送局を通じて放送したことが明かにされた、但しハンガリー國民を破局に導く惧れのあつた事態に對する責任の所在は未だ判然としないが、調査の結果前内閣がどの程度まで以上の責任を負ふべきかは間もなく明瞭とならう

【米國】混亂から默認へ
—米當局否定せず—

(ストツクホルム十六日發)スエーデン各紙のニユーヨーク電報によれば、米國民現在の關心はただ一つ臺灣沖の戰に集注されてゐるが、米國當局の發表がしどろもどろで全く判斷に迷つてゐる樣子だ、當初眞珠灣司令部の發表ではマーク・ミツチエル麾下の第五十八機動部隊が臺灣を攻撃し「戰果」を收めたといふことであつたが、爾後二十四時間一切の報道は禁止されて了つた、眞珠灣基地で記者團が司令長官ニミツツに對して詰め寄つたところ、ニミツツは「日本大本營の發表についてはいまだ何ら確報がない、但し米國艦隊は臺灣沖で日本軍航空隊の極めて熾烈な攻撃を受けてゐる」と曖昧な答辯でお茶を濁した、しかし二十四時間の發表禁止時間が過ぎるや、米國各紙は一齊に日本大本營の發表を掲載し始めAP、UPは勿論前線に對する米國陸軍省の電信同報まで日本大本營發表を殆んど全文採入れて米國海軍の大敗北を間接に確認した態だ、米國政府が從來の慣例を破り日本大本營の發表を否定しない事實からも米國民は略々戰況の不利を推定してゐる樣子だがなほ眞珠灣からの公報に一縷の希望を繋いでゐる樣子だ、滑稽なのは米國陸軍省が恐らく國民の注意を外らすためB29機隊の臺灣第二次攻撃を發表してゐることだが、米國民はかかるごまかしには乘らず、眞珠灣からのUP電報は十六日次の通り報道してゐる

西太平洋の戰ひは七日目に入つた、B29機隊は再び港灣を叩いたが、米軍第三艦隊は目下日本軍航空隊との間に激戰を交へてゐる樣子だ、東京電報によれば日本軍海上部隊も出撃してゐるといふが、確報はないが事實らしい、有力な日本軍航空部隊が第三艦隊に反撃を加へてゐることは既に報道した通りだ

米國陸軍省の電信同報も

ニミツツが十五日有力な日本軍航空隊の攻撃で十三日以來激戰が繼續されてゐる旨述べて以來臺灣沖の戰ひについては米軍筋から全然報道がない

と述べてゐる

陸軍航空隊の配置現狀

(リスボン十五日發)英航空雜誌「エヤロプレイン」九月一日號は米國陸軍航空隊の配置現狀を次の通り述べてゐる

第一航空隊　米本國東海岸
第二〃　〃　中西部
第三〃　〃　南部
第四〃　〃　西海岸
第五〃　ニユーギニア
第六〃　カリブ海
第七〃　ハワイ
第八〃　英國、西歐洲、ソ聯、イタリアを基地とする短距離爆撃機隊
第九〃　英國、西歐洲
第十〃　印度、西亞
第十一〃　アラスカ、アリユーシヤン
第十二〃　北阿、南佛
第十三〃　南太平洋
第十四〃　支那、ビルマ、印度
第十五〃　イタリア、バルカン
第十六〃　全世界の爆撃作戰

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

「紐育タイムズ」紙ル大統領支持

(リスボン十六日發)「ニューヨーク・タイムズ」紙は十六日の社説において大統領選擧戰をとりあげ、內外兩政策からみてルーズヴエルトを支持する旨述べてゐるが、同紙は一九四〇年度の大統領選擧においてはウイルキーを支持してをり、今回ルーズヴエルト擁護に轉向したことは注目される、右社說の要旨次の通り

外交政策に關する才能、指導者としての經歷などからみてルーズヴエルトはかけがへがなく、しかもルーズヴエルトは和平問題についても非常に優れた見識を有してゐる、各國における彼の個人的信望は世界組織案の最初の實驗期において決定的な力を發揮することにならう、共和黨候補デユウイは內政諸問題について民主黨の諸提案と相異した提案もまた新しい案も呈示してゐない、一體內政問題は外交問題の影響をうけるものであり、諸外國の現在の情勢を無視して內政問題を解決することは出來ない、更に共和黨は最大の內政問題である關稅問題について國務長官ハルの多角的貿易協定案に反對してゐるが、同計畫は極めて建設的な案である、要するにデユウイは外交政策について明瞭な見解を有してゐない、かくてわれわれは共和黨とデユウイより民主黨とルーズヴエルトを選ぶ方が賢明だといふ結論に到達するなほ「ニューヨーク・タイムズ」紙は一九三二、六年度大統領選擧ではルーズヴエルトを支持した

投票率激減せん

(リスボン十五日發)英國新聞「ニューズ・クロニクル」紙は來るべき米國大統領選擧における投票豫想につき次の通り報道してゐる

最近ギヤラツプ輿論調査所が行つた調査の結果によると、出征將兵の投票は除き、今度の選擧における投票總數は三千百五十萬程度にとどまるだらうといはれる、一九四〇年の選擧におけゐ投票總數は五千二百萬票だつたが、ギヤラツプ調査が正しく、今度の選擧でかくの如く投票が激減するとすれば、情勢は共和黨に頗る有利である、何故なら棄權者の大部分は勞働者乃至下層階級のものと推定されるが、民主黨支持の主要勢力はこれらの階級にあるからである、なほ本年一月一日現在の調査によると米國における有權者總數は八千八百六十萬であつた

【反樞軸陣營】

紛爭解決の基礎

(モスクワ十六日發)英國首相チヤーチルはスターリン議長とソ波兩國の紛爭解決に努めると同時に、歐洲戰爭に對する方策を協議してゐる樣子で十六日は英軍參謀總長元帥アラン・ブルツク、幕僚長大將ヘスチングス・イスメーとともにスターリン議長、モスクワ駐劄米國軍事使節少將ラツセル・デーン、英國軍事使節中將ブロカス・パロース等と會談を遂げた、一方、亡命ポーランド首相ミコライチクは外相ロメール、國會議長グラブスキーとともに十六日午前英國大使館に英外相イーデンを訪問して長時間に亘り協議を遂げ、終つてイーデン、ロメール兩人は米國大使ハリマンと會談した

確聞するに亡命ポーランド政權代表はルブリン政權との會談に同意、目下統合政權に對する代表比率につき揉み合つてゐると傳へられるが、ミコライチク等亡命政權代表は愈々ルブリン政權代表と會見して最後的交涉に入る段取だが、十六日はまだ右會見が實現しない

東南アジア反樞軸航空司令任命

(ストツクホルム十五日發)ロンドン來電=英國空軍省は歐洲侵攻反樞軸空軍總司令官軍大將トラフオード・レイ・マローンが今回東南アジア反樞軸軍航空司令官に任命された旨十五日發表した

英國政府はさきに東洋艦隊司令長官にフレーザーを任命してをり、これに續く英國空軍第一線の指導的人物を東亞戰域に配したことは、英國が既に歐洲戰の早期終了を豫想し、米國軍と協力して着々對日攻勢作戰の態勢を整備しつつあることを示すものとされてゐる

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【ドイツ】

ゲーリング元帥新兵器工場を激勵

(ベルリン十四日發)ゲーリング國家元帥はドイツ戰鬪機隊並びにその基地を視察中、十四日中部ドイツに新しく建設された巨大な兵器工場を訪問して大要次の如き挨拶を述べた

反樞軸軍はドイツ軍に對し全力を擧げて攻撃を集中することにより今月中にドイツを破らうと企圖したが、これは挫折した、世界の三大強國米・英・ソ聯は今やわが國民、わが國土に對し總攻撃を加へてゐるが、彼らが總力を擧げて集中攻撃を加へても勝利は得られないであらう、如何に反樞軸軍の共同作戰をもつてしてもドイツを破ることが出來ないといふことを證明すれば、必ずドイツは勝利を獲得するであらう、萬一反樞軸軍がドイツ擊破に成功した場合、米・英兩國がドイツ統治に當つてその赤化を阻止出來ると假定するのは非常に危險な話だ、しかし差當り彼らはドイツを擊滅しようとする點に意見一致してをり、反樞軸諸國內の不和を過大評價することも危險である

ドイツ國內の問題は今後更に困難となるであらうが、反樞軸軍がドイツに加へようとする運命から逃れる道は三つあり、銃後の國民は働いて働いて働き拔くこと、一方全力を擧げて兵器を增産すること、更に前線の戰鬪員は今までよりも一層頑强に戰ふこと、これである、われわれは今ソヴエトの地方やフランスまたはベルギーの都市を守つてゐるのではなく、ドイツの防衛に當つてゐるのだ

全世界の人がドイツ人は如何にして祖國を防衛するかを知る時が必ず訪れるだらう、余はわれわれが祖國の防衛に成功するだらうことを確信してゐる、それはわれわれの不動の意思であるから

ベルリン各紙大戰果を絶讃

(ベルリン十六日發)十六日のベルリン各紙は臺灣沖航空戰に關する大本營の戰果發表を大々的に揭載「十月十三日の金曜日は米國海軍の厄日とならう」とか「日本要塞內線を擊破せんとした米國最初の大掛りな企圖は微塵に粉碎された」と論評を加へて、日本海軍の果斷な反擊と大戰果を絶讃してゐる

【東南歐】

勃休戰委員モスクワ到着

(モスクワ十六日發)タス通信社は十六日次の通り報道してゐる

米・英・ソ三國政府と本格的休戰條件協議のため十六日ブルガリア政府代表がモスクワに到着した、代表團は外相ペトコ・スタイノフ並びに閣僚三名陸海軍事專門委員數名から成つてゐる

羅政權の內訌深刻

(ブダペスト十五日發)ルーマニア裏切り政權の內訌は愈深刻を加へ、十五日ブカレストからの電報によれば、內相アウレル・アルデス、藏相ゲオルゲ・ポトペアヌ、勞働相兼保健相ニコライ・マリネスコ、農相デイミトル・ネゲルの四名は旣に二週間前に辭表を提出した法相アウレリアン・カパトルナに次いで急進政策に反對して辭意を表明したと傳へられる、更にルーマニア最高會議々員マニユー並びにブラチアノは國王ミハイ一世に對し現政權の左傾政策を論難したが、國王はいまだ何等の決定に達しないといはれる

羅傀儡軍總司令任命

(リスボン十六日發)ブカレスト來電=ルーマニア駐屯赤軍當局は十六日マチチ大將をルーマニア傀儡軍總司令官に任命した

【イタリア】

ファシスト黨本部をミラノへ

(ベルリン十六日發)ミラノ來電=ファシスト共和黨は今回本部をミラノに移轉した

【南伊】

ボノミ政權外交代表を任命

(リスボン十六日發)ローマ來電によればボノミ政權は今般各中立國駐剳外交代表を次の通り任命したといはれる

アンカラ駐剳大使　ジユリアン・ゴラ
マドリード駐剳大使　ガララチ・スコチ侯
リスボン駐剳公使　アルベルト・ロツシ・ロンジ侯
ストツクホルム駐剳公使　ジヤンバテイスタ・グアルナシエリ

昭和十九年 十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【北　歐】

英國委員も ヘルシンキ到着

(ストツクホルム十六日發)「ストツクホルム・チドニンゲン」紙の報道によれば反樞軸フインランド監視委員會の英人代表は十四日空路ヘルシンキに到着したといはれるが、右代表は嘗つてフインランド國内で貿易に從事した實業家を交へ三十名である

【西　亞】

トランスジヨルダン首相挂冠

(リスボン十五日發)エルサレム來電＝トランスジヨルダン首相テウフイツク・パシヤ・アブルフダは十四日辭任した

【軍事情報】

對戰車新火器

(ベルリン樽井特派員十四日發)ドイツ新兵器戰隊の特殊任務とは何か、銃は持たぬがその戰鬪狀況の多樣性から訓練が武器百般に亘ることは勿論で、この特殊戰隊を構成する隊員の大部分は機械の製作修繕に心得のある工員出身者だから、近接戰鬪に必要な七つ道具は各兵士の創意と工夫によつて揃へられる、例へば兵隊の誰もが欲しがる自動小銃などは部分品を手製で組立て、その裝塡部を木片で間に合すなど巧妙を極め、しかも資材は節約になる、この點ソ聯兵も同じ器用さを持つてゐることはかつて戰線視察の際目擊したが武器の簡素化は歐洲戰場における一つの注目すべき傾向といへよう、ドイツの新兵器として革命的な武力を發揮しつつあるパンツアシユレツクやパンツアフアウストはその最適例だ、この兩兵器は構造上の相違こそあれV一號、煙幕ロケツト彈、滯空ロケツト彈などと同じくロケツト推進の新兵器で、砲彈に推進力を與へるための高價な砲身は最早無用の長物となつた感があり、火器の將來は完全なロケツト時代になることが豫想される、もつとも命中精度は從來の砲兵火器に及ばぬがこの缺點は强烈な火藥の破壞力によつて或る程度補はれる

パンツアシユレツクの構造

ではドイツ新兵器たるパンツアシユレツクはどんな構造を持つてゐるか、その仕掛は馬鹿馬鹿しいほど素朴簡單を極め、一・四米ばかりの圓筒がその主要部分だ、發射筒には簡單な照準器と火傷を防ぐためのブリキの楯が付いてゐる、その使用法に至つては二時間位の訓練でたれでも呑込める程度だが問題はロケツト砲彈の性能だ、パンツアシユレツク戰車脅威のロケツト彈について說明するとその型はほぼ迫擊砲彈と同じく、長さ八十糎直徑は炸裂部が十糎ほどである、ロケツト彈の尖端には信管、その後には金屬部、その後に炸裂部更にその後がロケツト裝置で、最後部には尾や翼電流接觸用のソケツトがついてゐる、發射筒の操作は普通二人がかりだが、倚託部があれば一人でも間に合ふ、この發射筒の後方からロケツト彈を裝塡し彈底の電線を圓筒の基部に接續する、射手が照準を着けて引金を放つと電流によりロケツト火藥に點火し、ロケツト彈が發射される、つまり發射操作は懷中電燈を點ずるのと變らない、晝間は圓筒の前後から物凄い轟音とともに噴霧狀の焰を發し、夜間にはそれが紅色の焰となつて暗の幕に映ず、發射の際の反動は筒の後方が筒拔けだから小銃位なものだ、ロケツトは彈道を曳いて敵戰車の橫腹に喰つき、その尖端の粘着性金屬部は鋼板〇〇粍を熔解せしめる、その瞬間にロケツト彈は戰車内に喰込み爆發する、發射筒はその衝擊によつて多少熱くなるが連續裝塡も不可能ではない

パンツアフアウストの貫徹力

パンツアフアウスト(戰車拳骨)もパンツアシユレツクと全く同じ原理だが、前者の有效射距離が百五十米にも及ぶのに反し後者は五十米に過ぎない、しかしその貫徹力は射程五十米以内でパンツアシユレツクより約二割五分方優れてゐる、ロケツト式對戰車兵器は從來の對戰車砲に較べて持運びに便利でしかも咄嗟の使用が可能で、安價に大量生產し得る點が有利である、ドイツは今回新たに編成された國民擲彈師團にこの新兵器を使用せしめる筈だといふが、敵米英の恃みとする物量に對し、この輕便な兵器がいかなる威力を示すかはドイツ國民の等しく期待してゐるところだ

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

資料

勞働の蒸發

「ウオールストリート・ジヤーナル」紙
七月五日號

ワシントンの政府當局者は最近特に顯著となつて來た勞働力の新問題「勞働の蒸發」といふ新現象に頭を惱まし初めた、この新現象は軍需生産の削減や注文の取消しが頻々として行はれ、大規模な軍需産業再轉換の時期が迫ると共に益々顯著となり、軍需生産問題を愈々複雜化する一方では勞働力不足の大きな原因となつてゐる、この「勞働の蒸發」といふ現象は勞働者が一度その職をやめると勞働市場から完全に姿を消してしまふ傾向である、具體的な例をあげるならば、たとへばある町で五十名の鑄鐵工が職を離れたとする、この場合にこの町から二十哩程距つたところにある一工場が鑄鐵工五十名を雇入れることは理論的に可能の筈である、しかるに實際募集廣告を出してみるとこれに應募するのは二十五名乃至三十名に過ぎず、殘りの二十五名乃至二十名は「蒸發」してしまふのである、ある地方では軍需注文の取消しのため數千名の勞働者を解雇したことがあるが、六週間足らずの間に再び新規の發注を受けて勞働者を再雇傭しようとしたところ應募勞働者が殆んどなくて大いに困つたといふやうなこともあつた

勞働蒸發の原因

かくのごとく戰時勞働の第一線から姿を消してしまふ勞働者は一體何處へ行くかといふに、その行先は大體次の三つに分けることが出來よう、第一は戰時にはあまり重要でないが將來性のある平和産業に就職する者である、第二は深刻な勞働力不足の地域を去つて故郷に歸る者である、第三は完全に勞働市場から足を洗ふ者で、これは家庭に歸つてゆく女子勞働者に特に多い

この勞働蒸發現象に當面して最も頭を惱ましてゐる政府の部局は三つある、即ち陸海軍は生産計畫の變更によつて軍需注文の解約乃至は削減を行ひ、この結果一時的には勞働者は解雇されるが新軍需注文の行はれることは當然豫想されるところであり、この際忽ちにして勞働者の不足に直面しなければならぬといふ惱みを持つてゐる、一方戰時生産局ではかくのごとく勞働力の需給關係に激變ある時は軍需産業の再轉換工作が全面的に混亂狀態に陷るより他ないと心配してゐる、さらに戰時人的資源委員會は勞働力を最も緊急な産業部門に振りあてんとするその立場上勞働力の蒸發には最も惱まされてゐるが、最近實施された全國的な勞働力優先配給制度によつてこの難問題を解決せんとしてゐるやうだ、しかしながら專門家の間には果してこの制度が所期のごとき效果をあげ得るかについては悲觀的觀測を下してゐる者多く、第一に現在のやうな貧弱な職業紹介機構をもつてしては勞働力需給の圓滑な調整の期しえられないのは當然であり、第二に勞働力優先配給制度も軍需産業から解放された勞働者が新しい職業に落着くまでに勞働市場をあせり歩くのを防ぐことは出來まいとの態度をとつてゐる、全國各都市について調査したところによると生産の削減によつて一度軍需産業から解放された勞働者をさらに緊急な仕事に從事させることは極めて困難なことが判明した、開戰以來米國には高額の賃金と愛國心とによつて大きな熟練勞働力を生じたが、この折角の勞働力も何等か特別な措置を講じない限り忽ちにして雲散霧消してしまふ恐れがある

困難增大せん

勞働力需給問題をさらに複雜、困難にしてゐるのは軍需生産の削減によつて解放される勞働者の技能と、新軍需生産計畫の要求する勞働者の技能とが多くの場合一致しないことである、たとへば十名の男子鑄鐵工が必要な場合に、百名の女子熔接工がゐたところでこれは決して問題の解決とはならない、また十名の熟練機械工を必要とする時に百名の自動車運轉手が遊んでゐたところでこれまた問題は解決されない

政府當局の主張するところによれば米國の當面してゐる深刻な人的資源問題は勞働力の全般的不足ではなくて、寧ろ特殊な熟練勞働力の不足にあり、特に「きたない骨の折れる仕事」とされてゐる産業部門においてこの不足が著しい、もつともその罪は勞働者のみに歸せらるべきでなく、某軍需生産擔當者が指摘したごとく「これは一概に勞働者が愛國心を失つた結果だと斷定することは出來ない、その根本原因は米國の經濟機構に求めらるべきで利潤の追求を第一義とする現機構の下では不可避の現象だ、そして利潤を追求して行動するのは勞働者ばかりでなく、資本家も同じことだ勞働者も資本家もその從事してゐる産業が割の合はないことを發見した場合これを放棄するのは當然のことである」ワシントン政界ではこの「勞働の蒸發」を防止する唯一の方法は軍需産業の削減が豫想される場合には豫め新産業を用意しておいて、彼等をそつくりその儘新産業に吸收するにあると主張してゐる者がある、彼等の意見によればこの方法をとらぬ限り熟練勞働者が勞働市場から消えてなくなることを防ぎ得ないだらうといはれる者があるが、この見解によるともし棄權率が意外に多く投票者數が四千五百萬乃至それ以下の場合には(なほ一九四〇年の選擧の時の投票總數は四千九百五十萬だつた)ルーズヴエルトの落選する可能性が非常に多い、しかして棄權率を多くする原因としては二つのことが考へられる、その一つは一般有權者の選擧に對する關心が低下する場合で、この選擧にあまり關心を持たぬ者の間にどちらかといへばデユウイよりルーズヴエルトに投票しようと思つてゐる者が多いのだ、今一つの原因は出征將兵及び勞働者階級の投票の少いことであり、將兵の投票を確保するためには將兵投票法が制定されてゐるけれどもあまり大きな效果は期待出來ず、また勞働者のうちにも職業を求めて最近選擧區を離れた者多く、これまた選擧權を行使出來ない立場におかれてゐる

瑞典紙の米大統領選擧戰觀

「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙十月二日

米國大統領選擧戰は選擧を五週間の後に控へて今や第二段階に入つた、選擧の最終的歸趨に對する觀測は米國政界消息通の間でも大いに異なり、ある人々はルーズヴエルトが決定的に有利であると斷ずるに對して、他の人々はデユウイに凱歌のあがる可能性が增して來たといつてゐる、選擧の見透しについての色々な輿論調査が、しきりに行はれてゐるが、これ等の調査によると重要な問題についてはルーズヴエルトの人氣が依然としてデユウイを凌いでゐるのに對して、米國新聞の壓倒的多數はデユウイを支持してゐる、ルーズヴエルトの選擧參謀のうちには選擧棄權率の多いことが彼にとつて一番不利なことだとの意見を拘いてゐる

「ニユーヨーク・タイムズ」紙のアーサー・クロツクはルーズヴエルトの反對派だが、彼は選擧の見透しについて最近次のやうな見解を發表した

もしデユウイが勝つとするならばその最大の原因は選擧民の大多數が政府の更迭を希望し、一方ではルーズヴエルトが四期の長きにわたつて政權を掌握するのを恐れることに求められるべきだらう、さればもしこの希望と恐怖とが十一月の選擧の時までに大いに增加するならば、民主黨側において如何に巧妙な選擧作戰に出ようとも、またルーズヴエルトが如何に大童となつて選擧演說を行はうとも選擧の大勢を覆へすことは出來まい、この場合には投票率が多からうとも、或ひは少からうともルーズヴエルトの敗北は決定的である、しかるにこれに反して、ルーズヴエルトが彼を前回の選擧の時に支持した有權者の大部分の選擧に對する關心を冷却せしめず出來るだけ多く投票させるに成功したならば前述したやうな傾向は現れず、彼の再選が確保されることとならう、一九四〇年の選擧の際にルーズヴエルトを支持した選擧有權者のうちでは黑人、炭坑夫組合員及び鐵道友愛會員が最も大きな集團である

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

しかるに彼にとつては極めて不幸にも黒人のうちには軍需勞働者として選擧區を離れて投票權を失つた者多く、また炭坑夫組合はルーズヴエルトを不倶戴天の敵とするジョン・ルイスの指導下に現在では極めて著しい反ルーズヴエルトの色彩を示してをり、更にまた鐵道友愛會の場合には會員の多數が轉業してゐる、かくてルーズヴエルトは前回の選擧ではその壓倒的支持を得たこの三つの集團を今度は殆んど失つてしまつたわけだが、推定によれば彼がその當選を確實ならしめるためには、少くとも組織勞働者の七十五パーセント、黒人の八十五パーセントの投票を得なければならぬとされてをり、一九四〇年には彼は組織勞働者の殆んど九十パーセント、黒人の九十五パーセントもの投票を得て當選したと推定される、しかるに共和黨側の計算では今度の選擧にはルーズヴエルトはせいぜい組織勞働者の七十五パーセント、黒人の六十パーセント位の投票しか獲得出來ないだらうといはれる

「アフトン・チドニンゲン」紙十月二日

最近多數の新聞記者が選擧戰の動向を見るために全米を視察したが、彼等の意見によるとその十人のうち七人までがルーズヴエルトの勝利を豫想し、デユウイに形勢有利とみたのは僅か一人の割に過ぎなかつた、ルーズヴエルト有利とみる者達はいづれもデユウイが最近行つた全米の遊説旅行は彼の人氣をたかめるどころか却つて逆效果となつたといつてゐる、最近某輿論調査機關が行つた模擬選擧の結果によると、選擧人投票二百六十六票を得れば當選するところルーズヴエルトに集まつた投票數は二百九十に達した、地域的に見るとルーズヴエルト嫌ひの農民層の多い中西部地方は壓倒的にデユウイが優勢である、一方民主黨の金城湯池とされてゐる南部地方では民主黨内にごたごたがあるにも拘らず、依然としてルーズヴエルト支持が支配的である、太平洋岸諸州は選擧人投票三十六票を持つがこのうち少くとも三十三票まではルーズヴエルトに赴くだらう、カナダとの國境州は兩者の勢力伯仲だがどちらかといへば若干ルーズヴエルトに分がある、かくて選擧の決定權を握るのは東部諸州であるが、このうちでもニユーヨーク、ペンシルヴアニア、ニユージヤーシーマサチユーセツツ四州における選擧の結果こそ最終的な大統領選擧の勝敗を決定することとならうニユーヨーク州でルーズヴエルトが勝てば彼の當選はまづ問題なく確保される、更にたとへニユーヨーク州で敗れても、ペンシルヴアニア州で勝ちそれにニユージヤーシー、マサチユーセツツ兩州のいづれかを得ればこれまた彼の勝とならう、結局東部諸州においてはルーズヴエルトの方がやや優勢である

米國財界の描く夢

「エコノミスト」誌九月九日號

戰爭から平和に移る過渡期には實業界の思想も變化するが、變化の過程を通じ事件の進展に關する若干の假定と經濟的制限に對する若干の豫想とが現れて來た、これについては多くの刊行物が觸れてゐるが、一例を擧げると「ハーヴアード・ビジネス・レヴユー」誌最近號は次のやうな假定を下す根據を提供してゐる

第一 歐洲戰爭は本年秋に、太平洋戰爭は來年央に終結するであらう、復員と再轉換の行はれる平和の第一段階は一九四六年六月まで續き、その後「正常の十年間」が始まるであらう

第二 右の十年間世界の可及的安全を確保するため平和組織が作られるであらう、米國はこの組織に積極的に參加するが他國と釣合の取れぬほど大きな發言權は要求しない、これは反樞軸會議の經緯に鑑み確實な假定と言へよう、ハル國務長官は既に世界安全組織に關する米國の意向を表示して了つたのであるから、ルーズヴエルトとしてもこれを承認せぬわけには行くまい、デユウイの戰後經營案にしても同樣で、ただデユウイは中西部の彼の支持者——米國は戰爭によつてあけられた窓穴を再び塞ぎ、奇妙な外界をただ傍觀する立場に歸れるとまだ思つてゐる人々——を考慮して二三批評めいたことを言はねばならぬといふ點が異つてゐるに過ぎない

昭和十九年　十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

しかし外交問題でデユウイに主として助言を與へゐるのはダルズだが、ニューヨークの辯護士で國際協調主義者たるダルズは過去數年間國務省に出入し大體ハルと同一の意見を持つた人間だ

第三　民間事業の政府經營への轉換はこれ以上行はれぬであらう、これは現實といふよりもむしろ實業界の希望的觀測であらう、米國の選擧戰のやうに複雜な現象から本質的なものを抽出するのは困難だが、もし假りに現在民主、共和兩黨間に存在する思想的對立のうち最も支配的なものを擧げるとすれば、それは工業轉換により國民が受ける經濟的衝撃の緩和に聯邦政府機關がどの程度利用さるべきかの問題である、この點に關する實業界の立場は明瞭だ、過去數年間といふもの實業界は到るところの公道に「米國的生活樣式」を提唱する大きな立札を立て、この「樣式」は民間經營に對する政府の放任主義に外ならぬと主張した、勞働階級はこれに對しての「樣式」は「全國工業聯盟的生活樣式」に過ぎぬと騒ぎ立て、生産が減退する場合には民主々義政府は生産を促進する一方最も苦痛を感ずる人々の窮境を救ふべき旨を强調した、今年の議會で長いこと揉めたキルゴール對ジョージの論爭は、再轉換期間に失業者に與へる金額を續るものであつた、キルゴール案はこの金を聯邦政府が出すべきだとしてをり、ジョージ案は各州が支出することを主張する

第四　米國物價の平均水準は一九四二年の指數に近いものとならう、一九四二年の物價水準はこれに先立つ十年間に比較すると相當高い、これは從來のいかなる水準よりも——東の間の黃金時代だつた一九二〇年代よりも——高い賃金と生活水準を齎した、貿易の觀點から言ふとこれは米國實業界が戰後一般にデフレーション的傾向を示すと豫想される世界において米國は高價な商品を賣捌かねばならぬことを覺悟してゐるといふ意味だ、このことから一體米國實業界はこの頃よく新聞が華かな想像を描く戰後の世界市場で如何に競爭し如何に協調する考へであらうかといふ問題が起つて來る、これに對しては解答が出來ない、何故なら米國實業界はいまだこの問題をよく考へてみたことすらないからだ

第五　「正常な十年間」すなはち一九四六年から五六年に到る期間における米國の國民所得は平均年に一千百五十億弗から一千二百五十億弗に達しよう、これは略々中庸をとつた推定である、自由主義者連の見解では一千三百億弗の國民所得がないと適當な就業率と生活水準を實現出來ぬさうだ、しかし、一千百五十億弗から一千二百五十億弗といふ推定にしたところで相當高い水準であるから、米國實業界が戰後米國は相當樂な生活が出來ると思つてゐることは明かだ

第六　最後に實業界は聯邦政府の豫算が平衡化されると豫想してをり一般の見解によれば戰後の豫算は約二百億弗程度になるものとみられてゐる

流行性感冒の豫防接種

「ニューヨーク・タイムズ」紙
八月二十日

流行性感冒委員會は一九四二年十二月に流行性感冒研究を開始して感冒が猖獗を極めてゐた一九四四年一月に同研究を完了した、研究の末同委員會は流行性感冒の普通二種類、A型とB型は接種によつて豫防出來ると發表した、研究はトーマス・フランシス並びにジョナス・サルク兩博士直接指導下に行はれ、ミシガン州イプシランチ州立病院で實驗された、卽ち流行性感冒の患者をA型組とB型組に分けてワクチン注射を施し、注射を受けない者を標準とした、使用されたワクチンは流行性感冒A型並びにB型の病菌を含んでゐる、だが感冒委員會はこの感冒が實驗的に誘發されたに過ぎないとの理由から實驗が病院外で行はれるまでその好結果を發表する自信がなかつた、しかるに一九四四年一月イプシランチ州立病院內にA型感冒が流行したのではしなくも實驗の機會は與へられた、「結果は驚異的だつた」と委員會は發表してゐる

診斷未定病室と老衰者及び衰弱者の病室の患者は前年ワクチン注射を受けてゐなかつたため罹病率は約三十%であつたが、これと對照的に病院の他の患者の約半數は前年にワクチン注射を受けてゐたため流行性感冒の蔓延を見なかつた、しかもこのグループは附添人や患者によつてかなり病毒が撒かれた形跡があるにも拘らずこの結果だつたのだ、ワクチン注射は數ケ月間效果を維持する

昭和十九年 十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

☆週間特輯☆

ペタン政府其の後

井上勇

ヴイシー政府の行衞については八月半ば以來全く不明となり、ひとまづスイス寄り國境のヴオージュ縣の首邑、といつても人口僅に四萬人そこそこの田舍町ベルフオールに落付いたこと、ヴイシー出發間際の悲劇的な光景など新聞電報で傳へられた以外消息を絶つてゐたが九月三十日に至り突然ドイツのトランスオツエアン通信社エルンストカイザーの電報でそれ以後の便りが全世界にもたらされた

九月卅日フランス政府所在地にて

フランス亡命政權のその後の動靜については、八月下旬彼等がドイツ國境を渡つて以來、今日まで消息が絶たれてゐたが、漸くその實情をつへ得る日が來た、彼等の一部はストラルスブール一部はベルフオール經由で共にドイツ國内に亡命暫定的にバーデン、フライブールの兩地に落付いた、これ等の町及びフランス政府の所在地には、曾つてフランスの公的生活に重要役割をつとめたあまたの著名なフランス人が來住してゐる、ラヴアルとその夫人はペタン元帥と同じ家に住んでゐる、ラヴアルはその女婿ルネ・ド・シヤンブラン大尉と令嬢のジヨゼがパリでゴーリストの手で捕へられてゐたのが釋放されたといふ報せをうけとつたばかりのところである

フランス政府の所在地には法相のガボルド、勞働相のマルセル・デアもゐる、デアは夫人と甥とを帶同して來た、生産相のジヤン・ビシユロンヌもゐるが、同人は最近自動車事故で受けた傷がまだ全快せず、杖をついて歩いてゐる、文相のアベル・ボナール、國務次官元宣傳長官ポール・マリオン、實際上の政府代表であるフエルナン・ド・ブリノン大使、内相のジヨセフ・ダルナンもゐる彼は主として義勇軍關係の事務をみてゐる、新任の宣傳部長である高名な新聞人ジヤン・リユセールは夫人と三人の娘をつれて來てゐる、その一人がフランス映畫界の花形女優だつたコリンヌ・リユセールだ、著名な文人アルフオンス・ド・シヤトオブリアン、ラジオ解説者エヴアール・シユナイダー、歷史家ジヤン・エリチエなどは一緒になつて、フランス智識階級を目當ての特殊雜誌の刊行を計畫中である

日刊新聞への寄稿家も決して不足はない、リユシアン・ルバテ、クロード・ジヤンテ、ギ・クルーゼ、シヤルル・レスカなど錚々たる顔觸が揃つてゐる、このほかにも社會のあらゆる層から、己の確信に從ひ家庭と祖國とを後にして、その理想のために國外で鬪爭を續けるために色々な人物が來てゐる、これ等の人々の境涯は決して樂ではない、特に精神の糧にひどく困つてゐる、忽ち として故國を後にしたため、書物を持參するなどは思ひも及ばなかつたのである、その上にフランス國内の出來事についての情報がなく、假令あつてもこれを確める方法もない、そのことは別れて來た妻君、子供への思慕をなほさらにそそり立てる、ここに來てゐるフランス人たちの大部分のものにとつて最大の不安はフランスに殘した血族の運命の程合である

× × ×

この電報にある「政府」の言葉が、果して法律的に正しいかどうかは疑問であるが、曾つてのヴイシー政府構成要員のおよそ半ばが、ドイツ南部の某地に集まり、曾つてのパリ駐在ヴイシー政府代表ド・ブリノンを首班とし、フランス國民利益擁護委員會(Comitié national pour la protection des inté êt français)たるものを結成したことは事實である、ヴイシー政府首相ラヴアルはこの委員會には參加してゐない、委員會の目的は在ドイツ、フランス權益の保護にあるが、勞働者捕虜を加へれば三百萬人を下らないフランス人がドイツに在住し、その保護指導のみでも生易しい仕事でないことは明らかだ

ペタン元帥は、その一黨がヴイシー「憲法」をもつて唯一絶對の「フランス國家」建設の基礎と諒解してゐる限りにおいては何等そのフランス國主席の地位に變りはないと認むべきであらう、中立國の多くは九月中までにその承認を取消したが樞軸國はなほこの政府の正統性を否認してゐない

ただラヴァル内閣が、その構成員の半分以上をド・ゴール政權に捕縛され、または裏切り去られた今日、なほ實力政府たり得るか否か疑問でありラヴァルは同じく南獨に亡命してゐるフランス人民黨々首ジャツク・ドリオと共に、上記委員會に合流するのではないかと見られてゐる

南獨亡命フランス政客の中には以上の外に、OFI（フランス通信社）の社長になつたばかりだつたジャン・フオントノア、ブリドウ將軍などもゐる

フオントノアは南獨に新通信社を創立して、その通信第一號で「フランス政府の所在地における旅行列の記事」を發行、華々しく旗上げをしたと十月四日DNBが傳へてゐる、その他元「プチ・パリジアン」紙の主筆クロード・ジャンテは「ラ・フランス」紙を發行、元「ジュ・スウイ・パルツー」誌の主筆ギ・クルーゼも新聞を出すといはれ各々で新聞を持たねば承知せぬフランス人氣質を亡命先のドイツにまでも持込んで意氣捲いてゐるところは流石はである

通信社ついでにパリの通信界をみると、敗戰前のハヴアス通信社海外局長で、ヴイシーにOFIが出來ると共に通信界を去つたレオン・ロラン老がアジヤンス・フランセーズ・ド・ラ・プレスーフランス新聞通信社を創立して、ド・ゴール政府の補助金で店開きをしてゐる

目下は朝刊十三紙、夕刊三紙合計十六の新聞がパリのみで出てをり、戰前通りの色分けで最右翼は「オーブ」紙が承り、左翼は「ユマニテ」紙が止めをさしてゐるやうだ、十六紙の合計發行部數約六十萬、内三十六萬を「ユマニテ」と社會黨の「ポピュレール」が占めてゐるといへば大體の傾向は知るべしである、もつとも十月初旬情報局總裁テイトジヤンの言明では「紙はあと三週間分しかない」とのことで以後はどうなつたか判らない

國民利益擁護委員會

話を元に戻して、南獨に成立したフランス政府であるが、その正統性についてウイルヘルシユトラツセの代辯者は十月一日、次の如く語つてゐる

フランス國民利益擁護委員會の構成員は今後增加するかも知れない、しかしこの問題はフランス人自身、特にペタン主席の意志によりて決定さるべき性質のものであることはいふまでもない、ペタン元帥は目下ドイツ國内にゐるが元帥が正統なフランス主權の代表者であることは一九四〇年のフランス國民議會が元帥に付與した權限により明白である、フランス人は特に政治問題について、ものを合理的に考へる國民であり、ペタン元帥が健在であることはフランス國内にも重要な影響力を持つであらう、殊に現在フランス國内ではド・ゴールに對する民衆の反感が日々昂まりつつあるにおいておやであるド・ゴールが今後フランスの秩序を回復し得る能力のないことは既に明白だ

これによつてみれば、ドイツ政府はペタン主席の合法性については完全にこれを認めてゐるが、ラヴアル内閣が存續してゐるかどうかについては一抹の疑問を殘し、國民利益擁護委員會が、やがてラヴアル内閣に代る、フランスの正統政府となることを期待してゐるやうである

ドイツ通信社によつて、ペタン元帥の健在と新政府の母胎がドイツ國内に誕生したことを知つたパリの臨時政權は直ちにこれに應へて、十月四日ペタン元帥以下五十名のヴイシー政府要人を反逆罪及び對敵協力の罪に問ふため、特別軍事法廷の開設を決定、パリ軍政長官クニーグ將軍の名によつて六名の將官を法務官に任命した、パリ警視總監は同時にペタン元帥の行動に關する凡ゆる情報を集輯し、必要とあれば證人の喚問その他適宜の措置を取り得る特別權限を付與されたと、五日の「ス・ソアル」紙は報じてゐる

同じ四日、パリ新聞「今日」の主筆、フランス翰林院會員、元ナンシー選出代議士ジョージ・バレスも元帥と同じ罪で捕縛され、越えて五日にはグルノーブルで三名のフランス人が死刑の宣告をうけ、内一名は女性であつた、十六歳の學生一名は終身刑の言渡しをうけてゐる、五日ヴランスの軍法會議では五名、ヴイシー軍法會議ではドリオ黨員一名、保安警察隊員一名が同じく死刑を宣告され、ディーヌでは佐官一名が終身刑をうけた

ヴイシー政府もその成立當時、多量の政治的斷罪を決行し、ド・ゴールなども死刑宣告をうけた一人であるが、血を血で洗ふフランスの肅清は、政情の不安と共になほ今後も續くのであらう

昭和十九年 十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

飢えるフランス

井上勇

九月三日の「ラ・シュイス」紙のアネシー電はゴーリスト、共和國辨務官と名乘るイヴ・フアルジュなる人物の演説を載せてゐるが、その何者であるかは今のところ判明しないまでも、いつてゐるところは仲々含蓄があるので、要點を左に紹介する

現在のフランスの食糧危機の主因は運輸の梗塞である、フランス國内軍は、抗戰の旗を揭げて徒食するやからであつてはならぬ、働くか、または戰ふべしである、フランスは今その軍隊を養ふべき食糧もないのだ、フランス國内軍は無益な兵隊どつこにふけつて、國内交通を不必要に遮斷し、今日の食糧不足の重大な原因を作つた、ド・ゴール政府はそのほかに今日あまたの困難に逢着してゐるが、かかる困難に陷つた原因の内には米英軍がフランスに侵入以來、「時としてフランス國民を强奪」しつつあることも看過し得ない

强奪する米英軍

フランスは米英軍の侵入前は食糧は必ずしも十分とはいへなかつたまでも、決して飢えることはなかつた、その事は侵入軍と共にフランス、ベルギーの戰線に從軍した「デーリー・テレグラフ」紙の記者も語つてゐる

フランス、ベルギーの狀態は英國で考へてゐたよりも遙かに平常であつた、ドイツ軍による計畫的な工場、農園の破壞等は何處にもみられず、住民のドイツ人に對する反抗の氣配もなかつた、彼等は店舖に行けば、イギリスでよりは遙かに多くの色々なものを買ひ得たし、食糧もイギリスの多くの料理屋にみるよりもはるかに上等であり、品かずも多い

かかる樂園を自由と解放の名によりて破壞したものは誰であつたか、「ニヤ・ダグリヒト・アレハンダ」紙の特派員の言葉に聞かう

「美はしのノルマンデイー」はもうこの世には存在しない、サン・ローの町の如きは、なほ住み得、修繕し得る家は一軒も殘つてはゐない、爆彈と燒夷彈とで始められた破壞の仕事は、近代的砲彈の手で仕上げをされた、ノルマンデイーに較べたときプリマス、コヴエントリーなど兒戲に類する、プリマス、コヴエントリーは再建出來るが、サン・ローの町は再び生れることはないであらう、反樞軸軍上陸前一萬五千の人口を持つたサン・ローの町に戰火去つて復歸したものは僅かに千五百人だつた、曾つてフランス國内で最も繪畫的だつたノルマンデイーは、今では全くアメリカ化されてしまつて昔の面影はない、諸君は機械化されたノルマンデイーといふものを想像することが出來るか、それは宛然として小型デトロイト以上の何ものでもないドイツ占領治下では十分にあつた食糧と住居とは反樞軸軍が上陸すると同時に、忽然として消え去つた、そして、その「解放」の恩人であるはずの米英軍は時として無辜の民を「强奪」しつつあると、解放されて感謝すべき側の人間から指摘されてゐるのがフランスの現在なのだ、スイスから達した情報によれば、十月初旬パリの大部分の家庭にはいまだ電氣もなく、ガスなども極めて短時間しか供給されずして煮焚きもできないといふ「レ・ザロブロージュ」誌(道化者)が報じてゐるといふ道化てのみはをられない始末である、リオンに旅したスイスの新聞記者はホテルに宿つても食ふものも飮むものもないと報じてをる、これ等の原因は運輸の杜絶や港灣の破壞にもよるけれど、大部分は「外國軍」の徵發によるものであると指摘されてゐる

「スヴエンスカ・ダーグブラデツト」紙の四日付ロンドン電によれば、フランスでは「食糧は極めて少ない」さうで、肉は一人當り一週間百グラムそれも馬肉、パンは一日三百グラム、バター、チーズの類は一ケ月百グラム、ミルクは三歲以下の幼兒に限つて一日半リツトルの割當である

これを一九四一年三月ごろ、フランスが最も食糧に困つた當時の割當に比較すると、當時肉は一人當り四週間千四百四十グラム、チーズ、バター

類は四週間に五百六十五グラム、パンは四週間六千グラムで、現在の狀況を數字の上からのみ判斷すれば格別惡くなつたとも思はれないが、問題は配給制の日本とちがつて切符制度のフランスでは權利はあつても物があるかどうかが問題なのである、一日、七、八百グラムのパンでなほ足りとしないフランス人に三百グラムではどうにも仕方なくしかもそれが權利はあつても物がなくて手に入れ得ないとすれば飢ゑるほかはないわけである

「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙の記者はフランス飢饉の理由として、第一に運送機關が軍によつて接收徵發されて出荷が止つたこと、第二には燃料の不足をあげ、石炭もコークスも家庭用には全く一とかけらも入手出來ぬといつてゐる、現在三人家内の家庭では南京米袋で三袋を貰へることになつてゐるが、それだけでこの寒い冬を越さねばならぬとなれば、既に猖獗の兆のある流行性感冒がこの冬は大變だらうといはれてゐる

パリの生活

「チューリツヒア・ツアイトング」は九月二十五日付紙上の寄書欄で次の報道をのせてゐる

パリでのパンの割當は一日三五〇グラムで、小麥粉は僅か八十五パーセント、他は混ぜものである、肉は一週二五〇グラム、馬鈴薯は五日毎に一キログラム、葡萄酒もひどく不足で、瓶詰で商標がついてゐるとなれば百五十法乃至二百五十法する（戰前五法乃至十法のもの）上級の料理屋で肉料理を注文すれば一皿二百法から五百法（戰前は四品に葡萄酒までついて精々五十法）である、地下鐵は九月十一日から幹線は動いてゐるが、停留所全部が開いてゐるわけではない、乘合自動車の路線も動いてゐるのは極めて少ない、ガスは一日朝夕だけ四十分間宛、電氣は毎日二十分間だけ通じる、石炭は全く手に入らない、ブローニュの森では薪にするため盜伐が盛んである、別にとがめるものもゐない、アメリカの兵隊は休暇でも料理屋にはいることは禁止されてゐるが、カフエーは大繁昌である彼等は一日五十法しか貰つてゐないため弗を闇値で流して小使稼ぎをやつてゐる、映畫館も極く僅かのものが開いてゐるが、ニュース映畫だけで反樞軸軍パリ入城の光景がどこへ這入つても繰返し出て來る、劇場は全部閉鎖されてゐる闇の肉が煙草屋で賣られたり、藥局が野菜の取次ぎをやつたり、店の看板と實際の商賣は殆んど一致してゐない

といふことである、筆者には、實はかうして他人の受賣りをしながら、飢えるといはれるフランスの實情が、どうもぴんとはこない、數字によると正に大變なことであらうとは想像出來るが、實は三百グラムのパンが與へる胃袋の重量感に實感が伴はないのである

凱旋門から鳩ぽつぽが姿を消してしまつた、パレー・ロワイアルから雀の子がゐなくなつたといへば、まだ實感が出てこよう、ブローニュの森の木を切つて薪とするパリジアンには「鉢の木」の心根の何十分の一かが想像される、アメリカ兵の五十法は、彼等にとつては一日一弗を意味するにすぎないが、フランスの小學校教員、お巡りさんタイピスト並みの給料で、フランスの兵隊は確か一日五法か六法だつた、物價もあがつたらう、そして一日一人頭五十法づつ使ふ米英軍が百萬人近くも國内に溢れてゐてはインフレにもならう、生活の困難は、國民思想を惡化もさせよう、共產黨も勢力を得るのが當り前といふことにならうし、それが内政を攪亂して政府の基礎もぐらつき……といふのが生活面からみた今のフランスの素描である

フランスの内情を知るには中立國筋か、敵側情報によるほかはないのであるが、フランスから出る情報はアイゼンハワーの嚴重な檢閲下にあつて眞相をどの程度まで傳へてゐるのか疑はしい、「ハンデルス・テイドニンゲン」の特派員で、ヴイシーからロンドンに最近逃げ出したヴイクトル・ヴインデは十月四日から打電してゐる

フランスのニュースは米國の獨占で、英國記者はまだしも中立國記者には手も足もでない、作戰關係で八釜しいのなら譯も判るが、さうでないことまでに檢閲の鋏は容謝なく伸びる、パリプリユツセルは中立國記者に對してのみならず米國人に非らざる記者にとつて閉ざされた都だ

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

英國政府の一部復員白書

「タイムズ」紙九月二十二日號

對獨戰後對日戰終了までの期間における人的資源再分配に關する英國政府白書

一、軍隊乃至軍需工業の一般的復員は全世界の樞軸諸國の完敗により戰爭が終了する時期まで實施し得ない、從つて本白書に發表する案は、樞軸諸國との戰爭は唯一不可分であり、しかも戰鬪はまづ歐洲において終了するとの見解を基礎として作成され、ドイツの敗北後日本の敗北に至る中間期間のみを對象とする、本案の根柢をなす根本的見解は、歐洲における戰鬪終了後戰爭努力を中斷せしめず、對日戰に參加してゐる反樞軸諸國と協同して、可久的迅速に完全なる最後の勝利を獲得するため必要な兵力を最大限度まで展開せしむべしといふにある

二、從つて右の中間期間における問題は復員ではなく、情勢の變化によつて發生した必要を最も良く充足する目的をもつてする軍隊と工業の間の人的資源の再分配である

三、右の人的資源再分配の重要な一部として、長期に亘り兵役にある兵士と交代せしめる人員を獲得するため、强制徵兵を繼續する必要があらうさらに右の中間期間には軍需品並びに他の重要生産品に對する尨大且つ緊急の需要の繼續が豫想される故に、工業と勞働に對する必要な統制を維持せねばならぬであらう

四、對日戰繼續並びに占領地守備に必要な條件が最終的に明瞭となるまでは、中間期間に保持すべき兵力の水準の正確な測定は不可能である、しかしながら、陸海空軍各々その速度には必然的に相違があるにしても軍隊全體としてみれば工業との間に相當規模の再分配が可能となるのは明瞭である、再分配は次の二個の主要原則に從つて實施されねばならない

A——軍事的必要を他のすべての考慮に優先せしめる

B——繁雜にして實際的でない除隊手續は避ける

除隊及び轉出

五、政府は公正且つ合理的な計畫を確立する最良の方法は、年齡及び勤務年數に基く除隊の原則を基礎にするにあるとの見解を堅持するが、同時に中間期間に至急着手すべき若干の緊急復興事業に對しても或る程度の考慮を加へる必要を認める從つて本案は除隊歸國せしむべき兵士の選擇について二個の獨立した方法を提唱する、年齡及び勤務年數に從つて選擇された者を一つのクラス——Aクラス——とし、緊急復興事業に參加する資格があるとの理由で選擇された者を他のクラス——Bクラス——とする、以上二つのクラスは後段それぞれ別個に取扱はれるであらう

六、軍は如何なる戰線に勤務する兵士と雖も、當然の順番が到來すれば除隊せしめるやうあらゆる盡力はするが、軍事的理由から留隊を必要とする兵士の除隊乃至轉出は實行し得ぬことは明瞭に理解されねばならない

七、除隊乃至轉出の順番が到來した兵士は志願によつてさらに一定期間勤務を繼續する機會を與へられる

Aクラス

八、Aクラスによる除隊數は軍隊の減員に比例し、さらに新規召集進捗に從ひ增加されるであらう、これら兵士は年齡と戰時勤務年數の綜合を基礎として除隊グループを形成し順次除隊される、但し五十歲以上の兵士は優先クラスとして取扱はれ、希望すれば他の兵士に先んじて除隊される

九、一般に戰時勤務とは一九三九年九月三日以後在隊し、軍隊から給料の支拂を受けた期間の總計を意味する、しかし、軍事上の理由により除隊が陸海空軍それぞれ異つた速度で實施されるものももまた已むを得ない、陸海空軍のうち或るものにおいては數個の部門をそれぞれ別箇に取扱ひ、さらに恐らくはこれらの部門内でも各階級を別個に取扱ふ必要が生じよう

Aクラスに屬する兵士の除隊はドイツ敗北後現實に可能な限り迅速に開始するが、最初に除隊すべき兵士の資格を檢討し、さらに海外にある兵士の歸國の準備を整へるため、準備期間を必要とするであらう

十、年齡と戰時勤務年數を綜合する際には勤務二箇月を年齡一年として計算する、この原則によると例へば年齡二十二歲、勤務年數四年の兵士は年齡四十歲、勤務年數一年の兵士と同一のグループに屬し、年齡二十四歲、勤務年數四年の兵士は年齡三十歲、勤務年數三年の兵士と同一のグループに屬す

Bクラス

十一、Bクラスとして特別に軍隊外に轉出せしめられるのは、勞働國民徵用相により或る種の緊急復興事業に必要な特殊の職業層に屬すと認められた者である、これは主として陸海空軍兵士が大量的に非軍事生活に復歸する際に備へる家屋の建築に要する追加勞働力を供給するためである

十二、その他Bクラスには一定數の個々の技術家も包含され、その轉出については既存の手續に從ひ政府各省を通じて申請し得る

十三、Bクラスによる轉出はAクラスによる除隊に比し少數で、且つBクラスによる轉出はAクラスの除隊開始後でなければ開始されない、Aクラスの除隊を增加し、Bクラスの轉出を補充するため、現在召集猶豫中の壯丁、就中軍需產業の壯丁が召集されるであらう、Bクラスによる轉出の實際の數は

(イ)復興事業の當面の必要

(ロ)Aクラスの除隊並びに國內の軍需產業その他の產業からの移動により右の必要が充足される程度

に照しその時々に決定される

十四、Bクラスによる轉出のため特殊の職業層から選擇される必要數の兵士の選定に當つては、出來得る限り年齡及び戰時勤務年數を基礎とする

AクラスとBクラスの待遇上の區別

十五、順番によつて除隊するAクラスの兵士と順番によらず轉出するBクラスの兵士との間に判然たる待遇の相違を設けるのは、本案の眼目である、從つて兩クラスに適用される條件には左の如き顯著な相違がある

Aクラス

(イ)Aクラスの兵士は除隊に際し八週間の休暇を與へられ、給料、配給、手當の全額、並びに有資格者に對しては家族手當、扶養者手當、戰時手當を支給される、最初の支拂ひは除隊當日前渡しされ、殘額は一定の期間を置いて定期的に支給される、これらの金品支給は再就職補助の目的を以つて行はれるものである、右の八週間の休暇に加ふるに、有資格者に對しては附屬規定に述べられた海外勤務の査定方法に從ひ、前記の條件によりさらに有給休暇が與へられる以上の支給はすべて受給者の就職如何に拘らず規定の期間終了まで全額支拂はれる

(ロ)Aクラスの兵士は(イ)の休暇終了後特別豫備役に編入され、重大非常時以外には再び召集されぬであらう

(ハ)Aクラスの兵士は再就職權を行使し、以前の職場に復歸することを許される、復歸すべき職場のない場合には、職業紹介所が就職につきあらゆる援助を行ひ軍隊からの定期的支給を受けてゐる期間と雖も特に統制法規外におかれる

Bクラス

(イ)Bクラスの兵士は轉出に際し三週間の休暇を與へられ、給料、配給、手當の全額、並びに有資格者に對しては家族手當、扶養者手當、戰時手當を支給され、次いで豫備役に編入される海外勤務から生ずる支拂ひは戰爭終了後まで保留する

(ロ)Bクラスの兵士は復興事業に向けられ、再就職權はそこに留保される

(ハ)Bクラスの兵士が復興事業から離れた場合には直ちに再召集されることがある

(ニ)Bクラスの兵士は自己の意志に反して轉出せしめ得ず、希望すればAクラスによつて自己の除隊される順番を待ち得る、但し、一旦Bクラスによつて轉出した後は、Aクラス編入を申請し得ない

昭和十九年十月十九日(木)
第三二一四號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

同情除隊

十六、兵士は現在既に實施されてゐる手續に從つて同情による除隊を求めることができる

健康上の理由による除隊

十七、健康上の理由により除隊される兵士はAクラスにより除隊される兵士と同一の特典を與へられる

戰爭賜金と戰後クレヂツト

十八、政府はAクラスの兵士の除隊に際し再就職援助のため與へる休暇と金品支給、並びにBクラスの兵士の轉出に際し與へられる休暇と金品支給以外に、勤務にたいする報酬の意味で戰爭賜金の支給を提案する意向である、戰爭賜金の金額並びに同賜金及び一九四二年以來積立ててくれてゐる戰後クレヂツトの支拂ひの時期に關しては郵便貯金局を通じて適當な時期に夫々發表されよう

恩給

十九、除隊乃至轉出する兵士のうち戰時勤務による不具者恩給を要求せんとする者は、除隊乃至轉出と同時に恩給省に申請し得る、その場合には承認された恩給は軍隊の給料及び手當の支給停止日から有效である

平服

二十、除隊乃至轉出する兵士のうち六箇月以上の勤務者は、軍服のうち携行を許されるもの以外に平服を支給される

女子

二十一、本白書に述べられた除隊及び轉出の手續きは女子にも適用されるが、女子の場合には既婚者は自己の希望する限り他のすべての者にたいし優先權を有する、財政的規定は男子の場合と同樣の方針に基く、平服は支給されぬが、現金並びに衣料切符が代りに支給される、軍服のうちある品は携行を許される

附屬規定

海外勤務に關する休暇と金品支給の査定

從來海外勤務における休暇に關する慣行は陸海空軍夫々異つてゐた結果、これを略平等化するには中間期間に除隊される兵士に對して海外勤務關係で與へられる休暇の査定に際し夫々異つた規準を適用する必要がある、海軍は海外勤務六箇月に對し七日の割で休暇を與へる習慣になつてゐるが陸空兩軍においてはこれまで海外勤務による休暇は殆んど與へられてゐない、以上の事情に鑑み中間期間には海軍が現在實施してゐる方法を適用し陸空兩軍から除隊される兵士は、海外勤務の全日數を合計し、六箇月以上になる場合は、一ケ月一日の割合で休暇及び金品支給の査定を行ふこととする

「タイムズ」紙の一部復員案評

(九月二十二日社說)

歐洲における休戰は一般的復員開始乃至は戰時召集中止の合圖とはならねけれども、英國の工業資源と勞動力の使用に多大の變化を齎すことにはならう、ドイツの敗北から日本の敗北に至る期間において全國的復員の第一步が如何なる方向にどれだけ踏みだされるかは專ら軍事上の必要に基き決定さるべき問題である、政府は誰にでも直ぐ判る理由によつて復員といはず軍隊と工業の間の人的資源の再分配といつてゐる、將來發表される政府の戰時工業動員解除案もまた同一の理由から非軍事職業相互間における勞働者再分配案といふ適切な名稱を付けられてゐる、現在在隊する人々に對し公平を期し、同時に國家一般の必要を考慮すれば、尠くとも男子の强制徵兵は大體現在の線に沿つて日本打倒の日まで繼續すべきで、更に軍需産業の勞働者の召集延期が情勢の變化により不必要となつた際には、彼等を召集するのが合理的且つ妥當であらう

軍隊の給料を一般的に增加したこと、並びに除隊の資格ある者でも志願により留隊し得るようにしたことが賢明な措置であつたのは疑ひない、以上の措置により本當に除隊を希望する者の復員數が增加するからだ、一九一八年には復員に際する優先の順序を主として各個人の市民生活における有用性に從つて決定しようとした、この試みは失敗に歸し非常な混亂が起つた、一九一九年一月陸相となつたチヤーチルがそこで年齡および勤務年數による基準を試驗的に適用したのであつた、一九一八年原案の致命的缺陷は、同案の功利主義的基準が一般に個人間に不公平を齎すと考へられたこと並びに同案が除隊に際する優先權獲得を繞り裏面からの運動や虚僞の申告その他不當な情實を容れる餘地を殘してゐた點であつた

勤務成績を過少に評價す

今回提示された政府案をみるに前大戰の教訓は十分理解されてゐるやうだ、細部においては再考を要すると思はれる點が若干あるが、全體からいつて本案は公正であり實際的でもあり、且つ繁雜に亘つてゐないところが非常によい、本案中問題となる二つの點は敢へて指摘する必要のない位ゐ明らかだ、卽ち、問題は各個人の申請に關する疑問を迅速に解決するのに適當な機關が存在するであらうか、さらに政府は現在並びに將來における高等教育の中絕により生ずべき國家的損失に對し國民の利益の見地から十分な考慮を加へたであらうかの二點にある、除隊される兵士の大半の場合の優先順位は、點數主義による各個人の成績により決定される、原則として、成績の最も優秀な兵士が一番先に除隊になるが、五十歲以上の兵士で自から希望する者は優先權を與へられる、將來問題となるかと思はれる主な點は、年齡と勤務年數の釣合がよく取れてゐるかどうかといふことである

政府が既婚者を特別に待遇したり、或ひは子女の數を考慮したりしないのは當然で、これらの點は召集に際しても考慮されてゐない、しかし勤務年數に對して與へられる點數に重點がおかれてゐないのは問題だ、米國では國內、海外、前線の區別によつて勤務點數に重點をおくやうだ、英國政府はかかる區別が非常に望ましいことは認めてゐるが、恐らく實行不可能だとの議論も一理あるとみてゐる、數百萬の兵士の戰歷を一々調べてゐては、復員に恐しく手間取るであらう、その結果必ず不平が起り、危險の源とならう、但し一九一九年にチヤーチルが「年齡及び勤務年數」の原則を修正して、三個以上の傷痕のある兵士はすべて卽時除隊するやうにした事實は想起する價値があらう

海外勤務或ひは前線勤務に對する特別の考慮が缺けてゐる代償として、海外に勤務したことのある兵士はすべて、通常除隊に際して與へられる八週間の休暇以外に、自己の海外勤務の長さに從つて特別の有給休暇を貰ふやうになつてゐる

政府は產業の平時復歸の第一段階において是非とも入用な技術者のうち軍隊が割愛し得る者は順番によらず除隊する必要のあることを認める、これらの重要技術者は主として建築業に廻されるのだが、その數は嚴密に限定されるであらう、彼等は實際のところ除隊になるのではなく、政府の命令によつて軍務から重要非軍事產業に轉出されるのだ、以上はわれわれも贊成出來る提案で、特權の亂用は政府の權力で防止し得よう

對日戰乃至歐洲占領地域守備の必要、並びに部隊の分割と再編の困難に基く多くの個人的苦痛や不規則な事態の發生は避け難い、その場合、もし原因が十分理解されぬならば不平を生ずるであらう、從つて個々の兵士は聰明な武裝市民として復員手續の細目を研究し、自分個人の立場を出來る限り研究し、戰友と共に本案が人間の及ぶ限り最も公平に近いか否かを討議し、さらに何よりも先づ自分個人の除隊が嚴密に豫定通り行はれるのを妨げるかも知れぬ軍事的必要を理解する義務がある、陸軍で發行した復員問題討論の資料、及び軍隊のすべての男女兵士に配布される復員と再就職の各部面を取扱つた取引きとによつて、戰爭の短縮と平和の獲得に實質的に寄與する軍事的措置としての復員の問題が納得の行くまで理解されることを希望する

大正十五年十月廿五日第三種郵便物認可　昭和廿九年十月廿日印刷發行人　荻野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

昭和十九年十月二十日(金)　第三二一五號

同盟通信

海外電報



ナポレオン一世の運命を決定したのは、一八一三年十月十六日から十九日に至るライプチツヒの戰ひである、ドイツ軍の名將ブリュツヘル將軍を主力とする聯合軍三十二萬五千に對しナポレオンのいはゆる grande armée 二十一萬四千はこの戰ひで慘敗を喫し俘虜二萬を出して潰走した、爾來早くも一世紀以上の星霜を閲みしたが、近代ドイツ國民勃興の日とも稱すべきこの記念日をトしてヒトラー總統はドイツ國民突擊隊(Deutscher Volkssturm)の結成を宣言した、十六歳以上、六十歳のドイツ人男子は勝利の確保に最も適切な一切の武器と手段とを以て戰ひに赴くのである、これこそ言葉の眞の意味における總武裝であり總蹶起であり總力戰である、父祖が四境に敵を受けて奮闘したことを歴史で教へられ、前大戰で具に敗戰の辛酸を嘗めたドイツ國民にとつては總蹶起の大言壯語に感激して自ら欺く遑はない、老ひも若きも相携へて祖國の戰ひに挺身するのである、ダンケルクの敗戰後、英國ではブア戰爭當時のコマンドーによる苦い經驗を思ひ出し、ロイテル通信社のサー・ロデリツク・ジョーンズらが「タイムズ」紙に寄書して義勇軍(Volunteer Corps)の組織を提唱結局ホーム・ガーヅが結成されるに至つたが陸續きで現に赤軍並びに反樞軸軍がドイツ國境線に迫つてゐるだけにドイツ國民の意氣は一層悲壯だ、ヒムラー內相の演說を見ても、ドイツ民族抹殺を企圖する反樞軸軍に對し飽くまで抗戰を繼續して祖國を護り拔かうとの意氣込みを看取出來よう、十八日夜ベルリン支局と電話で話した際、江尻特派員も大丈夫ですよ、と太鼓判を押してゐたが、擧國一致死力を盡す國民に敗北はあり得ない

【目　次】

ドイツ國民突擊隊を組織……二四一七
國防軍の一部を構成……〃
ヒトラー總統布告全文……〃
斷乎抗戰せん……二四一八—二四一九

【米　國】
ハルゼー艦隊の編成……二四一九
紐育株式敗戰に敏感……〃
軍需生産額減少……二四二〇
大西洋橫斷輸送額減少……〃
婦人航空隊員は除隊……〃

【英　國】
聯邦黨勞働黨合流を企圖……〃
印度へ小麥三十萬噸……〃
炭坑夫賃金値上げを要求……〃

【フランス】
住宅喪失人口六十萬……〃
ヴィシー要人を死刑……〃

【反樞軸陣營】
歐洲交通會議開催……二四二一
中立國は會議出席の權利なし……〃
アイゼンハウアー指揮權を掌握……〃
傷病兵十萬餘を後送……〃
アンラ重慶支部次長任命……〃
スチルウエル白崇禧等と協議……〃
米代將獨軍の捕虜……〃

【イベリア】
佛西兩國の國境閉鎖か……〃
亡命共和派スペイン領に侵入……〃

【東南歐】
ネディッチ內閣首都を去る……二四二二
米英ソ三國のいづれを選ぶか……〃
羅政府續々要人を逮捕……〃

【北　歐】
瑞、對獨球軸承輸出再禁止……〃
芬軍の復員期限延長……〃

【濠　洲】
自由黨を結成……〃
太平洋の補給難を說く……〃
重慶駐劄公使華府へ轉任……〃

【特　輯】
佛西國境の不穩……二四二三—二四二六

【資　料】
バルカン、地中海における利害の對立……二四二六—二四二七

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

ドイツ國民突撃隊を組織

(ベルリン十八日發至急報)ヒトラー總統は十八日緊急布告をもつて十六歳以上六十歳までの男子による國民突撃隊(フオルクスシユトルム)を結成する旨發表した

國防軍の一部を構成

(ベルリン十八日發)今回結成されたドイツ國民突撃隊はドイツ軍の「鷲」の記章をつけその下に「フオルクシユトルム」並びに「ドイツチエ・ウエールマハト」と記入し正規軍の一部たることを明示してゐる

ヒトラー總統布告全文

(ベルリン十八日發)國民突撃隊の結成に關するヒトラー總統の布告全文次の通り

△ドイツ國民存亡の岐路

五ケ年に亘る激戦の後敵軍は歐洲におけるすべての同盟國の脱落により、或る地點においてはドイツ國境線に到達した、敵軍はわれ等のドイツ國を粉碎しドイツ人とその社會的秩序を破壞するためあらゆる努力を傾倒してゐる、敵の極局の目標はドイツ民族の根だやしである、一九三九年の秋と同樣ドイツ國民は今や獨力をもつて敵と戰つてゐるのである、當時數年ならずしてドイツ國民は國力の大規模な展開により重要な軍事上の諸問題を解決しドイツ國の存立を維持し、かくして爾後數年にわたり歐洲の存立を確保したのである、今や敵はドイツ國民を叩きのめしてしまふやうな打撃を與へることが出來ると盲信してゐるが、われ等は今や再び全國民の總力を大規模に發動する決心である、われわれは一九三九年から四一年に至るまでと同樣專らわれ等自身の力を基礎にしてあくまで努力し、ドイツ國民を破壞し去らうとする敵の意思を粉碎するばかりでなく、敵軍を擊退してドイツ領土の圈外に追拂ひ、ドイツ國と同盟國との將來、從つて歐洲の將來と永遠の平和とを確保しなければならず、否必ず確保し得るであらうドイツ國民を全滅させようとする國際的ユダヤ人團體の意圖に對してはドイツ國民が一致團結、總力を擧げて對抗しなければならない、ドイツ武裝兵力の活潑な戰力を强化し特に敵軍がドイツ領土に足を踏み入れようとしてゐる諸地點において、ドイツ軍の斷乎たる抗戰を促進するために余は苟くも武器を携へ得るドイツ人男子すべてに對し、積極的に戰鬪に參加するやう要請する

△命令文條項

余はここに次の通り命令する

第一　大ドイツ國の一切の地區を通じ十六歳以上六十歳の男子で武器を携へ得る總ての國民をもつてドイツ國民突撃隊を結成する、國民突撃隊は目的達成のために適切と解される一切の武器並びに手段をもつてドイツ國の領土を防衛する

第二　ドイツ國民突撃隊の結成並びに指導は各地區指導者に委任する、地區指導者は突撃隊(SA)親衛隊(SS)ヒトラー靑少年團等のナチ黨諸團體の最も有能な組織者並びに指導者を活用する

第三　余は突撃隊參謀長シエツプマンを狙撃訓練總監並びに兵團長に、ナチ黨自動車隊兵團指導者クラウスを國民突撃隊の機甲技術訓練總監に任命する

第四　ドイツ國民突撃隊は實戰に參加する限りにおいて武裝兵力に關する法律の規定するところに基き純然たる兵士である

第五　國民突撃隊員たることは他の組織における地位に影響を及ぼさない、しかしドイツ國民突撃隊における勤務は他の何れの組織における任務よりも先行する

第六　ドイツ國親衛隊指導者は豫備軍最高指揮官の資格においてドイツ突撃隊の軍隊組織、將校の訓練、隊員の武裝並びに裝備について責任を負ふ

第七　ドイツ國民突撃隊はドイツ國親衛隊指導者の命令に基き戰線に出動する

第八　軍事的部面に關する限りドイツ國親衛隊指導者ヒムラーがドイツ國民突撃隊の結成に關する詳細な指令を公布する、同時に政治的部面並びに組織の面については全國指導者ボルマンが余に代つて指令を公布する

第九　國家社會黨は今やその組織を擧げてこの戰ひを擔當しドイツ國民に對する榮譽ある最高の任務を果しつつあり

一九四四年十月十八日

アドルフ・ヒトラー　署名

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

斷乎抗戰を內相叱呼

(ベルリン十八日發)國民突擊隊司令に任命された親衛隊總司令ヒムラー內相は十八日東プロイセンの某都市において突擊隊の大會を開催し次の通り述べた

△焦る反樞軸軍

一九四四年十月十八日ライプチヒの戰ひの記念日に當りわれ等の總統兼ドイツ軍最高司令は國內戰線において戰ふ十六歲から六十歲までの男子に對し、祖國の領土を防衛するためにドイツ國民突擊隊に參加するやう命令した、ドイツ政府が終始一貫戰爭の回避に努めたにも拘らず一九三九年九月遂に戰端は開かれ、爾來五年有餘、東部戰線においては敵ボルシエヴイーキは幾多の歲月の戰鬪の後無數の兵員の損害を敢てし、戰爭の初期においてドイツ軍が遠くソヴエト聯邦領土內に推し進めた戰線を推し戻すに成功したのである、今やこの東プロイセンにおいては戰線はわれらの鄕土に到達した、さりながら戰ひは敵軍にとつて耐へ難い重荷となり彼らは今後久しきに亘つてその負擔に耐へることは出來ないであらう、戰力に對する重壓が愈々甚しいため敵軍は是が非でもドイツ國內に突入しなければならないのである

殊に西部戰線における敵軍にとつては戰爭はいよいよ困難を加へるに至つた、敵軍が空軍の優勢に賴つてノルマンデイ地方においてドイツ軍の戰線を突破することに成功したことは事實である、しかしながら敵軍の豫想を裏切り蜿蜒六百キロに亘る頑强な戰線が過去六週間新たに建設され强化され、敵軍を擊攘するに足るだけの强靱さを示すに至つた、敵軍は異常な努力を傾注してゐるにも拘らず僅かに數個地點においてドイツ國境線に到達しドイツ領土に侵入してゐるに過ぎない、反樞軸軍は戰局の推移に失望し、今や躍起となつて凡ゆる手段を辭せず遂にワルシヤワは巨大な叛亂の巷と化するに至つた、しかしながら過去八週間にポーランド人の生命を失ふもの二十萬、曾ての首都は全く燒土と歸したのである、その間ユダヤ人フリーメーソン民主主義分子は詭計と一部人士の怯懦とを利用してルーマニア、ブルガリア、フインランド各同盟國をして武器を橫へ、好んで全國民的自殺の途をとるに至らしめた、東西兩正面における敵軍の攻擊と同時にドイツ國內における卑怯者と敗戰分子はザイドリツツなどと呼應しヒトラー總統に對し陰謀を企圖するに至つたが神の御手はわれらの總統を救つたのである、幾多の暗黑な危機を經過したにも拘らずドイツ國民は百折屈せず再び起ち上り、國民擲彈兵團は着々裝備訓練を受けて前線に出動してゐる、ドイツ空軍は不遜な反樞軸空軍と戰ひにおいて幾多の損害を蒙つたにも拘らず着々新鋭中隊を組織してゐる、歷戰の殊勳に輝く空挺部隊は更に增强され、ドイツ艦隊は幾多の困難にも拘らず新兵器をもつて隨所に健鬪を續けてゐる

△一致團結の態勢

しかしながら戰爭の現段階において全國民が突擊隊を組織して武裝兵力を支援することが必要となるに至つた、陸上からすると、海上からすると乃至空中から降下するとを問はず、苟くも敵軍が一步をドイツ領土內に印する場合には至るところ國民突擊隊はこれを邀擊し、出來ればこれを掃蕩し去るであらう、敵軍をしてドイツ領土內において一粁前進するためには彼らの流血をもつて代償を支拂はねばならないことを思ひ知らさねばならない、すべての建物が、すべての村が、總ての森が、老人、壯年並びに少年によつて、必要に應じては婦女子によつて熱狂的に防衛されるであらう敵軍が征服したと信ずる地點においても飽くまで抗戰を續けるドイツ國民の決意は再三燃え上つて決死の義勇隊が敵軍に打擊を與へその兵站線を遮斷するであらう、思ふに敵軍はドイツ國內への進軍が幾多の死傷と犧牲とを必要とし、彼等自身にとつて國民的自殺に等しいことを悟るに至らう、國民突擊隊は危殆に瀕してゐる地帶において武裝兵力を支援し、武裝兵力はかくして新たな裝備を得、再編成を了して攻擊に轉ずることが出來ようわれ等は今やわれ等の任務を果す準備に着手したのである、總統の指令に明らかな通り、地區指導者が壯丁を募集して大隊を編成し、間もなくこれらの壯丁は裝備と訓練を受けるであらう

昭和十九年十月二十日(金)
號外 三二一五號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

△戰力の源泉必勝の信念

われらはわれらの父祖と同樣あくまで忠誠を誓ふ、神がわれらに下し給つた總統に對し、ドイツ國に對し、ドイツ國民に對し、否われわれ自らに對して忠誠を誓ふ、總統と上官の命令に從ふことをここに約束する

一國民の最大の力は各自の信念にあり、男女國民の堅忍不拔にあり、青年の勇氣にあり、ドイツ國民は幾多近代技術の奇蹟を創造した、最初の新兵器が敵軍に對して叩きこまれたと同樣、その他の新兵器も適當な機會に續々發動されることを承知してゐるが、しかしドイツ國民の最も有力な武器、卽ち國民の最大の勇敢さと狂信振りとが同時に發動されない限りこれ等の新兵器も所期の戰果を收めることは出來ないであらう、われらは瞬時たりとも空しい希望に耽つてはゐない、ドイツの國土を破壞し、森と林とを切りさいなみ、經濟組織をばらばらにしてしまひ、都市を荒廢に歸し、村落を燒土と化してドイツ國民を殲滅するとは敵陣營が高言するところではないか、しかしながら何處においても如何なる時においても國民突擊隊員には降伏はない、諸君、東プロイセンの突擊隊員は全國に魁けして最初の大隊を結成した、今諸君が余の面前に整列してゐるのと同樣、今後數日數週間以內に國民突擊隊の各部隊はドイツ全國到るところに整頓ひするであらう、冷靜にかつ確信をもつて今後の推移を俟つ、勿論數週間、數ケ月困難な試煉が續くであらう、しかしながら過去數ケ年間一切の重荷に耐へ忍んだと同樣ドイツ國民はこの試煉を越えて生き延びるであらう、總ての試煉と一切の犧牲とあらゆる受難と、鬪爭の後に全能なる神が總統とその民とに對して苦難の後にかち得た勝利を與へることを衷心から確信して疑はない

【米國】

ハルゼー艦隊の編成

(リスボン十七日發)ワシントン來電=海軍省十七日發表によれば臺灣沖で潰滅的敗北を被つたハルゼー第三艦隊首腦の構成は次の如くである

司令長官　大將　ウイリアム・ハルゼー
副司令長官　中將　V・A・リー
第五十八機動部隊司令官
中將　マーク・ミツチヤー
航空母艦部隊司令長官　ゼー・エス・マクキーン
戰隊司令官　少將　エフ・シヤーマン

紐育株式敗戰に敏感

(リスボン十七日發)臺灣東方海面の大海空戰に關しウオール街が如何に動きつつあるかをみるに十三日以來相場は大勢引緩み傾向をみせてをり、また相場が下つても取引增大をみないことが特徵となつてゐる、ニユーヨーク株式情報には臺灣沖海空戰についての言辭は一切控へられてゐる、從來は戰局情報として常に「良好」といふ言葉が使用され、これによつて戰爭短期終了說を一層かき立てるといつた狀態であつた

ここ數週間來のウオール街をみても主要材料は「產業再轉換工作」であり、この問題を繞る不安人氣は相當に深刻であつた、從つて戰局が良好であれば不安人氣は擴大し、大體において平和株昂騰、軍需株低落の姿を示す傾向にあつたが、最近では產業再轉換についての不安人氣は一應終熄の形で、戰局良好の宣傳があれば平和株も軍需株も一樣に上伸びるのが大勢となつてゐた、これらの事實を背景として臺灣沖海空戰以來の相場動向をみるに、十六日まではアメリカ政府當局が全く沈默を守り、一方日本よりは大本營發表が續々殺到して不安の空氣を漲らせ、この結果仕手は一齊に形勢觀望の態であつたことが窺はれる、ニユーヨーク株式情報中に「戰局發展」について直接の言葉は見當らず簡單に「情報待ち」と言及したのはこの邊の消息を物語つてゐる、しかるに十七日に至りニミツツはアメリカ側の海空戰情報を發表し一流の逆宣傳を開始したので市場はなほ足踏み氣勢ながら相場は一應底りに轉じたものの如くである、しかし十七日においても買方の出動は概ね思惑物色買ひに集中、確信ある買方の出動は見當らなかつたとAP電は傳へてをり、いづれにしても海空戰による米軍の大損害を市場は敏感に織込まんとしてゐる模樣である

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

軍需生産額減少

(リスボン十六日發)ワシントン來電＝戰時生産局は十六日次の通り發表した

九月における米國軍需生産總額は七十一億四百萬弗、八月に比し九パーセント卽ち六億九千四百萬弗減少し、一九四四年に入つて以來の最低である、九月の戰費は平均一日二億七千四百萬弗である、なほ一九四〇年七月一日以降一九四四年九月三十日現在までの戰費は總計二千二百二十億弗に達した

大西洋横斷輸送額減少

(リスボン十七日發)ワシントン來電＝海軍省は汎米航空會社北大西洋部及びアメリカン・エクスポート會社との大西洋横斷輸送に關する契約を本年十二月三十一日をもつて廢棄する旨十七日發表した、右は歐洲戰の推移に鑑み今後大西洋を横斷する貨物及び人員輸送の激減が豫想されるためだが、同社は海軍省との契約がきれた後も依然として大西洋横斷の商業航路を經營する筈である

婦人航空隊員は除隊

(リスボン十三日發)ワシントン來電＝陸軍航空本部長ヘンリー・アーノルドは次の通り言明した

歐洲における空中戰で兵員に不測の大損害を蒙らない限り婦人航空部隊の飛行士は來る十二月二十日除隊させる方針である

【英國】

聯邦黨勞働黨合流を企圖

(リスボン十六日發)聯邦黨はこの程ロンドンで黨大會を開催、勞働黨との合流につき協議した結果百七十五票對十九票で合流案が可決された、近く委員を任命して勞働黨と豫備的交涉を開始するが、合流の條件として勞働黨が聯立內閣から離れて全面的な社會主義的計畫のために戰ふことが擧げられてゐる、しかし勞働黨が聯邦黨の右提案に同意する見込は少く、結局勞働黨の主義並びに政策の全面的無條件受諾といふ常套的對案を提示すると見られる

印度へ小麥三十萬噸

(リスボン十六日發)ニューデリー來電によれば英政府の印度に對する小麥供給について十六日インド政廳は次の通り發表したと傳へられる

英國政府は本年度第四四半期における印度の食糧需要高について更に考慮を加へるといふ公約を實行し、十、十一、十二の三ケ月間に約三十萬噸の小麥及び小麥製品を印度へ輸送することになつた、右は本年度分として先に公約された八十萬噸に附加されるもので、英國政府は十一月には再び印度の食糧事情について檢討を加へる豫定である

炭坑夫賃金値上げ要求

(ストツクホルム十二日發)ロンドン來電によればヨークシヤ北部及び南部の炭坑夫十五萬は賃金値上げ要求が容認されない場合には十一月四日から罷業に入る旨の要求を炭坑主に提出したといはれる

【フランス】

住宅喪失人口六十萬

(リスボン十七日發)ロンドン來電＝フランス戰禍救濟會の發表によれば反樞軸軍の上陸以來住宅を喪失したフランス人口は少くも六十萬に及び主要各地の損害狀況は次の通り

ル・アーヴル、サン・マロ兩市は全壞、カーンは五分の四が破壞されてをり、クータンス、アヴランシュの諸市は半ば破壞された、マンシュ地方の難民は十三萬五千、セーヌ、アンフェリユール地方では十萬以上に上る

ヴイシー要人を死刑

(リスボン十七日發)パリ來電＝ド・ゴール政權はドイツ軍と協力した廉でフランス前植民省次官プラトン海軍大將、前ユダヤ人處理局長官デユペルボア・ダルギエの兩氏を軍法會議において死刑の宣告を下し、すでに刑を執行した、兩氏處刑の報道はフランス國民の間に一大衝動を捲き起してゐる

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

歐洲交通會議開催

(リスボン十七日發)ロンドン來電=今回ロンドンにおいて反樞軸戰後歐洲交通會議が左の十二ヶ國參加の下に開催された、右會議では歐洲戰終了後の歐洲交通機關の再建問題が討議される筈である

米國、英國、ソヴエト聯邦並びにベルギー、フランス、チエツコスロヴアキア、ギリシヤ、ルクセンブルグ、オランダ、ノールウエー、ポーランド、ユーゴースラヴイアの各亡命政權

中立國は會議出席の權利なし

(ストツクホルム十七日發)リスボン來電によれば英國首相代理アトリーは十七日下院において講和會議に出席する權利を有する國は交戰國として戰爭に參加してゐる國だけであると言明したといはれるが、以上は依然中立を維持するスエーデン、ポルトガル、スペイン及びドイツとは斷交したが宣戰布告には至らぬトルコに當てつけたもので、參戰しなければ除け者となつて酷い目にあふぞといふことを婉曲に示唆したものと解される

アイゼンハウアー指揮權を掌握

(リスボン十七日發)東南アジア反樞軸空軍司令官に轉出したトラフオード・レイ・マローリの後任は未だ正式に決定されてゐないが、パリ來電によれば反樞軸聯合軍最高司令官アイゼンハウアーは暫定措置として自ら指揮權を掌握、副司令官テツダーが直接作戰指導の衝に當り一切の責任はアイゼンハウアーが負ふことになつたといはれる

傷病兵十萬餘を後送

(リスボン十六日發)ロンドン來電=新任東南アジア反樞軸空軍司令大將トラフオード・レイ・マローリーは十六日次の通り述べた

第二戰線開始當日から十月七日までに西部戰線から十萬三千七百四十二名の傷病兵が空輸により後送された、また八月九日から九月三日までに反樞軸空軍は前線補給のために一萬三千回以上出擊した

アンラ重慶支部次長任命

(リスボン十七日發)ワシントン來電=アンラ(反樞軸救濟復興會議)は最近アンラ重慶支部長としてワシントン出身のベンジヤミン・カイザーを任命したが、アンラ議長レーマンは十七日これに引續きカリフオルニア州出身のフランク・ゲインズがその支部次長に任命された旨發表した

スチルウエル白崇禧等と協議

(リスボン十六日發)柳州からのAP電報によれば東南アジア米軍副司令スチルウエルは十五日急遽柳州に赴き、重慶軍の前總司令白崇禧、張發奎、米軍第十四航空隊司令クリントン、ヴインセント代將などと會見、米軍航空隊の配置變更につき重要協議を遂げたと傳へられる

米代將獨軍の捕虜

(リスボン十五日發)ワシントン來電=陸軍省は十五日陸軍航空部隊の代將アーサー・ヴアナマンがドイツ軍の捕虜となつてゐる旨發表した、ヴアナマンは最近米空軍のドイツ領爆撃に參加それ以來行方不明を傳へられてゐた

【イベリア】

佛西兩國の國境閉鎖か

(ベルリン十七日發)ベルリン來電によればスペイン政府は今回フランスとの國境を閉鎖したと傳へられる

亡命共和派スペイン領に侵入

(リスボン十四日發)パリ來電=スペインの亡命共和派は十四日次の通り發表した

フランスにある共和スペインのゲリラ部隊は十日夜西佛國境を突破してスペイン領に侵入、國境內四十キロのフイギユラスに駐屯中のスペイン正規軍を攻撃した、ゲリラ部隊は同地に收容されてゐた左翼系政治犯全員を解放、正規兵數名を捕虜としてフランスへ連れ戻つた

昭和十九年 十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【東南歐】

ネディッチ内閣首都を去る

（ベルリン十七日發）ドイツ外務當局は十七日次のやうに言明した

ネディッチ氏を首班とするセルビア政府は赤軍がベルグラード市内南部に突入した後同市を去り現在某地に向つてゐる、地名は未だ發表出來ないが同政府は依然ドイツ軍と協力して赤軍との抗戰を續けてゐる、また同國の急進右派ズボール黨首領ロテイチ氏に率ゐられる部隊もセルビア國内の山地森林地區に後退し、チトー軍並びに赤軍に對して抗戰を繼續するやう指令をうけてゐる

米英ソ三國の何れを選ぶか

（チューリツヒ十六日發）ルーマニア自由黨首領ブラチアヌは十五日「ガゼツト・ド・ロザンヌ」紙のブカレスト特派員と會見、ルーマニア裏切政權の内訌に關し次の通り語つた

ルーマニア外交政策の重點はソヴエト政府との提携にあるが一方國内の經濟的困難を克服するためには西歐洲諸國との一層緊密な協力が必要であり、ルーマニア國内經濟再建のための諸工作には反樞軸諸國の投資が緊要である、この國家再建の目的を達成するには國内の全政治勢力の協力が必要であり、あらゆる「革命的行動」は延期されなければならぬ

羅政府續々要人を逮捕

（リスボン十七日發）ブカレスト來電＝ルーマニア政府は前内閣の閣僚の逮捕に引續き十六日前宣傳相ニチフオル・クライニク、前ブカレスト大學の教授パナイテスコ、極右黨の機關紙「ボルヌカ・ヴレミ」の社主イリ・ラドレスコの三名を逮捕した、またパリ來電によればド・ゴール政權は十六日前ツーロン縣知事中將マルチを逮捕した

更に十七日元參謀總長リエ・ステフレア並びにヴオイギユレスコ、サラテスコの三將軍を戰爭犯罪人として逮捕した

【北歐】

瑞、對獨球軸承輸出再禁止

（ストツクホルム十六日發）米國政府の協定に基くスウエーデンのドイツ向球軸承輸出禁止は去る十三日をもつて滿期となつたが、スウエーデン外務省は今後ドイツ向の球軸承輸出を全面的に停止する旨十六日發表した

芬軍の復員期限延長

（ストツクホルム十五日發）フインランド監視委員長ジユダノフ大將はフインランド到着以來フインランド外相エンケルと會談を重ねてゐるが、從來九月二十日から二月半となつてゐたフインランド國軍の復員期限を今回三ケ月に延長十二月二十日までと決定した

【濠洲】

自由黨を結成

（リスボン十六日發）キヤンベラ來電＝統一濠洲黨その他在野黨は今回元首相ロバート・ナンジースを首領として大同團結したが十四日キヤンベラで第一回黨大會を開催、新政黨を「自由黨」と稱するに決定した

太平洋の補給難を說く

（リスボン十七日發）シドニー來電＝首相カーチンは政府の新規戰債發行に際し十七日ラジオを通じ次の通り述べた

最近反樞軸諸國の間で近い將來に戰爭が終了するだらうとの觀測が頻りに流布されてゐるが、今日責任ある政治家は誰一人としてかかる見透しにふけることは許されない、戰局のやまは依然今後にあり太平洋戰線に補給物資並びに增援部隊を注ぎ込むことは歐洲戰線における補給よりも遙かに困難である、銃後國民は前線將兵が必要な軍需物資を自由に使用出來るやうあらゆる努力を傾注しなければならない

重慶駐劄公使華府へ轉任

（リスボン十四日發）キヤンベラ來電＝濠洲政廳は十二日重慶駐劄公使フレデリツク・エグルストンをオウエン・デイクソンの後任として米國駐劄公使に任命した

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

佛西國境の不穩

井上勇

問題の發端

スペイン戰爭は今次大戰の口火といはれるが、最近再びスペインの國の內外からの情報は、イベリア半島の周邊に暗雲の低迷を報じ始めた

スペイン國內の情勢については、われわれは今暫くは事態の推移を靜觀するを適當とするであらう、いまは專ら國境の外の事件の起伏を辿るに止める、問題はフランスの解放——フランスからドイツ軍が撤收し、ド・ゴール政權がパリに復歸した日に始まる、否、反樞軸軍のフランス上陸を氣構へて、フランス國內叛軍の活動が漸く顯著ならんとした頃にさかのぼるといつた方がより正しいであらう、フランス國內軍に多數の亡命スペイン左翼人が參加して、やがてこれがFFIとは獨立してフランス解放の仕事は片手間に、スペイン解放をば本業として蠢動し始めた時、スペインにとつてもフランスにとつても共に容易ならざる事態がピレネーの山麓一帶にかもし出され始めたのだ

スペイン共和軍の佛領遁入

一九三九年初頭、スペイン共和軍は、その最後の牙城バルセロナをフランコ軍のために拔かれるや、雪崩れを打つてフランス領內に遁入し、その數は老幼婦女子を加へて五十萬人と概算されたほどの多數に達した、彼らは主として、國境一帶、特にペルピニヤンボオ、オロロン・サント・マリー等を中心とする南佛の地に假の安住地を求めた當時フランスには眞の意味の人民戰線內閣第一次ブルーム內閣はすでになく、ショータン內閣の治下にあつたが、間もなく第二次ブルーム內閣が成立し、これが僅々一ケ月でダラディエ內閣に移行せんとする過渡混亂時代にあつたとはいへ、人民戰線の餘燼はなほ內閣の片隅にくすぶつて、スペイン共和軍には相當に同情的であつた、スペイン內亂時代の行掛りの上からも、この窮鳥を殺すにしのびぬ立場におかれてゐたわけだ

フランコ政府は勿論かかるフランスの態度に釋然たらざるものがあり、屢々その引渡しを要求したが、フランス側をしていはしめればこれは國際法に照らしてみても、人道に立脚して考へても承引不可能なことであると少くとも當時は信じてゐた

フランスの困惑

しかしピレネーの彼方に敵國を作らないことはフランスの傳統的國策であり、同時にダラディエの急進黨內閣は何時の間にか、左翼と絕緣して右に橫滑りしつつあつた、當時の內相アルベール・サロオの「目利き違ひ」に對する國內の批難も漸く昂り始めた、フランスはこの批難スペイン人のために一日數百萬法の國努を費し、その結果として、南部國境に第二のマジノ線を必要とする事態を招來しつつあることを悟つたのである

フランス人は如何にしたならば、これ等の赤いスペイン人を始末し得るかを、風雲ただならざる中歐の政情を苦に痛む合間に考へざるを得なかつた、米國は三二五名を引受けてくれたが、それ以上は爪のかけらも嫌だと斷つて來た、ソ聯は五百萬法の金は寄進しようがスペインの革命家などの輸入は眞つ平だとそつぽを向いてしまつた、メキシコは百姓なら引受けるがスペイン製のデゼスペラドスなどは不必要だと答へて來た

フランスは嫌でも、この重荷を兩腕に抱へ込むほかはなかつた、四年三月一部フランス人の感懷を借ればフランスの國賓を「フランコの祭壇に獻じて」ペタン元帥をブルゴスに使ひせしめフランコ政府を承認しても、この事態の解決には何の資するところもなかつた、フランスは國軍二軍團をこの「歡迎せざる客」の接待のため釘付けにせられたと當時いはれた、一九三九年九月を前に控へて、この兵力が如何に貴重なものであつたかは知る人ぞ知るである、お客はやがて、フランス國內に次第に浸透し始めた、由來ピレネー東部諸縣は共產黨の地盤であつたが、その赤い代議士たちすらも、この隣國の革命家たちには手を燒いた

あまりにも屢々店頭の金庫は匕首の先で精算され、農園の家畜はスペイン・キヤンプの夜卓を賑はしたからである

排斥されて居心地のよくないのは避難革命家とても同じことである、彼等が三々伍々、自由の國フランスの各地へ自由にちらばつて行つたのもこれまた物の流れの自然でもあつた、かうして今次の大戰は迎へられ、フランス解放の日はきたのである

「ユンタ」の結成

フランス國内各地に反獨抗戰ゲリラ隊が組織されるや、卒先これに參加して武器をとつたのが内亂時代の怨敵に恨み骨髓に徹するこれ等スペイン共和主義者たちであつたのも、また不思議ではない、そして、彼等が北方の敵をめざす代りに、南方に眼をそそいで、次第に國境地帶に集結したのも自然の勢ひであつた、抵抗線が最も弱く、且つ五ケ年夢寐にも忘れぬ故郷の空が間近かにあつた彼等はフランスの同志を糾合して、本據をツールーズに置き「スペイン國民聯合最高會議」を結成した、十月初旬のことである

この「ユンタ」に先づ加盟して中心勢力となつたのは在佛スペイン智識階級聯盟であり、赤色スペイン青年團であつた、中心人物は新聞記者リケルメスとマンガダ大佐といはれるが、何れも内亂時代の一方の旗頭といはれる以外その素性は明らかでない、彼等が綱領として掲げてゐるのは

一、フアシスト制度の打倒
一、フランコ政權下で犧牲となつた一切に對する補償
一、言論、集會、宗教の自由
一、食と仕事との確保
一、スペインの將來を決するための自由選擧

一、人民法廷の設置による反動分子の處斷

などであると傳へられるが、ひとまづは一九三一年の共和國憲法の範圍内で組織される臨時政府の樹立により、その目的達成のためには彼等と氷炭相容れぬはずのスペイン加特力黨の亡命分子との妥協まで出來てゐるといはれてゐる

彼等がいまフランス國内に持つ勢力は不明であるが、フランスがその勞働力の多くを、これら亡命スペイン人に仰いでゐた戰前の狀態についてみても組織化された場合は生やさしい數字でないことだけは想像し得る、フランス・オツエアン通信によれば「南フランスの大半は赤色スペイン人によつて支配されてゐる」といはれるが、それほどではないまでも、ド・ゴール政權の統治力いまだ及ばない南佛の諸地方において、或る都市、または村落が、彼らの手によりて「占領」されてゐることも有り得よう、少くもツールーズの放送局は明らかに、彼らの宣傳を波に乘せつつあり、パリにも祕密放送局を有する事實が指摘されてゐるほか、南佛各地のスペイン領事館、商社等は赤色スペイン義勇軍の手中にある

西佛國境事件の發生

彼らの活動が世界の耳目に初めて大寫しされたのは十月初旬、醫療班を含む約二百五十名の武裝部隊をポオの南方國境を越えて、スペイン、ナヴアラ地方、ロンセス・ヴアレス地方に潛入せしめこれを阻止したスペイン國境守備隊、稅關吏、警官隊と衝突を起し双方死傷者を出した事件であつた、「ロンドン・タイムズ」紙十月十日、そのマドリード電で、「スペイン人マキ蜂起軍と正規軍の衝突は、武裝共和軍の小規模な侵入戰とも稱すべきものであつたが、今や全く鎭定され、事件は公式には結末を告げたとみなされてゐる」と報道してゐるが、實際は公式にも非公式にも終結したどころではなく、問題は今後にあるといふべきであるのは、あながちことを好むものの言葉のみではない、事件は侵入軍側で多少の捕虜をフランコ軍にとられたかはり、鷄、家畜の多少を鹵獲して再びフランス國内に逃げかへり、その際、思ひもかけずフランス側から銃擊をうけた椿事があつただけで、別に新らしい發展がなかつたことからいへば「結末」を告げたともいひ得なくもない、しかし、この事件が二百五十名のみの事件でなく、背後にフランス亡命數十萬人のスペイン共和主義者に直接つながりがあるとすれば決して結末とはいひ得ない、忘れないさきに書いておかねばならぬのは、このスペイン製マキ團が、スペイン侵入作戰に失敗して引揚げる時、フランス側から銃擊を被つたといふ事實の解明である

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

スペイン・マキ團は、フランス解放のために一と肌脫ぎ、いま祖國解放のために挺身せんとするとき、フランス民衆は當然、己れの味方だと信じたであらうが、假令親切な伯父さんといへども長居をすれば邪魔もの扱ひにされるのが世の常である現代、ましてや厄介な居候を、數年もつづけた隣りの「あぶれ者」にフランス一般民衆が好感を持つてゐるとは、考へる方が無理な相談であり、鐵砲の一發もぶつ放して見たくなつたのであらうことは容易に想像がつく

スペイン政府の聲明

閑話休題　フランスに在る亡命スペイン人の數は不明として既に結成されてゐる遊擊隊員數はAPの推算では四萬といはれるが、これがその背後に數十倍するフランス在住スペイン人の支持を得同時にフランスに澎湃たる左翼勢力の煽りを喰つてピレネーの禿山に、赤い息吹きをふきかけるとき、マドリード政府も山の向ふの火事とばかりは樂觀出來ないのは當然である、ましてや膝元のまぐさも少々乾きすぎて、早く雨が降らぬと引火の惧れなしとしない今である、慢性飢饉がそれも日と共に深刻化し、反樞軸國の大陸封鎖は國民の經濟生活をほとんど窒息せしめんとしてゐるスペインの國內事情は決して樂觀を許さないのだ

マドリード情報によれば、スペイン政府は十月十一日

南佛地方のスペイン赤色亡命軍の殘黨は在佛スペイン不穩分子と共謀し過去十日間に亘り再三佛西國境を冒してスペイン國內に侵入し來り、その都度、守備隊により擊退されてゐる、國境地方の治安はスペイン政府正規軍によつて維持されてゐるが、かかる不祥事件の發生はフランス國民生活を危殆に瀕せしめ、フランスの國威を傷けるものである、スペイン政府は、ド・ゴール政府に對して、スペイン共和主義ゲリラ隊掃蕩のためにあらゆる便宜を與へる用意を有する

旨の聲明を發表した、歐洲の一等國の一をもつて任じ、「三大國」が一人前扱ひをして呉れぬことを最大の不滿とするド・ゴール政權の頭に水を浴せる聲明であるが、實力をもつて國內の治安をすら維持し得ぬパリ臨時政府にとつては、スペイン政府の援助申出を屈辱とのみ解するわけには行かない、フランスにとつては面子の問題であるに止まるかも知れないが、スペインにとつては正にドイツ海外通信のいふ如く「國基を危ふくする危險を包藏する」問題であり「必要とならば—フランス國內のスペイン不穩分子蠢動の中心地たる—これら諸地域に出兵し、武力を以つて秩序と平靜とを維持する」ことを申出たことも、スペイン各紙が筆を揃へて「スペインの保全を脅威する」南佛の事態についてフランスの注意を喚起せんとしてゐることも當り前であらう

スペイン各紙の論調

十一日の「アリバ」紙は

南フランスにおいては赤色スペイン人ギヤングが權力を僭奪し、フランス人の生活をすら脅しつつあるのみならず、過激分子と合流して、スペイン國境內で犯罪行爲を行はんと企てつつある、彼等はツールーズ、ボオ、サン・ジヤン・ド・ピエ・ド・ポール、などの都市を支配し、これを足場として、スペイン侵入を計畫してゐるのだ、スペイン國軍は、かかる企圖を粉碎する固き決意を有するのみならず、既に國境一帶には兵力を配備して、不逞企圖を未然に防止する萬全の用意をととのへた

と述べ、同じ日の「ヤ」紙は

スペインは自己の保全のための措置を講ずると共に、ド・ゴール政府に對して反亂分子の殲滅に效果的に助力する保障を與へた、フランスの聲譽は目下の南佛の事態によつて危殆に瀕しつつあり、かかる外國的要素による危險を速かに解消することは兩國の利益のために緊喫必要事である

と論じてゐる、また同じ週の「エル・エスパニョル」誌は

スペインはフランスの內政に干涉する意圖は何等有しないが、國境の彼方の無秩序混亂が、ひいては佛西兩國の正常なる國交をも阻害するに至るべきことについては關心なきを得ない、いはんやスペインの戰爭犯罪者テロ分子が最も基本的な國際法の原則を蹂躙しつつある重大な事件が南佛に頻發しつつあるにおいておやであるといつてゐる

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

スペイン政府は、これらの事實を根據として、ド・ゴール政權の不承認をば暗示し速かに事態の解決をフランスに要求してゐるが、現在のド・ゴールの政治力を以つてしては、どう詰め寄られようとも無い袖は振られず、その間スペイン國内の動き如何によつては、イベリアの蒼空は何どき嵐を含んで荒れ模様とかはるかも知れない、手廻しのよいポルトガル政府の如きは、DNB通信によれば「ポルセヴイキ・スペイン人の佛西國境侵犯事件の頻發に、スペイン内亂時代の恐慌を想起しポルトガルの秩序治安を攪亂するが如き要素に對しては假借なき措置を講じて、これを芟除する決意を聲明した」といはれる

資料

バルカン、地中海における 利害の對立

―マドリード小島特派員十六日發―

膨脹するソ聯に危懼の色

ソヴエト聯邦のバルカン進出は米英兩國の輿論を少からず刺戟し、特に米英兩國は進出に對して何等適切な對策のないのに苦慮してゐる樣子だ、十九世紀帝政ロシヤが地中海進出を企圖した當時英國はバルカン地方に君臨してゐたオツトマン帝國を利用して遂に一八七八年ベルリン會議でロシヤのバルカン進出を喰止めた、爾後六十餘年今や歐洲の兩大國は再びバルカン半島で相見えるに至つた、しかも現在のソヴエト聯邦は六十餘年前の帝政ロシヤに比し、經濟的にも社會的にも政治的にも比較にならぬほど強力なのに反し、英國はヴイクトリヤ王朝時代の面影なく極めて弱體であるソヴエト聯邦の經濟力の强大なことは今回の戰爭で端的に實證され、最近米國の武器貸與年報に徴してもソヴエト聯邦は相當率まで赤軍の武器を自給したといはれるが、去る四月までに米英兩國がソヴエト聯邦に供給した飛行機數が一萬三千機と公表されてゐるところから推算してもソヴエト聯邦の生産能力の尨大なことが分らう

社會的潛在力、人口の增加

しかし米英兩國が最も懸念してゐるのはソヴエト聯邦の社會的政治的な底力で、特に社會的潛在力を立證する人口力の增加率だ、去る六月米國の人口學專門家が「歐洲及びソヴエト聯邦人口の將來」といふ論文を發表して米英兩國に衝撃を與へたが、右論文によれば先づ歐洲をソヴエト聯邦とそれ以外の地域に分けて各々における今後の人口增加を檢討するとソヴエト聯邦においては一九四〇年に一億七千四百萬の人口が一九七〇年には二億五千二百萬に增加、一九七〇年現在の歐洲各國合計人口を凌駕すること二千五百萬だ、また勞働力を決定する十五歳乃至六十歳の就業人口についてみても、ソヴエト聯邦の就業人口は一九四〇年から一九七〇年までの間に三千五百萬を增加するのにソヴエト聯邦以外の歐洲諸國の就業人口は僅かに二千萬を增加するに過ぎない、結局二十五年後には總人口においても、また勞働力においてもソヴエト聯邦はその他の全歐洲を併せたよりも遙かに優位に立つこととならう、殊にソヴエト聯邦以外の人口增加は東南歐洲即ちスペイン、ユーゴースラヴイア、ルーマニア、イタリア、ポーランド各國その他バルカン諸國の人口增加に基き、英佛兩國の人口は反對に減る見込みだ、從つて今の調子でソヴエト聯邦がバルト三國、ポーランド、バルカン各國を何らかの形式で併合すれば、英國對ソヴエト聯邦の人口差は愈々顯著とならう

全歐洲を席捲する共産主義

次にソヴエト聯邦の政治力だが内政的にみれば帝政ロシアは革命運動に絶え間なく内部統一を缺いてゐたが、現在ソヴエト聯邦は擧國民一致、國土を護つて内政の强みを發揮し、對外的には今日ドイツを除き歐洲諸國で共産主義を好むと否とに拘らず、赤軍の戰力に驚嘆せざるを得ない

昭和十九年十月二十日(金)
第三二一五號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

その上五年越しの戰爭で國力を消耗し食糧難で疲弊し、かつ前途になん等光明のない佛伊兩國その他の諸國は現狀打開を希望してゐる、今や全歐洲に對する共産主義の進出あり、地中海進出についても帝政ロシアにおいては不凍港を見出さうとする當局の企圖に過ぎなかつたが、ソ聯政府現在の目標と背後の事情は更に復雜だ

米國のソ聯支配の奥の手

今回の戰爭でソヴエト聯邦の農民は荒廢に歸し最も重要な工業地帶は廢墟と化した、今のところは武器貸與法の適用で種々の物資を供給して貰へるが、一旦戰爭が終つた場合には破壞された農作機械、工業設備その他家畜食糧、衣類に至るまで多額の物資をどうしても外部から輸入しなければならない、輸入決濟の方法としては、ソヴエト聯邦の産物を輸出するか、金を現送するか、または輸出國から信用を貰ふかの三方法しかない、第一の物資輸出は戰爭によつて荒廢に歸した現在のソヴエト聯邦ではなかなかの難事である、第二の金現送は或る程度出來ようが、「エコノミスト」誌の論評によればソヴエト聯邦の指導層は政治的考慮から多額の金を貿易の決濟だけに振り向けないだらうといはれる、もつともブレトン・ウツヅの會議の結果、爲替資金として十二億ドルの金がソヴエト聯邦に振當てられることとなつたが、戰爭後のソヴエト聯邦の需要は、この位の資金では賄ひ切れないといふのが「エコノミスト」誌の見解である、さうなると結局、第三の輸出國の信用に依存するほかはない、過般ソヴエト聯邦を訪問した米國の商業會議所會頭エリツク・ジョンソンは十年乃至三十年の長期信用を設定するの必要を說いてゐる、しかし長期信用は必ず政治的干渉の危險を伴ふ、現に米國の政策も長期信用を設定して政治的支配を獲得しようといふ策略で、最近では輸出入銀行を道具に使ひ、米洲各國に政治的支配を確立してしまつた、ところが米國では最近この輸出入銀行の貸出し資金をとりあへず今の十倍に增加し、歐洲の支配權獲得に乘出さうといふ案が出てゐる、ソヴエト聯邦に對しても直接間接輸出入銀行を通じて長期信用を設定しようといふので政治色は極めて濃厚だ

經濟再建を着々準備

大體米國政府が舊ポーランド領土並びにバルカン地方に對するソヴエト政府の政策に對し餘裕を示してゐたのは距離の遠いこともあるが、一つには米國政府としては戰後の信用でソヴエト聯邦を締め上げることが出來ると多寡を括つてゐたせいだらう、しかしソヴエト聯邦の指導層はおめおめ米國の政治支配を甘受せず、自力で經濟再建を企圖し、外部からの輸入は最小限度に食ひ止めようと考へるのが當然だ、出來るだけ領土を擴め、隣接の農業國を併合し、同時に住民を使用して新な勞働力を確保し、良港と背後地を利用して海外との交通路を開拓しようとの意圖だ、ソヴエト聯邦が北は北海、バルト海の支配權を握り、南は地中海岸、バルカン地方に乘出し、また機會ある毎に降伏各政權の船舶を手に入れるのに努力してゐる所以だ

暗闘續くバルカン情勢

以上ソヴエト聯邦の進出に對し、米英兩國共になん等有效な防止策がない、殊に現在反樞軸軍がドイツ軍の必至の抵抗によつて、西部戰線で手ひどくやられてゐる間に赤軍はドイツ本國に對する攻撃を少し手控へてゐるなぞ意味深長だ、またソヴエト政府の動向は大統領選擧に關聯し、戰爭の終結を急ぐ米國で最近重大問題化し、マドリード各紙ニューヨーク特派員は次のやうな米國評論家の主張を傳へてゐる

モスクワの道はワルシヤワに續くといふが、反樞軸軍がノルマンデイ地方に上陸して以來、ソヴエト政府の鉾先は第一にフインランド次いでルーマニヤ、ブルガリヤ、ユーゴースラヴイヤ各國に轉じた、以上のソヴエト政府の道草のためドイツ軍は西部に有力な抵抗線を完成して了ひ、その結果がアルンヘムの慘敗を誘致したベルリン公會議以來六十餘年再び地中海に進出を企圖するスラブ民族に對し、英國は戰爭遂行といふ點からみると廻り道に過ぎぬギリシヤ本國に兵を揚げアルバニヤに上陸し、武力をもつて萬一に備える意圖を示してゐるが、地中海を繞る微妙な情勢は歐洲戰爭の推移にも重大な影響を及ぼさう

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月廿一日(土)　第三二一六號

同盟通信 海外電報 (242)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

世界の焦点

ドイツ軍當局は西部戰線の現段階を評して陣地戰と呼びアーヘン周邊の戰鬪を消耗戰と稱してゐるが、オランダ中部からスイス國境に至る蜿々五百粁の戰線を一言にして蔽へば將に以上の通りである、攻防すでに十六日局地戰としては前例のないほど烈しいアーヘンの戰ひも畢竟するところ來るべき大作戰の準備に過ぎない、しかしながらアーヘン攻防戰において示されてゐる一つの著るしい特徵を見逃すことは出來ない、陸空からする米軍の砲爆擊に依り完全に廢墟と化したアーヘン市内において寡勢のドイツ軍守備隊が一木一草を楯に一歩も退かうとしてゐない事實がそれである、ドイツ軍將兵の勇戰敢鬪はフルマンデイ戰以來枚擧に遑ないがアーヘン守備隊の奮戰はカーン、ブレストの敢鬪史を遙に凌ぐものがある、その理由をどこに見出すべきであらうか、ドイツ西部國境地帶においてアーヘンが有する地理的軍事的重要性も勿論その一因であらうが、より決定的な原因をドイツ國境間における最初の都市攻防戰であるといふ事實のうちに見出すことが出來よう、米第一軍が五ヶ師の兵力を投じ漸く完成したアーヘン包圍網―もつともいまだ包圍鐵環と呼ぶに値するほど强力ではないが―に對しドイツ軍は機甲師團の精銳をもつて連續的逆襲を行ひ、いまだにアーヘン拋棄の氣配さへみせてゐない、このドイツ軍の比類なき頑張りを通じ來るべきジークフリード攻防戰における反樞軸軍の困難を豫想することは些かも不自然ではあるまい、アーヘンからニムウエーゲンに至る線から一擧にルール工業地帶に雪崩れ込まうとする反樞軸軍の作戰に對して、ドイツ軍司令部がいかなる秘策を藏してゐるか元より明らかでないが、アーヘン戰の經過は西部戰線今後の推移に重要な示唆を與へる

【目次】

東晋國境都市陷落……二四二八
赤軍未曾有の戰的優位を確保……〃
獨、擊攘態勢成る……〃
濠洲の新聞爭議落着……〃
モスクワ會談妥結に至らず……二四二九
米海軍將官八名戰死……〃
軍需減産に警告……〃
デユウイ優勢に轉ず……〃

【米國】
ルー大統領の祕密外交を攻擊……二四三〇
大掛りなノルマンデイ上陸作戰……〃
海軍の生産計畫削減なし……〃
攻擊用舟艇の建造遲延……〃
餘剩軍需資材額……〃
人口增加、最高記錄……二四三一
舊羅國玉の上陸禁止……〃
重慶商業代表到着……〃

【米洲】
亞國、獨伊語紙發禁……〃
暴徒ホンジユラスに侵入……〃
伯艦隊南大西洋を哨戒……〃

【英國】
ドデカネーゼ歸屬問題重大化……〃
東亞向武器を歐洲へ……〃
英軍の損害十萬……二四三二
英、芬空路再開……〃

【ドイツ】
ザイドリツツ委員會の策動を暴露……〃
突擊隊は公然たる武裝團體……〃
將校五萬人戰死……〃

【東南歐】
洪撕政會議を新設……二四三三
新首相布告……〃
新政府初閣議……〃
國立銀行總裁も更迭……〃
ネデイツチ政府維納へ……〃
勃の肅正工作續く……〃

【友樞軸陣營】
米軍、二十五ヶ師を使用……〃

【亡命政權】
希政權本國歸還……〃

【北歐】
元芬外相逝去……〃

【ソ聯】
北鳥作戰の困難を指摘……二四三四
ベツアモ・ニツケル鑛山買上げ……〃
トルコ大使着任……〃

【トルコ】
首相、英ソ兩大使と會見……〃

【西亞】
パレスチナ地方のユダヤ人結社……〃

【資料】
ソ聯經濟復興を繞る諸問題……二四三五―二四三七

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

東晋國境都市陷落

(ベルリン十九日發)總統大本營十九日戰況公報＝東プロイセン國境においてはスワルキ、シルヴイント間の戰鬪は愈々白熱化し、赤軍は遂にヴイルバリス西方の東プロイセン國境都市アイトクーネンを占領した、しかしながらドイツ軍前線部隊は奮戰力鬪赤軍の突破企圖を封殺し三日間の激鬪において赤軍戰車二百五十輛を擊破した

赤軍未曾有の數的優位を確保

＝寸土を爭ふ死鬪展開＝

(ベルリン十九日發)ドイツ前線報道＝東プロイセン國境の戰局は赤軍が戰車、歩兵の大軍を續々戰場に投ずるにつれて、空前の大攻防戰に發展、赤軍は獨ソ開戰以來曾つてみない程度の數的優位を確保するに至つた、赤軍攻勢の焦點はコヴノ—シユタルポネン道路兩翼にあるが、カルヴアリヤからシルヴインドに至る全戰線は更に南北に擴大既にスワルキからメーメルに至る全長二百五十粁の隨所で火花を散らす激戰が展開され、赤軍は戰車、歩兵の大兵力を間斷なく繰り出して怒濤の如くドイツ軍陣地に殺到してゐるが、ドイツ軍は死力を盡して陣地を堅持し寸土を爭ふ攻防戰を展開赤軍の突破企圖を眞向微塵に粉碎してゐる、但しヴイルバレンの突破地區における赤軍は壓倒的兵力を擁してひた押しの壓迫を續け、遂に東プロイセン國境の突破に成功、更にアイトクーネンを拔いて西方へ進出した

ドイツ軍は突破赤軍の後方を遮斷するため猶豫なく豫備兵力を急派、猛反擊を展開してゐるが、赤軍が以上の緒戰の成功を最大限に活用しようと圖るは明瞭で今後東部戰線最大の攻防戰が續行されるは必至とみられる

獨、擊攘 態勢なる

(ベルリン十九日發)ドイツ軍當局は十九日東プロイセン國境戰線の戰況を說明、飽くまで國土を死守して赤軍を擊攘する鐵の決意と滿々たる自信を次の通り表明した

赤軍はリガとドイツ國境双方に對して交互に打擊を加へつつ徐ろに東プロイセンに迫り、遂に北方及び東方から全面的に侵入する態勢を整へるに至つた、他方赤軍は南部國境のドイツ軍勢力を釘付けにするためナレフ河でも攻勢を開始したが、目下のところ同方面の戰局は全く膠着狀態にあり更に重大危機に瀕したメーメル港も依然ドイツ軍の手中に堅く確保されてゐる、ヒルヴイント、カルバリア兩地區間の廣汎な戰線における赤軍の大攻勢はいはばドイツ防衞軍に對する正面切つての突破作戰だが、緒戰における赤軍の成功はまだ決定的段階にまで發展してゐない、卽ち赤軍は數個所でドイツ軍陣地に小突破口を作つて國境線に到達、ヴイルバレン＝アイトクーネン鐵道のドイツ軍防衞線に强力な楔を打ち込み、同市を手中に收めるに成功したのである、東プロイセンは過般來長期の戰鬪に堪へるため縱深にわたる强力な陣地線を構築更に十月十八日には東プロイセンの一都市からドイツ國民突擊隊の編成が發表されたのである、國民突擊隊の編成によつてドイツ軍の戰力が急角度に增大することを否定出來る者はあるまい、敵はドイツが「子供や、年寄り」に國の防衞を委ねたと稱して國民突擊隊の戰力を輕視しようと努めてゐるが、東プロイセンの實例は全世界に國民突擊隊の眞價を告げずには措くまい

濠洲の新聞爭議落着

(リスボン十九日發)シドニー來電＝シドニー市の夕刊「シドニー・サン」紙工務局員の待遇改善要求に端を發した濠洲の新聞爭議はシドニー市の四日刊紙に波及參加新聞人三千名に及んだが、十八日經營主代表と勞働組合爭議委員との間に和協案成立、十九日シドニー市公會堂の地下室における爭議團が全員一致同案を支持したので、愈々約二週間振りで二十日からシドニー市民が普通の日刊新聞を讀めることとなつた、和解條件次の通り

一、十月六日の現狀において各社の社員は復職する

一、從來の週四十四時間制を改め週四十時間制を認める

一、每年四週間休暇については產業爭議裁判所に提訴判決を求める、但し各經營主は右訴訟について反對工作に出ない

一、爭議の間綜合版に協力しなかつた新聞人の間から犧牲を出さない

昭和十九年 十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

モスクワ會談妥結に至らず

(モスクワ十九日發)亡命ポーランド首相ミコライチクは十九日午前英國外相イーデンと會談を遂げたが右會見を最後にソ波兩國間の紛爭に關する限りモスクワにおける交渉は一應終りを告げた、但し亡命政權ルブリン政權との主張は容易に相容れず、結局もの分れに終つた樣子でタス通信社は十九日夜次の通り發表した

モスクワ會談に參加してゐるポーランド國民解放委員會代表はスターリン元帥並びに英國首相チャーチルに對し昨年八月の提案を基礎にロンドンにおけるポーランド政府の代表と協定する用意ある旨通告した

十六日ポーランド國民評議會議長ベールートと首相ミコライチクとの會見において、同首相は出來る限り早く會談を續行するためロンドンにおいて同僚と協議せねばならぬ旨を通告し、國民解放委員會の代表團はすでにルブリンに歸任した

米海軍將官八名戰死

(リスボン十九日發)ワシントンからのUP電報は米國海軍省の發表を綜合して眞珠灣以來第一線で戰死した米海軍の七少將及び一代將の氏名を次のやうに報じてゐる

一、海軍少將アイザツク・キツド
日本軍の眞珠灣攻撃の當日アリゾナ艦上で戰死

一、同　ノーマン・スコツト
ダニエル・J・カラガン
それぞれ巡洋艦アトランタ及びサンフランシスコの艦長で一九四二年十一月十三日ガダルカナルで戰死

一、同　ヘンリー・H・マリニツクス
一九四三年十一月二十四日ギルバート島沖の海戰で空母リスコーム・ベイ號撃沈の後行方不明

一、海軍少將ジョン・W・ウイルコツクス
一九四二年初め大西洋で荒天のため甲板上から洗ひ流さる

その他ロバート・イングリツシユ、チヤールス・P・セシルの兩海軍少將及び代將ジエームス・Aローガンは飛行機事故で戰死

米國務省デユウイ演說を反駁

(リスボン十九日發)ワシントン來電=共和黨大統領候補デユウイは十八日夜の演說で米國政府の秘密外交を手きびしく攻撃、特にルーマニアとの休戰交涉でソ聯のいひなり放題になつたことを非難したが、國務省は十九日これに答へて要旨左の反駁聲明を發表した

米國政府はルーマニアとの休戰交涉のあらゆる段階に參加してゐた、交涉には赤軍の軍司令官が主として當つたことは事實だが、これは休戰交涉であつて和平交涉でなかつたためである、また政府は交涉の內容を不必要に國民からかくしておいたこともなく、政府は交涉が發表に差支へない時にこれを一般に公表して來た

軍需減産に警告

(リスボン十九日發)ワシントン來電=戰時生產局長官クルーグは十九日米國民の戰局樂觀によつて最近軍需生產が減退傾向を示し始めたことに警告して次の通り述べた

ある種の重要な武器彈藥の生產が今後も依然として減退してゆくならば歐洲戰は何時まで續くかわからず、或ひは勝利の日は永久にやつて來ないこととなるかも知れない、これに反し國民が戰爭遂行に一層の熱意を示して軍需增產に努めるならば今後三四ケ月以內にも歐洲戰は終了するだらう

デユウイ優勢に轉ず

(リスボン十九日發)ニューヨーク來電=米大統領選擧はいまや最後の白熱的段階に入つたが十九日發表された週刊誌「ニューズ・ウイーク」の調査によれば、從來殆んどあらゆる調査でルーズヴエルトが優勢を示してゐたにも拘らず今度の調査ではその地位が逆となつて形勢はデユウイにやや有利になつたことを示した

卽ちルーズヴエルト支持の州は二十五州、その選擧人票數二百三十に對しデユウイ支持の州は十九州、選擧人票數二百三十二を示した、殘りのミネソタ、ミズーリー、コネチカツト、ペンシルヴアニアの四州は兩者の勢力互角で選擧の結果はこの四州の動向如何により決定されることとならう

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ル大統領の秘密外交を攻撃

(リスボン十八日發)ニューヨーク來電=共和黨大統領候補デユウイは、十八日ヘラルド・トリビユーン紙主催の討論會に出席、大統領ルーズヴエルトの祕密外交を攻撃して次の通り演說した

ルーズヴエルトは個人的な祕密外交をもつて米國の外交問題を處理してゐる、その結果米國民は政府が現在いかなる外交をやつてゐるか一向に知らないといふ有樣である、例へばルーズヴエルトはポーランド問題でソ聯と祕密な交涉を行ひポーランドを裏切つた、ルーマニアとの休戰交涉にせよソ聯のみが米英兩國をも代表して折衝に當つたが、これまたルーズヴエルトが祕密にソ聯に對してかかる權限を與へたからにほかならぬ、今次大戰こそ最後の戰にしなければならぬ、米國民がこの重大な戰爭處理がいかに行はれるかを知らんとするのは當然の要求であらう

大掛りなノルマンデイ上陸作戰

(リスボン十七日發)ワシントン來電=米國大統領ルーズヴエルトは十七日の記者團會見において反樞軸軍のノルマンデイ上陸作戰開始當時の狀況を次の通り述べた

歐洲侵攻作戰當日ノルマンデイ海岸に上陸した兵員は二十五萬を超え、その後連日二萬トン以上の軍需資材が揚陸された、そもそも右作戰においては海岸地帶を制壓することと增援部隊並びに補給物資を送ることとの二つの大きな問題があつた、米英軍は先づ老朽船並びにコンクリート製艀舟を始め特別に建造された浮ドツクを沖合に配置し浮橋を造つて陸上と連絡をつけた輸送船は防波堤後方の靜かな海面に入り浮ドツクに荷揚げし、そこから貨物自動車が狹い浮橋を通つて海岸に補給物資を運んだ、人工的に港灣を構築する計畫を樹てこれを實行し得る段階にまで進めるには約一年足らずの時日を要したしかして上陸開始當日ノルマンデイ海岸で構築された港灣は完成までに一ケ月を要したが、もつとも最初の二、三日で既に小規模ながら人工港灣がつくられてゐた、これ等の人工港灣は修復後のシエルブール港よりも多くの物資を取扱つた

海軍の生産計畫削減なし

(リスボン十八日發)ワシントン來電=海軍省當局は十八日海軍の軍需生産計畫につき次の通り言明した

歐洲戰終了とともに陸軍は約四十パーセントの軍需生産の削減を計畫してゐるやうだが、海軍にはかかる削減計畫なく日本に對する勝算が全く確實となるまで現在通りに續けられよう、海軍關係の軍需生産が依然高水準を保たねばならぬのは廣大な太平洋戰域を海軍が負擔しなければならぬことによつても容易に想像がつくべく海軍としてはロケツト砲彈、攻擊用舟艇等の大增産を期してゐる、勿論ある種の兵器については減産の行はれることもあらうが、これは生産計畫の變更であつて生産全體の削減では決してない、海軍は現在でも陸軍から戰鬪機の讓渡をうけてゐるが、この量は歐洲戰終了後には一層增加しよう

攻擊用舟艇の建造遲延

(リスボン十七日發)ワシントン來電=海軍委員會は十七日次の通り發表した

今後の太平洋作戰には特殊攻擊用輸送船並びに攻擊用貨物船が最も必要であり、政府はこれら船舶の建造に對し、他のいかなる艦船建造にも先んずる最大優先權を與へた、しかしてこの種船舶二百四十三隻を本年六月から明年五月までの一年間に完成する計畫であるが、現在までのところ若干豫定より遲れてゐる、原因としては勞働力の不足とか若干部分品が期日までに入手出來ないことなどがあげられる

餘剩軍需資材額

(リスボン十七日發)ワシントン來電=復興金融會社は十七日次の通り發表した

去る九月末現在で政府所有軍需産業のうち餘剩と認定されたものの價格は四億四千六百萬弗、うち二億二千六百萬弗は飛行機及びその部分品であつた

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

人口增加　(リスボン十八日發)ワシントン來電＝國勢調査局は十八日、一九四三年の米國の人口増加は最近の最高記錄を示して百四十七萬五千百七十三人に達したと發表した、出生は約三百萬に對し死亡は百五十萬以下であつた

最高記錄

舊羅國王の上陸禁止　(リスボン十八日發)ニューオリーンズ來電＝舊ルーマニア國王カロル二世はメキシコからポルトガルへの途中アルゼンチン船でニューオリーンズに立寄つたが米國當局は好ましからざる外國人としてカロル二世の上陸を禁止した、彼は船中において聲明を發し「余は今後米國が余に加へた如き態度をもつて米國を遇するであらう」と憤慨を漏してゐる

重慶商業代表到着　(リスボン十七日發)ニューヨーク來電＝來る十一月十日ニューヨークで開催される國際商業會議に出席の重慶代表上海商業儲備銀行董事長陳公甫一行は十七日空路ニューヨークに到着した

【米洲】

亞國、獨伊語紙發禁　(リスボン十八日發)ブエノスアイレス來電＝アルゼンチン政府は十八日ブエノスアイレスで發行されてゐる樞軸系二新聞を發行停止處分に附した、兩新聞はドイツ語紙「ドイチエ・ラ・プラタ・ツアイツング」及びイタリア語紙「マチノ・デイタリア」である

暴徒ホンジユラス侵入　(マドリード十七日發)メキシコ市からの「エツフエ」通信社の報道によれば暴徒五百名は十七日サルヴアドルからホンジユラスに侵入を試みホンジユラス正規軍と二時間に亘り交戰したと傳へられる、ホンジユラス政府は飛行機まで出動させ暴徒擊退に努めたが、双方に多數の死傷者を出しサン・ミグエル市は暴徒の手中にある樣子だ

伯艦隊南大西洋を哨戒　(リスボン十八日發)「タイムズ」紙のワシントン特派員は次の通り報道してゐる

リオデジヤネイロ來電によればブラジル海軍は南大西洋水域における哨戒の任に當り同方面の米國艦隊は太平洋に廻航されるだらうといはれる

【英國】

ドデカネーゼ歸屬問題重大化

(ストツクホルム十八日發)反樞軸軍のエーゲ海諸島嶼に對する脅威が增大するとともにこれら島嶼の將來における歸屬が問題となつてゐるが、ロンドン來電によれば十八日下院において保守黨議員アスターが

戰後ドデカネーゼ諸島の歸屬如何、またこれら諸島の住民がギリシヤ人としてまた反樞軸國人として取扱はれるかどうか

と質問したに對し、無任所相リチヤード・ローは同問題に關しては何事も決定してゐない、ただし彼等が敵と看做されないことだけは保證出來ると答辯したといはれる、しかし英國政府の對ドデカネーゼ政策が積極化しつつあることは亡命ギリシヤ政權を痛く刺戟しつつあり、カイロ來電によれば同政權機關紙「タキドロモス」は十八日次の通り論じてゐると傳へられる

英國政府はドデカネーゼ諸島を戰後ギリシヤに返還するかどうかを論議してゐるが、如何なるギリシヤ人もかかる論議に承服することは出來ない、ドデカネーゼ諸島はあくまでギリシヤ領であり、當然ギリシヤが再び領有すべきである

東亞向武器を歐洲へ　(リスボン十五日發)英國新聞「デイリー・テレグラフ」紙のケープタウン特派員は七日次の通り報じてゐる

歐洲における反樞軸軍作戰の急速な展開に伴ふ軍需品の莫大な消費のため英國陸軍省は今回南阿聯邦で製作され東亞戰に使用する筈であつた軍需品の一部を歐洲に轉送することとなり、これがための輸送準備を整へてゐる

英軍の損害十萬

(ベルリン十八日發)ロンドン來電＝副首相アトリーは十八日下院において英軍の損害を次の通り發表した

歐洲西部において戰鬪が開始されて以來八月末までに英國軍が蒙つた損害は十萬三千八百四十二名で、うち二萬七百九十五名は戰死、六萬三千百九十三名は負傷、一萬九千八百五十四名は行方不明である、以上は自治領軍を含まない

英、芬空路再開

(ストツクホルム十七日發)英國海外航空會社は英本國、ストツクホルム、ヘルシンキ間の定期空路再開のため現在赤軍航空部隊の基地となつてゐるマルモエ空港使用に關して赤軍當局と交渉中だが、近く三年振りで英國の飛行機がフインランド上空を飛翔することになる筈といはれる

【ドイツ】

ザイドリツツ委員會の策動を暴露

(ベルリン十七日發)ドイツ政府當局は從來モスクワの「自由ドイツ國民委員會」を無視する態度をとり、報道を一切禁止してゐたが、十七日の各紙を通じて同委員會に關する聲明を始めて發表、卑劣な策動を完膚なきまでに暴露した、聲明の要旨次の通り

ソヴエト政府は、過般來「自由ドイツ國民委員會」と稱する團體を宣傳の道具に使ひ、同委員會は戰線に傳單をばら撒いてドイツ抗戰力の鈍食に努めてゐたが、ドイツの前線兵士によつて一笑に付されてきた、同委員會の首班はドイツから亡命した猶太人や共產主義者で一年半前にドイツ軍から脫走して赤軍に投じたザイドリツツ大將も參加してゐる、ザイドリツツは當時ドイツ軍法會議において缺席裁判を受けて死刑を宣告されてゐるが、さらに赤軍の捕虜となり强制されて祖國を賣つたドイツ軍將兵數名も加つてゐる、また七・二〇事件の首謀者共が自由ドイツ國民委員會と連絡をとつてゐたことは事件の直後委員會がモスクワ放送局を通じて「シユタウヘンベルクの如き人物は、われわれの同志だ」と呼び掛けてゐる一事からみても明瞭だ、ドイツ軍前線の一元帥は本年三月十九日ヒトラー總統に書簡を寄せ、同委員會に對する憤怒をぶち撒けると同時に總統に對して忠誠を誓ひ次の通り聲明してゐる

われ等は砲兵大將ワルター・フオン・ザイドリツツ＝クルツバツハがわれ等の聖なる大義を裏切つたことを知つて遺憾に堪へない、ザイドリツツは敵に奉仕することによつて後方からドイツ軍を攻擊してゐるのだ、われ等はまたドイツ軍將官が總統を裏切つたことを衷心から遺憾とする、しかしながらわれ等はドイツ軍全將校の名においてわれらとこの卑劣な裏切者との間の連鎖を斷ち切つたことを總統に報告する、サイドリツツの名は永久に汚辱に塗られるであらう以上の聲明はドイツ軍元帥府が全軍に總統の理念を普及しドイツ軍兵士は一人殘らずドイツ國民の國家社會主義的未來のため熱烈な鬪士となることを確信する言葉をもつて結んでゐる

突擊隊は公然たる武裝團體

(ベルリン十八日發)ドイツ新聞長官代理ズンデルマン氏は十八日正午記者團との會見において「國民突擊隊」の結成につき次の通り言明した

銃後におけるドイツ國民男子は今回悉く國民突擊隊に編入されるが突擊隊はヘーグの陸戰法規に準據する武裝團體である、十六歲以上六十歲までの男子が軍事教練をうけ、敵軍がドイツ本土に侵入するとともにいづれの地點たるを問はず國防軍の一部として戰ふであらう、以上の國防上の重要施策は決して地下運動でもなければ敗北を豫想しての措置でもなく戰場かドイツ國境線に近付き國內に敵の空挺部隊が降下し乃至機甲兵團をもつて敵軍がドイツ國內に侵入する危險に備へる國際法上の所謂軍事的總蹶起に他ならない

戰爭開始以來の將校五萬人戰死

(ベルリン十八日發)ドイツ軍當局は今回の戰爭開始以來ドイツ陸軍將校の戰死は五萬名に上り、內將官は百三十八名なる旨十八日言明した

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【東南歐】

洪攝政會議を新設

(ブダペスト十七日發)「矢十字」黨首相フエレンツ・ザラシー氏は攝政兼首相就任と同時に、國防相カロリー・ベレスキー大將、文相フエレネ・ライニス並びにサンドール・シアの三氏から成る攝政會議を設置するに決した

新首相布告

(ベルリン十八日發)ブダペスト來電=ハンガリア新首相ザラシー氏は十八日次の布告を發した

非常措置を必要とする刻下の情勢に鑑み、攝政は三名から成る攝政會議を任命して國家指導者の問題を解決しようといふ余の案に同意し、同時に攝政會議が設立され、行政權に關する案が出來上るまで首相としての余が攝政の權限を掌握することにも同意するに至つた

新政府初閣議

(ブダペスト十八日發)ハンガリア政府は十七日午後ザラシー首相司會の下に閣議を開催、一九四五年一月一日までの政策に關し協議を遂げた

國立銀行總裁も更迭

(ベルリン十八日發)ブダペスト來電=ハンガリア政變に伴ひ國立銀行總裁ボツシユ博士並びに支配人ベラテイユ博士に代り總裁にはガール博士、支配人にはヤンコヴイツチ博士がそれぞれ任命された旨十八日發表された、新總裁は矢十字黨員で現在下院議員であり、ヤンコヴイツチ博士はこれまで國立銀行の局長の地位にあつた

ネデイツチ政府維納へ

(ベルリン十八日發)赤軍のベルグラード突入と共に同市を去つたネデイツチ政府は十八日に至りウイーンに到着したと傳へられるに至つた、ドイツ外務當局は右に關し否定も肯定もしないが同地には既にルーマニア、ブルガリア兩國の愛國分子が集り祖國再興の計畫を進めてをり、今回セルビア政府を加へここに新たに東南歐洲諸國を打つて一丸とする「政治團體」の誕生が豫想されるに至つた、しかしてドイツ外務當局が十八日正午

東南歐洲に關聯するすべての政治問題がベルリンでドイツ政府の手により解決したことは事實だ、しかしウイーンが東南歐洲に近いとの理由でドイツ高官が目下ウイーンにゐるといふことは有り得ることだ

と述べたことは右政府團體がドイツ指導者を中心とする强力なものなることを示唆してゐる

勃の粛正工作續く

(ブダペスト十八日發)ソフイア來電=裏切ブルガリア政權內部の國家主義分子に對する追ひ出し運動は依然强硬に續けられ、ファツシヨ運動に參加した裁判官は盡く罷免された、司法官が政治的理由で放逐されたのはブルガリア歷史初まつて以來のことだが、他方ファツシヨ的傾向を持つとみられる教師は文相の命に基き盡く教職を退かねばならず、教科書その他教材も大部分使用禁止となつた

【反樞軸陣營】

米軍、二十五ケ師を使用

(リスボン十八日發)パリ來電=歐洲侵攻反樞軸軍司令部當局は十八日フランス侵攻作戰開始以來西部戰線で作戰中の米軍師團の名稱について次の通り言明した

一、機甲師團 第二、第三、第四、第五、第六、第七

一、空挺師團 第百一、第二

一、歩兵師團 第一、第二、第三、第四、第五、第八、第九、第二十八、第二十九、第三十、第三十五、第三十六、第四十五、第七十九、第八十、第八十三、第九十

【亡命政權】

希政權本國歸還

(リスボン十八日發)ギリシヤ亡命政權は亡命以來ロンドン、カイロ、南イタリア等轉轉と移轉したが、十八日のアンカラ放送によれば首相ゲオルギオス・パパンドレオ以下閣僚の大半はギリシヤ本國に歸還したといはれる

【北歐】

元老外相逝去

(リスボン十七日發)ヘルシンキ來電=元フインランド外相ロルフ・ウイテングは十二日逝去した、享年六十五

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【ソ　聯】

比島作戰の困難を指摘

（モスクワ十二日坂田特派員發延着）ソ聯海軍機關紙「赤色艦隊」は臺灣沖海空戰以前の十二日の紙上に軍事專門家エルマショーフ氏の「比島作戰」と題する太平洋戰局論を地圖入りで掲載してゐるが、同氏は來るべき比島作戰における米軍の重大困難と日本軍の强力な邀擊態勢を指摘次の通り論じてゐる

米軍のペリリユー島上陸はパラオ全島を制壓して比島への跳躍臺と化さうといふ意圖を示すものだが、米軍の比島作戰には重大困難が横たはつてゐる事實を指摘せざるをえない、卽ち米軍の主力基地たる米國西岸、ハワイおよび濠洲から非常に離れてゐることだ、そのため米軍はパラオ諸島に大補給基地を建設する積りなのだが日本側も比島並びに蘭印に尨大な兵力を配置してゐるばかりでなく、莫大な軍需品の貯藏を行つてゐるのだ、從つて米軍の比島作戰は從來の作戰とは比較にならぬ困難さである、米國戰時情報局は九月末對日戰における反樞軸軍の有利な點を列擧した後日本の有利な點をも併せて指摘してゐるが、日本軍の最大の利點は日本が各種軍需品の增產を達成し得る能力を持つてゐることだ、さらに日本軍は大軍と莫大な戰略原料資材の蓄積に成功してをり、日本海軍は依然として威力を發揮出來る狀態にある、以上の諸點に鑑み、米國戰時情報局もまた對日戰が長期且つ極めて困難な戰鬪を必要とするといふ結論に達してゐる

ベツアモ・ニツケル鑛山買上げ

（リスボン十八日發）ボゴタからのUP電報はカナダ政府筋の情報としてフインランドのペツアモ・ニツケル鑛山に關してソヴエト、カナダ兩國間に交涉が開始されたと報道してゐる、右ニツケル鑛山は大戰開始以前には「カナダ國際ニツケル會社」の經營に屬してゐたが、今回ソ芬兩國間の休戰協定に基き赤軍が占領するに至つたもので交涉の結果ソヴエト政府が今後ニツケル鑛山の經營に從事し「カナダ國際ニツケル會社」の所有する諸施設を買上げることになるだらうといはれる

トルコ大使着任

（ストツクホルム十八日發）モスクワ來電＝新任トルコ大使セリム・サーバー氏は十八日モスクワに到着した

【トルコ】

首相英ソ兩大使と會見

（リスボン十八日發）アンカラ來電＝ソヴエト大使ヴイノグラドフ氏並びに英國大使モーリス・ピーターソンは十八日トルコ首相サラジヨグル氏を訪問し長時間に亘り會談を遂げた、右會見は最近の國際情勢に鑑みアンカラ政界で特に重大視されてゐる

【西　亞】

パレスチナ地方のユダヤ人結社

（リスボン十七日發）ロンドン來電＝英國の拓相スタンレーは十一日の下院でパレスチナ地方におけるユダヤ人について次の通り言明したパレスチナ地方の統一を念願とするユダヤ人は「イルガン・レウミ」と稱する軍隊的な新團體を組織してゐるが、團員少くとも百五十名は爆彈、自動火器を携へ、去る九月二十七日パレスチナ地方の四ケ所の警察署を襲擊した、警察署は可成りひどく破壞され、應戰した警官、襲擊隊の双方に死傷を生じ、暴徒二名は逮捕された一味はテル・アヴイヴの事務所街及び織物工業會社の倉庫を襲擊し十萬磅に上る織物を持ち去つてしまつた、これらユダヤ人の目的はパレスチナ地方統一といふ政治的目標を更に促進するにあるが、遺憾ながらかかる行動は反つて反樞軸軍の戰爭努力を阻害し、同時にユダヤ人にとつては何等益するところがあるまい

以上の言明に對し、保守黨議員ウインタートンはユダヤ人とアラビア人とはパレスチナ地方で爭鬪を續け內亂の準備を進めてゐるといふ懸念が强いが、當局は英國人一般にパレスチナ地方における事態が容易ならぬことを知らせるために報告書を發表しては如何と提案、拓相は考慮を約した

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

資料

ソ聯經濟復興を繞る諸問題

米、ソ聯經濟復興の結果を危惧

本年七月に米國のブレトン・ウツヅで開催された反樞軸國際通貨財政會議において、ソ聯代表がいはゆる信用基金に對するソ聯の大きな發言權を要求したことは、ソ聯が戰後に何を計畫してゐるかといふことの一端を示すものとして各國經濟專門家の關心を集めたが、ソ聯が戰後荒廢に歸した經濟を復興して、世界一とはいへぬまでも、米國に次ぐ大工業國たらんと企圖してゐることは明瞭だ、特にドイツ處理案の皮算用會議で、一千萬のドイツ勞働力を經濟復興工作のために要求し、米英兩國が熟練勞働者百萬、未熟練勞働者三百萬に値切つたといふ噂まで流布されたのをみても、ソ聯が戰前のゴスプラン(十五ケ年計畫)に類似した大規模の復興計畫を既に考慮してゐることは容易に想像される、以上に關して「ウオール・ストリート・ジヤーナル」紙の經濟記者レイモンド・モーレーは去る七月十八日附の同紙上でソ聯の戰後十ケ年計畫なるものを報じてゐるから左に紹介しよう

ソ聯が戰前よりも遙かに高度の工業國を目指して、經濟復興十ケ年計畫を腹案してゐることは凡ゆる徵候からみてもはや疑問の餘地がない、オイケン・ヴアルガ教授の主宰する世界經濟研究所の報告は時折ソ聯の經濟復興計畫の片鱗をみせてをり、例へば昨年十月同教授は「戰爭と勞働階級」誌上でドイツ勞働力および機械設備に對するソ聯の要求を或程度具體的に述べてゐるが、その後ソヴエト政府はフインランドによつて拒否された和平條件にも同じやうな要求を盛り込んでゐる、即ち數年間に亘つてフインランドで生産された六億弗に相當する物資をもつて、ソ聯の蒙つた損害を補償すべしと要求した、恐らくルーマニアやハンガリアに對してもソ聯は同じ種類のことを要求するものとみられてゐる

去る五月米紙は米國におけるソ聯の物資購入計畫なるものを報じたが、それによるとソ聯は今後十年間に亘り年十億弗の物資を買入れる豫定といはれる、ソ聯の必要とする物資には發電所建設材料、電話電信器具、各種機械特に工作機械などで鐵道材料も相當量含まれてゐる、もつともソ聯は要求する賠償額よりも遙かに少額を手に入れるだけであらうし、クレヂツトに關する困難のため米國その他におけるソ聯の物資購入量は著しく制限されるであらうから、ソ聯は十ケ年計畫でどの程度の工業國になりうるかといふよりは、どの程度まで經濟復興に成功するかを正確に見透すことは困難だ、しかしながらソ聯が輸入することが出來た工業施設は、尨大な原料資源と勞働力によつて二倍にも三倍にも生産力を發揮することが出來るであらうから、十ケ年の後には米國に次ぐ大工業國になることはさして困難ではあるまい、それならば何故にソ聯が十ケ年計畫を考慮し、世界工業國の第三位をもつて甘んじてゐないかといふことが問題となるが、その理由は明瞭だ、ソ聯は既に自國の自然資源をもつて自給自足出來る狀態だから、新たに版圖を求めて世界の平和を掻き亂す必要はないといふ樂觀論もなりたつが、工業の成長はさらに勞働力と工業施設網の擴大を要求する、さすれば來るべき數年間におけるソ聯の目標は版圖の膨脹といへぬこともない

ソ聯の戰後貿易問題

「エコノミスト」誌は八月二十六日號に「ソ聯の戰後通商」と題する論說を掲げ次の通り論じた

ソ聯の戰後通商政策は曾つてチヤーチルがほかのことに關聯して「謎のなかで不思議に包まれた曖昧」といつたやうなものではなくなるであらうすくなくとも戰後の再建期には從來の自給自足主義はソ聯の指導方針とはなるまい、ホツト・スプリングスの反樞軸戰後食糧會議でもブレトン・ウツヅの反樞軸戰後通貨財政會議でもソヴエト代表は國際經濟の分野で出來るだけ有利な地位を占めようといふ積極政策をとつたが、以上の方針は海外に對する經濟的膨脹を狙つたものではなく、ソ聯國內再建工作に外國資本の援助を得るためと解すべきであらう、戰後第一年目にソ聯の要する援助は非常な廣範圍に亘るものとみられる

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

主なものは工業復興のための工作機械、集團化農業の技術基礎再建のためのトラクター、コンバイン類、歐露畜産業回復のための家畜や食料品、衣服等であらう、勿論ソ聯通商政策の重點は生産資材の輸入におかれようが戰後一、二ケ年は民需物資の輸入に優先權が與へられよう

以上の購入物資に對するソ聯の支拂方法だが戰後ソ聯が、どの程度の物資を輸出出來るかが問題だ、ソ聯は從來主要輸出物資であつた石油、木材小麥、滿俺鑛、毛皮などの生産超過を間もなく實現出來ようが、もしも數年間に亘る輸入超過を克服する手段が見出され、かつ復興工作のために長期クレヂツトを確保出來た場合にのみ、ソ聯は外國との通商行爲に入ることが出來るだけだ、しかしソ聯はブレトン・ウツヅ協定により國際通貨基金から十二億弗のクレヂツト供與をうけることになるからソ聯の支拂勘定における短期間の不安定は十分に克服出來る、他の源泉はソ聯の多額の金準備だ、しかしソ聯の金準準がどの程度のものか判らないし、ソ聯の通商當事者が通商のため金準備からどれだけ引き出せるものやらも判らない

ソ聯市場開設の主な要因は長期信用だ、ソ聯に對する長期クレヂツトの供與を妨げるイデオロギー上の障害は大體において克服されてゐる、米國がクレヂツトの鍵を手中に確保してゐることは言ふまでもなく、ソ聯に對する米國の長期資本輸出の手順も既に出來上つてゐる、また國際復興發達組織はソ聯に對する借款供與を促進せしめる主要機關とならう、はつきりしないのは銀行が單なる保障人としてどの程度まで行動し、借款供與にどの程度まで參加するかといふことだ、米國は目下のところクレヂツトを利用してソ聯市場を獨占しようと圖つてゐる模樣で、米國商業會議所會頭エリツク・ジョンストンは過般モスクワにおいて行つた演說において、舊世界の諸國と通商關係に入らぬやうソ聯に希望してゐる、結局米國はクレヂツトの主要供與者として且つは世界の指導的工業生産家としてソ聯市場に對する有利な地歩を占めることが出來よう、特に舊世界の諸國が戰後の經濟餘波と闘つてゐる間に米國は獨占的地歩を占めることとならう、しかしながら長い眼でみれば舊世界は舞臺から消え去りはしまい、戰前英國だけでソ聯總輸出高の三分の一程度を輸入してゐたがソ聯の通商活動が增大すれば、戰後ソ聯商品の購買者としての英國の意義は戰前ほど大きくはあるまい

しかし世界貿易の焦點が戰後ベーリング海に移り、米國に對するソ聯商品の門戸が解放されると考へるならば、それに過る謬りはない、他方英國實業界が戰前における英ソ通商の數字から出發して樂觀視することも間違ひである、蓋し當時のソ聯は世界貿易において僅か一パーセントの比重を占めてゐるだけだからだ

ドンバスの復興

ソ聯は戰後經濟復興の大腹案を藏すると同時に戰爭中も出來る限り復興工作を進めてゐるが、今各地の狀況をみれば次の通りだ

ドンバス回復一周年記念日の九月八日、ソ聯各紙はドンバスの復興狀態に關していろんな材料を擧げて報じてゐるが、「イズヴエスチヤ」紙によれば過去一ケ年間に基本大炭坑百二、小炭坑六百五十が復興し、每日數千噸の石炭を生産してゐるといふことだ

また同日の「プラウダ」紙に揭載されたスターリン議長宛のスターリノ州勞働者の手紙によればスターリノ州では二百萬立方米の浸水を汲み上げ五十一の基本炭坑が復舊し、過去一ケ年間に六百萬噸以上の石炭（うち二百萬噸は骸炭）を生産したといはれる、またスターリノ州共産黨書記の報告によれば、全長十二萬三千米の竪坑中一萬九千六百三十七米を復舊したといふことである、更にウオロシーロフグラード州共産黨書記の報告によると、基本炭坑八十六が既に復舊を完了し、二百三が目下復舊中で、過去一年間に數萬噸の石炭を生産したといはれるが、「プラウダ」紙は社說でドンバス復舊工事の立遲れを指摘して次の通り述べてゐる

ドンバスの炭坑勞働者は復舊工事の主要任務をまだ濟ましてゐないことを知るべきだ、基本的な大炭坑の大部分はまだ操業を開始してをらず熔鑛爐もまた再建途上にある、國家は金屬と

昭和十九年十月廿一日(土)
第三二一六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

石炭を必要とすること急であるから、ドンバスの復舊工事をすみやかに促進せしめねばならない

スターリン議長に宛てたドンバス勞働者の手紙も以上の事實を認めて次の如く述べてゐる

今日までの復舊工作は相當の成功を收めたといふことが出來るが、現在の採炭量ではまだ不十分である、ドンバスの石炭工業特に骸炭用の石炭を産出する炭坑を復興することは國家的事業であるから、第一に達成しなければならない

工業の復舊

次にソ聯紙の報道によつて他の工業の復舊狀況をみれば次の通り

金屬その他 スターリノ州では高爐七、マルチン爐二十三、壓延機十七、骸炭爐四十二を復舊、ドイツ軍から解放されて以來銑鐵二百萬トン、鋼四十四萬トン、鋼鈑二十二萬トン、骸炭七十萬トン以上を生産した、既に復舊成り、近く戰前の生産力に達し得るものは、マケーニフカのスターリン工場、キーロフ工場、マリウポリのイリイツチ工場、その他エナキエヴオ金屬工場、コンスタンチノフカ金屬工場がある、またチヤーソフリヤールスキー防火材料工場、デンテレイモノフ防火材料工場、エレノフスキー石灰工場、クラスノゴールスク煉瓦工場のほか、雪花石膏工場五(年産十八萬一千瓲)石灰工場七(年産十萬五千瓲)煉瓦工場二十二も復舊した、ヴオロシーロフグラード州共産黨書記の報告によれば、ヴオロシーロフスク金屬工場ではマルチン爐二、高爐一が復舊中で壓延機二、マルチン爐が近く復舊を完了する豫定といはれ、さらにルツギンスク銑鐵工場の他ユクヴオフスキー鋼管工場も近く戰前の生産力に達する豫定だが世界第二、歐洲第一のレーニン曹達工場も既に優秀な曹達を生産、リシチヤンスク硝子工場、パパスキヤーキン硝子工場も復舊した

電力 スターリノ州ズーエフカ水力發電所では十萬キロワツト時の能力を有するタービン二が復舊、スターリノ、ヴオロシーロフグラード、ロストフ各州に電力を供給してをり、更に大發電所七小發電所四十七も復舊、ヴオロシーロフグラード州ではセヴエールヌイ・ドン水力發電所の二萬二千キロワツト時の能力を持つタービン二が復舊、シユテロフカ水力發電所では既に一萬キロワツト時の電力を供給してゐるが、更に二萬二千キロワツト時の能力を持つタービンが完了する豫定といはれる

鐵道 スターリノ州では鐵道路線三千六百粁、機關庫十四、車庫三十六が復舊され、停車場三百二十が建設された、ヴオロシーロフグラード州では路線二千九十一粁、機關車十九、停車場百二十三、鐵橋四百六十八が復舊された

このほか十二日の「プラウダ」「イズヴエスチヤ」兩紙はヴオロシーロフグラード州の勞働者、共營農場員、勤務員六十一萬七千百三十八名のスターリン議長宛署名入手紙を掲載してゐるが、この報告によれば、戰前における同州の工業生産高は次の通りである

石炭＝日産十一萬瓲
電力＝日産二十億キロワツト時
銑鐵＝年産八萬七千三百瓲
鋼鐵＝年産二十三萬七千瓲
鋼鈑＝年産二十萬八千瓲
鋼管＝年産十九萬五千瓲
骸炭＝年産二百萬瓲

その他レーニン曹達工場は年四十萬瓲を生産してゐたが、これは全ソ産額の半ばに達する、また十月革命機關車工場は「IS」及び「FD」等の大型機關車四百四十輛を生産してゐた、しかるにヴオロシーロフグラード州の回復以來基本炭坑三十五、小炭坑數百が復舊され、すでに石炭六百萬瓲を生産してゐる他電力は日産八十萬キロワツト時に上り、平爐四が復舊され七千瓲の鋼を生産してゐる、機關車工場は近く新型機關車を生産骸炭爐は數萬瓲の骸炭を生産してゐるほか、レーニン曹達工場は日産二百三十瓲に上るといふことだ

「プラウダ」紙もドンバスの重要性を指摘して、「一九二一年におけるドンバスの復興は國の工業化の基礎をしくものであつたが、今や同地の復興は南部、西部、中部の新工業强化の强力な基礎とならう」と述べてゐるが、ウクライナの意義は穀倉よりもドンバスにあるといはれてゐるだけに、ソ聯はその復舊に特に力瘤を入れてゐるやうだ

大正十五年十月廿九日第三種郵便物認可　昭和十九年十月廿三日(月)　第三二一八號
編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　社團法人同盟通信社

同盟通信

海外電報

(243)

臺灣沖の海戰に慘敗を喫し太平洋最強を誇つたマーク・ミツチヤーの第五十八機動部隊は殆んど殲滅に近い大打撃を蒙つたにも拘らず、敵不逞の比島侵攻作戰はいよいよ本格的に開始された、大本營發表のごとく敵の有力な機動部隊はすでに比島中央部レイテ灣内深く侵入した、これを率ゐる者はいはずとしれたダグラス・マツカーサーである、臺灣沖に出撃したハルゼー艦隊の使命は比島に對する日本の補給基地を破壞し、日本軍航空兵力の消耗を圖る侵攻準備であつたと思はれるが、それにしてもマツカーサーは直接侵攻に關する限り一手に引受けるつもりなのだらうか、勿論第五十八機動部隊を含むハルゼー艦隊の掩護戰鬪力が甚だしく低下してゐるとはいへマツカーサー自身の麾下にはキンケードの第七艦隊あり、その他ケニー、或ひはミツチエルの航空隊もあつてその勢力はなかなか侮りがたい、二年半の前、はふはふの態で逃げ出した彼マツカーサーとして、今日比島の中央部に一擧突入せる得意は想像に難くないが、萬里の波濤を後へにする大作戰に彼は果して補給を全うする自信があるだらうか、彼らは日本航空部隊の地上基地攻撃兵力に對して補給線を守り抜かなければならない、ここにおいて攻守の關係は一變し、戰機と戰場の選擇權は全く日本軍の手中に移つた、既に矢は放たれたのだ、敵も今更退く筈はない、臺灣沖を凌ぐ戰果が報ぜられる日も遠くはあるまい

敵は早くも猛烈な宣傳戰を開始した、ノルマンデイ侵攻のDデーと區別するために比島侵攻の日をAデーと呼ぶさうだ、十二月八日と共にこの日が彼らにとつて「銘記すべき」日となることは確實であらう



【目　次】

獨軍ベルグラードを撤收……二四三八
デプレツエン拋棄……〃
アーヘン大物量戰……〃
アーヘン市硝煙散る……〃
シチリア島に暴動起る……〃
米陸海軍損害……〃
米空母二隻命名……〃
米國人造ゴムの將來……二四三九
眞珠灣報告發表を遷延……〃
英國の戰費二百卅八億磅……〃
チヤーチル等モスクワ出發……〃
ルブリン政權ロンドンへ代表……〃
フインランドに共產黨……〃
赤系スペイン人處刑……〃

【米　國】

人的量に代る物量作戰……二四四〇
歐洲戰終了と市民生活……〃
デユウイ日獨擊破を演說……〃

【反樞軸陣營】

亡命波首相ソ聯の提案を拒否……二四四一
マロリー轉出は重慶のため……〃
ド・ゴール政權を承認か……〃

【英　國】

會議派一萬五千名を釋放……〃
ソ聯勞働組合を國際勞働局へ……〃
西アフリカ軍司令任命……〃

【東南歐】

洪國民協會、新政府を信任……二四四二
洪新首相施政方針を闡明……〃
洪新外相外交方針を說明……〃
アテネで赤白兩派衝突……〃

【ドイツ】

國民突擊隊結成細目……〃
洪戰線の軍司令官……〃

【特　輯】

泡沫のドイツ處理案……二四四三―二四四五

獨軍ベルグラードを撤收

（ベルリン二十日發）ドイツ軍當局は二十日正午次の通り述べた

ベルグラード市においては過去數日間激戰が繼續されてゐたがドイツ軍は頑强な抗戰の後サヴア河北岸に離脫した

デブレツエン拋棄

（ベルリン二十日發）DNB前線報道＝デブレツエン地區の戰車戰は終日繼續され、ドイツ軍は數時間に亘る激戰の後デブレツエンを拋棄した、なほドイツ軍は過去十二日間に同方面で赤軍戰車四百十八輛を破壞した

アーヘン大物量戰

（ベルリン二十日發）DNB前線報道＝アーヘン地區における大物量戰は十九日未曾有に激化するに至つた、特にアーヘン市東北方及び北方では異常に激烈な攻防戰が展開されドイツ軍は米軍に對して四方からわき目も振らず反擊に次ぐ反擊を展開米軍が十八日手中に收めた一群の特火點を奪取するに成功した、アーヘン市內では機甲擲彈兵からなる優勢なドイツ軍守備隊は依然死力を盡して抗戰を繼續、崩壞せる家屋の載積や地下室を據點として凄慘な市街戰を展開、米軍の進出を身を楯に阻止してゐる、他方アーヘン市內の米軍によつて占領された地區に住む市民で避難する暇のなかつた者達は捕虜收容所に拘禁され强制勞働に服務させられてゐるばかりでなく、食事も碌に支給されてゐない模樣だが、更に捕虜收容所は戰線眞近かにあるため終始戰火の危險に曝されてをり、その生命は保障し難い狀態にある

アーヘン市硝煙散る

（リスボン二十日發）前線報道によればアーヘン市內の戰鬪は二十日夕刻に至つて終熄したと傳へられる

シチリア島に暴動起る

（リスボン二十日發）ボノミ政權の無策と反樞軸軍の徵發によりイタリア南部各地は今や人工飢饉に當面してゐるが、パレルモ來電によれば二十日シチリア島民が暴動を起し軍隊と衝突、パレルモ市民の間に死者十九名、負傷者百餘名を出しイタリア兵の間に負傷者九名を出すに至つたと傳へられる、市民は二十日早朝パレルモ市目拔きの大通りに集合、特に勞働者群は現在の賃金では家族が餓死するばかりだと敦圍き賃金の增額を要求して市內を練り歩き、ボノミ政權の高等辨務官サルヴアトーレ・アルデシオの官邸前に殺到した、警官隊が鎭壓しようとしたが容易に收らず高等辨務官はパレルモ駐屯イタリア軍の出動を求めたが、軍隊の來援とみるや群衆は却て激昂し爆彈や火器で血醒い騷擾を展開するに至つた

要するにシチリアの島民は生活難からボノミ政權の無策を非難、シチリア島だけの分離獨立を要望してゐる譯だが、反樞軸軍も全く手の下しやうがなく、パレルモからのAP電報も

米英兩國は介入せずイタリア人とシチリア島民とがお互の間で紛爭を片付けるのを待つ方針だと述べてゐる

米陸海軍損害

（リスボン二十日發）ニューヨーク來電＝二十日のUP通信は政府當局からの發表數字に基づき、開戰以來米國陸海軍が太平洋戰域で受けた損害として次の綜合的數字を發表した

△海軍艦船　一九五隻
　內・軍艦　一五五隻
△陸海軍飛行機　三、三七〇機
△兵員（戰死、戰傷行方不明を含む）一一五、〇〇〇

米空母二隻命名

（リスボン二十日發）ワシントン來電＝世界最大と稱される米海軍空母二隻は目下ブルツクリン及びヴアージニア州ニューポート・ニューズの造船所で建造中である

海軍當局の言明によればこの兩空母は太平洋における海戰に因み「ミツドウエー」及び「コーラル・シー」と命名されることになつたといはれるしかして兩空母は明年中に竣工する豫定である

昭和十九年十月廿三日(月)
第三二一八號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

米國人造ゴムの將來

(リスボン二十日發)ニューヨーク來電=グツドイヤー會社當局は二十日人造ゴムの將來につき次の通り言明した

今次大戰前世界のゴム市場は事實上英國によつて獨占されてゐたが、將來かかる事態の再現することは先づあるまい、戰後世界のゴム需要は年百五十萬トンと推定されるが、現在においても米國の人造ゴム生産高は既に百萬トン以上に達しその他天然資源によるゴム生産高もこれまた百萬トン以上に上る、從つて戰後には米國だけで世界のゴム全需要額を滿たし得ることとなる、一方人造ゴムの生産費は戰前には一封度七十仙にも上つたが、現在では五十仙から四十仙に低減、將來は更に十五仙半にまで低落することが豫想される、かくて將來天然ゴムが果して人造ゴムと競爭が出來るかどうかも甚だ疑問視されるやうになつた

眞珠灣報告發表を遷延

(リスボン二十日發)ワシントン來電=米國陸海軍は議會の要求により特別委員會を任命して眞珠灣空襲事件の眞相調査中だが、共和黨下院議員メルヴイン・マースは二十日右につき次の通り言明した

余の知るところでは海軍委員會は既に眞珠灣事件の調査を終へその報告も全部出來上つてゐるにも拘らず、政府はある事情のためその發表を押へてゐるやうだ、軍事的にこの報告を一般に知らしていけないといふ理由は全く考へられず從つて政府がこの發表を押へてゐるのは完全に政治的事情である、余は全力を盡して大統領選擧前にこの報告が發表されるやう努力しよう

英國の戰費二百卅八億磅

(ストツクホルム二十日發)ロンドン來電=財務次官ラルフ・アシエトンは二十日英國下院において歐洲戰爭の開始以來去る九月二日までの五ケ年間に英國政府は二百三十八億九千三百萬磅の戰費を支出したと述べた、さらに藏相サー・ジョン・アンダーソンは下院に對し總額十二億五千萬磅の戰費豫算を要求し

九月三十日をもつて終る三ケ月間に英國政府は一日平均一千四百萬磅の戰費を支出した旨言明した、前の三ケ月に比し一日平均三百萬磅の增加である

チヤーチル モスクワ出發

(モスクワ二十日發)英國首相チヤーチル、外相イーデンは十九日午前スターリン元帥の見送りを受けてモスクワ空港を出發空路歸途についた、出發に先立ちチヤーチルは記者團に對し知人で戰友のスターリン元帥と長時間何回も打ちとけて話合ふことが出來たのは寔に欣快とし光榮とするところである、われわれは隨分勉强し、今度の會談はこの點で恰も勞働者兵士會議と同樣であつた

ルブリン政權ロンドンへ代表

(ストツクホルム二十日發)モスクワ會談はソ波兩國の紛爭に關する限り物分れに終つたと解されるが、ロンドン來電によればルブリン政權は今回ステイフアン・ウイルナウスキーを英國駐劄代表に任命したと傳へられる、同人はロンドンにおける汎スラブ委員會の副委員長で亡命政權反對の急先鋒である

フインランドに共産黨

(ストツクホルム二十日發)ソヴエト政府との休戰協定締結以來フインランド國內の政情は急激な變化を遂げてゐるが、ヘルシンキ來電によれば十九日、共產黨が合法的政黨として承認されるに至つたと傳へられる

赤系スペイン人處刑

(マドリード十九日發)過般スペイン國境領を襲撃フランス領土からスペイン內に侵入した亡命赤系スペイン人六名は十九日バルセロナにおいて軍法會議により死刑に處せられた

【米　國】

人的量に代る物量作戰

（リスボン十九日發）ニューヨーク來電＝米陸軍補給本部長ソマヴイルは十九日「ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン」紙主催の討論會に出席して次の通り演說した

×　×　×

今次大戰はたしかに量の戰ひである、米國は人的量の代りに物量を選び、物量の犧牲によつて血潮の損害を少くし弗を多く費消することによつて死傷者數を輕減せんとしたのである、銃後の國民がより多く働きその結果生産された多くの鐵量と爆藥とを敵陣に注入すればそれだけ米國青年の生命は救はれるのである、そして米國はこの事業をなし遂げた、反樞軸軍がノルマンディに第一步を印して以來百九十日間にこの方面に揚陸された兵力は約二百五十萬、軍需品は一千七百萬トンに上つた、これは前大戰においてパーシング將軍が十九ヶ月に受取つた軍需品の量の約二倍にも上る、しかも前大戰ではこれらの軍需品は聯合國の港になんの妨害をも受けずに揚陸されたのに反して、今回は總べてが敵前揚陸であり、港灣設備からしてかからねばならなかつた、軍需品のうち車輛の數は五十萬臺以上に達するが、これは一分間に平均四臺宛が揚陸されてゐた計算となる、軍需品を無事揚陸した後も反樞軸軍の前にはなほ大きな困難が横たはつてゐた、これは後退するドイツ軍があらゆる交通、通信機關を破壞して行つたので、われわれは先づこれを修復しなければならなかつた、しかるに現在では鐵道、橋梁の修理作業も完了し、反樞軸軍は目下一週間に平均十萬トンの軍需品を鐵道で前線に補給してをり、一方、英佛海峽及び地中海沿岸を基點として延長一千二百八十粁の送油管が前線に向つて新設され、歐洲大陸の反樞軸軍は一日平均少くとも百萬ガロンのガソリンの補給を受けてゐる、飛行機による輸送も重大な役割を果しつつあり例へば現在までに飛行機で後方に運ばれた傷兵の數は英國へ五萬名、米國へは一萬二千名に達してゐる

歐洲戰終了と市民生活

（リスボン十七日發）「ウオールストリート・ジヤーナル」紙は六日附紙上に「歐洲戰終了後の米國市民の生活がどうなるか」といふ夢のやうな問題をとりあげ次の通り論じてゐる

先づ勞働問題だが約五百萬の勞働者が轉職するとみられる、軍需關係の仕事は少くとも戰後最初の六ケ月間は依然として最良の仕事として殘るだらう、次にインフレだが再轉換計畫が相當進捗するまでは、物價急騰の危險が多分にあり從つて當分の間依然價格統制が實施されよう、軍需生產は主として兵器部門においては恐らく三ケ月も經てば四十%乃至五十%方の削減が行はれよう、民需生產は最初短い期間、部分品並びに物資の不足により不便を感するかも知れぬが一年以內には少くとも一九三九年當時の水準に達しよう、食糧關係では砂糖とバタが不足してゐる爲最初の六ケ月間は從來通り割當制が續くとみられ、また肉類、脂肪類、酪乳製品等も不足で部分的に割當制が必要だが、その他の食糧品はすべて十分であり、割當制も行はれないだらう、石油の割當は數ケ月もすれば漸次緩和され、石炭の補給も鐵鋼生產の削減に伴ひ容易となるだらう、自動車のことは何とも豫言出來ない、靴はゴムの長靴だけは依然割當制が續けられ、織物等は相變らず不足を告げるだらう

デユウイ日獨擊破を演說

（リスボン十九日發）ニューヨーク來電＝共和黨大統領候補デユウイは十八日「ヘラルド・トリビューン」紙主催の討論會における演說でルーズヴエルトの「個人的祕密外交」を痛烈に攻擊したが、更に次の通り演說した

日獨兩國は徹底的に擊破するばかりでなく、完全に武裝解除しなければならぬ、ドイツに對しては、航空機工業を許さず、またルール地方の全重工業地帶を國際化することが必要であらう米國はダンバートン・オークス會談で決定された國際安全保障體制に積極的に參加すべきである、しかもこの體制には何等の留保も附さず國際平和を維持し將來の侵略行爲を抑壓するため完全にその機能を發揮させなければならぬ

昭和十九年十月廿三日(月)
第三二一八號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

亡命波首相ソ聯の提案を拒否

(チューリツヒ十九日發)モスクワ會談における亡命ポーランド政權とルブリン政權の交渉は既に決裂、紛爭解決の途は殆んど閉された模様だが、「バーズラー・ナハリヒテン」紙のロンドン電報が十九日報ずるところによれば、ソヴエト政府はミコライチクに對し

一、カーゾン線を正式のソ波國境線として卽刻承認すること

一、ルブリン派とロンドン派の同數の閣員から成るポーランド新政權を樹立すること

この二ケ條を提案したに對し、ミコライチクは後者を承認することは共產黨員が閣僚の椅子の半數を占める結果、多數黨の農民黨、社會民主黨が少數派となることを理由に拒否したと傳へられる

マロリー轉出は重慶のため

(スットクホルム十七日發)チヤーチルが過般の下院演說で米英兩國の「湯水のやうな援助」にも拘らず慘澹たる敗戰をつづけてゐる重慶軍を卓を叩いて非難したことは、さなきだに尖り勝ちな英國と重慶との關係を異常に激化せしめ米國言論界をして「反樞軸東亞戰略の癌」として長嘆せしめてゐるが、意外の事態惡化に狼狽した英國政府が英國空軍の祕藏兒マロリーをマウントバツテン麾下の空軍司令に轉出させ東亞戰域に力瘤を入れてゐる振りを裝つて重慶の冠を直さうと圖つたことは明瞭である、ロイターも以上英國政府の方針を反映して十七日の重慶電信同報で特にマロリー轉出問題をとり上げ東亞戰域におけるマウントバツテン軍の重慶援助攻勢が一段と激化されるといふ宥和的雰圍氣をばら撒くため殊更に次の通り報じてゐる

歐洲優攻反樞軸空軍司令から東南アジア反樞軸軍司令に轉出したマロリーは、作戰上の機密を楯に、就任後の新使命につき語るを避けてゐるが、十六日夜の記者團會見で「余は東南アジア戰域でも歐洲戰域におけると同樣の大規模な空中攻勢をやる積りだ」と意味あり氣に言明したことは特別の關心に價する、以上の言明に關聯して、前任者の戰略爆撃專門家ペイアースが退いて戰術爆撃の名手マロリーが登場したことは東南アジア戰域における反樞軸軍の空中攻勢が長距離爆撃の段階から近く地上作戰と呼應する直協爆撃の段階へ飛躍することを明瞭に示唆するものだ、更にマロリーの東亞戰域進出は、シエンノート麾下の米第十四航空部隊と呼應してビルマ戰線の空軍が支那戰線にも出撃して重慶軍の側面を保護することを意味するものである

ド・ゴール政權を承認か

(チューリツヒ十九日發)「トリビーン・ド・ゼネヴア」紙のロンドン特電によれば、英國の副首相アトリーはド・ゴール政權の大使マシグリに對し

英國政府は近くド・ゴール政權を「フランス臨時政府」として承認する方針

なる旨を述べたといはれるが米國の準備が整つた際米英兩國が同時に承認すると見られる、なほこれはド・ゴールが去る十四日の演說で「フランス國民は協力を求めず單獨行動で進まねばならぬことを銘記せよ」と述べ、暗に米英兩國からの離反を仄めかしたため米英兩國は周章對策を講ずるに至つたものと解される

【英國】

會議派一萬五千名を釋放

(リスボン十九日發)ロンドン來電＝英國印度相アメリーは下院において現在までに國民會議派に所屬する被抑留者のうち一萬五千名は無條件で釋放された旨十九日言明した

ソ聯勞働組合を國際勞働局へ

(ストツクホルム十九日發)ロシドンで開催された英ソ兩國の勞働組合會議において米英ソ三國勞働組合の團結强化を決議したが、ロンドン來電によれば、英國勞働組合は十九日プラツクプールで組合大會を開催、國際勞働局に對しソ聯を加盟國として承認するやう要請する旨の決議を採擇したといはれる

西アフリカ軍司令官任命

(リスボン十九日發)ロンドン來電＝陸軍省は十八日M・Bボルヴヴス中將を西アフリカ

【東南歐】

洪國民協會新政府を信任

（リスボン十九日發）ブダペスト來電によれば、ハンガリア國會議員百五十名以上を會員として擁するハンガリア國民協會は十八日次の決議案を採擇したといはれる

ハンガリア國民協會は過去數日來の危機からハンガリア國民を救つたサラシー首相の行動に對し深甚の謝意を表明する、國民協會は擧國抗戰組織の結成が歷史的意義を有するものと思考する、本協會は新政府を歡迎し、その業績が實を結ぶに至るであらうことを確信する

洪新首相施政方針を闡明

（ブダペスト十九日發）新ハンガリア首相フエレンツ・サラシー氏は十七日初閣議を開き新政府の方針につき次の通り言明した

一、政府は議會と共に國事を議し、總力戰遂行につき上下兩院と共に全責任を負ふ、議會が十一月四日迄に國家主席の提起する問題を處理することを希望せぬか乃至は出來ないならば政府は閣員三名からなる攝政會議を設置し、動議の形で議會の討議に掛ける積りである

一、法相は猶太問題を解決する、猶太人はハンガリアに居住するを許され勤勞奉仕を行ふ

一、工相は鑛山、發電所の運營をも擔當する、大工業施設は全て國家管理下におかれる、全工業は主としてハンガリアの戰力增强に資せしめる

洪新外相外交方針を說明

（ブダペスト十九日發）ハンガリア新外相ガブリエル・ケメニー男爵は十九日ハンガリアの新外交政策につき次の通り言明した

サラシー內閣の外交政策は國家並びに社會的生活の勝利を確保するために闘ふにある、外交は大きな國家的目的と合體しなければならない、この目的とは第一に三國同盟加盟國と共に勝利を得ることであり、就中大ドイツ國と共に最後の勝利を獲得することである

アテネで赤白兩派衝突

（リスボン十九日發）カイロ來電によればギリシヤ亡命政權は十七日アテネに歸還したといはれるが、同市では國家主義者と共産黨員との間で血で血を洗ふ凄慘な市街戰が演じられてをり、三十名以上の市民が殺害され、負傷者は更に多數に上つてゐると傳へられる

【ドイツ】

國民突擊隊の結成細目

（ベルリン十九日發）國民突擊隊結成に關し十九日次の細目が發表された

一、ドイツ國民突擊隊の指導、召集、組織、編成はドイツ國內各地區の地區指導者が責任を負ふ

一、國民突擊隊の主要單位は大隊とす

一、各階層の召集に當つてはナチ黨並びにヒトラー青少年團の書類を基礎とする

一、勤勞の出來るすべてのドイツ人男子は國民突擊隊の適格者と認める

一、「ドイツ國防軍國民突擊隊」と記入された記章を付けるから國民突擊隊員はヘーグ條約の陸戰に關する法規に基く戰鬪員である

一、國民突擊隊はナチ黨或ひは他の組織における地位に關係なく結成される、但し特殊知識並びに技能者に對しては出來る限り考慮を拂ふ

一、特設部隊は國民突擊隊內において特殊な任務に當る

一、規定年齡以下または以上で召集を受けぬ男子でも志願者は國民突擊隊に入隊を許可する

一、國民突擊隊員は步兵戰並びに短距離兵器による對戰車戰の訓練を受ける

一、國民突擊隊員は主に日曜日に訓練を受ける

一、國民突擊隊員は出來る限り各自の戰時下重要な職域において仕事を繼續する

一、國民突擊隊員の正式訓練は最少限に止める

洪戰線の軍司令官

（ベルリン十九日發）東部戰線東南方面集團軍司令部は十九日次の通り發表した

ハンガリアにおけるドイツ軍の作戰一切を指揮する將官は東南方面集團軍司令官フリースナー上級大將である、同大將は柏葉騎士十字勳章を佩用曾つてはドイツ軍教育總監であつたが、前線に出動して北部戰線ナルヴア地區の防衞で殊勳を樹てた

昭和十九年十月廿三日(月)
第三二一八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

泡沫のドイツ處理案

原子林二郎

△モーゲンソー案の骨子

歐洲戰局について現在米英兩國言論界の最大の關心を集めてゐる問題は恐らく「ドイツ處理案」であらう、およそ健全な思慮を持つほどの者は、歐洲戰が決戰段階に入つたといへ、まだ海のものとも山のものともわからず、今後幾多の大きな變遷が豫想されてゐるときに、戰爭に勝つた氣になつて早手廻しにドイツ處理案なるものを持ち出すばかりか、蒼くなつて論爭に熱中するにおいては米英兩國民の常識を疑はずにはをれまい、かうした皮算用は米英兩國の通弊であつて、將來の甘い夢を描いて現在の戰爭遂行努力に伴ふ勞苦を忘れようといふ夢ない努力なのだ、しかしながら米英兩國政府の意識的にばら撒くかうした樂觀的氣分が、一度冷たい現實によつて裏切られたときの國民の反動が如何に强いかは想像にあまりある、ドイツ處理案を繞る論爭の釀し出す薄つぺらな樂觀的氣分が、ルーズヴエルトやチヤーチル處理案を繞る論爭の釀し出す切端詰つた氣分に逆轉しないとは誰が保證出來よう

反樞軸陣營におけるドイツ處理案論爭の中心をなすものは有名なモーゲンソー案だ、モーゲンソー案の骨子をなすものはドイツ經濟の處分であつて、ドイツの工業をひと思ひに片付けて、ドイツを經濟上の三等國に轉落させようといふのだ、同案の細目は發表されてゐないから知るよしもないが、「ドイツにたいする和平條件は、戰爭に敗けたといふことがどういふものか、戰爭に敗けたらどうなるかといふことを、ドイツ國民全體に骨身に滲みてさとらせるやうな苛酷なものでなければならない」といふルーズヴエルトの要求に應へたものだ、ルーズヴエルトは國務長官ハル、陸軍長官スチムソン、財務長官モーゲンソーの三名からなる對獨政策委員會を創設してドイツ處理案の研究を進めさせてゐたが、委員の一人モーゲンソーが立案したのがドイツ工業撲滅案で「タイムズ」紙ワシントン特電(九月二十五日付)によれば、大體つぎの如きものと傳へられる

一、ドイツ本國を北部と南部に兩分する
一、ザール地方とラインランドの一部をフランスに割讓する
一、ドイツ鋼鐵工業を現在の生産力の何十分の一かに低下させる
一、過剩工業施設をドイツ軍により荒廢に歸せしめられたフランスその他の國へ賠償の形式で移轉する
一、化學工業の解體
一、鑛山及び礦山の閉鎖
一、大土地農業を零細農場に細分する
一、教育にたいする管理

APワシントン記者ジョン・ハイタワーの報道九月二十四日付によれば、モーゲンソーはソ聯に關するつぎの三つの假說に基いて立案したといふことだ

一、ソ聯はポーランド東部をソヴエト聯邦領に併呑する代償として、東プロイセンとシレジア地方の大半をポーランドへ割讓することを希望してゐる
一、ソ聯はドイツ勞働力を利用して經濟復興を達成しようと希望してゐる
一、ソ聯は自國の尨大な勞働力の需要に鑑み、ドイツにたいする長期の軍事占領に關心を持たず米英その他の反樞軸諸國に以上の仕事を喜んで委ねるであらう

△ハル、スチムソンの反對

モーゲンソー案が發表された當時、ハルとスチムソンが猛烈に反對した結果いはゆる對獨政策委員會は完全に二派に分裂した模樣だ、前揭のハイタワーは以上の經緯を素破抜いてつぎのやうな興味ある報道をしてゐる(九月二十四日附APワシントン電報)

「近代工業國としてのドイツを徹底的に破壞して零細農場を單位とする三等農業國に轉化させようといふモーゲンソー案を繞つて、ルーズヴエルト政府のドイツ媾和政策委員會內部で鋭い意見の對立が發生したといふことだ

モーゲンソーが歐洲各戰域及び英國を訪問して最近歸國してから作つた案は、ケベツク會談を目前に控えるルーズヴエルトから大體の承認を得たやうだが、ハルは露骨に不滿の意を表明し、スチムソンに至つては猛烈に反對したといはれる、その結果モーゲンソー案を繞る論爭は戰後ドイツの管理に關する細目を立案する財務、國務、陸軍三省の協同動作を完全に破壞し、延いては米・英・ソ三國共同のドイツ處理案作製を裏小路に追ひやつてゐる、蓋し歐洲諸問會議を通じて行はれてゐる立案はモーゲンソー案とは全く別の行き方をしてゐるからである、ルーズヴエルトはケベツク會談でモーゲンソー案をチヤーチルに提示した、會談にはモーゲンソーと英國外相イーデンが參加してゐたが、ハルとスチムソンは出席してゐない、モーゲンソーはチヤーチルが彼の案に滿足してゐるといふ印象を抱いて會談から歸つて來たが、理由はイーデンもまた類似の見解を披瀝したからといふことだ、ドイツ處理案に關してスターリン議長がどう考へてゐるかといふことはまだわからないが、ハルの見解では、米國で如何なる案が最後的に決定をみようとも、それはソ聯の承認出來るものでなければならず、戰爭直後の歐洲における米・英・ソ三國の協力は、世界安全保障組織の基礎として不可缺だといふのである、モーゲンソー案にたいする陸軍、國務兩省の反對論の骨子は、ドイツの生產能力からみても他の歐洲諸國に提供し得る市場からみてもドイツは歐洲經濟の中樞的地位を占めてゐるから、モーゲンソー案は實現不可能だといふ點にある、モーゲンソー案が發酵して大統領の支持をかち得るまでは、ドイツが再び大軍事國に成長せぬやう軍事的經濟的制限を加へながらも、降伏後も工業國としての存在を許容出來るといふ見解が廣く支配してゐた」

そこでモーゲンソー案に反對する國務省の代案だが、それはドイツ重工業に制限を加へて軍需工業發展の機會を與へぬが、平和產業の平常な發達は保障するといふ比較的「穩健」な案で、陸軍省の支持を得てゐるといふことだ、UPワシントン電報（十月一日）によれば國務省案の骨子は

一、ドイツ軍事機構の一切を根絶する
一、あらゆるナチ的傾向を芟除する
一、百パーセントの軍需工業は破壞する
一、一切の民間及び軍事航空活動を禁止する
一、若干の樞要工業を監察する

の五項目にあるといはれる

△囂々たる贊否の聲

モーゲンソー案も米國務省案もドイツ經濟の處理を中心問題としてゐるが、それはドイツの重工業がその軍事力の背景と支柱をなすといふ見解を採つてゐるためだ、但しモーゲンソーは一切の、「惡の根源」はドイツ工業にあるからこれを絶滅しなければならぬといふ極端論を吐いてゐるのにたいし、ハルはドイツ軍事力の基礎は軍需工業にのみあるのだから、民需工業まで絶滅する必要はないといふのであつて、一見「穩健」な見解にみえるが、結局はモーゲンソー案と五十歩百歩だ

以上のモーゲンソー案を繞つて現在米國では白熱的論爭が展開されてゐるが、その主なものを拾つて解說を加へてみよう、モーゲンソー案にたいする反對論の主要點が、ドイツの工業を破壞することは戰前ドイツ工業に依存してゐた歐洲全域の經濟を破壞することになるといふことにあるのは既に述べたが、米國各紙の論調を綜合してその他の反對論を列擧すればつぎの通りである

一、モーゲンソー案を有效に實施するためには極めて大規模且つ長期の警察を必要とするから實現困難である

一、ドイツ工業を根絶すれば深刻な失業問題が發生して社會不案の危險を招くばかりでなく、他の歐洲諸國內におけるドイツ軍需工業の秘かな發展によつて再び戰爭の危險を誘發する

一、モーゲンソー案を實施するためには、慘虐な暴力行爲を必要とする、たとへば射殺、飢餓、人質等がさうだ

右に揭げた反對論にたいして贊成論も相當にあるモーゲンソー案の贊成論の論據は、ドイツの軍國主義的「侵略行動」再開を最も有效に阻止する方法は工業的基礎を破壞するのが一番であり、同案の實施に伴つて必然的に發生する大衆的失業問題も解決不可能ではないといふに盡きる

昭和十九年十月廿三日(月)
第三二一八號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

かくのごとく米國におけるドイツ處理案論爭は主として經濟措置を中軸として展開されてゐるがモーゲンソー案の贊否兩論のいづれも、ドイツ處理案は主要關係國たる米英ソ三國間の完全な意見一致に基いて立案されねばならず、實施に當つては反樞軸陣營の恒久的團結が必要とされるといふ點では異存がないやうだ、米國言論界の一部ではドイツ以外の荒廢に歸した歐洲諸國の經濟を再建することが焦眉の急であり、ドイツ處理問題は後廻しにすべきだといふ見解を採つてをり、前國務次官サムナー・ウエルズその他少數の者は相變らずモーゲンソー案を遙かに追ひ越すドイツの完全解體を主張し續けてゐるが、大部分はかかる極端論に反對して、ドイツにたいして如何に嚴重な監察統制を加へようとも、ドイツ國内に誕生する純粹に民主々義的な協調傾向を踏躙らずに助成してやるべきだといふ態度を採つてゐるやうだ、他方PM紙の論説記者ラーナーや「ニューヨーク・ポスト」紙のポーター等は、ドイツ工業の維持を圖るハル、スチムソン案はドイツをソ聯にたいする緩衝國として利用しようと策してゐるもので、英國政府も同じ希望を抱いてゐると稱して、對獨强硬策を主張してゐる

△モーゲンソー案の贊成論

米國におけるモーゲンソー案贊成の代表的見解を左に掲げてみよう

「ユナイテッド・ニューズ」誌 英國は自國の重工業製品を輸出する市場を見付けるため、ドイツ隣接諸國の工業を發展强化することを希望する反面、ドイツ工業を强力な儘維持することは、結局ドイツに新兵器を案出させることになりはしまいかと危惧してゐる、そのためソ聯と同じやうに英國もまたドイツを工業的に弱い國として留めて置くことを主張してゐるのだ、今日までのところ米英ソ三國は中心地たるベルリンを占領してドイツ經濟を共同で監理するが、三國個々の占領地域では互に違つた獨自の統制を實施することを考慮してゐるやうだ、モーゲンソー案は大衆的失業を發生せしめるといふ意見がみられるが、ドイツ軍の莫大な損害、ソ聯復興工作におけるドイツ勞働力の賠償的利用、ドイツ國内の再建等に多くの勞働力を要するから、失業問題が發生する餘地はあるまい

「クリスチヤン・サイエンス・モニター」紙記者ハーシュ モーゲンソー案は、ドイツ工業の完全破壞を提案してゐるのでなく、重工業特に金屬、化學、水力電氣工業の再建を阻止し、合法的な外國市場から輸入する原料資材に依存する平和産業の再建を意圖してゐるのである、以上の提案は英國重工業の戰後市場を提供するものであつて、彼等のいふやうな米國の厖大な生産力の排け口をドイツに求める等といふことは絶對にあり得ない

「PM」紙記者ラーナー ワシントン、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ローマ等の多くの有力者、陸軍當局、財界や外交界はファシズムの芟除がドイツに革命的事態を發生させはしないかと危惧し、かうした人々が共産主義的無政府狀態と稱してゐる經濟上の民主々義を阻止するため、ドイツに强力で保守的な政府を誕生させることを希望してゐるその結果がカルテルに基く强力なドイツ經濟機構の確立といふ提案だ、勿論僅か二日間ばかりドイツの經濟機構を保證したところで、以前のやうな國力も秩序も回復することは出來ないがドイツにたいしてはフランスやイタリアを遙かに凌駕する大規模な民主々義的社會革命か、あるひはドイツを工業上の三等國に貶す以外に方策がないこの兩策のいづれもが拒否された場合は、必然的に戰爭が發生する、從つて所有者階級の徹底的な變容なしにドイツ工業を維持するといふ計畫の空疎さと危險が暴露されてゐるこの際、第一歩としていはゆるモーゲンソー案を論議することは歡迎すべきことである

「ニューヨーク・ポスト」紙財政記者シルヴイア・ポーター われわれが安心してドイツに重工業を動かさせることができないといふ點で、モーゲンソー案の實現は絶對に必要である、米國務省がド・ゴールに對して峻嚴な政策をもつて臨む反面フランコ政權、バドリオ、サヴオイ王家等に對しては宥和的態度を示しアイゼンハウアーの政治顧問にロバー

ト・マーフイを任命したことから判斷すればドイツに對する強力な監察を希望してゐないとみるべきだ、米英兩國の首腦部は強力な工業國ソ聯に對抗するため強力な工業國ドイツの存在を希望してゐるモーゲンソー案に對する反對論を焚きつけてゐるが、モーゲンソー案こそ米國政府の長期政策の基礎となるべきだ

「ブレーン・デイーラー」紙　モーゲンソー案は一時歐洲經濟の均衡を破ることにならうが、新たなる戰爭の齎らす經濟的荒廢を阻止するであらう、他の歐洲諸國の工業化を強化すれば、ドイツ經濟に對する依存度は低下するであらうし、ドイツの政治的進出の危險を芟除出來る、それにモーゲンソー案はソ聯と米英兩國との間の厚い隔壁を取り去ることが出來る、蓋しソ聯は米英兩國がドイツを寬大に扱ひはしないかと危惧してゐるからだ

△モーゲンソー案の反對論

次にモーゲンソー案反對論の代表的なものを揭げよう

「ニューヨーク・デーリー・ニューズ」紙（九月二十七日附）　ルーズヴエルトとモーゲンソーはドイツに降伏したところで、何らうるところがないことを敎へてゐるやうなものだ、モーゲンソー案はドイツにとつて無條件降伏以外に方途がなく、降伏後は峻烈な處罰が待つてゐることを意味する、これほどドイツに最後の一人まで戰ひ拔けと煽動する有效な手段はない、いづれにしても第二次大戰におけるルーズヴエルトの無條件降伏要求よりも、第一次大戰におけるウイルソンの十四箇條の方がドイツに對する遙かにすぐれた好餌であることはいふまでもない、モーゲンソーは國務省と陸軍省の「大挾擊作戰」を蒙ることにならう

「ワシントン・ポスト」紙（九月二十七日附）　モーゲンソー案はドイツの將來に對する障碍物競爭の障碍の一つだ、同案は現實的感覺の一切が逃げ出した後の熱病に魘かれた頭腦の產物といふべきである政治家としてなすべき最重要任務は歐洲の政治と經濟にドイツを嵌め込むことだが、モーゲンソー案をもつてしては絕對に不可能であらう、のみならずモーゲンソー案はドイツ問題を歐洲の癌と化し、不斷の混亂を生起せしめて、結局新たな戰爭を勃發させずにはおくまい

「ウオールストリート・ジヤーナル」紙記者モレー　モーゲンソー案は戰後の歐洲に殘された僅かな經濟的均衡を破壞するばかりでなく、ドイツの隣接諸國における經濟生活を麻痺させ、ドイツを隣接諸國の生產物の市場と化すかはりに、激しく競爭する農業生產國と化してしまふであらう

「ルイズヴイル・タイムズ」紙　モーゲンソー案は戰爭の終結を妨げ、反樞軸陣營內の諸小國の不安を一段と驅り立てることとならう

「ニューヨーク・ポスト」紙記者チヤイルズ　モーゲンソー案はゲツベルス博士に好箇の宣傳材料を提供するやうなものだ

「ニューヨーク・ポスト」紙記者ソンプソン　モーゲンソー案は西歐文明を混亂と虛無主義に投ぜずば止まない

△米國の狙ひ

モーゲンソー案の狙ひはドイツの軍事力とその「侵略」意欲の基礎がドイツ重工業にあるから、ドイツの軍事機構の一切を廢絕しても重工業の根をそのまま放置しておく限り、いつしか軍事力が芽を出し、幹をつくり、葉を繁らせることとなる從つてドイツ軍事力を絕滅するためにはその重工業を根底から一掃してしまはなければならないといふにある、またモーゲンソー案の反對論はドイツ經濟の中樞をなす重工業を一掃してしまふならば、必然的に社會不安を醸成し、惡くすれば社會變革が勃發し、よくても民衆の不滿と反樞軸國に對する敵意が新たなる「ヒトラー政權」を誕生せしめ、再び戰爭を誘發するといふ點に根據がある以上の兩論とも前大戰終結後におけるドイツ情勢を念頭に置いてゐることは言ふまでもない、一は新たなる戰爭の誘發を避けるためヴエルサイユ體制よりも一層苛酷なドイツ處理を斷行して、ドイツの國家的基礎を解體せしめよといふにあり、他はヴエルサイユ體制の失敗に鑑み、他のより「宥和的」な方策を講ぜよといふにある

モーゲンソー案から汲み取ることが出來るもう一つの重要なポイントは、ドイツを農業國と化して工業製品の主要市場たらしめ、戰後當然生產過

昭和十九年十月廿三日(月)
第三二一八號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

剩を豫想される米國工業の隘路開拓の苦痛を輕減し、工業恐慌の發生を阻止しようと狙つてゐることだ、これに對し同案の反對派はドイツを工業製品の市場と化す結果、米英工業の激烈な競爭を誘發するから、むしろドイツ重工業をして歐洲における英國工業の進出を牽制せしめるにしくはないと考へてゐる、最後に「PM」紙などが指摘してゐるやうに、第一次大戰後においてはポーランドが歐洲におけるソ聯勢力の主要障壁の役割を演じてゐたが、今次大戰後に歐州におけるソ聯の進出を有效に喰ひ止めることが出來るのはドイツ、しかも强力なドイツ以外にないといふのがモーゲンソー案反對派の最も主要な論點である、かくのごとくモーゲンソー案の贊否兩論とも本質的には帝國主義的考慮から出發してゐるのであり、ドイツの活體解剖の是非も米國だけを念頭においてゐるのである、いづれにしてもモーゲンソー案の贊否兩論は俎上の魚を刺身にするか煮付にするかを爭つてゐるやうなもので、どう料理した方が米國の食慾を最もよく滿足させるかといふ點で意見の相違をきたしてゐるだけだ

△ジョンソンの代案

モーゲンソー案以外にもドイツ處理に關する多種多樣な論策が米國において提唱されてゐるが、代表的なものは上院外交委員でコロラド州選出民主黨議員エドウイン・ジョンソンのそれだ、重慶中央社のワシントン電報(九月二十九日附)によればジョンソンはドイツの無條件降伏にかかる七項目の處理案を發表したといふことである

一、一九三二年(ヒトラー總統の政權掌握の前年に當る)當時のドイツ國境線を完全に保障する但し東プロイセンは除外される、また東プロイセン、チエツコスロヴアキア、ポーランド、バルト三國に居住するドイツ人は强制移住させる

一、反樞軸國に引渡されて審問處罰されるドイツ戰爭責任者の數は五萬を超えぬこと

一、ドイツ國防軍の完全武裝解除を行ひ、絕對必要とする極く少數の軍隊と地方警察力以外武裝兵力の存在を許さぬ、軍事訓練と軍需品の生産を禁止する

一、米英ソ三國政府はドイツ國內に百名以內の情報將校を配置し、利害關係を有する一切の問題につきそれぞれ本國政府に報告せしめる

一、一九三二年以降ナチ黨がドイツ住民から沒收した財産は、正當な所有者乃至はその相續人に返還する

一、ドイツは自己の好む如何なる政府を樹立してもよいが、宗教、言論、出版の自由を制限抑制しないこと

一、米英ソ三國の內二國が、ドイツが以上の條項の一項目でも侵犯したと認める場合、三國は共同でドイツの軍事占領を行ふ

ジョンソン案の注目すべき點はドイツ經濟の處理について全然觸れてゐないことで、「ニューヨーク・ポスト」紙のソンプソンや「シカゴ・トリビューン」紙等は同案を支持してゐるが、自由主義系や左翼の新聞は單なるヴエルサイユ體制の復活だとして攻擊してゐる

△リツプマンの見解

また米國有數の外交評論家ウオルター・リツプマンはドイツ經濟の破壞に反對して、軍事制限が最も有效な措置だと主張してゐる、リツプマンの所論を要約すれば次の通りである

「ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン」紙九月二十七日所載

ドイツに對しては民需工業の存在だけ許容するといふ見解が有力だが、かかる意見の人達はドイツの工業が專ら軍需工業によつて占められてゐることを忘れてゐる、一九一九年から一九三九年までのドイツを一瞥するならドイツは前大戰以來有效な民需工業生活を確保出來なかつたことを知るであらう、ドイツ工業界は反樞軸から莫大な助成金を得た場合か或ひはヒトラー總統によつて軍事力として利用された時に限つて活況を呈した、從つてドイツが武裝を禁止されるばかりでなく反樞軸からの經濟的援助を受けることが出來ぬならば現在の經濟機構をもつてしては國民に職業を與へることが出來まい、ヒトラー政權は「バタよりも大砲」主義に則つて資本投下を行つたが、そのことは數百萬のドイツ人が專ら戰爭を目的とし經濟的には民間活動の價値を持たぬ工業に從事してゐることを意味する

それはまたドイツ經濟機構の全體が航空機、潛水艦、彈藥等の生産に集中され、反樞軸の封鎖に對抗する若干の工業部門は高額の生産費すら許されてゐることを意味するものだ、たとへば合成護謨や合成石油工業の生産費は途方もなく高額で、とても民需のために經營を續けることは不可能である

「サンデー・タイムズ」紙（九月二十四日附）　ドイツ處理の問題は現在のところ第一段階たる軍事占領以上のことを決定することは不可能である、ナチ體制の崩壞後ドイツ國民がどんな反響を示すか、どんな人物が指導的地位に立つかといふことが判らぬ限り、ドイツを如何に分割すべきでありかつ事實どう分割出來るかといふ問題も解決出來ないしかも分割といふ言葉はとかく混亂し易い、一國の分割とは國をいくつかに分けて、一部を隣國に併合させることだが、分割されたドイツの一部を併合しようと夢みる國はあるまい、眞の意味における分割とは、ドイツ帝國に結合された舊ドイツ諸國を廢棄して、ドイツ國家を解體することでなければならない、しかるにドイツ國家を他國に併合せしめずして廢止することは、獨立したドイツの數國家を存續せしめることを意味する、前國務次官ウエルズはドイツの三分案を提唱してをり、他の者は三國家以上になるだらうとみてゐるが、問題は如何にして分割したドイツ諸國家を分割したままにして置くかといふことだ、もしもドイツ諸國家が獨立を望むならば、それで濟むがもしも分割に反對して再結合を望むならば分割を强行する反樞軸は昨日掻き廻して煮た鷄卵を原の形に戻さうと試みるやうなものだ、從つてわれわれはドイツ分割案等に時間を潰さすに、先決問題たる信賴に値するドイツ政府の出現を促進するやう如何に軍政を布くかといふことに注意を集注しなければならない、ここに初めてドイツの政治的解決を云々することが出來るのだ、われわれはドイツの經濟的地位を解決するために渡らねばならぬ橋をまだ發見してゐない、反樞軸はドイツ軍事力の復活を阻止するため必要な經濟的措置を決定するまでは、遠い將來に亘る問題を解決することが出來ない、余はこの問題を客觀的に檢討すればするほど、ドイツの再軍備を阻止する軍事措置が先決で經濟上の措置は二の次と考へざるを得ない、われわれは兵器の生産や軍事訓練を禁止し、專ら戰爭を目的とする諸施設乃至機械器具を破壞しなければならない、しかし民需工業が軍需工業に切り換へることが出來るからといつて、ドイツの民需工業を破壞しようと圖つてはならない、理由はドイツ國民を農業の水準に低下させることが不可能なためだ、そのやうなことをすればドイツ國民は手が着けられぬほど不滿と絕望に沸き立つ存在となるう、要は歐洲再建のためにドイツの民需工業を大いに役立たせることだ

△英紙のモーゲンソー案批判

英國新聞界の潮流はモーゲンソー案の反對に傾き、例外なくあらゆる新聞がドイツ經濟の破壞とドイツ領土の分割案に異議を唱へてゐる、たとへば「マンチエスター・ガーデイアン」紙は九月二十七日の紙上に「ドイツ」と題する社說を掲げてモーゲンソー案に强硬に反對してゐる

「もしも報道が正しいならば、モーゲンソー案は實行不可能のものであり、歐洲全體を處罰することになるといはざるを得ない、ドイツに對する政策を決定する場合、次の二つの原則が銘記されねばならない、卽ちドイツの處罰は平和といふよりは寧ろ戰爭の否定行爲であること、他は恒常的に武力行使を必要とする措置は成功の機會がないといふことこれだ、もしもドイツ人が北部と南部の二獨立國家の樹立を希望するならば、誰も妨害しないであらうが、もしも結合された單一の國家のままに存在したいと望むならば、武力だけが分割を强制することが出來よう、ドイツの分割を强行するためには尨大な軍隊維持を必要とするから、何等の相談も受けたことのないポーランドやフランスに併合させた方が遙かに容易だが、住民の同意を得ずに領土の併合を行つた場合住民の猛烈な反撥を受け、ドイツに不斷の不平の種を與へることにならう、もしもドイツ領を住民諸共併合させるならば、フランス乃至ポーランドの國境內に尨大な數の不平分子を殘すことになる

昭和十九年十月廿三日(月)
第三二一八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

またまづ住民をドイツの殘存した部分に移住させてから併合を行ふならば、不平の種を取り除くどころか、新たに制限された經濟にこれらの數百萬を吸收しなければならぬといふ解決不能の問題をドイツに課すことになる譯だ、モーゲンソー案に對する第二の批判は、同案がドイツ國民を永久の貧困に陷入れることを企圖してゐる點だ、ナチ政權崩壞後のドイツの經濟狀態は破局的なものに相違ない、同案は六千萬乃至七千萬のドイツ國民を自暴自棄と饑餓に惱むプロレタリアートと化し結局ウオールストリートの嫌ひな虛無主義か共産主義に走らせ、更に全歐洲に蔓延させることにならう、戰爭が算盤にあはぬことを呑み込ませるため出來るだけ長くドイツ國民を苦しめた方がよいといふ奇妙な意見が見受けられるが、これほど謬つた考へ方はない、以上の結果ドイツ國民が學び取る唯一の敎訓は敗戰こそ算盤に合はぬといふことだ、もしもドイツ國民が長い間自治自尊を許されずに、貧窮裡に押し込められてゐるならば、彼等は不幸な狀態を榮光に輝く第三帝國當時と比較して、必然的に新たなる勝利を求めることとならう、われわれは多年の間疑惑に蝕まれて常に警戒を怠ることなく、ナチ復興の曙光がみえた瞬間直ちにわれわれの意思を强制しなければなるまい

しかしドイツ國民に歐洲の經濟的、知的、藝術的生活に參加することを許すならば、われわれは自分自身及び盟邦に憂鬱極まる牢獄における終身徒役を宣告することとならう、ドイツは言論の自由の實現と市民の努力によつてのみ更生することが出來るのである、ドイツ國民は自由な民主々義政黨の存在、出版の自由乃至は自分達の政府への參加を許されぬならば、眞の意味の解放を知ることが出來ない、それにドイツ國民はわれわれの利益が、奈邊にあるかといふことには關心を持つまい」

「マンチエスター・ガーデイアン」紙のモーゲンソー反對論は、米國の反對論と全く違つた立場に立脚してゐることに留意すべきだ、米國は嚴密な意味において歐洲國ではない、從つて米國の最大關心事はドイツの政治的脅威ではなく、經濟的脅威にある、しかるに英國は本質的には歐洲國であり、最大の關心事はドイツの經濟的脅威よりも寧ろ政治的脅威にある、これは英國をしてドイツを如何に政治的に處理するかよりは如何に政治的にドイツを宥和するかに注意を集注せしめずにはおかない、「エコノミスト」誌が「マンチエスター・ガーデイアン」紙と全く同じ立場からモーゲンソー案を批判してゐるのも決して偶然ではない

△英國の經濟處理案

ドイツに對する經濟的處理に關する英國の代表的論策は十月二日附「タイムズ」紙の社說である「タイムズ」紙はモーゲンソー案に眞向から反對し歐洲再建に協力せしめる爲ドイツ工業を維持發達せしめよと主張してゐるが、一見ソ聯に色眼を使つてゐるやうに見せ掛けながら一皮剝けばソ聯勢力の歐洲進出に對する緩衝國と化す下心であることは明瞭だ、「タイムズ」紙社說の要旨次の通り

「ドイツの破壞は短命な便宜手段であり、大規模の軍事占領は何時まで續けなければならぬか判らない、從つて英國のまづ第一になすべきことは歐洲社會におけるドイツ將來の役割を規定するため反樞軸主要國と相談して長期の政策を樹立することだ、以上の政策は豫防的面と建設的面の兩者を併せ持つてゐなければならないが、第一の目的はドイツの侵略行爲の復活を阻止することでなければならない、第二の目的はドイツをして歐洲の再建と經濟繁榮の維持に寄與させることだ、以上の二目的は相互に關聯を持つ、蓋し歐洲の安全が保障されない限り、歐洲の再建は不可能であり、歐洲再建の積極的措置が採られぬ限り、處罰も豫防も不可能だからだ、ドイツの侵略行爲を豫防する最も有效な手段は軍事經濟上のそれである、即ち戰略基地を押へ、人的資源を統制し、ドイツ重要工業の極めて嚴重な監理と有效な指導を行ふことである、しかし以上をもつてしては根本的な目的即ち歐洲の再建と繁榮にドイツを寄與せしめることが出來ない、處罰のための處罰、破壞のための破壞、統制のための統制はドイツのみならず歐洲を重大危險に陷れるものだ、最近ドイツの生產能力を一掃して原始的な農業國に復歸させるといふ意見が提唱されてゐるが眞面目な議論に價しない

寧ろドイツの生産能力を最高度に引き上げ、歐洲經濟の有益な一翼たる位置に沿ふやうな線に沿つて組織されねばならない、ドイツ工業の指導こそ反樞軸主要國の擔ふべき重大責務である、卽ちドイツの再軍備を阻止し、ドイツ國民に對する職業を供給し、歐洲の再建と繁榮に寄與させるやうドイツ經濟を組織すること、これこそ眞のドイツ處理案である」

△ドイツ三分案の內容

以上に述べたドイツ處理案は米英兩國個々のものだが、坊間傳へられてゐる米英兩國共同の處理案の代表的なものは、スエーデンの「スヴエンスカ・ダーグブラデツト」紙ニューヨーク電報（九月二十一日附）の報ずるドイツ三分案だ、要旨次の通り

「ドイツの占領線についてはケベツク會談で檢討を加へられたが、米英ソの緊密な連絡の下に着々細目の決定が進められてゐる、同案はドイツを三分し、東部はソ聯、南部は米國、北部は英國が占領、各國はそれぞれの占領地域に民政長官を派遣し、ベルリンは三國の共同管理の下におかれることを規定したものである、民政長官は軍事占領が終り次第任務につき、軍當局は戰爭責任者の逮捕の衝に當るが、裁判は民政當局の管理の下に行はれよう、民政當局の管理は長期に亘るものと豫想されてをり、場合によつては十年以上續くかも知れない、またドイツ軍需工業の民需工業への切り換へ、食糧配給、平時工業生產條件への復歸、賠償金の取り立て、教育の監督等の事項に關する計畫も立案される筈だ、計畫作製に當り、ドイツ東部の占領に當るソ聯に對して特別の考慮が拂はれる、ドイツ西部に關してはどの部分を占領するかの問題につき米英兩國政府の間に意見の衝突がみられるが、英國は飽くまでドイツ北西部の重要諸港を支配下に置く權利を主張して讓らぬやうだ」

また英週刊誌「トリビユーン」の最近號によれば、過般のケベツク會談においてドイツ處理問題に關し次の諸點が決定をみたと傳へられる

一、ドイツはオーデル河を東部國境とし、ラインランドを西部國境とする英本土程度の版圖に縮小せしめられ、獨立國家としての存在を許されるが、但しルール地方はフランスの管理下に置かれるか、或ひは國際管理とし、ドイツ・オランダ國境及びドイツ・ベルギー國境は改訂される

一、ドイツの重要工業資源を剝奪し、爾餘の工業を解體して、ドイツを農業國と化せしめる

一、割讓した地域のドイツ住民をドイツ本國に移住させて、ドイツ少數民族問題の發生を阻止する

一、倍償金は現金で支拂ふことを必要とせず、戰勝國の希望する場合、勞働力その他を提供せしめる

△米英ソの意見衝突

しかしながらドイツ處理案に關しては利害を異にする米英ソ三國間に意見の纏る筈はない、ダンバートン・オークス會談ではソ聯は戰後の歐洲組織において小國にある種の權利を與へるといふ米英案に强硬に反對したといはれるが、さらにモーゲンソー案に對しても眞向から反對してゐるやうだ、英國は表面上は、ドイツ工業の破壞案をよしとしてゐないが、實際は戰後の生活水準を維持する必要上、輸出を最大限に强化しなければならぬため、歐洲最大の工業國たる地位を占めることを畫策してをり、英國の主張するドイツ工業の維持と發展も條件付であることはいふまでもない、米國もまた戰時下に擴張し切つた工業のため支那を最大の市場と化す積りらしいが、歐洲に排け口を見出すことも忘れてはゐない、すでにフランスにおいて開始されてゐる米英兩國の經濟上の競爭は米國の野心を明確に示すものだが、米國が歐洲に强力な工業國の存在することを希望しないのは明らかだ

しかるにソ聯は自國の經濟力を出來るだけ速かに復興するためドイツの工業施設と技術を利用する必要上、戰後ドイツの工業力を維持することを希望してゐる、ソ聯は米英兩國の工業生產によつて經濟復興工作を進めることが出來るといふ說も成り立つが、スターリンが將來敵と化す惧れのある米英兩國に負ひ目を受けてまで復興工作を進めるとは考へられない、寧ろソ聯はドイツの犧牲において經濟復興を達成しようと試みるだらう、かかる米英ソ三國の意見對立は戰後他の問題と絡み合つていよいよ尖銳化して行くのは必然だ

昭和十九年十月廿三日(月曜日)
第三二一八號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

この間の消息を「タイム」誌の十月二日號は「ドイツ處理の方式」と題し次の通り述べてゐる「過去十ケ月間反樞軸陣營における最大の問題は戰後の歐洲をどうするかといふことであつた、ロンドンの米英ソ歐洲諮問會議は軍事占領が終つた後でドイツをどうするかといふ問題につき二三の點で意見の一致をみたが、大部分はいまだに意見が纏つてゐないやうだ、米英兩國はドイツの共同管理を提案したが、ソ聯はベルリン及びオーストリアの共同管理以外ドイツ全土の共同管理に異議を唱へたばかりでなく、ドイツを三分した場合にも米英兩國によるドイツ西部の共同管理にも强硬に反對してゐると傳へられ、更にソ聯は軍事占領における米英兩國のブロックすら危惧してゐる、現在の方式ではソ聯はリユベツクからエルベ河に至る線の東部を支配し、英國は北海諸港及びライン工業地帶を含むドイツ西北部を管理し、米國は南部地方を占據することになつてゐるが、以上の方式から二つの事實が鋭く浮き上つて來る、一はドイツの分割に伴ふ政治經濟上の結果は英米兩國ほど米國に直接影響を及ぼさぬこと、他はソ聯の占領地域はソ聯の經濟復興に必要な從順な農民勞働力を含むのに對し、英國の分け前はルール、ライン工業地方の戰闘的なプロレタリアートを含むことで、以上の二事實はさなきだに利害の對立する米英ソの關係を更に複雜化せずにはおくまい」

△ドイツの反響

以上述べたことで明らかと思はれるが、米英ソ三國內および三國間でドイツ處理案につき不斷に激論が闘かはれてきたにも拘らず、軍事占領以外にドイツ處理問題に關して具體的な案が全然立つてゐない、モーゲンソー案にしろドイツの工業力を根こそぎ芟除してドイツを活體解剖した結果、將來の歐洲におけるドイツの地歩がどんなものでかつ米國にどんな利益を齎すかといふ點については具體的な見透しが出來てゐない、またドイツ工業力の維持を主張する英ソ兩國の見解も異つたニユアンスを帶びてをり、細目において明確な對立を露呈することはいふまでもない、しかし唯だ一つだけは明瞭である、卽ち米英ソ三國は戰後ドイツに國家的獨立を許容することを全然念頭においてゐないことだ、彼等にとつては戰後のドイツは衞星國でも從屬國でもなく、領土の一部なのだ、ドイツ三分案はドイツの領土的分割を前提とするものであり、ドイツ工業の破壞論も維持論も共に彼等の支配下におけるドイツの工業力をどう處理するかといふ點に關する論爭に外ならない

今や歐洲決戰段階に直面するドイツにとつてはヒトラー總統のいふ如く勝利か死かの一途あるのみだ、米英ソ三國の支配下におけるドイツは眞の意味のドイツではない、ヴエルサイユ體制の苦い經驗を攝取した反樞軸は、前大戰後における如くドイツに復興の機會を與へることは絕對にない、ドイツ處理案を繞る反樞軸陣營の論爭はドイツ國民の士氣を益々昂めるばかりだ、これは反樞軸のドイツ處理案に對するドイツの輿論の反響が明確に裏書してゐる、十月九日附の「フエルキツシヤー・ベオバハター」紙は

反樞軸のドイツ處理案にもみられるやうに、ドイツ國民にとつては現在の戰ひは生死を賭したものだ、ドイツ國民は一人殘らず勝利を確保して、反樞軸の計畫を畫餅に歸せしめるため全力を盡さなければならぬ、ドイツ國民を根絕しようと圖る犯罪的計畫の立案者は、早まつて切り札を示したことを將來臍を噛んで悔むであらうと述べ「ドイツチエ・アルゲマイネ・ツアイツング」紙は

ドイツが敗れた場合に如何なる運命に陷るかは反樞軸のドイツ處理案によつて、もはや一點の疑ひを容れる餘地がない、敵は重大危機に瀕したドイツ國民が如何なる意思の力を發揮するかをやがて思ひ知らされるであらうと論じ「ベルリナー・モルゲンポスト」紙もまた八千萬のドイツ國民は反樞軸の威嚇に對して異口同音にはつきりとノーと答へよう、八千萬の不撓の力と不拔の意志はこの惡魔的な計畫の實現を不可能とせねば止むまいと斷じてゐるが、反樞軸にとつて必要なことはドイツ處理案を繞る論爭で時を浪費したり、ドイツ國民威嚇の宣傳材料に使つて暇を潰したりするよりも、むしろ如何にして土壇場でドイツのうつちやりを喰はずにドイツに對する軍事作戰を成功せしめるかといふ問題に精根を盡すべきではなからうか

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月廿四日(火)　第三二一九號

同盟通信

海外電報

(244)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　電話銀座(57)一一一一番　同盟通信社

マツカーサー將軍麾下の米軍が好んで死地に入り比島にたいする大規模な反攻を開始したのは、主として二週間後に迫る大統領選擧を狙つたルーズヴエルトの政爭攻勢であることはいふまでもないが、ケベツク會談で太平洋反攻作戰を一手に引受けようとして、英國首相チヤーチルの强硬な反對に遭遇、素志を遂げることが出來なかつた米軍の將領が英軍の東亞反攻に先手を打ち、ケベツクにおいて外交により貫徹出來なかつた所を太平洋の戰場で實現しようとの意圖ではなからうか、當事「ボルチモア・サン」紙のケベツク特電は第一に財政上の理由から英軍が太平洋反攻作戰に本格的に協力できぬではないか、第二に現在の英國艦隊では渡洋作戰ができぬではないか、第三に水陸兩用作戰は知つてゐるだらうが、近代的な立體作戰については英國艦隊が米國で先づ見習ひ修學が必要だ放言し、英國の言論界をカンカンに怒らせたが、太平洋をわが物顏に振舞はうといふ米國人の眼中に老朽疲弊の島國なぞはてんで存在しない、無理押しの比島作戰には米英兩國暗默の對立反感が背景となつてゐるに違ひない、孫子は「近きをもつて遠きを待ち、佚をもつて勞を待つ」といつてゐるが、太平洋上萬里の波濤を越えての米軍の反攻は先づこの原則を無視してゐる、更に「將能にして君御せざる者は勝つ」と教へてゐるが、大統領選擧戰を狙つての反攻作戰ばいはゆる「君御する」ものではなからうか、最後に、「夫れ將は國の輔なり、輔周なれば則ち國必ず强く、輔隙あれば國必ず弱し」と述べてゐるが、ケベツク會談當時からのロンドン各紙の報道をみれば、太平洋作戰に關する米英兩國の對立が豫想外に深刻なのに驚く「輔隙ある」ものに非ずや



【目　次】

英國首相等相次いで歸任……二四五二
モスクワ會談の結果に失望……〃
【米　國】
ルーズヴエルト選擧運動開始……二四五三
飽くまで無條件降伏を要求……〃
クリーヴランドで大爆發……〃
眞珠灣報告無期延期……二四五四
駐ソ米大使歸國……〃
公債激增二千十億弗……〃
軍需工業の事故……〃
飛行機生產高內譯……〃
海軍兵員損害……〃
リンドバーク戰闘に參加……〃
【米　洲】
中南米の對亞輸出增加……二四五五
亞現役將校軍務に復歸……〃
グワテマラに革命起る……〃
ホンジユラスにも革命騷動……〃
サルヴアドル大統領辭職……〃
メキシコ灣岸一帶の颶風……〃
【友邦軸陣營】
モスクワ會談の公報……二四五六
ソ波紛爭は一應落着か……〃
佛大半の軍政撤廢……〃
【英　國】
有力艦隊を對日戰に廻航……〃
獨潛水艦戰再開……〃
流星彈攻擊連續十日……〃
【西　亞】
イラン、石油利權讓渡拒否……二四五七
アラブ代表米との會談拒否……〃
拘禁のテロ分子を移す……〃
不穩の形勢對策に腐心……〃
トランスヨルダン後繼內閣……〃
【トルコ】
貨幣換算率の切下げを要求……〃
【ドイツ】
學校の根こそぎ動員……二四五八
海軍の戰果を發表……〃
【東南歐】
ホルテイ前攝政ドイツへ……〃
アテネの赤色騷擾續く……〃
希首相領土擴大を要求……〃
【フランス】
西領事館事實上閉鎖……〃
【イベリア】
再び西佛國境を閉鎖……〃
【特　輯】
ポンペイ會談とその反響……二四五九—二四六三
【資　料】
英國政府戰時加俸白書……二四六四—二四六五

英國首相等相次いで歸任

（ストツクホルム二十二日發）ロンドン來電＝亡命ポーランド首相ミコライチクはモスクワ會談を終へ二十一日夜ロンドンに歸任、外相ロメール、國會議長グラブスキー教授らは二十二日夜、英首相チヤーチルは同じく二十二日ロンドンに歸還した

モスクワ會談の結果に失望

（ストツクホルム二十二日發）英國首相チヤーチル等は二週間にわたる會談を終へ週末相前後してロンドンに歸還したが、會談の成果については英國政界筋では少からず失望してゐる樣子だ、「エキスチエンジ・テレグラフ」社のモスクワ特電によればチヤーチルはモスクワを出發するに當り記者團と會見

一、ドイツ軍に對する作戰指導の樣式について完全な意見の一致が出來た

一、戰略以外政治上の重要諸懸案も明白になつた

一、但し歐洲將來の安全保障案については米國大統領ルーズヴエルトを混へて全般的會談を遂げる必要がある

旨を述べたと傳へられる

ソ波兩國の紛爭

以上チヤーチルの用語に徵しても政治上の諸懸案については米英兩國の主張とソヴエト政府の見解とを相互に開陳した程度で具體的妥結には到達しなかつたと解される、政治上の諸懸案の內最大の難關と目され英國政界筋が米英ソ三國關係の試金石として重視してゐるソ波兩國の紛爭については、亡命ポーランド政權筋ではモスクワ會談で

一、ミコライチクはカーゾン線に至るポーランド東部の割讓を要求され

一、更にルブリン政權と五〇對五〇の基礎で統合政權を結成することに同意を迫られた

ため卽答出來ず亡命政權の閣僚と協議するためロンドンに歸還したと洩らしてゐる

さらにモスクワ會談でルブリン政權の代表は一九三五年の憲法を廢棄し、一九二一年の憲法に復歸することを主張したと傳へられるが、亡命政權筋では依然難色を示し、亡命してゐながら一片の命令で有效な憲法を廢棄することは出來ないと主張してゐる

以上交涉の經緯につき「デーリー・テレグラフ」紙は二十一日の紙上で

ソ波兩國間の紛爭は反樞軸陣營最大の弱點だ、次の段階は首相ミコライチクと亡命政權との內輪の交涉だが、果して圓滿解決に至るかどうかは極めて疑問だ

と述べ「ヨークシヤー・ポスト」紙は

紛爭の解決は反樞軸陣營の試金石と目されてゐるが、亡命ポーランド政權の態度については不安を禁じ得ない、中途半端な解決は獨り各國を失望させるばかりでなく米英ソ三國の團結を危殆に瀕せしめるだらう

と論じてゐる

東南歐洲の諸懸案

次に東南歐洲の諸懸案についても「ダーゲンス・ニヘター」紙のロンドン特電によればギリシヤ領土を英國の勢力圈としブルガリア、ルーマニア兩國をソヴエト政府の勢力範圍とするに意見が纏つたといふが眞僞は遽に斷定出來ず殊に舊ユーゴスラヴイヤ領土については事態は何等明朗化するに至つてゐない、同特電によれば遊擊隊司令チトー將軍の國民委員會とスバスツチ教授を首班とする亡命政權との「協調關係」は表向きだけのことで双方の對立は依然解消せず、從つて舊ユーゴスラヴイヤ領土を續る英ソ兩國の利害對立も依然解決されるに至つてゐない樣子だ、所謂ドイツ處分案については米英ソ各國の主張に可成りの懸隔あり「タイムズ」紙のモスクワ特電も「これ等の諸問題について餘り書くことは用心深いとはいへない」と愼重な筆致で懸案解決の困難なことを認めてゐる、同時に「タイムズ」特派員は

赤軍が東歐洲の解放に主役を演じたのだから同地區を主としてソヴエト政府の勢力圈と認めるのに異議はないが英國政府の發言權を無視することは許されない

と意味深長な所見を付け加へてゐる

昭和十九年十月廿四日(火)
第三二一九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米國】

ルーズヴエルト選擧運動開始

(リスボン二十一日發)ニユーヨーク來電=大統領ルーズヴエルトは二十一日夜外交政策協會晩餐會の席上で選擧演說を行ふため同日午前ワシントンからニユーヨークに到着した、開戰以來彼の行動は常に嚴祕とされ特に一般大衆の前にその姿を示すことは全くなかつたが、今回はその前例を破り無蓋自動車で約三時間にわたりニユーヨーク全市を乘りまはした、但しその警戒は嚴重を極め無慮一萬名の警官隊がこれに動員されたといはれる、彼はさらに二十七日にはフイラデルフイアで、十一月に入るとボストンで夫々選擧演說を行ふ筈であり、またシカゴをも訪れる豫定ともいはれるが、彼が民主黨の大統領候補を受諾した當時「陸海軍最高司令官としての重責履行のため今年は選擧運動はやらない」と廣言したにも拘らず選擧を旬日の後に控へてかかる猛烈な選擧運動を開始したのは、最近の形勢が漸次共和黨候補デユウイに有利に傾いてきた結果遽かにあわて出したためとみられる

飽くまで無條件降伏を要求

=ルーズヴエルト外交演說=

(リスボン二十一日發)ニユーヨーク來電=米國大統領ルーズヴエルトは二十一日夜ニユーヨークで開かれた外交政策協會晩餐會に臨み約四十五分間にわたり外交問題を中心とした選擧演說を行つた、要旨次の通り

日獨兩國に對してはあくまでも無條件降伏をもつて臨むであらう、ドイツを擊破した曉にはドイツが將來軍國として立直り得る何一つの要素をも殘しておいてはならない、米國は勿論反樞軸諸國はいづれも現在のナチ政權の首腦部とは斷じて妥協しないことに完全に意見一致してゐる、ドイツを擊破してしまつた後もわれわれは日本をやつつけるといふ重大な仕事を持つてゐる、東京への道はいかに長く、またいかに困難であらうともわが軍はマツカーサー、ニミツツ兩名の指揮の下にその目標に達するまで戰ひ拔くであらう

ルーズヴエルトはさらに戰後安全保障機構について次の通り言明した

われわれは戰鬪行爲が現實に終る前に完全な戰後の國際機構をつくりあげておかねばならぬ、平和も戰爭と同じくこれを强行する意志と實力とがあつてこそ初めて成功する、されば反樞軸國の國際機構は平和維持のために急速且つ決定的に行動しまた必要とあれば武力を使用する權力を持たねばならぬ、從つてこの機構に派遣される米國代表には豫め絕對的な行動の權力が與へられねばなるまい、卽ちこの機構が現實的な機能を發揮し得るためにはこれに參加する米國代表には豫め憲法の規定に基き、人民の代表たる議會によつて全權を與へておくことが必要である

ルーズヴエルトは次いで共和黨の外交政策を痛罵して次の通り演說した

共和黨の外交政策は孤立主義である、さればもし今度の選擧で共和黨が勝つやうなことがあつたら米國は再び孤立主義の昔に引き戻されることとならう、武器禁輸の撤廢、武器貸與法或ひは徵兵法の延長に反對したのは共和黨であつた五年前否四年前でさへ當時米國が直面してゐた危機に對して共和黨陣營から果して有力な發言のきかれたことがあつたらうか、米國はその大きな目標を米國一國の力だけで達成することは出來ない、米國はその生活樣式を守るために今次大戰で諸國と協力したが、この協力は將來も續けられなければならぬ

クリーヴランドで大爆發

(リスボン二十一日發)クリーヴランド(オハイオ州)來電=クリーヴランド市內の數個の大瓦斯タンクが二十日突如大爆發を起し同市始まつて以來の大火災となり、二十一日に至るもなほ火勢衰へず同市東部五十地區は既に灰燼に歸した、爆發の原因は未だ不明だが現在までに判明した死者だけでも七十一名に達し、行方不明は二百名以上、病院に收容されたもの二百三十五名に上つてゐるが損害は一千萬弗と見られてゐる

眞珠灣報告發表無期延期

（リスボン二十一日發）ワシントン來電＝海軍長官フオレスタルは二十一日次の通り言明した

眞珠灣空襲事件調査のため任命された海軍特別委員會は最近調査を完了、報告を提出した、しかしその報告のうちには軍機に屬するものあり余は作戰部長キングの意見をも徵するためこれを彼の手許に廻付した、從つてこの報告が何時どの程度一般に發表出來るか言明し得ない

眞珠灣空襲事件の眞相發表問題は米國政界における三年來の懸案であり、本年に入つて政府も遂に議會の要求に屈して同事件の再調査を行ふこととなり、陸海軍は去る七月十四日それぞれ特別調査委員會を任命してこれが調査に當らせてゐた、このうち海軍委員會の調査が先づ完了したものでフオレスタルに提出した調査の內容は報告並びに委員會の開いた軍法會議の記錄から成り、そのうちには眞珠灣事件當時の陸海軍司令官だつたキンメル、ショート兩名の陳述をも含んでゐるといはれる、陸軍が海軍同樣調査報告の內容發表を無期延期するかどうかは不明だが眞珠灣事件が最近米國の政治問題化したのは大統領選擧戰と密接な關係あり、共和黨側は選擧前に同事件の眞相を選擧民に知らせることによつて選擧戰を自黨に有利に展開せしめようと企圖してゐるので、海軍當局の發表無期延期は直ちに共和黨陣營から猛烈な攻擊をうけることとならう

駐ソ米大使歸國

（リスボン二十一日發）ワシントン來電＝白堊館當局はモスクワ駐劄米大使ハリマンが二十一日ワシントンに到着したと發表した、彼はスターリン、チヤーチルのモスクワ會談の結果に關しルーズヴエルト及び國務長官ハルに報告する豫定と傳へられる

公債激增二千十億弗

（リスボン十七日發）ワシントン來電＝聯邦準備局は最近の報告書において次の通り發表してゐる

「米國の國防計畫が開始されて以來、一九四三—四四會計年度の終つた六月三十日までの四年間に公債は四百八十億弗から、二千十億弗に增加したが、內六百四十四億弗が各銀行により、八百八十八億弗が一般投資家によつて消化された、公債の增加は最初の三ケ年に急增し、各銀行の公債投資も增加したが、最後の一ケ年間には、商社、個人の貯蓄が增したため、銀行に依存する度合は減少した、個人、合資會社、個人信用による消化額は全公債の二十%以上、大會社並びに商社によるもの十二%以上となつてゐる

軍需工業の事故

（リスボン十九日發）ロンドン來電＝英國勞働組合會議に出席した米國代表は開戰以來最近までの米國の軍需工場に起つた勞働者の事故について次の通り述べた

致命傷三萬七千名
重傷不具二十一萬九千名
一時的操業不能四百五十萬名

飛行機生産高內譯

（リスボン二十日發）ワシントン來電＝戰時生產局は米國が再軍備計畫に着手した一九四〇年七月以降現在までに生產された飛行機の數はあらゆる型を含み約二十三萬臺に達し、二十日その內譯を發表した

爆擊機　七三、六〇〇　戰鬪機　七三、六〇〇
輸送機　一八、四〇〇　練習機　五二、九〇〇
通信用機　一〇、五〇〇

海軍兵員損害

（リスボン二十一日發）ワシントン來電＝海軍省は開戰以來の海軍、海兵隊、沿岸警備隊の兵員損害が六萬八千九百二十九名に達した旨二十一日發表した、內譯次の通り

戰死　二七、二三八　戰傷　二七、六四一
行方不明　九、五七〇　俘虜　四、四八〇

リンドバーク戰鬪に參加

（リスボン二十一日）リンドバークは目下太平洋戰線で米軍飛行士の指導に當つてゐるが、太平洋前線基地來電によれば、最近彼は自らライトニング戰鬪機を操縱して戰鬪に參加したといはれる

昭和十九年十月廿四日(火)
第三二一九號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

【米洲】

中南米の對亞輸出增加

(リスボン二十日發)米國政府は過般アルゼンチンに對し經濟關係を斷絶する擧に出たが中南米方面からの情報によれば米亞經濟關係斷絶以來中南米諸國からのアルゼンチンに對する物資供給は激增し、これがため米國政府の對亞經濟壓迫も殆んどその效果を發揮しない狀態といはれワシントン來電によれば、二十日の國務省新聞記者團會見でもこれが問題となつたが、國務次官スチニアスは單に「米國政府は米洲諸國と緊密な協力を行つてゐる」とのみ述べたといはれる

亞現役將校軍務に復歸

(リスボン二十一日發)ブエノスアイレス來電=アルゼンチン副大統領兼陸相ペロン大佐は二十一日次の通り發表した

現役將校で政府の公職にある者は全部一九四五年一月末までにその職を退き軍務に戻ることとなつた、大尉以下の將校は既に辭職し、他の高級將校もおそくも十一月三十日までに辭職することとなつてゐる

グワテマラに革命起る

——大統領放逐——

(リスボン二十一日發)グワテマラ市來電によれば豫て政府の敎授、學生に對する彈壓を續り同市內に不穩の氣が漲つてゐたが、二十一日果然靑年將校、大學生を中心とし、これに市民も加はる革命が勃發したと傳へられる、革命軍は戰車を繰り出し眞先にグワテマラ國軍司令官ゲデリコ・コラド將軍を襲撃、同將軍を射殺するとともに應戰の國軍との間に前後十二時間に亙り双方の死傷一千名餘に及ぶ熾烈な市街戰を展開した後、遂に大統領ポンセ放逐に成功、目下同市はヤコボ・アルベン大尉、アラナ少佐並びにヨルゲ・トリエロ三者によつて掌握されてゐると傳へられる

新政府成立

グワテマラ放送によれば、グワテマラ市を占領した革命軍三首腦者と大統領ポンセとの間に二十一日協定が成立、革命軍によるグワテマラ新政府が樹立され同政府は直ちにホンジユラス駐劄のヴアチカン市、英國、ブラジル、コロンビア、メキシコ、チリー、ニカラガ、パナマ、コスタリカ、キユーバ、ヴエネズエラ各國外交機關によつて正統政府として承認されたと傳へられる、なほポンセは近く國外に亡命するものとみられる

ホンジユラスにも革命騷動

(リスボン二十一日發)メキシコ・シテー來電によればホンジユラス現大統領テブルシオ・カリアスの打倒を企圖する革命軍が二十一日五千の兵力をもつてサルヴアドル、グワテマラ、ニカラガの三國境を越えてホンジユラスに侵入、目下激戰が展開されてゐると傳へられる、カリアスは過去十一ケ年に亙り獨裁權を揮ひ常に暴動勃發に備へ三千の軍隊並びに警官隊を配備すると共に市民に徵兵制を布き、これに反對するものは盡く射殺すると威嚇してゐたもので右に對する國民の忿懣が遂に爆發したものとみられる

サルヴアドル大統領辭職

(リスボン二十一日發)サン・サルヴアドル來電=サルヴアドル共和國大統領アンドレ・メネンデスは二十一日國會に辭表を提出、臨時大統領としてオスミン・サリダスを任命した、サリダスは卽時大統領に就任、目下組閣準備中である

メキシコ灣岸一帶の颶風

(リスボン十九日發)マイアミ來電=十八日八時間にわたつてキユーバ島を荒した颶風は十九日に至りマイアミを襲ひ北上してオキーチヨビー湖地方を通過、タムパ、セント・ペテルスブルグ地區を吹きまくり更に豪雨を伴ひ大西洋岸のジヤツクソンヴイル港北東部に進行したが、各地の被害は甚大で現在までに判明した處ではキユーバ島ハヴアナ州だけでも負傷者三百人乃至四百人、オキーチヨビー湖地方でも一九二八年來の水害で溺死者が續出、タムパ方面のフロリダ州西海岸中部地區の名產柑橘類の樹木は根こそぎにされ果實の損害は二千萬弗に上ると見られる、一方メキシコ東海岸のヴエラ・クルーズでは津浪のため損害は三百萬弗を越えるといはれる

【反樞軸陣營】

モスクワ會談の公報

（ストツクホルム二十日發）ロンドン來電＝英國政府はモスクワ會談の終了に當り二十日朝次の公報を發表した

モスクワにおけるチヤーテル、スターリン兩者の會談においてはポーランド問題の解決方途につき大きな進展がみられた、英ソ兩國政府はポーランドに問題につき愼重に討議を進めた結果兩者間の意見の開きは著しく狹められ誤解は一掃された、目下末節の問題につき交渉が進められてゐる、また英ソ兩國共通の問題の多くについても意見が交換され、東南歐洲における諸事態も檢討され、ブルガリアに對する休戰條件中未決定の項目についても兩國政府間に諒解が成立した、英ソ兩國政府は撤收するドイツ軍に對して全力を結集して當るためユーゴスラヴイアに對し共同の政策を實施し、ユーゴスラヴイア國王政府と國民解放運動を結束せしめてユーゴスラヴイアにおける內政上の諸困難を一掃することに意見の一致をみた、兩國政府は協議の結果ユーゴスラヴイア國民が戰後自ら將來の憲法を決定する權利を有することを承認した、更に會議においては各戰線における反樞軸軍の將來の作戰についても協議が行はれた

ソ波紛爭は一應落着か

（ストツクホルム二十日發）亡命ポーランド首相ミコライチクは英國代表と同時にモスクワを出發、ロンドンに向つたと傳へられるが會談に關しタス電報に徵すれば、ソ波兩國間の紛爭は結局亡命ポーランド政權とルブリン政權との爭となり、ソヴエト政府の限定する條件の範圍內において兩政權相互間で紛爭を片付けることに落着いたのではないかと傳へられる

佛大半の軍政撤廢

（リスボン二十一日發）パリ來電によれば英國政府、ド・ゴール政權並びに反樞軸軍最高司令部は二十一日フランス軍政地區のド・ゴール政權への移管に關する協定を締結したといはれる、右協定によりド・ゴール政權に移管される地域は北端のブーローニユから東南下してアルデンヌ縣及びナンシー西部を過ぎローヌ河沿ひに地中海沿岸のマルセーユに至る線の以西卽ちフランス全土の約三分の二乃至五分の四に相當する、しかして國際消息筋は反樞軸側の右措置をもつてド・ゴール政權に對する正式承認の前提であるとみてゐる

【英國】

有力艦隊を對日戰に廻航

（ストツクホルム二十一日發）ロンドン來電＝海相アレキサンダーは二十一日イングランドのプロムレーで演說し次の通り述べた

新たに編成された英國東洋艦隊の一部は、有力な補給艦隊とともに既にアジア水域に向つて進發した、英國は將來日本艦隊と單獨で本格的海戰を交へ得るだけの有力な艦隊を太平洋水域に派遣せんとしてゐる、英國艦隊は米國艦隊と協力して對日戰において完全な制海權を確保すべく、またしなければならない

獨潛水艦戰再開

（ストツクホルム二十一日發）ロンドン來電＝海相アレキサンダーは二十一日の演說で大西洋におけるドイツ潛水艦の活躍につき次の通り述べた

最近ドイツの潛水艦隊が再び英國を中心とする大西洋の各航路で活躍を開始した、ドイツ潛水艦隊は從來に比較して遙かに愼重な作戰をとつてゐるが潛水艦戰が再び開始されたことは事實である

流星彈攻撃連續十日

（リスボン二十一日發）ロンドン來電＝再開されたドイツ軍の英本土に對する流星彈攻撃は既に連續十日間に亘つてゐるが、二十一日早朝もロンドン地區を含む英國南部にかけて攻撃が加へられた、政府當局は二十一日ロンドン並びに南部及び東部から疎開した市民に對し、流星彈攻撃による危險はいまだ去らないから戻るのは見合はせるやうにとの勸告を發した

昭和十九年十月廿四日(火)
第三二一九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【西亞】

イラン、石油利權讓渡拒否

(リスボン二十一日發)テヘラン來電=米英ソ三國政府はイランの石油利權を繞り猛烈な獲得戰を演じつつイラン政府と折衝を重ねてゐたが、イラン政府は差當り國內石油資源の外國讓渡は一切行はぬとの態度を決定、從つて米英ソ三國との石油交涉もお流れに終つた、右に關しイラン首相モハメツド・サイドは二十一日外人記者團との會見において次の通り發表した

一九四三年一月以來米國の「スタンダード・ヴアキユーム」並びに「シンクレア」英國の「シエル」石油會社は各々イラン政府に對し、イラン東南のバルチスタン地方の石油利權移讓を要求、イラン政府はこれを專門的に研究中であつたが、前政府が瓦壞したため交涉は中絕した、その後イラン議會は戰爭終了まで外國に對する利權讓渡の承認を拒否する態度を明らかにし、新政府また石油利權に關する問題はすべて戰後まで延期することに方針を決定した、更に十月五日ソヴエト政府はイラン北部の石油利權移讓問題に關し石油使節をテヘランに派遣したが、イラン政府はソ聯の提案をも拒否した、しかしイラン政府は戰後に來るべき利權移讓に關する外國石油會社との間の交涉準備のためイラン國內の石油資源の調査及び利權移讓契約條文起草を目的として特別の委員會設置を考慮してゐる

アラブ代表米との會談拒否

(ストツクホルム二十日發)エルサレム來電=米國經濟使節團とエルサレムにおいて會談中であつたアラブ商業會議所エルサレム、ヤツフア、ハイフア各地代表は二十日突然この會談から脫退した、その理由はパレスチナをユダヤ人のために解放するといふ米國大統領ルーズヴエルトの聲明に憤慨した結果である

拘禁のテロ分子を移す

(リスボン十九日發)ロンドン來電=英國拓務省は十九日パレスチナ政廳の次の公報を發表した

パレスチナ地方における治安維持、生命財產の安全を圖るため緊急取締令によりテロリストおよびテロ行爲の共犯として拘禁されてゐる二百五十一名は今回軍に引き渡されパレスチナ地方以外の地點に移された

不穩の形勢對策に腐心

(リスボン十九日發)エルサレム來電=パレスチナ統治府は先週、ヨルダン谷に國籍不明の落下傘隊員が降下した事件について十七日次のやうに發表した

過日ヨルダン谷に降下した落下傘隊員について住民の報告に基き、トランスヨルダン國境軍は落下傘隊員と覺しき人物を逮捕するに至つたまた英國トランスヨルダン軍司令官グラブ大佐は十五日ロンドンからパレスチナ地方に到着したが同大佐はトランスヨルダン警官隊並びに軍隊とを混成し、ヨルダン谷に發生した不穩な情勢を鎭定するため軍事的行動を起すことになつた

トランスヨルダン後繼內閣

(リスボン十八日發)エルサレム來電=トランスヨルダン首相パシヤ・ツダ辭任の後を受け大統領エミール・アブヅラーは元藏相リファノ・ベーに後繼內閣の組織を委囑した

【トルコ】

貨幣換算率の切下げを要求

(リスボン二十日發)アンカラ來電=過般來アンカラにおいて米英兩國とトルコとの間に通商交涉が進められてゐたが「デイルク・エコノミシ」紙の報ずるところによると、最近右交涉は豫想せざる難關に逢着するに至つたと傳へられる、これは米英代表團が通商協定締結前にトルコ磅の平價切下げを要求してゐるためといはれるが米國側は五十%切下げ案を提示してをり、これによると弗トルコ磅の換算率は從來の一弗百三十ピアスターから二百五十ピアスターに切下げられることになる、英國代表もほぼ同樣の要求を行つてをり、これに對しトルコ政府は未だその態度を決定してゐない模樣だが「デイルク・エコノミシ」紙はトルコ磅の平價切下げは重大な社會經濟的結果を招くことにならうと述べてゐる

【ドイツ】

學校の根こそぎ動員

（ベルリン二十一日發）文相ベルンハルト・ルスト氏はドイツの大學科目制限に關し二十一日次の聲明を發表した

一、一九四四―四五年度冬學期に開かれる科目はまだ大學に殘つてゐる學生に必要な範圍で行はれる

一、餘剩の教師、勞働力、教室及び資材は他の戰略的に重要な目的に使用される

一、診療所はドイツ軍並びに一般市民の醫療に當るため閉鎖されない、それゆゑ高學年の醫科學生の教程はこれらの診療所において繼續される

一、自然科學及び工科の上級學生も關係のある施設は戰略的に重要な研究のため存續されることになつてゐるから、醫學生の場合と同樣實地について研究を繼續することになつてゐる

海軍の戰果を發表

（ベルリン二十日發）軍當局二十日發表＝ドイツ海軍並びに沿岸高射砲隊は六月から九月までの四ケ月間に爆撃機、四發重爆撃機を含む反樞軸軍機九百四十機を撃墜したが、内譯は次の通り

六　月　二二〇機　七　月　一九六機
八　月　三一八機　九　月　二〇六機

同期間中にドイツ海軍は反樞軸船舶二百四十八隻、百五十三萬二千百トンに損害を與へたが、うち百三十八隻七十七萬二千百トンは撃沈、百十隻七十六萬トンは撃破である

更にドイツ潛水艦隊は同期間中に反樞軸軍艦二百七隻に損害を與へたが、内譯次の通り

撃沈
巡洋艦　九隻　驅逐艦　五六隻
潛水艦　四七隻
撃破
巡洋艦　三〇隻　驅逐艦　四七隻
潛水艦　一八隻

【東南歐】

ホルテイ前攝政ドイツへ

（ブダペスト二十一日發）ハンガリア前攝政ホルテイ提督は最近特別仕立ての飛行機でブダペストを出發、ドイツに向つた、ホルテイ提督の家族及びヴアツテイ元帥、前陸軍官房長プルンシツク少將らも同行した

アテネの赤色騒擾續く

（リスボン二十日發）アテネ市内では最近左右兩翼間に市街戰が展開されたと傳へられるが、カイロ來電によれば十九日共產黨員數百名がパンガロス將軍の邸宅を襲撃、衞兵のため數名が射殺された事件が發生、英軍の出動により漸く鎭定したといはれる、パンガロス將軍は一九三五年ギリシヤの王政復古當時活躍した人物である

希首相領土擴大を要求

（リスボン二十日發）亡命ギリシヤ政權は最近アテネへ歸還したが十九日アテネ來電によれば首相パパンドレオは領土の擴大を要求して次の通り言明したと傳へられる

キプロス島北部、ドデカネーゼ諸島、アルバラア南部のエピルス北部北方及び相當地域のブルガリア領はギリシヤに割讓されるべきである

【フランス】

西領事館事實上閉鎖

（チユーリツヒ二十一日發）「トリビユーン・ド・ジユネーヴ」紙のパリ特電によればフランスにあるスペイン共產黨員は反樞軸軍のフランス占領に乘じて、在佛スペイン領事館の多くを占領し、更にド・ゴール政權に對しこれをスペインの正式領事館として承認するやう要求してゐるといはれる、これがため目下フランスで機能を發揮してゐるのはリオンのスペイン領事館だけでその他の領事館は事實上閉鎖同樣の狀態におかれてゐると傳へられる

【イベリア】

再び西佛國境を閉鎖

（リスボン二十日發）二十日のツールーズ放送によればスペイン政府は佛西兩國共產分子の活動によりスペイン國境の不安が益々增大するのに鑑みフランス、スペイン國境を閉鎖する旨布告、國境上のフランス都市アンデーの橋梁の通行を停止すると同時にイルンとアンデー間の鐵道の交通を禁止したといはれる

昭和十九年十月廿四日(火)
第三二一九號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

特輯

ボンベイ會談とその反響

奥畑稔

九月九日からボンベイ郊外のマラバールにおける回教徒聯盟總裁ジンナー私宅で開始されたいはゆるボンベイ會談は二十七日に到つて遂に決裂して了つた、決裂の主要な原因はガンジー翁がパキスタン案を原則的に承認しながらもこれを實現するに當つては國民投票を行ふこと、英國からの權限の委讓を俟つて初めてパキスタン案を實現すること及び回教徒國が獨立した場合印度教徒國との間に國防、交通、その他につき歩調を合はせた政策をとること等を要求したのに對し、ジンナーがあくまでパキスタン案の無條件實現を固執して讓らなかつた點にあることは周知の通りである、勿論ジンナーが全印回教徒聯盟から今回の會談に際して全權を賦與されてゐたのに對し、ガンジー翁が個人の資格で交渉に臨んだことも兩首腦間の諒解到達を妨げた一つの原因であることはいふまでもない、數世紀に亘る印回兩教徒の對立解消企圖はかくしてまたも一頓挫をきたしたわけであり、同時に二大黨派の和協による印度の統一達成も一應御破算になつたが、ガンジー翁の述べてゐる如く少くも前後三週間近くに亘つて兩者が隔意ない意見の交換を遂げた事實は、印回兩教徒の和協並びに印度の統一といふ今後に殘された大きな課題に對し、少なからぬ有益な示唆を與へたものといはねばならない、英國上院の勞働黨議員ストラボルジー卿の如きは十月二日早くも、ボンベイ會談の失敗は英國が印度問題解決に乘り出すべきであるといふ合圖とみられると述べ、更に進んで今こそ英國は新らしいクリツプスを印度へ派遣しなければならないと主張してゐる、英國が今後どういふ手をうつかまた印度と英國の關係がどう發展して行くか固より豫斷を許さないが、少くも印度自體に關する限り今回の會談が完全に無駄であつたといふことは出來まい

兩首腦の主張

會談の經過については何も發表されてゐないが會談決裂後公表された兩首腦間の往復書翰について兩者の主張を見よう、右書翰は會談と併行して交換されたもので覺書の形式により會談における主要論點を盡してゐる、先づ九月十日附の書翰についてみよう、ジンナーは印度教徒乃至は國民會議派の代表としてではなく全く個人の資格で、ガンジー翁が印回兩教徒の和協問題を協議しようとしてゐるために幾多の困難が生じた點を指摘し、さらに一九四三年八月のラホール決議を說明して同決議の根本原則をガンジー翁に受け容れさせようとして說得に努めたが、ガンジー翁はこれを拒否したと述べてゐる、右書翰によれば會談の第一日目に今回の交渉の基礎をなしてゐるラジヤゴパラチヤリ方式について檢討を加へた後兩者間に次の如き質疑應答が行はれてゐる

先づジンナーは

一、何らかの協定に到達した場合、ガンジー翁はどういふ資格で調印しようといふのか

一、ラジヤゴパラチヤリ方式の中に述べられてゐる印度の憲法は誰が制定し、また何時からこれを實施するのか

一、「回教徒聯盟が印度の獨立要求を確認する」といふ言葉はどういふ意味であるか

一、過渡期のための臨時政府は一體どういふ線に基いて組織されるのか

一、國境畫定委員會は誰が任命し、また誰が同委員會の決定を實施するのか

一、英國が權限を委讓するのは誰に對してであるか

等の諸點についてガンジー翁の說明を求めてゐるが、これに對しガンジー翁は返書の中で「交渉は個人として行ふが、ジンナーとの間に成立した協定を承認させるためには會議派に對して余が有してゐる勢力を利用する」と述べた後、一體ラジヤゴパラチヤリ方式といふのは先づジンナーの承認を得た後回教徒聯盟に回付しようと考へられたものであると、交渉者の資格の問題についてジンナーの問に答へ、續いて左の通り述べてゐる

一、憲法は臨時政府乃至は同政府によつて特別に組織された權限のある團體によつて制定されるしかもこれは英國勢力が印度から撤退した後に制定される

一、臨時政府組織の基礎は回教徒聯盟と國民會議派との間の話合ひによつて決められよう

一、國民投票並びに選擧權の形式は臨時政府が決定し、印回兩教徒間で利害を同じくする問題の處理に關する條約起草にも同政府が當る

一、國境畫定委員會は臨時政府が任命し、且つ同委員會の決定の實施も同政府が行ふ

一、ラジヤゴパラチヤリ方式の中で使用されてゐる「絕對多數」といふ言葉は、國境諸州における非回教徒に對して明かに多數であるとの意味である

一、「すべての黨派」といふのは「關係のある諸黨派」の意味である

一、「保護、防衛等」とは共通の權益を危殆に陷れようとするあらゆるものに對して保護防衛するの意味である

一、英國からの權限の委讓は臨時政府に對して行はれる

さらにガンジー翁は自決權行使の第一の條件は印度を構成するあらゆる黨派及び集團の獨立達成にある旨附言してゐる

ガ翁の意圖する過渡期政府の構想

以上によつてみるにガンジー翁の意圖してゐる過渡期政府は非常に中央集權的色彩が强く、印回兩教徒國の分離も些か形式的に過ぎると思はれるもつとも印度の統一を最高目標とし、印回兩教徒の和協をむしろその前提と考へてゐるやうに見受けられるガンジー翁にとつて、以上の構想は極めて當然なことであらう、しかし印度教徒の壓力を排し、完全な獨立國を建設しようとするジンナーにとつてこの構想がうけ容れられる筈はない、强力な中央政府を樹立して名目上分離された印回兩教徒國を事實上支配しようといふガンジー案（むしろラジヤゴパラチヤリ方式と呼ぶ方が適當であるが）に對して、ジンナーが眞向から反對することは容易に想像されよう、かくしてジンナーは以上ガンジー翁の返答をもつて「八月の決議」にガンジー翁が固執してゐるものと看做し「印度民衆の自由を達成するためには、特に印度教徒と回教徒が解決に到達しなければならないが、この解決は印度を印回兩教徒國に分割するといふ線に沿つて始めて可能である」と應酬し、さらにガンジー翁の說明は不十分であり、臨時政府の全貌が明かにされない限り何事も討議することは出來ないと述べてゐる

ガ翁ラホール決議を反駁

次いでガンジー翁は他の覺書において一九四三年三月回教徒聯盟が行つたラホール決議を承認し得ない旨次の通り述べてゐる

ラホール決議は多くの點について解答を與へてゐないがゆゑにこれを受け容れることは出來ない、卽ち同決議はパキスタンの地理的說明もしてゐなければ、獨立國を形成する「パキスタン地帶」における構成分子をどうするか、或は國境畫定を英國の支配が續いてゐる間に行ふかどうかも明かにしてゐない、またジンナーが、パキスタンに基いて獨立した回教徒諸國が印度の分割に依て多少なりとも利益をうけ、しかしてこれらの獨立國が相互に或ひは印度の爾餘の部分に對して脅威を與へないといふことに滿足してゐるかどうかも明かでない、ジンナーは余が八月の決議に固執してゐるといふが、余の現在の立場は、われわれ二人が獨立のために、それも統一された印度といふ基礎の上に立つてではなく、これから二人で到達しようとしてゐる解決に基いて獨立を獲得するために努力せねばならないといふ點にある、臨時政府は現在の或ひは新しく選ばれた中央立法會議に對して責任を負ひ、且つ戰後に委讓される總司令官の權限を除くほか、一切の統治權を行使することにならう、一方余はまたラホール決議の基礎をなしてゐる二國民說（ツー・ネーション・セオリー）をうけ容れられないことが解るに至つた、一群の改宗者及びその子孫がどうして兩親と離れて獨立した國民であると主張出來るのか諒解出來なかつた

昭和十九年十月廿四日(火)
第三二一九號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

次いでガンジー翁はジンナーに對し「二國民說に關する問題を暫く延期し、印回兩教徒の問題を自決といふ點から解決する譯には行かないのか」と述べ、あくまでも回教徒の完全獨立ではなく、形式的分離案を主張してゐる、この申入れに對してジンナーが「自分は地域的自治を目標とするものではなく、回教徒の獨立といふ回教徒本來の權利獲得を目指してゐるのである」と答へるに至り兩者の對立は漸く尖銳化してゐる

ガ翁國民投票を強調

續いてガンジー翁は九月二十三、二十四兩日の書翰において印回兩教徒の分離に際し、國民投票が是非とも必要である所以を強調して次の通り述べてゐる

パキスタン地帶に居住するすべてのものは、成人選擧といふ問題について自分の意見を表明する機會を與へられねばならない、パキスタン地帶は國民會議派並びに回教徒聯盟の承認した委員會によつて畫定されねばならず、同地帶においては國民投票を行ふ必要がある、投票の結果分離に贊成であることが判明すれば、印度が外國の支配から自由になるや否や分離された國家を作らねばならない、しかしてその上で印回兩教徒團は外交、國防、交通、關稅、商業更に小數派の保護について滿足出來るやうな施策をしなければならない、國民會議派と回教徒聯盟との間に解決が出來たならば、その直後に兩黨派は印度の獨立達成のためにとるべき共通の方策を決定することになるが、その場合回教徒聯盟は會議派がとるかも知れない直接的行動を無視する自由を有する

かくして、兩者の意見の相違は愈々明確になり、遂に會談は決裂寸前の雰圍氣に包まれるに至つたのである、この險惡な空氣を反映して、九月二十五日附の返書においてジンナーは次の通り痛烈にガンジー翁の所論に反駁してゐる

貴下との間に討議を重ねまた書信を交換した結果、印度を印回兩教徒國に分割するといふ問題はただ口先だけのことで貴下は心からこの問題を考へてゐるのではないといふことが明かとなつた、貴下は突如として貴下の考へがラホール決議の原則と全く相容れないといふことを明瞭に示した新しい意見を出してゐる、貴下は印度全體の獨立が達成されるまでは印回兩教徒國の分離に關する協定を延期しようといひ、さらに共通の利害關係を有する問題については共通の施策をしようと提案してゐるが、自分はこれをうけ容れることは出來ない、何故ならば國防、交通、商業といふやうなことは國家の血液にも等しいものであるから、從つて中央政府にこれらについての權限を委讓することも出來ない

ジンナーとラジヤゴバラチヤリ

以上は覺書を中心としてみた兩者の主張の概貌であるが詳細の點については餘り明かでないのでこれを補足する意味において左にジンナーの說明を聞かう、以下は「ニューズ・クロニクル」紙ボンベイ特派員スチュアート・ゲルダーが十月四日ジンナーと二時間半に亘つて會見した際ジンナーが言明したものである

「印度教徒と回教徒との意見の相違を解決する實際的な方法が唯一つある、即ちシンド、パンジヤブ、ベルチスタン、アツサム、ベンゴールの諸州を回教徒主權地域として承認することにより印度をパキスタンとヒンドスタンといふ獨立した二つの部分に分つことである、しかしてこの場合印回兩教徒が互に他を信賴すればパキスタン（回教徒獨立地域）內における印度教徒少數派およびヒンドスタン內における回教徒少數派は公平な待遇を與へられることになる、印度教徒がわれわれ回教徒を信賴するならばわれわれもまた二億五千萬の印度教徒を信賴する用意がある、しかしながらわれわれに對して示された提案は叡智に對する侮辱にひとしい、自分は回教徒が絕對多數でない地域において國民投票を行ふことについて同意を求められたので、ガンジー翁に絕對多數の意味を質したところ全住民の七十パーセント以上だとガンジー翁は答へ、回教徒が七十パーセント以上の地域では投票せずに支配權を與へようといふことであつた

この點についてガンジー翁の答へはラジヤゴパラチヤリのそれと相異してゐる、後者の説明によれば絶對多數については法律上の解釋をとり選擧地域における全住民の五十一パーセントをもつて絶對多數とすることになつてゐる、勿論これは投票數の五十一パーセントではなく投票しないものをも含めてのことである、さらに國民投票は戰後にしかも自分が過渡期國民政府への協力に同意した後に行はれる譯で、この過渡期政府においては印度教徒が七十五パーセントの椅子を占めることになつてゐる、しかしてこの印度教徒が多數を占める政府が恒久的聯邦政府となつて初めて國境畫定委員會が同政府によつて設定され國民投票が行はれるのである

ついで余は國民投票に先立ち從つてパキスタン案がどうなるかを知る前に何らかの形でパキスタンが實現すると假定して國防、財政、外交、商業關稅、交通について協定を結ぶことに同意するやうに求められた、われわれは實に印度教徒が七十五パーセントを占める政府と調子を合はせて行かねばならないのである、これでは獨立とはいへない、重要問題は常に殆んど印度教徒が壓倒的に優勢な聯邦當局に委ねるといふ一種の地方自治に過ぎない、今回の會談においては他にも根本的な障碍があつた、卽ちガンジー翁は個人の資格で自分は回教徒聯盟總裁として交涉したことがそれである、自分はガンジー翁に對して「われわれの間で協定に到達しても回教徒聯盟の運用委員會がこの協定を拒否すれば自分の威信は失墜してしまふ、しかるに貴下は假りに會議派の運用委員會から拒絕されても個人として話をしたのだといふことが出來る」と語つた位である、實際ガンジー翁が會議派から權限を賦與されるといふ點に關してわれわれ回教徒からみれば會議派運用委員が拘禁されてゐる牢獄の鍵を握つてゐるのはほかならぬガンジー翁であるといふことが出來る、八月の決議を撤去しさへすれば彼らの卽時釋放をみることが出來るのである」

會談失敗の原因

以上によつて一切は略々明かとなつた、ガンジー翁は十月上旬記者團との會見において會談失敗の主要原因として（一）パキスタン案實施の時期（一）國民投票を行ふかどうか（一）回教徒地區が畫定された場合における印回兩教徒地區の關係の三點をあげたが、ジンナーの説明によつてその反對理由が奈邊にあるか極めて明瞭となつたのである、要するに印度を常に全體として考へようとするガンジー翁と回教徒問題にのみ眼を奪はれてゐるジンナーとの根本的態度の相違が今回の會談を決裂へ導いたといふことが出來よう、かくてボンベイ會談におけるガンジー翁の提案はジンナーによつて殆んど全面的に拒否され同時に今次會談の基礎をなしたラジヤゴパラチヤリ方式も無視される結果となつたが、右方式の立案者である當のラジヤゴパラチヤリは十月七日記者團との會見においてジンナーの態度を非難して次の通り述べてゐる

余はジンナーがボンベイ會談においてガンジー翁が提示した條件や余の方式の半分でも彼自身の考へてゐる條件を明瞭かつ詳細にすることを望む、パキスタン案を實現させる前に國民投票を行はねばならないといふのは印度教徒も回教徒も政黨の私有財産としてとり扱ふことが出來ないとの理由に基くのであり、また回教徒の所謂ラホール決議の中にもこのやうな國民投票に反對するといふ條文は見出されない、ジンナーは過渡期政府が一方的であるとして反對してゐるがこれはジンナーが會議派と回教徒聯盟との間に解決があつて初めて二つの獨立國が建設され、更にまた統一政府の樹立によつて獨立した印度を分割するのに缺くことのできない條件が作りだされるといふことを理解してゐないからである

印度內部の反響

ガンジー翁の印回兩教徒和協乘出しに對して會議派、回教徒聯盟を含む印度各派の間から反對意見がでてゐることは會談前から傳へられてゐたが會談決裂後ヒンヅー・マハサバ派は逸早く印回兩教徒による印度二分案に反對してをり更に北部印度の有力者も十月七日ニユー・デリーにおいて大會を開催、印度分割案に對する反對決議を行つてゐる

昭和十九年十月廿四日(火)
第三二一九號

同盟通信

海外電報
(第三種郵便物認可)

右大會には總督行政參事會員であるジヨゲンドル・シンをはじめ印度教徒並びにシーク教徒の有力者多數が出席し席上前ボンベイ州政府歳入長官ジヤムナドメータは

印度は一つであつて分割することは出來ない、從來がさうであつたごとく今後も印度は一つでなければならない、印度を二分するがごときは自殺にひとしい

と述べ、また經濟專門家として有名なムケルジー博士は、今回の大會は印度史上最も危機的時期に開催されたわけであるがこの最大の危機は印回兩教徒の結合による以外印度が自己の獨立と生得權を獲得することが出來ないと信じ込んでゐる偉大な指導者の一部によつて招來されたものであるとしてガンジー、ジンナー兩翁に痛烈な非難の矢を向けてゐる

一方回教徒の動きをみるならば十月一日ボンベイ州回教徒聯盟の運用委員會はボンベイ會談におけるジンナーの態度を全的に支持し、且つジンナーの指導權を完全に信賴する旨の決議を行ひ更に同委員會は今次會談について

九月二十四日附のガンジー翁の書翰において述べられてゐるラジヤゴパラチヤリ方式もガンジー翁自身の計畫も回教徒聯盟のラホール決議の趣旨に合致せず、反對に以上の二案はパキスタン要求の撃碎を意圖してゐるものであるとの見解を發表しガンジー翁の態度を非難してゐるのが注目される

回教徒の結束鞏固

印度教徒がガンジー翁の和協案について必ずしも一致してこれを支持せず寧ろ內部においてかなり强い反對意見が出てゐるのに反し回教徒內では結束してパキスタンの實現貫徹を要望してゐる點著るしい對照をなしてゐる、回教徒聯盟においてジンナーに次ぐ聲望を有すると稱せられる前ベンゴール州首相フアヅルル・ハクの如きもガンジージンナー會談の失敗によつて回教徒が偉大な機會を喪つたといふラジヤゴパラチヤリの聲明に反對の態度を表明した後十月十日近く回教徒各派代表を網羅する會議を開催し、印度の獨立並びに獨立に缺くことの出來ないパキスタン達成の最善の方法を協議決定することになつた旨述べてゐる

少數派の動き

十月十五日ジンナーが言明したところによれば西北國境州ベルチスタン、シンド、パンジヤブ、ベンゴール、アツサムの六州には七千萬の回教徒が住み以上各州の全人口との比率は七十パーセントに近いといはれ、回教徒聯盟はこれら六州を獨立國としようといふのであるが、この中には回教徒のほかに印度教徒、不可觸賤民等が三十パーセントを占めてゐるわけでかかる少數派は若しパキスタンが實現した場合どうなるか、ジンナーはこの點について「パキスタンは自由に對する要求にほかならず、パキスタン地帶における回教徒は眞の民主々義的民選政府を樹立し、同政府は階級、信仰の如何に拘らず全住民のために施策する」と說明してゐるが、回教徒の完全獨立を主張して止まないジンナーの態度から見て、彼のこの說明がそのまま他の黨派にうけ容れられるかどうか纏說の限りではあるまい

印度バルカン化の危險

十月十五日ラホールにおいて全印度シーク教徒大會が催されてゐるが、司會に當つたピトラム・シンは同席上シーク教徒と他の宗派との關係を說明して

印度が分割されずに一つであるならば印度教徒も回教またシーク教徒のいづれも優勢を持すことなく一宗派が他の宗派を支配出來ないやうな州を作るべきである、もしガンジー、ジンナーの兩者があくまで印度の二分を主張するならばシーク教徒もまた自己の傳統と歷史と文化とを有する故國を與へられることを主張する

と述べてをり、事態がもしかういふ方向に發展すれば印度のバルカン化は免れない、印度分割の危險を十分認識しながらも依然として排他性の强い印度の各派はボンベイ會談の決裂を契機として更に一層その矛盾を深めてゐるとの感が深い

資料

英國政府戰時加俸白書

「タイムズ」紙九月二十二日號

長期戰時勤務並びに東亞勤務の將兵に對する加俸に關する英國政府の白書

一、英國政府は一九四四年四月の白書——命令六五二一號——で發表された陸海空軍將兵並びに家族に對する俸給と手當の增額によつて、將兵一般の待遇は滿足すべき水準に引上げられたと思考する、しかし政府は最近現在の戰爭ですでに長期に亘り勤務した將兵並びに今後東亞で勤務せんとする將兵の取扱ひにつき考慮を加へてゐる、樞軸國との戰爭は敵を一國殘らず打倒するまで繼續さるべき努力の連續であり、從つて今後も多數の將兵が歐洲或ひは對日戰線で勤務する必要があらう、英國政府はそれ故長期勤務並びに東亞戰線勤務に對する特別の財政的恩典を戰時措置として提唱するに決した、以上の恩典は將兵の家族或ひは扶養者に對する援助もしくは家族或ひは扶養者を有する資格に對して與へられるものではなく、次の二部分に分れる

1、英本國或ひは英印軍の俸給規定による俸給の支給を受け、現在の戰爭に相當長期の勤務をなした陸海軍將兵に對する加俸で、戰時加俸の名稱を附す

2、東亞戰線勤務の將兵に對する加俸で、對日戰加俸の名稱を附す

戰時加俸

一、戰時加俸はあらゆる階級の兵及び陸海空軍少將以下の將校中、一九三九年九月三日以後既に三年間の勤務を完了したか、或ひは今後完了すべき者全員に支給される、本加俸は一九四四年九月三日以後完全に發效し次の率が適用される

（階級、戰時勤務が滿三年に達した後每週支給される加俸額、その後更に戰時勤務一年を增す每に每週追加支給される金額の順序）

兵曹及び軍曹より下級の下士及び兵、七志、三志六片

海軍兵曹及び兵曹長、陸軍軍曹以上の下士、十志六片、三志六片

陸海空軍少佐より下級の將校、十五志九片、五志三片

陸海空軍少佐以上の將校（但し陸海空軍少將より上級は除く）二十一志、七志

陸海空軍の女子將兵には男子の三分の二の加俸を支給する

對日戰加俸

一、東亞勤務の陸海空軍將兵で英本國俸給規定により俸給の支給を受けてゐる者には一九四四年十一月一日以後次の率で對日戰加俸を每週支給す

一等水兵及び伍長より下級の兵、七志

一等水兵及び伍長、八志九片

兵曹及び軍曹、十志六片

兵曹長及び曹長、十二志三片

准尉（一級及び二級）十四志

陸海空軍大尉以下の將校、二十一志

陸海空軍少佐、三十五志

陸海空軍中佐、四十九志

陸海空軍大佐及び代將、六十三志

將官以上、七十七志

對日戰加俸は勤務期間の長短に拘らず支給され、第二項の規定する戰時加俸に追加されるものである。

一、前述の對日戰加俸支給率は英印軍俸給規定による俸給の支給を受けてゐる陸空軍大尉以下の

昭和十九年十月廿四日(火)
第三二一九號
同盟通信 海外電報
(第三種郵便物認可)

將兵にも支給される、英印軍俸給規定による俸給の支給をうけてゐる陸空軍少佐以上の將校に對しては、右規定により十分特典を享受してゐると認めて、對日戰加俸は支給しない

一、陸海空軍の女子將兵に對しては男子の三分の一の割合で對日戰加俸を支給する

東亞手當

一、東亞勤務の陸空軍將兵の中、英本國の俸給規定による俸給の支給をうけてゐる者に對しては一九四四年十一月一日以後前線及び植民地手當の代りに免稅の特權のある手當を支給することとなつた、この手當は東亞手當と呼ばれ、左記の率によつて支給される、東亞手當は東亞で陸上に勤務する海軍將兵に對しても海軍植民地手當規定の適用されてゐる地域を除いて支給される

兵曹及び軍曹より下級、二志四片
兵曹及び軍曹、三志六片
兵曹長、曹長、四志一片
准尉(二級)、五志
准尉(一級)、九志
將校、二十一志

一、陸海軍女子將兵にも男子と同樣の率で東亞手當が支給される

一、東亞手當を含む以上の加俸の支給による效果は附屬表中の代表的實例によつて明示されてゐる(便宜上陸軍の支給率だけを引用した)

一、戰時手當査定に際しては今回決定された戰時加俸と對日戰加俸を大體現在の率で考慮し、必要な場合にはこれに調整を加へる

一、以上の手當增額に要する經費は一年に一億磅と推定される

附屬表

將兵及び家族の一週間の現金收入(英本國軍の俸給規定の適用を受けてゐる將兵の場合である)

(括弧內は戰時勤務年數)

獨身者

階級	現收入	本規定實施後收入
一等兵(三年)	一磅十三志三片	二磅三片
一等兵(五年)	一磅十三志三片	二磅七志三片
軍曹(三年)	二磅九志	二磅十九志六片
軍曹(五年)		
中尉(五年)	五磅一志六片	六磅七志九片
大尉(五年)	八磅十一志九片	
少佐(五年)	九磅十九志六片	十一磅十四志六片

本規定實施後の東亞勤務收入

一等兵(五年)	二磅十六志七片
軍曹(三年)	三磅十三志六片
軍曹(五年)	四磅四志
中尉(三年)	七磅八志九片
中尉(五年)	八磅九志九片
大尉(三年)	八磅十三志三片
大尉(五年)	九磅三志九片
少佐(三年)	十三磅十六志六片
少佐(五年)	十四磅十志六片

妻帶者 (子供二人の場合)

階級	現收入	本規定實施後の收入
一等兵(三年)	四磅四志六片	四磅十一志六片
一等兵(五年)	四磅四志六片	四磅十八志六片
軍曹(三年)	四磅十八志	五磅八志六片
軍曹(五年)	五磅一志六片	五磅十九志
中尉(三年)	八磅四志六片	九磅三片
中尉(五年)	八磅十五志	十磅一志三片
大尉(三年)	九磅二志	九磅十七志九片
大尉(五年)	九磅二志	十磅八志三片
少佐(三年)	十二磅十五志六片	十三磅十六志六片
少佐(五年)	十二磅十五志六片	十四磅十志六片

本規定實施後の東亞勤務收入

一等兵(三年)	五磅十片
一等兵(五年)	五磅七志十片
軍曹(三年)	六磅二志六片
軍曹(五年)	六磅十三志
中尉(三年)	十一磅二志三片
中尉(五年)	十二磅三志三片
大尉(三年)	十一磅十九志九片
大尉(五年)	十二磅十志三片
少佐(三年)	十六磅十二志六片
少佐(五年)	十七磅六志六片

右の數字には現金の代りに支給される物資その他現金以外の手當も含む

(本白書はこれと同時に發表された一部復員白書に付加される第二の白書である)

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月廿五日(水)　第三二〇號

同盟通信

海外電報

(245)

編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　電話銀座(57)一二〇〇番　同盟通信社

【目　次】

ド・ゴール政權を臨時政府として承認……二四六六
英國政府の公報……〃
ソ聯全的にド・ゴールを支持……〃
承認の實質的意義……〃
內部地帶の行政權……〃
佛政權對日義勇軍を徵募……〃
カレロ・フイン外相決定……〃
ドイツ「國民戰爭」に蹶起……二四六七
カイザー、米動員解除長官か……〃
駐英、米大使も歸國せん……〃
九月中の反樞軸向食糧供給量……〃
【米　國】
瑞典紙敗戰を指摘……二四六八
比島侵攻案構成……〃
【米　洲】
グワテマラ新政府の聲明……〃
【西　亞】
ソ聯紙イラン內閣を攻擊……二四六九
【友樞軸陣營】
三國首腦會談明年一月か……〃
波亡命政權を痛烈に非難……〃
【北　歐】
ソ芬兩國の友好關係を說く……〃
アイスランド新內閣の施政方針……〃
スエーデン國會開く……〃
【ド　イ　ツ】
戰費一千五百億マルク……二四七〇
【フランス】
現法王使節を承認……〃
【ヴアチカン】
對ソ友好關係樹立を要請……〃
【南　伊】
米英兩國大使派遣……〃
【軍事情報】
獨新兵器「機雷散設戰車」……〃
敵冬季戰用新兵器……〃
【特　輯】
ソ波問題の脚註……二四七一—二四七四
【資　料】
友樞軸聯盟案全文……二四七四—二四七九

世界の焦点

米・英は遂にド・ゴール臨時政權を承認した、十四日のド・ゴールの恐喝演說に周章したロシドン政府が、ワシントンを動かして、この擧のイニシアチーヴをとつたものと解される、ド・ゴールは十四日の演說で、西歐諸國がフランスを等閑視すれば、その結果についてフランスは關知せずといひ、フランス甦生の路は友邦に依賴することではなく、自力によるほか方法がないと國民に警告し、暗にイーデン外交の目論む西歐聯合を脫却して、ソ聯の懷に飛込みかねまじき氣勢を示した、さなきだに赤色勢力のフランス國內氾濫を氣に病んでゐた英國はひとたまりもなく、この恫喝の前に震へ上つた、米國としては、承認前に北阿との他に「取引」すべき利權の多くを持つてゐたが、英國の切なる要求の前に讓歩したといふところであらうジロー事件以來、フランスに關してもアメリカは再び英外交の前に屈したわけだ、承認に當りステチニアス國務次官が特に來るべきフランスの選擧のことに言及したのは意味なしとしないド・ゴールはこの選擧で敗れ去る可能が多分にあるのだ、パリは赤化しても、地方には尙健全なる農民層がある、二月に行はるべき選擧は必ずしも、フランスを赤化し去るとは考へられない、そこにアメリカは乘ずべき機會を待たうといふのだ、アメリカは、アメリカよりも英國に、英國がそつぽを向けばソ聯にと、とも角、米國を袖にしようとするド・ゴールの態度に嫌厭久しいものがあり、あはよくばこれをより保守自由主義的な勢力に代らせたい希望を抱くこと久しい、承認問題の形式は片付いたが米英ソ三國の對佛政策の根本には何の變化もない、問題はなほ將來に在る

ド・ゴール政權を
臨時政府として承認

（ストツクホルム二十三日發）米英ソ三國政府並びにカナダ濠洲政廳は二十三日ド・ゴールを首班とする「フランス國民解放委員會」をフランス臨時政府として承認した

英國政府の公報

（ストツクホルム二十三日發）ロンドン來電＝英國政府は二十三日ド・ゴール政權承認につき次の通り發表した

英國政府はド・ゴール政權をフランス臨時政府として承認し、同時に反樞軸軍司令官は當該フランス官憲との間にパリを含むフランス國の大半を移管する協定を遂げた、その結果フランス國内當該地區行政の運營並にその責任はフランス中央當局の管掌に歸し、中央當局は當該地區において政府の權限を效果的に行使する、英國政府は以上の情勢に鑑みフランス現政權をフランス臨時政府として承認し右基礎に立つて同政權を取扱ふことを妥當と決定した、以上の趣旨に基く通告が二十三日臨時政府に宛發出された

ソ聯全的にド・ゴールを支持

（モスクワ二十三日發）ソヴエト政府は二十三日ド・ゴール政權をフランス臨時政府として承認ボゴモロフ氏を外交代表に任命した旨發表したが同時にタス通信社は次の通り報道してゐる

ソヴエト政府は米英兩國政府から兩國とド・ゴール政權との間にパリを含むフランス内部地帶をフランスの行政治下におく協定が成立した旨通知に接した、民主主義フランスに對し終始一貫友好的な感情を抱いてゐるソヴエト聯邦は以上米英兩國政府決定を歡迎する、ソヴエト政府はフランス臨時政府の民主主義的基礎が强化され米英ソ三國が承認を與へる結果フランス國民の團結は一段と强化され戰爭を遂行するための國力動員に資することと確信する

承認の實質的意義（リスボン二十三日發）ド・ゴール政權承認の結果米國からはカフエリー、ソヴエト聯邦からボゴモロフ氏、英國からは恐らくダフ・クーパーが大使としてパリに派遣されることとなるう、米國政府の承認により早速問題になるのは獨佛兩國間の休戰協定以來米國内で凍結されてゐたフランス銀行の資金九億弗、民間資金一億弗、並びにマルチニーク島で米軍が押さへた六十億金フランの金塊で、フランス臨時政府は當然米國に對し引渡しを要求出來るわけである

内部地帶の行政權（リスボン二十三日發）ワシントン來電＝米國國務次官スチチニアスは二十三日午前記者團との會見で次の通り述べた

米國政府は今回ド・ゴール政權をフランス臨時政府として承認した、同政府は今後反樞軸軍が内部地區と指定してゐる全地域につき完全な責任を負ふわけである、いはゆる内部地域はパリを初め實戰場並びに兵站補給に給付必要な諸地點を除きフランス本國の殆んど全般に及んでゐる、ド・ゴール初め各要人は出來るだけ早く總選擧を施行する方針だと屢々言明してゐるが總選擧により民意が表明されるまで臨時政府は戰爭の遂行、フランスの復興について米國政府から引續き全的且つ友好的な協定を期待していい

佛政權對日義勇軍を徵募（リスボン二十三日發）パリ來電＝ド・ゴール政權陸軍省は對日戰のために義勇兵を徵募してゐる旨二十二日發表したが、差當り幹部軍を編成する意向であるといはれる

カレロ・フイン外相決定（ストツクホルム二十三日發）二十三日のモスクワ放送によればソヴエト聯邦カレロ・フイン共和國外務人民委員にヨシフ・イワノヴイツチ・チキヤイネン氏が任命されたといはれる

昭和十九年 十 月廿五日(水)
第 三 二 一 〇 號

同盟通信

海外電報

(第三種郵便物認可)

ドイツ「國民戰爭」に蹶起

(チューリツヒ二十二日發) ノイエ・チユーリツヒアー・ツアイツング紙のロンドン特電によれば英國刻下の關心はドイツ國民突擊隊の誕生に集中され、各紙とも社說で右の「銃後卽戰場」態勢をあれこれと忖度してゐると傳へられるが、ドイツの新總力動員措置によつて第二の七・二〇事件の勃發が全く不可能となつたといふ點で、いづれも意見が一致してゐると傳へられる、たとへば「デーリー・メール」紙は

アイゼンハウアーは反樞軸軍の作戰を有利とする反ナチ組織の存在を否定し、ドイツ國民が一人殘らず飽くまで抗戰に邁進する決意を固めてゐると確信してゐる

と報じて、ドイツ國內戰線崩壞のブロックを期待することが許されなくなつた事實を强調し、「マンチエスター・ガーデイアン」紙は

米英ソ三國が共同でドイツ國民に呼び掛けるのは今が最後の機會だ

と卽刻對策の樹立を慫慂してゐるが、反樞軸軍首腦部はその效果を疑問視して反樞軸軍の尨大な出血を覺悟してゐるやうだ、他方スイス紙軍事記者マルスは二十日「ドイツの時の戰ひ」と題する戰局論で、ドイツ國民突擊隊が遊擊戰を目的とするといふ一般の觀測を否定して次の通り論じてゐる

ドイツ國民突擊隊の結成は遊擊戰の展開を目的とするものでない、このことは過去の東部戰線乃至はフランス戰線と全く條件が異なることでも明瞭だ、ドイツは國民突擊隊の結成によつて國民が一人殘らず國土を防衞するための「國民戰爭」を組織したのであり、恐らくドイツ軍の抵抗は急角度に强化されよう

カイザー、米動員解除長官か

(リスボン二十三日發) ロンドン來電=「デイリー・エクスプレス」紙のニューヨーク特電は二十三日次の通り報じてゐる

米國政府は軍需產業再轉換の指導機關として戰時動員局を改組「戰時動員餘剩物資處分局」を新設したが、その長官には戰時造船王ヘンリー・カイザーが任命されることとならう、カイザーは旣に大統領ルーズヴエルトに對して戰爭終了後の軍需產業の再轉換に關し詳細な具體案を提出してゐるといはれるが、この案によれば再轉換過程における政府の援助は最少限にとどめ民間の大企業が軍需工場を漸次買收してゆかうとするもので、米國の有數な工業家數名もカイザー案を支持してゐる模樣である

一方「デイリー・テレグラフ」紙はカイザーが米國の產業再轉換の衝に當ることとなつたとの報道に對し要旨左の論評を加へてゐる

カイザーがその衝に當れば、米國の軍需產業再轉換工作は相當急速に進展することが豫想されこの結果、英國の產業が再轉換を完了して平和物資を生產する頃には全世界の市場には米國商品が洪水のやうに流れこんでゐることとならう

駐英、米大使も歸國せん

(リスボン二十三日發) ワシントン來電=モスクワ駐劄米國大使ハリマンは二十一日突然「本國政府と打合せのため」と稱してワシントンに到着したが、米國政界消息筋のもらすところによればロンドン駐劄米國大使ワイナントも近く歸國することとなつたといはれる、兩大使の歸國に關し消息筋の觀測によれば、大統領ルーズヴエルト及び國務長官ハルはスターリン、チヤーチル兩者のモスクワ會談の結果に照らし、米國の歐洲問題に對する根本方針を決定する重大協議を行ふ意向であるといはれる

九月中の反樞軸向食糧供給量

(リスボン二十二日發) ワシントン來電=米戰時情報局は武器貸與法に基く九月中の反樞軸各國向食糧供給數量について次のやうに發表した

米國は武器貸與法に基き九月中に各反樞軸國へ五億四千五百萬ポンドの食糧を供給したが、この內英本國並びに屬領へは三億一千五百萬ポンドを供給した、その主なものはラード五千萬ポンド、罐詰肉一億八千九百萬ポンドおよびバター、チーズ等の酪產物一億五千百萬ポンドなどである

【米　國】

瑞典紙敗戰を指摘

（ストツクホルム二十一日發）瑞典紙「ターグスポステン」は十九日の紙上に臺灣沖航空戰に關して「太平洋における米軍の頓挫」といふ見出しの社說を掲げてゐるが、その内容は次の通りである

臺灣での戰鬪が本格的段階に入るまでにかなりの時間を要したことは確かである、だが米太平洋艦隊が重大障碍に遭遇したといふことは否定出來ない、右戰鬪に關する米國側の報道が逡巡回避的態度をとつてゐることからみても米軍の敗戰は歷然たる事實だ、米國は日本々土に對して直接攻擊を加へ得る時期が熟したものと考へて大膽にも臺灣攻擊を行つたのであるが、この大膽な作戰のために評判を失墜し、恐らく再び「島傳ひ作戰」に移ることにならう、しかし、「島傳ひ作戰」は決して勝負を決定するものとはなり得ず、かつ米國が如何に物量を誇つてゐるにしても結局は米國にとつて犧牲の多きものとなるであらう

また臺灣攻擊は重慶の惱みを救ふためにも行はれたとも考へることが出來る、卽ち支那大陸においては米空軍の諸基地が次々に掃蕩されてをり、他方中支から佛印、ビルマへの陸上連絡をつけようとする日本軍の意圖は目鼻がつき出したといふのが支那における實情であり、重慶軍は支那事變開始以來最も暗憺たる前途に惱まされてゐる、以上の如き實情を米國民に知らすことを回避せんとしてゐるのは一に大統領選擧戰に及ぼす影響を慮つてのことである

比島侵攻軍構成

（リスボン二十二日發）マツカーサー司令部からのAP電報によれば、司令部當局は二十二日比島侵攻軍の指揮官名を次の通り發表した

△地上軍司令官

陸軍大將　ウオルター・クリユーガー

第十軍司令官

少將　フランクリン・C・セビツツ

第二十四軍司令官

少將　ジヨン・R・ホツヂ

第三水陸工兵旅團長

代將　ウイリアム・シーヴイ

第一砲兵師團長

少將　ヴアーン・B・ハート

第七步兵師團長

少將　アーチボルド・V・アーノルド

第二十四步兵師團長

少將　フレデリツク・A・アーヴイング

第九步兵師團長

少將　ジエームズ・L・ブラドレー

△海上部隊

第七艦隊司令官

中將　トマス・C・キンケード

第三艦隊司令官

大將　ウイリアム・F・ハルゼー

濠洲戰隊司令官

代將　ジョン・A・コリンズ

△空軍

米陸軍極東航空隊司令官（濠洲空軍を含む）

陸軍中將　ジョージ・C・ケニー

第三艦隊空母群司令官（第五十八機動部隊司令官）

海軍中將　マーク・A・ミツチヤー

△水陸兩用作戰司令官

海軍少將　ダニエル・C・バーベイ

海軍少將　シオドー・S・ウイルキンソン

【米　洲】

グワテマラ新政府の聲明

（リスボン二十二日發）グワテマラ市來電＝グワテマラ新政府の外務省はメキシコ駐劄大使に對し左の聲明を通告したが、これが新政府最初の公式聲明である

二十日に勃發した革命運動は數時間にしてポンセ内閣を降伏せしめ、フランシスコ・アラナ少佐、ヤコボ・アルベンス大尉及びホルヘ・トリエロを首班とする革命軍部内閣は大權を接收した

昭和十九年十月廿五日(水)
第三二二〇號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【西亞】

ソ聯紙イラン内閣を攻撃

（ストックホルム二十二日發）イラン政府は石油利權に關するソヴエト政府の交涉申入れを一蹴したが、モスクワ來電によればソヴエト勞働組合機關紙「トルード」は二十二日イラン内閣を攻撃次の通り述べてゐると傳へられるイラン政府は國内における民主々義組織並びに勞働團體の解放を企圖し、フアシスト分子の强壓を敢てせず、自國がソヴエト聯邦への補給路として樞要な地位を占めてゐるに拘らず交通線を攪亂する不逞分子の取締りも出來ない、且つイラン、ソヴエト聯邦並びに英國間の條約に基く責務を忠實に履行しようとする官吏を迫害してゐる現内閣の施策はイラン國民の利益に反するので國内に首相マハメツド・サイドの辭職を要求する聲が高いイラン政府が石油利權の交涉を拒否した背後に、アングロ・イラン石油會社乃至英國政府の手が動いてゐるかどうかは判明しないが、イランは歷史的に英ソ兩國の勢力が交錯する地點だけに「トルード」紙の主張は英國政界筋に少からず衝撃を與へてゐる樣子だ

【反樞軸陣營】

三國首腦會談明年一月か

（リスボン二十二日發）ダンバートン・オークス會談は國際紛爭處理に關する票決方式問題で米英兩國とソ聯との意見が眞向から衝突したため遂に流産となつたが、ワシントンからのUP電報によれば同會談に出席した米國政府一高官は二十二日右票決方式につき米英ソ三國間に早急に意見が纏まらぬ限り、ルーズヴエルト、チヤーチル、スターリン議長の會談は明年一月まで延期されるだらうと述べたといはれる

波亡命政權を痛烈に非難

（ストックホルム二十一日發）モスクワ會談はロンドンの亡命ポーランド政權とルブリン政權との妥協案に關する限り何等建設的な決定に達しなかつた模樣だが、ロンドンからのAP電報によれば、ルブリン政權下のポーランド人は二十一日ルブリンにおいて國民大會を開催、ロンドンの亡命政權を痛烈に非難して「ミコライチクを首班とする所謂ポーランド政府」はポーランド解放地區において「犯罪的テロ行爲」を煽動してゐる旨の決議を採擇、而も以上の大會の模樣がモスクワのラジオを通じて報道されたといはれ、兩政權の對立の解消は急速には期待し得ないことが益々明らかとなつた

【北歐】

ソ芬兩國の友好關係を說く

（モスクワ二十二日發）今回フインランド元首相パーシキヴイを委員長として「フインランド、ソヴエト聯邦」協會が設立されたがタス通信社は二十二日パーシキヴイ委員長の次のメツセーヂを發表した

相隣接するソ芬兩國が今後飽くまで緊密な提携の下に極めて友好的な關係に入ることを要望する、フインランド國民は全世界の平和並びに秩序の確立を目的とするソヴエト聯邦の武力鬪爭を逐一見守つてゐる

アイスランド新内閣の施政方針

（ストックホルム二十二日發）レイキアヴイク（アイスランド）來電＝アイスランド新首相オラフール・トールスは二十一日アイスランド議會に臨み次の施政方針を闡明した

一、アイスランド獨立維持のため友好諸國家との間に緊密な協調關係、特にスカンヂナヴイア諸國と緊密なる關係を維持し文化財を交換する

一、國力の增强、漁業船團の再建、外國信用による機械類の購入

一、勞働條件の改善による罷業並びに失業の阻止

議會は五十二票の内三十二票の贊成投票で政府を信任した

スエーデン國會開く

（ストックホルム二十二日發）スエーデン政府は十月三十日外交政策討議のため國會を召集する旨發表した

【ドイツ】

戰費一千五百億マルク

（ベルリン二十二日發）「バンクヴイルト・シヤフト」誌は二十二日の誌上では開戰五年のドイツ戰時財政に關してつぎの通り述べてゐる

八月三十日をもつて終る一年間のドイツの支出總額は一千五百億マルクで前年度に比し十三%の增加である、しかし兵器生產費は可成り減少してゐるので支出總額による實際の購買力、卽ち兵器生產高は前年度に比し支出額に現れたところよりも增加が一層大きい、當局筋のもらすところによれば、ドイツ軍が占領地區から撤收した結果これら地區の建設工作に要する支出は激減したといはれる、以上の支出に對し歲入の四十四%は稅收並びに經常收入によつて賄はれてゐるが開戰以來の公債發行額は三千百五十億マルクに達し、うち三分の二は短期公債である

【フランス】

現法王使節を承認

（リスボン二十日發）パリ來電＝ド・ゴール政權は先にフランス主席ペタン元帥に信任狀を捧呈したパリ駐劄ローマ法王使節マグ・レヴアレリイ師を正式に法王使節として承認する旨二十日發表した

【ヴアチカン】

對ソ友好關係樹立を要請

（リスボン二十日發）ソヴエト政府とローマ法王廳の關係は最近頓に惡化してゐるが、ヴアチカン市來電によれば、樞機官ドーハーテイは法王ピオ十二世に謁見の際ルーズヴエルトは余に對し「法王廳がソ聯と協約を結ぶことを希望する、ヴアチカンとクレムリン間の關係が平常に復することは反樞軸にとつて最も歡迎すべきことである」と言明したと述べ、ソヴエト政府との友好關係樹立を要請したといはれる

【南伊】

米英兩國大使派遣

（リスボン十九日發）ローマ來電によればボノミ傀儡政權は十九日次の外交代表を任命したロンドン駐劄大使カラデイニ
ワシントン駐劄大使スフオルツア伯

【軍事情報】

獨新兵器「機雷敷設戰車」

（ベルリン二十日發）ドイツ戰車新兵器の花形たる電波操縱「ゴリアート」豆戰車は過般來西部戰線で反樞軸軍を盛んに惱ましてゐるが更に强力な戰車新兵器が突如戰場に出現反樞軸軍に大恐慌を捲き起してゐることが明かにされた、二十日のドイツ軍機關紙「フロント・ウント・ハイマート」（前線と銃後）に揭載された記事によれば、この新兵器は「B四」と名付けられ「ゴリアート」が電波で操縱されて目標に接近、戰車諸共爆發するのに對し「B四」戰車は目標まで一名の操縱士によつて操縱され、目標前面で操縱士は戰車を脫け出し、その後は電波操縱で目標に到達すると函型の機雷を放出した後、煙幕を張りながらドイツ軍陣地に獨りでに戻つて來る仕掛になつてゐるといはれる、電波操縱「B四」機雷敷設戰車の爆發物搭載量は「ゴリアート」よりも遙かに多いので、この新銳器は特火點、防壁等敵の堅固な要塞施設の破壞に主として使用されてゐるといふことだ

敵冬季用新兵器

（リスボン十九日發）前線報道によれば西部戰線の反樞軸軍はきたるべき冬季作戰に備へ天候、地形の如何なる惡條件をも克服出來る諸兵器を準備してゐるといはれるが、この中には無限軌道で移動する二百四十粍迫擊砲、列車砲以外未だかつて移動し得なかつた最大の重砲、時速五十乃至六十哩の高速度七十六粍對戰車砲、九十粍對戰車砲、百五十五粍自走長距離砲等が含まれてゐる

昭和十九年 十月廿五日(水)
第三二二〇號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

ソ波紛爭への脚註

原子林二郎

ポーランド國民解放委員會の顏觸れ

ポーランド國民評議會をソヴエト聯邦の最高會議に擬へるならば、ポーランド國民解放委員會はさし詰め人民委員會議だ、前者が立法機關で後者が行政機關であることも、ソ聯の最高會議と人民委員會議の關係と同樣だが、ポーランド國民解放委員會がモスクワに創設されたポーランド愛國者聯盟の發展的解消したものであり、ソヴエト政府はこれをポーランドの正統の臨時政權と見做して外交代表を交換し、解放委員會は初めヘウムに本據をおいた後ルブリンに移り、いづれはワルシヤワに歸るといふこと以外、委員會の顏觸れも經歷もあまり知られてゐない、袖にされたロンドンのミコライチク政權は通稱ルブリン政權をボリシエヴイキーの巢窟と罵つてゐるのに對し、ソ聯側は共產主義者は三名しかゐない筈だと渡り合つてゐるが、ポーランド國民解放委員會の性格を知るためには、委員會を構成する人物とその經歷を知ることが一番近道だ、以下米英ソ各國の定期刊行物に散見する報道を綜合して、ポーランド國民解放委員會の性格を檢討してみよう

議長兼外務委員エドワルド・ボレスラフ・オスープカ＝モラフスキーはポーランド國民評議會の議長代理で、ポーランド社會勞働黨中央委員會議長だ、モラフスキーは生粹の勞働者出身だが、彼の祖父は一八六三年のポーランド獨立のための蜂起に參加父は一九〇五年の闘爭に參加してゐる、モラフスキーは初め工場で働いてゐたが、後にポーランド自治機關の事務員となり、ポーランド社會黨ラドム管區委員會の一員に選ばれ、ついでワルシヤワに移つて勞働者大學聯盟の幹部となり、傍らワルシヤワ協同組合を指導してゐた、また雜誌「勞働者生活」や「農民の眞理」等の寄稿者であつたが論說ばかりでなく「協同組合組織に基くポーランドの補給」と題するパンフレットも書いてゐる、一九三九年九月ポーランド戰の勃發當初、モラフスキーはワルシヤワ防衞に挺身參加して、ドイツ軍と戰つたが、ポーランド崩壞後は地下に潛つてポーランド社會黨領袖ネジヤルコフスキー、バルリツキー、デュブワ等の創設した「自由の防塞團」(現在のポーランド社會勞働黨の前身)の指導者の一人となつた、一九四〇年ネジヤルコフスキー等が逮捕された後はポーランド社會勞働黨の中央委員會議長に選ばれ、地下機關紙「勤勞者」(Robotnik)の編輯に携はり、ポーランド國民評議會が創設されるやその幹部會の一員となつた

議長代理兼農業並びに農地改革委員アンドレイ・ヴイトスは多年に亘つて農民黨「ストロンニツトヴオ・リユドーヴオ」を指導、同黨の幹部となり、一九二二年から一九二七年まで五年の間ポーランド議會に議席を占めてゐた、彼はポーランド農業組織及び協同組合の活動分子で、一九四三年以來モスクワのポーランド愛國者聯盟の幹部會員に選ばれその議長代理を勤めてゐた、彼はまた「ストロンニツトヴオ・ルユドーヴオ」黨の指導者で元ポーランド首相のヴイケンチイ・ヴイトスの弟だ

議長代理ヴアンダ・ヴアシレフスカヤは有名なポーランドの閨秀作家で、傑作「虹」は一九四三年度のスターリン文學賞の第一位を獲得した、他に「沼上の炎」、「輒をはめられた土地」等の作がある、彼女は元ポーランド外相レオン・ヴアシレフスキーの娘で、社會黨の幹部會員、ポーランド愛國者聯盟の發起人の一人で、ソヴエト聯邦内のポーランド軍の編成に積極的に參加した、ウクライナ人の戲曲作家でソ聯邦外務人民委員部次長からウクライナ共和國の外務人民委員となり、現在同共和國の藝術委員會議長であるアレクサンドル・コルネイチユークの妻である

ポーランド國民軍總司令官兼國防委員ミハイル・ローリヤ・ジミエルスキー大將 は本年五十四歲、一九一一年から一九一四年までの間にポーランド國民狙撃兵部隊を組織し、一九一四年には大尉としてポーランド軍團に勤務した、中佐時代のジミエルスキーはピウスズキーの獨裁合作に反對ガルレル將軍と共に第二旅團を指揮して獨裁軍と戰ひ、ウクライナの獨裁軍戰線を突破した後にポーランド第二軍團を編成してその參謀長となりカーネフでドイツ軍と戰つた、大佐となつたジミエルスキーは步兵第二旅團長次いで步兵第二師團長となり、パリーに遊學してフランス陸軍大學を卒業、フランス陸軍參謀本部附となつて研鑽を積んだ、一九二四年當時の陸相シコールスキー將軍の知遇を得て陸軍省兵器航空機局長第一代理に任命され、一九二四年十一月には少將に進級した、一九二六年のピウスズキー革命にはポーゼン聯隊を率いてピウスズキー軍と戰ひ、革命成功後は他の五名の反對派將官と共に逮捕されて五年の刑に處せられた、刑期を終へると、ジミエルスキーはフランスに亡命したが、一九三九年のポーランド戰勃發直前に祖國に還り、ポーランド防衞戰に參加した、九月の敗戰後は地下に潛つてポーランド下士官同盟を組織して遊擊戰を展開、一九四三年初めには國民親衞隊に加盟して、指導部の一人となつた、ポーランド國民評議會が創設されると、國民親衞隊、農民大隊、國民兵部隊を打つて一丸とするポーランド國民軍が組織され、ジミエルスキーはその司令官に任命された、ローリヤは地下遊擊活動當時の匿名である

國防委員代理ジグムンド・ベルリング中將 はソ聯におけるポーランド第一軍司令官である、舊ポーランド軍參謀本部付將校から步兵第十五師團參謀長となり、一九三九年九月後はソ聯領内でタデウシヤ・コスチユシユコ師團を組織、次いでソ聯内のポーランド第一軍司令官となつた

內務委員スダニスラフ・コテク＝アグロシエフスキー はストロンニツトヴオ・リユドーヴオ黨の領袖で農業學者、農民青年團の組織者として知られてをり、一九三九年後はワルシヤワ管區のストロンニツトヴオ・リユドーヴオ黨支部長で、ポーランド國民評議會議員である

司法委員ヤン・チエホフスキー は一九一六年農民黨ヴイズオレー・ニエを創設、後にストロンニツトヴオ・リユドーヴオ黨と合併した、彼はまた一九一八年にルブリンにおいて最初のポーランド政權を樹立、ヴイズヴオレーニエ黨を代表して國會議員となつた、ポーランド國民評議會議員である

勞動保護・社會保險委員ボレスラフ・ドロブネル はポーランド社會黨創立以來の黨員、幹部會を代表して第二インターナショナルの議員であつた、また多年の間クラカウ市會議員を勤め、一九〇五年の革命運動に參加して、長期間獄舍に呻吟した

國民經濟財政委員ヤン・ステフアン・ガネマン は經濟學者で、知的勞働者組合長及び自由思想家聯盟の議長を勤め、一九三九年後は地下に潛つて暗躍した、ポーランド社會勞働黨中央委員でポーランド國民評議會議員である

社會保安委員スタニスラフ・ラドキエヴイツチ は教育者であつたが、勞働者運動に參加して二再ならず逮捕監禁の憂目をみた、一九三九年以後はソ聯領内のポーランド軍砲兵第二聯隊長代理として軍務についてゐた

教育委員スタニスラフ・スクシエシエフスキー は哲學博士で有名な教育學者、一九三九年まではポーランド教育者同盟の指導的地位にあり、後にポーランド愛國者聯盟の委囑でソ聯内にポーランド學校網を組織した

交通委員ヤン・ミハイル・グルベツキー は鐵道技師、一九三九年までは鐵道省の中樞的地位にあつてセルペツ＝トルン、ラジヴエ＝プロツク鐵道等の敷設を監督した、彼はまたポーランド技術家聯盟の幹部で、第一回ポーランド鐵道技術員會議の發起人であつた

文化藝術委員ウインツエントウイ・ルジモフスキー はポーランド民主々義言論界の大御所、一九一六年にドイツ占領軍にたいする宣傳活動を行つた廉で、ハンノーヴア附近の捕虜收容所に拘禁され、

昭和十九年十月廿五日(水)
第三二二〇號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

一九一八年祖國に還へるや、ワルシヤワ及びロツヅの民主々義新聞の寄稿者となり、一九二三年から一九二七年までポーランド新聞の特派員としてイタリアで活動した、一九二七年國外追討の厄に遭つてポーランドに還つて後はリツヅ＝スミグリヤベーク一派の政策に反對、ドイツ軍のポーランド占領後はクレメネツ市で二度逮捕されてゐる

戰爭損害補償委員エミール・ゾンメル、シタイン博士は法律學者、多年の間ルヴオウの辯護士會長代理およびワルシヤワの辯護士會議員であつた、また舊國會議員で、上下兩院猶太人議員團を主宰し、立法、農業、行政、文教等の分科委員で一九二七年末までは下院立法委員長の地位にあつた

情報宣傳委員ステフアン・エンドルイホフスキー博士はポーランド學生聯盟左派の指導者、大尉としてタデウシヤ・コスチユーシユコ師團に勤務してゐた、反ピウスズキー派の雜誌「ポプロストウ」の發行人である

2 二つの憲法

ソ聯の屈押しするルブリン政權とロンドンの亡命政權の反目抗爭は世界觀の根本問題に根差すものだが、形式的には一九二一年のいはゆる「共和國憲法」と一九三五年のピウスズキー憲法の對立として現れてゐる、ソ聯紙や米英兩國の報道機關は一九二一年の憲法を「民主主義憲法」と稱し、一九三五年の憲法を「フアシスト憲法」とあつさり片付けて、兩者の相違については殆んど觸れてゐないため、一體ルブリン政權とロンドン政權との間の憲法を繞る係爭點が奈邊にあるかが明かにされてゐない、しかも兩者の憲法の相違點を理解することは、ソ波紛爭を理解する上に是非とも必要なことである

一九二一年の憲法はヴエルサイユ條約の結果新たに誕生したポーランド共和國の初めて制定したもので、同憲法は市民の權利即ち言論、出版、結社の權利を規定し、普通、直接、平等の選擧權と非公開投票による上下兩院の選擧を決定してゐる また、大統領は憲法によつて制限された權利を附與され、內閣は議會に對して責任を負ふこととなつてゐる、しかるに一九二六年のクーデターに成功したピウスズキーは議會を「賣春婦の井戸端會議」と罵り、一九三五年に新たな憲法を制定したこれが有名なピウズズキー憲法だ、この憲法によれば政府は全然議會に對して責任を負ふ必要がなく、國家權力の一切は大統領の手中に掌握されることになつてゐる、たとへば第二條には

大統領は神と國家の運命を綴る歷史に對してのみ責任を負ひ、單一不可分の國家權力を掌握する

とある

また議會と政府は大統領に從屬することに規定され、第三條によれば

大統領を首班とする國家機關は政府、下院、上院、武裝兵力、裁判所、國家統制機關等であるといふことになつてゐる、また大統領の選擧にしても一般民衆の選擧によらず、まづ八十名の選擧人が特別會議を開催して大統領候補を選ぶことになつてゐる、大統領の年期は七年だが、その時の大統領が大統領候補を忌避する場合には、他に候補を指名し、以上の兩候補に對して選擧が行はれる、更に下院議員候補は管區選擧委員會によつて指名される段取だ

以上に述べたごとく一九二一年の憲法は國會の普通選擧と國會に對する大統領の從屬を規定してゐるが、一九三五年の憲法は國會の指命選擧と大統領の獨裁權を規定してをり、結局議會はあれどもなきが如き狀態におかれる譯だ、ルブリンポーランド國民解放委員會は設立後逸早く一九二一年の憲法復活を宣言し、一九三五年の獨裁憲法を國是とするロンドンの亡命ポーランド政權を攻擊したが、ミコライチクは去る八月末スターリン議長の手許に屆けたソ波紛爭解決に關する覺書で、ポーランド解放後國會が開催されるまで一九三五年の憲法廢止の件を留保することを提案した、これに對し「プラウダ」紙は

ミコライチク政權が卽時一九三五年の憲法を廢棄しない限り、ソ波紛爭の解決は不可能だ

と論じ、依然一九三五年の憲法はソ波兩國の係爭點として止まつてゐる、今回のモスクワ會談でも當然憲法問題が持ち出されるであらうが、ミコライチク政權にとつては一九三五年の憲法を否定することは政權そのものの存在を抹殺する自殺行爲に等しいから、簡單にソ聯側の要求に屈するわけには行くまい、またたとへソ聯の要求に膝を屈して一九三五年の憲法を廢棄しても、ルブリン政權の存在する限り、ミコライチク政權の割り込む隙はない、いづれにしてもミコライチク政權の運命は既に決してゐるといふべきだ



反樞軸聯盟案全文

反樞軸國の名前の下に國際機構が樹立さるべきである、しかしてこの機構の憲章は次に述べる各提案の趣旨を具體化するに必要な諸規定を含むべきである

第一章　目　的

本機構の目的次の通り

（一）　國際平和並びに安全の維持、しかしてこの目的のために、平和に對する脅威の防止並びに除去及び侵略行爲あるひは平和に對するその他の破壞行爲の抑壓に必要な有效なる集團的措置をとること、並びに平和の破壞に導く俱ある國際紛爭の調整乃至は解決を平和的方法によつて實現すること

（二）　諸國家間の友好的關係を促進すること、並びに世界平和を强化するためにその他の適切なる措置をとること

（三）　國際經濟、社會及びその他の人文的諸問題解決のため國際協力を達成すること

（四）　以上の共同目的達成のための諸國家の活動を調整、統合する中心をつくること

第二章　原　則

第一章に述べた諸目的達成のため組織さるべき機構並びにその加盟國は次の諸原則に從つて行動すべきである

（一）　本機構はあらゆる平和愛好國の主權平等の原則にその基礎をおくべきこと

（二）　加盟國の全部に對しては、加盟國としてのあらゆる權利と利益とが保障さるべく、これがために全加盟國は本機構の憲章に從ひ彼等に課せられたる義務を履行すること

（三）　全加盟國はその紛爭を、國際平和及び安全が脅やかされぬやうな平和的方法をもつて解決すること

（四）　全加盟國は國際關係において本機構の目的と合致しないやうな方法をもつて武力による脅威乃至はその使用のごときは愼しむこと

（五）　全加盟國は本機構がその憲章の定める規定に從ひ如何なる行動を起した場合も、これにあらゆる援助を與へること

（六）　全加盟國は本機構が或國家に對して豫防的乃至制裁的行動をとつた時には、この國家が如何なる國であつても、これに對して支援を與へるごとき行動を愼しむこと、本機構は非加盟國といへども、國際平和及び安全の維持に心要と思はれる限り、以上の諸原則に從つて行動するやう取計ふこと

第三章　加　盟　員

本機構にはあらゆる平和愛好國が加盟し得る

第四章　主要機關

（一）　本機構はその主要機關として次の諸組織を持つ

A　總會

B　安全保障理事會

C　國際司法裁判所

D　書記局

（二）　本機構は更に必要と思はれる補助的機關をも設置す

昭和十九年 十月廿五日(水)
第 三 二 二 〇 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

第五章 總會 General Assembly

第一項 構 成

加盟國は全部總會の會員たるべく、會員國は憲章において規定された數の代表を總會に出席せしむ

第二項 機能及び權限

(一)總會は加盟國の一國乃至數國或ひは安全保障理事會により提起された國際平和及び安全維持のための協力の一般的諸原則を審議し得る權限を有す、しかして總會はこれら諸原則について勸告を行ふ、更に具體的行動をとることが必要な問題は、總會がこれを審議する前か後にこれを安全保障理事會に廻付す、安全保障理事會がとりあげてゐる國際平和及び安全維持に關する問題に對しては、總會はその發意に基づき勸告を行ふことを得ない

(二)總會は安全保障理事會の勸告に基づき新加盟國の入會を認める權限を有す

(三)安全保障理事會が豫防乃至制裁措置をとつた加盟國に對しては、總會は理事會の勸告に基づき、右加盟國としての權利乃至特權を行使することを停止し得る、しかしこの停止された權利乃至特權も、安全保障理事會の決定によつては再び回復され得る、更に總會は、安全保障理事會の勸告に基づき、本機構の規定を屢次にわたり蹂躙する加盟國をこの機構より除名することを得る

(四)總會は安全保障理事會の非常任理事國並びに第九章に規定された經濟社會理事會員の選擧を行ふ、總會はまた安全保障理事會の勸告に基づき書記局の事務總長をも選擧する權限を有す、總會は更に國際司法裁判所の規定に從ひ、同裁判所の判事をも選出す

(五)總會は本機構の要する費用を加盟各國に割當つべく、更に本機構の豫算を承認する權限を有す

(六)總會は政治、經濟、社會の分野における國際協力を促進し、一般的福祉に支障を與へるごとき事態を調整するため、各種の研究を行ひかつ勸告をなす

(七)總會は本機構との間に協定を締結した國際經濟、社會その他機關との事業の統合、調整につき、協定の規定に基づき勸告を行ふ

(八)總會は安全保障理事會からの年報及び特別の報告並びに本機構のその他機關からの報告を接受し、これを審議す

第三項 投 票

(一)本機構の全加盟國は總會において各一票宛の投票權を有す

(二)總會の重要なる決定、卽ち國際平和及び安全維持に關する勸告、安全保障理事會の非常任理事國選擧、經濟社會理事會員の選擧、新加盟國の入會許可、加盟國の權利及び特權行使に對する停止處分、加盟國の除名並びに豫算關係事項等は總會出席者の三分の二以上の贊成投票を要す、その他の問題については、總會の決定は單に過半數の投票により行はれる

第四項 手 續

(一)總會は年一回定期的に開催さるべく、また必要な場合には臨時開催さる

(二)總會はその手續に關する規定を自ら決定すべく、また每會期每にその議長を選出す

(三)總會はその機能發揮のために必要と思はれる團體及び機關を設置する權限を有す

第六章 安全保障理事會 Security Council

第一項 構 成

安全保障理事會は本機構加盟國のうち十一ケ國代表十一名をもつて構成さる、米國、英國、ソヴエト聯邦、重慶共和國及び將來フランスの五國代表が常任理事の椅子を占める、一方總會は非常任理事の椅子を占むべき他の六ケ國を選出す、これ等の六非常任理事國は二年の期間をもつて選出され、每年三國が遂次更迭す、任期滿了せる非常任

理事國を引續き再選することを許さず、第一回の非常任理事國の選擧において總會は三國を一年の任期をもつて、他の三國を二年の任期をもつて選出す

第二項　主要機能及び權限

（一）本機構が急速かつ有效な行動をとり得ることを確實ならしめるため、加盟國は本機構の憲章に基づき、安全保障理事會に對して國際平和及び安全維持の主要責任を與へ、同時にこの責任に基づき理事會がその義務を履行する場合は加盟國を代表してこれを行ふものなることに同意す

（二）安全保障理事會がその義務を履行する場合には、本機構の目的及び原則に從つて行動するを要す

（三）安全保障理事會がその義務を履行するため附與された權限の詳細は第八章において後述するであらう

（四）全加盟國は安全保障理事會の決定を受諾し、本機構憲章の規定に從ひその決定を實施する義務を有す

（五）世界の人的、物的資源を軍備のために消費することなくして、國際平和及び安全の樹立並びに維持を促進するため、安全保障理事會は、第八章第二項（九）で述べる軍事參謀委員會の援助を得て加盟國に提示さるべき軍備統制機構樹立案を作成する義務あり

第三項　投票

（注意）安全保障理事會における投票手續は今なほ審議中である

第四項　手續

（一）安全保障理事會は連續的に活動し得るやう組織さるべく、理事國代表は本機構の本部に恒久的に常駐す、理事會はその任務の遂行に最も便利を得ると判斷した場合には、本部以外の地においても開催することを得る、理事會は定期的に會合を開き、この會合には各理事國はその希望に應じ、理事會正式代表以外の特別政府代表をも出席せしめ得る

（二）安全保障理事會はその機能の發揮に必要と思はれる時、軍事參謀委員會の地域的分科委員會その他の團體乃至機關を設置する權限を有す

（三）安全保障理事會は理事會議長選出の方法を始め、理事會の手續に關する規定を決定す

（四）あらゆる加盟國には、安全保障理事會に提起された問題につき、理事會がこの問題がある加盟國の利害に特別關係ありと認めた場合は、この問題の討議に參加する權限あり

（五）安全保障理事會に議席を持たぬ加盟國、更に加盟國でない國家と雖も、理事會の審議に付された紛爭の當事國たる場合は、理事會はこの國家を右紛爭と關係ある討議に參加するやう招請す

第七章　國際司法裁判所

International Court of Justice

（一）本機構の主要司法機關として、國際司法裁判所を設置す

（二）國際司法裁判所は本機構の憲章に附屬しその一部をなす構成規定に從ひ組織され、機能す

（三）國際司法裁判所の構成は

A　常設國際裁判所の構成に必要な修正を加へてこれを踏襲するか

B　常設國際司法裁判所の構成を基礎として新たな構成を作成するか

そのいづれかによる

（四）全加盟國は加盟國たるの事實により自動的に國際司法裁判所機構の一員たるものとす

（五）加盟國でない一國が國際司法裁判所に參加する場合、この條件は安全保障理事會の勸告に基づき決定す

第八章　侵略の防止及び抑壓をはじめその他國際平和及び安全を維持する方法

第一項　紛爭の平和的處理

（一）安全保障理事會は如何なる紛爭、或ひは國際衝突に導き乃至は紛爭を招來する惧れある事

態に對して、かかる紛爭、事態の繼續が國際平和及び安全の維持を脅やかす惧あるや否やを決定するために、これを調査する權限を有す

(二)、加盟國、非加盟國の別を問はず、如何なる國家と雖も、右のごとき紛爭事態を總會乃至安全保障理事會に提起し得る

(三)、國際平和及び安全の維持を脅やかす惧あるごとき紛爭の當事國は、先づ第一に交渉、調停妥協、仲裁、司法的解決或ひは當事國の欲するその他如何なる平和的方法によつても、紛爭の解決を期する義務あり、一方安全保障理事會は當事國に對して、以上の如き方法をもつて、その紛爭を解決するやう勸告す

(四)、しかるにも拘らず、(三)に記述された如き性質を有する紛爭の當事國が、これまた(三)において指示された如き方法をもつて、紛爭を解決し得ない時は、當事國はその紛爭を安全保障理事會に移牒する責任あり、理事會はこの場合に、移牒された紛爭が繼續する時は事實、國際平和及び安全の維持を脅やかす惧れあるか否かを決定し延いて理事會がこの紛爭をとりあぐべきか否かを決定し、もしとりあぐべきものと決定した場合には、次の(五)に規定されてゐる行動をとる

(五)、安全保障理事會は(三)に記述された如き性質の紛爭の如何なる段階においても、紛爭調整の適當な手續、方法を勸告する權限を有す

(六)、正當な主張點ある紛爭は普通これを國際司法裁判所に移牒するものとす、但し、安全保障理事會はその他の紛爭に關聯する法的問題についても國際司法裁判所の意見を求め得る權限を有す

(七)、第一項(一)から(六)に至る規定は、國際法に照らし關係國の全く內政問題と見做さるべき事件から發生した事情乃至紛爭には適用されず

第二項、平和に對する脅威なりや否や、或ひは侵略行爲なりや否やの決定並びにこれに對してとるべき措置

(一)、第一項(三)に指示された手續により、或ひは第一項(五)によつて行はれた勸告により紛爭がなほ解決されず、安全保障理事會がこの解決の失敗が、國際平和及び安全の維持に脅威を與へると見做した場合には、理事會は本機構の目的及び原則に從ひ、國際平和及び安全の維持に必要な措置をとる

(二)、一般的に、安全保障理事會は平和に對する脅威、平和の破壞或ひは侵略行爲の存在するか否かを決定し、勸告を行ひまたは平和及び安全を維持乃至回復するためにとらるべき措置を決定す

(三)、安全保障理事會は以上の決定に效果あらしめるためには、武力行使を含まない如何なる外交的、經濟的或ひはその他の措置がとらるべきであるかを決定し、更に加盟國に對して右の措置を實際に適用するやう要求する權限を有す、これらの措置のうちには、鐵道、海運、航空、郵便、電信、ラジオその他の交通、通信機關の全的乃至部分的遮斷、外交、經濟關係斷絶等の措置を含む

(四)、安全保障理事會は以上の措置もなほ不適切と認めた場合には、空軍、海軍乃至は陸軍兵力を動員して、國際平和及び安全の維持乃至回復に必要な行動をとる權限を有す、この行動のうちには、加盟國の空軍海軍乃至陸軍兵力による示威、封鎖その他の軍事行動を含む

(五)、全加盟國は國際平和及び安全の維持に寄與するために、安全保障理事會の要求に基づき、かつまた加盟國相互間に締結さるべき特殊の取極めに基づき、國際平和及び安全の維持に心要な武力、施設並びに支援を理事會に提供す、右の特殊取極めは理事會に提供さるべき武力の數及び型並びに施設及び支援の性質を規定す、また右の特殊取極めは一々安全保障理事會の承認を必要とし、かつ各條約國がその憲法の規定に從ひこれを批准するを要す

(六)、本機構が緊急を要する軍事的措置をとり得るために、加盟各國は國際共同行動のための國際空軍部隊を直ちに動員可能な狀態において用意す、これ等空軍部隊の兵力及び動員可能の程度並びに共同行動の計畫は、理事會が軍事參謀委員會の支援の下に、(五)において述べた特別取極めの範圍內で決定す

（七）　安全保障理事會の國際平和及び安全維持のための決定を實行するに必要な行動は、全加盟國により乃至は理事會の決定する加盟國數ケ國によつてなされる、これは加盟國自らの行動により及び適宜の特別機關の行動を通じて實行に移される

（八）　武力行使の具體的計畫は、安全保障理事會が次の（九）において述べる軍事參謀委員會の支援をえてこれを決定す

（九）　軍事參謀委員會の機能は、理事會の實施すべき國際平和及び安全の維持に必要な軍事的措置、理事會に提供された武力の使用及び指揮、軍備の統制並びに出來得べくんば軍備の縮少等に關係あるあらゆる問題につき、理事會に建言しこれを支援するにある、委員會は常任理事國の參謀總長乃至その代表によつて構成さる、常任理事國でない加盟國も、委員會がその責任を有效に果たすために必要と見做した國に對しては、委員會はその任務遂行に參加するやう要請す、理事會の動員する武力の指揮問題は追つて決定す

（十）　加盟國は安全保障理事會が決定する諸措置を實行に移すために、相互協力を與ふ

（十一）　加盟國、非加盟國の別を設けず、如何なる國家であれ、安全保障理事會が決定した諸措置の實行に伴つて、特殊な經濟的問題に直面した場合には、この問題解決のために理事會と協議する權限を有す

第三項　地域的取極め

（一）　本機構の憲章中にある如何なる規定と雖も適切な地域的行動によつて國際平和及び安全の維持を期する地域的取極め乃至機關の存在を妨げず、但しこれらの地域的取極め乃至機關並びにその活動が、本機構の目的及び原則と相背馳しないことを要す、安全保障理事會は、紛爭關係國の自發的意思により、乃至は理事會よりの移牒によりかかる地域的取極め乃至機關が地域的紛爭の解決に當ることを勸奬す

（二）　安全保障理事會は、これが適切なりと思惟する場合には、その權限内にある行動の實施に關し、右の地方的取極め乃至機關を利用す、但し地方的取極め乃至機關が行動を起す場合には、安全保障理事會の承認を必要とす

（三）　安全保障理事會は常に、地方的取極め乃至機關が國際平和及び安全維持のためにとる行動及び企圖を知悉するを要す

第九章　國際經濟及び社會協力に對する取極め

第一項　目的及び關係

（一）　諸國家間の平和的、友好關係に必要な安定且つ幸福な狀態を招來するため、本機構は國際經濟、社會その他人文的諸問題の解決に利便を與ふべく、また人權及び基本的自由に對する尊敬を啓發すべく努力す、この機能を發揮する責任は總會にあり、また總會の承認に基づき、經濟社會評議會がこの責任を掌握す

（二）　その他各種の特別經濟、社會機關は、これ等機關の規定に從ひ、それぞれの分野においてその責任を果たす、これ等機關は經濟社會評議會がこれ等機關當局と締結する協定に基づき本機構との關係を樹立す、この協定は總會の承認を要す

第二項　構成及び投票

經濟社會評議會は加盟國十八ケ國の代表により構成さる、評議會國たるべき國は三ケ年の任期をもつて總會により選出さるべく、評議會國に選出された國家は評議會に一名の代表を送るべく、その代表は投票權一を有す、經濟社會評議會の決定は、出席投票數の過半數による

第三項　經濟社會評議會の機能並びに權限

經濟社會評議會は次の權限を有す

A　その機能の範圍内において、總會の勸告を實行に移すこと

B　評議會の發意に基づき、國際經濟、社會その他の人文的問題につき勸告すること

C　本機構と關係ある經濟、社會その他機關からの報告を接受してこれを研究するとともに、これ等機關と協議の上乃至はその勸告に從ひその活動の調整協力を行ふこと

D これら特別機關の事務豫算を調査し、右につき勸告すること

E 事務總長を補佐し、彼が安全保障理事會に提出する情報につき協力すること

F 安全保障理事會の要請があつた場合は、これを支援すること

G 總會により委託された範圍内において、その他各種の任務を遂行すること

第四項 組織及び手續

(一) 經濟社會評議會は經濟委員會、社會委員會その他必要とみられる委員會を組織す、これ等委員會は專門家をもつて構成され、一方常設の事務當局をおき、これは本機構書記局の一部をなすものとす

(二) 經濟社會評議會はその他特別機關と適宜取極めを行ひ、これら機關の代表者が投票權を有せずに、評議會及び評議會の設立した委員會の審議に參加しうるやう取計ふ

(三) 經濟社會評議會は自らその手續規定並びに評議會長選擧方法などを決定す

第十章 書記局 Secretariat

(一) 事務總長及びその他必要な人員をもつて構成された書記局を設置す、事務總長は本機構事務當局の最高者とす、事務總長は總會が安全保障理事會の勸告の下に、本機構の憲章が規定する如き條件をもつてこれを選出す

(二) 事務總長は以上の資格に基づき、總會、安全保障理事會、經濟社會評議會等の會合に出席し更に本機構の事業に關し每年總會に對して年次報告を行ふ

(三) 事務總長は、如何なる問題であれ、國際平和及び安全を脅威する惧れありと認めた場合はこれを安全保障理事會に提起する權限を有す

第十一章 修正

修正は總會の三分の二の票數をもつて採擇さるべく、かつ安全保障理事會の常任理事國及びその他加盟國の過半數により、それぞれ各國の憲法の規定に從ひ批准されるを要す、かくて成立した修正は全加盟國に適用さる

第十二章 過渡的取極め

(一) 第八章第二項(五)において述べた特別協定が效力を發生するまでの期間、一九四三年十月三十日モスクワにおいて調印された四國宣言の調印國は、右宣言第五項の規定に從ひ、相互に協議を行ひ、國際平和及び安全維持のために必要と思はれる時は本機構を代表して共同行動に出る

(二) 本機構憲章の如何なる規定と雖も、今次戰爭の結果として反樞軸諸國が敵國に對してとるべき行動を否定し得ず

ロメル元帥負傷の模樣

(ベルリン二十日發)ドイツ前線報道班員は戰傷死を遂げたロメル元帥が去る七月前線視察中反樞軸空軍の攻擊をうけて負傷した時の模樣について二十日次の通り報じてゐる

七月十七日ロメル元帥の乘用車は二機の反樞軸空軍戰鬪爆擊機の砲擊をうけロメル元帥は負傷した、最初敵機を發見したのが餘りに遲かつたため發見場所から最も近い約三百碼前方の道側まで自動車を走らせることが出來なかつた、ロメル元帥は恰度前線視察からその司令部へ歸還しようとしてゐたのであるが、顏面に敵機の機關砲彈の破片を幾つかうけ運轉手もまた腕を射たれたため自動車は顚覆し元帥は自動車から投げ出され人事不省に陷つた、元帥は負傷を負つたので病院に後送されたが砲彈の破片による傷は比較的輕く十日後には從軍記者と會見し「もういたみは感じない」と語り醫師に冗談を飛ばすほどであつた、その數日後元帥は病院から自宅へ歸された、同元帥は間もなく集團軍司令として前線へ復歸するものと豫想されてゐたが遂に戰傷死された

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月廿六日(木)　第三二一一號

同盟通信

海外電報

(246)

編輯發行人　荻野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　株式會社同盟通信社

ドイツ軍當局の表現を借るならば「獨ソ開戰以來最大の數的優位」をもつて火蓋の切られた東プロイセン攻勢は、東部戰線の戰局が如何に重大化したかを端的に示すものだ、攻めるは三十八歳の若冠戰車專門家イヴアン・チエルニヤホーフスキー麾下の第三バルト戰線軍の强兵百六十萬、戰闘九日にして既に東部國境から縱深四十五粁に亘る楔を打ち込みコヴノ＝ケーニヒスベルグ鐵道の要衝インシユターブルグを指して一路猛進中と傳へられる、邀へ擊つはドイツ親衛師團の精鋭に加ふるに東プロイセン住民からなる國民突擊隊、面も振らずに猛反擊を展開してアンゲラップ河畔一帶で空前の死闘を續けてゐるが、國土に踏み入つた赤軍の矢面に立つドイツ軍にとつてはもはや一歩の戰略後退も斷じて許されない、戰友の屍を乘り越えて反擊、唯だ反擊の一途あるのみだ、獨ソ戰の初めドイツ軍が疾風わくら葉を捲く如くソ聯領土を席捲した當時、スモレンスク、キエフ、ハリコフ、オデツサの赤軍守備兵は故郷の土を一握り懷中におさめ、他日必ずやこの一握の土を同じ所に置き戻さんと血涙の誓を立てて後退したといはれるが事態は今や全く逆轉し、壓倒的物量を擁する赤軍はドイツ國土を縱横に蹂躙してゐるのだ、勞働服、事務服、野良着の儘鐵兜を被らず僅かに小銃を武器に國土を防衛する東プロイセンの國民突擊隊が父の、母のゐます愛する故郷を撤退する時の感慨は如何ばかりであらうか、恐らく彼等も一握の土に回歸の誓を籠めて懷中におさめたことであらう、スイス軍事評論家マルスの言によればドイツ國民突擊隊の組織はパルチザン活動ではなく國民戰爭を意圖したものといはれるが、全國民の大地を蹴つて起ち上つたドイツ國土防衛戰の威力は今やまさに爆發せんとしてゐる



【目　次】

イーデン東地中海領域に動く……二四八〇
英國下院に報告せん……〃
モスクワ會談は物別れか……〃
三國會談やり直しか……〃
葡國會外交政策を討議せず……二四八一
重慶は反樞軸四大國に屬せず……〃
難民で重慶人口膨脹……〃
モスクワ米特派員呼び戻し……〃
米アラスカ防衛司令官……〃
更に三ケ國佛政權を承認……〃
【英　國】
「ロシアと西亞」……二四八二
ビヴアリツヂ下院議員に當選……〃
【カナダ】
英聯邦空路會議開く……〃
【友邦軸陣營】
地中海副司令官就任……〃
【米　國】
比島作戰と選擧戰……二四八三
攻擊用舟艇建造遲延……〃
流星彈を試作……〃
戰後は英國の負債國か……〃
【米　洲】
グワテマラ前大統領亡命……〃
【東南歐】
勃政府元首相らを審問……〃
國家主義分子を彈壓……〃
【北　阿】
埃元首相釋放……二四八四
チヤーチル、カイロで軍事會議……〃
イーデン、カイロ着……〃
【南　伊】
チヤーチル、ローマにも立寄る……〃
新伊通信社誕生……〃
【印　度】
ガンジー翁また斷食か……〃
高等辨務官更迭……〃
【軍事情報】
英國の高射機關砲……〃
獨新兵器「死神の鎌」……〃
米新型平射迫擊砲……〃
テンペスト機の形狀……二四九三
【資　料】
イタリア關係を繞つて……二四八五
【特　輯】
西歐洲聯盟案……二四八六―二四九〇
ド・ゴール十月の陣……二四九〇―二四九三

イーデン東地中海領域に動く

（リスボン二十四日發）英國外相イーデンはモスクワからの歸途カイロに立ち寄りエヂプト國王フアルーク一世、首相アーメド・マヘール・パシヤ外相ノクラン・パシヤ等と會見したが、右會見についてカイロからのロイター電報は二十四日次の通り報道してゐる

イーデンはエヂプト政府の要人と會見し英埃兩國關係の全般的な問題について討議した、首相アーメド・マヘール・パシヤはエヂプト政府が歐洲戰爭に對すると同樣東亞反攻作戰にも協力する旨公約を再確言したイーデンは更に西亞常駐相モイン卿と會見「補給その他の問題」について協議した後、空路アテネに到着したと傳へられる、アテネにおける動靜については詳報がないが、モスクワ會談において英ソ兩國政府がギリシヤ領土の分割を取極めたと信ずべき理由あり、恐く右決定に基きイーデンが現地に乘込んだと見られる

英國下院に報告せん

（ストツクホルム二十四日發）ロンドン來電＝亡命ポーランド首相ミコライチクは二十四日亡命政權の緊急閣議を開催、モスクワ會談の結果について報告したが英國首相チヤーチルは二十四日下院で次の通り述べた

スターリン元帥との會談の結果については二十七日下院に報告するが、內容は簡潔で別段論議を加へる必要がないと思ふから、議員諸君も右報告について討議を要求しないことに願ひたい

モスクワ會談は物別れか

（チユーリツヒ二十四日發）モスクワ會談においてポーランド問題が解決をみなかつたことは同會談に關する英國政府の公報でも明瞭だが、エコノミスト誌の最新號はポーランド問題解決不可能の理由を指摘して次の通り論じてゐる

ポーランド問題が不可能なのはポーランドにロンドンとルブリンの二政權が存在し、ことごとに啀み合つてゐるためだ、ソヴエト政府は兩政權を打つて一丸とし共產主義者も加へた單一の新政權の樹立を意圖するミコライチクの提案に同意してゐる樣だが、國境問題で兩者は正面衝突をきたしてゐる、ミコライチクはモスクワ會談でカーゾン線を暫定的なソ波國境線とし最終決定は媾和會議まで繰り延べることを提案したが、ソヴエト政府は一九四一年の獨ソ開戰當時ならいざ知らず、いまではかかる解決方式に滿足出來ず、卽時決定を迫つたため遂に物別れに終つたものとみられる

他方モスクワ會談の他の議題たるバルカン問題もユーゴスラヴイアを繞つてスターリン、チヤーチル間に意見の對立をみた模樣で、「ノイエ・チユーリツヒアー・ツアイツング」紙のロンドン特電は次の通り報じてゐる

モスクワ會談ではソ聯はスラヴ大國としてバルカンのスラヴ系諸國を勢力圈內に收め、英國は地中海勢力としてギリシアを支配することに意見の一致をみたが、問題のユーゴスラヴイアはスラヴ國家であると同時に地中海國家であるため兩國の利害は眞向から對立し、ユーゴスラヴイア處理問題を繞つて會談は物別れに終つた模樣だ

三國會談やり直しか

（リスボン二十四日發）ワシントン來電＝米國務次官ステチニアスは二十四日の新聞記者團會見で次の通り言明した

ダンバートン・オークス會談では遂に戰後安全保障機構に關し米英ソ三國間に完全な意見の一致をみるに至らなかつたが、米國政府は出來れば明年一月頃再び會談を開いて反樞軸聯盟案の最後の仕上げを了したいと希望してゐる、しかしこの會談がルーズヴエルト、チヤーチル、スターリン三者の會談となるかどうかは判らない

昭和十九年十月廿六日(木)
第三二二一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

葡國會外交政策を討議せず

(リスボン二十三日發)ポルトガル國會は二十三日開會されたが、工業化法案並びに電化法案等が上程審議されただけで重要な外交方針が決定されるだらうとの觀測は具體化しなかつた

重慶は反樞軸四大國に屬せず

(ストツクホルム二十四日發)過去數ケ月來米國内には重慶政權再認識の議論が極めて有力に擡頭し、あるひは國共合作の必要を說きあるひは蔣介石の獨裁を非難して漸く重慶政權に對する内政干渉の態度を露骨に表示するに至つたが、英國戰時内閣の閣僚ビーヴアブルツク卿の所有するデーリー・エキスプレス紙が二十四日紙上において重慶再認識論を提唱し極めて無遠慮に蔣介石の鼎の輕重を問ふてゐる、惟ふに支那戰線最近の敗戰について責任を專ら重慶政權に轉嫁するとともにいはゆる狡兒死すれば走狗を煮ることをいささかも躊躇しないアングロサクソン一流の遣り口が今や重慶政權に對し漸く鋒芒を現はし出したのではないかとも解される、同紙の論旨は概ね次の通り

重慶政權が反樞軸の四大國の一つだといふごときは單なる擬制に過ぎない、蔣介石は依然としてルーズヴエルトの合衆國におけるが如くスターリン元帥のソヴエト聯邦におけるが如くチヤーチルの英帝國におけるが如く、支那の代表と目されてゐるが、蔣介石は僅か支那の一斑を支配してゐるに過ぎず、かかる見解は遺憾ながら單なる擬制に過ぎない、重慶内部においてすら抗爭絶えず、宋家の一族は最早蔣介石と圓滿な關係に立つてをらず民主主義反對、米英兩國反對、ソヴエト聯邦反對で知られる陳果夫、陳立夫の擡頭が著しい

事實上獨立の地位にある共產軍に對し蔣介石は直系の第一軍五十萬をもつて包圍を企圖してゐるが日本軍が太平洋の各島嶼に精銳を配置してゐながら依然支那戰線で最近攻擊作戰を遂行出來るのは全く以上國共對立の結果に他ならない

日本軍は七千呎の山岳地帶を通じて公道を切り啓く大事業に乘り出したが決して出來ぬ相談ではなく、愈々實現の曉には反樞軸軍殊にビルマ地方における反樞軸軍の困難は尖銳的に增大しよう、支那は「一人政府」で支配するのは餘りに大きく何等かの形式の聯邦制度が必要であらう、何れにせよ自國の個人的指導下に支那を統一しようとする蔣介石の雄圖は成功してゐないことを認めねばならない

難民で重慶人口膨脹

(リスボン二十四日發)南支における重慶軍の敗戰の結果過去四ケ月間に數萬の避難民が重慶へ雪崩れ込んで重慶當局を當惑させてゐるが、重慶中央社は最近の人口調査において重慶の人口が百萬を突破したと報道してゐる、避難民救濟當局の計算によれば湖南、江西、廣西、廣東四ケ省から重慶へ到着した避難民は二十萬を下らないといはれる

モスクワ米特派員呼び戻し

(リスボン二十四日發)フイラデルフイア來電=米國有數の大新聞「フイラデルフイア・インクアイアラー」紙は二十四日モスクワ駐在の同紙特派員アレキサンダー・ケンドリツクを、「ソヴエト政府が戰時記者としての活動を許さない」との理由で本國に呼び戻すこととなつた旨發表した、ケンドリツクは最近モスクワにある外國特派員に對するソヴエト政府の不當待遇を痛烈に非難し外國特派員は全く前線に赴く機會なく新聞記者としての任務を遂行出來ない狀態におかれてゐるとの報道を寄せてゐた

米アラスカ防衛司令官

(リスボン二十四日發)サンフランシスコ・エグザミナー紙九月十八日の報道によれば米國西部防衛司令官中將テイーロス・イーモンズは去る六月アラスカ防衛司令官に任命されたといはれる

更に三ケ國佛政權を承認

(ストツクホルム二十四日發)ロンドン來電=米英ソ三國及び濠洲、カナダのド・ゴール政權承認に引續き南阿聯邦、ニユージーランド、ブラジルの各國政府も二十三日同政權を承認した

【英　國】

「ロシアと西亞」

ソヴエト外交の動きを重視す

（ストツクホルム二十三日發）ケベツク會談の前後から英國の言論界特に自由主義を代表する「マンチエスター・ガーデアン」紙、財界方面の代辯たる週刊「エコノミスト」誌などは東歐洲におけるソヴエト政府の自主獨往外交を指摘して英國政府の考慮を促がしてゐるが、今回ソヴエト政府が石油利權についてイラン政府に交涉開始を申入れ拒否されるやソヴエト勞働組合機關「トルード」紙がイラン內閣攻擊に乘出したなどその事情は少からず英國政界を刺戟してゐると傳へられる「エコノミスト」誌は十九日の誌上に「ロシアと西亞」と題する卷頭論文を揭げ、イラン政府に對する石油利權交涉は明らかにソヴエト外交の變貌を示してゐると論じ次の通り述べてゐる

ソヴエト工業東漸の傾向

從來ソヴエト政府の外交政策は唯一の安全保障を目標としてきたが、過去十ケ年にわたるソヴエト工業東漸の傾向が今回の戰爭で極度に刺戟を受けるとともに西亞に對するソヴエト政府の關心が再び持ち上るに至つた、今や中央アジアは一大工業地帶と化しソヴエト政府は曾つてウクライナ地方の安全保障に腐心したと同樣同地區の安全保障に重大關心を示してゐる、一九二〇年代にソヴエト政府が西亞から撤收するの已むなきに至つた背後には理念上の原則も動いてゐるが、現在ではかかる理念は最早政治に影響を及ぼさない

今回ソヴエト政府がイラン北部の石油利權を要求した事實に徵しても過般の事情を窺ふことが出來よう、しかし變更は單に理念の上だけではない同時に曾つての自給自足主義からの逸脫を意味する、現に世界舊來の寶庫の分前を主張したことは少くとも以上の限度において自給自足政策を放棄したことを示してゐる、今後二十年間西亞におけるソヴエト聯邦の勢力が經濟的基礎に立つであらうことは疑ひないが、政治の分野においてはソヴエト政府は依然革命の傳統によつて利益を受けてゐる、英佛兩國と異りソヴエト政府は西亞において何ら政治上の義務がない、最近獨立したシリアレバノン兩國がソヴエト政府に對し國交の開始を要請し、ソヴエト政府が卽時右要望を容れたのは今後の動向を指示してゐるといへよう、ソヴエト政府は自國の南方における諸隣邦が友好的態度をとり敵對國によつてソヴエト聯邦攻擊の基地として利用されぬやうにするため以上一切の手段を活用することは疑ひない、もし以上の防衞第一線が陷ればソヴエト聯邦は他に幾多の武器を持つてゐる、眞にソヴエト聯邦が脅威を受ける場合には西亞の政治に積極的に介入して領土の再保全に努めよう

ビヴアリツヂ下院議員に當選

（リスボン十八日發）ロンドン來電＝バリツク・オン・トウイード選出自由黨議員G・C・グレイの死去による補缺選擧は十八日擧行されたが、自由黨候補サー・ウイリアム・ビヴアリツヂはW・D・クラーク（無所屬）の一二六九票に對し八七九一票を獲得して當選した、ビヴアリツヂは社會保險法の權威である

【カナダ】

英聯邦空路會議開く

（リスボン二十三日發）モントリオール來電＝英聯邦民間航空會議はトランスカナダ社長シミングトン司會の下に二十三日モントリオールで開催、議長シミングトンは今度の會議で自治領各政廳に對する協定成立勸告につき各代表の意見一致を要望し、更に各自治領の利害が來る十一月一日シカゴで開催される國際民間航空會議と不可分の關係にあることを指摘した

【反樞軸陣營】

地中海副司令官就任

（リスボン二十三日發）ローマ來電＝地中海方面反樞軸軍司令部は二十三日次の通り發表した

米國陸軍前參謀次長ジョーゼフ・マクナニーは二十三日司令部に到着、ジエーコツブ・デヴアースの後を襲ひ地中海方面反樞軸軍副司令官に就任した、マクナニーは同時に目下フランスにある米第六軍司令官をも兼任する

昭和十九年十月廿六日(木)
第三二二一號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

【米國】

比島作戰と選擧戰

(リスボン二十三日發)ニューヨーク來電=ウオール街方面では今次比島作戰が一面において選擧戰への效果を狙つたものであることを認め、その發展如何によつてはルーズヴエルトの選擧戰遂行に有利な影響を與へるものと觀測してゐるといふ點だけであつたが、もし比島作戰が進捗すればかかる非難は當然その根據を失ふことになるわけだ、いづれにせよニューヨーク財界方面では比島作戰を利用して選擧戰を有利に展開するのはどうしてもルーズヴエルトに歩があり、デユウイがこれに劣るのは否めないとしてゐる

攻撃用舟艇建造遲延

(リスボン二十三日發)ワシントン來電=海軍艦船局長コクレーンは二十三日次の通り言明した

海軍が目下最も重點をおいてゐる攻撃用船舶の建造が遲延してゐる結果太平洋作戰が重大な支障を受けんとしてゐる、太平洋戰を急速に終結するためにはこの型の船舶を大量に建造することが最も重要だが、この建造は遺憾ながら豫定計畫より遙かに遲延してをりその主要原因は造船工の不足である、海軍の計畫によればこの種の船舶を二日に五隻平均建造することとなつてゐる

流星彈を試作

(リスボン二十三日發)米陸軍省並びにフオード自動車會社は

流星彈に使用される噴射推進式發動機がフオード會社により目下生産されてゐる

旨二十二日共同で發表した

右につき陸軍當局は二十三日次の通り言明した

フオード會社の生産する流星彈は大體ドイツの流星彈と同種類のものである、但し目下のところまだ試作の範圍を出てゐない

戰後は英國の負債國か

(リスボン二十三日發)ワシントン來電=共和下院議員ミラーは米國の對英武器貸與に關し次の通り述べた

戰後米國は對英武器貸與により英國から相當の支拂ひを受けるなどと考へたらとんでもない間違ひで逆に英國に對し多額の支拂ひをしなければならぬことにならう、右は確實であり現に英國政府は英國が米國軍隊並びに武器その他の輸送に要した費用、勞働時間等の一切を記帳してゐる旨公然と言明してをり、戰爭終了後英國政府は當然これ等の費用の支拂ひを米國に要求して來るだらう、英國の米國に對する逆貸與にこれ等の費用を加へればその額は優に今次大戰における米國の對英武器貸與額並びに前大戰の戰債を支拂つてあまりあるほどの巨額に達しようと

【米洲】

グワテマラ前大統領亡命

(リスボン二十三日發)メキシコ・シテイ來電=グワテマラの革命で國を逐はれた前大統領フレデリコ・ポンセはメキシコ領内に亡命、二十三日飛行機でメキシコ・シテイに向つた、ポンセ隨行員の語るところによると彼の子息は革命軍により殺害されたといはれる

【東南歐】

勃政府元首相らを審問

(リスボン二十二日發)ソフイヤ來電=ブルガリア政府は元首相三名その他前閣僚二十五名、下院議員百有餘名、高官九十名を人民裁判所において審理に付すに決定した

國家主義分子を彈壓

(ストツクホルム二十三日發)ソフイア來電=裏切りブルガリア政權は國家主義分子の彈壓を續行、今回六百五十九名を政治的理由で逮捕ソフイア市並びに地方裁判で審理してゐる、このうちには王室顧問六名、司敎四名、閣僚十九名、下院議員百七名、官吏七十二名、警察官五十一名新聞記者および藝術家四十九名が含まれてゐる

【北　阿】

埃元首相釋放　（リスボン二十三日發）カイロ來電＝エジプト新首相アーメツド・マヘール・パシヤは一九四二年前首相ナハス・パシヤにより逮捕監禁されてゐた元首相アリ・マヘール・パシヤを釋放した旨二十三日發表した、アリ・マヘールはアーメツド・マヘールの兄である

チヤーチル、カイロで軍事會議　（リスボン二十三日發）カイロ來電によれば英首相チヤーチルはモスクワ會談の歸途一日カイロに立寄り、同地の英軍首腦と長時間に亘つて重要協議を遂げたといはれる、會談の內容は明かにされてゐないが、主としてバルカン作戰に關するものとみられ、モスクワに同行した英軍參謀總長アラン・ブルツク、英中東軍司令バーナード・パジエトも參加した

イーデンカイロ着　（リスボン二十三日發）カイロ來電によれば英外相イーデンは二十三日モスクワから空路カイロに到着、エジプト新首相アーメツド・マヘール・パシヤと會談に入つたといはれるが、更にカイロからアンカラへ向けて出發する豫定といはれる

【南　伊】

チヤーチル、ローマにも立寄る　（リスボン二十三日發）ローマ二十三日來電によれば、英國首相チヤーチルはモスクワ會談の歸途英軍參謀總長ブルツクを伴ひローマにおいて地中海戰線反樞軸軍司令官ウイルソン中將を訪問、一夜を過したといはれる

新伊通信社誕生　（リスボン二十二日發）ローマ來電＝二十一日のローマ各紙は社團法人の「アゲンチア・ラジオ・テレグラフイカ・イタリアナ」（略稱ARTI）と稱するイタリア通信社が新設された旨發表した

【印　度】

ガンジー翁また斷食か　（リスボン二十三日發）ワルダ來電＝ガンジー翁は二十三日ワルダにおいて次の聲明を發表した

余は新たな斷食が控へてゐるやうな豫感をもつてゐるので友人諸君と細目について相談してゐる、ただし斷食は印度の種族團結の問題とは關係はない

高等辨務官更迭　（リスボン二十三日發）ニューデリー來電＝印度政廳は現印度國防委員ラムラオ・マダヴラオ・デシユムクをサー・シヤフアート・アーマド・カーン博士の後任として南阿聯邦駐劄印度高等辨務官に任命する旨二十三日發表した

【軍事情報】

英國の高射機關砲　（リスボン二十二日發）「デイリー・エキスプレス」紙十月十日號は次の通り報道してゐる

過去二ケ年間祕密兵器として取扱はれてきた二十粍高射機關砲の性能が今回初めて公表されたこの高射機關砲は一分間に四百五十發の彈丸を發射、照準、操作共に一人の手によつて行はれ他には彈藥手一名を要するのみで對流星彈兵器の一つとして早くから使用されてをり、低空奇襲爆擊機に對してもまた威力を發揮してゐる

獨新兵器「死神の鎌」　（ベルリン十八日發）ドイツ前線報道によればドイツ軍は東部戰線において新兵器「電氣機關銃」をはじめて使用してゐるといはれる、性能の詳細は判明しないが、この新兵器は「死神の鎌」と呼ばれてゐるといふことだ

米新型平射迫擊砲　（リスボン十八日發）ワシントン來電＝米陸軍省は曲射平射兩用の新型步兵六十粍迫擊砲を現在使用してゐる旨十五日發表した、この迫擊砲は一人操作で重量は僅か二十封度、圓筒底板發射裝置よりなり、引金が取付けられてゐるため平射火器として使用出來る

昭和十九年十月廿六日(木)
第三二二一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

資料

イタリア關係を繞つて

米國の對伊食糧供給

五日付「デーリー・テレグラフ」紙のワシントン特電によれば南部イタリアの窮狀が喧傳されてゐる折から米國大統領ルーズヴェルトは四日次の通り言明したといはれる

「米國政府は今般イタリア駐在食糧關係米官憲をワシントンに召喚し、イタリアの食糧事情に關して檢討する豫定だ、差當り小麥十五萬トンの輸送案をはじめイタリア國内のパンの割當量增加も考慮中である、電力不足の對策としては出來るだけの發電設備機械が送られよう、シチリア上陸當時から計算すると米國がイタリア民需向けに積出す補給品は本年末をもつて二百三十萬英トン（英トンは二千二百四十封度）に達する筈で内百一萬七千トンは食糧、殘餘は石炭、肥料、種子、醫療品並びに衞生材料、衣類である、以上の余の聲明はすべてチヤーチル首相と合意の上で決定した政策に基くものだ」

イタリアの財政難

十二月二日附「デーリー・テレグラフ」のローマ特電によれば傀儡政權イタリア藏相マルセロ・ソレリは次の如き發表を行つてゐる

「聯合軍がイタリア本土上陸以來本年八月末までに發行した軍票は八千七百五十萬磅リラ（磅＝四百リラ）をやや超過し、全額が聯合軍の占領費その他の支出に充てられた、發行高は現在では低下の傾向にある、七、八月は上昇を示したが千二百五十萬磅リラまでには達しなかつた、イタリアは休戰協定に基いて聯合軍の占領費を仕拂ふ一方、對獨戰協力に益々顯著な働きを示してゐるから米國並びに英國はこの戰爭努力に對して軍票發行高を相殺すべきクレデイツトを設定することが望ましい、現在イタリアの國庫豫算は千六百三十二萬五千磅リラの不足を生じ、更に本年全體としての不足額見積りは二億五千萬リラに達しよう」

イタリア本年度收穫

「タイムズ」のローマ特派員は六日次の通り報道してゐる

「聯合國イタリア委員會の發表によればイタリアの聯合軍占領地區における本年の穀類收穫豫想額は差し當り三千三百三十四萬五千キンタルで内七百八十一萬五千九百五十三キンタルはすでに國民の穀倉＝即ち政府プール＝に供出された、供出目標額は千百六十萬キンタルだが十月末にはその九割が供出濟みとならう、政府への供出量とは別に農家の自家用のため千百萬四百七十七キンタルと來年度種子用の六百萬キンタルを控除しなほ約四百二十キンタルが依然農家の手にあり、供出命令にも拘はらず出し惜しみをしてゐるものと信じられる、シチリア地方では政治的、經濟的の原因から農家が供出を拒む結果を生じたが、供出に對する買上値段が話にならぬほど安値だと考へられてゐるらしい、目下聯合軍占領地域の全人口は二千四百萬と見積られるが政府の穀類プールはその中の配給切符所有者千八百萬人に對してのみ補給を行ひ、殘餘の六百萬人は各必要量を自家で保有することが認められてゐる、聯合軍當局の言明によれば南伊地方における本年の收穫高はファシスト政權當時に比肩するもので一九四〇年の收穫高は四千二百五十二萬キンタル、四一年は四千百二十九萬七千キンタル、四二年には三千四百八十九萬四千キンタルだつた」

イーデン聲明とイタリア

同じく「タイムズ」紙特派員は過般英國下院で行はれたイーデン聲明に對するイタリア國内の反響につき次の通り報じてゐる

「英國外相イーデンは下院でイタリア植民地返還反對の聲明を行つたが右はイタリア傀儡政權内部に憤激の波紋を捲起し、五日同政權首相ボノミはローマ駐劄英國大使ノエル・チヤールスと會見イーデン演説に對する釋明を要求した、一方ローマの新聞もイタリア植民地の將來に關し一齊に論じてゐる、保守派の各紙はエチオピアの喪失につき非常な關心を示してゐるが左翼派はこの問題には殆ど興味を有してゐない、但し米國並びに英國が大西洋憲章において領土的意圖を有せずと宣言した手前イタリア植民地を彼らがいかに處分せんとしてゐるかに關心を有する點で一致してゐる」

特輯

西歐洲聯合案

長谷川才次

△「マンチエスター・ガーデアン」紙の社說

尨大な資源を擁する米國と「二十世紀における歐洲の怪物」ソヴエト聯邦との間に介在して英國が大國たる地歩を維持するためには、西歐洲聯合を結成する他はないことを最近に提唱したのはスマツツ將軍である、爾來玆に一ケ年歐洲戰局の推移に伴ひ、英國政府は著々大陸一角に、政治的橋頭堡を確立する工作に乘出して、イーデン外相は九月二十九日下院の討論終結に當り、西歐洲の隣邦各國と或る種の交涉を進めてゐる旨を述べたが「マンチエスター・ガーデアン」紙や「エコノミスト」誌が西歐洲聯合案の支持に最大の熱意を示してゐる、先づ九月三十日付の「マンチエスター・ガーデアン」紙の社說を揭げよう

「米ソ兩國が獨自の外交政策を推進してゐるのにたいし、英國政府が拱手傍觀してゐるとの不滿が漸次高まつてゐるが、幸にしてイーデン外相は英國の積極政策の大綱を明示して呉れた、外相は「西歐洲における隣邦諸國並びに一般特に西歐洲の各小國と緊密に協力し度い」との英國政府の希望に言及した、更に外相は興味深い言葉で「此は各國政權は夫々本國に歸還して自國民から權威を求めねばならぬので、全般的な點以上に交涉が進んではゐないことを率直に申上げよう、しかし英國政府として歐洲將來の平和を保障するため、此等各國と緊密な結合關係（close association）に入る用意がある」と述べてゐる、以上の言明から推定すれば立憲政府が選出されれば、佛白蘭三國その他西歐洲各國が聯邦案の胚種を含むやうな思ひ切つた案を提示するのではなからうか、かかる提案にたいしては英國民は直に支持を與へるだらうし「新な歐洲」が舊態依然恐らく舊套の反覆よりも一層惡化するのではないかとの懸念を一掃するに役立たう、しかしイーデン外相が正當にも指摘してゐる通り、西歐洲における協力が如何に緊密でもそれだけでは充分でない、世界の安全保障を期する全般的組織に依存する所が大きい、英國としても恰も西歐洲における指導權を主張するごとく東歐洲の指導權をソヴエト聯邦に賦與するが、歐洲並びに世界何れの部分についても無關心ではあり得ない

イーデン外相は言葉こそ違ふが、チヤーチル首相と同樣ポーランド危機の解決を要望する英國の立場を强調した、ドイツ問題といふ一層困難な障碍を米英ソ三國が裏心から同意し確信をもつて乘り越えようとするには、先づソ波兩國の紛爭を片付けねばならない、唯今のところ紛爭解決の徵候は全然みえない、米國では大統領の閣內委員會にドイツ政策については分裂があることは殆ど周知の事實だ、殊に諒解に苦しむのはルーズヴエルト大統領が、反樞軸各國が全部久しい以前から且各國がみな知つてゐる事柄であるかの如く、ドイツの經濟管理に關する八ケ條案を發表したことだ、ソヴイエト政府はまたドイツ軍の舊將領をもつて自由委員會を組織してゐる、獨り英國政府だけは極めて愼重な態度を維持し、下院の討議に徵しても大體ドイツ政策について意見一致してゐるのは寔に結構だ、ドイツ占領に反對してゐるのは獨立勞働黨のマクガヴアーンだけ、モーゲンソー財務長官の提案に基き、ドイツの解體破壞を主張してゐるのは一部極端なトーリーだけだ」

△クローサーの意見

勿論西歐洲聯合案は未だ星雲狀態を脫せず、細目を窺ふ由もないが、ソヴイエト聯邦が東歐洲に安全保障圈を要求すると同じ理由に基き、戰略的見地から佛蘭白三國とスカンデナヴイヤ三國を連ねて國家集團を構成しようとする狙ひに違ひない理論的には十九世紀の國家至上主義と國際聯盟の全般的安全保障の中間を行き、各國の主權に或る程度の制限を加へ、英國を中心に政治上軍事上經濟上のブロックを結成しようといふのであらう、「エコノミスト」誌の主筆クローサーはその後卷頭論文でつぎの趣旨を述べてゐる

昭和十九年十月廿六日(木)
第三二二一號

同盟通信

海外電報
(第三種郵便物認可)

「政治上、精神上、經濟上、文化並びに安全保障の見地から、英白蘭佛スカンデナヴイヤ各國は緊密な聯合を結成しなければならない、今度の戰爭でフランス、低地國並びにスカンデナヴイヤ各國は英國の援助なくして自國を防衛出來ぬことが明らかになつた、且つ空軍その他近代兵器の進歩により、英國としても自國の安全保障の見地から、これ等各國との間に戰略的取極めを結ぶことが絶對必要となつた、米國に反對があるならば西歐洲聯合案は米洲聯合と同樣だといつて應酬するまでだ、ソヴエト政府の反對に對しては、西歐洲聯合が恰もポーランド、フインランド、バルカン各國にソヴエト政府が勢力を擴張してゐるのと同巧異曲であり、違ふところは西歐洲同盟がすべての當事國の合意によつて機能するだけだと答へればいい」

△イーデンの皮算用

既に勞働黨議員ローレンスは九月二十九日の討議において各小國が主權の制限に同意せねばならないと主張してゐるが、ロイター電報によればイーデン外相は十月七日ブリストルにおける演說で「各國は最早獨自の道程を辿り、各隣邦を考慮せずに、自國の命運を極めることは出來ない、中立は最早錯覺となつた」

と述べたといふが、集團國家の理念が逐次英國政界筋で結晶しつつあるといつて差支へあるまいイーデン外相は下院の討議で、亡命政權の領袖が本國に歸れば、亡命時代英國政府との緊密な關係が西歐洲聯合案の結實に貢獻するだらうとの趣旨を述べてゐるが、かかる皮算用の當否は暫く措きこれらの小國が隣接する大國に忖度しない限り今後の國際政局に存立を維持出來ぬことは事實であらう、「オブザーヴアー」紙のブリユツセル特派員は十月八日次の通り報道してゐる

「ベルギー國民の大多數は小國が完全な獨立を實現出來ぬことを悟り、英國との緊密な經濟上軍事上の結合を要望し、特に英軍にベルギー國内の空軍基地を提供し、ベルギー軍が英國内の空軍基地を使用出來る取極めを望んでゐる、更に一步進んで軍事上經濟上の政策を調整するには外交政策の調整が必要であり、且つかかる結合もオランダ、フランス、ノルウエー各國の參加がなければ安全保障を期し難いことを認めてゐる人々も少くない明白な軍事上の理由からだけでなく、將來戰の最も重要な兵器となるに相違ない流星彈にたいする防衛の見地からも、英國政府でかかる提案を歡迎するだらうとみられてゐる、ピエルロ首相は最近政策の闡明に當り

「世界のすべての國々を網羅した全般的組織を希望するが、ベルギー國境線に最も近く且つ同じ危險に曝されてゐる友好各國との紐帶を見失つてはならない」

と述べたので、この問題に關する一般の論議がなかなか盛だ、オランダもまた英國との緊密な軍事上の統合を歡迎するだらうが、ベルギー以上に熱心に米國の參加を要望するだらう、白蘭兩國間の關稅同盟案も人氣があるが、果して英佛兩國がどこまでかかる取極めを喜ぶか疑問だ、左翼共產分子の間にはオランダよりもド・ゴール政權との協力を主張する傾向強く、ド・ゴールを禮讚して「愛國軍」の兵力を維持する具に供してゐる、以上左翼の動向が如何に發展し、どの程度まで外交政策に影響を及ぼすかは未だ豫斷を許さない、英佛兩國間に緊密な諒解が維持されればかかる傾向も消え去るだらうが、若しかかる諒解が出來ない場合には重要な因子とならう」

△具體的施策としての通貨協定

西歐洲聯合案の具體的施策と目されるのがベルギー政權の通貨協定だ、九月十四日チエーズ、ナショナル銀行その他米國の銀行團が亡命オランダ政權にたいし一億弗の借款を提供し更にベルギー政權との間にも同樣の借款交涉が進められてゐるとの報道に、英國の政界財界筋は少からず焦つた樣子だが、英國政府も當時既に白蘭兩國の亡命政權と交涉を進めてゐたのであらう、「エコノミスト」誌は九月二十三日の誌上でつぎの通り述べてゐる

「英國政府はブレトン・ウツヅで纏つた一層廣汎な通貨安定機構案の批准實施を待たずに西歐洲各

國との間に爲替相場を確定し、各國の解放直後出來る限り早く動き出す清算機構取極めについて交渉を開始した、特にベルギー、オランダ兩政權はロンドンに在るので、本國の解放に先立ち豫備交渉を開始、兩政權との交渉が一番進んでゐる、その上去年十月兩政權間に通貨協定が出來てゐるので、英國政府は兩政權を一緒にして交渉する便宜あり、交渉が特に捗取つた譯だ、英國政府はまたド・ゴール政權並びにノルウエー政權とも同樣交渉を重ねてゐるが、目的は爲替相場を確立し、一度貿易にたいする現存の制約が取除かれるとともに、此等各國との貿易に關する金融のため清算機構を設置するためだ、かかる取極めは歐洲大陸との正常經濟關係を回復するに必要な豫備工作である、決して獨自の國家群を結成するためでもなく乃至通貨基金案に對抗する提案でもない、但し基金案が旨く運ばぬ場合には、歐洲各國との協定が何等か他の形式の通貨安定並びに國際清算機構を錬り直す出發點となるかも知れない」

△通貨協定の内容

ベルギー政權との通貨協定は十月五日調印されたが、ロイター通信社のシテイ記者ギヤムペルは協定の内容について次の通り報道してゐる

一、一磅一七六、六二五ベルギー法の公定相場を設定双方の同意がない限り相場の變更を認めない、協定の期間は三ヶ年となつてゐるから相當の程度まで爲替相場の安定を豫想してゐるといへよう

一、英白兩國の貿易帳尻がバランスを失へばイングランド銀行が五百萬磅に相當する額までベルギー法貨を手持ちし、乃至ベルギー國立銀行が五百萬磅に、更にベルギー、ルクセンブルグ兩國並びにベルギー領コンゴ在留民が現在所有してゐる磅貨の總額を加算した額を手持ちする、この點は特に重要でベルギー領コンゴはかうして磅貨圏から離れた譯である

一、兩當事國の何れにせよ借高の殘高が右限定を越える場合には金を現送する、しかし英白兩國ともに正式な金本位制度に復歸しないと言明してゐるのに準據し、且つ今日金の通貨としての「彈力性ある」役割に應じ、今回の協定では金の値段を明示せず、乃至金の値段を決定する基礎も示してゐない、爲替相場は如何なる意味でも金に關聯させてゐない譯だ、金は神秘的な信仰のために必要なのではない、外部の各通貨殊に弗貨に交換出來るから必要なのである

一、但し現在現實の取引は反軸樞軍最高司令部が抑へてゐるので、協定は差し當り純粹に理論的な文獻に過ぎない

一、協定の各條項はブレトン・ウツヅの機構と本當は抵觸しないが「若し兩當事國が今後三ヶ年以内に全般的國際通貨協定に加盟する場合には今回の協定を改訂する」ことに取極められてゐる、「若し」と言いてゐるのは全く恐れ入つた話で、藏相サー・ジョン・アンダーソンは下院において國際通貨協定の實施に至る過渡期間、英國政府は自由行動に出ると述べたが、シテイ筋ではこの過渡期間が極めて長い間續くとみてをり、その間英國は勿論各國とも全く何等の拘束を受けぬ譯だ

右協定について「マンチエスター・ガーデアン」紙の經濟部長は十月六日の同紙上で次の通り述べてゐる

「歐洲の金融機構復興への重要な一歩として英白兩國間の通貨協定が今回調印された、オランダ政權との同樣の協定が調印するばかりになつてゐるし、同じ線に沿ふてド・ゴール政權ノルウエー政權とも交渉が進められてゐる、各協定は英國と當該特定國との間における相互扶助と合作とを取極めてゐるだけだが、此等の各協定が相俟つて相當自由な支拂ひが出來る可成り廣い領域が出來上らう、結局西歐洲に非公式な「通貨領域」のやうなものが出來ようが、地域的集團取極めによつて個々の協定を取纒めようとの意圖は全然英國政府にないと解される」

勿論最後の一句は當局の要請により、木に竹をついだやうに書き出したに過ぎず、英國政府が西歐洲聯合案の基盤として、先づ「通貨領域」の建

昭和十九年 十月廿六日(木)
第三二二一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

設に乘り出したことは炳として明らかだ

△西歐聯合と植民帝國

西歐洲聯合の構想は獨り本國に關するだけではなく、彼らのいはゆる植民帝國についても英佛蘭三國が共同の施策に出ねばならぬといふのが「エコノミスト」誌の主張だ、もつとも同誌は東亞における失陷植民地の奪還を夢み依然として帝國主義的搾取を續けようといふのだから、全く東亞の現實を遊離した空想に過ぎないが、あらゆる論據を擧げて西歐洲聯合案を基礎付けようとするところに英國政府の政策を察知せねばならない、九月十六日付のエコノミスト誌は「植民領域についても或る程度聯邦的解決が出來よう、聯邦的解決に對する判つきりした政治的障碍は、本國に三つの違つた主權が存在してゐることだ、英佛蘭三國の植民政策を一層緊密に同化させた上で、初めて東亞における西歐洲各國の新施策が實現出來よう」と論じてゐる

歐洲戰爭の前途が逆睹し難いことは最近英國政府當局の屢々指摘するところだが、ソヴエト政府が兵力をもつて東南歐洲に着々勢力圈を擴張し、米國が生産力に物いはせて世界政策を遂行しようとするのに耐り兼ね、持ち出したのが西歐洲聯合案だ、窮餘の打開策に深い政治的意義を付するには當らないが、ド・ゴール政權の承認問題その他歐洲政局の推移を考案する上に、英國政府の狙ひは先づ西歐洲聯合案の結成にあることを念頭においてかかることが必要だと思ふ

ド・ゴール十月の陣

井上勇

○ド・ゴールの十四日演說

フランス臨時政府首班シヤルル・ド・ゴールは十月十四日夜極めて興味あるラジオ放送演說を、フランス國民に對して行つた、要旨を摘記すれば次の通りである

多くのフランス人は列强がフランスを例へば戰後平和機構審議の問題等について等閑視してゐる態度に意外を感じてゐる、多くのフランス人は聯合國がフランスの生産力復舊のため迅速かつ有效的な援助を與へるだらうと期待してゐたが、その望みは今や全く絕えた、かかる列强の態度が、自由獲得の見地からみて果して妥當であるか否かは、將來がこれを決するであらう、聯合國の各々は、まづ己れ自らの利益を追求し己れ自らの政策を實施せんとしてゐる、ドイツ軍はなほブレダからベルフオールの線にあつて再び陣地を固めつつあり、フランス本國全土の解放の業は、なほ達成されてゐない、ドイツ軍はイタリアの戰線、東部戰線においても頑强な抵抗を試みつつあり、本土を戰場と化しても最後まで戰ひ拔く決意を示してゐる

フランスを解放した聯合國は、先づフランス國民を如何にして養ふかを考慮すべきであつたがそれは絕大な努力を必要とし、彼らはその努力をばなす餘裕がなかつた、フランスの港灣はボルドオを除いては、悉く使用不可能となり、運輸組織、鐵道施設は麻痺し、約四千にのぼる橋梁は破壞され、工場は電氣も瓦斯もなく、炭坑は壞滅狀態に陷り、農具は使用にたへるべくあまりにも破損し、食糧、燃料、原料、資材の貯藏は枯渴してしまつた、フランスは聯合國の軍事目的のために提供すべき車輛も船舶も、その他の貯藏品もいまは持たない、われわれは事實を有りのままに見なくてはならぬ、將來のフランスを建設するに當つて、われわれの得る援助の如何に拘らず、フランス人が信仰すべきものはフランス人自身よりほかはない、他人の援助に期待せず、進んで各人が自らを助けることなくしては、現在の事態の改善は望めない

○フランスは目的の爲の道具

この演說は電文不完全で意を盡してゐない嫌ひはあるが、ド・ゴールのいはんと欲したところはほぼ想像出來るであらう

DNB通信社は、この演説を評して、フランス國民に告げるよりも、寧ろ「聯合國」に訴へんとしたものであるとし、ド・ゴールは「フランスが要するに聯合國の目的のための道具であつたことを明らかにし、フランスの葡萄酒に多量の水を割込んだものだ」としてゐる

ロンドンの「デーリー・テレグラフ」は十五日の紙上で「米英兩國政府のフランスに對する姑息政策がフランス國民に聯合國の眞摯性に對する疑惑を植付け始めた證左である」としてゐるが、その何れの見解も正しいとみるほかはない、ド・ゴールの演説で指摘さるべき重要點は

第一に、フランス國内の暗澹たる國民生活は他力によりては救濟出來ず、自力更生のほかなきこと

第二に、米英兩國のド・ゴール政權に對する態度がややもすれば、冷淡至極であることに對してかかる米英の態度が今後も繼續されるにおいてはフランスとしても覺悟があることを暗示したこと

の二點であり、この二點は相互に關連して裏と表とを形成してゐることである

○フランス當面の危機

十月十一日の「スヴェンスカ・ダグブラデット」は次の通り報じてゐる

フランスの物的狀況は最重大な危機に當面してゐる、産業の大部分は、交通線の大部と共に破壞され、食糧不足は最も甚だしい、今次戰爭開始以來、國債の總額は戰前の三倍に達し（註―この數字は疑問）二十歳以上五十五歳までの男子がなほ三百萬人ドイツに殘留してゐる、輿論の聲は、この三百萬人の發言なくしては完全な響を傳へるものとはいひ得ない、かかる多數の選擧有資格者が國外にあつて意志表示の路を失つてゐる際臨時國民會議の選擧が如何して可能であらうか、ロンドン及びワシントンの各政府はド・ゴールを尊敬しつつも、決定的に臨時政府を承認することを躊躇してゐる、一方ダンバートン・オークスにおける戰後安全保障會議はフランスが大國の地位を再獲得することを既に考慮の外に置いた、（註―時機を見て英・米・ソ聯・支那の後塵を拜せしめつつ、第五番目の國として新國際聯盟常任理事國の一とすることに決したのが事實である）ド・ゴールが解決を要すべき難問は前途に山積してをり、當面の困難は共産黨の活躍が國内擾亂を招來しはしないかといふことである

國民生活不安の面をも少し詳細にのぞいて見ようフランス勞働省の十五日發表によれば、現在パリ附近の失業者は三十六萬人に達するといはれるが、この割合で全國の失業者を推算すれば（パリ人口二百八十二萬、全國總人口四千百九十萬人とみる）六百萬人近い失業者がゐることになる、農業國のフランスであつてみれば、この數字は誤りであることはいふまでもないが、少くもその半分三百萬人以上の失業者は推定して間違ひなからう平時は人手がなくて困り、外國から勞働者を輸入しなくては工場もうごかず、小麥も實らなかつたフランスとしては大異變といはざるを得ない

○フランスの馬面の長さ

米國民主黨議員W・R・ページはフランス視察旅行から歸つて十二日

フランスは筆舌に絶する混沌の中に轉落せんとしてゐる、大都市の治安の問題は、きたるべき冬は恐慌的となるであらう、至るところに飢餓あり、至るところに石炭はない、いかなる小政黨と雖も已れがフランスを統治する正當な權利があると各々自負してゐる、フランスを脅かしつつあるアナーキーを防止しようと欲するならば、聯合國は急いで行動しなくてはならぬと報告してゐる、「フランス人の顏は最近全くの馬面になつた」とは「ノイエ・チューリツヒヤー・ツアイツング」の觀察だ

「ドイツ軍が撤退後フランス人の所得はめつきり減つてしまつた、收入の激減に惱むのは個人のみでなく、市町村も同樣だが、幸にして彼等は長くなる面を持つてゐない、アメリカの兵隊は思つたほど金を使つてゐない

昭和十九年十月廿六日(木)
第三二二一號

同盟通信

海外電報

(第三種郵便物認可)

闇値一弗二百五十法、一磅六百七十法をもつてしてもフランスの物價は高すぎて、物を買ふならば國にかへつてからのことだと彼等は考へてゐるからだ、フランス人はその上に働き口がない面も益々長くならうといふものだ、ドイツによる占領は料理店、酒場、中小商人にとつては金鑛を掘當てたも同樣だつたが、四ケ年の肥えた年はいまやなく、痩せた年が始つた

と同紙はいふ、ベルンの「ブンド」紙パリ便りによれば、電氣の供給は、またもや削減されて、電車の數は再び大巾に減らされ、電燈は四日に一度しか點らない、鐵道も通じたり通じなかつたりで國鐵は破産の一歩手前にあり、從業員に給料も支拂へず、政府の善處方が要望されてゐる、パンの値段は十六日またも一封度につき一・二〇法値上りになつた

○米軍燃料食糧差押へ

ジュネーヴからのUP電は十三日「クーリエ・ド・ジュネーヴ」紙の記事を引用して

フランス駐屯アメリカ軍當局は來るべき冬にそなへて、いかにして燃料及び食糧を確保すべきかに腐心し、精密な計畫を樹てつつある、右案によればフランス占領地内にある燃料・食糧の全部はこれをアメリカ占領軍の監理下におき、軍の必要としない部分のみを一般民衆に交付する豫定である

といつてゐるが、これではフランス人に浮ぶ瀨のないのは當然である、燃料も食糧も悉く闇に流れて姿を消すのも宜なりではないか、ド・ゴール政府の食糧相ジャコビは闇退治のため特別警官隊を組織し、電話密告によつて直ちに出動する旨を六日布告したが、かかる手段で闇退治が出來るものならば、地球の上に太陽は不必要であるとフランス人はぼやいてゐる

アメリカ、ドイツ、中立國の諸情報が口を揃えてフランス人の生活危機を叫んでゐる中に、十二日のロイター通信は一人、フランスの「復興」を說く「アトラス」誌の記事を打電してゐる、參考までにききおくのも無駄ではない

○英國が見たフランス復興

フランスの生命、血液は再び徐々にその血管を流れ始めた、フランスの經濟學者が生命的重要性ありとしてゐる各地方間の運輸系統、電力の全國的配分組織が漸く復舊し始めたのだ、パリ、リオン、マルセイユ間、パリ、ツールーズ間の鐵道は一日一回定時的に運行を開始し旅客は座席獲得のため三日前に申込まねばならずその上何時果てるとも知れぬ長い行列を作らねばならぬが、肝心のことは列車の運轉が出來るやうになつた事實そのものだ、客車が一本通るといふことは、その間に數本の貨物列車が通ることを意味する、パリの地下鐵も殆んど常態に復したし、映畫館も開業し一週間八回の興業をしてゐる、ここにも重要なことはフランスの首都の電力供給が再び確保されるに至つたといふ事實である

パリはフランスの國内の何れの地域よりも惡條件のもとにあつたことも忘れてはならない、過去四年間苦んできたパリの市民は、なほ不足勝ちとはいへ、この改善の値打ちを一層よく意識してゐる、田舍に行けば食糧はまづまづ十分である、缺けてゐるのは品質だけだ、ある地方では小麥はあるが馬鈴薯が足りぬ、あるところではその反對だといふ調子ではあるが、概括的にいつてその間要領よくやつてゐる、パリでも、他の町でも同じことであるが料理店の開いてゐるものは極めて少ない、飮みものはどこに行つてもあるやうだ、フランス人は聯合軍の將兵も軍屬も配給で生活してゐてフランスの食糧を奪合つてなどゐないことを十分よく知つてをり、感謝してゐる、闇市場はいま伸々活潑であるが、當局はこの取締りに最善の努力をしてゐる、古い割當切符は地下運動がドイツの軍政をサボタージュするために、大量に僞造したので、新らしい切符が發行された、農相のピエール・タンギー・プリジヤンは卸値の一部分とパンの公定價を引上げたが、これは農家からの出荷を促進し紙の上の割當と實際の割當との間の喰違ひを少くするためである

○頭痛のたねは冬の寒さ

ヴイシー時代の「農民組合割當」はドイツの食糧組合を眞似たものだつたが解散された、フランスの産業の現在の操業比率は戰前の四割見當だらう、大部分の工場には石炭がなく、原料資材がない、一般民需品は大部分の地域では割當制がとられてゐる、しかし徐々にではあるが代用品、靴、靴下の類ひは自由販賣に移行しつつある、生産回復見越しで、價段もこれらの品ものは、べら棒に高價といふほどでもない、一般的にいつて、民衆は困難に直面しながらも、愉快な氣持ちで、元氣を取戻しつつある、頭痛のたねはこの冬もまた、十分な暖房設備がなくて過さねばならぬことだ、多くのパリの子供たちはドイツ軍の占領治下の年々を何はおいても寒さに震へた年として末ながく覺えてゐることであらう、ドイツの占領當時は一度だつて家庭用の石炭があつたためしがなく、現在の割當もまた、極めて貧弱である、パリの便りは「無政府狀態」「罷業」「暴動」とフランス國内の情勢について、種々雜多な報道をしてゐるが眞相はフランス人が困難な條件のもとに拘らず驚くべき秩序をもつて、偉大な革命的變革を達成しつつあるといふことだ

地方官憲は屢々勝手に、他との連絡なく獨立的に行動してゐる、それは事實であるが、ことのありやうは交通が不便で、處置は緊急を要するからにすぎない、運輸は經濟上は勿論、政治的にも樞軸的要素だ、罷業はないが、多くの工場は石炭と原料がなくて休んでゐる、生産相のロベール・ラコストは徵用工場に對して政府任命の總支配人一名、技術、營業の支配人各一名、それに使用勞働者、雇員、技術者たちが選擧した諮問會議によりて工場を運營する新樣式を案出實施した

暴動もないが、各省から市町村役場に至るまで巡査から外交官に至るまで、多人數の官公吏は更迭させられた、理由は簡單で、フランスが占領された當時官についてゐた人間はヴイシー派の人間だつたからにすぎぬ、七割五分の役人をふるひにかけて免職にした內務省にとつては、時も時交通が同時に杜絶してしまつたとあつては有效に行政を運營維持することは容易な業ではない

○過渡期の混亂は當然

パリでもリオンでも、聯合軍の占領地でも、また大部分マキによつて解放されたブルターニュにしても、まだ占領されない地域でも、また完全にマキが支配してゐるサヴオア地方にしても、公けに認められた地方官憲がゐない過渡期といふものがあつた、しかし、この混亂時代を通じて、權力を掌握してゐたものの內、何處においても臨時政權に支持を與へなかつたものは誰一人なく、口頭の議論は別として、解放されたフランス人同志で戰つたといふ事實はどこにもない、地下運動サボタージュが一夜にして、組織化された再建の力に轉化したといふことは、抗戰運動の驚くべき戰果といはざるを得ないではないか

以上二つの觀方も、考へてみれば同じ現實を悲觀的にみたと樂觀的に解釋したとの相違で、現實そのものには何のかかはりもないともいひ得よう

○死刑朝めし前の肅清

フランス國內不安を、次には肅清工作の方からのぞいてみよう、ヴイシー政府もその成立當初、大いに肅清をやつてフランス國軍總司令官ガムラン將軍以下元帥または前首相連以下を大量捕縛收監したがド・ゴール政權ほどの徹底的手段はとり得ず、死刑になつたものなど極めて少なかつた、ところが、パリ臨時政府治下では、死刑などは朝食まへのひと仕事にすぎぬらしく、日々傳へられる情報は一々拾ふに面倒くさいほどの肅清事件を傳へてゐる、もつとも、これは各地方で、その地方に占據する抗戰派の連中が勝手にやつてゐるので中央ではあづかり知らぬといふいひわけもあるであらう

フランスでいま一番忙しいのはギロチンとボルセヴイキ・コンマンドだ、ドイツと協力したといふ理由で裁判所に曳きづりこまれ、斷罪されるものは日々多きを加へてゐる

昭和十九年 十月廿六日(木)
第三二二一號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

「解放」一週間で、モンペリエ軍法會議は一日平均十五名の死刑を宣言、執行したし、マルセイユでは一日平均二十名を一ケ月間つづけて死刑に處した、パリの特別法廷は一週間ばかり休業してゐたが十月十五日、血醒い仕事を再開、まづ前「マタン」紙主筆ステファン・ローザンヌ(註—親日記者で、十年前來朝の節は賜謁の榮をうけた)反ボルセヴイスム聯隊司令官パンサール將軍が捕縛された、二人とも死刑は免かれぬとみられてゐる、ド・ゴール政權はこの事態の發展を不安をもつて見守つてゐるだけで、統制力は日に弱まるばかりだ、地方では裁判手續きを省略していきなり斷罪されることも珍らしくはない、バルチザンは交通の杜絶のため、中央の威力の及ばないのを利用して、思ひのままを振舞つてゐるとは十月十六日の「ストツクホルム・チドニンゲン」の報ずるところだ

○名士續々斷頭臺へ

元ロゼール縣知事がパリで十四日死刑になつたに引續いて、元マダガスカル總督カイラが、英國の同島上陸當時反對したといふ廉で同じ日捕縛された

ヴイシー政府の下で植民長官をしたダンケルクの勇將プラトン海軍大將とユダヤ人問題長官ダルキエ・ド・ペルポアが死刑になつたのは十七日だつた、新聞記者では海軍評論家として令名のあつたポール・チヤツクが捕縛されてゐるらしいし、十七日のフランス海軍省の發表では元ツーロン海軍々港司令長官ジヤン・ド・ラ・ボルド提督が、一九四二年十一月ドイツ軍の南佛進駐に當つて、ツーロン港にあつたフランス艦隊に自沈を命令した廉で捕縛された

ペタン元帥及びヴイシー政府高官五十九名は、捕縛されたもの、國外にあるものを一括して十一月十一日裁判するといふ、休戰記念日が、フランス國民二陣營の開戰記念日となるわけだ、ペタンのヴイルヌーヴ・ルーベの別莊は十月十一日沒收され、ピエール・ラヴアルの財産はこれまた沒收の上十月二十二日競賣に付せられることになつてをり、賣上げ四億フランが國庫にころげ込む豫定だと、さもしい皮算用をパリ政府はしてゐる、十月二十日のパリ・ラジオによればマルセイユの軍事法廷は缺席裁判でラヴアルに死刑を宣告し「プチ・マルセイエーズ」元主筆ジヤン・ガイヤールも同時に同じ宣告をうけた

作家のホセ・ゼルメンと歌手のテイノ・ロツシが捕へられ、ジヤン・プレヴオ、サンテクジユベリー、ジヤツク・シエンヌヴイエール、バンジヤマン・クレミウが國内戰で戰死し、「アクシヨンフランセーズ」の愛國者シヤルル・モーラス「お菊さん」のクロード・フアレールがつかまり、役者のサシヤ・ギトリ、六十歳の少女歌手ミスタンゲツトが營業を禁止され……とブラツク・リストは無限に續く、パリ北西郊外のドランシーには、對獨協力罪囚收容の特別收容所が出來て、婦女子考幼の嫌ひなく何千人もがすし詰めに押込まれ寒さに震へてゐるとマンチエスター・ガーデイアンは正義感を湧き立たせてゐるが、泥棒を捕へてみれば、わが子だつた嘆きのきらひなしとしない

肅清は軍人政治家のみでなく、外交官もその例には洩らさないと、新外相ビドオは十月十日記者會見で豪語してゐるが、どこまで行くか、この血の肅清がフランス國内の不安不穩を釀成する最大の原因と一つとなつてゐるのは事實だ(つづく)

テンペスト機の形狀

(チユーリツヒ二十二日發)「エクスチエンジ・テレグラフ」社のロンドン電はロンドンで公表されたテンペスト機の寫眞について次の通り報じてゐる

「テンペスト」戰鬪機は「タイフーン」戰鬪機に似てゐるが、翼は「スピツトフアイア」式の楕圓翼だ、翼幅一二・五米、全長十米、高さ五米發動機は二千馬力のネイピア「セイバ」の單座戰鬪機で、二〇粍機關砲四門を有する、噴射推進式戰鬪機を除けば「テンペスト」は英空軍に最高速を誇り優に時速六百粁の流星彈を擊墜する速度を有するといはれる

大正十五年十月廿五日第三種郵便物認可　昭和十九年十月廿七日(金)　第三二二二號

同盟通信

海外電報

(247)

發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　株式會社同盟通信社

十一月七日の大統領選擧を旬日の後に控へ米國の選擧戰は今や正に酣である、さきに全米にわたつて遊說旅行を試みた共和黨候補デユウイは今やその主力を中東諸州に注ぎ、これ等諸州の大都市において相次ぐ選擧演說に寧日なき有樣だ、これに對しルーズヴエルトは立候補當時には「余は今年の選擧では普通の意味での選擧運動は行はない」と彼一流の廣言を吐き、自信たつぷりのところを見せたにも拘らず選擧期日が切迫するや、急にみとしをあげて去る二十一日のニューヨークにおける演說を皮切りに、二十七日にはフイラデルフイアで、翌二十八日にはシカゴ、續いてボストンで選擧民に對し最後の訴へをなす筈だがその他デトロイト、クリーヴランドなどでも演說する豫定といはれる

ルーズヴエルト、デユウイ兩者の勢力は現在正に伯仲の間にあるといふことが出來よう、一兩月前までは米國からの諸情報は大體においてルーズヴエルトの優勢を傳へてゐたが、雌伏十二年にして白堊館の牙城を陷れんとする共和黨陣營の猛運動效を奏してか、デユウイの勢力伸張著しく、最近の各種輿論調査は兩候補の勢力伯仲、時としてはデユウイ優勢の結果を示すものさへ現はれ初めた、ルーズヴエルトが「陸海軍最高指揮官としての重責」をそつちのけに、あはてふためいてたしかに「普通の意味」以上の選擧運動に乘り出したのもこのせいであらう

されば今年の選擧は最近の大統領選擧のうちで最もその結果の豫測困難な選擧であり、選擧を旬日の後に控へた今日その形勢は益々混沌の度を加へてゆくばかりである、ただ確實なことは兩者のいづれが當選するにせよ、あくまで日獨兩國の抹殺を呼號する米國戰爭遂行の根本方針には殆んど何らの變更もみられないだらうといふことだ



【目　次】

西亞バルカンを繞る微妙な動き……二四九四
西亞ブロックの結成を企圖……〃
バルカンの勢力範圍……〃
頽りにイラン政府を攻撃……〃
米英兩國代表も退去……〃
カロル二世との關係を否定……〃
ソ聯油田視察を許さず……〃
赤軍諾港を占領……二四九五
ワルシヤワ北方で赤軍新攻勢……〃
赤軍を東方に擊退……〃
デブレツエンで赤軍主力を殲滅……〃
オランダ中部の戰鬪激化……〃
加軍の突入企圖を擊破……〃
英軍ヘルトゲンボツシユへ突入……〃
流星彈依然猛威を揮ふ……〃
【米　國】
ハリマンの報告を接受……二四九六
佛凍結金解放せん……〃
カルカツタへの空路計畫……〃
反亂黑人は全部有罪……〃
ハワイ戒嚴令撤廢……〃
オクラホマ再就役……〃
勝利に至る前奏曲……二四九七
眞珠灣事件の調査公表を要望……〃
【米　洲】
ホンジユラス革命軍勝利……〃
グワテマラ內閣成立……〃
サルヴアドル新內閣……〃
【英　國】
ソ聯の西亞政策に神經過敏……二四九八
【亡命政權】
ベルギー政權の危機……〃
ギリシヤ內閣改組……〃
【友邦軸陣營】
ソ聯、アンラ代表の入國拒否か……二四九九
重慶も佛政權を正式承認……〃
【イベリア】
佛西國境事件なほ續く……〃
獨人一千二百名西領土へ……〃
米英兩國の不當要求を拒否……〃
【南　伊】
獨立黨本部を閉鎖……〃
パレルモの暴動は今後への警報……〃
【特　輯】
白、赤テロの恐怖時代……二五〇〇―二五〇六
【資　料】
アルンヘム戰況報告……二五〇六―二五〇七

西亞バルカンを繞る微妙な動き

—英、西亞ブロックの結成を企圖—

（ベルリン二十五日發）ドイツ外務省當局は二十五日正午次の通り言明した

英國外相イーデンはモスクワからの歸途カイロアテネを歷訪してゐるが、外相の使命は英國政府の指導下に東地中海領域に西亞ブロックを結成するにあるとみられる、最近西亞に對する英國の外交活動は頓に活潑となつたが、ギリシヤ、トルコパレスチナ地方、エヂプト各國、それに恐らくイラン南部等をもつて西亞ブロックを結成する考へだらう、同方面における英國の勢力はソヴエト政府の外交進出で危殆に瀕してゐるので、イーデンは關係各國を歷訪して崩れ行く自國の地歩を補强しようといふのだが、英國政府の鋒先がソヴエト聯邦に向けられてゐるか、米國を相手にしてゐるかは必ずしも明らかでない、モスクワ會談ではバルカン地方並びに西亞の勢力圈については話合が纏らなかつたと思ふ

バルカンの勢力範圍

（ストツクホルム二十五日發）ロンドン來電＝英國外相代理リチヤード・ローは二十五日下院の質問時間に際し次の通り言明した

バルカン半島を英ソ兩國の勢力範圍に分割する協定がモスクワ會談で極つたやうなことはないブルガリア政府に對する休戰條件については目下米英ソ三國政府が協議を重ねてゐる、法律的にいふとブルガリア政府がドイツに對して宣戰を布告しても依然英勃兩國間には戰爭狀態が存在してゐる、米英ソ三國何れもまだブルガリア政府を共同交戰國として承認してゐない

頻りにイラン政府を攻撃

（モスクワ二十五日發）タス通信社のテヘラン電報は二十五日次の通り報道してゐる

首相モハメド・サエドがソヴエト聯邦との親善政策をとらぬため卽時首相の挂冠を要求する猛烈な言論戰がイラン國內に展開されるに至つたラツクス・バー紙の如き現內閣はイラン人がソヴエト聯邦との間に緊密な關係を樹立することを好まないと述べ、勞働組合の「サアフアド」紙も「現內閣は反動分子並びに自由の敵の道具に他ならぬ」と非難してゐる

テヘランの新聞二十社をもつて結成する「自由戰線」も現內閣がソヴエト政府の石油利權交涉を拒否したのを非難內閣の更迭を要求してゐる

米英兩國代表も退去

（リスボン二十五日發）テヘランからの電報によればイラン國內における米英兩國石油會社の代表もイラン政府との間における石油利權交涉が一向埒あかず、イラン政府は戰爭が終らぬ限り外國商社に利權を與へない方針を堅持してゐるため近くイランを去ることとなつたと傳へられる

カロル二世との關係を否定

（リスボン二十五日發）久しくメキシコ市に亡命してゐたルーマニア前國王カロル二世は歸國の途次米國で上陸を拒否されたが、ワシントン來電によれば右事件に關聯しソヴエト大使館は二十五日特にソヴエト政府はルーマニア前國王と何等關係を維持してゐない旨聲明したと傳へられる

油田視察を許さず

（リスボン二十五日發）赤軍がルーマニア、ブルガリア兩國內に進駐して以來同方面の情報が殆ど米英兩國政府筋に入らず問題化してゐる樣子だがプロエスチ油田に關聯しワシントンからのUP電報は二十五日次の通り報道してゐる

ルーマニア國は結局ソヴエト聯邦の一部に繰り入れられる形勢だからプロエスチ油田に關する米英兩國の利權は危殆に瀕しよう、現に米國の石油會社數社はプロエスチ油田の實狀調査のため代表を派遣しようとしたが許可を得ることが出來なかつた、米英ソ三國會談の次の最大議題はプロエスチ油田問題だ

昭和十九年 十月廿七日(金)
第三二二二號

同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

赤軍諾港を占領

(ベルリン二十五日發)ドイツ軍當局二十五日發表=北氷洋沿岸地區のドイツ軍は一切の軍事施設を破壞した後、キルケネス港市を撤收した

ワルシヤワ北方で赤軍新攻勢

(ベルリン二十五日發)ドイツ軍當局二十五日發表=赤軍は二十四日ワルシヤワ、ナレフ河橋頭堡間の廣汎な戰線で熾烈な準備砲擊の後、强力な直協機、戰車隊の掩護下に遂に大攻勢の火蓋を切つた、ドイツ軍は戰車主力を投じて直ちに邀擊、森林地帶において激鬪を展開した後、赤軍を擊退した

赤軍を東方に擊退

(ベルリン二十五日發)總統大本營は東プロイセンの戰況に關し二十五日次の公報を發表した

一、ゴルダップ及びグンビネン東南方においてはドイツ機甲軍は反擊に出て東方に進出した

一、その他の戰線においては赤軍は强大な兵力を持つて數地點で攻擊を加へ來つたが、ドイツ軍は數個所の赤軍突破口を閉塞した

一、赤軍は東プロイセン全域の空中戰で飛行機四十六機を喪失した

デブレツエンで赤軍主力を殲滅

(ベルリン二十五日發)總統大本營はバルカン戰線の戰況に關し二十五日次の公報を發表した

一、ドイツ軍はアルバニア東北部國境でブルガリア軍及び遊擊隊からなる小兵力を殲滅、更にモラヴア河西方地區で激戰を續行中である

一、ハンガリア戰線においてはドナウ、チツサ兩河間におけるハンガリア軍の攻勢は多大の戰果を收め、チツサ河下流及びソルノク地區では激戰が展開されてゐる

一、デブレツエン地區ではドイツ機甲軍は空軍の有效な協力下に包圍に陷れた赤軍第三十騎兵師團及び第三戰車旅團の主力を殲滅した

一、グロスカロル南方、サモス及び東部ベスキーヅ地區においては執拗な赤軍の攻勢を擊退した

オランダ中部の戰鬪激化

(ベルリン二十五日發)總統大本營二十五日正午發表=シエルド河口、アントワープ北方並びにヘルトゲンボツシユ地區における激戰は更にその熾烈さを增大した、カナダ第一軍並びに英第二軍は有力な直協機隊掩護の下に攻勢を展開、激戰の後僅小の地域を獲得したが、突破企圖は擊破されたオランダからロレーヌ地方に至る全線では局地的戰鬪が展開されたに過ぎない、ヴオージス山脈西方のモルタニユ河水源地域においてドイツ軍は數地區でドイツ軍重要防禦線を突破した反樞軸軍に對し、猛烈な抵抗を行つてゐる

加軍の突入企圖を擊破

(ベルリン二十五日發)ドイツ軍當局言明=カナダ軍は二十四日南ヴエフエルランド地峽に對して攻擊を加へ終日激戰を展開したが、南ヴエフエルランドへの突入には成功しなかつた、ヘルトゲンボツシユ地區では過去二日來英軍は西方へ向つて攻勢を續け、ドイツ軍の防禦線を數百米後退せしめるに成功したが、ヘルトゲンボツシユからドイツ軍を擊退することは出來なかつた

英軍ヘルトゲンボツシユへ突入

(ベルリン二十五日發)前線報道によればヘルトゲンボツシユ地區で作戰中の英第二軍は有力な戰車部隊をもつてヘルトゲンボツシユとムーズ河の中間地域に進出更に南轉して北方からヘルトゲンボツシユ市街の北部に侵入、目下激戰展開中といはれる

流星彈依然猛威を揮ふ

(リスボン二十四日發)ロンドンからのAP電報はドイツ軍の流星彈攻擊について次のやうに報道してゐる

ドイツ軍は過去四十八時間流星彈攻擊を休止してゐたが、二十三日夜二回に亘りイングランド南部に對し攻擊を加へた、攻擊は可成り熾烈で英軍は對空砲火で防戰に努めたが、多數の流星彈が飛來、或る町では自動車々庫に命中、車庫と共に多數の自動車、貨物自動車が炎上しさらに一彈はガソリンタンクに命中爆發した

【米　國】

ハリマンの報告を接受

―三巨頭不和の風聞頻り―

（リスボン二十四日發）ワシントン來電＝大統領ルーズヴェルトは二十四日最近モスクワから歸國した駐ソ大使ハリマンを白堊館に召致して長時間にわたり會談したが、會談終了後新聞記者團との會見で次の通り述べた

ハリマンからはモスクワにおけるチヤーチル、スターリン會談の報告を受けた、しかしハリマンの報告は極めて尨大なもので、漸くその四分の一がすんだに過ぎない、バルカン及びポーランド問題も、今日の報告ではまだ出て來なかつた、チヤーチル、スターリン兩者の會談は非常に圓滑に運んだとの印象を受けた、モスクワ會談でスターリン議長は東南歐洲の政治問題協議のため米英ソ三國の委員會が設置されるならばソ聯は喜んでこれに參加する旨意志表示したといふ噂があるが、余はこんな報告をハリマンから受けなかつた

しかしてハリマンはモスクワ會談中も米國政府に對して尨大な報告を送つてをり、それでもなほ足りずとしてハリマンをわざわざワシントンに呼び返したところから見ても米國政府就中ルーズヴェルトがモスクワ會談の結果にいかに重大な關心を抱いてゐるかが窺はれるが、米國政界の間では最近ルーズヴェルトとチヤーチル、チヤーチルとスターリンの關係は決して好調でないとの噂が頻りにとんでゐる

佛凍結金解放せん

（リスボン二十四日發）ワシントン來電＝米國政府は二十三日ド・ゴール政權を「フランスの臨時政府」として承認したが、この結果米國政府は米國内に凍結してゐたフランスの金塊を近く解放するものとみられる、一九四〇年フランスの對獨降伏前にフランスが國外に持ち出した金塊は約二十億弗と推定され、そのうち十億弗が米國内で凍結され二億五千萬弗がマルチニーク島に殘部が西アフリカその他に保管されてゐるといはれる、しかしフランスの金が解放されると同時にフランスに對して金債權を有するベルギー、ポーランドなどは直ちにその返濟を求めるべく、フランス金塊の解放は却つて困難な國際問題を惹起するものとみられる

カルカッタへの空路計畫

（リスボン二十四日發）ワシントン來電＝トランス・コンチネンタル並びにウエスターン航空會社社長ジヤック・フライは二十四日米國とカルカッタ間の空路計畫を發表したが、右計畫によれば同空路は米國からロンドン、パリ、カイロを經由カルカッタに至り時速三百哩のロックヒード・コンステルレイションを使用する豫定である

反亂黑人は全部有罪

（リスボン二十四日發）サンフランシスコ來電＝去る七月ポート・シカゴの彈藥船爆發事件の直後爆藥の積み込みを拒否した黑人水兵五十名に對する軍法會議はサンフランシスコでその審理を進めてゐたが、二十四日全部が有罪と決定個々に對する判決は米國内の黑人に對する反響を恐れてか發表されてゐない

ハワイ戒嚴令撤廢

（リスボン二十四日發）ワシントン來電＝ルーズヴェルトは二十四日大統領令をもつてハワイ地區の戒嚴令を撤廢次の聲明を發した

ハワイには既に戒嚴令の施行を必要とする事態存在せず、一般人に對する人身保護令の特權も回復さるべきである

ハワイ地區には日米開戰と同時に戒嚴令が布かれたが、太平洋の戰局が變りハワイに對する脅威が輕減すると共に最近は軍當局と民政機關との間に人身保護令の適用問題につき困難な問題を惹き起してゐた

オクラホマ再就役

（リスボン二十四日發）パール・ハーバー來電＝太平洋艦隊司令長官ニミツツは二十四日次の通り發表した

日本軍の眞珠灣攻擊に際し顚覆した戰艦オクラホマ號はその後浮揚し修理中だつたが最近再就役した

昭和十九年十月廿七日(金)
第三二二二號

同盟通信

海外電報 (第三種郵便物認可)

勝利に至る前奏曲

(リスボン二十四日發)ウオーセスター(マサチユーセツツ州)來電=海軍人事局長ランドール・ジエイコブスは二十四日ウオーセスターで演說し次の通り述べた

米海軍は苛烈な戰鬪段階を經て今や太平洋上如何なる場所においても思ひのまま日本軍を攻撃し得るまでになつた、卽ち現段階は最後の勝利に至る前奏曲ともいふべきであるが、特に太平洋において戰鬪を行つてゐる者は、何人もこの前奏曲の時代が今後どの位續くか乃至人的物的損失がどの程度に達するかを豫言することは出來ない、現在米國海軍の兵力總數は三百萬以上に達してゐるが、開戰前から海軍軍人だつたものはこのうち十パーセントで殘りは全部開戰後訓練されたものである、一方海軍艦艇は目下一日十二隻の割合で就役してゐる

眞珠灣事件の調査公表を要求

(リスボン二十四日發)ワシントン來電=海軍省は輿論の要求に押されて眞珠灣事件の眞相調査のため特別委員會を任命、この委員會は最近その調査を完了して報告書を海軍長官フオレスタルに提出したが、フオレスタルは報告の內容が軍機に觸れるとの理由でその發表を無期延期した、これに對し眞珠灣事件當時の太平洋艦隊司令長官だつたキンメルの顧問辯護士チヤールス・ラツグは二十四日フオレスタルに電報をもつて次の通り調査報告の卽時公開を要求した

過去三年近くにわたりキンメルは眞珠灣事件の責任者たるの汚名をきせられてきた、キンメルはこの汚名を雪がんとして公開軍法會議の開廷を要求したがこの要求は拒否された、政府當局のかかる態度は非アメリカ的である、海軍省は折角特別委員會を設置して眞珠灣事件の眞相を調査せしめたにも拘らず再び軍機に屬するとの理由でこれが發表を差控へた、眞珠灣事件の眞相發表が現在の作戰に影響を與へるといふごときは常識が許さない、海軍は直ちにキンメルが果して無罪であるか有罪であるかを國民に告げ知らすべきである

一方陸軍省の調査委員會も最近調査を終へて二十三日その報告を陸軍長官スチムソンに提出したが陸軍もまた軍機に屬すると稱してその發表を當分見合せることに決定した

【米　洲】

ホンジユラス革命軍勝利

(リスボン二十四日發)サン・ホセ(コスタリカ)來電によれば去る二十一日ホンジユラス大統領カリアスの獨裁に反對して峰起した革命軍はサルヴアドル、グワテマラ、ニカラガ三國境を越えてホンジユラス國內に侵入、爾來ホンジユラス國軍との間に激戰が展開され革命軍は二十四日サン・マルコス並びにオクトペクエ兩地で勝利を收めたといはれる、革命が成功すれば自由黨の首領で新聞人として知られるヒリオドロ・ヴアレが大統領候補に推されるとみられる

グワテマラ內閣成立

(リスボン二十四日發)グワテマラ市來電=フランシスコ・アラナ少佐、ヤコボ・アルベンス大尉及びホルヘ・トリエロを首班とするグワテマラ新政府は二十四日組閣を完了した、顏觸れ次の通り

外　相　エンリケ・ムノツ
內　相　ホアン・コルドヴアヘルナ
公共事業相　ラフアエル・ベイツ・デレオン
農　相　ペトロ・コリノ
藏　相　ガヴリエル・オレラナ
書記官長　ロドリゴ・ロブレス・チンチラ
陸　相　アラナ少佐兼任

サルヴアドル新內閣

(リスボン二十四日發)サン・サルヴアドル來電=サルヴアドル新大統領オスミン・サリダスは二十四日組閣を完了した、顏觸れ次の通り

內　相　エミレオ・ポンセ將軍
外　相　エリエタ・テス
文　相　アドルフオ・ベレツ
國防相　サルヴアドル・ベナトレヨ大佐

【英　國】

ソ聯の西亞政策に神經過敏

（リスボン二十四日發）イランの石油利權を繞るソ聯の西亞進出は半世紀に亘る英帝國の勢力圈を脅かすものとして言論界は事態を極度に重視「マンチエスター・ガーデイアン」紙及び「エコノミスト」誌は筆を揃へてソ聯の西亞進出の意義を强調して政府の注意を喚起してゐるが、更に「オブザーヴア」紙も去る十五日の社說でソ聯西亞政策の方向轉換を指摘して次の通り論じてゐる

外交政策の轉換

ソ聯外務人民委員部次長カフタラーゼ氏を首班とする石油使節團がイランを訪問して同國政府と交涉を開始したことは、ソ聯西亞政策の方向を示唆するものとして關心に値する、カフタラーゼ氏はイラン新聞「エツテラート」において、「ソヴエト政府はソ聯地理學者が折紙をつけてゐるイラン北部の油田を開發するつもりである、開發に當つてはイランの勞働者、技師を使ふことにならうが、以上に加ふるに一流のソ聯工業力をもつてすることはソ聯イラン兩國關係に好影響を及ぼすばかりでなく、イラン北部の工業に多大の寄與をなすであらう」と言明したが、ソ聯が意圖してゐた地域はケヴイルフリア地區であり、ソヴエト政府は以上が兩國の政治經濟文化上の紐帶を著しく强化するものと考へてゐるやうだ、しかしながらカフタラーゼ氏の聲明は革命以來ソ聯がとつてきた西亞特にイラン政策の重大轉換を意味するものである、一九二一年ソ聯はイランと條約を締結し、帝政ロシアに對するイランの債務を棒引きすると同時に、イランにあるロシア官民の利權を悉く放棄した、しかるに今日においては「資本主義的植民地政策」に對する主義上の反對は「左翼小兒病」として一笑に附されてゐる、イランに對するソ聯の經濟進出の動機はソ聯自身石油不足に惱んでゐないのだから寧ろイラン北部の石油を手に入れて世界市場の大輸出國になり、經濟復興期における機械類及び工作機械の輸入の支拂に當てようと企圖してゐると考へねばなるまい、イランはソ聯からの石油利權の讓渡要求に直面してゐるばかりでなく、米國もまたイラン東南部の石油資源に關心を示してゐる

【亡命政權】

ベルギー政權の危機　（ストツクホルム二十四日發）ブラツセルからのロイター電報は食糧問題を繞る亡命ベルギー政權の危機に關し二十四日次の通り報道してゐる

ベルギー國内における食糧事情の逼迫にベルギー共產黨中央執行委員會は「食糧問題の責任を取れ」との覺書を首相ピエルロに提出したが、ピエルロは二十四日右覺書を一蹴し、かつ食糧問題について論議する意思はない、と言明したまたベルギー炭坑夫組合も「炭坑操業を再開すると共に食糧供給の安定を圖るやう」との要求を提出しベルギー政權は今や重大危機に直面してゐる

ギリシア內閣改組　（リスボン二十四日發）アテネ來電＝亡命ギリシヤ政權は二十四日內閣を改造した、主な顏觸れは次の通り

首相、外相兼陸相ゲオルギオス・パパンドレオ
外務次官　フイリツプ・ドラゴミス
海相兼文相　カネロプオロス
陸軍次官　ラムブリアニデス
法相兼空相　ニコラス・アヴラム
藏相兼食糧相　アレキサンダー・ヅヴオロス
經濟相　エリアス・ツイリモコス
勞働相　ミルチアデイス・ポルフイロゲニス
農　相　ヨハン・ゼヴゴス
海運相　ペタール・ラリス
新聞相　ペタール・チヤリフアリア
保健相兼社會事業相　コンスタンチン・マロウシス
交通相　オーガスト・セオロギチス
無任所相　ゲオルグ・カルタリス

昭和十九年十月廿七日(金)
第三二二二號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

【反樞軸陣營】

ソ聯、アンラ代表の入國拒否か

(チューリツヒ二十四日發)ニューヨーク來電によればアンラ(反樞軸救濟復興會議)議長リーマンはチエツコ及びポーランドに對する救濟問題協議のためモスクワに赴く筈であつたが、突然モスクワ行きを無期延期した旨發表したといはれる、スイス通信社の報道はアンラ當局者もリーマンが何故訪ソを突然延期したか諒解し得ないといつてゐる旨傳へるとともに米國政府當局は躍起となつてこの延期がソ聯當局の「惡意」によつたものでなく、ソヴエト政府は目下外交問題で忙殺されてをり、リーマンの訪ソは暫く延期するやう要請して來たのだと强調してゐる旨報道してゐるが、消息筋はリーマン訪ソ延期の眞の原因はソヴエト當局がソ聯の「勢力圈」內にアンラの如き國際機關の代表が入り込むことを好まない點にあるのだとの見解をとつてゐる

重慶、佛政權を正式承認

(リスボン二十四日發)重慶來電=重慶政權は二十四日ド・ゴールを首班とするフランス臨時政府」として正式に承認した

占領下獨國民の餓死を企圖

(マドリード二十四日發)EE通信の報道によればアーヘン占領米軍司令は反樞軸軍占領下のドイツ國民に對し反樞軸國は食糧は勿論如何なる援助をも與へない意向だと言明したといはれる

【イベリア】

佛西國境事件なほ續く

(マドリード二十四日發)パリ來電=マキ匪團と合流した共和軍は過去數日來再びアラン溪谷方面からスペイン領に侵入、國境を隔る五百米のカネヤン並びに同市南方十六キロのヴイエラを占領したと傳へられる、但しレリダからのAP電報によればその後スペイン正規軍はカネヤンを奪回、かくて同市以南の共和軍は袋の鼠となり目下殲滅寸前にあるといはれ、現在までに判明したところでは共和軍の死傷は約三千名に達してゐるといはれる

獨人一千二百名西領土へ

(リスボン二十四日發)ロンドン來電=ロンドン駐劄スペイン大使館は、二十四日次の通り言明した

一萬五千名のドイツ人がフランス國境からスペインに入り込んだといふ報道が流布されてゐるが一千二百名のドイツ人がスペインに入り込み全部抑留されてゐるに過ぎない

米英兩國の不當要求を拒否

(リスボン二十四日發)米英兩國政府は過去二ケ年間各自國の公債を所有するポルトガル人に對し利拂ひを怠つて來たが、最近ポルトガル銀行に宛て公債利札買附人の名前を明示するやう要求するに至つたので、公債所有人は十日オポルトに會合、右要求を拒否するに決定した

【南伊】

獨立黨本部を閉鎖

(リスボン二十三日發)ローマ來電=シチリア島のパレルモで運動を續けてゐる獨立黨に對しイタリア傀儡政權は軍隊及び警察官を派遣二十三日獨立黨司令部を占據閉鎖した

パレルモの暴動は今後への警報

(リスボン二十四日發)ローマ來電=ボノミ政權のシチリア島高等辨務官サルヴアトーレ・アルデシオは二十三日スイス通信社の特派員と會見次の通り述べた

反樞軸國は一般にシチリア島が經濟的に自給自足し得るといふ誤つた考へを持つてゐるやうだが、實際には從來シチリア島民は島內の農產物のみによつて生活して來たのではなく穀物の大半を輸入に仰いでゐたのであり、今後とも反樞軸國から一層多量の食糧、特に穀物の供給をうけなければならないだらう、先般シチリア島民は生活難に耐へられず遂にパレルモで暴動を起したがその他反樞軸軍占領地區においても食糧難は相當深刻で、現狀のまま放置すれば更に重大な暴動が起る惧れが多いから米英兩國政府はパレルモ事件をよい敎訓として遲滯なく機宜の食糧對策を講ずべきである

特輯

白・赤テロの恐怖時代

―ド・ゴール十月の陣(續)―

井上勇

○在佛日本人のゆくへ

事のついでに敵國人として決して厚遇をうけてはをらぬ筈の在佛日本人に對するド・ゴール政權の態度をみてみよう、外國人に對するド・ゴール政權の一般方針は十月六日發表されたがこれによれば、戰爭開始以後フランスに入國した外國人は居住の縣外に移動することは許されず、近く收容所に一應全部收容の上、素性不審なものはそのまま止めおき他は釋放することになつてゐる、フランスと法律的には戰爭をしてゐない日本人はこの一般原則に入るわけであるが、事實上はド・ゴール政權と敵味方の陣營に別かれ、植民相のルネ・プレヴアンのごとき十月十六日ロイター記者に向つて「いづれ佛印には遠征軍を送つて、日本と一戰を覺悟の上で失地回復をする」といつてゐる位であるから、在佛邦人は敵國人扱ひをするつもりなのであらう、しかし現在のところでは、美術家を主力とする在佛日本人は何等官憲の干渉をうけず、米英軍充滿のパリの街々を自由に濶歩してゐるらしい、AP通信記者は、この「ジヤツプ」の人を人とも思はぬ態度、フランス官憲のこれに對する無關心につき當局におせつかいな質問を試みたところ「何萬人のフランス人が佛印で自由行動を許されてゐるのに對する相互的な措置として、日本人にはフランスでも自由行動を默認してゐるのだ」との答辨を得たといひ、フランス陸軍當局は「日本人は敵性外國人であるが、何しろ行政事務の停滯で、いまなほ適當な處置がしてないだけだ」といつたといはれる、いづれにしても少くともパリ在住の日本人諸君は、まだセーヌ河の朝霧の秋、カフエーのテラスに散るマロニエの落葉を珈琲の皿の上に樂んでゐると解して差支へないだらう

○國内軍問題一應は解決

フランス國内不安のいま一つ大きな問題はフランス國内軍の處理だつたが、十三日陸軍省とフランス國民抗戰會議の共同發表によれば、國内軍は一應フランス正規軍に編入することに、臨時政權との協定が出來て落着した、但し飽くまで紙の上の協定であることは申すまでもなく、パリ政權の實力が「交通不便」のため地方に徹底しないフランスの現狀においては、地方々々に國内軍が蟠居する事態は依然として當分は繼續するに違ひない地方によつては役所はがら空きで、國内軍のみが唯一の治安々定勢力である場合もその例少なしとしない、役所がよしんば存在しても「その武器を放棄せよ」と權威をもつていひ得ない場合も屢々あることが想像出來る、山賊は三日やつたら止められぬものかどうか知らぬが、血氣の青年を中心とするマキ團の連中が、いままで緣もゆかりもなかつた天下りの上の方からの一片の命令で、いくたのロマンスをはぐくんだ冒險生活を直ちに捨て去らうとしないだらうことも當然である、行政權も司法權も要するに生殺與奪の權を握つて號令した身が明日の日から人の命令で右向け右をしなくてはならぬとなると反抗もしてみたからう、南フランスではド・ゴール政權が任命した知事を二名までマキ團が捕縛して、國境に連行「追放」した例さへ傳へられてゐる

○外國人マキの始末

その上に問題なのは、マキ團に加入してゐる外國人の始末である、スペイン革命戰の殘黨は南佛各地を「占領」して、故國への進擊を用意しつつあり由々しき國際問題とならうとしてゐる

同盟モスクワ支局坂田特派員の十月十二日付電報によればフランス國内軍に間接直接參加したポーランド人は一百五十萬人に達し、彼らはフランス國内至るところ特に北佛炭抗地方に「解放委員會」を設立してゐるといふ、彼らは武裝兵力のみで一萬五千を有して「フランスのために」戰つたこれらの外國人武裝兵力をどうするか、これも難問の一つだ

昭和十九年 十月廿七日（金）
第三二二二號

同盟通信

海外電報
（第三種郵便物認可）

當初國内軍の解散を要求したとき、ド・ゴールはあはせてその武器の引渡しを求めて斷乎拒絶された、正規軍に編入といふことになれば、マキ兵も好きな武器は捨てないですむわけであるが、彼らが强硬に主張してゐる閣僚の椅子割當ての問題はいまだ解決されていない、今回の妥協はシヤルル・ド・ゴールの讓歩に基づくものであるよりもより强く米英兩國の壓迫によるものだとの、ドイツ側の見解もここに記錄しておく可きだらう

○不安の原因としての共産黨

英米の言論界では、フランスの國内不穩は共産黨の顯然隱然たる勢力の弘布に基くものであるとの見解がひろく行はれてゐる、これに觸れずしてはフランスの現狀を描くに完全でない、ロンドン「オブザーヴア」の十月八日パリ特電は語る

フランスの政治狀勢は過去二週間内に益々混沌としてきた、そして今や、嵐を呼ぶ爆發期に突入したといつてよい、導火線となり得る主なる要素として二つのものを擧げることが出來るが、その一は政治的であり、他は經濟的である、今日のフランスには富と貧との間に懸絶する差等が存在する、豪奢なる贅澤と憐れむに絶えた貧困とが隣合せに住んでゐるのだ、パリが特にさうであるが、ある程度地方の大都市も同樣であり、そこには戰爭とドイツ軍の占領によりて利益し、四ケ年何らの痛苦も感ぜず闇市場に感謝してゐる少數人があり、その傍らには辛うじて息の根が通つてきたことを幸ひとしなくてはならぬ無產大衆がある、この常規をはづれた富の不平等は革命の母胎としては注文通りである

今一つの重大な要素は共産主義の擡頭であり、これはある意味では最も重要な問題であるともいへる、少くとも、最も實證的であり、ダイナミツクであり、最も恐れられてゐるのが共産主義であることは確かだ、共産黨のクーデタに對する恐怖は「解放」の直後よりも、現在の方が一層大きいとさへいつてよい

生活に心配のない富めるパリ人が當時アメリカ人に向つて最も屢々發した質問は「共産黨がクデタをやつた場合、米國軍は果してわれわれを保護してくれるであらうか」であつたが、現在ではそれほど屢々はこの質問を聞かなくなつた、その代りとして共産黨の極端な殘虐物語がまたしても耳に入るやうになつてゐる

ラ・ロアル河の南方で起つてゐるといふ恐慌的な事態の噂ばなしが間斷なくパリの市中を經巡つてゐる、共産黨がツール、ボルドオ、ツールーズ等の町を占領した等の噂が耳から耳へ囁かれる、共産黨は無數の南佛町村にソヴイエトを組織し、工場を占領し、所有主は對獨協力者として逮捕告發されたといふ、かうした噂は誇張であること勿論だが、一般フランス人にとつては眞面目に考ふべき根底があることは爭へない、それにパリの内外の多くの工場では、地方でも同樣、勞働者は共産黨の細胞の指導下にあり、工場の經營についての發言權のみでなく、時には利潤の分配さへも要求してゐる、しかも、これがド・ゴール政府の政策とある程度、方向を同じくしてゐるとあつてはかかる傾向には一層拍車がかけられざるを得ない例へばルノオ工場の場合についてみても、政府は株を倍數にして、その半ばを勞働者に分け與へ、一種の混合整理委員會を設けて、勞働者、工場主それに多分は政府の代表も參加させ、工場を運營して行く意圖といはれてゐる

國民抗戰運動分裂の兆候

フランス國民抗戰運動も次第に二派に分れる兆候を深め、一は共産主義的となり、他は社會改革について進歩的な計畫に贊成ではあるが絶對に共産主義的ではない一派となつて對立しようとしてゐる、いままでのところフランスで最もよく組織化されてゐる團體は共産黨であり、黨員も最も多數を擁してゐるといつてよからう

漸進主義である社會黨が共産黨と提携するかどうかは極めて疑問であり、青年黨員は、共産黨との握手を望んでゐるかも知れないが、元老たちは保安的だとみるべきである、急進黨は農民黨として出直す氣配がみえる、これに人民民主黨を加へて以上四黨だけが、戰前の十指に餘る政黨群から生伸びて再出現したわけだ、以上述べたところだけでは勿論フランスの政治現狀を描くに不完全であるが、いま當分はフランスはなほ解かれない謎として止つてゐるだらう

○共産黨指導者の面々

十月八日パリで行はれた共産黨の民衆デモは會同するもの十五萬人をもつて算せられ、航空相テイロン以下、マルチイ、デユクロ等、黨首領の演説があり空前の盛會だつたといはれるが、スイスからの情報によれば、いまやフランス各地、共産黨の宣傳事務所のない町は一つもなく、一ケ所どころか多いところでは、一つの町に二十三ケ所もあるところがあるとつたへられる、しかも、夢のやうに貧民窟の裏通りではなくて、眼抜き通りに堂々たる事務所をかまへてゐるさうだ

フランス共産黨々首の地位にあつたモーリス・トレーズは、一時は既にモスクワからパリに歸還した旨が傳へられたが、十月十八日のジユネーヴ情報として、トレーズはまだモスクワに滯在中で、南佛自由運動會議なる正體のよく判らぬ大會が「トレーズの即時フランス歸國の要求」を滿場一致で決議したとDNBは報じてゐる、トレーズが歸國のためには、ド・ゴールがその權威をなほ認めてゐる第三共和制下の法律で敵前脫走罪に問はれた彼であつてみればまづ特赦の手續きを取らなくてはなるまいと、何事も合理主義のフランス人は考へてゐるとこれまたDNBが註解してゐる

ブルーム內閣の航空相で、フランス人からはフランスの航空事業をサボタージユした張本人で敗戰の直接責任者であるかのごとく一九四〇年前後は非難され、アメリカまで亡命しなくてはならなかつたピエール・コツトも何時の間にか歸國し、大いにソ聯と共産黨のお先棒を擔いでゐるやうである、コツトは今佛・ソ協會の會長を勤めてゐるが、彼の意見によれば、佛・ソ兩國の協力こそ、フランスの新外交政策の基調となるべきであり、フランスの解放をもつて戰爭は終らず、ソ聯と腕を組んで最後まで戰ふことがフランス國民の義務であるさうである

○根のない花・ド・ゴール

話が横に外れたが、フランスの國內の不安にはまだ原因がある、ド・ゴール政權の基礎がまだ確立しないことだ、現在の臨時政權はアフリカの砂漠から、米英軍の尻馬に乘つてパリに驅せ歸つただけで、何ら國民の總意の上に基礎をおかず、いはば、根無草みたいな存在で、ただ國民の內にこの花美はしと讃美するものもあるので、根があるかのごとく裝つてゐるだけである、よく根を下ろさないと折角の花は凋んで、たれ顧みるものもなくならう

臨時政府自體といふよりもド・ゴール自身は已れの地盤固めに熱心ならざるを得ない立場にあることはよく判るが、一方共産黨を始めとして、あはよくばド・ゴールに取つて代つてフランスを支配しようといふ勢力が政府の部外にもある、これらのものはド・ゴールの弱體化を計らうとしてゐるのは勿論だ、それが表面に現れてゐるのが諮問會議を繞る紛爭であり、それが描く國內の波紋——それに連れて動搖する民心といふことになる

○もめる諮問會議

諮問會議（コンセイユ・コンシユルタチーヴ）はド・ゴールがアルジエで獨裁カモフラージユのために作つたもので、それ自體は文字通り諮問機關であり、法律的に何らの決定權を有しないが、フランスの將來を決定すべき國民會議（アサンブレ・ナシヨナル）開催までの過渡機關として、唯一の民意代表機關であり、その故にド・ゴールにとつては小五月蠅い存在にはちがひない、アルジエ時代の構成は抗戰諸團體代表に四九、前上下院議員が二〇、そのほか亡命政客三五といふ議員割當であつたが、國民抗戰會議派は、本國復歸以來議員割當の倍增を要求、これに對して、舊議會派も諮問會議々長フエリツクス・グウナンを旗頭として議員數四〇名を求め、これには抗戰會議々長ルイ・サイヤン以下が反對してゐる

ド・ゴールの採決案による新議員數はフランス本國抗戰運動代表を一四九、本國以外抗戰派二五、舊上・下院議員から六〇、海外屬領代表一二、合計二百四十六名といふ內譯にならうと十月八日のロンドン「オブザーヴア」は報じてをり、上・下院議員から選擧は一九三六年の總選擧當時の政黨勢力を土臺として按分比例で割當てるといふことである、會議員が果してどうなるか、まだ定つてゐないが、一說によれば會議は十一月七日愈々召集されることになつたといへば議員割當も速急に決定しなくてはなるまい

昭和十九年 十月廿七日(金)
第三二二二號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

ド・ゴールからいへば「民主々義」の體裁をととのへるために諮問會議は組織したものの、自らの政治力の不足は、これを實力をもつて統御することが出來ず、事毎に押されがちで、今度の議員數增加も、先の內閣改造と同じく、局面の一時的糊塗にすぎない、彼は一方で抗戰會議派の申分を容れると共に、諮問會議開催を見越しての政府工作の手を着々と打ちつつあるやうだ

○ド・ゴールの政治工作

まづ前上院議長ジャンヌネーを入閣させて、その議會勢力への生臺を粉碎し、逆にこの老人を伴つて、舊議會勢力の懷柔を企てるなど藝も相當こまかい、曾つてアルジエ時代、足蹶にして追出したアンリ・ジロオ將軍に面會を申込み「意氣投合」の結果、ジロオが某要職に返り咲くだらうなどと噂されてゐるのも、抗戰派中、舊フランス軍閥を押へる一つの手である、十月十一日の兩者の會見は、フランス陸軍省のスポークスマンを通じて特に「親密なるものだつた」旨が公表された

第三共和制最後の大統領アルベール・ルブランはヴイシー憲法によれば一九四〇年九月をもつて免職になつてゐたはずであるが、第三共和國の憲法を、いまだに生命あるものとするド・ゴールにとつては眼の上の瘤的存在だつたが、これも十月十一日ド・ゴールの招きに應じて、グルノーブル近在の隱居所からパリに久々で出て來、長時間に渉る協議の結果は、あつさりと大統領の職辭任を申出でたといふことであり、ド・ゴールは邪魔にはならぬまでも煙たい存在だつた前大統領をここに淸算しえたわけだ

諮問會議の召集は、臨時政權の生命をある意味では決するものとみられるが、いまのところではこれを機會にド・ゴール反對勢力が一擧に、この政權を打倒して、新政權の樹立に向ふがやうなことはないと見るのが至當のやうだ、ド・ゴールの事前地固め工作と同時に、國際環境はいまだド・ゴールを必要とし、ド・ゴールの處分はフランス人の一黨一派を以つてしては決行しえない狀勢が周圍に存在する、が、それは別に說かう

ド・ゴールが十月十四日の演題で言及したフランスの暗澹たる國民生活を釀し出す原因の主なものは以上の通りである、彼が同時に批難した米英の對佛態度を說明する段取りが來た、筆者はこれが相關連して、一つの事實の裏と表とを形成することを指摘しておいたが、その意味は、かかる國民生活の不安定、國情の不穩なるがためにそれを理由として、米英は現在のフランスに「冷淡」なる態度をとり、己れの利益を交換的に取引きしようとしてゐるのに對して、ド・ゴール政權はフランス國情の不安定の大部分の原因は、米英がド・ゴール政權の「權威」を認めず、これに有效適切な援助を與へないがためであると逆捩ぢ的態度をとり、もし、米英にして、その對佛態度を改めない限り、フランスはフランスとしての獨自の路を步まんのみと見得を切つたのが、十四日の演說だつたといふのである

○英米への泣き言

ド・ゴールの演說に先立つこと數日、十月九日外相ビドオは記者團に對して「米英兩國が臨時政權を承認しないといふなら、それも結構ぢやないか、われわれはフランスにゐるんだし、ここにゐる限り主權を代表してゐる事實には何の變りもないからなあ」と嘯呵を浴せてゐる

獨軍占領當時地下新聞として廣く讀まれてゐた「フラン・チラール」はいまでは、穴倉から出てパリ街頭を白晝のさばり步き、フランス言論界に便衣隊的役割をつとめてゐるが十月八日の「一筆啓上」欄では

アメリカもイギリスも、イタリア政府を承認したが、聯合國の最新參者にとつて實に結構で、お目出度至極である、ウンベルト殿下が公けに謝意を表されたのも氣持ちはよく判る、次に承認されるのは多分アントネスコを繼いだルーマニア政府で、何の困難もあるまい、お次はブルガリアの番で、その次にはハンガリー、次の次はベルリン、東京といふ順だらう、フランス人が何時の日か同じ「名譽」を受ける機會のありやなしやを誰か知ろ

と八つ當りをしてゐる、同じ地下紙で、陽の眼をみるに至つた「レジスタンス」紙は、同じ頃「フ

ランスは納得出來ぬ」といふモーリス・ラクアの論説を掲げてゐるが要旨はかうだ

ワシントン、ロンドンの政府が臨時政府を正統政府として承認することを遲らしてゐる態度には明白にフランスを第二流國と見做し、平和交渉においてフランスの權益を僭奪しようとする意圖が看取出來る

○英米、フランスの共産化を恐る

十月十日の「フラン・チラール」紙はまたも再び同じ問題を取上げ「フランスは何もド・ゴール政權の承認をこれ以上英米兩國に求めることは要らんではないか、實は、今まであまり度々求めすぎた、これ以上求めることは屈辱以外の何ものでもない、フランスは今まで何人も裏切つたことはないが、今度はまんまと裏切られた形だ」と泣言を並べてゐる、かうした米英に對するフランスの不滿が、ド・ゴールの演説の中に晶化したわけであるが、では英米が何故にフランス臨時政權の承認を澁つてゐるか、その理由については、フランスの「空位時代」の中で概説したが「スヴェンスカ・ダグブラデツト」紙は十月十四日紙上で

英米がド・ゴールを承認しない一部の理由は、フランスに共産革命が起るのを怖れるからだ、革命が起つた場合、ド・ゴールを承認しておかない方が、秩序維持のために英米の軍隊使用が容易であるといふ打算なのだ、承認しておけばド・ゴールの要求のあつた時でなくては、軍隊は使へないわけだ、ド・ゴールが今持つてゐる軍隊は戰車師團が一つとガルド・レピユブリカン（儀式用の騎馬兵）だけで、それだけでは、まさかの時に間に合はぬと英米側は考へてゐると述べてゐる、十月十四日のINS通信によれば米國務省がド・ゴール政權の承認を澁るのは、現在フランスに行はれてゐる恐怖政治から判斷するも、ド・ゴールは獨裁者であるとの見解を國務省筋が持つてゐるからであり、英首相チヤーチルも同意見であるとのことだ、同通信はつけ加へて、チヤーチルは自分のド・ゴール觀を摘記してメモを作り、それはやがて英國新聞の指針として情報省から各新聞社に內達されたが、その中には「ド・ゴールは行く先々で後にイギリス嫌ひの雰圍氣を殘して行く」といふ字句があつたといふことである

○ドイツはどう見る

ドイツ側のこれに對する見解は十月十九日の記者會見で外務省當局が語つてゐる

米英兩國がド・ゴール事件を最後的に解決する時機はまだ來てゐないと見る可きだ、ドイツ外務省が持つてゐる情報によれば、英國外務省もホワイト・ハウスも現在の南フランス及びピレネー地方の事態については痛く衝撃を受けてゐるやうだ、種々の情報を綜合して判斷するにルーズヴエルトもチヤーチルも、ド・ゴールの地位が決定的になつたとは考へてゐない、ド・ゴールは加特力教徒の保守派や、舊政黨を抱込まうとしてゐるやうだが「赤」や「白」のマキ團の趨勢は次第に反ド・ゴール傾向に結晶して行つてゐる、しかしまだフランスの革命運動はその灼熱、爆發點にまでは到達してゐないとみるのが至當のやうだ

これ等見解は一應正鵠を突いてゐるであらうが、なほ机の上で作り上げた氣味が多分にある、ロンドン「オブザーヴア」の十月八日のパリ電は同六日の臨時政權の閣議の內容をつたへてゐるが、その中に次の如き一節がある

閣議に持出された問題の中には英佛關係にとつて極めてデリケートな點が含まれてゐた、それはシリア及びレバノンの問題だ、フランス將校によつて指揮されてゐる特殊地方部隊の支配權を放棄すべしといふシリア、レバノン政府の要求は拒絕すべきであるとのビドオ外相の意見は閣議の全會一致的支持を得た、フランス各新聞は英國のシリア・レバノン駐劄公使スピアス將軍が再び中東に歸任したことを「驚き」を以つて報じてゐる、社會黨の「ポピユレール」紙は「すでに敵の脅威の去つたこの地方にイギリスの兵力が增强されることは何等軍事的必要とは照應しない」ことを指摘してゐる

同じ日、ベイルート電はフランス臨時政權がシリア・レバノンにおける「保安警察隊」（シユルテ・

昭和十九年十月廿七日(金)
第三二二二號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

ゼネラル)を兩國政府の共同支配の下におき、その指揮官は原住民を以て當てたいといふシリア・レバノン政府の要求を拒絶したことを報じてゐるが、アメリカの北阿における、英國のシリア・レバノンにおける要求が、承認問題の眞の祕鑰をなしてゐるのではないかと推斷するのは岡目八目位の値打ちはあると信ずる

ワシントン政府が同じ頃、在華府ド・ゴール政權代表に暗號電報の使用を禁じたのも、單に「作戰理由」に基くのみではないやうである、卒直にかかる米英の對佛態度を利權獲得のための掛引と規定してもよからう

○ソ聯への接近

英米のこの態度に對するフランスの反撥は「ロンドン、ワシントンを相手にせず」の氣配より一歩を進めて、意外の方向へ走り行く傾向さへ示し始めた、DNB十月十七日ストツクホルム電によれば「フランスは西歐諸國と絶緣して、ソ聯に接近せんと試みつつある」とのことである、DNBは「ゲツテボルグス・ハンデルス・オホ・スエフアルトス・チドニング」紙所報として次の如く傳へてゐる

ロンドンではド・ゴールが西歐諸國から超然としてソ聯に接近しようとしてゐる兆候が次第に多くみえ始めたとしてゐる、英米の新聞ラジオはランバトン・オークスの新國際聯盟案について、聲せんばかりの宣傳をつづけてゐるが、パリでは、ソ聯がこの國際聯盟から遁げ出さうとしてゐる態度を至當であるとしてゐるやうだ、西歐諸國の見解はフランスからは極めて冷淡に扱はれてゐる、ド・ゴールの痛烈な英米批難演說は、ロンドンでは、パリとロンドン、ワシントンの關係が次第に冷却しつつある幾多の證據事實を明らかに表象するものであるとしてゐる英國は最近フランスに對してオランダ、ベルギーを加へて、英國と共に西歐聯合を結成する案を打診したが、パリは拒絶したといはれてゐるこの點に關連して、ロンドンではド・ゴールがスペイン問題に關して拒絶的態度を取つてゐるのを刮目すべき事態と解してゐる(註―スペイン共和軍がスペイン國境を侵犯した事件に對してフランコ政府は鄭重にフランス臨時政權の善處を要望してゐる)

ここで一寸說明しておかねばならぬのは、英國の西歐聯合案であるが、イーデン外相が九月二十八日の英下院の討議席上で「英國は一定の亡命各政權との間に非公式豫備交涉を、英國政府の發意で開始した」と言明してゐる通り、英國はソ聯の西歐洲進出にそなへて白、蘭、諾、佛等の西歐諸國の大同團結を策してゐる、これに對するフランスの態度は必ずしも瑞典紙の報ずる通りではないと考へられる節があるが、いまはそれに觸れてゐる暇がない

○虛々實々の掛引

それはともあれ、フランスのがうした態度に一番驚いたのは英國であつたらしい、チヤーチル首相は九月二十八日の議會戰況報告演說中で「余が英佛兩國は互ひに結び合ひ同盟と作戰協定によつて、兩國軍が協力せねばならぬと考へたのは四十年以前であるといひ、ウイルソン大統領の約束を無視して、米國政府が英佛の保障體制から脫退したことを遺憾とし「近い將來に多幸な取極めに達することを期待」しつつ、なほ且つ、その條件として「擴充されたフランス諮問會議が召集されることを必要とするがごとき口吻をもらしたことは當分、フランス臨時政府を承認する意志のないことを、諮問會議の擴充實現困難を見越して、暗示したものだつた、これに對してド・ゴール政權は直ちに對應的措置を講じて、諮問會議の召集日の決定、議員數增加などの手を打たうとしてゐることは既に述べた通りである、英國は裏を掻かれた上に、まかり違へば背負投げを喰ひさうな危險を感ずるに至つた、十月十八日のUPロンドン電が「英國政府はド・ゴール政權をフランス臨時政府として卽時承認するに決し、米國政府に同樣措置を同時に取るやう要請したものと解される」と報じ、英國政府のこの決定は、ド・ゴールの十四日の演說によつて促進されたものだと解されると註したのは、さもありなんといふよりほかはない

米國はルーズヴエルト大統領が十三日の記者會見で「米國政府はド・ゴール政權を事實上の政府として承認するつもりだ」と言明してゐるほか、既に九月下旬前ブラジル駐劄大使ゼフアソン・カフエリを大使の資格でパリ駐劄特派使節に任命し

同人は十月十五日早くもパリに赴任してゐるがこれは米國の見解では「事實上」の承認を意味してゐるものではないらしい、同じやうにド・ゴール政權のロンドン代表ルネ・マシグリは既にロンドンにあり、皇帝謁見まで賜つてゐるが、これまた單なる「便法」と解しておくべきであらう

「デ・ジスーレ」にしても「デ・フアクト」にしても、ド・ゴールの一喝はともかく、英米に對して相當な衝動を與へ、承認取付けを促進したことは爭へず、この點、臨時政權は英米に對する最初の一點を獲得したわけだ

○アングロ・サクソンに對する不信

スイス電報通信は十四日のド・ゴール演說に英國が如何に驚いたかを次の通り報じてゐる

「ド・ゴールの演說は英國人を吃驚りさせ乃至は眼を醒まさしたといふことが出來る、演說の底流をなすものはアングロ・サクソンに對するフランス人の傳統的不信の感情であるが、その或る部分では分明りとフランスが聯合國により等閑視されてゐることを率直に告白して慨嘆してゐる

ド・ゴールの同じやうな言辭は一九四三年アルジエで一度聞かされ、それ以前にもロンドンで二三回發せられたことがあり、別に新らしいことでもなく、時とすれば今回よりも一層激しい言葉が使はれたことすらあつたが、ド・ゴールのかうした感情は六月六日以來、消え去つたものと考へられてゐた、そこへこの度の演說でロンドンの公衆には一大衝撃だつた、新聞紙のあるものは極めて行儀よくつつましくド・ゴールを批難したものもあつたが、大部分は明らかに、ド・ゴールの態度を不可解とした、イギリスの大部分は、英國には罪はないとしてゐるやうだが、政治界の多くの人々は、西歐諸國がフランスを扱ふ途において非外交的であり、不遜だつたことを認めてゐる、「ニユース・クロニクル」は「フランスには苦情をいふ正當な理由がある」とまでいつてゐる

ロンドンの良心は確かに、ド・ゴール政權を正統政府として認めてゐないことについて、後暗さを感じてゐる

英佛の反目は、フランス抗戰派により熱狂的に油を注がれてゐるが、不幸にして、折惡く西歐諸國聯合組織案の商議が丁度始つたばかりのところに再燃した、ド・ゴールのいふがごとく、フランスが眞に、英米によつて政治的、經濟的に除け者にされてをり、彼等は自國の利益をのみ追及してゐるのだと考へてゐるとすれば、英國の西歐聯合も、歐洲政策の戰線統一も實現の機會は失はれてしまうわけだ」

ド・ゴールの十月の陣は、ただ一片の演說によつてこれだけの旋風を歐洲に捲き起したわけだ

（一九・一〇・二〇）

資料

アーカット少將の アルンヘム戰況報告

「デイリー・エキスプレス」紙十月三日號

徹收の止むなきに至つた理由

アルンヘムのわが軍は次に列擧した理由から撤收せざるを得なかつた

一、遙か南方に降下した米第百一師、第八十二師に第一第二の優先權を與へねばならなかつたため、英第一空挺師團を一回分の輸送で悉く降下せしめることは出來なかつた

一、アルンヘム周邊の敵は頗る優勢で、英空軍としては空挺師團をアルンヘム市より八哩隔つた地點以內には着陸せしめ得なかつた

一、最初豫期以上の强硬な抵抗に遭遇した

一、二日目の朝到着するはずの第二回輸送部隊が天候不良その他の理由により午後五時にやつと到着した

一、新規に到着した部隊の橋頭堡は鐵道沿線以北で戰鬪の渦中に投ぜられ、他部隊に合流した時には最早兵員は僅々半ケ大隊に減少してゐた

一、陣地に配備するだけの兵員が不足してゐた

昭和十九年 十月廿七日(金)
第 三 二 二 號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

撤收當時の狀況

ドイツ軍は一刻もわれらに休む暇を與へず戰車と自走砲をもつて執拗にわが陣地を襲つてきたが常に小部隊を組んでをり、歩兵一箇中隊より多いことは決してなかつた

もし彼らにしてあの時大擧して一齊攻撃に出てゐたならばわれわれは到底對抗しかねたであらうわが方のさなきだに數少い對戰車砲は破壞され小銃では間尺に合はなかつた、それにも拘らずわが方は戰車と自走砲計二十五を鹵獲した

市街の一角から次々と家屋の爆破を初めるのがドイツ軍の得意とする戰術である、わが方には未だ據るべき街路が若干殘つてゐると報告した時はそのことは事實であつたが、最後に近づいた頃には最早われわれの據るべき街路は一つも殘つてゐず、薄氷を踏むの思があつた、結局轉進命令が下つてほつとした次第であつた、ドイツ兵はわが陣地内の森にひそんでゐた、でわれわれは自己の陣地内で敵に砲撃を浴せるといふ辛い破目に陷つた

轉進に際しては南岸の師團から掩護を受けた、所望の射撃目標を通告して夜から早朝にかけて猛射を繼續して貰つたのである、だが脫出に際しては周圍から完全な十字砲火を浴び僅かに二つの道路に活路を見出したが、皆その時までに綿のやうに疲勞してゐながら全力をつくして呉れた、結果は余の最初希望してゐたよりも良好であつた

三日間食糧の給與はなかつた、若干の民家には食物があつたが、先鋒部隊は三四日といふもの料理した食物などロにしない有樣だつた

南岸の師團が渡河作業を引受けてくれ事は順調に運んだ、兵はよく規律を守り岸でおとなしく乘組の番を待つてゐた、折から篠つく雨が降つてゐたのはわれわれにとつては勿怪の幸ひであつた、敵は可成り猛烈に臼砲機關銃を射ちまくつたが運悪くその銃口の眞正面に飛び込んだ者以外には大した效果を擧げなかつた、艀舟による渡河は午後十時に始まつて翌朝の東雲まで續いた、夜が明けるや否やドイツ軍は兩翼から機關銃を浴せてきたこれには少々弱つた、だがわれわれは概ね一箇師の三分の一程度の兵員を脫出せしめるのに成功したわけだつた

徹收を決意するまで

作戰當初或る大隊は市内を突破して、下ラインに架せられた重要橋梁に辿り着いた、そしてドイツ兵が仕掛けておいた爆藥を除去し、水曜日夕刻まで、否或者は木曜日朝までここに頑張り通した

二日目に到着した旅團は市内を指して進擊したが鐵道沿線以北の高地に紛れ込み市内から數哩以内には近寄り得なかつた、アルンヘムの完全包圍を目論んだわれらの素志は水泡に歸し、市内の旅團と連絡をつける機會も空しく去つた、余は鐵道沿線以北の戰鬪渦中に投ぜられてゐた旅團をすでに地歩を確保した余の第三旅團の手によつて救出し北岸に堅固な一廓を造るべく決意した、しかるに鐵道沿線以北から離脫せんとした旅團が西方より進擊するドイツ部隊と正面衝突して苦境に陷入つたため余の企圖は十分には成功しなかつた

ドイツ戰車隊は旅團の中に突込み夥しい死傷者を生ぜしめた、やつとのことで旅團を救出してわが陣地に收容した時は彼等は消耗の極にあつた、余は遂に北岸橋頭堡の撤收を決意して、市の西方三四哩の渡河點を確保すべく努力した、そしてその通り實行した、その一方市内に籠城しつつ心細くなりかけた旅團に對しては一、二度兵員その他の補充を試みたが、市内に籠城する旅團には死傷者が續出し、剩へ食糧は極度に不足した、彼等と連絡をつける企圖も失敗に歸し、かうなつては退路を完全に遮斷された、彼等は見殺しにするの外なかつた、われわれは四ケ所に陣地を形成したがドイツ軍は長くはそれを放置しておかなかつた、彼等は熾烈な臼砲射撃を加へてきた、そして有力な戰車陣と自走砲とで突貫してきた、われらは止むなく師團の全員を繰り出した、普通は實際戰鬪に從事することを要求されない者まで狩り集めた

最後の四日間はただ熾烈な臼砲と機關銃の射撃の反覆であつた

師團司令部はアント・サリー亭だつた、最初のうちは多數の部屋を占有してゐたが、三日目の夜には地下室暮しとなり下り、外出も險呑となつた

わが陣地は漸次壓縮され遂に北面幅九百碼、川岸に沿つては千二百碼の小橋堡となつてしまつたのである

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月廿八日(土)　第三二二三號
編輯發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　電話(18)人同盟通信社

同盟通信 海外電報 (248)

【目　次】
スペインに赤色脅威……二五〇八
フアラン(黨政治會議召集)……〃
政府デマを反駁……〃
獨外務當局見解表明……〃
海軍最高會議も開催……〃
イランで特別議會を要求……〃
バルト三國にも入るを許さず……〃
東普國境激戰續く……二五〇九
全戰線安定化へ……〃
米軍の損害四十七萬二千……〃
【反樞軸陣營】
西部戰局長期戰化せん……二五一〇
英米兩國、伊政權を正式承認……二五一一
續々ド・ゴール政權を承認……〃
米、ソ聯の外交攻勢に不安……〃
休戰條件で米ソ對立……〃
ソ聯對獨態度を闡明……二五一二
赤軍の諸領進出に英憂慮……〃
【ソ　聯】
反樞軸通商會議に參加……〃
【英　國】
亞國武官本國引揚げ……〃
【イベリア】
越境共產分子を掃蕩……〃
【ドイツ】
配給食糧に不安なし……〃
【米　國】
對日戰の困難を強調……二五一三
ルーズヴエルトこそ孤立主義者……〃
陸軍新參謀次長……〃
【特　輯】
ケベツクからモスクワへ……二五一四—二五一六
【資　料】
「失明せる巨人」……二五一七—二五一九
米紙、援蔣不足の辯……二五二〇—二五二一

世界の焦点

近代戰において空軍が演ずる役割の大きいことは周知の通りである、アヴランシュの突破以後フランスにおけるドイツ軍の防禦線が崩壞したのはパツトンの指揮する米第三軍機甲部隊の快速によるものととかく考へられ勝ちであるが、米軍機甲部隊の進擊路を啓開したのは米軍戰術航空隊であつた、英紙「サンデー・タイムズ」の報道によればノルマンディ戰以來、米第一軍には第十九戰術航空隊が米第三軍に第九戰術航空隊がそれぞれ協力し英第二軍カナダ第一軍に對しては英第二戰術航空隊が掩護作戰を行つてゐるといふ、未だ公表はされてゐないが米第七、第九軍も夫々有力な航空隊の支援をうけてゐる樣だ、かくのごとく西部戰線における反樞軸軍は極めて贅澤な空軍による援助をうけてゐるのであつて、反樞軸軍の作戰から空軍を切り離して考へることは出來ない

ドイツ軍事消息通の見解によればアイゼンハウアーが一切の準備を終へジーグフリード線に對する本格的攻勢を展開する際、恐らく空挺部隊が使用されるであらうといはれる、ルイス・ブレアトンの指揮する第一獨立空挺軍團は約七ケ師からなり、その中半分は過般のオランダ作戰に使用されたが殘りの半分は依然無疵で待期してゐるといふ、ジーグフリード線攻擊が開始され攻防兩軍が四つに組んだ時機を狙つて空挺作戰を敢行し、兩軍の間の均衡を破らうといふのがその狙ひであらう成程空挺作戰の第一の條件が制空權の確保にある以上、この作戰は反樞軸軍にとつて不可能ではあるまい、しかしジーグフリード線の後方にはラインといふ絶妙の自然要塞があるこの二重の深い防禦線を果して空挺部隊によつて突破出來るであらうか

米、ヴアチカン壓迫か

(リスボン二十六日發)ローマ來電によれば米國大統領ルーズヴエルトはヴアチカン法王廳に壓迫を加へソヴエト政府との間に友好協定を締結せしめるべく努力してゐるといはれる、ルーズヴエルトのかかる工作は、カソリツク國たる中南米諸國における根强い反ソ、反共產熱に鑑み、ヴアチカンとソ聯との友好關係を樹立することにより、ソ聯と盟約關係にある米國の中南米諸國に對する地位を强化せんとするにあると解される

スペインに赤色脅威

—フアランヘ黨政治會議召集—

（マドリード二十六日發）スペイン統領フランコ將軍は二十五日フアランヘ黨の政治會議を召集、重要協議を遂げた

政府デマを反駁

（マドリード二十六日發）スペイン政府當局は西佛國境地方におけるスペイン赤色分子の策動に關し二十六日次の見解を表明した

スペインの内政並びに西佛國境地方における軍事情勢に關し最近種々の煽情的な噂が流布されてゐるがスペイン國民は驚くよりも寧ろ興味を感じてゐる位だ、以上の根も葉もない流言の策源地がスペイン赤色分子であることはいふまでもないが、國家主義スペインの敵が利用する武器はスペイン内亂以來一向た變化なく相も變らぬデマと中傷だ、たとへば彼らはスペインの法廷で正式に死刑の宣告を受けた分子を「スペインの解放者」だと騒ぎ立ててゐるが、スペイン國境附近の村落で赤色スペイン匪團が住民のため私刑に遭つてゐる事實は「スペインの解放者」がとんだ解放者であることを如實に物語つてゐる

獨外務當局見解表明

（ベルリン二十六日發）ドイツ外務省當局は二十六日の記者團會見においてスペイン情勢に關し次の通り言明した

フランス南部におけるスペイン赤色分子の暗躍並びにスペイン國境地方におけるスペイン正規軍と赤色遊擊隊との衝突事件が頻々と傳へられてゐるが、以上の事態は極めて重大と考へざるを得ない、戰鬪は主としてスペイン領内で勃發してゐるが、かかる事態が繼續するならば、スペイン政府は北部地方における戰鬪に關する正式の戰況公報を連日發表しなければなるまい、スペイン赤色分子の活動は、今のところ政治的性格を帶びてゐるだけだが、このことはソ聯のスペイン進出意圖を明瞭にしめすものだ、英國外相代理リチヤード・ローは最近下院において「モスクワ會談ではバルカン勢力圈の分割問題は決定をみなかつた」と言明したが以上の言明はスターリン議長がバルカンにおける活動の自由を確保するためモスクワ會談でバルカン問題を討議することを回避したことを示すものであり、ソヴエト政府は更にスペインに對しても活動の自由を確保しようと努めたことは容易に想像される

海軍最高會議も開催

（マドリード二十六日發）スペイン海相モレノ提督は二十六日海軍將官並びに海軍基地司令官全員よりなる海軍最高會議を開催した

イランで特別議會を要求

（リスボン二十六日發）イラン政府が石油利權に關するソヴエト政府の申入れを拒否して以來、タス通信社はイラン新聞界が首相モハメド・サエドを非難してゐる旨頻りに繰返してゐるが、テヘラン來電によれば野黨議員團は國會議長モハメド・タヂヤクに對し石油利權交涉に關し檢討を加へるため特別國會を招集することを要求したと傳へられる、但し「ジユルナール・ド・テヘラン」紙の報道によればイラン政府はあくまで既定の方針に基き、戰爭終了まで石油利權に關する各國との交涉は一切拒否する意圖といはれる

バルト三國にも入るを許さず

（ストツクホルム二十六日發）二十六日のモスクワ・ラジオは要旨次の通りの放送を行つた

赤軍は今やエストニア、ラトヴイア、リトアニアのバルト三國に復歸した、右三國は當然大ソヴエト聯邦のうちに包含さるべく、ソヴエト體制が確立されるであらう、さればソ聯としてはこの三共和國のうちに帝國主義者を初めその他の干涉勢力の滲透を斷じて許さないであらうソヴエト政府は既に赤軍占領下ルーマニアのプロエスチ油田地帶に米英兩國石油資本代表の入りこむことを斷乎拒否してをり、今後赤軍占領地の利權問題をめぐつて米英ソ三國間に益々困難な問題の發生が豫想される

昭和十九年十月廿八日(土)
第三二二三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

東普國境激戰續く

(ベルリン二十六日發)總統大本營は東部戰線の戰況について二十六日次の通り發表した

一、バルカン中央部の峽谷地帶において激戰が展開され、ドイツ軍はスコプリエ(セルビア)東方及び東北方でブルガリア軍の攻擊を、またクラリエヴオと西モラヴア河流域における赤軍の猛攻擊を擊退した

一、ハンガリア南部ではドイツ軍及びハンガリア軍はチツサ河下流を渡河しようとする赤軍企圖を阻止した、デブレツエン地區では戰鬪續行中

一、東ベスキーヅ地方では赤軍は猛攻擊を再開したが、ドイツ軍擲彈兵部隊はこれを擊退、赤軍戰車十二臺を擄坐せしめた、しかし赤軍の一突出部では戰鬪續行中

一、東プロイセン國境に近いアウグストヴオ地區及び同市内では激戰續行中

一、グンビネン東南方で赤軍の新銳部隊がまたも突破作戰を企圖したが、ドイツ軍機甲部隊は反擊によつてこれを阻止した、同地區の過去四日間の戰鬪で赤軍は戰車二百九十五臺、砲百二門を喪失した、國民突擊隊は國防軍と肩を並べて祖國防衛のため勇戰してゐる、東プロイセン國境地方の他の地區ではドイツ軍は赤軍の攻擊を擊退乃至阻止した

一、エーベンローデ地區では赤軍は終日に亘る一戸一戸を爭ふ激戰の後遂に同市内に突入するに成功した

一、エーゼル島のスウオルベ半島ではドイツ軍は赤軍の攻擊を擊退、戰車十一臺を擊破した

全戰線安定化へ

(ベルリン二十六日發)DNB軍事記者マックスクルル博士は二十六日歐洲戰線の全般戰況について左の通り論じてゐる

× × ×

歐洲戰域においては殆んど全戰線に亘つて情勢は一段と安定するに至つた、オランダにおいても東プロイセンにおいてもドイツ軍の防禦線には全然脆弱點は見出されない、二十五日東プロイセンにおいては再び最も熾烈な戰鬪が展開された、過去數日來激戰の巷となり結局ドイツ軍が抛棄するに至つたエーベンローデ(スタルポーネン)を別とすれば赤軍は東プロイセンにおいて地域を獲得するどころか逆に喪失してゐるのである、グンビネン東南方においては赤軍は新銳戰鬪部隊を投入し同方面において初めて赤軍はドイツ軍の新型戰車「虎王」と接觸するに至つたが、同戰車の優秀性については敵もこれを認めてゐる、更に總統大本營の戰況公報は初めて國民突擊隊の戰鬪參加を發表してをり、またドイツ軍が奪還した東プロイセンの諸村落においては非難圖員に對して赤軍が加へた殘虐行爲が判明するに及び、ドイツ軍の抵抗は更に增大することにならう

赤軍は目下アウグストヴオに對する攻擊によりリイツク、トロイブルグ、アウグスブルグを結ぶ三角防禦地帶の尖端を粉碎しようと企圖してゐる最北翼においては情勢はドイツ軍の豫期通り進展してゐる、フインランドの脫落によつてラプランド地帶に布陣するドイツ軍の右翼は危險に瀕したが、ドイツ軍としては同方面の部隊をノルウエー地區に撤收する以外方法はなかつたのであり、ドイツ軍は撤收によつてスエーデンと大西洋との間に新防禦線を設定することが出來た、以上の撤收作戰の過程においてドイツ軍はキルケネスを撤收したが、撤收作戰は未だ終了したわけではなく、目下なほ續けられてゐる、赤軍は時にドイツ軍に追蹤しドイツ軍の側面を衝かうとしたが成功しなかつた

ハンガリア南部の情勢は赤軍の戰車先鋒部隊を潰走せしめた後明確になり始め、赤軍はテイス河を越えるに至つてゐない、バルカンから北方へ移動中のドイツ軍は山嶽溪谷地帶においてブルガリア軍及びチトー軍と激戰を交へてゐるが、ドイツ軍主力の組織的離脫作戰は以上の戰鬪によつて些かも妨害されてはゐない、かくてドナウ河へ近づいてゐる有力なドイツ軍はハンガリアで作戰中の赤軍に對し新たなる脅威を與へてゐる

米軍の損害 四十七萬二千

(リスボン二十六日發)ワシントン來電=米國陸軍長官スチムソンは開戰以來の全戰線における米國陸海軍兵員損害が十月十四日現在までで四十七萬二千七百七十九名に達した旨二十六日發表した

【反樞軸陣營】

西部戰局長期戰化せん

（ストツクホルム二十四日發）反樞軸陣營內部では九月末頃まで極端な樂觀論が瀰漫し冬季戰の必要なしといふ見解が公然と橫行してゐたが、アルンヘム地區における英空挺師團の殲滅後は以上の樂觀論は一掃され、冬季戰は勿論長期且つ困難な戰ひが西部戰線の將來に控えてゐるといふ眞面目な意見が支配的となつてゐる樣子で「アフトンブラデツト」紙のロンドン特派員は反樞軸軍部內における以上の雰圍氣を次の通り傳へてゐる

アイゼンハウアーは對獨戰が終末に近付いてゐるどころか更に長期且つ困難な戰鬪を必要とすると聲明して、米英兩國民の弛緩した士氣を引緊めたが、反樞軸前線特派員は本年末までの十一週間にジークフリード線を突破出來るとは考へてをらず、英國民は冬季戰は不可避でありドイツ國防軍の急速な崩壞を期待することは出來ないと觀念してゐる

獨軍戰鬪能力の擴大

また「マンチエスター・ガーデイアン」紙もドイツ軍の抗戰力を正當に評價し戰爭長期化の必然性を豐富な資料をもつて次の通り論じてゐる

オランダ海岸からスイス國境までの全線に配備されてゐるドイツ軍の前線兵力は六十個師程度で依然強力な抗戰力を有してをり極端に伸びた兵站線を擁する反樞軸軍がドイツ軍陣地を簡單に突破することは絕對に不可能だ、一ケ月ばかり前には米英兩國の一般は反樞軸軍が秋季戰を推し進めるならば數週間でドイツの組織的抵抗を粉碎出來ると考へてゐたが、今日に至るも以上の樂觀的事態は實現されず、ドイツ軍は寧ろ著しく强化されてゐる實狀だ、卽ち

一、反樞軸軍兵站線の延長

一、ドイツ軍の極めて高度な戰鬪能力

の二つが一時はドイツ國土內を一氣に席捲しさうな反樞軸軍の攻勢を停止せしめた最大の要因である

兵站補給の問題

以上にみられるやうに反樞軸軍の兵站線の極端な延長が西部戰線の戰局を膠着せしめた主因をなしてゐるが、英軍事專門家リデル・ハート大尉は二十四日の「デーリー・メール」紙上で次の通り論じてゐる

西部戰線では補給問題が決定的役割を占めてゐる、緒戰當時におけるノルマンデイ戰線では兵站線が五十粁程度であつたが、現在では十倍に達してをり緒戰當時には一個師の兵力は週に約千瓲の補給を必要としたが、現在では二、三千瓲に增加してゐる、アイゼンハウアーの兵力は六個軍團と推定されるが、兵士一人につき週十瓲以內の補給を要するから全戰線で二、三百萬瓲の補給を要するわけだ、しかし鐵道が殆んど全部破壞されてゐるため、貨物自動車に賴らねばならず、每日中型貨物船四十乃至六十隻がフランスの各港灣に軍需品を運び十瓲トラック七千輛が補給に當つてゐる、反樞軸軍が大規模の物量戰を展開するためには以上の數字の數倍の補給を必要とする、補給問題が反樞軸軍の作戰を遲らせてゐるのはこのためだ

英米兩國、伊政權を正式承認

（リスボン二十五日發）ワシントン來電＝米國政府は二十五日イタリアのボノミ政權をイタリア政府として正式に承認する旨發表した、右につき國務次官ステチニアスは要旨左の聲明を發した

米國政府は一九四二年リオデジヤネイロで開かれた汎米會議の決定に基づきアルゼンチンを除くその他米洲諸國と協議の後イタリア政府と外交關係を再開するに意見一致した、右に關しては米國政府は英、ソ兩國政府とも協議した、よつて政府は現在ローマに駐劄するイタリア諮問委員會の米國代表アレキサンダー・カークをイタリア大使に任命し、來る十一月に再開される上院の承認を求めることとなつた

（ストツクホルム二十五日發）ロンドン來電＝英國政府は二十五日英國は去る九月二十七日の英國首相チヤーチル、米國大統領ルーズヴエルトの發表したイタリアに對する共同聲明の原則に從ひイタリアのボノミ政權を正式に承認した旨發表した

昭和十九年 十 月廿八日(土)
第三二二三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

續々ド・ゴール政權を承認

(リスボン二十五日發)パリ來電=ド・ゴール政權外務省はブラジル、南アフリカ、ペルー、ハイチ、ヴエネズエラ各國政府がド・ゴール政權を「フランス臨時政府」として承認したがさらにスエーデン政府も二十五日承認する豫定なる旨二十四日發表した

リマ來電=またペルー、コロンビア兩國も承認したと傳へられる

アンカラ來電=トルコ外相ハサン・カカルは二十四日アンカラ駐在ド・ゴール政權代表に對しトルコ政府は同政權を「フランス臨時政府」として承認する旨通告するとともに近くパリ駐劄トルコ外交代表を任命する旨言明した

米、ソ聯の外交攻勢に不安

(リスボン二十五日發)今次大戰前に英帝國の利益圈として自他共に許してゐた東歐洲及びバルカンに對するソ聯勢力の駸々たる進出は英國政界を愕然たらしめ、チヤーチルが七十一歳の老軀を提げてケベツク會談後の席温まる暇もなくクレムリン宮に馳せ參じたのも、僅かにせよ曾つての勢力圈内に橋頭堡を確保しようといふ最後の努力だがソ聯の自由奔放な外交攻勢は米國内に根を張る對ソ疑惑感を再び沸騰させ、英國に劣らず事態を重視せしめてゐる實狀だ

特に米國はモスクワ會談に加はつてゐないため東南歐問題から除け者にされはしないかと危惧してゐると傳へられるが、英紙「サンデー・タイムズ」のニューヨーク特派員は米國の不安焦躁を次の通り報じてゐる

獨ソ開戰以來米國の孤立派と傳統的な反ソ派はソ聯の東歐洲及びバルカン政策を不安と疑惑の眼で注視してきたが、過去數週來米國を支配する深刻な不安は以上の孤立派や反ソ派に局限されるものではない、外交評論家は東歐洲やバルカン問題が米國の理解の埒外にあり、たとへ押へやうにも押へられないからといつて一知半解の意見をソ聯に押しつけるのは愚劣でもあり不道德だと稱し、滔々たるソ聯不信の聲を抑へようと掛つてゐるが儚ない努力に過ぎない、米國の愼重な輿論は別に遠い彼方の地域問題乃至は理念上の問題について獨斷の泥沼に陷つてはゐないが、東歐洲及びバルカン情勢について深刻に憂慮してゐることだけは事實だ、それだからこそ米國は痛くなるほど眼を瞠いてモスクワ會談の動きを凝視し、會談の公報が英ソ兩國の完全な意見の一致を謳つてゐるにも拘らず、テヘラン會談當時ほどには喜んで信じようとしないのだ、ルーズヴエルトがモスクワ會談に參加しないのは懸案の問題に無關心なためではなく、大統領選擧が目睫の間に迫つてゐるためで、彼は選擧後にモスクワよりもつと便利な場所で三國會談を開催することを切望してゐると傳へられる

休戰條件で米ソ對立

(リスボン二十五日發)ハンガリア政府は今や「矢十字」黨の指導のもとに擧國抗戰に邁進してゐるが、新體制確立以前、一部少數の敗戰分子が企圖した米英ソ三國政府との間の休戰交涉に關聯し、米ソ兩國が正面衝突を演じたことが二十五日米國の國務省から發表された、大使ハリマンがモスクワからワシントンに歸還、モスクワ會談の經過をルーズヴエルトに報告してゐる際何故國務省がかかる內情を暴露したかは判らないが論爭が極めて深刻であつたことは事件に關する次のUP電に徵しても明らかだ

ハンガリア政府に對する休戰條件としてソヴエト政府は現物賠償四億弗を四ケ年に亙つて支拂ふことを主張した、ところがフインランド、ルーマニア兩國との休戰條件では賠償金は三億弗となつてゐる、しかもハンガリア國內の經濟狀態は羅芬兩國よりも惡く戰爭直前の一ケ年の輸出は總額で一億弗に足りない、卽ちソヴエト政府が一ケ年分の償金として要求する額にも足りないわけだから米國政府は強硬に反對し、米ソ兩國間に激論が闘はされた

ソ聯對獨態度を闡明

(リスボン二十五日發)米國政府は反樞軸の儚い夢たるドイツ處分案につきソヴエト政府との間に完全な諒解が成立してゐるかの如き印象を與へようと努めてゐるが、米國の希望に反してソ聯が獨自の見解を抱いてゐることは明瞭だ

「デイリー・メール」紙のニューヨーク電報によればワシントンのソ聯大使館が發行する英文宣傳雜誌は最近ドイツ處分案に關する論說を揭載しスターリン議長はドイツの分割にもドイツ軍の絶滅にも贊成してゐない、スターリン議長の見解によれば以上のことが不可能であるばかりでなく、得策でないことは三歲の童兒といへども理解出來るといふのである

と述べて、ナチズムとドイツ國民を明確に區別するソ聯の態度を明らかにし、米國政界に多大の反響を捲き起したと傳へられる

赤軍の諾領進出に英憂色　（ストックホルム二十五日發）赤軍カレリア戰線軍が芬諾國境を突破してノルウエーの北氷洋要港キルケネスを占領したことは米英特に英國に多大の衝動を與へ、ソ聯側がフインランドにおけるドイツ軍の退路を斷つためでロンドンの亡命ノルウエー政權とも旣に諒解濟だと主張してゐるにも拘らず、英國はノルウエーに對する赤軍の全面的侵攻の前提とみて憂色を禁じ得ぬ樣子で、「アフトン・チドニンゲン」紙のロンドン電報も英國はノルウエーを自國の勢力圈と見做してゐたため、赤軍の進出を强硬に反對してきたと報じてゐる

【ソ　聯】

反樞軸通商會議に參加　（リスボン二十五日發）モスクワ來電＝ソヴエト政府はきたる十一月ニユーヨークで開催される反樞軸通商會議への參加招請を受諾した旨二十五日發表した

【英　國】

亞武官本國へ引揚げ　（ストツクホルム二十五日發）ロンドン來電＝ロンドン駐劄のアルゼンチン大使館附武官は今回英國を引揚げ歸國することとなつた、英國政府は最近ロンドン駐劄の南米諸國武官に對して西部戰線訪問の招請を發しこのうちにはアルゼンチンの武官も含まれてゐたが、英國政府はその後急にアルゼンチン武官に對する招請のみを取消した、今回の引揚げはこの結果とされてゐる

【イベリア】

越境共産分子を掃蕩　（マドリード二十五日發）スペイン軍のブルゴス軍管區當局は共產匪のスペイン國境侵入事件に關し二十五日次のやうに言明した

スペイン北部國境地區に勃發した諸事件は事實上終熄したといつてもよい、フランス國內で組織されたスペイン系共產分子はさる十月四日、五百乃至三百名で隊を組み國境を越えスペインに侵入したが、スペイン軍は猛烈な反擊を加へた、共產匪團は中隊、大隊、旅團に編成され組織も裝備も秀れてゐた、人民政府當時の陸相リケルメその他の知名な將軍連が直接共產匪團の指揮をとつてゐるといふ事實はないが勿論匪團と無關係ではない、ブルゴスの軍管區內では共產分子に同情を示した地方は一つもなく、國境地區の住民は當局を絕對に信賴してゐる

【ドイツ】

配給食糧に不安なし　（ベルリン二十五日發）ドイツ農相バツケ氏は「ドイツ農業政策」誌上で開戰第六年を迎へたドイツ國內の食糧狀況に關し次の通り述べてゐる

本年度の穀物、特に小麥の收穫高は昨年度に比し多少の減少が豫想されるが、昨年度は平年以上であつたからその差は大したものではなく、また每日の配給食糧のうちで最も重要な小麥粉馬鈴薯その他農產物の供給には何らの不安もない、バターの生產量は前年同樣であるのみならず、農民諸君が率先輸送に協力してくれたため增加さへ豫想される、採油植物の植付面積は昨年に比し增加し、野菜の植付は昨年と同樣である、以上の通り戰爭第六年においても、國民に必要なカロリーの九〇%以上を占める主食糧が確保されることは疑問の餘地がない

昭和十九年 十月廿八日(土)
第三二二三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【米國】

對日戰の困難を強調

(リスボン二十五日發)ニューヨーク來電＝陸軍次官パターソンは二十四日ニューヨークにおける演說で對日戰の困難を強調し次の通り述べた

日本陸軍擊破の唯一の方法

太平洋戰域の狀態を考察するならば日本に最後の打擊を與へる前に米國軍は恐るべき距離と地勢との不利を克服しなければならぬことが直ちに明らかとならう、太平洋戰域において米國軍が大きな進擊を行つたことは事實である、日本軍を擊破しつつその基地を一步々々日本に向つて押し進めたことも事實である、しかしながらわれわれがまだ日本軍の主勢力と會戰してゐないことも事實だ、日本陸軍の兵力は依然として強大でありしかもこれは新壯丁の召集によつて益々補强されつつある、日本の陸軍を擊破せねばならぬが、米國がその有する最大の力を結集し陸海空の三方面から總攻擊を加へることがこれを擊破する唯一の方法である

日本軍の守勢作戰

日本軍の守勢作戰は決して防禦にのみ立つことでなく却つて戰術的攻勢作戰に出るにある、日本軍はその守備する地域の海岸線を單に攻擊に對し抵抗する受動的防禦線とは考へてゐない、彼らは却つてこれを攻擊の基地として來襲軍が上陸する前乃至は上陸を許してその直後に擊滅せんとしてゐるのだ、卽ち日本軍はその海空軍の勢力によつて反樞軸軍が日本の內線防禦線內に上陸せんとする時はこれを悉く叩きつぶさんと身構へてゐるのだ、これがために日本は目下全力をあげて恐るべき有力な空軍を建設せんとしてゐる

堅牢な內郭防禦線

一方日本軍はその沿岸の防備を愈々堅固なものとしてゐる、われわれは現在までの戰鬪で日本軍の前哨基地に過ぎなかつた島々の沿岸防備でさへ如何に恐るべき堅固なものであつたかを眼のあたりみせつけられた、米國軍はあらゆる上陸作戰に先立ち海空から物凄い砲擊を加へたにも拘らず日本軍の立籠つた特火點、防塞その他の防備陣は結局上陸してから一々これを爆碎しなければならなかつた、日本の內郭防禦線の防備がいかに堅牢なものであるかは想像に難くない、米國軍が日本の土地に上陸作戰を强行せんとする時はわれわれはノルマンデイで反樞軸軍を待ち構へてゐたドイツ軍より遙かに有力な日本軍の攻擊を受けることを覺悟しなければならぬ、しかも歐洲と違つて米國軍に援助を與へるやうなゲリラ部隊は日本の土地にはゐない、實に日本陸軍兵力は開戰當時よりも强大である米國はじつくりと腰を据え、死ぬまで戰爭する覺悟をきめてゐる國民によつて構成されてゐる國家の心臟部を衝かんとしてゐることを忘れてはならぬ、對日戰の前途を樂觀するやうな者は必ずあとでその認識不足を悔ゆるだらう

ルーズヴエルトこそ孤立主義者

(リスボン二十五日發)ニューヨーク來電＝共和黨大統領候補デユウイは二十四日ミネアポリスにおける選擧演說で、ルーズヴエルトが去る二十一日ニューヨークで行つた演說に應酬し次の通り述べた

ルーズヴエルトは共和黨政權の過去の政策を例にあげて共和黨に孤立主義の烙印を押さんとしてゐるが、就中ルーズヴエルトの如きは米國歷代大統領のうち最も顯著な孤立主義政策をとつた大統領である、一九三三年ロンドンに開かれた世界經濟會議を意識的に失敗に歸せしめ當時の國際協力を破壞した人物こそルーズヴエルトだつたではないか、彼は今しきりに新國際聯盟のことを口にしてゐるが、われわれは彼が一九三三年當時には舊聯盟との協力に頑として應じなかつたことを忘れてゐない、更に一九三五年にかの全く無意味な中立法を通過したのも民主黨の支配下にあつた議會であり、ルーズヴエルトもこれに署名したのである

陸軍新參謀次長

(リスボン二十五日發)ワシントン來電＝陸軍當局は陸軍參謀次長ジョーゼフ・マクナーニーを地中海方面反樞軸軍副司令官兼在佛第六集團軍司令官に任命したが、その後任として現作戰局長トーマス・ハンデイを新參謀次長に任命した旨二十五日發表した

特輯

ケベックからモスクワへ（上）

――米英ソ三國關係最近の動き――

長谷川才次

ケベック會談についてニューヨークの週刊「タイム」誌は九月廿五日號で次の通り報道してゐる

△ケベックにおける結果

六日間に亘る討議の後終了した第二次ケベック會談は、二大部門は分れる、第一の地域は太平洋である、歐洲戰爭が終る時反樞軸軍が如何にしてその豐富な戰力を活用するかがこの地域における壓倒的事實だ、惟ふに渺茫たる太平洋も米英兩國が東京に加へることが出來る器材と人員とを容れるには足りまい、ルーズヴェルト大統領は「太平洋戰域は唯一人の人間が把握するには餘りに廣大だ」といつてゐるが、恐らく進路と司令官とは現狀のままだらう、卽ちビルマ地方からシンガポールに至る道は、マウントバツテン卿の麾下に、比島への進攻はマツカーサー將軍のもとに、中部太平洋並びに千島方面からの進行が行はれる場合には同戰線も、ニミツツ提督の管下に入らう、第二の重大な問題卽ちアイゼンハワー、パツトン、ブラドレー、パツチデヴアース、スパーツ各將軍麾下の兵力のうちどれだけを轉用するかについてはいづれの決定も發表されてゐない、彼れはマツカーサー將軍ニミツツ提督のもとに仕へるのだらうか、指揮系統の問題の次に主要な問題は兵站補給である、戰時輸送相レザース卿と米國の戰時海運局總裁モリー・ランドの名が顧問陣の筆頭に上つてゐる、ランドは如何にして船舶を建造するかを知つてをり、レザース卿は船に貨物を積込むのに奇蹟的材幹を發揮した

△會談の主要難關

ケベックのシタデル前面で記者團の質問を許さずに兩棟梁が記者團に說敎したところによれば、今度の會談では太平洋戰線で、どうしたらすべての人々に十分仕事をみつけてやるかが一番問題だつたといふ、米國海軍部內が獨力で太平洋戰爭を片付けることが出來ると主張してゐるのに驚いてチヤーチル首相はケベックにやつてきた、彼れの曰く「諸君だけこの旨い仕事を獨占することは許さない、分けて貰はねばならない」ケベック會談の結果英國は分け前を約束して貰つたらしい

ケベック會談における議題の第二はドイツの處分案だ、この點についてはご兩人とも絕對啞のやうに默つてゐる、しかし戰後のドイツ處理案が會談で多くの注意を惹いたことは明だ、占領に關する技術的細目以外は、ドイツの命運に關する問題は主として政治的である、ケベック會談に參加しないロシヤのことも考へねばならない、ロンドンからの報道によればドイツの占領後ドイツ領土內に出來る米英兩國の國境線についてロシヤは不安を抱いてゐるといふ、信ずべき報道によればロシヤはドイツを打ち破つた後、二つの事柄を希望してゐると傳へられる、第一に器械、第二に國內の荒廢地區を再建するのにドイツ靑年の助力を得ることだ、ロシヤはかくして移植された恐く數百萬に達するドイツ人を共產主義化しようとするだらうか？　ロシヤはこの點で米英兩國の疑念を一掃せねばならぬかも知れない」

極度に先走つた「タイム」誌の杞憂を修正する必要はあるまい、ケベック會談の主要議題はほぼ以上の叙述につきてゐるといへよう、しかし本格的な報道として「タイムズ」紙の報道を次に揭げよう

ケベック特派員九月十六日　英國外相イーデン外務次官サー・アレグザンダー・カドガンがダンバートン・オークスから到着したので、ケベック會談後新たな意義を帶びるに至つたが、會談は旣に最終段階に入つた、明日正午でルーズヴエルト大統領とチヤーチル首相との協議は終了を告げ、兩人が記者團代表を引見して會談の本格的部分はここに終りを告げる譯である

昭和十九年 十月廿八日(土)
第三二二三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

イーデン外相は十五日夜到着直後チヤーチル首相と會見しシタデルにおける晩餐會に出席した、お客はチヤーチル首相、ルーズヴエルト大統領、カナダ首相、マツケンジー・キング、モーゲンソー財務長官、サー・アレングザンダー・カドガンチヤーウエル卿である、終つてチヤーチル首相ルーズヴエルト大統領並びにイーデン外相は夜遲くまで協議を重ね、十七日朝サー・アレグザンダーを交へて會談を遂げた、一方米英兩國の軍事代表は十六日協議を重ね、英軍カナダ軍代表もまた別個に會談を遂げた

今まで會談は主として作戰に重點をおいてゐたが、今度は重點が多少移つて會談の政治的意義が表面にでてきてゐる、イーデン外相到着の結果だが、歐洲戰線の速な進展で政治的經濟的爭點が前面に現れ、緊急かつ微妙な諸問題が持上るに至つた、イーデン外相の到着により、チヤーチル首相は歐洲における新な戰局の推移に基き益々緊急處理を要するに至つた諸懸案を改めて計量出來るに至り、サー・アレグザンダーの來着で、チヤーチル首相イーデン外相は直接ダンバートン・オークスでの議事經過を知ることが出來た、歐洲戰局の現段階において世界の情勢を新しく檢討することが絶對に必要である、英國勞働省の人的資源局長ゴルドン・インス、陸軍省次官エリツク・ステードも十五日到着して以來協議を重ねてゐる、今度の會談では反樞軸軍將來の戰爭遂行を統合し發展させねばならず、人的資源の配分、兵力の配備を變へる必要があるので、兩人が會談に參加してゐるのは當然だ

「タイムズ」紙ワシントン特派員九月廿七日 ケベツク會談の後ルーズヴエルト大統領とチヤーチル首相とがハイド・パークにおいて、歐洲の將來に關する諸政策を扱ふ諸主張について、更に協議を遂げたことが二十六日ロンドンとワシントンから發表された、發表は更に「これら討議の結果については戰略上軍事上の諸理由、並びに他の同盟各國による檢討が終るまで差し當り發表することは出來ない」と付け加へてゐる、イタリア國内の諸問題についても討議が加へられ、大統領と首相とは次の聲明を發表した

「イタリア國民は過去十二月間内にフアシスト並びにナチの支配を脫却し、自由となつて民主主義の側に立つて戰ふ意思を實證した、イタリア國の政治的更生とフアシスト體制の打倒を期するイタリア人を激勵するのが義務だと思ふが故に、イタリア國民に對し共同の各敵國擊破に協力する一層大きな機會を與へたい、米英兩國民はローマにおける最近の出來ごとに戰慄を禁じ得ないが、イタリア國民の責任は更に大きく、イタリア政府がかかる事態の再發を阻止するため機宜の措置を講ずることを期待する、今後統制權を漸次イタリア政府に委讓するが、勿論同政府が法と治安とを維持し、正規的に裁判を執行出來ることを實證せねばならない、以上の變更を劃するため反樞軸管理委員會を單に反樞軸委員會と改稱する、イタリア駐劄英國高等辨務官は更に大使の肩書を帶びるに至る、現にローマ駐劄米國代表は大使の地位に在りイタリア政廳に對してワシントンとロンドンとに直接代表の任命を要請する

イタリアに關する直接第一の考慮は飢餓と疾病と恐怖との救濟である、反樞軸復興救濟會議に對しては、イタリアに對し、醫療救護その他の必要物資を送る旨宣言するやう米英兩國代表に訓令した、同時にイタリア國内の經濟再建策について第一段の措置を講じなければならない、これらの措置は主として、日獨兩國との抗爭にイタリア國とイタリア人の全資源を傾注する軍事的目標のために講じられよう、以上軍事上の理由に基き、米英兩國はイタリア人が戰爭遂行に必要な動力組織鐵道自動車輸送路その他の交通機關を回復するのに援助し、これら復興計畫を支援するため技師技術家並びに工業專門家を派遣する方針である、イタリアに關する對敵取引條例の適用にも修正を加へイタリア國民の利益のためにイタリア國と外界との商取引を復活させよう、最後のドイツ軍がイタリア領土から立ち去り、イタリア全國を通じて自由な選擧が執行され、イタリア國民が「各國の偉大な家族」の裡に適當な地歩をかち得る日が到來するのを待望する」

「タイムズ」紙社說九月二十七日　「新なイタリア」

實際には必要な限り管理が加へられようが、反樞軸管理委員會は今後管理といふ言葉を名稱から取除くこととなつた、イタリアと反樞軸國との間には形式的には依然戰爭狀態が續いてゐるにも拘らず米英兩國代表は今後大使の地位につき、イタリア政府は代表をワシントン、ロンドンに派遣するに決定した、勿論事前にソヴエト政府と協議したと解されるが、歐洲處理の主要方針を立案するのに關係してゐる大國の內、二國だけの名において今回の聲明が發表されたのは一見奇異に感じられよう、六ケ月前ソヴエト政府は卒先全く獨立にバドリオ政權を承認し、當時各方面から遺憾とされたのであるが、以上ソヴエト政府が誤謬を犯したからといつて、不幸反樞軸各國間に政策上協調が缺けてゐるのを改めて繰返していいといふ理由にはならない、殊に最近フインランド、ルーマニア並びにブルガリア各國との休戰交涉についてはいづれの場合でも米英ソ三國政府が十分協議協力してゐるからである、今回の宣言はいづれ重大な意義もなく、その結果死活的な政策上の爭點が持上る譯ではない、かつまたソヴエト政府において異議を挾む餘地もあるまい、しかし共同動作の原則を維持することは將來における歐洲の諸懸案を秩序的に處理するためには缺くことが出來ない條件であるから右原則から離脫することは政治的賢慮の命ずるところに基き將來避けねばならぬ先例である

△「頭腦の運動」が必要

以上ケベツク會談に關する報道を一見雜然と羅列したのは、これら報道の行間にケベツク會談の經緯が窺へると思はれるからに他ならない、「サンデー・タイムズ」紙のケベツクの特派員が九月十七日の紙上で報道してゐる通りケベツク會談に關する公報は前後撞着し、解釋に「歐腦の運動」を必要とすることは勿論だ

「第一に會談は純粹に軍事的で主として太平洋に關聯してゐるとの發表あり、翌日大統領ルーズヴエルトは各國特派員が以上の趣旨で報道したといふので褒め言葉を送るといふ異例の措置にでた、ところが直ぐ後にスターリン議長を會談に招請したといふ事實と同議長の回答正文が發表された、しかし、ソヴエト代表が日本政府との關係が微妙だといふので、ダンバートン・オークス會議で、重慶代表と同席を拒否したのに、太平洋作戰を主題とする會談にスターリン議長が出席する譯はないではないか、そこで記者團の間からスターリン議長に對する招請狀の正文を發表してくれといふ注文がでたが、機密の事項も一緒に入つてゐるので發表出來ぬといふ返事だ、その間今度の會議では「太平洋戰線のアイゼンハワー」を選任するのが目的で、米國の軍令部長キング大將が有力だといふ噂がパツト各紙に揭載された、右報道は正式に否定されたが、結局ルーズヴエルトは會談の實體をある程度滿足に表現する方式を見付けた「會談の目標は太平洋及び歐洲における米英兩國共同の戰爭努力から出來るだけいい結果を上げることにあり、支那太平洋並びに歐洲の情勢に「調和して」(in consonance with) 同盟各國特に重慶政權並びにソヴエト政府の努力と協調して會談を進めてゐる」といふ譯だ、しかし調和してといふ奇妙な言葉を使つてゐるので矢張り曖昧は免れない、一日おいて英國外相イーデン外務次官サー・アレグザンダー・カドガンが到着したことからみて會談が專ら太平洋に關係した譯でもなく純粹に軍事的でもないことが明瞭となつた、その他海運輸送關係の要人が參加したことからみて太平洋戰線への兵力轉用に關聯する補給並びに戰略の諸問題及び歐洲の戰局と睨み合はせての太平洋作戰に對する英軍の寄與が主な議題であつたに過ぎない

△波紋を投じた英國首相の言明

兵站補給の問題だらうが戰略の協議だらうが、要するにケベツク會談で太平洋作戰が審議されたことは間違ひない、しかもこの討議で端なくも太平洋に對する米英兩國の對立が多少でも表面化したのが興味深い、波紋を投じたのは會談後における英國首相チヤーチルの言明だ、九月十八日「タイムズ」紙特派員の報道を引用しよう

「チヤーチルは記者團との會見で一寸みんな笑はせるやうな調子で今度の會談で意見の調整が必要であつたとすれば米國が敵軍を打破るのに餘り自分だけでやらうとするためであつた、しかも英國政府の決意にたいしてはカナダ政廳も太平洋作戰には全力を上げて協力すると主張して支持を與へてゐるのでチヤーチルはへうきんな口調で米國人だけに旨い汁を全部吸はせるわけには參らないと付け加へた」

△太平洋作戰と英國

リスボン支局からの電報を基礎に九月中旬以降のロンドン各紙を繰つてみれば、太平洋反攻作戰における英軍の役割について連日かなり深刻な報道が掲げられてゐる、タイムズ紙のケベツク特電によれば、チヤーチル夫人までが牝雞晨を告げて九月十四日カナダ國内に次の演説を放送してゐる位だ

「歐洲における諸々の勝利に對する誇りもさることながら、英國人は日本軍から受けた借金を返上しなければならぬことを決して忘れてゐない、日本軍との戰ひを最後まで徹底的に遂行することがケベツク會談の眞義である」

打算高い英國人が何故こんなに躍起となつたのだらうか！　種々な解釋がなり立つだらうが、米國言論界の批判がかなり辛辣且つ傍若無人なのが少からず英國人の肝に障つたことは蔽ひ難い事實だ、九月十五日のタイムズ紙上に出てゐるワシントン特電を次に掲げよう

「大統領ルーズヴエルトが祕書のアーリーを通じて出した聲明で、ケベツク會談では米英兩國の綜合した戰爭努力から最善の結果を上げるのが目的だと述べたのは、極度に複雜な事態を概括した表現だ、今朝「ボルチモア・サン」紙の特派員ボール・ワードはケベツクからの電報の劈頭に「財務長官モーゲンソーは英國代表に對し、英軍は財政上の見地からも日本軍に對する戰ひにおいては、極く僅かな役割を果たすだけの力しかないことを說得するため、ケベツクに呼び出された」と述べてゐる、右觀測はケベツクで流布されてゐる臆測の表面を掠めた程度の示唆とみていいだらうが、更にワードは「米國海軍並びに陸軍當局」の間で見出される態度の一班を傳へてゐる、米軍當局では「英軍は、東南アジア戰線で精々後付け作戰が關の山で、それ以上の作戰を起す資力がなく、當然の役割だと主張してゐるやうな作戰に必要な裝備もなければ補給も出來ぬ」といふ議論を持出してゐることは明らかだ、一例としてワードは米國の西海岸以外、東洋における今度の攻勢作戰を實施するに足るだけの鐵道線は、どこにもないと述てゐる、しかも注意を要する點はワードの電報が全然貸與法に觸れてゐないことだ、しかし米國の海軍省筋にはまだ他の考慮がある、今度のやうな大規模な作戰に英軍と米軍とを一緒にするためには、英軍が「少くとも米軍の戰法について豫備的訓練を受ける必要がある」といふ主張だ、ワードはその上米軍が「七つの海艦隊」を設計建設して單一機動部隊として動かす決心だと論じてゐる、次に米國の陸海軍部内の問題としてワードは、太平洋における六人前後の提督とマツカーサー將軍とに對し、「各自が當然自分の役割と考へてゐるところに相當した任務を日本軍との戰ひで振り向けねばならぬと述べてゐる、要するにケベツク會談は米英兩國の戰略だけでなく、高度に神經に障る點について、米英兩國の關係を扱はざるをえないから現に取扱つてゐるわけだ、英國の立場の一要素として、東亞で失墜した體面―面子を取戻さうとの希望を米國の言論界では上げてゐたが、この主張が米國の場合にも當てはまらぬわけはあるまい、しかし太平洋作戰で米英兩國の領域が戰略的にみても如何に全面的に相互依存してゐるかが實證されるだらうか、經濟上にも乃至その他の含意においても、ユージン・スタンレー教授の所謂「この收縮する世界」においてもこの事實が痛切に明示されるに至つた、米國を弱めることは英國を偉大な各自治領を弱めることであり、一部の米國人が好むと好まざるとに拘らず、逆もまた眞だ國務省の戰時經濟局長チヤールス・タフトは先日「强力な英國は米國の國家的利益にとつて缺くことが出來ない」と述べた、金融やその他の諸部門についても同樣だが、同局長は貿易に關して以上の通り述べた譯だ、この重要な利害の相互關係と一方だけに特殊な利害とを混同し勝ちだが、その結果は悲劇的だ、共同の諸目標達成のため米英兩國共同の政策を確立出來なかつたことが、如何に第二次世界大戰の勃發の原因となつたことか！」

△東亞をめぐる英米の摩擦

英國情報省における記者團會見で、米人特派員が散々情報相ブレンダンブラツケンに食つてかかつたのに憤慨し「デーリー・メール」紙の外交記者ブロードベントが「戰爭が濟んだら第一の仕事

は英國から米國の勢力を驅逐することだ」と語つたのを未だに記憶してゐるが「タイムズ」紙特派員の語調にも同樣、米國の傍若無人な遣り口に對する憤懣の情を見てとることが出來るではないか

いささか煩雜だが米英兩國の關係を窺ふ貴重な資料としてケベツク會談當時の英國言論界の論調を二つ三つ次に略述しよう

「エコノミスト」の論調

「エコノミスト」誌九月十六日、「東亞に關する利害」――「東亞の戰ひにおいて英帝國が果たすと期待されてゐる役割について、米國內にかなり批判をきくのは心外だ批判の細目は區々に岐れてゐるが曩句は何時も同じで、東亞の戰ひで英國人は全力を上げて米國に協力する用意がないといふ、過去二ケ年間印度の政情につき大統領ルーズヴエルトの顧問を勤め、歐洲の政局につき反樞軸司令アイゼンハワー大將に進言してきたウイリアム・フイリツプスの不幸な用語を引用するならば、英國はおしるしばかりの協力以上に出る意向はない恐らく米國民は日本軍との戰ひにおいて獨力で大半の役割を果さねばなるまいといふ、何故英國の寄與を、多數責任ある米國の公人がしかく貧弱に評價するのか、英國人としては眞相把握に苦む位だ、或ひは英國は東亞の戰ひに一切を賭する必要がないとの議論も成立たう、勿論歐洲の戰ひが直接英國にとつては存亡の戰ひなのとは違ふが、少くとも濠洲とニユージーランドとのアングロサクソン世界の二つの最も近代的な成員にとつては、東亞の戰ひは存亡の戰ひであり、兩國とも國運を賭して戰はねばならない、太平洋の平和に對するカナダの利害もまた、大西洋の安全保障と同樣に大きい、南アフリカ人の目は南大西洋と同じく印度洋に向けられてゐる、卽ち英聯邦全成員が東亞の戰ひに關係する利害の合計は、少くとも歐洲の抗爭に對する利害に等しい、假りに各自治領が特殊の利害關係を持たぬとしても、シンガポールに對する英本國自身の關係は、眞珠灣が米國人に對すると同程度に感情的である、東亞における英國の利害は米國の利害よりも大きいといふ方が正しい位だ、米國はソヴエト聯邦と同樣大陸國である外廓防衛線を建設するため、米國は太平洋諸基地を必要とするかも知れないが、東亞の貿易乃至東亞の基地は、大國としての米國の存立に絕對缺くことが出來ぬといふわけではない

英國にとつてフランス、オランダ兩國にとつても同樣だが、東亞は大國たり富國たるための必要條件である、西歐洲の海上貿易帝國の安定と國力とは、全世界に跨る基地の使用と貿易とに依存しあらゆる海洋を自由に航行出來ることを前提とする、經濟的な潛在力が殆んど開拓されてゐない領域について日本政府は一切の西洋各國を排斥するだらう、共榮圈の理念は米國にとつては不都合だといふに過ぎないが、英蘭佛三國にとつては死刑の宣告である、卽ちいはゆる英國の東亞政策に關する米國內の批判の少くとも一半は、必ずしもつかり事實に根を下ろしてゐるとはいへない、大半は混迷に墮し他は粗笨の域を免れない、この大事な年に當つて、他の多くの事柄と同樣大統領選擧戰が東亞の戰ひに絡まつてゐる、ルーズヴエルトは英國のため火中の栗を拾つた後、英國に見放され太平洋で飛んだ目に遭ふといふのは、選擧戰術としては面白からう、もう一つ不思議なことにまだ解答が出てゐない問題は、果して米國陸海軍の指導層がどれだけの援助を本當に歡迎するかだ、島傳ひ作戰で米國艦隊の戰力と能力とが實證されたので、獨力で日本軍との戰ひを仕遂げ度いといふ誘惑が大きいに違ひない、陸上戰線においては米軍司令スチルウエル大將と英軍司令官達との間に或る摩擦が起つてゐる、この方面でも英軍の寄與が大いに增强されたのを效果的な增援とは見ず、主として米軍の作戰範圍に對する干涉と看做してゐるかも知れない、萬一かかる態度が存在するとすれば、今こそ明るみに曝らけ出して爆發させて了はねばならない、英國は東亞の戰ひに全的に寄與する決心であり、且つ英軍が最大限に參畫することは缺くことの出來ぬ條件だ、反對の意見は內容の如何を問はず、將來政治上破局的誤解の原因とならう、一部の論者が英國の東亞政策を攻擊するのは、戰後に着眼してのことだ、英佛蘭三國のいはゆる「帝國主義」に對しては、米國民の間に强い反感あり、彼等は將來東南アジアに古い主權が確立されて、西洋各國が行使した古い權威の代りに、何等かの形式による國際管理あるひ

昭和十九年十月廿八日(土)
第三二二三號
同盟通信
海外電報
(第三種郵便物認可)

は原住民に對する主權の移讓を豫想してゐる、從つて今こそ英佛蘭三國將來の意圖を率直且つ十分に說明すべき秋である、三國何れもその植民帝國を拋棄する意圖なく否マライ地方を英國に、東印度をオランダに、印度支那をフランスに回復することが、東亞共榮圈破壞の缺くことが出來ぬ一部分だと看做してゐる若し英蘭佛三國が現狀のまま盟邦米國民の肚裏に疑問をそのまま殘しておくやうなことがあれば徒らに最も惡質の誤解を招き、更に信義を裏切つたとの非難を受けよう

△ニューヨークでの觀察

「デーリー・エキスプレス」紙ニューヨーク特派員九月十八日—ケベツク會談の日本軍に對する作戰に重點をおいたことは今日米國のニューズ戰線に反映してゐる、米國人のいふところはかうだ、太平洋作戰における英軍の役割はマライ、スマトラ地區における一聯の水陸兩樣作戰で、目標はシンガポール並びに東印度の奪回だ、もしマツカーサー將軍麾下の米軍が比島攻略に、ニミツツ提督麾下の艦隊が臺灣並びに日本本土攻略に着々戰果を收めれば英軍の仕事はやや骨の折れる片付け作戰に過ぎぬこととならう、しかし米軍の進擊が遲遲としてをれば、英軍の太平洋戰線における任務は今まで他の戰線における英軍の仕事がつらかつたと同樣、相當辛いこととならう、英國艦隊は恐らく自らの基地と兵站補給とに依存する別個の單位として作戰するだらう」

「デーリー・メール」紙ニューヨーク特派員ドンイドン九月二十七日——假りに英軍が太平洋戰爭で大きな役割を果たす用意があつても、太平洋の反攻に必要な行動半徑の大きい作戰を擔當する能力はあるまいとか、英國艦隊は長距離に亘つての作戰に必要な訓練が出來てゐないとか、立體作戰の經驗を缺いてゐるとか、米國內で雜言が頻りだ

米國で英國人は色々惡口をいはれるが、英國艦隊が經驗を缺いてゐるとの非難は、愚劣惡質なデマの中でも一種の新記錄だ」

△敵は本能寺

以上太平洋作戰に關する米英兩國の論爭は、ロンドン各紙の報道によれば、一應英國首相チヤーチルの勝となり、軍令部長キング大將を中心とする米國の單獨作戰派は敗北したことになつてゐるチヤーチルがケベツク會談後英國下院で長々と東南アジア軍司令マウントバツテン卿に彰德表を奉つてゐるのも、全く大西洋の彼岸を狙つた宣傳に他ならない、米英兩國否ソヴエト聯邦を含めての反樞軸陣營の內情を窺ふために、英國首相の演說に關する「マンチエスター・ガーデアン」紙九月二十九日附の社說を次に揭げよう

「首相の演說は極めて賢明な演說であつた、首相は右演說を「獨り下院並びに英本國だけでなく、より廣い方面においても愼重且つ善意をもつて計量するやう」要請したが、演說が主として狙つてゐるのは、この「より廣い方面」だ、米英兩國間には、本當の相互的理解が存在するが、低級な階層特に言論界の一部には、不幸誤解乃至判斷の誤りが多少伏在してゐる、米英兩國とソヴエト聯邦との間には政策の相違あり、依然調整されるに至らないが、英國の目的を速に確立することが刻下の急務である、特に重要なのはポーランド問題だチヤーチル首相はポーランド國外に在留してゐるポーランド人に對し、節度を辨へ、たとへ東方國境地帶の喪失を默認する結果とならうとも、ソヴエト政府との友好關係を確立するやう判つきり要望した、更に將來の世界秩序に關するダンバートン・オークスでの意見の相違、ドイツをいかに處分するかの懸案等が控えてゐる、チヤーチル首相は米英ソ三國の首腦が外相とともに會談を遂げぬ限り意見の一致を見るに至らないだらうと明言したが、米國の大統領選擧が片づかぬ限り妥結は困難だらう、首相は米國に對しては鄭重ながら卒直に所見を開陳した、米軍に對しては素晴らしい—もつとも當然米軍にその値打ちはあるが——讚辭を呈したが、粗野低級な米國の新聞がバラ撒いてゐる歐洲で戰爭してゐるのは主として米軍だといふ考を一掃しようと力めた、更に首相が英國艦隊の使命を力強く述べた結果、無分別に乃至故意に英國の背信行爲說を流布する手合に多少とも禮讓を敎込むことが出來たらう、他に演說の內二ケ所が同樣廣汎な方面を狙つてゐる、第一はブルガリア國に對する糾彈で「英國の關する限り同國に對し安易な條件を與へることは出來ぬ」と述べてゐる、これはモスクワに對する一針であらうか、もう一つはフランス國民の復興を要望した言葉だ」

資料

失明せる巨人

―「タイム」誌の南支作戰評―

米國週刊誌「タイム」十月十六日號は「亞細亞の戰闘」と題し最近の皇軍による東支那の二大要衝たる溫州並びに福州の占領を次の如く論評してゐる

「日本軍の攻撃により重慶がその二大要衝たる溫州と福州を喪失したことは、これを譬へてみれば支那と言ふ巨人が兩眼を失つたにも等しい、重慶政權の友邦たる反軸樞國が歐洲大陸においてヒツトラーの軍隊に對し最後の打撃を與へゐた過去數ケ月間東支那海に位する二大海港はいまだ敵の掌中にはなかつた、この二大海港は支那の眼となつて太平洋を睨み、米國艦隊の來援を今や遲しと待つてゐたのである、過去において日本軍は兩海港を占領して、支那の眼を閉ぢたのであつたが、重慶軍はこれを再び開いた、しかし、今年に入り日本軍は東部支那におけるこの最後の前哨基地を重慶から奪ふことを決定、九月上旬日本軍は浙江省の北部の眼、溫州を攻略した、さらに二週間前に日本艦艇は臺灣を進發して琅江河口に進入した攻撃軍は河口に上陸するとともに福州郊外に進撃を開始した、同市の重慶軍守備隊は反樞軸軍の來援に一縷の希望をかけ、同市を死守したのであつた、しかるに、先週に入るや、日本軍は突如として琅江の南岸に第二次上陸作戰を實施し、かくて福州は日本軍の挾撃に遭ひ、陷落したのであつた日本側では福州の占領を大々的に宣傳、反樞軸國に失意と不快を喫せしめんとした、ドイツはこれをもつて「日本側は支那大陸沿岸に對する反樞軸軍の上陸作戰企圖を事前に挫折せしめたものである」と稱へた日本側はこれを契機として臺灣における防備を强化したのであるが、占領後の福州の防備を强化した、日本はその後福州に止らず、臺灣の防備を粉碎して日本の海上路を遮斷するために將來反樞軸軍並びに重慶空軍が基地とし得る空軍基地の奪取を狙つたのである、桂林がそれだ、三百の小丘の中に蟠まる桂林の空軍基地には日本軍の進攻前に火が放たれた、桂林附近の飛行場群に火が放たれる三週前に市民は全部同市を撤退し美味な料理で有名な羅春和旅社を初め、映畫館、工場等はことごとく灰燼に歸した、要塞衡陽は四十一日に亙り日本軍の猛攻に耐えたのであつたが桂林の防備は衡陽のそれに次ぐ堅固なものであつた、市街には各所に鐵條網がはり繞らされ、取壞した建物を利用してトーチカさへ出來てゐる、桂林守備軍は武裝においても、服裝においても重慶軍第一で、この軍が今市内に殘留してゐる、同軍司令官は白手袋の白崇禧將軍で廣西省の勇將だ、白崇禧將軍を輔佐してゐるのはヒマラヤ越えに米國の武器彈藥を重慶に空輸してゐるジョー・ステイルウエル將軍だ、重慶政權では永久に桂林を守り拔かうとは考へてはゐない模樣だが、本年六月の長沙失陷の如く急激に日本軍に占領されれば、國内は勿論政治上、國際上、軍事上に惡影響があることを十分承知してゐるため全力を擧げて桂林の防衛に任じてゐるわけだ

重慶に關する資料

米誌、援蔣不足の辯

米國外政協會ブレチン十月十四日號所載要旨

重慶中央軍の弱點は、これを要するに米國の援助の不十分に歸すべき問題ではなくて、軍の統帥の過誤、各將領の政治的對立、募兵方法に對する不滿、多くの軍指導者の腐敗した行狀に對する批難、軍需生産機構の全機能發揮の失敗等の條件に歸すべきものである、最近の推算によれば、二十

昭和十九年十月廿八日(土)
第三二二三號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

の徴兵人員に對して僅か一人しか前線に出てをらず、その徴兵も軍隊が出動して、路上から誰彼選ばず拉致して、これを軍に編入するなどのことが平然と行はれてゐる

弱體化した重慶

「エクスチエンヂ」通信

十月二十三日重慶電要旨

現在の支那を語るについて最も注目すべき事實は日本軍が東部支那の殆んど完全占領に成功したことである、福州占領以來、大連から佛印に至る支那海岸の全ての港灣もまた日本の支配に歸したしかし、日本軍はいまだ東西支那を分割する新らしい線の要塞化には手をつけてゐないほか、日本軍の鐵狀桂林攻撃の間隙はなほ百粁の間隙を殘してゐる、重慶軍の軍事力は嚴密にいつて、あまり當てにはならないが、日本軍の海岸占領線と、陸上占領線の中間地帶に相當廣大な地域を確保してゐる事實も忘れてはならない、現在の重慶軍はゲリラ戰程度以上の作戰しか出來ないが、西方からの上陸戰、または陸上攻勢が開始された場合(ビルマ作戰を指す)は相當有力な戰力となり得るだらう、この際、米軍の日本補給路に對する攻勢が最近、自らの補給路が伸び切つた結果、やや弱りつつある事態も考慮のうちに入れておくべきだ

重慶を繞る三つの噂

「タイム」誌十月十六日號

「事件と問題との幻影」の要旨

先週重慶から重大事件が起りつつあるやうな噂が飛出してきた檢閲の眼をくぐつて出てきた情報から判斷すれば少くも三つの事件を想定することが出來る、第一にはネルソンが重慶に歸つて、彼を中心に重慶版戰時生産局が生れるだらうといふ想定だ、第二は中國共産黨を加入せしめての聯立內閣の組織說、第三は戰爭終結を待たずして、支那に全的な民主制をもたらすために國民議會の創設及び立憲政府の樹立を見ようといふ噂である

重慶の物價

「デーリー・メール」紙

十月十七日記事要旨

著述家のセシル・ビートスは最近、長期に涉る支那旅行から歸英したが次の如く語つてゐる

「重慶地區では外國からの補給が事實上遮斷されて以來、物價の昂騰は由々しい事態をかもし出しつつある、商人は明日はもつと値上りと見越して物の賣惜しみをする、綿布、鹽、油類は特に盛んに買溜めされてゐる、インフレ狀態は土地によつて厚薄の差はあるが、ある物は千倍以上の値段がしてゐる、昆明は今では世界中で一番物價の高い町の一つでオレンヂ一個が一磅してゐる、半哩人力車に乘れば、昔は無料同樣だつたが、今では十二志六片かかり、燐寸一箱三片、封筒は三志六片風呂に水を汲込ませると二磅かかる、米の買溜めも行はれてゐるが、食糧については眞の不足といふものはない

多くの人間は昔よりもよい暮しをしてゐる、牧畜業は仲々收入もよいし、農夫は借金を拂つて抵當を取戻し、苦力職工の賃金は少くとも五百倍にはなつてゐる、インフレではあるが、貧民階級は月給取り、中産階級の犧牲において、相當な生活水準を維持し得てゐる、ガソリン不足の結果は土地産の木炭、アルコール、桐種からとつた原油などでトラックは走るやうになつた

乘合自動車は、修繕部分品がないに拘らず、結構、嶮阻な山路を走つてゐるが、車輪を見ると外のゴム輪は七つも異つたものをつなぎ合せて作つたものだ

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月三十日(月)　第三二二五號

同盟通信　海外電報　(249)

發行人　萩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　發賣元　同盟通信社

【目　次】

歐洲戰爭の現段階……二五二二—二五二三
獨軍敵の新上陸を粉碎……二五二三
【米　國】
徵兵方針を變更……二五二四
大統領海軍日聲明……〃
佛國内に銀行支店再開……〃
駐英大使歸國……〃
補給の困難を訴ふ……〃
艦船十七隻喪失を發表……〃
【反樞軸陣營】
ソ聯、重慶もボノミ政權を承認……〃
【フランス】
西亡命大統領乘込む……〃
【英　國】
遠征期間短縮案……二五二五
内債一人當り五百磅……〃
流星彈防衞に十萬人……〃
伊政權と大使を交換……〃
芬駐劄代表を任命……〃
カンタベリー大司敎死去……〃
【東南歐】
イーデン、アテネに乘込む……〃
希遊擊軍チトー軍と合流……〃
チトー、マケドニア獨立を工作……〃
アルバニア國民委員會結成……〃
【ドイツ】
東西兩戰線最高司令官を公表……二五二六
戰死將官名を發表……〃
【北　歐】
瑞芬兩國間の航路再開……〃
【トルコ】
ソ聯ダーダネルス開放を要求……〃
【ソ　聯】
メレツコフ、元帥に昇進……〃
砲兵記念日を制定……〃
ス議長を政治局名譽書記長に……〃
【西　亞】
英軍代將がユダヤ人旅團司令に……〃
【南　伊】
ピニ博士、國務次官に就任……〃
【特　輯】
ケベツクからモスクワへ(下)……二五二七—二五三二
【資　料】
米國戰時經濟近況……二五三三—二五三五

世界の焦点

比島沖の海空戰は海上機動戰に關し米海軍が金科玉條としてゐた空母機動部隊の絕對優位なる原則を微塵に碎き去つた、彼らの巨大なる水上兵力は太平洋上を橫行し、制海權と制空權を常に身邊に携へてゐると信じてゐた、彼らは日本軍の地上基地航空兵力を完全に制壓し得たと稱し、日本海軍水上部隊よ出動せよと豪語した、しかしてその希望は米國の海軍記念日を前に漸くかなへられた、だが待望の海戰の結果はどうだつたか、敵艦隊の中心勢力たる航空母艦は大半擊沈破され、艦隊は全く均衡のない敗殘部隊と化した、勿論レイテ島の橋頭堡を見殺しにせぬために、敵は殘る水上兵力と陸軍航空隊とをもつて飽くまで作戰の繼續に邁進するだらう、それもまたわれの望むところであり、第二の海上決戰は日本海軍の最も有利とする時に展開されることにならう、今回の海戰には注目すべき二つの事實がある、卽ち陸地航空部隊の役割が依然重要であつたことと艦砲が全く豫想外の威力を發揮したことだ、陸上基地航空隊は空母に比し極めて機動性が大きい、たとへば比島沖の海戰に比島水域基地から飛立つたわが雷爆擊機が前日は臺灣にあり前々日は東京郊外にあつたとしても少しも不思議ではない、從つてわれは敵空母群の有する航空兵力を知悉して對策を立て得るに反し、彼は保有する航空兵力を增援するに途なく、しかも長大なる補給線を抱へて防禦的地位に立つため陸軍航空隊の援助も海上決戰の急には間に合はなかつたのだ、一方日本海軍の巨砲は敵空母艦隊をして「われ砲擊さる」の平文電報を打たしめ、多數敵艦載機はレイテ島橋頭堡内に不時着した、敵海軍首腦部の豪語も心の「暗い海軍日」は隱せないやうだ

歐洲戰爭の現段階

——ゲツベルス博士戰況を說く——

（ベルリン二十七日發）ドイツ宣傳相ゲツベルス博士は二十七日夜ベルリン放送局を通じ約一時間にわたり歐洲戰爭の現段階について所見を開陳した、演說要旨次の通り

反樞軸軍當て外づれ

前回の放送演說以來僅かに三ケ月に過ぎないがこの比較的短期間內に政治の分野においても軍事の分野においても決定的に重要な諸事件が相次いで起り、一部はドイツ軍に不利に、一部はドイツ軍に有利に今回の戰爭の特質に徹底的變革を與へるに至つた、過去數週間ドイツ國民が經過した時期は決して安易な數週間ではなかつた、しかし大事なことは反樞軸軍の大いなる希望が遂に實現しなかつたことである、反樞軸軍の軍事並びに宣傳による大量攻勢にも拘らずドイツ國民は崩潰しなかつた、反樞軸軍は鎧袖一觸ドイツ本土を蹂躙してしまはうと頻りに豪語してゐたが、彼らの豫言は實現しなかつた、ドイツ軍は毅然として祖國の領土に起上り、自由と生命とを守り拔かうといふ不壞の決意を改めて實證した、勿論東方、西方並びに南方における各戰線でドイツ軍は依然として非常な重荷を負ふてゐるが各戰線共近く安定するに至るであらうことを期待して差支へないと思ふ要するにドイツ國民は自身並びに全世界に對し、「人を殺すことの出來ぬことは、逆に人を强くする」といふ事實を證明したわけである、反樞軸軍が仕掛けた今回の戰爭が、ドイツ國民にとつては全く存亡を賭する戰ひであるといふことは當初から明らかにしてゐるところであり、戰局の推移も專らこの見地から檢討されなければならない、時に戰局の推移は苦難と痛苦とに滿ちてゐることがあらうともドイツ國民に對し生存の權利と國家獨立の權利と、民族存立のための膨脹の基礎を保證する平和を戰ひとるまでドイツ國民は斷じて敵をして戰ひをやめさせない、かくして初めて從來から今後に至るドイツ國民の甚大な犧牲がその意義を發揮するに至るのである

ドイツ國民に降伏なし

反樞軸各國が頻りにドイツ國民に對して降伏を勸告してゐるが、かかる勸告をここに採上る必要はあるまい、ドイツ國內においては勞働者たると農民たると知識層たると女子たると母たるとを問はず、かかる反樞軸陣營の提言を心の奧底において採上げてゐる人間は一人もゐない、歐洲の各小國がボルシエヴイズムの脅威の前に相次いで崩潰してゐる事實に徵しても、これら各國の指導層が薄志弱行生活に疲れ死の恐怖にとりつかれて國民的自殺を遂げたことは蔽ひ難い、かれらに對しては一點の同情をも與へることは出來ない、存亡を賭する苛烈な今回の戰爭において降伏する人間は自ら政治的勇氣を缺いた結果招いた悲慘な事情に關して何人に對しても文句がいへない筈である

十月崩潰說實現せず

西部戰線においてドイツ軍は一九四〇年當時手に入れた質駒の大半を放棄するのやむなきに至つた、その結果ドイツ國民が深い悲しみと大いなる不安とを抱かざるを得ないことを余は敢へて否定しない、要するにドイツ軍は一九三九年當時の戰線に撤收したが右戰線においてドイツ軍は戰略上有利な地位を占め將兵の頑張りと特にライン地方並びにルール地方の老若男女全市民の不拔の精神によつて確固たる防衞線を築くに至つた、アルンヘムの慘敗以來反樞軸軍は最早やベルリンへの進擊を云々せず、ドイツ崩潰の時期として不遜且つ輕薄にも十月を擧げてゐたが彼等はもはやこの日取りを呼號することは出來なくなつた、勿論彼等は十月にかへるにもつと先の日取りを擧げてゐるがドイツ國民としては今後もかかる豫定が實現しないやう飽くまで努力しなければならない

東西の兩戰線

大西洋岸並びにイギリス海峽正面のドイツ軍守備隊は殆ど傳說的な勇戰敢鬪を繼續し、毅然として降伏の勸告を拒否し、反樞軸軍が最も必要としてゐる各港灣の使用を絕對に許さないのである、東部戰線においては赤軍は各正面に亘り集中攻擊により冬に入るに先立ち決定的戰果を擧げようと努力してゐる、ボルシエヴイズムの怪物は隨處にドイツ國境線に迫り一部は既に國境線を突破して

昭和十九年十月三十日(月)
第三二二五號
同盟通信
海外電報(第三種郵便物認可)

ドイツ國民並びに全歐洲に對する危險は重大化するに至つた、歐洲の赤化に對しドイツ軍が秩序の力として現在唯一最後の防壁であることを全世界は認めようとしないが、地圖を一瞥し、過去數週間におけるクレムリンの欺瞞政策を顧るならば、全世界が認めると否とに拘らず以上が儼然たる事實であることが知れよう、ドイツ軍は東部戰線において強靱な防衛線を確立するために最善の努力を盡してをり、勿論卵のかへる前に雛の數を數へるのは愼しまねばならないが、一時無盡藏と見られたソヴエト聯邦の人的資源も、漸く限界に近付いてゐるやうに思はれる、一度この限界に達すれば戰局の前途はドイツ軍にとつて著しく好轉するであらう、ソヴエト政府自身が認めてゐるところによつても赤軍の人的損害は甚大である、勿論東部戰線においてはドイツ國民は最も苛烈な試煉を覺悟しなければならないが、東西の兩戰線において敵軍はかつてドイツ軍が苦心慘憺した兵站線の伸び切つたことに基く弱點を包藏してゐるから、ドイツ軍はあらゆる脅威に對處することが出來ると思ふ

恐怖爆撃にも屈せず

反樞軸軍の恐怖爆撃はドイツ國民に最大の不安を與へた、反樞軸軍はドイツ國内にテロ行動を加へて國民の戰意沮喪を狙ひ、天候が好轉する毎に爆彈と燐性爆彈とをドイツ諸都地に投下し市民に甚大な苦難を與へた、以上の恐怖爆撃について道義的見地から批判を加へることは差支へやうが、かかる非人道的戰爭方法を敢てしてゐる手合がドイツ國の指導者を戰爭犯罪人として處斷しようといふのだからまことに噴飯の至りだ、ドイツ軍は以上空の恐怖に對し、絶えず對策を講じてゐるが最も近代的な且つ威力絶大な新鋭戰鬪機、戰鬪爆撃機等が續々出來上つてゐるので必ずや反樞軸軍の恐怖爆撃に效果的に對處出來ることを確信する

續々新兵器を發動

反樞軸軍が容易且つ安價な勝利を揚言出來る時期はすでに過ぎ去つた、ドイツ國民は何よりも西部戰線における挫折に基く衝撃から立直つた、絶間ない恐怖爆撃にも拘らず生産は依然として上昇してゐる、工場並びに鑛山においてドイツ國民は毎日敵軍の希望を粉碎し特に優秀且つ永持ちする武器を生産してゐるほかに絶對に嶄新な各種兵器を生産してゐる、ドイツ國民はこれらの新兵器に近い將來においても遠い將來においても最大の希望を繋いでゐる、勿論新兵器の製作に關聯し技術的の進歩と共に幾多の變革を必要としたが、これらの成果は必ずや大きな機會を提供するであらうドイツ國民の士氣と戰意とは全く絶讃に値するヒトラー總統が國民突撃隊を結成したことに徵してもドイツ國民が危險の近づくと共に愈々狂信的な熱意をもつて凡る手段を講じて以上の脅威に對處することが知れよう、ドイツ國民は斷じて白旗を揭げずあくまで冷靜に不拔の決意をもつて抗戰を繼續するであらう、ドイツ國民は祖國を蕃畑にしたり、乃至祖國を地獄に化して婦女子を殺してしまふのを斷じて許さず、ドイツ人勞働者と兵士とをシベリア地方に流すことをも許さないであらう、ドイツ國民が生き且つ呼吸する法律を制定するはヴアンシツタートでもなければモーゲンソーでもない、狂氣と憎悪とに基く反樞軸軍のいはゆる處分案に對しては「如何なる犧牲を拂つても最後の勝利に向つて戰ひ拔く」との回答あるのみ

獨軍敵の新上陸を粉碎

(ベルリン二十七日發)總統大本營は西部戰線の戰況に關し二十七日次の公報を發表した

一、南ベーヴェランド島においてはドイツ擲彈兵隊は橋頭堡からする反樞軸軍の攻撃を撃破するとともに新たなる上陸企圖を粉碎した

一、シエルド河南岸において英加軍は引續きドイツ軍陣地を突破しようと圖つたが、ドイツ軍は目下反撃を展開中である

一、チルブルグ地區では激戰が展開され、反樞軸軍は數個所でドイツ軍陣地に突入した

一、反樞軸軍はヘルトゲンボツシユ市西部に猛砲火を集中してゐるが、同地區の戰鬪でドイツ軍は十月二十日から二十六日までの一週間に反樞軸軍戰車百八十輛を撃破乃至鹵獲した

一、米軍は增援軍の到着を俟つてムールト河上流の山林地帶を手中に收めるため西部ヴオージユ山脈において反覆攻撃を加へ來つたが、ドイツ軍は激戰の後森林基地正面で反樞軸軍の一部を阻止、一部を反撃に出て撃退した

【米　國】

徴兵方針を變更

（リスボン二十六日發）ワシントン來電＝陸軍長官スチムソンは二十六日次の通り發表した

三名以上の子供を持つた家庭でこのうち二名以上が今次大戰で戰死し後に一名の子供しが殘つてゐない家庭に對しては、その子供がまだ召集されてゐない場合はこの召集を免除し、また召集されてゐる場合は除隊せしめるか、或ひは危險な任務から安全な任務に變更させることとなつた

大統領海軍日聲明　（リスボン二十七日發）ワシントン來電＝大統領ルーズヴエルトは二十七日の海軍日に要旨左の聲明を發した

今次大戰におけるほど米國の海軍勢力が米國の運命は勿論、世界歴史の動きを決定する上において大きな役割を演じたことはなかつた、米國海軍は最も困難な海戰をしてゐるが、太平洋にはなほ米國の海軍史に記錄さるべき重大な頁が殘つてゐる

佛國内に銀行支店再開　（リスボン二十六日發）「エクスチエンヂ・テレグラフ」通信社の報道によれば、米軍司令部はチエーズ・ナショナル、ナショナル・シテイ、ギヤランテイ・トラスト及びモルガンの四銀行に對しパリ支店を再開し、更にル・アーヴル並びにベルギー國内の支店を開くやう要請したといはれる

駐英大使歸國　（リスボン二十六日發）ワシントン來電＝ロンドン駐劄大使ジョン・ワイナントは大統領ルーズヴエルトに歐洲諸問委員會の事務報告のため二十六日歸國した

補給の困難を訴ふ　（リスボン二十五日發）パール・ハーバー來電＝太平洋艦隊第八補給部隊參謀部員エドワード・ベア大佐は二十五日太平洋戰における米國軍の困難な補給に關し次の通り言明した

マリアナ作戰において米國軍は一千五百萬バレルの燃料を僅か七日間で消費した、サイパン作戰では太平洋全艦隊が一九四三年の全年を通じて費消したより遙かに多い燃料を消費した、戰線が西方に進むにつれ米國軍の補給は益々困難を加へ恐るべき長大な距離を克服しなければならぬ、東亞方面の如何なる地點にせよ上陸米國軍將兵一人に對する補給のため上陸最初の三十日間には十六トン、その後は毎月最少六トン宛の船腹を必要としよう、かくて米國は太平洋作戰を遂行するために現在より更に數百萬トンの新しい船腹を用意しなければならぬ

艦船十七隻喪失を發表　（リスボン二十六日發）ワシントン來電＝海軍省は歐洲水域で艦船十七隻を喪失した旨二十六日發表した、内譯次の通り

一、水雷敷設船「ミアントノモ」號（三千五十六トン）乘組員三百名
一、大型上陸用舟艇六隻
一、歩兵上陸用舟艇六隻
一、掃海艇三隻
一、快速艇一隻

【反樞軸陣營】

ソ聯、重慶、ボノミ政權を承認

（モスクワ二十六日發）ソヴエト政府は二十六日米英兩國に次いでイタリアのボノミ政權の正式承認を決定、同時にコステイロフをローマ駐劄ソ聯大使に任命した

（リスボン二十六日發）重慶來電＝重慶政權はボノミ政權をイタリアの政府として正式に承認した旨二十六日發表した

【フランス】

西亡命大統領乘り込む　（リスボン二十六日發）パリからのUP電報によれば、元スペイン大統領デイエゴ・バリオがメキシコの亡命地からフランスの某地に乘り込んだといはれるが、現在フランスに居住するスペイン亡命者よりなるスペイン臨時委員會の指導權を引き繼いで假政府に盛り立てるためとみられ多大の關心をあつめてゐる

昭和十九年十月三十日(月)
第三二二五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

【英國】

遠征期間短縮案

(ストツクホルム二十六日發)歐洲の戰局に對する樂觀論に伴ひ國内には早くも兵員除隊を要求する意見が有力化するに至つたが、ロンドン來電によれば保守黨議員ギンテン・ホツグが二百五十名の議員の支持のもとに出來るだけ早く海外遠征軍の服務年限を三ケ年に限定する動議を提出したためチヤーチルは二十六日の下院本會議で次の通り下院に警告したと傳へられるかかる動議が提出されたことは英國現在の戰爭努力に百害あつて一利なく、ホツグ議員が責任ある閣僚に一言も相談しないでかかる動議を提出したことは全く驚くほかはない、戰局は今や最も苛烈な段階にありかかる規模で兵員の除隊を施行するならば、正に戰爭努力を最高潮に維持せねばならない時期に當つて努力を緩め徒らに戰局を長びかす結果とならう、下院議員の多數がこの動議を支持してゐるのは寔に遺憾である

内債一人當り五百磅

(リスボン二十六日發)ロンドン來電=大法官サイモンは十五日上院で一九一四年度には英國の内債は一人當り十七磅であつたが今や一人當り五百磅に增加した旨を述べた

流星彈防衛に十萬人

(リスボン二十六日發)ロンドン來電=英軍高射砲隊司令官大將フレデリツク・パイルはドイツ軍の流星彈攻撃について二十六日次のやうに述べた

ドイツ軍がイングランドに對し流星彈攻撃を開始してから英國は防衛乃至邀撃のために軍隊以外十萬人以上を動員し東岸地區に配備したが、費用は二百萬磅に達してゐる

伊政權と大使を交換

(リスボン二十五日發)ロンドン來電=政府は二十五日ボノミ政權をイタリア政府として承認したが、これに伴ひ、駐ローマ高等辨務官ノエル・チヤールスをローマ駐劄大使に任じ、ロンドン駐在のカラデイニをイタリア大使として正式に承認する旨、發表した

芬駐劄代表を任命

(リスボン二十五日發)「タイムズ」紙の報道によれば、英國政府は今回ライキヤヴイク駐劄英國公使エドワード・シエフアードをベルシンキ駐劄英國政治代表に任命した旨十七日發表したといはれる

カンタベリー大司教死去

(ストツクホルム二十六日發)ロンドン來電=カンタベリー大司教ウイリアム・テンプル博士は二十五日心臟麻痺で死去した、享年六十三

【東南歐】

イーデン、アテネに乘込む

(リスボン二十六日發)アテネ來電=英國外相イーデンは西亞常駐相モインと共に二十五日アテネに到着、亡命ギリシヤ首相パパンドレオその他と會見した、右會見には地中海艦隊司令カニンガム、地中海方面軍司令大將サー・ヘンリー・ウイルソンも參加した

希遊撃軍チトー軍と合流

(ストツクホルム二十五日發)前線報道によれば反樞軸軍のラミア占領と同時に同市に乘り込んだギリシア「エラス」遊撃隊司令サフアリスは二十五日ギリシヤ解放後チトー軍に合流する旨言明したといはれるが、ロンドン來電によれば英國政界は右をもつてソ聯勢力が遂にギリシヤにまで及んだとなし憂色を示してゐる

チトー、マケドニア獨立を工作

(リスボン二十五日發)イスタンブールの「イエニ・サバス」紙の報道によればユーゴー遊撃隊司令チトーの代表はブルガリア政權に對し、ギリシヤ北部のカヴアラ、サロニカ兩地方を將來獨立國となるべきマケドニア領土に編入することを正式に要求したと傳へられるが、チトーはマケドニアを獨立させ首都をサロニカにおく方針とみられる

アルバニア國民委員會結成

(ベルリン二十六日發)今回アルバニア北部スクタリ市において前攝政會議々員ハラビ神父指導の下にアルバニア國民委員會が結成されたが、委員會は直ちに反共産軍を組織し、すでに祖國解放の戰ひを開始したといはれる

【ドイツ】

東西兩戰線最高司令官を公表

（ベルリン二十六日發）軍當局は二十七日初めて正式に西部、東部兩戰線の軍最高司令官を次の通り發表した

西部戰線最高司令官
ゲルト・フオン・ルンドシユテツト元帥

東部戰線最高司令官
ドイツ軍參謀總長
ハインツ・グーデリアン上級大將

戰死將官名を發表

（ベルリン二十六日發）當局はベルグラード附近において東部戰線ドイツ集團軍司令官シユネツケンブルガー大將が赤軍急降下爆撃機の攻撃を受け戰死した旨二十六日發表した、シユネツケンブルガー大將は元軍事使節團長として東京に駐在したことがある、また西部戰線においてはフリツツ・ラインハルト、エーリツヒ・フオン・キルヒバツハ兩少將が戰死した旨二十七日發表した、ラインハルト少將は五十三歲、キルヒバツハ少將は五十九歲、エピナール地區の戰鬪で重傷を負ひ死亡したもので共に第一次大戰の勇士である

【北歐】

瑞芬兩國間の航路再開

（ストツクホルム二十六日發）スエーデン代表はヘルシンキにおいてフインランド代表との間に兩國間の航路開設につき交涉を進めた結果ストツクホルム、アボ間の航路がフインランド船によつて近く再開される見込みである

【トルコ】

ソ聯ダーダネルス開放を要求

（ストツクホルム二十六日發）英紙「ニユース・クロニクル」が二十六日報ずるところによればソ聯はトルコに對しソ聯向け反樞軸軍需品のダーダネルス海峽自由通過を要求、目下米英ソ三國政府とトルコ政府との間にダーダネルス開放問題につき交涉が進められてゐるといはれる、なほ米英兩國の軍需品は今日までペルシヤ灣を經由する迂路をとつてゐる

【ソ聯】

メレツコフ元帥に昇進

（モスクワ二十六日發）ソヴエト聯邦最高會議幹部會はカレリア戰線軍司令官キリール・メレツコフ軍大將が元帥に昇進した旨二十六日發表した、メレツコフ元帥はペツアモ地區からノルウエー領に侵入、キルケネス港を占領した寒地作戰の專門家である

砲兵紀念日を制定

（モスクワ二十二日坂田特派員發延着）ソ聯最高會議幹部會は十一月十九日を砲兵記念日と定める旨二十二日發表した、この日にはモスクワを初め各共和國首都及びレニングラード、スターリングラード、セヴアストポリ、オデツサ、ハバロフスク、ノヴオシビルスクの各市は二百二十四門の砲列を布いて二十發の齊射を行ひ、獨ソ戰における砲兵の活動を記念することとなつた、ソ聯には以上の砲兵記念日のほかに、赤軍記念日海軍記念日、航空記念日がある

ス議長を政治局名譽書記長に

（ストツクホルム二十四日發）モスクワ來電＝ソヴエト聯邦エストニア共和國の急進農民團は二十三日タリンにおいて會議を開催、スターリン元帥をエストニア共產黨中央委員會政治局の名譽書記長に選出した

【西亞】

ユダヤ人旅團司令

（リスボン二十四日發）「エクスチエンヂ・テレグラフ」社の報道によれば英軍代將イ・エフ・ベンヂヤミンは今回新しく編成されたユダヤ人旅團長に任命されたといはれる

【南伊】

ピニ博士を國務次官に

（チューリツヒ二十四日發）ミラノ來電＝「ポポロ・デ・イタリア」紙主筆ジヨルジ・ピニ博士は今回イタリア國務次官に任命され、同時に前次官ゼルビノ博士はピエモント特別司政府長官に任命された

昭和十九年十月三十日(月)
第三二二五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

ケベックからモスクワへ (下)

―取殘された英國の不安―

長谷川 才次

△英國下院の討議

ケベック會談の他の一半は歐洲問題だ、ソ波兩國間の紛爭、いはゆるドイツ處分案、ボノミ政權施策、ド・ゴール政權承認等々懸案は山積してゐる、ケベックからハイド・パークへ、英國首相チヤーチルが米國大統領ルーズヴエルトとの會談を重ね最後にモスクワに乘込んだのは主としてこれらの懸案を處理する必要に迫られたからに他ならない、しかし歐洲の諸懸案を繞る英ソ兩國の折衝を述べるに先立ち英國下院における討議と外相イーデンの外交演說を九月三十日の「タイムズ」紙を基礎に次に報道しよう

ベヴアン(勞働黨)現在特に際立つてゐる事實はドイツ國民が頑强に反樞軸軍の侵寇に抗戰してゐることだ、深刻且憂鬱な事實である、之は英國の政治戰爭心理戰爭が全く間違つてゐる結果に他ならぬ、「無條件降伏」は政策ではなく標語に過ぎず徒らにドイツ國民の軍事的抗爭を增强するだけだ、若し首相がドイツ國民に對し寬大かつ大局的な聲明をだすことに腐心するならばヒツトラー總統がドイツ國民の間に享受してゐる精神的支持を覆へし戰爭を短縮出來るかも知れない、ところが下院が今回チヤーチル首相の演說で全く不必要な既に知つてゐることを聞かされたに過ぎず、首相が世界を指導するやうな賢慮の言葉を吐かなかつたのは慨歎に堪へない、假りにドイツ國民の武裝を解除しようともそれだけで世界の平和が戰後の苦難から救はれる譯ではない、ドイツ國を解放して再び歐洲經濟圈に取入れることがわれらの任務でなければならない、世界の一般における生活標準を實質的に低くしておきながら、殘りの世界がその影響を受けぬやうにすることは出來ない

ソーネークロフト少佐(保守黨)反樞軸各國がドイツ國民に與へる位戰爭を實質的に長びかす惧れあることはない

ヘドラム(保守黨)反樞軸各國は飽くまで無條件降伏を要求せねばならない、ドイツ國民に對し戰場で敗北したことを絕對に明にすればドイツ國民も戰爭は面白い娛樂だと考へなくなる公算が多いと思ふ、ソ波兩國間の紛爭について英國政府が出來ることはポーランドの見解を判つきりソヴエト政府に提示することである、英國内にはポーランド人に味方する强い同情があることをソヴエト政府に知らせることが必要である

ニコルソン(勞働黨)出來るだけ早くフランス國民を歐洲問題の討議に當り均等かつ有力な仲間にすることが急務だ、ポーランド人に對しては譯の分らぬことをいつてはならない、ソヴエト政府と友好關係を維持しない限り存立出來ぬのだから現實的な基礎の上にソヴエト聯邦との關係を確立するやう警告せねばならない、ロシヤ人の耳にはまた英國内における當惑の現れが惡口の颱風であるかのやうに聞えるのだが、フインランドに對すると同じやうな態度でポーランドに臨むやう要望せねばならない

ビーシック・ローレンス（勞働黨）戰局の推移に徴すれば、歐洲戰爭は長引く形勢だ、歐洲の大半は解放されたが、ドイツを屈服させる仕事が依然殘されてゐる、その間反樞軸各國は歐洲將來の問題を檢討せねばならない、各小國は反樞軸陣營が構成しようとしてゐる世界に生き長らへようとすれば各自國の主權を限定せねばならぬといふ現實を正視せねばならない、またドイツ國を地圖から抹殺したりドイツ人を悉く根絶やしすることは出來ない、ドイツを扱ふに當つてはドイツ國民が次の戰爭を惹き起こすのを阻止すると同時にドイツが貧困と失業の流行地域となるのを防止することが必要だ、この二つの嚴の間を極めて困難な針路を辿らねばならない、歐洲における最大の安定を確保するために國境線を改訂せねばならず、ドイツ國内におけるナチ行政機構の殘滓をも一掃せねばならない

イーデン（外相、保守黨）若し英國民が戰局好轉の徴候に主要な戰びに勝つて了つたといふことを讀み取らうとしたら間違ひだ、かかる言辭を弄するのは餘りにも尚早である、東西兩戰線に亘り戰爭が何時まで續くかを豫斷することは何人にも出來ず、反樞軸各國が團結を維持してヘラン會談以後確定した計畫に基き打擊を日獨兩國に與へることが當面の急務である、五年前に戰を宣して以來いづれの時に比しても今日その必要はいささかも渝りない、今回の討議で何より懸念に堪へなかつたことは一、二の演說で最早戰爭に勝つたかの言辭を聞いたことである、目下われわれが死活の鬪爭を續けてゐる兩國が武器を橫へるまで、以上のやうな想定に基いて政策を決定することは許されない、現在ドイツ人に慰安を與へることは唯一つ、反樞軸國の團結に何らかの楔を打ち込めると感ずることだ、ドイツに課せられる和平條件についても意見がでて一方は苛酷な和平他方は穩和な和平を主張したが、かかる和平條件については余は餘り興味を持たない、英國民が受け入れる和平は唯一つ日獨兩國が戰爭を再び開始する機會を出來る限り與へないやうあらゆる配慮を致すことである、英國の政策はドイツの武裝解除ではない無條件降伏に對する批判も承つたがこの點については首相の定義について下院の注意を喚起したい卽ち首相は「無條件降伏とはドイツに對し反樞軸各國が如何なる條約乃至義務の拘束も受けぬとの意味である、勝者が自由裁量の權限あり、取引の結果ドイツに對し義務を負ふに至らぬとの趣旨である」と言明してゐる、更に一言付加へるならば反樞軸各國はドイツとの間に交涉による講和を企圖してゐないとの意味に外ならない、理由は由來するところ遠く、ヴエルサイユ條約の武裝解除條項に關する體驗に基いてゐる、ドイツ軍當局は武裝解除條項の全般に亘つて巧に普遍的にあらゆる點で脫法行爲を企圖し、かつある程度成功してをつたと信ずる、反樞軸各國としては再び同樣の危險を冒かすことは出來ない

ド・ゴール政權については首相の趣旨は總選擧施行後臨時政府として承認しようといふ意味ではなく、同政府が近く合議機關を設置する旨發表してゐるので首相は右過程に言及したに過ぎない、現に英國政府はフランス臨時政府を承認するかどうかについて反樞軸各國との間に商議を進めてゐる、歐洲諮問委員會は今年に入つて五十回會議を開催してをり、全然發表されてゐないが將來の諸問題につき米英ソ三國間の協力の確乎たる基礎を据えたと信ずる、ソ波兩國との關係位政府並びに余が苦慮してゐる問題はなく政府は終始一貫永續的解決に寄與しようと努力してゐる、一九四一年ロンドンにおいてソ波兩國間の協定が調印されたが、事態の推移により右協定は短命に終つた、しかし政府は當時据えられた基礎を再び打ち建てるため全力を傾倒してゐることを下院に對して確言出來る、テヘラン會談において首相と余とが盟邦ソヴエト代表に對し當時同政府とポーランド政權との間における見解の相違を處理することを英國政府が如何に重視してゐるかを闡明したかとの質問に對しては余の答辯は「然り」である、既にモスクワ會談で明にしたが、テヘラン會談でもこの點を明にし、爾後屢々繰返し英國の立場を强調してゐる

昭和十九年 十月三十日(月)
第三二二五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

刻下の情勢と英國の追及してゐる外交政策については二點を述べるに止めよう、第一にワルシャワ蜂起軍のことだが、當初から英軍は支援を與へるため出來る限りの手段を講じた、第二に以上の同じ努力に關し反樞軸各國の努力を調整するため外交上率先して出來る限りの措置をとつた、ポーランドの東部國境線に關する問題位困つた問題は史上に例をみないといつていい、英國政府は兩同盟國にたいし條約によつて拘束されてゐる、しかし有力な獨立主權國たるポーランドの建設といふ米英ソ三國が公約してゐるところを實現するため英國政府は全力を上げてその役割を果たす決心である、米英ソ三國が持續的な協調の裡に協働しない限り恒久平和の保障はあり得ない、ソ波兩國の紛爭が他の如何なる問題よりも重要な所以である

ダンバートン・オークス會議についてルーズヴエルト大統領は九〇%まで成功したと述べてゐるが、かかる成果は寔に御同慶に堪へない、これらの困難な諸問題が一回の會議で完全に片付くとは豫期してゐなかつたが、極めて率直にいつて正にその通りであらう、今回の討議で西歐洲の各隣邦更に小國全般と緊密な協力を遂げる必要が再三提唱されたが、以上の見解には全幅同意する、既に將來の關係について或る種の非公式交渉が進められてをり、今後更に交渉を進めて行く方針である他方これらの會談を全般的な世界機構强化の補强壁とすることが賢明だと思ふ、かかる取極めだけで英國のために和平乃至安全保障を見出すことが出來ると考へるのは間違ひである、これが今後建設しようとする構成の正しい考へ方であり、この任務に目下從事してゐる次第だ、但しこれら各國政府の代表はそれぞれ本國に歸還して自國民から新な權威を求めねばならず、恐らく改組並びに陣容の變更を必要とするだらうから、端的にいふと右交渉は或る點以上に推し進めてはゐない」

△英國政府の狙ひ

要するに英國政府としては一面米ソ兩國との協力を强化するとともに、かつてスマツツ將軍が示唆したところに基いて西歐洲聯合を結成し米ソ兩國の勢力に對抗しようといふのであらう、「マンチエスター・ガーデアン」紙は九月三十日の紙上において以上イーデン外相の演說に全面的支持を表明するとともに、特に西歐洲聯合案に關聯しつぎの通り論じてゐる

「米英ソ三國間に持續的な意見の一致を確立するとの原則には異議を挾む餘地がない、しかしそれだからといつて、英國政府が獨自の見解を明確健全かつ誤解のないやうに展開して行くのを差控へる理由はない、米國が大統領選擧戰から回復しスターリン議長が戰爭指導の餘暇を見出し得るに至るまで荏苒待つてゐるのは得策でないとの意向が既に擡頭するに至つた、米ソ兩國が自國の政策を展開せずに三國間の完全な意見の一致を待つてなどゐないことは明であり、特に東歐洲においてはソヴエト政府は名は休戰協定だが實體は媾和條約に等しい細目協定によつて著々獨自の政策を推進してゐる」

△英國政界の恐ソ病

米英兩國とソヴエト聯邦との關係について種々勝手な臆測を下すことは避けねばならぬが、東歐洲並びにバルカン地方にたいするソヴエト政府の外交的軍事的進出に、特に英國政界筋が可成り神經を尖らしてゐることは事實だ、既に九月二十日「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙のロンドン特派員はイーデン外相のケベツク乘込みについて次の通り報道してゐる

「イーデン外相が急遽ケベツクに乘込んだのについて一部ではドイツ政府にたいする降伏條件の提案のためだといふ觀測が流布されてゐるが、消息筋では東歐洲の新展開のためだと述べてゐる、最近米英兩國はソヴエト政府の外交政策に全的に滿足してはをらず、もう少し兩國の方針と合致するやう要望してゐる、既に西部戰線で反樞軸軍がドイツ國境線に迫つてをり、赤軍と反樞軸軍との純粹に軍事的な勢力が從來よりも均衡を得るに至つたので、政策の協調を實現するには今がいい時期だとの見解が有力だ」

東歐洲の新展開と漠然述べてゐる所を十月十一日ベルリンの江尻特派員の情報で補足すれば次の通りだ

「ソヴエト政府最近の遣り口は全く傍若無人で、米英兩國の言論界は巨頭會談による徹底的解決を要望してゐる、現にルーマニア、ブルガリア、フインランド各國との休戰交渉については事前米英兩國に通告せず、亡命ポーランド政權を終始否認し、別にルブリン政權を盛り立ててゐる、さらに最近に至り米英兩國人がプロエスチ油田の視察を希望しても許可せず、兩國の軍事使節をソフイヤから追放し、トラキヤ、マセドニアの占領を續けて全く兩國の利益を無視してゐる、以上の推移に對し米國政府は亡命ポーランド政權に大使を任命し、英國首相チヤーチルも下院における演説で間接ながら一矢を酬いてゐる、言論界も可成り激しい論調を示し、ウオールター・リプマンは米國政府がソ波兩國の紛爭その他の重要懸案に敢て決斷を下さないと非難、太平洋からソヴエト聯邦を締め出せと主張し、「デーリー・メール」紙はソヴエト政府が亡命ポーランド政權との現在の關係を繼續するなら、英國内における支持を大半失つてしまふだらう、英國もまた從來通り引込み思案に終始してゐるなら歐洲各國の支持を失ふに違ひないと述べてゐる、今回英國首相チヤーチルがケベツクから歸任して席暖る遑もないのに、イーデン外相と倉皇としてモスクワに乘込んだのは以上微妙な推移を背景として理解さるべきであらう」

△波紛爭、米選擧戰にも波及

モスクワ會談が第一にソ波兩國の紛爭解決に重點を置いたことは亡命首相ミコライチク等がモスクワに赴いたことからも想像に難くないが、紛爭の解決には英國政府の他に、ルーズヴエルトが大統領選擧を前にポーランド系市民の投票を掻き集める見地より少からぬ關心を示したに違ひない、現にポーランド系市民有權者六十萬人の代表はホワイト・ハウスに大統領を訪問し、舊ポーランド領土の完整、ポーランド人口の本國歸還等につき保障を求めた上、ポーランド難民救濟の物資は、「アンラ」を通ずると直接たるとを問はず、米國の國旗と監督のもとに配給することを要請してゐるルーズヴエルトは曖昧な返事でお茶を濁してゐるが、共和黨候補トーマス・デユウイが民主黨政權のポーランド政策を論難し、一九一九年以降におけるポーランド人の領土的要求を支持する旨聲明して以來、ソ波兩國の紛爭は一轉して米國の内政問題と化したといへよう

△バルカン問題暗中摸索

しかし懸案はバルカン各國に及んでゐる、現に「マンチエスター・ガーデアン」紙は十月三日の紙上で「赤軍の占領下にあるルーマニア、ブルガリア各國領土については何ら確實な情報がない、バルカン地方に關しかく情報が缺けてゐるのは遺憾である、例へばルーマニア國内で休戰條項がどの程度實施されてゐるかは何も分つてをらず、ブルガリア政府との交涉の現狀についても全く暗闇みだ」と指摘してゐる

バルカン地方を繞る英ソ兩國の關係を示す一例として「スヴエンスカ・ダグブラデツト」紙の特派員が十月六日ロンドンから報道してゐるところを次に掲げよう

「ブルガリア國内の情勢についてロンドン政界筋に不滿の空氣があることは否定出來ない、特にブルガリア政府との休戰交涉開始については反樞軸各國が主たる條件として、ギリシヤ領土並びに舊ユーゴースラヴイヤ領土からブルガリア軍を撤收することを要求してゐるのに、ブルガリア政府は到底右條件と合致しない特殊の工作に從事してゐるとの印象が強い、英國政府は特に右條件が履行されぬ限り休戰交涉を開始出來ぬと言明してゐるが、ブルガリア政府は全く違つた意見のやうだ、過般ブルガリア政府はトラキヤ西部並びに東部を赤軍とブルガリア軍とで占領する旨宣言したが、爾後英國政府の要望してゐるやうなはつきりした形式で右宣言は否定されてゐない、ソフイヤ來電によればブルガリア軍は大半占領地帶から撤收したが「ドイツ軍に對する軍事行動の見地から」一部の兵力は依然殘留してゐるといふ、ブルガリア情報局の報道では右特定兵力は現に赤軍司令官の麾下に在り、現實にブルガリア政府は共同交戰國の地位に立つに至つた傳へられる、ところがソヴエト政府も右報道を否定しないのでこれ等の報道はロンドンで受けが悪い

昭和十九年 十月三十日(月)
第三二二五號

同盟通信 海外電報

(第三種郵便物認可)

恐らくブルガリヤ政府は有利な條件を確保するため米英兩國とソヴエト政府とを離間しようとの意圖だらうとみられてゐる、ロンドンではバルカン各國の情勢について、驚く程情報が缺けてゐる、ルーマニア政府がどの程度まで、休戰條件を履行してゐるかも殆んど分つてをらず、舊ユーゴースラヴイヤ國内の情勢もあまりはつきりしない、ユーゴースラヴイヤ政權が「アンラ」の援助を拒否したのには英國政界筋でも一驚を喫してゐる、しかも右報道はチトー將軍の國民委員から出てをり「アンラ」の歐洲局もユーゴースラヴイヤ政權とは援助について何ら交渉したことがないと聲明、事態は混沌として分らない」

△英 財 界 筋 の 見 解

チトー將軍がルーマニア國内で、赤軍司令マリノウスキー將軍と協議した後、モスクワに赴いたとの報道も英國政界筋に少からぬ不安を與へたに違ひない

「ダーグスポスホン」紙は十月七日「ソヴエト聯邦に對する英國の對抗措置」と題する社說で、特にロンドンの週刊「エコノミスト」誌の論調を重視し

「エコノミスト誌は最近一度ならずドイツ處分案について穩健な見解を開陳し、同時に英國の施策がソヴエト政府に依存してゐるのを非難した、

現在「エコノミスト」誌の役割はソヴエト政府の政策を危惧し、この際確固たる政策の樹立を要望する英國輿論に對する安全辨たるにあり、英佛蘭各國並びにスカンデナヴイヤ三國との聯合に關する同誌の主張も以上の背景に照らして理解されねばならない」

と述べてゐる、「エコノミスト」誌は「シテイ」(英國財界)の代辯である、從つて英國財界筋には早くもソヴエト政府の外交進出に對する懸念が濃厚になつたに違ひないと三段論法を弄するのは勿論輕卒に違ひない、しかしモスクワ會談への序曲を敍するため、ケベツク會談以後米英ソ三國の關係を傳へた趣旨に基き、最後に「エコノミスト」誌の卷頭論文二篇を次に揭げよう

「再びケベツク會談について」 九月十六日、スターリン元帥は會談に招請されたにも拘らず東部戰線に關する軍務多端を理由に參加を拒否した、それでなくてもフランス代表が參加しない會議でドイツについて最終的決定を下だすことは出來ない、しかし米英兩國代表が歐洲の急迫した諸懸案を十分檢討し、共同の解決案乃至解決に至る原則を確立することを要望して止まない、過去二ヶ年間米英兩國政府が世界戰爭の當初における見解並びに主義の闡明から漸次逸脫し、自らの公約並びに利害と正面から矛盾する諸政策をとる立場に陷つた證據歷然たり、しかし今日軍事上の均衡は米英兩國にとつて有利に轉じた、從來米英兩國は軍事上の業績が不十分なため多少遠慮勝ちであつたかも知れないが、現在ではかかる遠慮は全く無用だ、各國民の權利、民族自決、並びに敗れた敵國の扱ひに關する大西洋憲章の諸原則が米英兩國政府の愼重考慮した見解を表現してゐるとすれば、些かも躊躇する所なくこれらの原則を確言して差支へない、ただこれら原則上の諸點につき西歐洲同盟各國の立場を弱める惧れあるのは、各國が單一の聲を以て語ることが出來ぬ場合だけである、したがつて歐洲の諸懸案についてケベツク會談で最終的な決定を下だすことが出來ぬとしても、米英兩國共同の解決と信條の表明とを決定するため今回の機會を把握せねばならない」

「ケベツクにおける決定」 九月二十三日「チヤーチル首相とルーズヴエルト大統領との間におけるケベツク會談は終了を告げ、型通り公報が發表されたが、衷心からの共鳴を强調してゐるだけで積極的な情報は全く缺けてゐる、兩人が記者團との會見で述べたところは、主として東亞の戰ひに關聯し、且つチヤーチル首相の語調から察すれば、日本軍との戰ひに對する英軍の寄與を企畫する上で一番の難關は英軍が支援を惜しむといふ點ではなく、逆に米軍がしるしばかりの援助以外は御免蒙りたいといふ點にあつたことは明かだ、しかしこれらの諸問題は圓滿に解決された樣子で、チヤーチル首相の言葉を借りれば「米國人だけが旨い汁を吸ふわけには參らない」同時に歐洲とその政治上の諸問題とがケベツク會談で東亞の作戰と同樣檢討されたことも明瞭だ、イーデン外相が突如ケベツクに飛んで行つたことでも、この事實を裏書出來よう

イーデン外相がかう急遽呼び出されたのは如何なる問題を討議するためであつたか、何等當局筋では示唆を與へてゐないが、ドイツ問題が主要議題であつたことは大して智慧を巡らさずとも明らかだ、しかしドイツ處分案に關する一部の噂は率直にいつて全く困りものだ、ドイツ領土の併合、ドイツ人の大量移植といふ提案に米英兩國民が拔き差しならぬやうな約束をさせられるのではないかとの懸念の上に、今度はドイツ國民經濟の基礎を組織的に破壞して了ふといふ案まで出てゐる、換言すれば七千萬の人間を英本國と大體同じ位の領域に叩き込み、しかも現にその半分の人口がこの島國で生存出來るのは工業化のお蔭なのに、工業まで奪つてしまはうといふのだ、かかる眞夏の氣狂ひ沙汰はデマをバラ撒く手合ひの空想に過ぎず、反樞軸各國の政治的識見が、ドイツ人は斷じて受け容れず反樞軸各國もまた絕對に執行出來ぬやうな政策を阻止することを希望して止まない」

ソヴエト政府の獨往外交に對し、毅然たる自主外交を英國政府に要望した「エコノミスト」誌が返す刀でモーゲンソー財務長官らのドイツ處分案を論難、暑氣中りで頭が變になつた（midsummer madness）と批評してゐるのは痛快だ、同誌の主張をドイツ國内の攪亂を企圖する謀略と解するのは穿ち過ぎた觀測だらう、米國人が大西洋を隔てて寢言を並べてゐるのに反し、大陸の經濟と同生共死の立場にあるシテイ筋はもつと現實的に歐洲の將來を考へざるを得ない結果ではなからうか米英ソ三國の關係は至るところ弱點を包藏し、戰局が長引くとともに、弱點が或ひは深刻化し或ひは擴大するのが必至の形勢だ

資料

米國戰時經濟近況

タス通信十月十五日ニユーヨーク電

△經濟下降狀態に入る

本年第三・四半期における米國の經濟諸活動は依然として高い水準を維持したが、昨年十一月を最頂點として下降狀態に移り第一、第二・四半期に引續き、第三・四半期に入つてもこの傾向を續けた、軍需生產は各種の困難を經驗し且つ戰局の變化に伴ひ多くの變更が行はれたにも拘らず、依然として米國經濟諸活動の基本的支柱となつた、商務省の經濟活動調査も、或ひはその他政府、民間の經濟調査も歐洲戰が終了するまでは巨額の軍需發註が續けられ、從つて經濟活動も高水準を維持するだらうと豫想してゐるが、問題はこれからであり、以上諸機關の豫想によれば歐洲戰終了の曉には軍需注文は少くとも四十パーセントは減少すべく、從つて經濟活動も著しく低下することとならう

戰時生產局は間近に豫想される軍需注文の削減に伴ふ困難な問題の發生に備へて、最近戰時統制を若干緩和し、民需生產に多くの資材を開放し或ひはその他の用心深い產業再轉換措置を講じた、かくて、從來軍需品の生產ばかりに當つてゐた鐵道機關車工場または農業機械工場の大部分は今や平和時生產に復歸するに至つた、戰時生產局はさきに本年第四・四半期分として二十萬トンの炭素鋼を民需用に割當ててゐたが、最近に至つて更に炭素鋼十萬トン、合金鋼二萬五千トンの追加割當を行つた、さらにマグネシウムに對しては戰時統制を全廢し、一千五百萬封度の銅を民需用に開放一方重油燃料器、電氣水熱器その他金屬を原料とする民需品の生產再開を許可した、戰時生產局のこれ等の措置は、單に民需品に對する一般市民の要求に部分的ながら應じたばかりでなく、軍需生產の大削減と共に當然豫想される大變動から米國經濟を救はんとするものである

△各種經濟指數

政府の軍需發注は依然として巨額に達してゐるにも拘らず、經濟活動を示す諸指數の上には明らかに下降傾向が記錄されてをり、この傾向に對しては政府、民間共に相當の警戒を拂つてゐる、聯邦準備局の指數は、本年上半期においてすでに若干の下降傾向を示したが、第三・四半期に入つてもこの傾向は依然として續いた

昭和十九年 十月三十日(月)
第三二二五號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

例へば聯邦準備局工業生産指數は六月二三五、七月二三一、八月二三二を示したが、これに對し昨年八月は二四二、十一月は二四七だつた、卽ち本年八月の指數は昨年十一月に比較して十五ポイント方の低落である

聯邦準備局の九月分指數はまだ發表されてゐないが「ニューヨーク・タイムズ」紙の週間指數(この指數は相當杜撰なもので鐵鋼生産高、電力出力鐵道貨物輸送量等僅か數種の産業活動を基礎として作成されるに過ぎない)によると、九月も依然として下降狀態を示してゐる、卽ちこれによると九月二日をもつて終つた一週間の指數は一四〇・九を示したのに對して、九月三十日をもつて終つた一週間の指數は一三七・二に低落した

しかして經濟諸活動の下降傾向において輕工業の下降の方が重工業のそれよりも顯著である、例へば聯邦準備局の指數によれば、重工業部門では昨年八月の三五五に對し本年八月は三四九を示してゐるのに、輕工業部門では前年八月の一七八から本年八月には一六六まで低落した、農業生産は聯邦準備局の指數に含まれてゐないが、これだけは昨年に比較して本年は增大してゐる模樣である

△直接軍需生産は增加

以上の經濟指數によれば、米國工業生産の全般的水準は昨年同期に比較して低落してゐるが、このうちにあつて直接軍需品の生産高は相當增加してゐる、軍需生産に關する最も新しい資料は戰時生産局が九月二十五日に發表した八月中の軍需生産指數だが、これは一一五となり昨年同期の一〇五に比し相當の上昇となつてゐる、もつとも八月の指數は從來の最高記錄を示した昨年十一月の一一七、十二月の一一八には及ばないが、本年一月以降八ケ月間の軍需生産總額は昨年同期のそれを遙かに凌駕してゐる、最近、戰時生産局長官クルーグは、本年の軍需生産豫定額六百七十三億弗のうち、八月までにその六十四パーセントが生産された事實をあげ本年の軍需生産實績は豫定額に達せざること二、三パーセントのところとならうとの豫想を下した、因みに現在までの軍需生産業績は一九四一年に八十億弗、一九四二年に三百十億弗、一九四三年に五百七十億弗だつた

しかして各種軍需品のうち、飛行機、船舶、火砲等の生産は大體豫定計畫通りの實績であり、これに對し彈藥、戰鬪用車輛、電氣兵器その他武器は若干豫定計畫に達してゐない、主要武器の最近の生産高を示せば、八月中の飛行機生産高はその機數ほぼ八千機に近く、重量は九千四百萬封度に達し、一方船舶は九月において百二十四隻、百十八萬六千トンが建造された

△一般生産は減退

しかしながら、直接軍需品以外の一般生産は明らかに異なつた傾向を示してゐる、例へば本年第三四半期の鋼鐵生産高は依然として高水準を維持したが、なほ前年同期の生産高に比し若干低下した、米國鐵鋼協會の推定によれば、第三四半期の鋼鐵生産高は前年の二千二百五十萬九千トンに對し本年は二千二百十三萬八千トンと三十七萬一千トンの減少である、しかしながら、本年の第一、第二四半期の生産高が昨年同期を凌駕してゐたので、九月までの總生産高では昨年より多く、前年九ケ月間の生産高六千六百三十九萬五千トンに對し本年は六千七百十九萬九千トンとなつた、一方鐵鋼工業の作業率は今週において基準全能力の九六・九パーセント、前年同期のそれは一〇〇・八パーセントだつた

一方石炭の産出高は僅少ながら昨年の水準を上廻つてゐる、卽ち、本年九月末までの産出高は四億七千百萬トンを超え、一九四三年同期に比し五・九パーセント增となつた、建築活動は政府の戰時建築計畫の削減によつて著しく減退した、民間の建築事業は本年に入つて若干增加はしたけれどもなほ且つ政府建築事業の大削減を償ふには至らなかつた戰時生産局の發表によれば、九月中の諸建築高は三億二千三百萬弗だつたが、これは八月に比し四パーセントの減少、昨年同月に比すれば實に四十四パーセントの減少である、本年九月末までの總建築高は二十九億五百萬弗、うち十一億八千五百萬弗が民間資金による建築であり、殘りが政府資金による建築である、これに對し、昨年同期の建築高は六十四億九百萬弗に達しうち民間建築は十一億二千七百萬弗に過ぎなかつた

鐵道貨物輸送量は本年九月末までに三千三百四萬一千貨車だつたが、昨年同期は三千二百四十一萬九千貨車だつた、これを要するに鐵鋼業を除きその他の製造工業活動は、昨年に比し遙かに減退してゐるといふことが出來る、聯邦準備局指數による八月中の主要工業活動の昨年との比較つぎの通り

	一九四四年八月	一九四三年八月
機械工業	四三六	四四五
輸送機關製造業	七〇九	七六二
化學工業	三一三	一三〇

輕工業部門では傾向區々で一概には論じ得ないが、大體においてこれまた下降狀態にあるといふことが出來よう、卽ち聯邦準備局の指數次の通り

	一九四四年八月	一九四三年八月
棉花消費高	一四〇	一四七
皮革製品	一一三	一一一
加工食糧品	一四九	一四五
煙草製品	一二六	一三六

△就業狀況

就業狀況は依然として高水準を維持してゐるが生產活動の低下を反映して、これまた昨年に比して若干低下した、勞働省の發表した數字によれば本年九月の就業者數は五千二百二十五萬だつたがこれは昨年九月には五千二百九十五萬だつた、しかし、就業者總數の減少にも拘らず、徵兵者數が增加したため失業者數は却つて減少し、勞働省の推定によれば昨年九月の失業者數は九十六萬だつたのに對し、本年九月は七十八萬にまで減少した

賃金率も依然高いが、勞働組合は資金よりも生產費の騰貴の激しいことを頻りに指摘してゐる、政府のインフレ抑制策をはじめその他の要素によつて現在のところ物價の急騰は押へられてはゐるが、生活費が僅かながら昂騰してゆく傾向は依然として認められる、卽ち勞働省の生活費指數は本年八月の一二六・三に對し昨年八月は一二三・四一九四一年八月は一〇六・二であつた

△國內消費と海外市場

勞働者賃金收入の增加並びに農家の收入特にその利益の激增によつて、國內市場は活況を續けてゐる、商務省の本年上半期の調査によれば、一般消費者が物資及びサーヴイスに對して支拂つた額は年九百五十億弗を超える巨額に上つた、右調査はかかる消費金額の激增は主として價格の騰貴によつて招來されたことを指摘してゐるが、しかし一般の純消費額も相當に增加してゐることは否定出來ない、一方「ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン」紙が十月八日に發表した調査によると本年の小賣高總額は多分六百六十億弗を突破すると推定される、これに對し昨年の小賣高は六百三十二億六千六百萬弗だつたが「トリビューン」紙はこの調査の註釋において次の通り指摘してゐる

「歐洲戰の終了に伴ふ軍需生產の削減は一時的ながら約四百萬の失業者を出すべく、これは必然的に小賣賣上高の減少となつて現はれるだらう、しかしその後軍需產業の再轉換工作が進捗し、民需產業がその生產規模を擴大、失業勞働者を再雇傭するに至れば小賣高も再び增加に轉じよう」

武器貸與額が巨額に上つてゐるので、米國の輸出高は依然として尨大な額を續けてゐる、商務省が十月九日に發表したところによると、本年一月以降八月までの輸出額は未曾有の巨額たる九十六億六百萬弗に達したが、そのうち七十六億七千四百萬弗は武器貸與輸出だつた、但しこのうちには海外にある米國軍に對する軍需補給額は含まれてゐない

△產業再轉換問題

かくて最近米國の經濟活動に關する一般的指數は若干の低下を示したけれども、米國經濟は依然として高水準を維持しつつあり、しかしてこれが主要支柱は戰時活動と尨大な額に上る輸出貿易とであるといふことが出來よう

しかしながら、目下米國經濟界の中心問題となつてゐるのは、歐洲戰終了後に米國經濟が直面すべき事態である、卽ち、歐洲戰が終了した曉には政府の軍需發注はたちまちにして激減すべく、從つて少くとも一時的には相當の失業者を出し、國內消費は減退すべく、さらに武器貸與輸出の減少も豫想される

前戰時生產局長官ネルソンは歐洲戰が終れば、政府の軍需注文は約四十パーセント方減少しよう

と述べたが、民間筋ではかかる推定は寧ろ少きに過ぎ、軍需注文の減少はさらに大きな率によるだらうとみてゐる、たとへば、ジエネラル・モータース會社會長スローアンは十月五日の演説で軍需生産の削減は四十パーセントどころか七十パーセント近くにも及ぶだらうと豫想した、急進的勢力は米國がかかる狀態に直面した場合には、高率賃金の支拂を繼續し、軍需産業から解放された失業勞働者には適當な救濟措置を講じ、一方海外諸國に對する大規模の融資政策によつて對外貿易を維持することにより國内經濟の沈滯を防止せよと主張してゐるが、これに對しては財界に有力な保守的分子あり、彼等はかかる緊急措置に反對し戰後の經濟活動の萎縮もやむなしとの態度をとつてゐる、歐洲戰終了後の米國經濟界の動向については各種の豫測が行はれてゐるが、左はナショナル・シテイ銀行「ビユレチン」十月號の觀測である

「ネルソンの最近の豫想では、歐洲戰終了と共に軍需注文は四十パーセント方減少し、これに代り民需生産が三十パーセント方增加することとなつてゐたが、この豫想が的中するとすれば聯邦準備局の産業活動指數は八月の二三二から大體二〇〇程度にまで低下することとならう、しかし、ネルソンのこの豫想は若干樂觀に過ぎるきらひがあるまた軍需産業から解放される勞働者は、民需産業の回復によつて直ちに吸收されるだらうと見るのも樂觀に過ぎる、かくて、歐洲戰終了後には米國の産業活動指數は多分二〇〇以下に落ちるだらう政府筋の一部でもナショナル・シテイ銀行程悲觀的ではないが、歐洲戰終了後米國が相當の經濟不況に襲はれることは不可避だと見てゐるやうだ、例へば「ビジネス・ウイーク」誌の十月七日號が報ずるところによると、戰時生産局當局すらひそかに歐洲戰終了後六ケ月後に米國の産業活動は聯邦準備局の指數によつて一八五程度にまで低落するだらうと觀測してゐる」

△戰後の經濟不況

經濟研究機關「ユーナイテツド・ビジネス・サーヴイス」は最近米國が歐洲戰終了後に直面すべき經濟的困難につき要旨左の如き報告を發表した

「歐洲戰終了後六ケ月以内に米國の失業者は六百萬近くとならう、時間外勞働の如きもなくなるべく、勞働者は時間外勞働賃金喪失による收入の減少を償はんとして賃金の引上げを要求すべく、困難な勞働問題が現れよう、戰時に蓄積された貯蓄額は相當の額に上つてゐるから、これが各種消費物資の購買にふり向けられようが米國の經濟が現在の如き戰時景氣の高水準を維持するだらうなどと豫想する經濟專門家は殆んど見當らない、一部では戰後數ケ年以内に米國は由々しき經濟危機に直面するだらうと豫想してゐる者もある位だ」

かかる危機を回避するため米國のとるべき措置については各種の勸告が行はれてゐる、左はコロンビア大學教授で、米國の有數な經濟學者とされてゐるミツチエル教授が九月十八日の「ニューヨーク・タイムズ」紙上に發表した論文である

「米國の經濟界が自力をもつて戰後の經濟危機を防ぐことが出來ないならば、國内には多分政府が統制經濟を實施すべきであるとの有力な要求が擡頭するだらう、一部では現在早くも政府による統制の强化を主張してゐる者すらある、米國はソ聯がその戰時經濟の運營において豫想もしなかつた程の能率を發揮したことを眼のあたりみせつけられてをり、もし米國が經濟危機にまきこまれるならば、ソヴエト式の統制經濟に對する執着は大いに增加しよう、卽ち、戰後米國の批評家達はソ聯が獨ソ戰の初期において敗退し、ドイツ軍によつてその最も工業化された地方を占領されながら、なほ且つ裝備の優秀な軍隊を前線に配備してつひにドイツ軍を驅逐した事實をあげて、米國の國家機構の缺陷を指摘するだらう、彼らは勿論米英兩國からの武器貸與がソ聯を大いに援助した事實は認めるだらうが、しかし同時にソ聯自らも赤軍に對する補給及び一般市民に對する給與の大部分を賄つたことを主張するだらう、もしソ聯が戰後においても同樣の素晴らしい能率を發揮するならば米國の批評家達は必ず米國もまたその生産機構を利潤主義におかず、ソ聯の如く社會福祉を基礎として再組織するならば完全雇傭と繁榮とを確保し得ようと主張するに違ひない」

大正十五年十月廿七日第三種郵便物認可　昭和十九年十月卅一日(火)　第三二二六號

同盟通信

海外電報

編輯發行人　秩野伊八　東京都麹町區日比谷公園二番　印刷人　岡野雅信

スチルウエル大將の「召還」は米英兩國と重慶との關係が最近變調を呈してゐる具體的な現れだ、恐らくケベツク會談當時東亞反攻作戰の統帥について色々問題が出たに違ひない水陸兩用作戰を主作戰とする東南アジア軍司令マウントバツテン卿と、支那大陸の作戰に重點をおいて反攻作戰を押し進めようとするスチルウエル大將とが正面衝突を演じてゐることは夙に「デイリー・メール」紙など英國新聞界が公然報道したところ、恐く米國代表はケベツク會談で御曹子提督の無能を非難したらうが、チヤーチル首相は逆にスチルウエル大將の傍若無人な遣り口を攻撃したに違ひない、東南アジア軍の作戰も一向にパツトしないが「ヴイネガー・ジョー」と異名をとつたスチルウエル大將の弱點は、第十航空隊司令クレートン・ビツセル代將第二十四航空隊司令シエンノート少將等とも仲違ひしてゐる點だ、否それより更に決定的なのは蔣介石との不和で、結局重慶政權からの要求で今回スチルウエル大將の退陣となつたのではないかとみられる、スチルウエル大將は「適當な訓練と優秀な裝備」とを與へれば重慶軍は立派な部隊になると主張し、頻りに牽制政策、國共合作を蔣介石に進言してゐたが、碧眼紅毛の小五月蠅い內政干渉に蔣介石が堪りかねて退陣を要求したといふのが一番筋の通つた觀測だ、ところがAP、UPのワシントン電報は全く反對の觀測を傳へ、APは「蔣介石に對する米英兩國の態度が冷却した結果かもしれない、重慶政權が軍制改革を斷行出來ぬので、批判をうけてゐるのは周知の事實だ」と述べ、UPは「軍制の改革、國共の合作が出來ぬのに對し重慶政權の橫面を毆つたのが、スチルウエル大將の引き揚げだとも解釋されてゐる」と報道してゐる



【目　次】

イラン內閣遂に辭職か……二五三六
ソ聯、イラン內閣を扱き下ろす……〃
ブルガリア休戰協定成立……〃
空路會議にソ聯不參加……〃
【米　國】
スチルウエル更迭……二五三七
蔣介石との對立が原因か……〃
ルーズヴエルト選擧演說……二五三七—二五三八
「タイム」誌ソ聯を非難……二五三八
ソ聯の經濟進出を憂慮……〃
ソ聯に發電機供給……〃
八月現在輸出高……〃
艦隊の增强を誇る……二五三九
海軍新編入の艦艇……〃
比島海空戰の損害小出發表……〃
ロケツト砲生產に大童……〃
陸軍飛行士訓練狀況……〃
歐洲戰終了後にも緊急不足物資……〃
【米　洲】
伯基地を對日戰に使用か……二五四〇
亞國汎米會議招集……〃
米、亞國の提案に驚く……〃
【ソ　聯】
對諾態度表明……〃
モスクワ會談は成功……〃
【英　國】
モスクワ會談の經過報告……二五四一—二五四二
東亞反攻作戰に軍需轉換……二五四二
ソ聯の印度進出を危惧……〃
【亡命政權】
諾、赤軍との協力を强調……〃
諾政權モスクワに代表派遣……〃
【特　輯】
西部戰線を空からみる……二五四三—二五四六
【資　料】
バラクーダ機の生產……二五四七—二五四八
耐火建築……二五四八—二五四九

イラン内閣遂に辭職か

（ストツクホルム二十九日發）英國政界筋は石油利權を繞るソヴエト、イラン兩國間の交涉經緯を注視してゐるが日曜新聞「オブザーヴアー」紙は二十九日の紙上において次の觀測を下してゐる

モハメド・サエドを首班とするイラン內閣は石油利權交涉に關するソヴエト政府の申入れを拒否したがその結果內閣が瓦壞するのではないかとみられる、ソヴエト政府は久しい以前からイラン現內閣に不滿でイラン經由米國からソヴエト聯邦向けの貸與物資輸送をイラン政府が妨害すると非難してゐた

ソ聯、イラン內閣を扱き下ろす

（モスクワ二十九日發）テヘランからのタス電報によればカフタラーゼ外務人民委員部次長はテヘランにおいて記者團と會見、次の通り述べたと傳へられる

イラン政府が戰爭終了までイラン北部地區の石油利權に關するソヴエト政府の要求を考慮しない旨決定したのはソヴエト政府筋に極度に惡い印象を與へてゐる、首相モハメド・サエドはかかる態度をとつて徒らにソ・イ兩國の關係惡化を圖つてゐるに他ならない、交涉の拒否に當つてイラン政府は唯一つも肯首すべき理由をあげてゐない、イラン政府は戰後一層いい條件で石油利權を提供しようとの意圖かも知れないが今回の申入れに際してもソヴエト政府は

一、イランの必要とする石油製品は有利な條件で同政府に提供し

一、利權の期間が滿了するとともに一切の企業はイラン政府の手に移る

ことを提案してゐる、イラン北部の油田地帶測量開鑿だけでも數萬人のイラン人が仕事にありつきソヴエト政府は依然としてイランとの間に親善關係を維持してゐるが首相モハメド・サエドが非友好的態度をとつてゐるので今後同首相と協力することは出來ない、數年間戰爭の試煉を經たイランソヴエト兩國の關係を攪亂することは許されず、途上に橫はる障碍と困難とを取除き、結局イラン政府が石油利權をソヴエト聯邦に賦與して兩國の關係が一段と强化されるに至ることを確信する

ブルガリア休戰協定成立

（ストツクホルム二十八日發）モスクワ來電によれば米・英・ソ三國政府とブルガリア政府との休戰協定は二十八日モスクワにおいて調印を了したといはれる、ブルガリア代表外相スタイース、藏相ストヤース、無任所相テルペシエフ、同ペトコフは去る二十六日來モロトフ外務人民委員、モスクワ駐劄英國大使クラーク・カーなど米・英・ソ代表と休戰交涉を續けてゐたが、二十八日に至り三國の提出した休戰條件を受諾し、休戰協定は成立した、モスクワ放送によれば休戰條件は追て發表されるといはれ、協定締結に當つては第三ウグライナ戰線司令官トルブーヒン元帥が三國の委任に基いて調印した模樣である、休戰條件は少くもルーマニアより苛酷なものとみられ、モスクワからのUP電は次の諸點をあげてゐる

一、赤軍のブリガリア進駐に要した費用に對する賠償金の支拂

一、戰爭犯罪人の處罰

一、ユーゴースラヴイア並びにギリシヤからの兵力撤收

一、フアツシヨ團體の解散

空路會議にソ聯不參加

（ストツクホルム二十九日發）米國國務省は反樞軸各國並びに中立八ケ國の代表を招請し、十一月一日からシカゴで國際民間航空會議を開催するに決定したが、ソヴエト政府は二十九日ダス通信社を通じ次の通り發表して會議に參加しない旨明かにした

各國新聞はソヴエト政府が國際航空會議に參加するかの報道を流布してゐるが、スイス、スペイン、ポルトガル各國等のやうに多年ソヴエト聯邦に非友好的態度をとつてきた國々が會議に招請されてゐるのでソヴエト政府としては參加出來ない

昭和十九年十月卅一日(火)
第三二二六號
同盟通信 海外電(第三種郵便物認可)

【米國】

スチルウエル更迭

(リスボン二十八日發)ワシントン來電=白堊館當局は二十八日次の通り發表した

大將ジョーセフ・スチルウエルは印緬支派遣米軍司令官、東南アジア軍副司令官、重慶軍參謀長の職を解かれワシントンへ召還された、右により從來の印緬支戰線は二分され、支那戰線の米軍は少將アルバート・ウエデマイヤー、印支戰線の米軍は中將ダニエル・サルタンによつて指揮され、同時にウエデマイヤーは蔣介石によつて支那戰域における參謀長に任命されたなほ新任支那戰線米軍司令官ウエデマイヤーは一九四三年十月陸軍參謀本部附から轉出して東南アジア軍參謀次長に任命されたもので、本年五十八歲、また印緬戰線司令官のサルタンは一九四三年十一月第八軍司令官から轉じて印緬支派遣米軍副司令官に就任したもので本年五十八歲である

蔣介石との對立が原因か

(リスボン二十九日發)スチルウエルの更迭については未だ公式に理由は明らかにされてゐないが、何分スチルウエルは過去二年來に亘り印緬支派遣米軍司令官として重要な役割を演じてきただけに今回の異動が反樞軸各國に與へた影響は極めて大きく、更迭の理由についても諸種の觀測が行はれてゐる樣子だ、ワシントン來電によれば二十八日白堊館からスチルウエル召還の發表があつた後、陸軍當局は記者團の質問に對して「印緬支戰線を二戰域に分割することになつたのでスチルウエルをワシントンへ召還したが、彼には重要な新任務が與へられるだらう」と答へ、スチルウエルの召還が左遷でないことを暗示したといはれ、右に關しワシントンの一部消息筋では、スチルウエルは支那侵入軍の總司令官に任命されるだらうとの觀測を下してゐると傳へられる

一方蔣介石との意見の對立に由ると見る向きも多く、ワシントンからのUP電によれば支那戰線における戰爭遂行方針について蔣介石との間に深刻な意見の對立を生じ、到底今後兩者が旨く調子を合はせて行くことは出來ない狀態になり、蔣介石も最近米國政府に對して以上の點に關し何とかして貰ひたいとの要請を發したとさへいはれてゐる、更に別電によればスチルウエルは重慶軍の戰鬪能力を增大せしめるため、現在蔣介石の指揮下に作戰してゐる部隊を含め全重慶軍を彼の指揮下におくやうにと要請したといはれる、尤も以上の報道は米國及び重慶において確認されてはゐないが、米國が蔣介石に對し最近頻りに重慶軍の再編卽ち中央軍の效果的使用並びに重慶軍の戰力を全面的に增大せしむべしとの要求を提出してゐるところから推測して十分考へられるところで、或ひはスチルウエルのかかる要求が今回の更迭の直接動機となつてゐるのではないかと見られる

一說によればスチルウエルと第十四航空部隊司令官シェンノート及び第十航空部隊司令官ビツセルとの意見疎隔の事實もあると傳へられるが、ビツセルは既に以上の報道を否定してをり、更迭の原因が蔣介石との意見對立にあることは略々確實のやうだ、更にAP電によればワシントンの消息筋の一部でスチルウエルの召還は米國の蔣介石に對する態度の冷却から生じたものだとの見解を持してゐるといはれる、何れにしろ米國と重慶との現在の微妙な關係から見て今回のスチルウエル召還が今後兩國關係にいかなる影響を及ぼすか注目に値する

ルーズヴエルト選擧演說

(リスボン二十八日發)フイラデルフイア來電=大統領ルーズヴエルトは二十七日夜フイラデルフイアに乘込んで選擧演說を行ひ次の通り述べた

米國參戰以來の戰局の推移はこれを三段階に分ち得よう、第一段階は日獨兩國の進擊を反樞軸軍が必死となつて阻止せんとした時期であり、特に濠洲及び英本土のごとき重要基地の防衞に全力を注いだ、第二段階は敵の外郭防衞線を擊破すると共に敵に對して本格的攻擊を加へうる基地を獲得した時である、第三段階はニューギニア、ソロモン或ひは北阿作戰をもつて始まり歐洲戰域ではイタリア、フランス作戰となり、太平洋戰域では現在のフイリピン作戰に續いて

ゐる、この作戰過程において米國が數々の困難な問題に直面したことは斷るまでもない、しかるに現政權は反樞軸諸國との緊密な協力の下にこれ等の困難を克服して戰局を現在の段階にまで導いた、米國は一九四〇年以來八十五萬に上る飛行機乘員を養成し、現在米國の陸海兵力は一千百萬人に達し、うち八百萬は陸軍兵力でありその半分以上が海外に派遣されてゐる、更に陸海軍の兵站補給線は八萬九千粁に達し、一方空輸司令部の管理してゐる航空路はその延長二十四萬粁以上に上る、現在兵站補給に從事してゐる米國の貨物船は五百七十七隻、これ等の船が每月米國の諸港灣から積出してゐる軍需資材の量は殆んど三百萬トンに達する、軍用油槽船の數は百五十六隻、一月に一千四百萬バレルの燃料がこれによつて搬出されてゐる

「タイム」誌犬の遠吠

—ソ聯の孤立主義を非難—

（リスボン二十七日發）反樞軸就中米國は歐洲戰の山もみえぬ裡から先走つたドイツ處理案に血道をあげ、ドイツ工業根絶論とかドイツ國防軍一掃案を提唱して儚い夢を描いてゐるが、米國の最も危惧してゐるのは、ソ聯の自主的政策でソ聯の方針を暗中模索して一喜一憂してゐる狀態だ、例へば週刊誌「タイム」の最新號はソ聯におけるザイトリツツ委員會に脅威を感じ、クレムリンの孤立主義を非難して次の通り論じてゐる

ソ聯が歐洲に對する「逆防疫線」を形成するため、戰後ソ聯に友好的でしかも強力なドイツを維持することを希望してゐるのは疑問の餘地がない、ソヴエト政府は今次大戰以前にもさうしたドイツを作り上げようと目論んだが、機會がないため失敗に終つた、しかしながら今日のソヴエト政府はいはゆるザイトリツツ委員會を利用して以上の希望を實現しようと圖つてゐる、スターリン議長は一昨年の革命記念演說でドイツ國防軍を絶滅せぬソ聯の方針を明らかにしたが、このことはドイツがソ聯に對して友好關係を維持する限りドイツの軍事力を維持しようと提案してゐるに等しく、事實ザイトリツツ委員會を通じて宣傳に努めてゐる、ソ聯は最近しきりに米英兩國のドイツ處理案は手溫いと叫んでゐるが、以上の企圖を蔽はうと試みる煙幕のやうなものだ、ソ聯はザイトリツツ委員會を心理的武器としても使ふ積りであることが容易に想像出來る

ソ聯の經濟進出を憂慮

（リスボン二十七日發）經濟紙「ウオールストリート・ジヤーナル」最近號は戰後におけるソ聯鐵鋼の世界市場進出を豫測、鐵鋼輸出に對する脅威を指摘して次の通り述べてゐる

ソ聯が戰後鐵鋼工業を再建して遂には過剩分を輸出するやうになりはしないかといふことが問題となつてゐるが、一部では復興工作に生產量の殆んど全部を使用するであらうから心配するに當らないと樂觀してゐるやうだ、しかしながらソ聯の生產能力は年最高六千萬瓲とみられ一九四一年卽ち戰前の米國生產高の四分の三に相當するから、決して樂觀は許されない、なほ米國現在の年產高は九千萬瓲である

ソ聯に發電機供給

（リスボン二十六日發）英國紙「ファイナンシヤル・タイムズ」のニューヨーク特派員は十四日次の通り述べてゐる

米國のジエネラル・エレクトリツク會社はソ聯のドニエプロストロイ發電所のために水力發電機九基を製作することになつた、發電機一基の重量は二百萬封度、その出力は全部で九十萬馬力となり、この結果一九四一年ドイツ軍に破壞されたもとの設備よりも出力は十五パーセント增加する豫定である

八月現在輸出高

（リスボン二十七日發）ワシントン來電＝政府は十八日次の通り發表した

八月中の輸出高は十二億弗であつた、しかして本年一月以降、八月までの輸出總額は九十六億弗に達し、そのうち武器貸與法にあるものは七十六億弗である

同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

艦隊の増強を誇る

(リスボン二十七日發)ワシントン來電=海軍海兵隊司令官ヴアンダーグリツトは二十七日の海軍日にあたり要旨次の通り演説した

大戰勃發以來米國艦隊に編入されたあらゆる型の艦船は實に六萬五千隻に上る、この内三十六パーセントは戰鬪用艦艇、二十九パーセントは補助艦艇、二十二パーセントは上陸用船舶である、さらに同期間に海軍の受取つた飛行機の數は五萬七千六百機に達した、五年前海軍機生産高は月平均十二機だつたが現在では一日平均七十八機となりその生産率はなほ向上しつつある今後一年間に海軍は三萬機の飛行機を必要としてゐるがこのうち九十三パーセントまでが戰鬪用飛行機である

米海軍新編入の艦艇

(リスボン二十七日發)ワシントン來電=海軍長官フオレスタルは二十七日の演説で次の通り述べた

本年に入つて海軍に編入された艦艇は四萬四千トン級戰艦二隻、二萬七千トン級空母七隻、護送用空母四十隻、巡洋艦十五隻、驅逐艦八十五隻、護送用驅逐艦二百隻餘であり、更に戰鬪用飛行機二萬七千機も增强された

比島海空戰の損害小出し發表

(リスボン二十六日發)海軍當局は比島水域における海空戰で蒙つた損害については頗る被りを續け僅かに空母プリンストンの沈沒を認めたに過ぎないが、パールハーバーからのUP電によればさらに米軍はサマル島東方で護送空母一隻を、またレイテ灣で快速艇數隻を擊沈されたほか護送空母並びに驅逐艦數隻に損害を蒙つたといはれる

(リスボン二十七日發)ワシントン來電によれば海軍省は二十七日更に次の通り發表したといはれる

艦隊はフイリピン作戰において更に護送用空母二隻、驅逐艦二隻、護送用驅逐艦一隻を喪失した、但し詳報は入つてゐない

右の發表ぶりからみても米海軍は今後更に相次いでいはゆる「追加發表」を行ふのではないかとみられる

ロケツト砲生産に大童

(リスボン二十七日發)ワシントン來電=海軍兵器局長ハツセーは二十七日次の通り言明した

海軍の經費は明年初頭には大體平均三億五千萬弗見當とならう、このうち約一億弗はロケツト砲彈の生産に充てられることとならう

陸軍飛行士訓練狀況

(リスボン二十六日發)ワシントン來電=陸軍航空本部は去る十六日次の通り發表した

一、開戰以來陸軍航空部隊の訓練飛行のための飛行機飛翔時間は七千六百七十八萬時に上る

一、これにより訓練された操縱士及び乘組員は二十二萬六千三百四十六名である

一、この訓練中事故により死亡した者は約一萬一千名である

攻擊用船舶建造狀況

(リスボン二十七日發)ワシントン來電=戰時人的資源委員長マクナツトは二十六日次の通り言明した

九月中の攻擊用輸送船の建造並びに攻擊用貨物船の建造高は八月の二倍にも達した、かくの如く建造高は激增したにも拘らず且つ九月もまた生産豫定計畫には達しなかつた、對日戰が强化されるに從ひこれ等攻擊用船舶の必要は益々增大し海軍は依然としてこの種船舶の建造に最大の重點をおいてゐる

歐洲戰終了後にも緊急不足物資

(リスボン二十七日發)ワシントン來電=戰時生産局は二十七日歐洲戰終了後も依然不足を告げると豫想される緊急物資十三を擧げたがその主要なものは錫、天然ゴム、サイザルの繊維製品、軟材等でこれらはいづれも東亞の特産物であり、日本の東亞地域制壓に伴ふ米國の物資不足が依然克復されてゐないことを物語つてゐる

【米　洲】

伯基地を對日戰に使用か

（リスボン二十九日發）米國政府はブラジル政府に對し同國北部の米海空軍基地を最近對日戰用にも使用したい旨の申入れを行つてゐたが、リオデ・ジヤネイロ來電によればブラジル政府は二十七日右申入れを正式に受諾したといはれる、以上に關し「ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン」紙特派員は同日次の通り報道してゐるブラジル政府は當初、これら基地の使用を歐洲北阿戰に限定し、太平洋戰爭にまで擴大する意向はなかつた、蓋しブラジル政府は歐洲、北阿兩戰線には直接參加してきたに反し、日本政府とは單に外交關係を斷絶したに過ぎず兩國間には交戰狀態は存在しないからである、しかしてブラジル政府今回の決定に基きこれら基地の使用が可能となれば歐洲戰爭終了後、飛行機その他の兵器を歐洲から太平洋方面に廻送する上に極めて大きな便宜が得られよう

亞國汎米外相會議招集

（リスボン二十七日發）ブエノスアイレス來電＝アルゼンチン政府は二十七日次の通り發表したアルゼンチンは汎米外相會議の開催を提案し、右に關する覺書は既に外國政府に發送された

亞國の提案に驚く

（リスボン二十八日發）アルゼンチン政府は突如汎米外相會議の開催に關する覺書を米洲各國政府に通達した旨發表したが、ワシントン來電によれば米國政府當局はアルゼンチン政府今回の外交的措置によつて不意を衝かれた形で、相當狼狽の色を示すとともにアルゼンチンが如何なる動機に基づきかかる行動に出たか、その背後關係に多大の疑念を抱き相當の警戒を示してゐると傳へられる、アルゼンチンは今回の外相會議招集にあたり汎米聯盟の規定に基づいて行動してをり從つて米國政府としても相當の理由がなければこれを拒否出來ない事情におかれてゐるが、一方米國がもしこの提案を承諾すれば今まで頑強に不承認主義をとつてゐたフアレル政府を事實上承認することとなるばかりか米洲諸國に對する指導權をもアルゼンチンに奪はれる形となり、米國としては進退兩難の窮地に追ひこまれたわけだ、アルゼンチン政府の覺書の內容要旨は次の如くだが米洲の平和が米國の行動によつて亂されてゐることを暗に示唆してゐるのは注目に値する

アルゼンチン政府は米洲諸國中の或る國家がアルゼンチンに對してとつた態度によつて招來された憂ふべき事態に對し多大の關心を示してきた、卽ち現在の事態は米洲の傳統的な兄弟國精神とは相容れない分裂の狀態を發生せしめてゐる、この狀態を放置するならば米洲諸國の連帶關係に深刻な脅威を與へるべく、これは至急調整されなければならない

【ソ　聯】

對諾態度明瞭

（ストツクホルム二十九日發）「モルゲンポステン」紙二十九日の報道によれば、モスクワ會談においてスターリン議長はチヤーチルに對し、ソヴエト政府はロンドンにある亡命ノルウエー政權を亡命ポーランド政權と同樣に看做す旨言明したといはれる、その上ソ聯は北部ノルウエーにはノルウエーまたは英國の救濟委員會を派遣する必要なしと豫め釘を打つたと傳へられる

モスクワ會談は成功

（ストツクホルム二十八日發）二十八日のモスクワラジオは最近のモスクワ會談に關し次の通り放送した

スターリン議長とチヤーチルとの會談內容に徹すれば反樞軸諸國は戰爭が依然繼續してゐるにも拘らず、戰後のあらゆる複雜な諸問題を解決したい意向なることが端的に表示された、また會談は反樞軸諸國の主要目的卽ちヒトラー治下のドイツを完全に崩壞させることに限定されず戰後における強力な永續的平和の建設についても論議された、一方ポーランド問題の處理に關しては相當の成功を收めたが更に東南歐洲の事態に關聯する諸問題も討議され立派に解決をみた、卽ちブルガリアとの休戰條件並びにユーゴースラヴイアに對する共同政策についても完全な諒解が成立したのである

昭和十九年十月卅一日（火）
第三二二六號
同盟通信 海外電報（第三種郵便物認可）

【英　國】

モスクワ會談の經緯報告

―兩國一致を殊更強調―

（ストツクホルム二十七日發）ロンドン來電によれば、英國首相チヤーチルは二十七日下院において約一時間にわたりモスクワ會談の經過その他について報告、次の通り述べたと傳へられる

更に三國首腦會談を提唱

戰爭は最後の段階に入つたが、もしこの際反樞軸軍が全力を傾倒しなければ今までの苦闘によつて決勝點に近付いたにも拘らず最後の勝利が徒らに遷延される結果となり、ドイツ軍の現在の狙ひは戰局を永引かすことによつて、反樞軸軍の決意を消耗させ、米英ソ三國を分離させることである、米英ソのやうに色々と事情が異り且つ歐洲各國の取扱ひについて見解を異にする三國の間に全然意見の相違がないことを期待するのは無理だ、むしろ從來三國の關係が確固たる基礎の上に維持されて來たことが不思議な位だが、この關係を持續するには不斷の配慮と注意が必要である、ケベツク會談ではルーズヴエルトと余とはスターリン元帥が參加してゐないことを痛惜したが、モスクワでは大統領の參加してゐないことをスターリン元帥と余とは再三意識した、ケベツクで會議を開いたのには特別の理由があつた、米軍と英軍とは前線で緊密に協同し、互に混り合つて戰鬪を續けてゐるから協議する必要が生じて來る、ロシアに關しては英國は東歐洲においてロシアと共に片付けなければならない幾多の問題を持つてをり、しかもこれらの諸問題は毎日のやうに持ち上つて來るのである、しかして毎日の事件を處理するのに英國政府としては特に各段階において米國政府を味方とすることが必要である、勿論モスクワ會談の結果は非常に滿足であつたが、米英ソ三國の首腦が年末までに會談を遂げない限り最終的な結果を收めることは出來ないと思ふ

お茶を濁すバルカン問題

次いでチヤーチルはバルカン地方に關するスターリン議長との協議の結果に言及し次の通り報告した

モスクワ會談においては極めてデリケートな且つ非常に厄介な問題になる處れのある諸々の話題について飽くまで虛心坦懷に圓滿な協議を遂げた、双方の意見が一致しなかつた場合にもそれぞれ相手が同意出來ない理由と相手方の見解を理解したが、完全に意見が一致した範圍は非常に廣汎に亘つてゐる、特にバルカン地方に對しては黑海、ギリシア、ルーマニア、ハンガリア、ユーゴースラヴイア等に關し英ソ兩國の利害は互ひに錯綜してをり、これら各國について極めて優秀な實行的取極めを締結した、英ソ兩國はスバスツチを首班とするユーゴースラヴイア政權並びにチトーとの關係についても共同の行動をとつてをり、スターリン元帥と余とは共同の電報で統合政權を組織するやう要請した、英ソ兩國の一方がある見解を支持し、他方が他の主張を支持するといふのではない、舊ユーゴースラヴイア領土のやうな非常に複雜な地域においては英ソ兩國が共同の政策を遂行する方がどれだけよいか分らない、軍事上の諸問題についても勿論討議したが、討議乃至決定の內容については觸れることは出來ない

焦躁にかられる波問題

一番火急を要する問題はポーランド問題であるこの問題につき希望を棄てることは卽ち失望に屈伏することだ、重大な爭點は二つあり、第一は東部國境線の問題卽ちカーゾン線以東舊ポーランド領土をソヴエト聯邦に割讓すると同時に北部並びに西部においてポーランド領土を擴張する問題だ、第二は亡命ポーランド政權とルブリン國民解放委員會との關係で、兩政權の代表と或ひは個々に或ひは共同に會談したほか、余はスターリン議長と數回長時間に亘つて協議し外相イーデンもモロトフ外務人民委員と凡ゆる角度から檢討を加へたが、米英ソ三國共に自由獨立、且つ强力な主權國家として偉大なる隣邦ロシアに友好的なポーランドの再建を希望してゐる、殊に英國政府としてポーランド國民が歐洲に安住の地を見出すことを希望してやまないもつとも右地域が戰前のポーランド領土と完全には一致しないであらうけれども、ポーランド國民の必要に應ずるには十分であり、大局からみて戰前の領土と變りのない領域を提示してゐるのである

もし亡命政權が一九四四年の當初、英國政府が示唆した忠言を容れれば、ルブリン政權の組織に由來する新たなごたごたが全然起らずに濟んだと思ふ、今後更に遷延する結果は亡命政權とルブリン政權との對立を徒らに增大し、ドイツ軍に對する反樞軸軍の共同動作を阻害するであらう、しかして萬一亡命政權首相ミコライチクがポーランド領土において政府を組織し、且つ同盟各國の承認を得るやうな良好な取極めが出來なければポーランドの友人はすべて少なからず失望するであらう

ド・ゴール政權承認問題

チヤーチルはさらにド・ゴール政權承認について言及して曰く

フランス協議會が、フランス國內における抗戰分子と舊フランス國會議員團の參加によつて擴大强化し、近くパリーで第一回の會議を開催する運びに至つた、既に去る八月米英兩國政府とド・ゴール政權との間に締結された一般民政に關する協定によりフランス國內は前進地區と國內地域とに分れ、前者においては反樞軸軍司令官が作戰の遂行に必要な場合、一般行政權を乘越へて一定の權限を行使出來ることになつてゐる、ド・ゴール政權は十月八日反樞軸軍司令部の同意を得てパリーを含むフランスの內部地區に民政地域を確立するに至つたが、英國政府は以上の實情に鑑み十月二十三日ド・ゴール政權をフランス臨時政府として承認した、しかして今回の承認によつてフランス國民は世界の舞臺に再び正當な歷史的役割を演ずるに至るであらう

東亞反攻作戰に軍需轉換

（リスボン二十八日發）ロンドン來電＝生產省次官ガロ・ジョーズは二十八日アバディーンで

一般的に知られてゐないが、對日戰のため新生產樣式への大規模な轉換が行はれてゐると述べ新樣式による生產項目を次の通り發表した

一、新型水陸兩用及び上陸用舟艇
一、輕火器
一、廣範圍に亘る新無電裝備
一、熱帶地の暑氣及び濕氣に耐へる特殊製品
一、特殊衣服及び醫藥品の大量生產

ソ聯の印度進出を危惧

（ストックホルム二十七日發）過般來ソ聯は英國の牙城西亞に對する外交攻勢を强化、着々地步を固めてゐるが、最近では英帝國の寶庫印度に觸手を延ばしニューデリーに外交代表を派遣する希望を洩したと傳へられるが、ロンドン來電によれば英國下院勞働黨議員ウイリアム・ドビーは來る三十一日チヤーチル首相に對し

一、ソヴエト政府の代表派遣につき何等かの措置が採られてゐるか、もし採られてゐるとすればどの程度まで進んでゐるか
一、もし英國政府も印度政廳もなんらの措置を採つてゐないとすれば、卽時對策を講ずるつもりか

の二點につき質問の豫定である旨二十七日言明した

【亡命政權】

諾、赤軍との協力を强調

（ストックホルム二十六日發）ロンドン來電＝赤軍のノルウエー侵入に伴ひロンドンのノルウエー國王ハーコン七世は二十六日夜BBCを通じてノルウエー國民に對し次の通り呼び掛けた

赤軍は今やドイツ軍と闘ふため續々ノルウエーに到着してゐるが、ノルウエー政權は先般余の許可をえて赤軍がノルウエー領土で作戰する場合を考慮してソ諾兩軍の協力に關する協定をソヴエト政府との間に締結した、右條約に基きノルウエー軍は赤軍と共に作戰に參加し、ノルウエー領土でドイツ軍と戰ふこととならう

諾政權、モスクワに代表派遣

（チューリツヒ二十七日發）「ノイエ・チューリツヒヤー・ツアイツング」紙の二十七日のストツクホルム電によれば、赤軍のノルウエー領侵入に伴ひノルウエー政權は去る五月十六日ソヴエト政府との間に締結した軍政協定に基き、軍政地區を引繼いで民政を實施する打合せを行ふためスヴエレ・スツスタツドを首班とする代表團をモスクワに派遣したといはれる

昭和十九年十月廿一日(火)
第三二二六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

特輯

西部戰線を空から見る

—戰術航空隊と空挺作戰—

奥畑稔

去る七月末から九月上旬にかけて僅々一ケ月餘りのうちに西部戰線の樣相を一變せしめた重要な原因の一つが反樞軸軍とドイツ軍との空軍力の差にあることは周知の通りである、一ケ月半に亘るノルマンデイ戰の膠着を打開し、ドイツ軍大後退の契機を作つたいはゆるアヴランシュの突破を誘致したのもブレアトン麾下の米軍航空隊による絨毯爆撃であつたといはれる程で、反樞軸軍に關する限り空軍力が決定的役割を演じてゐることは否定出來ない、もつとも米第三軍機甲部隊のフランス平原における放膽な作戰がアヴランシュの突破といふ局地的成功をより大きな成功へと導くに與つて力あつたことも事實であり、またフランス作戰における兵力の相違も考慮しなければなるまいしかしながら猛突猛進を誇る米軍機甲部隊は勿論着實な作戰を身上とする英國でも常に優勢な友軍航空隊の傘の下で作戰してきた事實を想起すべきであらう

空軍が反樞軸作戰の基礎

九月上旬米第一軍の先鋒がベルギー、ルクセンブルグを席權してドイツ國境へ到達して以來西部戰線の樣相は一變し、全く陣地戰と化してゐるがこの事實をもつて空軍の地上作戰に及ぼす影響を過少評價するのは當らない、現在西部戰線が陣地戰の相貌を呈してゐる理由を檢討すればまづジークフリード線といふドイツ軍の本格的防禦線の存在を擧げねばなるまい、しかもドイツ本土が戰場となつてをり、從つてドイツ國民の抗戰決意が最高度に昂つてゐることも看過出來ず、更に反樞軸軍の補給線の延長も一因といへよう

アイゼンハウアー軍は目下アントワープ北方からオランダ中部のニムウエーゲンを經てフランス東南部のベルフオール關門に至る約六百粁の線で來るべき決戰のための準備作戰を行つてゐるが、動きに乏しい現在の戰鬪段階においても例へばア1ヘン攻防戰にみられるごとく空軍が演じてゐる役割は小さくない、空軍力は決定的戰力なりや否やといふ點については疑問の餘地があるが、少くも反樞軸軍においては空軍が作戰の推進力となり基礎となつてゐるといふことが出來よう

戰術空襲部隊の編成

反樞軸軍の地上部隊がどの程度に友軍航空隊の支援をうけ、またいかに贅澤な作戰をしてゐるかについて目下フランスに基地を移し專ら戰術空襲に當つてゐる米第九航空隊司令部付の「ロンドン・タイムス」紙特派員の報道をみよう

反樞軸軍がノルマンデイに侵入する前に、反樞軸四軍卽ちカナダ第一、英第二、米第一、米第三の各軍團に對する空軍の十分な協力をどうして確保するかといふ計畫が樹てられた、ドイツ軍から反樞軸軍の意圖を察知されないために當時は一切沈默が守られたが、現在ではその概貌が明かにされてゐる、パツトン麾下の米第三軍に對しては代將ウエイランドの指揮する米第十九戰術航空隊が協力し、ホツジス麾下の米第一軍には少將クエスダの指揮する米第九戰術航空隊が協力作戰を行ひ、一方英空軍は特定の部隊と協力するやうに分けられてはゐない、以上の各航空隊は殆んど同じやうな裝備を有してゐたがそれぞれその要請されてゐる任務に最も適した航空戰術をとつたのである、米軍の二戰術航空隊は一九四〇年フランス作戰においてドイツ空軍が示した戰術と幾分似通つた興味深い方法をとり、地上の友軍機甲部隊が前進するにつれサンダーボルト戰鬪爆撃機隊を使用して機甲部隊の直ぐ前方にゐるドイツ軍を次々に驅逐して行つたのである

英空軍は分割されない代りに戰鬪地域の近くに無電設備を有する對空監視所を設け、陸空軍の將校が緊密な協力を行ひ地上部隊にとつて攻撃に骨の折れるドイツ軍の抵抗據點が發見されると、直ぐさまロケツト砲を有するタイフーン戰鬪爆撃機を使つて右據點の處理に當らせるといふ仕組になつてゐた、更に現在では米軍のマローダー中型爆撃機がフランス各地から作戰してをり、西部戰線の反樞軸軍はこれまで英本土を除く西歐の基地に集結してゐたものより遙かに強力な恐るべき空軍力を有してゐる譯である最も英本土には現在なほ戰略爆撃隊が存在してゐる

以上の報道は九月十五日附の「タイムズ」紙に掲載されたもので、その後歐洲侵攻反樞軸軍副司令官であると同時に戰術空襲の總指揮に當つてゐたレイ・マローリが東南アジア空軍司令官に轉出するなど情勢に少なからぬ變化を來たしてはゐるが、反樞軸軍の航空作戰は一段と激化してゐる模様である、戰況が流動狀態にある時に比し現在の如き對峙戰においては兎角空軍の演ずる役割が過少評價され勝ちであるが、目下西部戰線において最も顯著な動きをしてゐるのは空軍と砲兵隊とであるといひ得るほどである

アーヘンの陷落も空軍力が主因

ウイルク大佐の指揮する寡勢のアーヘン守備隊が五ケ師に上る米軍を引きつけて前後二週間勇戰敢鬪しながら十月二十一日遂に戰鬪を停止するのはやむなきに至つたのは、全く米軍の砲兵隊と空軍による間斷なき砲爆撃によるものであつた、またオランダ中部のニムウエーゲンからアインドホーフエンに至る回廊を幾度びかドイツ軍の反撃を蒙つて遮斷されかかつてゐながら確保出來たのもあるひはフランス東部のナンシー東方においてデイウーズの堰堤を爆破してドイツ軍に局地的後退を强ひたのも一に反樞軸空軍の優勢に起因したのである

戰術航空隊の活動狀況

以下更に「サンデー・タイムズ」紙のアイゼンハウアー司令部附記者ゴードン・ウエブの九月三十日の報道について戰術航空隊の活動と役割をみよう

反樞軸軍がドイツ空軍にたいしてうちたてた空軍の壓倒的優勢は現在の決戰準備において極めて重要な役割を演じてゐる、西部戰線の多數の地區において目下ドイツ軍の抵抗は熾烈化し、威力偵察も頻りに行はれ、またドイツ軍は多數の空軍を出撃させてゐるが、その規模において反樞軸空軍の作戰には及ばない、從つて反樞軸軍の地上部隊は火砲その他の器材を大した抵抗をうけることなく豫め用意された陣地まで輸送することが出來るのであり、これに反してドイツ軍は天候の如何に拘らずその補給活動を非常に阻害されてゐる、反樞軸空軍の優勢は單に以上の點だけではなくモーゼル戰線のナンシー地區においては友軍地上部隊に對する强力な支持となつて現はれ、オランダ戰線では英第二戰術航空隊だけで一日の出撃機數は八百を超えてゐる、九月三十日英戰術航空隊の行つた作戰のうち最も重要なものはニムウエーゲン地區で展開された、同日ニムウエーゲン附近で三百機以上のドイツ空軍が發見されたが、右部隊は十九機から六十機位の編隊を組み反樞軸軍の前進部隊を阻止しようとする友軍地上部隊に協力するのがその任務であつた、しかし英空軍戰鬪機の掩護作戰によつてドイツ空軍は一回も英軍地上部隊に攻撃を加へることが出來なかつた

勿論實情が宣傳通りであるかどうかは不明であるが、空軍力の劣勢はドイツ軍當局でも率直に認めてゐるところでこれがためドイツ軍の邀撃作戰が少なからぬ制約をうけてゐることは容易に想像出來よう、ただしかし以上「サンデー・タイムズ」紙の報道によつても明かなやうに、ドイツ空軍は完全に逼塞してゐるわけではなく、時とところとを選んで隨時果敢な反撃に出てゐることは一應注目すべきであらう

空挺作戰とその限界

九月中旬米第一軍がドイツ國境へ到達した時機を見計つてアイゼンハウアーは突如オランダに大

昭和十九年十月卅一日(火)
第三二二六號

同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

規模な空挺作戰を展開した、その狙ひがオランダ中南部の確保及びライン北岸に對する橋頭堡設定にあつたことはいふまでもない、西歐洲に於る反樞軸空軍の壓倒的優勢に憑かれたアイゼンハウアとしては恐らく空挺作戰の全面的成功を豫想してゐたことであらう、七乃至八ケ師からなると稱せられるルイス・ブレアトン麾下の獨立空挺軍團の半分に近い兵力を使用したところからみても彼の自信のほどが窺はれるのである、しかし結果は豫想に反し失敗と成功とは相半ばすることとなつた成程空挺部隊の着陸地點の數からいへば失敗したのはアルンヘム一ケ所でニムウエーゲン、アインドホーフエンその他においては一應目的を達したわけであるが、ラインの北岸確保といふ最大の目標がアルンヘムの蹉跌によつて喪はれてをり、公平にみてオランダに對する空挺作戰の半分は失敗と斷じて差支へあるまい

スチムソンの豪語

九月十七日第一回空挺作戰が行はれてから五日目の二十一日米陸軍長官スチムソンは記者團會見において

オランダにおける反樞軸軍の空挺作戰は戰術的奇襲の效果をおさめた、右作戰により沿岸地區の防禦陣地水浸しになつた地域、渡るに困難な運河を跳び越えて恐らくジーグフリード線の防禦力があまり強力でないと思はれる地點に反樞軸軍は運ばれることになつた、第一回の着陸後ドイツ軍は電擊的反擊を行ふことが出來ず、また兵員と火砲を集結はしたもののドイツ軍が最初に示した抵抗は集中的なものではなく、最初の二日間における反樞軸軍の損害は二パーセントに過ぎなかつた

と豪語した

シンクレアーの弱音

更に英空相シンクレアーは九月二十四日右空挺作戰について左の通り述べてゐる

一週間前史上最大の空挺作戰が展開されたが、大規模な空挺作戰が成功するためには何より制空權が必要である、作戰開始當日滑空機並びに落下傘により一萬の將兵が着陸し彼らと共にジープや野砲も降ろされた、更に數臺ハミルカー滑空機では快速輕戰車數臺が運ばれ、そのうちの一臺は地上に着くと殆んど同時にドイツ軍と交戰した程であつた、しかし空挺隊が大した損害を蒙ることなく戰時的成功をうると想像するわけには行かない、操縱士達は猛烈な對空砲火を冒して低空飛行を行はねばならず天候はさらに彼らの任務に對して困難と危險を付加する、殊にアルンヘムに着陸した空挺隊はラインを越えて友軍の最先端に位置してをり彼らは必然的に戰鬪の最も大きな負擔を背負はねばならない

九月二十六日シンクレアの豫感に違はず英空挺第一師團はアルンヘム西方で殲滅され、スチムソンのいふジーグフリード線の脆弱地點に到達した部隊はジーグフリード線の强度を知る前に全滅して了つたのである、右空挺作戰失敗の原因を探究する前に九月二十五日附の「ニューズ・クロニクル」紙の報道によつてアルンヘムにおけるドイツ軍の反擊ぶりを見よう

オランダ中部に着陸した空挺部隊に對しドイツ軍は空軍を以て猛烈な反擊を加へて來た、ドイツ軍の戰鬪機中隊は他の地區から集められたもののやうで現在では主としてルール地區の飛行場に集結してゐる、同時にまたユンカース八八Sを含む幾つかの爆擊機隊も增强されアインドホーフエンに對する爆擊においては多數のユンカース八七S急降下爆擊機に使用した、十七日アインドホーフエン、ニムウエーゲン、アルンヘムの各地に反樞軸軍空挺部隊の第一回着陸が行はれたのに引續き長時間ドイツ空軍の大規模な活動がみられた、しかしドイツ空軍にとつては多數といへやうが出擊してきたドイツ機の數は反樞軸軍の航空兵力からいへば微々たるもので反樞軸軍は戰鬪機による哨戒を擴大しまた戰鬪機の努力を增大して行つた、二十三日朝ドイツ空軍はアインドホーフエン、ニムウエーゲンの上空に戰鬪機十二機を飛來させたが更に兩地點の反樞軸空挺隊に新銳部隊と器材が增强された後にはドイツ軍はメツサーシュミツト一〇九S、フオツケウルフ一九〇S約六十機を集結したと傳へられてゐる

反樞軸軍の損害がどの位であるか未だ解らない「ニューズ・クロニクル」紙は以上の報道においてわざわざドイツ軍に對して使用した大規模といふ言葉は二桁臺を意味するとことわつてゐる、もとより一方的な報道でありどこまで眞相を傳へてゐるかはわからないが、アルンヘムの空挺師團が殲滅される二日前の記事であるところからみて少くもドイツ空軍の反撃が右殲滅戰に決定的影響を與へたとは思へない、しからば果して空挺師團全滅の主因にどこにあるであらうか

空挺部隊の使命と活動の限界

「デイリー・テレグラフ」紙軍事記者の辯解に俟つまでもなく空挺部隊はその使命からして重裝備をもつて作戰することは出來ない、彼らが裝備し得るのはせいぜい輕戰車、對戰車砲、小型に高射砲ぐらゐのもので、それ以上のものは持ち得ないのである、從つて重火器を有する完全裝備の地上部隊と交戰するの止むなきに至つた場合には非常に不利な立場におかれるわけである、實際空挺隊は一定限度の戰術的持續性しか有せずこの故に成功をおさめるためには彼らの持續性の限度内でその使命を完遂するにある、空挺作戰は友軍地上部隊主力の作戰と睨み合はせて行はねばならないことはいふまでもない

「サンデー・タイムズ」紙の報告

十月一日附の「サンデー・タイムズ」紙は以上の點に關聯して左の通り報じてゐる

ライン河を越えて行はれたオランダの冒險の中には單に兵員を空輸し狙つた地點に着陸させるといふ使命以上のものが含まれてゐた、このやうな作戰における空挺隊の役割は若し爾後の事態が豫期に反した方向に進めば地上部隊と同樣に永く困難なしかも犧牲多きものとなる、しかもこのやうな作戰は完全な制空權を握つて始めて可能なのである、オランダにおける冒險では渡河點を抑へるといふ三つの企圖のうち二つまでは成功した、しかし三番目即ちアルンヘムにおいては計畫通り運ばなかつた、アルンヘムにたいする作戰も出發點においては完全なものであつた、最初の着陸が行はれた日早くも橋頭堡を設定するに至つたが、漸く作戰當初の段階においては着陸部隊にとつて堪へ難いほどの反撃が開始された、しかも三日目からは天候も空中援護に具合の悪いやうな狀態になつて來て着陸部隊に對する空軍からの援助は危險な低空飛行をもつて行はねばならなくなり、ドイツ軍はその時までに多數の高射砲を集結したのである、「空挺部隊の有する制約は上述の通りであるが、この制約は現在のところ空挺部隊のためにのみ使用される滑空機や輸送機の性能から自ら生じてくる、現在最大の航空機はハミルカー滑空機であるが、このハミルカー滑空機によつても小口徑の野砲、對戰車砲、輕戰車砲その他多數の普通の裝備品を積載し得るに過ぎず、以上のものより大型の武器裝備品は輸送し得ない、かくして空挺部隊の制約は時間の要素をも含んでくる、空挺隊は敵が重火器を有してゐない間だけ自己の火力によつて陣地を確保することが出來る、但し悪天候が敵の火砲、戰車等の移動を阻止しようとする友軍航空隊の活動を妨げることになればこの時間の限度は更に一層短縮されよう、これまでの例に徴すれば空挺部隊が全然援助を受けずに作戰する場合この限度は四日間であることが明らかになつてゐる、しかるにドイツ軍の迅速な移動と英空軍に對する悪天候といふ不利な條件によつてアルンヘムでは三日目に早くも危機に見舞はれたのである、ドイツ軍は更に反樞軸軍が落下傘で補給物資を降ろしてゐる地帶に侵入し、ドイツ軍の高射砲隊は空中からする補給物資の一部を射ち落してしまつた、かくして更に英空挺部隊の情勢は悪化しドイツ軍は味方の空軍からは何らの援助もうけることなく英軍空挺隊の頼りにしてゐる援助資材を減少させることが出來たのである、時間の限度を延ばすにはドイツ軍の到着を戰闘機、爆撃機をもつて阻止するか乃至は到着した後これを撃破するほかなかつたのである

昭和十九年十月卅一日(火)
第三二二六號
同盟通信 海外電報 (第三種郵便物認可)

資料

バラクーダ機の生産

「エアクラフト・プロダクション」誌
九月號

艦隊所屬航空隊用航空機に對する大きな需要に應ずるために、英國の海軍機製作業者の聯合組織は曾つてハリファックスとランカスターの兩重爆撃機の生産において成功をみたのと同じやうな計畫に基き、既にかなり長い間共同生産を續けてゐる、この意味で特に興味の中心となつてゐるのは海軍の最新型雷撃機をフルに生産してゐるフェアリー「バラクーダ」グループである、「バラクーダ」生産部は、一九四二年に當時の航空機生産相サー・アーネスト・レモンが海軍並びに生産省の緊急需要に應ずるため海軍機生産の指導奬勵の任に當り自ら創設したものである

グループ組織

グループ組織機構においてはフェアリー會社が親會社の地位に立ち、その下の子會社がまた數百の衛星的下請會社の力を利用するやうになつてゐる、本來このグループには三つの子會社があつて第一はその主要工場の一つにおいて「ソードフイツシュ」機をも製作してゐたブラックバーン航空機會社だ、第二はブールトン・ポール航空機株式會社で、當時は「デファイアント」複座戰闘機の生産を段々に減産中だつた、第三はウエストランド航空機株式會社だが、これも當時は双發戰闘機と單發戰闘機の生産契約をもつてゐた、このウエストランド社は一九四三年の初め、「シーファイア」機生産のための別なグループを作るために、「バラクーダ」グループを離れた、その結果生じた「バラクーダ」生産の穴はブラックバーン社が埋めることになつた

フェアリー會社はグループ全體のあらゆる設計主な工作、或ひは仕事の割當等一切に責任をもち子會社は各自その代表者を恒常的に親會社の工場に派遣して、製作技師をして常に技術の發達變化その他すべての入手しうる情報に通曉せしめるグループ構成員の會議は定期的に開かれ、原料供給、工作上の改良「具體的借入」の不足などの問題について論じ協定する

「バラクーダ」生産にあたる三商社の背後には部分品や小物を作る大小の下請工場の組織網があるこの下請工場の中には、或る部分品全部の生産とか海軍の特殊裝備の生産とかを引受けてグループ全體の力となり、親工場からは施設や組立て以外を要求しないといふ點で極めて重要な工場も若干ある

グループの指揮的機能にはさうした重要下請工場の製品を需要に應じて各親工場に割當て配給するといふことも含まれる、戰時の輸送狀態並びに多數商社の地理的な距離を考へれば生産部門からの完成機搬出を確保することすら極めて複雜な問題であり、商社とその製品を受け取る生産省關係諸組織との連絡の圓滑も極めて重要なことだつた

設計上の諸困難

「バラクーダ」は今次大戰中に製作され就役した英海軍機としては最初の航空機で、原型が始めて飛んだのは三年半前のことだつた、操作上の條件からも設備及び製作について多くの問題を生じたが、一方基本的な問題も少くはなかつた、着艦問題が論ぜられたばかりでなく、乘員と一七五〇封度の魚雷とを含む完全裝備の狀態で航空母艦から離艦するといふことも問題だつた、それにも拘らず最初の甲板試驗は成功し、次いで行はれたカタパルト試驗も成功だつた

準備部品

「バラクーダ」グループは今や全世界に誇る莫大な需要に應じつつある

生産は計畫に遲れることなく、時には追越すことさへある、だが航空母艦は一度本國水域を離れると海上では出來る自給自足をすることになるので準備部分には特に愼重な注意が拂はれてゐた、たとへば僅か三十機位の收容力しかない母艦でも、優に二十機の航空機と二十基の發動機を組立てるに足る部分品を準備部品室には貯へてゐるのだ

英空軍の飛行機は寒帶や溫帶や熱帶のいづれにも活躍するが短い間隔でこの三地帶をすべて味ふことはないのに反し、海軍艦載機は命令一下兩極端の氣候の中で活動することを要求される、だがその赫々たる功績は、約一萬七千個の部分品や小物を備へることを責務とする海軍補給部員の力に俟つところ多い、その備品のうち翼、降着車輪、補助翼、フラップ、尾部等主要部分品と考へられるものは僅か三十個位にすぎず、他は實に面倒な細々したものばかりなのである

耐火建築

ドイツ建築學界の權威、工學博士ヘルマン・ゼーゲル教授の「耐火建築」に關する最近の發表は現在空襲による火災の危險に曝されてゐる地方にとつて極めて重要な問題を取扱つてゐる、その大要は次の通りである

空襲と建築

砲と戰車との戰ひは實は武器の生れた時から始まつてゐるのだ、新しい攻擊兵器は必らず防禦手段をもたらす、最初攻擊側は敵の意表に出て緒戰の利を占める、それに對しては防禦態勢をとらなければならないがそれには時間が必要だ

空中戰は爆彈と燒夷彈で銃後の樣子を一變した戰爭はもはや前線のみに限られず、深く國內に浸透するに至つた、空襲に油脂、黃燐、その他可燃性物質を入れた燒夷彈を投ずることは今や常識になつた、燒夷彈によつて惹起された火災が歐洲諸都市の居住地を始め豪壯な建築物や輝かしく偉大なる過去を物語る文化記念碑などを破壞して、都市を、目を蔽はしむる廢墟に歸せしめたことは周知の事實だ、では黃燐や高性能炸藥を詰込んだこの鑵狀の新兵器にはどうしたら對抗出來るか

木材を用ひるな

たとへ爆彈の投下は防止し得ないとしても少くともその命中家屋に對する燒夷彈の效力だけは殺さなければならない、爆擊をうけた際、可燃性物質が全然家屋內になければそれも可能だ、ところで木だが、これは數千年來重寶がられて、廣く建築材に使用されてきたものでありながら、不幸にして可燃性の物質であるため、將來の建築計畫からは全く除外されねばならぬ、木の棰は各階とも地下室に用ひられてゐる天井のやうに一枚物にしなければならぬ、棰屋根は家屋のうちで最も燃燒の危險に曝されてゐる箇所であるから、木を全然用ひないコンクリート構造にすべきで、平屋根なら問題は至極簡單だが、建築樣式上屢々必要な急勾配の屋根の場合にもこの建築法は採用出來る、例へば瓦やスレートを不燃性の輕いコンクリート板に取付け、その板を更にコンクリート梁に合せ釘で接合するやうな方法もあるが、この中世風の屋根そのものも耐火性に申分のない石とか應用廣範圍の廣いコンクリートで代用し得る、實際これは新案でも何でもない、中世も千二百年頃の高度に發達した建築術では特に大伽藍の尖塔等にこの石屋根を用ひたもので、今日に至るまでなほ當時の卓越した建築技術を傳へてゐる

かくて火には絕對に强い特長を持つたこの新しい鐵筋コンクリート屋根を出來るだけ發達せしむることが、われわれの仕事となる、あらゆる家屋の天井の棰や梁を各階とも鐵筋コンクリートに代へれば建物の中味だけをそつくりそのまま燒いて了ふといふやうなことは最早あり得なくなる、問題はただ扉や窓枠、床、羽目板、特に家具類に

引續き木を使用すべき否かにかかつて來る、少くとも公共建築には木を全然使用してはならぬといふのがそれに對する答であらう

木材の耐火性

何か鹽類の溶液に浸漬するか或ひはその他の方法で耐火家具に使用するやうな日もいつかは來るかも知れない、さうなればこの問題は非常に都合よく解決される、木を用ひないで家を建てるのは簡單でも、材料としての特長をもつた木を全然用ひないで濟せるといふのはなかなかむづかしいことだ、木は加工が容易で、磨いたり、ニスを塗つたり、或ひは自然のままで家屋に美麗な外觀を與へる、そこで化學工業が何か新しい耐火材料を提供してくれるまでは、どうしても家具や內部裝飾などで耐火性を必要とするところには木を用ひなければならない、窓枠や扉は簡單に鋼鐵製に出來るし、扉板も適當な耐火材で作ることが出來る、床には種々様々な不燃性の代用品がある、しかし家具に關する限り、たとへ強靱な鋼鐵棒の安樂椅子や眞鍮の寢臺など既に好評を博してゐる金屬家具はあつても、やはり木は絕對に缺くべからざるものだ

耐火性部品の使用

破壞した都市の戰後復興になるべく木を使用しないやうにする理由は、國民經濟の點から考へるだけでも明かだ、木は化學工業の重要な資源であり、事實纖物工業の據つて立つ基礎でもある、從つて住宅並びに工場、港灣施設、橋梁、地下室等等には廣汎に補强コンクリートを用ひなければならない、コンクリートを廣く建築材に採り入れるに當つて、現在の建築法がその障害とならないやうに、構造の各部を完成部品として準備し、それによつて幾分でも建築期限の短縮を計るべきだ、完成新品の多量生産方式によつてコンクリート作業に要する板類を廢することが出來、それが更に木の節約に資することになる、これに代つて立派な恒久的な母型を設備した作業場を大建築の用地內或ひはコンクリート工場に建てるのである、かうした方法で建築現場作業に特に發生しやすい事故を未然に防ぎ、完成部品の供給を圓滑ならしめる、且つ中間組立部品は、小建築の土臺に用ひる中空コンクリート臺のごときものから、あらゆる種類のものにこれを利用して附隨的に時と勞力を節約し、住宅、工場等の屋根及び天井等大きなコンクリート板にもこれが利用される、一室大のものをコンクリート型で捧へ上げてこれを起重機で運ぶやり方は建築時間を短縮する、かうして作られた部品は單に耐火性を有するばかりでなく、抵抗力においても優れてゐる、以上部品の廣汎な利用は强烈な爆發力にたいして建物を保護し計り知れない價値を示す、コンクリート要塞や堡壘でなければ如何なるものも重砲の强擊に堪え得ないことを知つたなら、われわれの家が石造りであるか鐵筋コンクリートの强い骨組のものであるかは、どちらでもよいことだとは決して言へまい、この鐵筋構造の家は空襲で直擊彈を受けない限り、可成安全で、最惡の場合でも壁が飛ぶ程度に止まり猛烈な爆風に耐へてその骨骼は毅然として立つてゐる、建物が相當な損害を受けても倒潰はしない大がいは大きな天井も骨組を結合したまま殘る、加ふるに可燃性物質の使用を嚴重に避けるならば空爆もその破壞力を失ふことにならう、空襲の成果が小さく、拂ふ犧牲が餘りにも大きなことを考へたなら、爆擊とは果して得なものかどうか敵も迷はざるを得まい

國土防衛と建築技術

かくのごとく建築技術といふものは國土防衛において偉大なる役割を果すのである、われわれは次の時代によりよく安全な狀態の都市を傳へ、われわれと同じ憂目を味はせないために、盡すべき手段は悉く盡さなければならない

一・七五トンの血液を空輸

(リスボン二十四日發)ワシントンからのロイター電報によると米軍航空隊は現在每日一・七五トンといふ多量の血液をパリに空輸して專ら重傷者の輸血に供してゐると傳へられる